一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

御堂谷遺跡
諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴

２０１９年3月

国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

（見返し）

（見返し）

（白）

（白）

（白）

一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

御堂谷遺跡
諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴

２０１９年3月

国土交通省松江国道事務所
島 根 県 教 育 委 員 会

（白）

御堂谷遺跡 B 区　竪穴建物（SI01-1・2、SI06）完掘状況（北から）

巻頭図版２

御堂谷遺跡Ｂ区　竪穴建物（SI01-1・2）完掘状況（南東から）

御堂谷遺跡 B 区　竪穴建物（SI06）完掘状況（北東から）

巻頭図版 4

御堂谷遺跡 B 区　竪穴建物（SI05）完掘状況（南から）

序

現在、一般国道９号の大田市久手町刺鹿から大田市静間町間は、現道では通過交通と、生活交通が混在し、幹線道路として支障をきたしているうえに、一般国道の代替路線がなく、交通事故等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしています。そのため、中国地方整備局松江国道事務所では、緊急時の代替路線の確保、地域経済の振興、救急医療の向上及び生活圏域の連携を促進することを目的として、大田・静間道路を平成 24 年度から事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成 29 年度に実施した大田市鳥井町・長久町地内に所在する御堂谷遺跡と、久手町地区内に所在する諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴の調査成果をとりまとめたものです。今回の御堂谷遺跡の調査では、弥生時代と古墳時代の竪穴建物や、古代の掘立柱建物をはじめとする多数の遺構が見つかり、当時の拠点的な集落遺跡の一つであることがわかりました。

本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成 31 年３月

国土交通省中国地方整備局

松江国道事務所長　鈴 木 祥 弘

序

本書は島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、平成29（2017）年度に実施した一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものです。

本報告書で報告する御堂谷遺跡では、弥生時代と古墳時代の竪穴建物をはじめとする多数の遺構が確認され、また、古代には山林寺院などの宗教的施設の存在を示す柱穴列や、灯明皿形土器等の仏教関連遺物が出土しました。

御堂谷遺跡が立地する鳥井丘陵は、東にかつては潟湖が広がり、西に静間川の河口部を擁し、南に平野部を控え、北に日本海を望む大田市中心部のランドマークです。そこには、御堂谷遺跡とほぼ同時期に営まれた弥生時代から古墳時代の大規模な集落・祭祀遺跡として著名な鳥井南遺跡が存在します。御堂谷遺跡は、当時の集落の様子を知る上で重要な資料であるとともに、石見における山陰沿岸の古代社会を考える上で貴重な発見となりました。

同じく、本報告書で報告する諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴は、大田市域有数の横穴群である諸友大師山横穴群の新たな支群として、古墳時代後期の地域社会構造を解明する上で、貴重な発見となりました。

本報告書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、大田市、鳥井地区・長久地区の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成31年３月

島根県教育委員会

教育長　　新田　　英夫

例言

1. 本書は国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が平成29年度に実施した一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

   平成29年度(2017)　御堂谷遺跡（大田市鳥井町鳥越848番地1・長久町ハ178番地・長久町ハ179－２外）

   平成29年度(2017)　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴（大田市久手町刺鹿松ノ前764－7）

   平成30年度(2018)　整理等作業・報告書作成
3. 調査組織

   調査主体　　島根県教育委員会

   平成29年度(2017)

   事務局　　萩　雅人（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋　聡（総務課長）、池淵俊一（管理課長）、大庭俊次（調査第一課長）

   調査担当者　　仁木　聡（調査第一課企画員）、吉松優希（同課主事）、柳浦俊一（同課嘱託職員）、飯塚由紀（同課臨時職員）、小川一樹（同課臨時職員）、伊東　豊（同課臨時職員）

   平成30年度(2018)

   事務局　　椿　真治（埋蔵文化財調査センター所長）、石橋　聡（総務課長）、守岡正司（管理課長）、深田　浩（調査第一課長）

   調査担当者　　仁木　聡（調査第一課企画員）、阿部智子（同課臨時職員）
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については次の機関に委託した。

   平成29年度　株式会社　堀工務店
5. 発掘調査にあたっては、以下の方々から御指導いただいた。（五十音順・肩書きは当時）

   花谷　浩（出雲弥生の森博物館長）、松本岩雄（島根県立八雲立つ風土記の丘所長）
6. 発掘調査に際して、以下の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた。（肩書きは当時）

   坂本豊治、景山このみ（出雲弥生の森博物館）、大国晴雄、遠藤浩巳、中田健一、西尾克己、野島智実（大田市教育委員会）、中村唯史（島根県立三瓶自然館課長代理）、

   林　健亮（島根県立古代出雲歴史博物館）、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、高田健一（鳥取大学地域学部准教授）、大賀克彦（奈良女子大学特任講師）、田村朋美（奈良文化財研究所）
7. 挿図中の北は測量法に基づく平面直角第Ⅲ系Ｘ軸方向を示し、座標系ＸＹ座標は世界測地系による。レベルは海抜高を示す。
8. 本書で使用した第２・３図は国土地理院発行1/25,000地形図（石見大田・大浦）を使用して作成したものである。
9. 本書に掲載する土層名は『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会会議事務局監修・財

団法人日本色彩研究所 色票監修 に従って表記した。

10. 本調査に伴って下記の研究機関・研究者に自然科学分析を依頼した。

ＡＭＳ分析：株式会社　加速器分析研究所

花粉分析：文化財調査コンサルタント株式会社

ガラス小玉分析：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所　田村朋美氏

11. 発掘調査に伴って、出土鉄製品の保存処理を次の機関に委託した。

平成 30 年度：公益財団法人大阪市博物館協会

12. 本書に掲載した遺構・遺物の写真は仁木・吉松が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・臨時職員・整理作業員が行ったほか、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。

13. 本書の執筆は、第１～２章、第３章第１～２・４節、第５～６章を仁木が行い、第３章第３節を吉松が行った。

14. 第４章自然科学分析では、渡辺正巳氏（文化財調査コンサルタント（株））、田村朋美氏（奈良文化財研究所）に玉稿を賜った。

15. 本書の編集は仁木・吉松・阿部が行った。

16. 註は各章ごとに連番を振り、参考文献等とともに各章末にまとめて示した。写真、挿図及び表の番号は、第４章を除き全体の通し番号により表示した。

17. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真等の資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

凡例

1. 本報告書で用いた遺構の略号は以下のとおりである。

SI：竪穴建物　SB：掘立柱建物　SK：土坑　SD：溝状遺構　SA：柵列　P：柱穴・ピット

2. 本書で用いた土器の分類及び編年観は、主として下記の文献に依拠している。

【弥生土器・土師器】

松本岩雄 1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』木耳社

松本岩雄 1992「石見」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』木耳社

松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相 － 大東式の再検討」『島根考古学会誌』8　島根考古学会

松山智弘 2018「山陰」『前期古墳編年を再考する』中国四国前方後円墳研究会編

【須恵器】

大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第 11 集

岡田裕之・土器検討グループ 2010「出雲地域における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成立の研究』島根県古代文化センター

川原和人 2010「出雲地方における律令時代の須恵器の特色とその背景」（以下同上）

榊原博英 2010「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」（以下同上）

島根県教育委員会 2013『史跡出雲国府跡－９　総括編－』

本文目次

第１章　調査の経過 …… 1
第１節　調査にいたる経緯と経過 …… 1
１．事業計画の概要 …… 1
２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整 …… 1
３．法的手続き …… 1
第２節　発掘作業と整理作業の経過 …… 3
第２章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 5
第１節　地理的環境 …… 5
第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　御堂谷遺跡の調査成果 …… 9
第１節　御堂谷遺跡の概要 …… 9
１．発掘調査区の設定 …… 9
２．調査地区割りの設定 …… 9
第２節　御堂谷遺跡の調査 …… 9
１．調査方法 …… 9
第３節　Ａ区の調査 …… 11
１．Ａ区の基本層序 …… 11
２．Ａ区の検出遺構とその遺物 …… 14
第４節　Ｂ区の調査 …… 41
１．Ｂ区の基本層序 …… 42
２．Ｂ区の検出遺構とその遺物 …… 42
第４章　自然科学分析 …… 95
第１節　御堂谷遺跡における放射性炭素年代　（AMS 測定） …… 95
１．測定対象試料 …… 95
２．測定の意義 …… 95
３．化学処理工程 …… 95
４．測定方法 …… 95
５．算出方法 …… 95
６．測定結果 …… 96
第２節　御堂谷遺跡における樹種同定 …… 100
１．試料 …… 100
２．分析方法 …… 100
３．結果 …… 100
４．考察 …… 101

第３節　御堂谷遺跡周辺地域の古植生変遷 …… 105
１．はじめに …… 105
２．分析試料について …… 105
３．分析方法 …… 105
４．分析結果 …… 106
５．花粉化石が含まれなかった原因について …… 108
６．局地花粉帯の設定 …… 108
７．古植生及の復元 …… 109
８．まとめ …… 110
第４節　御堂谷遺跡出土ガラス小玉の自然科学的調査 …… 111
１．はじめに …… 111
２．資料と方法 …… 111
３．結果と考察 …… 111
４．おわりに …… 114
第５章　総括 …… 115
第１節　縄文時代・弥生時代の遺構・遺物 …… 115
１．縄文時代の遺構 …… 115
２．弥生時代の遺構 …… 115
３．竪穴建物の周堤溝 …… 115
４．包含層の形成過程 …… 116
５．弥生時代前期後葉の高地性遺跡 … 121
６．ガラス小玉 …… 121
第２節　古墳時代中期の遺構・遺物 …… 123
第３節　古代の遺構・遺物 …… 123
１．SB01 について …… 123
２．出土遺物について …… 123
３．その他の遺構につて …… 125
４．造り付け竈を有する竪穴建物について …… 126
第４節　まとめ …… 127
１．はじめに …… 127
２．弥生時代の画期 …… 127
３．鳥井丘陵とその周辺 …… 127
第６章　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴 …… 132
第１節　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の概要 …… 132
１．遺跡の立地と概要 …… 132
２．調査の方法 …… 132
第２節　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の調査 …… 132
第３節　まとめ …… 132

挿図目次

第１図　御堂谷遺跡・諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の位置 …… 1
第２図　大田静間道路事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地 …… 2
第３図　御堂谷遺跡・諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の位置と周辺地形 …… 6
第４図　御堂谷遺跡の周辺遺跡（S=1:1,500） …… 10
第５図　御堂谷遺跡と調査地区割り図（S=1:1,000） …… 11
第６図　Ａ区　遺構配置図（S=1:100） …… 12
第７図　Ａ区　土層図（S=1:100） …… 13
第８図　Ａ区　落とし穴１～３遺構実測図（S=1:40） …… 15
第９図　Ａ区　SK14 出土石器実測図（S=1:1） …… 16
第 10 図　Ａ区　SI01 実測図（S=1:50） …… 17
第 11 図　Ａ区　SI01 遺物出土状況図（S=1:50） …… 18
第 12 図　Ａ区　SI01 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:4） …… 19
第 13 図　Ａ区　SI02-1~3 実測図（S=1:80） …… 20
第 14 図　Ａ区　SI02-2 遺物出土状況図（S=1:80） …… 21
第 15 図　Ａ区　SI02-1 遺物出土状況図（S=1:80） …… 21
第 16 図　Ａ区　SI02-2 出土遺物実測図（S=1:4） …… 22
第 17 図　Ａ区　SI02-1 出土遺物実測図（S=1:4） …… 23
第 18 図　Ａ区　SI03・04 実測図（S=1:80） …… 24
第 19 図　Ａ区　SI03 遺物出土状況図（S=1:80） …… 25
第 20 図　Ａ区　SI03 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:3・S=1:4） …… 26
第 21 図　Ａ区　加工段１実測図（1）（S=1:80） …… 27
第 22 図　Ａ区　加工段１実測図（2）（S=1:80） …… 28
第 23 図　Ａ区　加工段１遺物出土状況図（S=1:80） …… 29
第 24 図　Ａ区　加工段１出土遺物実測図（S=1:4） …… 30
第 25 図　Ａ区　加工段２実測図（S=1:80） …… 31
第 26 図　Ａ区　加工段２遺物出土状況図（S=1:80） …… 32
第 27 図　Ａ区　加工段２出土遺物実測図（S=1:4） …… 33
第 28 図　Ａ区　加工段３実測図（S=1:80） …… 34
第 29 図　Ａ区　加工段３遺物出土状況図（S=1:80） …… 35
第 30 図　Ａ区　加工段３出土遺物実測図（S=1:3・S=1:4） …… 35
第 31 図　Ａ区　加工段４・５実測図（S=1:80・S=1:40） …… 36
第 32 図　Ａ区　包含層出土遺物実測図（S=1:3・S=1:4） …… 37
第 33 図　Ａ区　包含層出土石器実測図（1）（S=1:1） …… 38
第 34 図　Ａ区　包含層出土石器実測図（2）（S=1:4） …… 39
第 35 図　Ｂ区　遺構配置図（S=1:400） …… 41

第 36 図　B 区　古代の遺構配置図（S=1:200）…… 43
第 37 図　B 区　SB01 実測図・B 区土層図（1）（S=1:80）…… 44
第 38 図　B 区　SA01~04 実測図（S=1:100）…… 45
第 39 図　B 区　土層図（2）（S=1:200）…… 46
第 40 図　B 区　SK01・02、炭窯 1 ・ 2 実測図（S=1:40）…… 47
第 41 図　B 区　SI01-1・2、SD01~04 実測図（S=1:100）…… 49
第 42 図　B 区　SI01-1・2 土層図（S=1:100）…… 50
第 43 図　B 区　SI01-1・2、SD01~04 土層図（S=1:100）…… 51
第 44 図　B 区　SI01-1、SD02 遺物出土状況図（S=1:100）…… 52
第 45 図　B 区　SI01-1 出土遺物実測図（S=1:4）…… 54
第 46 図　B 区　SD02 出土遺物実測図（S=1:4）…… 55
第 47 図　B 区　SI01-2、SD01 遺物出土状況図（S=1:100）…… 56
第 48 図　B 区　SI01-2 出土遺物実測図（1）（S=1:3）…… 58
第 49 図　B 区　SI01-2 出土遺物実測図（2）（S=1:4）…… 59
第 50 図　B 区　SD01 出土遺物実測図（S=1:3・1:4）…… 60
第 51 図　B 区　SD03 出土遺物実測図（S=1:4）…… 61
第 52 図　B 区　SI02 実測図（1）（S=1:40）…… 62
第 53 図　B 区　SI02 実測図（2）（S=1:20）…… 63
第 54 図　B 区　SI02 遺物出土状況図（S=1:40）…… 64
第 55 図　B 区　SI03・04 実測図（1）（S=1:80）…… 65
第 56 図　B 区　SI03・04 実測図（2）（S=1:80）…… 66
第 57 図　B 区　SI05 実測図（1）（S=1:80）…… 67
第 58 図　B 区　SI05 実測図（2）（S=1:80）…… 68
第 59 図　B 区　SI05 焼土・炭・炭化材検出状況図（S=1:80）…… 69
第 60 図　B 区　SI05 床面の炭化材検出状況図（S=1:80）…… 70
第 61 図　B 区　SI02~05・SD05 出土遺物実測図（S=1:4）…… 71
第 62 図　B 区　SI06 実測図（1）（平面図 S=1:100・断面図 S=1:80）…… 72
第 63 図　B 区　SI06 実測図（2）（S=1:80）…… 73
第 64 図　B 区　SI06 遺物出土状況図（S=1:80）…… 74
第 65 図　B 区　SI06 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:4）…… 75
第 66 図　B 区　遺構出土石器実測図（1）（S=1:1・S=1:2・S=1:4）…… 76
第 67 図　B 区　遺構出土石器実測図（2）（S=1:4）…… 77
第 68 図　A 区 B 区　ピット出土遺物実測図（S=1:1・S=1:3・S=1:4）…… 78
第 69 図　B 区　出土鉄器実測図（S=1:3）…… 78
第 70 図　B 区　SI06 周辺の最終面（地山）検出遺構実測図（S=1:200）…… 80
第 71 図　B 区　SK03・04、SD08 実測図（S=1:60）…… 81
第 72 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）…… 82
第 73 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（2）（S=1:4）…… 83

第 74 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（3）（S=1:4）…… 84
第 75 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（4）（S=1:4・S=1:6）…… 85
第 76 図　B 区　包含層 2 出土遺物実測図（S=1:4）…… 86
第 77 図　B 区　包含層 3 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）…… 88
第 78 図　B 区　包含層 3 出土遺物実測図（2）（S=1:4）…… 89
第 79 図　B 区　包含層 4 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）…… 90
第 80 図　B 区　包含層 4 出土遺物実測図（2）（S=1:3・S=1:4）…… 91
第 81 図　B 区　包含層出土石器実測図（S=1:1・S=1:4）…… 92
第 82 図　B 区　包含層出土土製品実測図（S=1:3）…… 93
第 83 図　御堂谷遺跡包含層出土遺物時期別割合…… 116
第 84 図　包含層出土弥生土器甕・壺口縁部　時期ごとの出土点数と出土地点…… 117
第 85 図　包含層出土弥生土器甕・壺底部　時期ごとの出土点数と出土地点…… 118
第 86 図　包含層出土その他の弥生土器　時期ごとの出土点数と出土地点…… 119
第 87 図　包含層ごとに集計した弥生土器の時期別点数…… 120
第 88 図　包含層 1 出土円板状土製品、灯明皿形土器、灰釉陶器、須恵器坏蓋の分布状況 …… 124
第 89 図　御堂谷遺跡　遺構の変遷模式図（S=1:800）…… 128
第 90 図　石見地域沿岸部の弥生時代後期集落分布図（S=1:800,000）…… 129
第 91 図　諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴周辺地形図（S=1:2,000）…… 133
第 92 図　諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴実測図（S=1:60）…… 134

表目次

第 1 表　島根県内の弥生時代ガラス製品一覧 …… 122
第 2 表　5 世紀から 9 世紀前半の島根県海岸部の造り付け竈 …… 125
第 3 表　石見地域沿岸部の弥生時代後期集落遺跡一覧…… 130
第 4 表　御堂谷遺跡　出土遺物観察表…… 135
第 5 表　御堂谷遺跡　出土石器計測表…… 158
第 6 表　御堂谷遺跡　出土焼土塊計測表…… 163
第 7 表　御堂谷遺跡　包含層出土遺物点数 …… 165

巻頭図版目次

巻頭図版　1　御堂谷遺跡Ｂ区　竪穴建物（SI01-1・2、SI06）完掘状況（北から）
巻頭図版　2　御堂谷遺跡Ｂ区　竪穴建物（SI01-1・2）完掘状況（南東から）
巻頭図版　3　御堂谷遺跡Ｂ区　竪穴建物（SI06）完掘状況（北東から）
巻頭図版　4　御堂谷遺跡Ｂ区　竪穴建物（SI05）完掘状況（南から）

本文写真目次

写真１　調査風景 …… 3
写真２　現地説明会 …… 3

写真目次

図版１　１．御堂谷遺跡周辺空撮写真（1947 年 10 月３日ＧＨＱ撮影）
図版２　１．御堂谷遺跡航空写真（東から）
　　２．御堂谷遺跡航空写真（西から）
図版３　１．Ａ区調査前風景（北から）
　　２．Ａ区調査風景（北から）
図版４　１．SI01 土層断面（西から）
　　２．SI01 完掘状況（西から）
図版５　１．SI02 検出状況（東から）
　　２．SI02 検出状況（西から）
図版６　１．SI02 完掘状況（東から）
　　２．SI02 完掘状況（西から）
図版７　１．SI03 完掘状況（東から）
　　２．SI04 完掘状況（南から）
図版８　１．加工段１土層断面（北から）
　　２．加工段１土層断面（東から）
図版９　１．加工段１土層断面（西から）
　　２．加工段１土層断面（西から）
図版 10　１．加工段１完掘状況（東から）
図版 10　２．加工段１完掘状況（北西から）
図版 11　１．加工段２完掘状況（北から）
　　２．加工段３完掘状況（北から）
図版 12　１．加工段４(SD01)完掘状況(東から)
　　２．加工段５完掘状況（北から）
図版 13　１．Ａ区中央東西土層断面(南から)
　　２．SD02 完掘状況（東から）
図版 14　１．SD03 完掘状況（東から）
　　２．SD04 完掘状況（西から）
図版 15　１．Ｂ区調査前風景（北から）
　　２．Ｂ区完掘状況（北から）
図版 16　１．SB01 完掘状況（北から）
　　２．SB01 完掘状況（東から）
　　３．SB01 完掘状況（西から）
図版 17　１．SK01 調査状況（南から）
　　２．SK01 完掘状況（北から）
図版 18　１．SI01-1、SI01-2 検出状況(南から)
　　２．SI01-1、SI01-2 検出状況(北から)
　　３．SI01-1B-B' 土層断面（南から）

図版 19　1．SI01-1A-A' 土層断面(東南から)
　　2．SI01-1（右）と SI01-2（左）の切り合い（南から）
図版 20　1．SD02（SI01-1 の周堤溝）F-F' 土層断面（北東から）
　　2．SD02（SI01-1 の周堤溝）東側完掘状況（南から）
　　3．SD02（SI01-1 の周堤溝）南側完掘状況（北から）
　　4．SD02（SI01-1 の周堤溝）南側完掘状況（西から）
図版 21　1．SI01-1 中央炉礫出土状況（北西から）
　　2．SD02（SI01-1 の周堤溝）東側完掘状況（北から）
　　3．SI01-1、SD02 完掘状況（西から）
図版 22　1．SI01-1-SD02、SD03・04 完掘状況（西から）
　　2．SI01-1-SD02、SI01-2-SD01 完掘状況（西から）
図版 23　1．SI02 検出状況（南から）
　　2．SI02 土層断面（南から）
図版 24　1．SI02 竈検出状況（北東から）
　　2．SI02 竈完掘状況（北東から）
　　3．SI02 竈煙道調査状況(北から)
図版 25　1．SI02 竈煙道完掘状況（北東から）
　　2．SI02 完掘状況（南から）
図版 26　1．SI03・04 調査状況（東から）
　　2．SI03・04 完掘状況（東から）
図版 27　1．SI04 完掘状況（南から）
　　2．SI05 調査状況（東から）
図版 28　1．SI05 炭化材出土状況(東から)
　　2．SI05 完掘状況（東から）
図版 29　1．B 区 H-H' 土層断面と SI06 検出状況（西から）
　　2．SI06 土層断面（南から）
図版 30　1．SI06 完掘状況（北から）
　　2．SI06 調査風景（北から）
　　3．SI06 完掘状況（北から）
図版 31　1．B 区調査区南 C-C' 土層断面（北から）
　　2．SI06 周辺最下層完掘状況（北から）
図版 32　1．A 区 SI01・SI02-2 出土遺物
　　2．A 区 SI01・SI02-2 出土石器
図版 33　1．A 区 SK14、SI01・03 出土遺物
　　2．A 区 SI02-1 出土遺物
図版 34　1．A 区 SI02-1 出土遺物
　　2．A 区 SI03 出土遺物
図版 35　1．A 区加工段 1 出土遺物
　　2．A 区加工段 2 出土遺物
図版 36　1．A 区加工段 1 ・ 2 出土遺物
　　2．A 区加工段 2 出土遺物
図版 37　1．A 区加工段 3 出土遺物
　　2．A 区加工段 3 出土遺物
図版 38　1．A 区包含層出土遺物
　　2．A 区包含層出土遺物
図版 39　1．A 区包含層出土遺物
　　2．A 区包含層出土遺物
図版 40　1．A 区包含層出土石器
　　2．A 区包含層、加工段 1 、SI03 出土石器
図版 41　1．A 区包含層出土石器
　　2．B 区 SI01-1 出土遺物
図版 42　1．B 区 SI01-1 出土遺物
　　2．B 区 SI01-1 出土遺物
図版 43　1．B 区 SI01-1 出土遺物
　　2．B 区 SI01-1 出土遺物
図版 44　1．B 区 SD02 出土遺物
　　2．B 区 SD02 出土遺物
図版 45　1．B 区 SD02 出土遺物
　　2．B 区 SD02 出土遺物
図版 46　1．B 区 SI01-1、SD02 出土遺物
　　2．B 区 SI01-2 出土遺物

図版 47　1．B 区 SI01-2 出土遺物
　　2．B 区 SI01-2 出土遺物
図版 48　1．B 区 SI01-2 出土遺物
　　2．B 区 SI01-2 出土遺物
図版 49　1．B 区 SD01 出土遺物
　　2．B 区 SD01 出土遺物
図版 50　1．B 区 SD01 出土遺物
　　2．B 区 SD05 出土遺物
図版 51　1．B 区 SD01、SI02･06 出土遺物
　　2．B 区 SD01・03、SI02~05 出土遺物
図版 52　1．B 区 SI06 出土遺物
　　2．B 区 SI06 出土遺物
図版 53　1．B 区 SI06 出土遺物
　　2．A・B 区遺構出土石器
図版 54　1．B 区遺構出土石器
　　2．A・B 区ピット出土遺物
図版 55　1．B 区ピット出土遺物
　　2．B 区出土鉄器
図版 56　1．B 区包含層 1 出土須恵器
　　2．B 区包含層 1 出土須恵器
図版 57　1．B 区包含層 1 出土須恵器
　　2．B 区包含層 1 出土須恵器
図版 58　1．B 区包含層 1 出土須恵器
　　2．B 区包含層 1 出土須恵器
図版 59　1．B 区包含層 1 出土須恵器
　　2．B 区包含層 1 出土須恵器
図版 60　1．B 区包含層 1 出土遺物
　　2．B 区包含層 1 出土遺物
図版 61　1．B 区包含層 1 出土遺物
　　2．B 区包含層 1 出土遺物
図版 62　1．B 区包含層 1 出土遺物
図版 62　2．B 区包含層 1 出土遺物
図版 63　1．B 区包含層 1 出土遺物
　　2．B 区包含層 1 出土遺物
図版 64　1．B 区包含層 2 出土遺物
　　2．B 区包含層 2 出土遺物
図版 65　1．B 区包含層 2 出土遺物
　　2．B 区包含層 2 出土遺物
図版 66　1．B 区包含層 3 出土遺物
　　2．B 区包含層 3 出土遺物
図版 67　1．B 区包含層 3 出土遺物
　　2．B 区包含層 3 出土遺物
図版 68　1．B 区包含層 3 出土遺物
　　2．B 区包含層 3 出土遺物
図版 69　1．B 区包含層 3 出土遺物
　　2．B 区包含層 3 出土遺物
図版 70　1．B 区包含層 3 出土遺物
　　2．B 区包含層 4 出土遺物
図版 71　1．B 区包含層 4 出土遺物
　　2．B 区包含層 4 出土遺物
図版 72　1．B 区包含層 4 出土遺物
　　2．B 区包含層 4 出土遺物
図版 73　1．B 区包含層 4 出土遺物
　　2．B 区包含層 4 出土遺物
図版 74　1．B 区包含層出土石器
　　2．B 区包含層出土石器
図版 75　1．B 区包含層 3・4 出土石器
　　2．B 区包含層出土土製品
図版 76　1．諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴遠景（北東から）
　　2．諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴完掘状況（北から）

第１章　調査の経過

第１節　調査にいたる経緯と経過

１．事業計画の概要

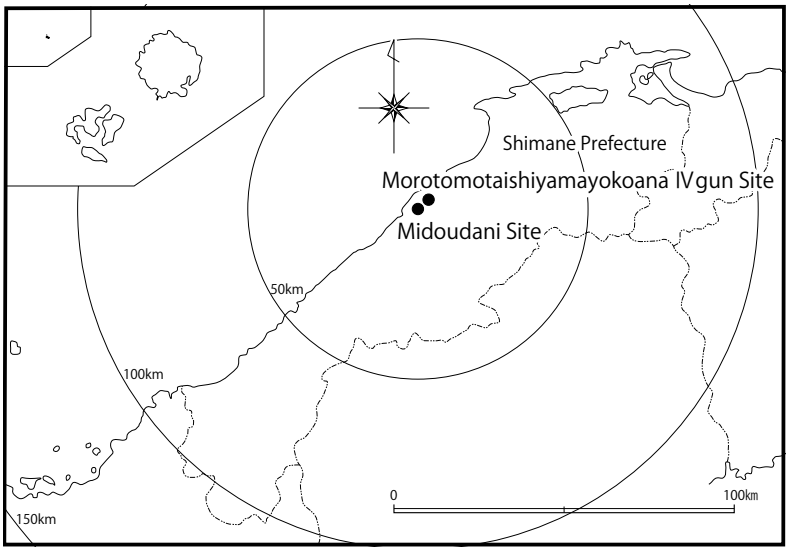
一般国道９号は京都府京都市から山口県下関市に至る総延長約 750㎞で、山陰地方の諸都市を結ぶ主要幹線道路である。このうち、島根県大田市周辺では急カーブや急勾配が連続する区間が多く、重大事故が多発しやすい状況にある。通行止め時には大幅な迂回が必要となるなど、日常生活及び経済活動に必要な交通機能が損なわれ、主要幹線道路としての機能に支障をきたしているところであった。こうした状況のもと、交通混雑の緩和及び災害時の緊急連絡道路を確保するために、大田市久手町から大田市静間町に至る延長 5.0㎞を結ぶ自動車専用道路が計画され、平成 24 年度から「大田・静間道路」として事業着手されている。

２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整

この計画・事業化にあたり、平成 25 年２月８日付け国中整松調設第 106 号及び平成 26 年２月 19 日付け国中整松調設第 94 号で国土交通省から島根県教育委員会に対して事業地内の埋蔵文化財の有無について照会があった。これを受けて島根県教育委員会は大田市教育委員会の協力の下、２度の分布調査を実施した結果、６箇所の遺跡と御堂谷遺跡を含む 39 箇所の要注意箇所を確認し、平成 26 年５月 13 日付け島教文財第 159 号で国土交通省に回答した。

これらの結果を受けて、国土交通省と島根県教育委員会の間で適宜協議が行われ、事業予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて具体的な検討を行ってきた。事業の早期推進と調査体制を強化するため、島根県教育委員会は大田市教育委員会と協議を行い、大田市が国道９号の交通状況改善のため早期の開通を働きかけてきた地元自治体として調査に協力することとなった。それを受けて、大田市教育委員会は平成 26 年度に４箇所の試掘確認調査を実施した。その結果に基づいて、平成 27 年４月に文化財保護法第 94 条第１項に基づく発掘調査実施の勧告が行われた。大田市教育委員会は栗林Ｂ遺跡及び鯛渕遺跡の発掘調査を実施して、すでに報告書が刊行されている。

平成 27 年度から調査は本格化し、島根県教育委員会は 22 箇所の試掘確認調査を行って、７箇所の遺跡を確認した。このうち、御堂谷遺跡の試掘調査は平成 27 年５月～６月に実施した。



第１図　御堂谷遺跡・諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の位置

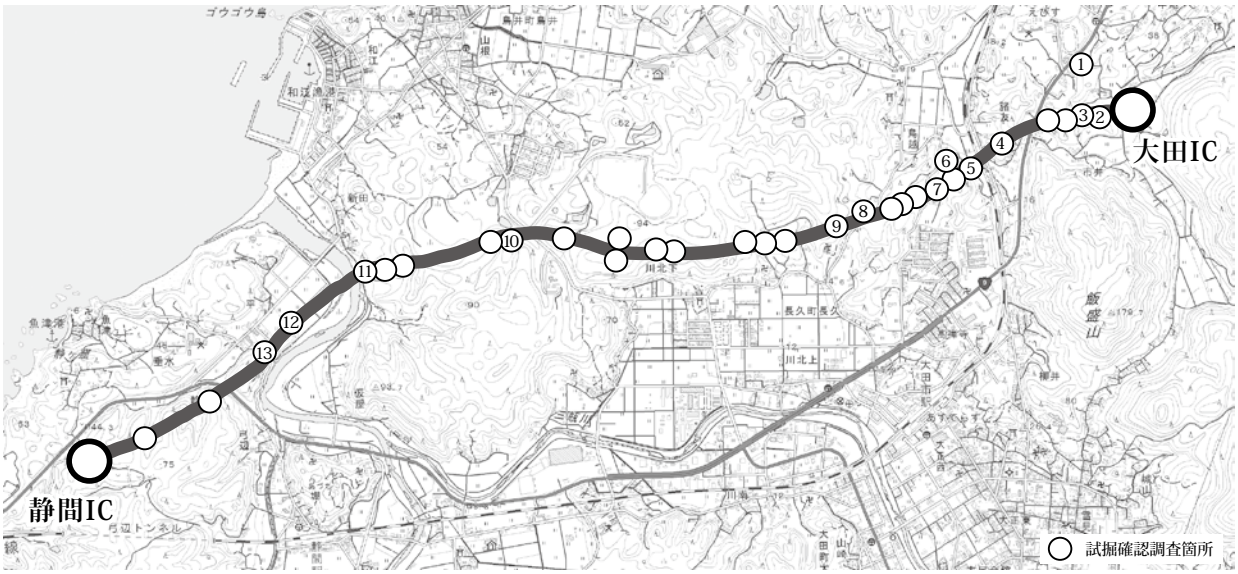
３．法的手続き

御堂谷遺跡はこの試掘確認調査の結果に基づき、平成 29 年５月 22 日付け国中

整松工第 37 号で文化財保護法第 94 条第 1 項の規定による通知が国土交通省から島根県教育委員会教育長あてに提出された。それに対して平成 29 年 6 月 12 日付け島教文財第 49 号の 20 で島根県教育委員会教育長から記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。御堂谷遺跡は、埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなり、国土交通省と工程上の協議を経て発掘調査を実施した。文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による通知は、平成 29 年 5 月 10 日付け島教埋第 97 号により埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あて提出した。

諸友大師横穴Ⅳ群 1 号穴については、工事中に発見されたため、以下の法的手続きがとられた。

平成 29 年 12 月 11 日付け国中整松工第 257 号で文化財保護法第 97 条第 1 項の規定による通知が、国土交通省から島根県教育委員会教育長あてに提出された。平成 29 年 12 月 11 日付け島教文財第 134 号の 25 で島根県教育委員会教育長から記録保存のための発掘調査の実施が勧告された。文化財保護法第 99 条第 1 項の規定による通知は、平成 29 年 12 月 18 日付け島教埋第 456



No.	遺跡名	所在地	種別	調査
①	諸友大師山横穴Ⅳ群1号穴	大田市久手町	横穴墓	平成29年度
②	奥市井遺跡	大田市久手町	集落跡	平成28年度(大田市教育委員会)
③	諸友越峠遺跡	大田市久手町	集落跡	平成28年度(大田市教育委員会)
④	諸友西横穴墓群	大田市久手町	横穴墓	ー(平成29年度試掘確認調査)
⑤	栗林 B 遺跡	大田市久手町	散布地	平成27年度(大田市教育委員会)
⑥	栗林 C 遺跡	大田市久手町		ー(平成26年度試掘確認調査)
⑦	栗林 A 遺跡	大田市久手町		ー(平成26年度試掘確認調査)
⑧	尾ノ上遺跡	大田市鳥井町	集落跡	平成29年度
⑨	御堂谷遺跡	大田市鳥井町・長久町	集落跡	平成29年度
⑩	桜田遺跡	大田市長久町	横穴墓	平成29・30年度
⑪	鯛渕遺跡	大田市静間町	集落跡	平成27年度(大田市教育委員会)
⑫	平ノ前遺跡	大田市静間町	散在地	平成28・29年度
⑬	静間城跡	大田市静間町	城跡	平成28年度

第 2 図　大田静間道路事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地

号により、埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あて提出した。

現地調査終了後、御堂谷遺跡は、平成 29 年 12 月 22 日付け島教文財第 677 号により、諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴は平成 30 年１月 15 日付け島教文財第 192 号の 14 により、島根県教育委員会教育長から松江国道事務所長あて終了報告を提出した。

第２節　発掘作業と整理作業の経過

発掘作業の概要

御堂谷遺跡は平成 27 年度に国庫補助事業による試掘確認調査を実施した。調査の結果、丘陵中腹の２箇所の谷状地形から弥生時代前期～後期の遺物を数多く確認したため、竪穴建物等の多数の遺構が存在しているものと想定された。発掘調査は遺構・遺物包含層が確認されなかった丘陵平坦面を除く２箇所の谷状地形のほぼ全域が対象となった（第４図）。２箇所の谷状地形の間には遺構・遺物包含層が確認されなかった丘陵平坦面があることから、丘陵平坦面の東側の谷状地形を調査Ａ区、同じく西側をＢ区として設定した。調査Ａ区・Ｂ区を併せた調査面積は、約 4,100㎡である。調査に際しては、排土置き場を調査区外の丘陵平坦面（２箇所）に設定した。発掘調査は平成 29 年６月 20 日から平成 29 年 12 月 14 日まで実施した。

調査Ａ区からは、弥生時代後期の竪穴建物４棟、古墳時代中期の竪穴建物２棟、加工段５、落とし穴３等が検出された。また、調査Ｂ区からは、弥生時代中期の竪穴建物１棟、同じく後期の竪穴建物が４棟、古代の竪穴建物１棟、古代の掘立柱建物１棟等が検出された。発掘調査は 12 月 14 日に終了し、同月 25 日には国土交通省へ現地を引き渡した。調査中、平成 29 年９月 21 日に松本岩雄氏、10 月３日に花谷　浩氏、12 月６日に中村唯史氏より遺跡の時期や性格についての調査指導を受けた。10 月 28 日には現地説明会を行い、天候不順の中、約 60 名の参加を得た。また、大田市教育委員会の大国晴雄氏、遠藤浩巳氏、中田健一氏、西尾克己氏、野島智実氏、出雲市文化財課の坂本豊治氏、景山このみ氏、島根大学法文学部の大橋泰夫氏、鳥取大学地域学部の高田健一氏の現地視察を受けた。

写真１　調査風景

写真２　現地説明会

一方、工事中に発見された諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の発掘調査は、平成 29 年 12 月 18 日から同月 22 日まで実施し、同月 22 日に全ての調査を終え国土交通省へ現地を引き渡した。

整理等作業

遺物の水洗・注記・接合作業は現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センター

にて前述した作業を継続し、続いて復元・実測等の整理作業を行った。平成 30 年度には、現地調査終了後に整理した図面・写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構・遺物のトレース、写真、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等には Adobe 社のソフトを使用した。

第２章　遺跡の位置と歴史的環境

第１節　地理的環境

本書で報告する御堂谷遺跡と諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴が所在する島根県大田市は、東西に長い県のほぼ中央に位置し、南には国立公園三瓶山や大江高山の火山群があり、北は日本海に面している。三瓶山と大江高山火山群の間を流れて日本海に注ぐ三瓶川や静間川の河口に沖積平野が認められ、海岸部には砂丘が発達している。

御堂谷遺跡は、大田市鳥井町・長久町にまたがる鳥井丘陵の東部の中腹（標高約 56m）に位置しており、南側に大田市街地が眺望できる立地にある（第３図）。

また鳥井丘陵の東方には、1951（昭和 26）年の干拓で完全に消滅するまで波根湖（潟湖）が存在した。鳥井丘陵は、北側の日本海や西側の静間川河口部、そして東側は波根湖に由来する低湿地に囲まれた独立丘陵として存在するような景観であった。なお、鳥井丘陵の北側には波根湖の北辺を沿う近世山陰道が通過していたが、推定古代山陰道はこの近世山陰道にほぼ重なるルートと、波根湖南辺の丘陵裾を通過するルートも考えられている。この二つの推定古代山陰道ルートに挟まれた鳥井丘陵の東端には、「鳥越」地名を示唆するかのような丘陵を南北・東西に縦横断する複数の峠道も存在している。

第２節　歴史的環境

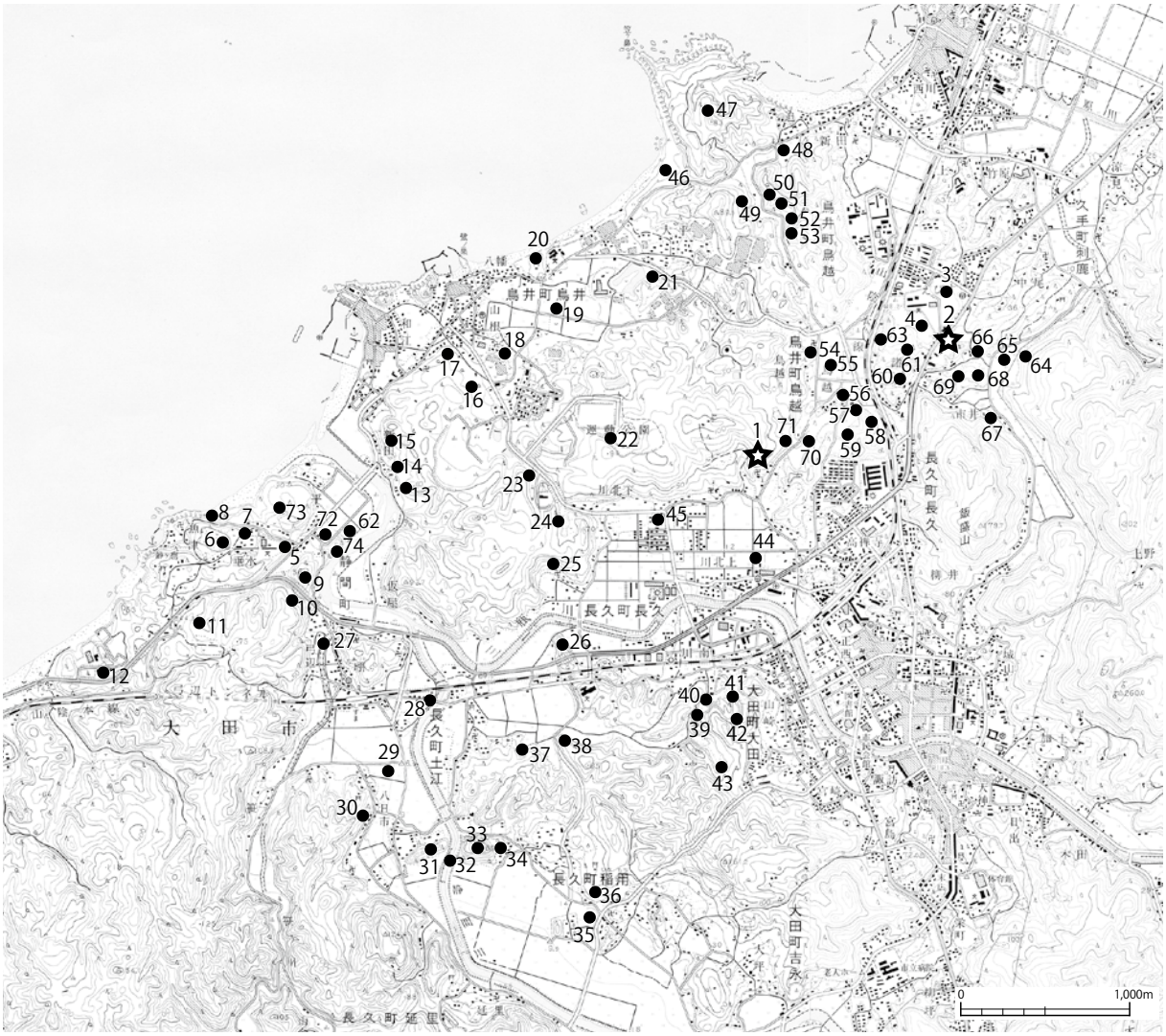
旧石器・縄文時代

大田市域では旧石器時代の遺跡は今のところ確認されていないが、平成 26 年度に発掘調査が行われた中尾Ｈ遺跡（４区）では、縄文時代早期から草創期に遡る可能性のある尖頭器が出土している。今まで大田市域は三瓶山の厚い火山灰層に覆われているため旧石器時代の遺跡を検出することは困難だと考えられてきた中で、今後、資料の増加が期待される事例といえる。

縄文時代の遺跡もまだ少ないものの、近年の調査量増加に伴い遺跡の発見も急増している。中尾Ｈ遺跡では上記の尖頭器の他に多量の縄文土器も確認されており、後期が中心を占めるが、前期・中期に遡る土器も含まれていた。この他に線刻によって絵を描いたとみられる石器や、大型石棒なども認められ、当時の精神世界を垣間見ることができる資料として注目される。

弥生時代

弥生時代になると遺跡は増加する傾向にある。静間川下流域の平野部には前期の土器が見つかった土江遺跡や八日市遺跡などが存在している。平成 28 年度に発掘調査が行われた栗林Ｂ遺跡では前期の河道２本が検出され、河道内から環状杭列が確認されていることから、周辺に集落が営まれていたことが想定されている。中期になると鶴山遺跡で土器が確認され、鳥井南遺跡では弥生時代中期から古墳時代後期にかけての大規模な集落跡が発見されている。弥生時代の遺構には、焼失建物が含まれているほか、塩町式土器が複数出土していることから、備後北部との交流が推測される。また、後期の竪穴建物からは鉄製鋤先とともに多量の土器も出土している。平成 28 年度に発掘調査を実施した平ノ前遺跡は弥生時代から古代の集落遺跡であることが判明した。弥生時代の遺構と



1. 御堂谷遺跡　2. 諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴　3. 諸友大師山横穴Ⅰ～Ⅲ群　4. 二中横穴群
5. 平遺跡　6. 垂水古墳　7. 近藤平遺跡　8. 近藤浜横穴　9. 柿田立目後横穴群　10 竹下忠紀宅後横穴 11. 垂水遺跡　12. 湊東遺跡　13. 鯛渕遺跡　14 静間鈩　15. 渡瀬遺跡　16. 西鳥井遺跡　17. 山根遺跡
18. 上山根遺跡　19. 北沢遺跡　20. 伝地山古墳　21. 大平横穴群　22. 鳥井南遺跡　23. 桜田遺跡
24. 鳥井西遺跡　25. 浄土寺遺跡　26. 八石遺跡　27. 笹川遺跡　28. 土江遺跡　29. 八日市鈩
30. 八日市横穴群　31. 第二八日市横穴群　32. 八日市遺跡　33. 稲用城　34. 稲用下遺跡
35. 大迫横穴　36. 延里遺跡　37. 天主山横穴　38. 大道横穴　39. 宮の奥遺跡　40. 宮の奥横穴群 41. 鶴山遺跡　42. 亀山横穴　43. 貝狼城跡　44. 中島遺跡　45. 野井神社遺跡　46. 大平Ａ遺跡
47. 石弩城跡　48. 迫Ａ遺跡　49. 迫Ｂ遺跡　50. 迫山田西横穴群　51. 山田横穴群　52. 迫横穴群　53. 迫Ｃ遺跡　54. 鳥越Ｂ遺跡　55. 中祖遺跡　56. 鳥越Ｃ遺跡　57. 栗林Ｃ遺跡　58. 栗林Ｂ遺跡
59. 栗林Ａ遺跡　60. 諸友西横穴群　61. 山田庫夫宅裏横穴群　62. 平ノ前遺跡　63. 鳥越Ａ遺跡
64. 市井深田遺跡　65. 中尾Ｈ遺跡　66. 中尾横穴　67. 市井遺跡　68. 奥市井遺跡　69. 諸友越峠遺跡　70. 諸友西ケ迫遺跡　71. 尾ノ上遺跡　72. 網引原遺跡　73. 平山横穴　74. 静間城跡

第３図　御堂谷遺跡・諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の位置と周辺地形

しては後期前葉の水路跡２条が検出されているが、この水路は静間川からの導水用施設の可能性が高いとみられる。以上のように静間川周辺地域では弥生時代の遺跡が多く確認されており、最も早く弥生社会に入った地域といえる。

古墳時代

古墳時代の集落跡としては、平ノ前遺跡、鳥井南遺跡、市井深田遺跡などが知られている。平ノ前遺跡では前期から後期にかけての竪穴建物の他に中期から後期頃の灌漑用水路跡が確認されている。水路内からは多量の土器とともに金銅製歩揺付空玉１点が発見された。この空玉は朝鮮半島製もしくは国内で製作された可能性が考えられ、当時の朝鮮半島との交流を窺い知ることのできる貴重な資料といえる。鳥井南遺跡では人形や武器形、鏡、玉などの祭祀に関する土製模造品が出土していることが注目される。市井深田遺跡は丘陵部に営まれた古墳時代後期から古代の集落跡で、竪穴建物や掘立柱建物を建てた加工段が多数見つかっている。

また、古墳時代の大田市域は、石見地方でも有数の横穴墓の密集地帯として知られている。特に多く分布しているのは波根湖周辺の丘陵部であるが、海に面した静間町でも平山横穴や近藤浜横穴、柿田立目後横穴群などが存在している。一方、古墳時代前期～中期と考えられる古墳としては、竹原古墳や垂水古墳が波根湖や静間川河口部に築造されるが、詳細は不明である。また、後期古墳（石室墳）としては、大田市域では大型の石室墳である行恒古墳や加土古墳が注目されるほか、鳥井南遺跡でも規模は小さいものの、横穴式石室を有する古墳が２基確認されている。

古代

古代になると平ノ前遺跡、市井深田遺跡の他に鯛渕遺跡などが知られるようになる。平ノ前遺跡では３間×６間の規模をもつ大型の掘立柱建物や漆付着土器や墨書土器なども確認されており、上述した古墳時代と併せて古代においても静間川下流域で重要な位置を占めていたものと推測される。鯛渕遺跡は平ノ前遺跡同様、静間川下流域に所在しており、柱穴群や溝などが確認されている。遺物には「司」の刻書、「郡」や「佛」等が記された墨書土器や土馬、漆付着土器など、官衙的な特色をもつ土器も含まれていた。その立地から古代の交通や河川管理上に必要な地方官衙的な役割を担っていた可能性が高いと考えられており、静間川対岸に位置する平ノ前遺跡と併せて静間川下流域の古代の様相が解明されることが期待される。市井深田遺跡では海岸部では類例の少ない造り付け竈を持つ竪穴建物も発見されており、古代における山間部と海岸部の交流を窺い知ることができる資料といえる。また、中尾Ｈ遺跡（１・２区）からは「二斗一升二合」「石□」と読める木簡が出土しており、海産物のカメノテを貢献する際の荷札木簡と推定されている。さらに、神谷遺跡では横口付炭窯が確認されていることから、鍛冶･製鉄関連の遺跡が近在する可能性が示唆される。この他に円面硯や平安時代初期の須恵器が出土した八石遺跡など、大田市域に官衙に関連する遺跡が多数存在することは注目されよう。

中世・近世

15 世紀後葉に平ノ前遺跡に隣接する丘陵に静間城が築城される。また、周辺には稲用城などが築かれている。

近世に入ると、静間川河口では前原家による静間鈩（和江鈩）や、石田家による百済鈩の操業が開始され、明治末まで稼業されている。静間鈩の現地には金山彦を祀った祠の跡が残り、周辺の家々では石垣などに鉄滓や炉壁の破片が転用されている様子が窺える。また、元禄年間には、前原家の

前原源三郎が静間川の流路を現在の河口の位置に付け替え、新田開発を促したと伝えられる。

【参考文献】

角川書店 1991『角川日本地名大辞典 32　島根県』1991 年
島根県教育委員会 1997『島根県中近世城館分布調査報告書（第 1 集）石見の城館』
島根県教育委員会 2013『門遺跡・高原遺跡Ⅰ区・中尾Ｈ遺跡』
島根県教育委員会 2014『市井深田遺跡・荒槇遺・鈴見Ｂ遺跡 1 区』
島根県教育委員会 2016『城ヶ谷遺跡（１区）・神谷遺跡・涼見Ｅ遺跡』
島根県教育委員会 2017『高原遺跡（３区）・中尾Ｈ遺跡（４区）・門遺跡（２区）』
島根県教育委員会 2017『鈴見Ｂ遺跡（３区）』
大田市教育委員会 2016『栗林Ｂ遺跡』
大田市教育委員会 2017『鯛渕遺跡』
大田市教育委員会 2018『鳥井南遺跡発掘調査報告書Ⅱ － 狼段原地区 － 』

第３章　御堂谷遺跡の調査成果

第１節　御堂谷遺跡の概要

１．発掘調査区の設定

御堂谷遺跡は大田市長久町・鳥井町に所在し、鳥井丘陵東南部の中腹、標高約 53 mに位置する遺跡である。丘陵中腹には、三つの平坦地とその間に二つの谷部が存在する。平成 27 年度に実施された試掘調査の結果では、平坦地は遺構・遺物が全く確認されず、谷部の包含層からのみ遺物が確認されたことから、二つの谷部が調査対象範囲（A 区と B 区）となった。調査面積は約 4,100㎡であった（第４図）。

２．調査地区割りの設定

調査にあたり、重機掘削の後、調査 B 区の北東隅と北西隅を基準に、10m 四方のグリッドを設定した。北に向けてアルファベット順、東に向けアラビア数字順に呼称した。それぞれの区画は各交点の北西端をもってグリッド名称とし､遺構等に伴わない遺物はグリッドで取り上げを行った(第５図)。

第２節　御堂谷遺跡の調査

１．調査方法

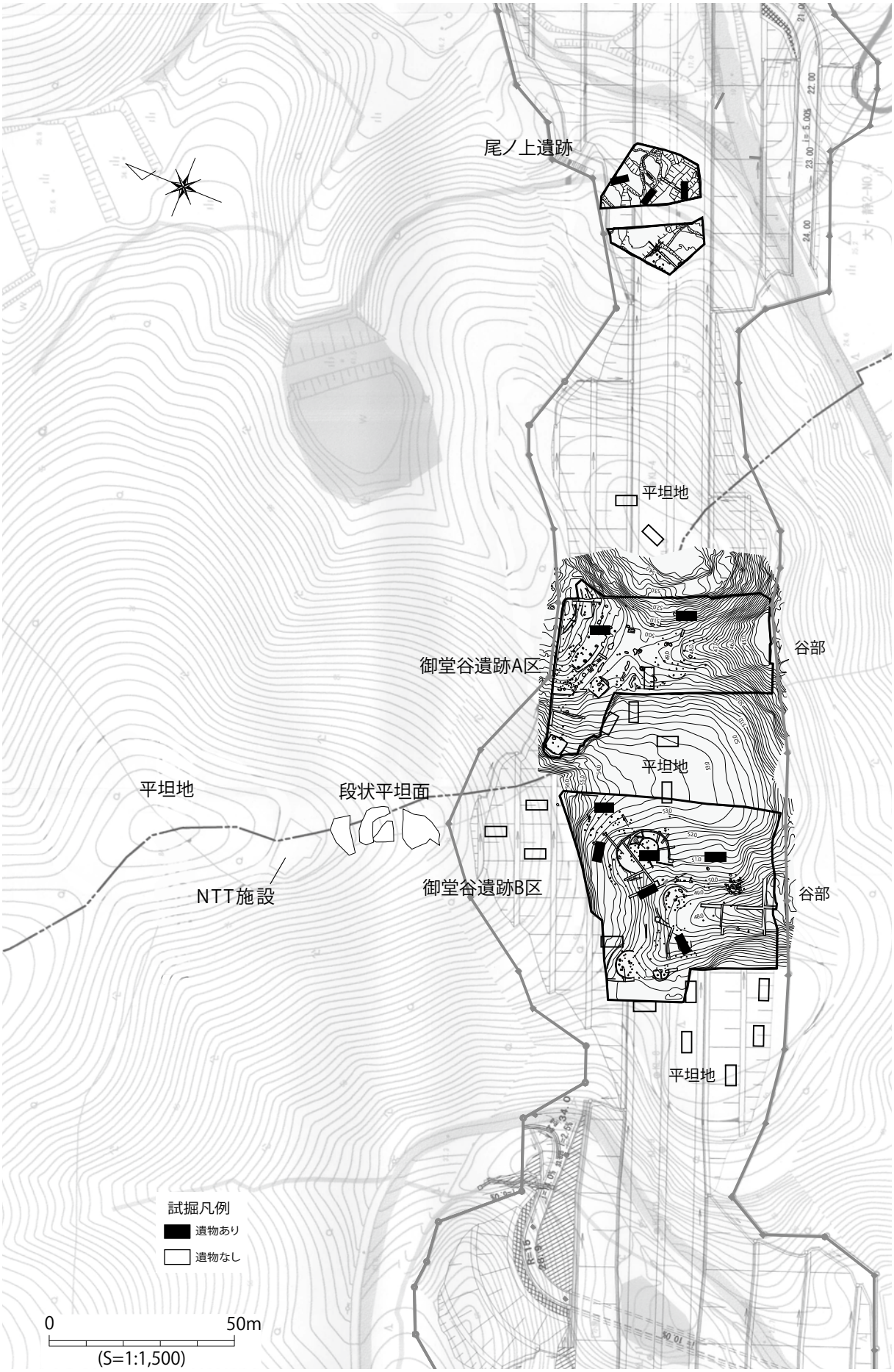
調査前の現地の状況は、樹木が繁茂する山林であったため、樹木伐採後に試掘確認調査の結果に基づいて、遺物包含層や遺構面までバックフォーを用いて表土を取り除く必要があった。

重機掘削は、バケットに平爪を装着して、少しずつ漉き取るようにして面的に掘り下げた。土層観察を行いながら、包含層あるいは遺構面まで若干余裕を持たせたところで掘削を停止した。その後はスコップ・ジョレンを用いた人力による掘削を行った。

遺物包含層についてはスコップを用いて人力で掘り下げたが、遺物が集中する箇所については移植ゴテ・草削りにより掘り下げた。出土状況の有意性が低いものは、取り上げに際してはグリッド名と層位の記録のみを行った。遺構検出は、ジョレンにより大雑把に精査した後、草削りを用いて丁寧に削り、遺構の検出に努めた。また、出土する遺物の粗密に応じて適宜移植ゴテ等の道具を併用した。

遺構の埋土掘削には移植ゴテ・草削りを使用した。掘削にあたっては基本的にベルトを設定するか半裁をし、土層観察を行いつつ掘り下げた。土層断面については写真撮影を行い、必要に応じて断面図を作成した。遺構からの出土遺物については、必要に応じて出土状況を記録した後、取り上げ№を振って取り上げた。

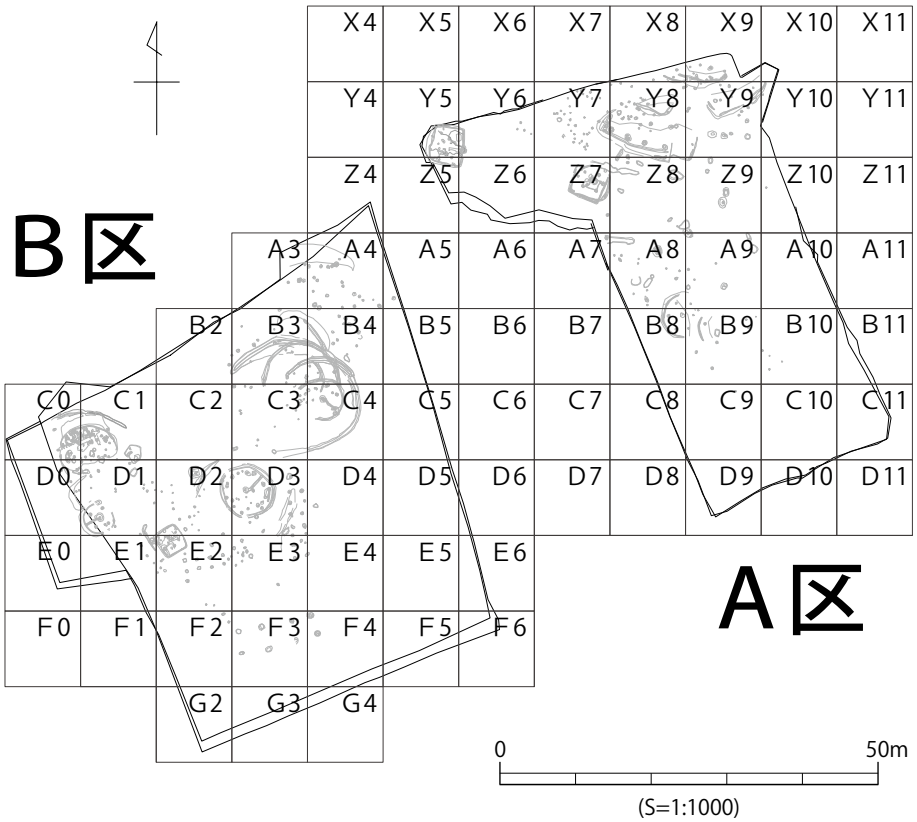
遺構の平面図は、遺跡調査システム「ＳＩＴＥ」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは６×７判フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はデジ



第４図　御堂谷遺跡の周辺遺跡（S=1:1,500）

タルカメラで撮影した。

現地調査期間は平成 29 年 6 月 20 日から 12 月 14 日、調査面積は約 4,100 ㎡、調査体制は調査員２名、嘱託職員１名、調査補助員３名（９月からは２名）である。



第５図　御堂谷遺跡と 調査地区割り図（S=1:1,000）

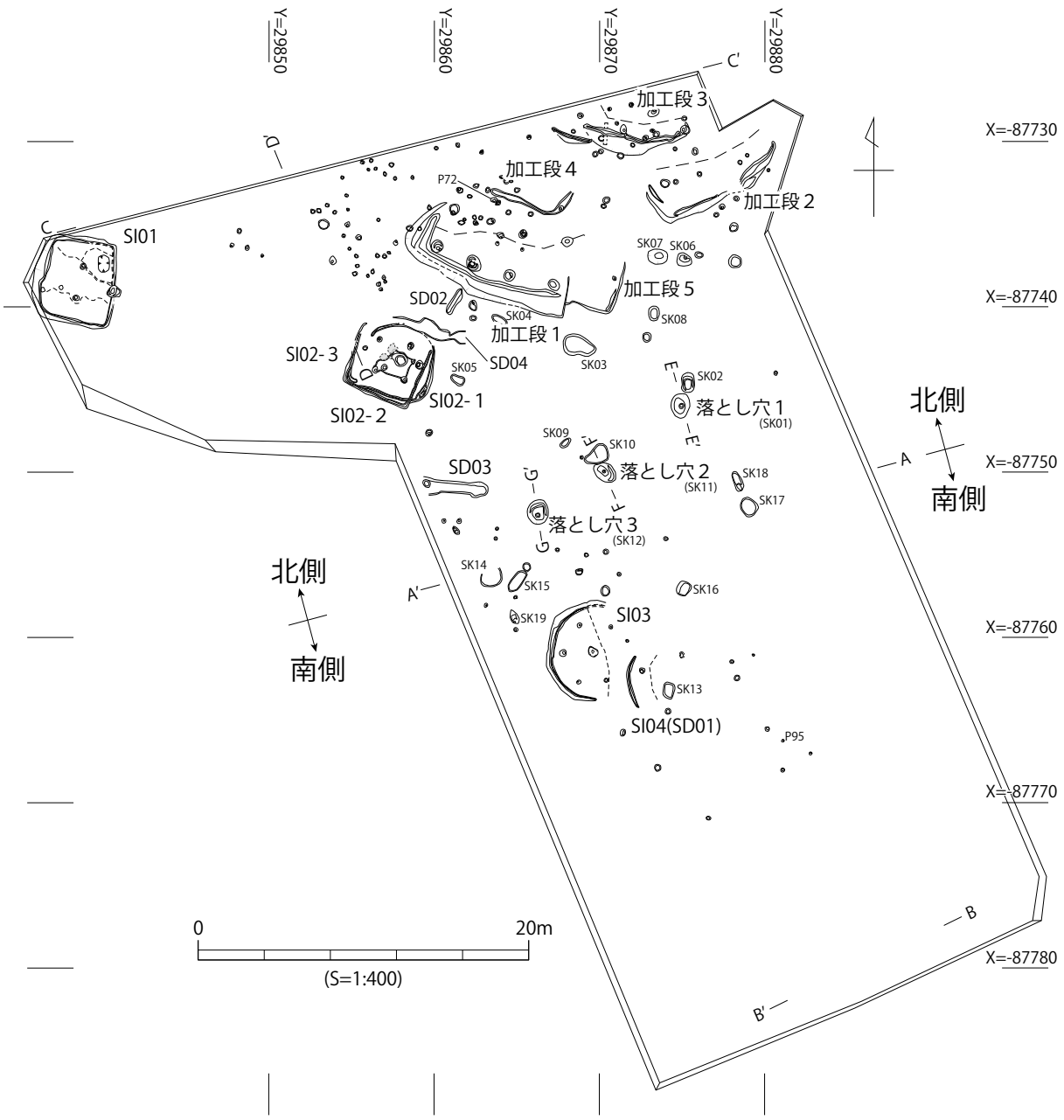
第３節　A 区の調査

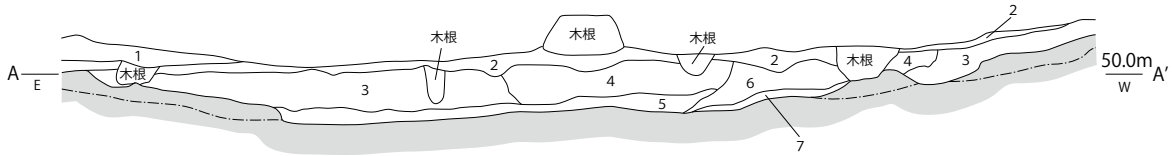
１．A 区の基本層序

調査 A 区の地形は、調査区中央部を境に南側は南側へ、北側は北側に向けて斜面になっている。とくに北側は、調査区の北側ほど土層の堆積が厚い。一方、南側もその北寄りでは土層堆積がやや厚いものの、その厚みは北側に比べてほぼ一定している。なお、調査 A 区の南側と北側はそれぞれ東西方向からの下り傾斜となっているため､南北方向の谷状地形を呈している(第４図)。このため、それぞれ調査区の中央寄りほど土層の堆積が厚い。また、調査 A 区の北側では、SI02-1~3 を境に古墳・古代の遺物が出土する層があり、その下層には弥生土器の出土する層がある。SI02-1~3 の南から調査区中央付近にかけては、遺物の出土量が減る（表土直下が地山のため)。調査区中央から南側の斜面にかけては、弥生土器が主に出土する層がある。上層では、少量の須恵器の出土がある。なお、便宜的に A 区を北側と南側に分けて調査を遂行した（第６図)。

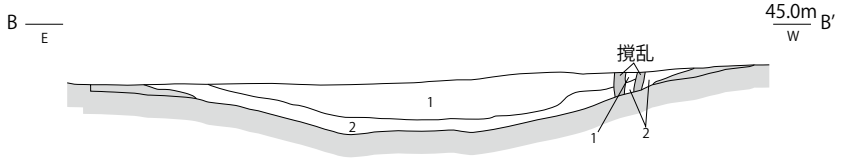
調査区中央部（第６図 A-A'）では、3、4、5、6 が主な包含層である。包含層の遺物は弥生土器が中心で上層に須恵器を少量含んでいる。遺物は 3、4 の暗褐色土の堆積から出土したものがほとんどである。

調査区南側（第６図 B-B'）では、黒褐色粘質土、オリーブ褐色粘質土の順で堆積している。黒褐





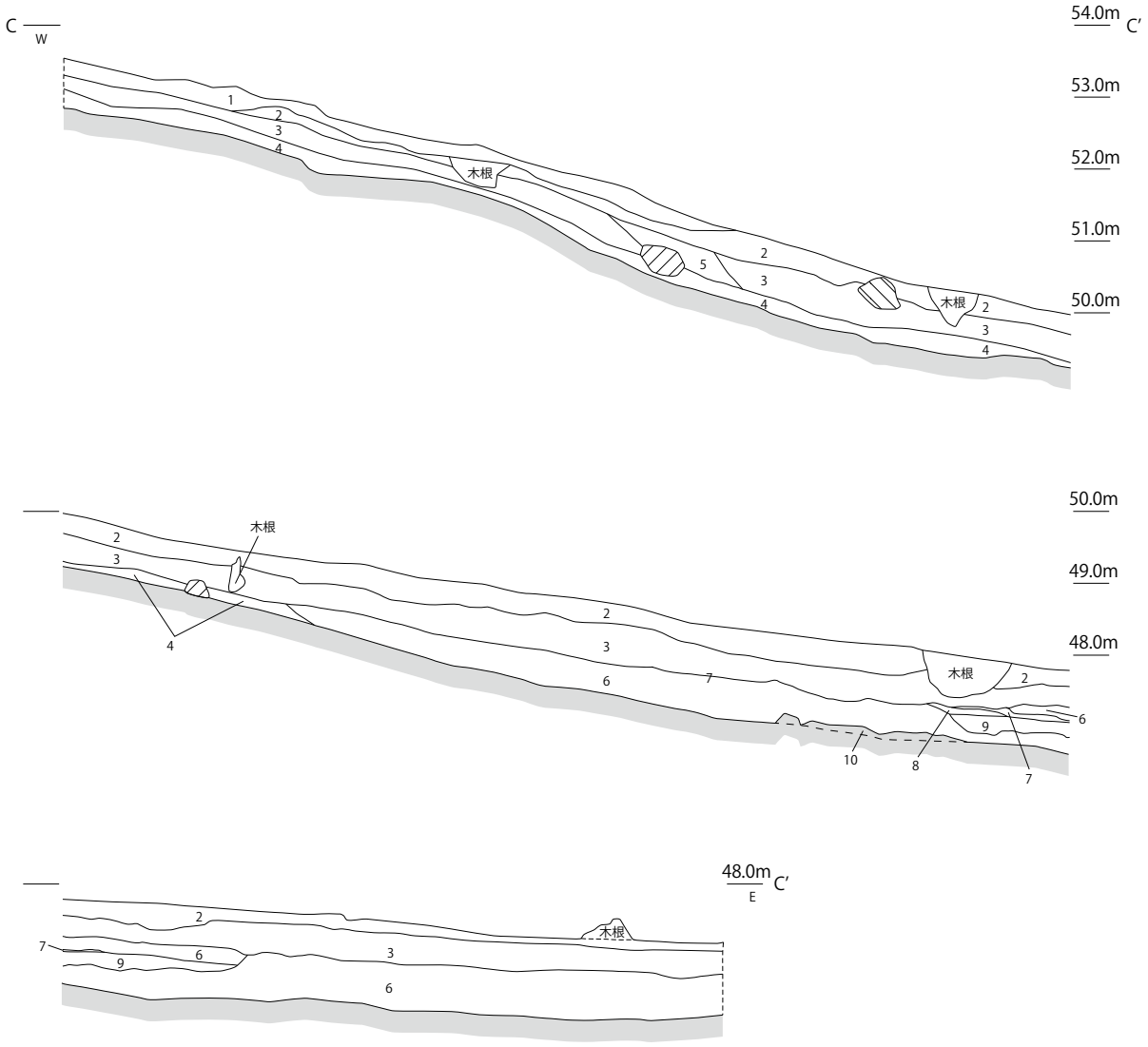
1. 明褐色土 7.5YR5/8 締まり悪く粘性弱い　二次堆積土か？
2. 明黄褐色土 10YR6/6 締まり悪く粘性弱い　本来の表土か？
3. 暗褐色土 10YR3/3 固く締まり粘性弱い　黄褐色土がまだらに混入　包含層２
4. 暗褐色土 10YR3/3 固く締まり粘性弱い　３層より黄褐色土の混入が少ない　包含層２
5. 褐色土 10YR4/4 固く締まり粘性弱い　黄褐色土の混入はほとんどない　４層に似る　包含層２
6. 褐色土 7.5YR4/6 固く締まり粘性弱い　暗黄色ブロック、炭化物含む　包含層３
7. にぶい褐色土 7.5YR5/4　固く締まり粘性弱い　黒色粒子含む　地山の漸移層か？



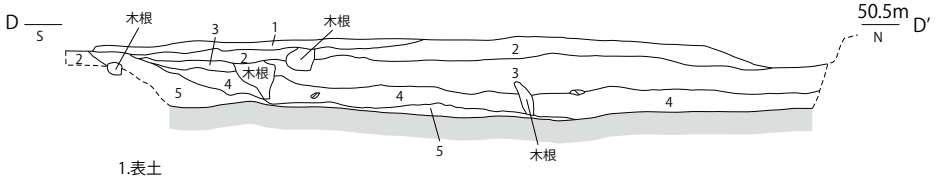
1.黒褐色粘質土 7.5YR3/1 粘性有りしまり強い　包含層、弥生土器(前期)が主体
2.オリーブ褐色粘質土 2.5YR4/3 粘性強くしまり強い　無遺物層

0　5m
(S=1:100)

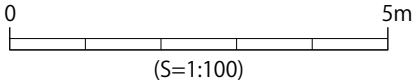
第６図　Ａ区　遺構配置図（S=1:100）



1.赤褐色粘質土 5YR4/6 粘性弱くしまり有り　流土
2.褐色粘質土 7.5YR4/4 粘性弱くしまり弱い　包含層１（古墳中期～古代）
3.黒褐色粘質土 10YR3/2 粘性強くしまり強い　包含層２（古墳中期～古代）
4.にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3 粘性有りしまり有り　無遺物層、地山由来の石、炭化物混じる、一部で黒色土（固くしまる）が混じる
5.褐色粘質土 10YR4/4 粘性有りしまり有り　３の土が少量混じる　包含層２
6.暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性有りしまり強い　包含層３（弥生）
7.黄褐色粘質土 10YR5/6 粘性有りしまり強い　７～９を境に一部で上層・下層に分ける
8.暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性有りしまり強い　６の土が混じる
9.黒褐色粘質土 7.5YR3/1 粘性強いしまり強い　７の土が混じる



1.表土
2.赤褐色粘質土 5YR4/4 粘性有りしまり強い　流土
3.黒褐色粘質土 7.5YR3/1 粘性有りしまり強い　包含層１（古墳中期～古代が中心）、白色粒混じる
4.暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強いしまり強い　無遺物層、白色粒が多く混じる、地山由来の石混じる
5.黒色粘質土 10YR2/1 粘性弱いしまり強い　無遺物層、４の土が多く混じる



第７図　Ａ区　土層図（S=1:100）

色粘質土は、最も深い箇所で約 52cm 堆積している。この層から弥生時代前期の土器が大量に出土している。黒褐色粘質土の下層、オリーブ褐色粘質土の層では、遺物の出土はない。A 区の南側は、東西方向からの谷地形で、中央ほど堆積が厚く、遺物も多い。調査区北側（第７図 C-C'）は、流土直下に古墳時代中期頃～古代にかけての２層の包含層（包含層 2）と、無遺物層を挟んで下層には、弥生時代の包含層（包含層 3）が形成されている。中央付近に、７～９の薄い堆積があり、炭化物を含む。何らかの遺構の可能性も考えられるが、調査区内では、遺構と考えられるものは検出できなかった。また、掘削に際しては、これらの層を境に包含層３（第７図 C-C' の６層）を上層と下層に分けた。包含層３の下層では、前期の弥生土器の出土量が上層に比べて多い。

調査区西側（第７図 D-D'）では、表土、流土、包含層、無遺物層の順で堆積する。包含層は、黒褐色粘質土で、遺物としては、古墳時代中期頃～古代にかけてのものが主体となる（包含層 1）。無遺物層は、地山ブロックを多量に含む暗褐色粘質土の層である。また、これとは別に西側断面の南側には、黒色粘質土の無遺物層がある。旧表土と思われる。

２．A 区の検出遺構とその遺物

調査の結果、竪穴建物、加工段、落とし穴、溝、ピット（柱穴）等を確認した（第６図）。遺構のほとんどは、地山上で検出したが、包含層２（3 層）に形成された遺構も確認された。

落とし穴１～３（第６図・８図）

調査区北側～中央のやや南で検出された SK01・11・12 は、落とし穴であると考えられる。いずれの遺構も地山に形成されている。出土遺物等はなく、明確な時期は不明であるが、縄文時代のものと考えられる。

落とし穴１（SK01）は平面楕円形プランの土坑で、140 × 112cm、深さ 114cm の規模である。土坑底面に深さ 17cm の柱穴をもつ。

落とし穴２（SK11）は平面楕円形プランの土坑で、148 × 100cm、深さ 98cm の規模である。土坑底面に深さ 24cm の柱穴をもつ。

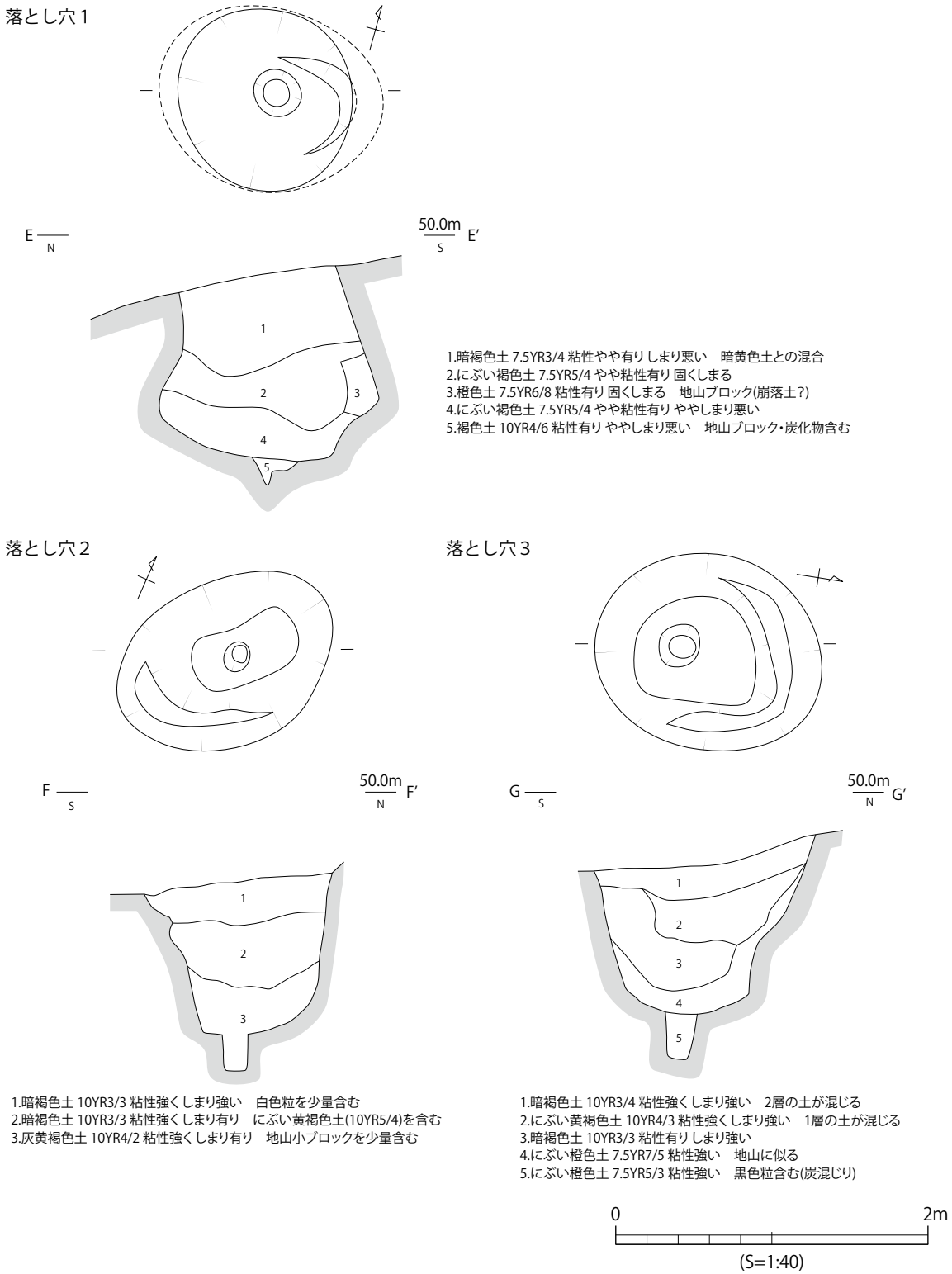
落とし穴３（SK12）は平面楕円形プランの土坑で、144 × 144cm、深さ 94cm の規模である。土坑底面に深さ 30cm の柱穴をもつ。

これら三つの落とし穴は、A 区中央部から北東に向かって直線的に配置されている。

SK02 ～ 10・13 ～ 19

落とし穴以外に、16 基の土坑を検出している。いずれも地山に形成されている。明確な時期や性格不明の土坑のため、規模のみ列記する。なお、遺構配置図は第６図を参照のこと。

・SK02…平面不整楕円形プランの土坑で、118 × 36cm、深さ 50cm の規模である。
・SK03…平面不整楕円形プランの土坑で、202 × 130cm、深さ 14cm の規模である。
・SK04…平面不整楕円形プランの土坑で、100 × 46cm、深さ 12cm の規模である。
・SK05…平面不整楕円形プランの土坑で、84 × 48cm、深さ 17cm の規模である。



第８図　Ａ区　落とし穴１～３遺構実測図（S=1:40）

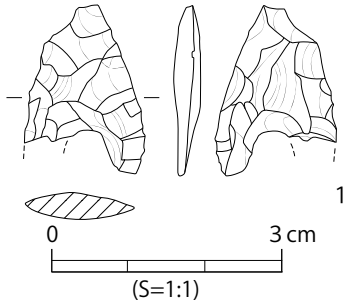
・SK06…平面楕円形プランの土坑で、92 × 72cm、深さ 32cm の規模である。

・SK07…平面楕円形プランの土坑で、116 × 112cm、深さ 36cm の規模である。

・SK08…平面楕円形プランの土坑で、88 × 64cm、深さ 92cm の規模である。

・SK09…平面楕円形プランの土坑で、76 × 40cm、深さ 32cm の規模である。

・SK10…平面不整楕円形プランの土坑で、152 × 112cm、深さ 28cm の規模である。SK11 を切る。



第９図　A 区　SK14 出土
石器実測図（S=1:1）

・SK13…平面長方形プランの土坑で、68 × 94cm、深さ 16cm の規模である。SI04 に伴う可能性がある。
・SK14…平面楕円形プランの土坑で、132 × 116cm、深さ 18cm の規模である。一部が欠失している頁岩製の石鏃が１点出土している（第９図１）。
・SK15…平面長楕円形プランの土坑で、152 × 32cm、深さ 24cm の規模である。
・SK16…平面楕円形プランの土坑で、88 × 76cm、深さ 90cm の規模である。土坑底面に柱穴はないが、落とし穴ではないかと考えられる。
・SK17…平面楕円形プランの土坑で、136 × 92cm、深さ 14cm の規模である。
・SK18…平面長楕円形プランの土坑で、120 × 48cm、深さ 30cm の規模である。
・SK19…平面楕円形プランの土坑で、88 × 44cm、深さ 27cm の規模である。

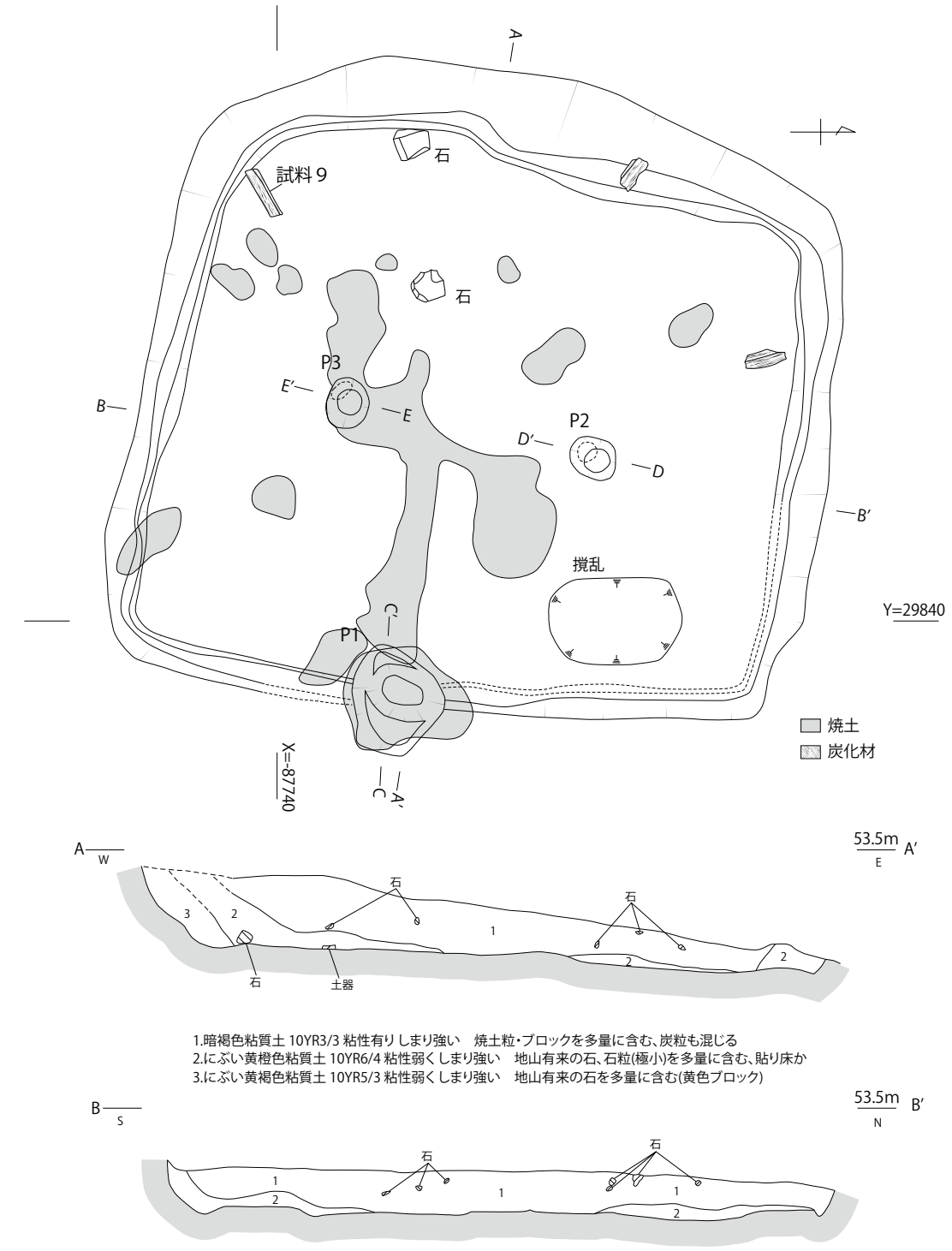
SI01（第 10・11 図）

調査区北西（西側拡張区北西隅）で検出された方形プランの竪穴建物である。規模は、4.1 × 5m で、床面からは２本の柱穴（P2、P3）、全周する壁際溝が検出された。P2 は、径 40cm、深さ 30cm である。P3 は、径 36cm、深さ 28cm である。いずれのピットも暗褐色粘質土が堆積し、焼土粒や炭化物を含む。また、裏込めと考えられるオリーブ褐色粘質土が暗褐色粘質土の両側に堆積する。さらに、東側中央の壁には不正楕円形の土坑が掘り込まれている。規模は、72 × 80cm、深さ 14cm である。壁際土坑と思われる。壁際土坑の上面では、焼土が検出され、埋土には、焼土ブロックや炭粒が含まれていた。建物内の北東は、後世の撹乱により、一部床面が失われている。
全体に床面の残存状態が良く、貼床上面で焼土がいたるところで検出されている。また、建物の北西から南西にかけて、炭化材が建物中央に向けて検出されている（第 10 図）。

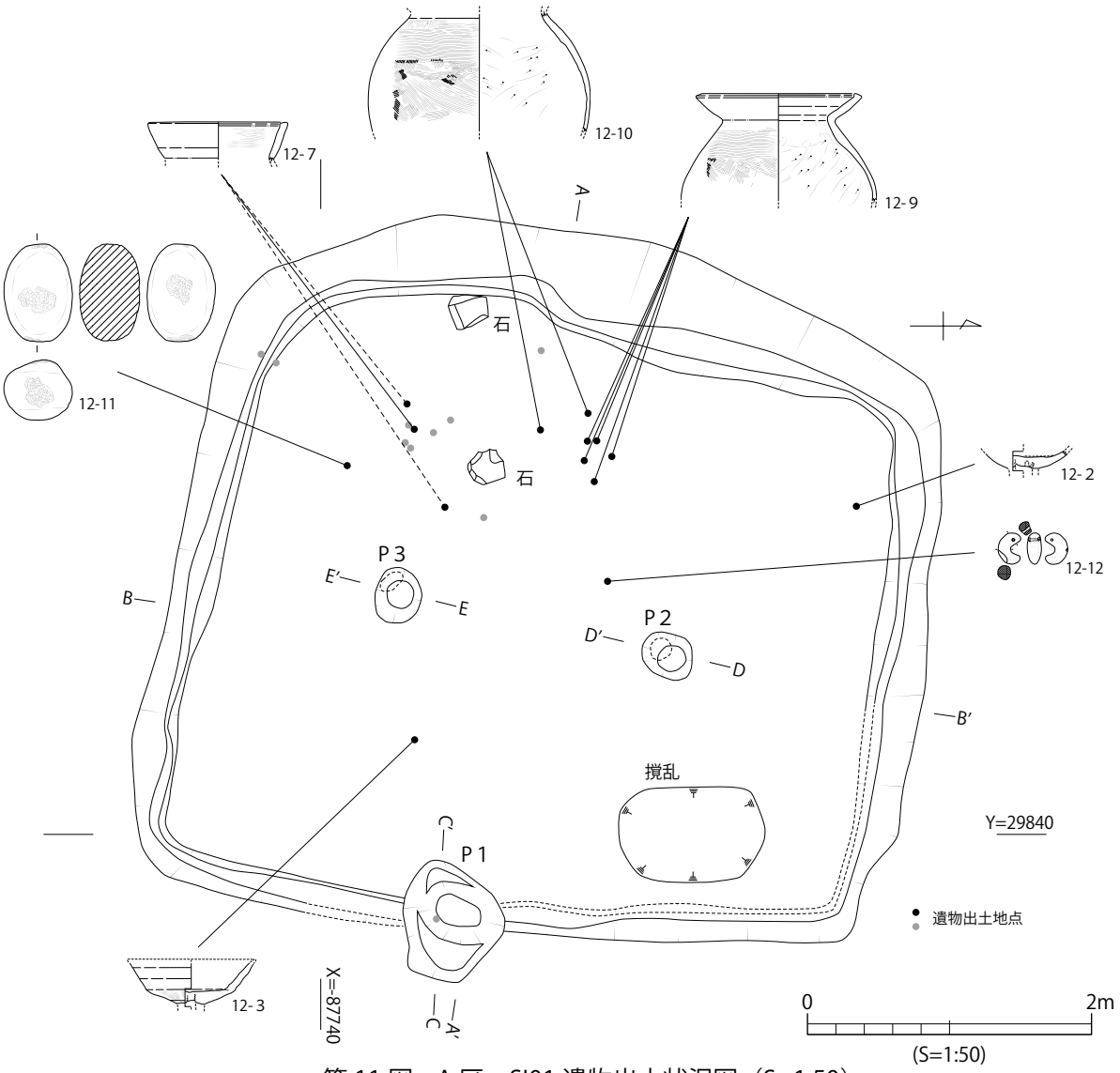
SI01 の埋土の堆積は、２層によって構成されている。そのうち１の土は、暗褐色粘質土で焼土粒や焼土ブロックが多く混じる層である。床面での炭化材の検出状況から、１の堆積は、屋根にかぶせた土が焼け落ちたものであると考えられる。これらの焼土、炭化材の検出状況から焼失建物と考えられる。２の堆積は、一次堆積土である。また、建物西側からは、上面が平らな、作業台と考えられる石が２点検出されている。

SI01 は、壁際土坑を据え付ける二本柱の竪穴建物で、時期は出土遺物から古墳時代中期前葉頃と考えられる。特異な出土遺物に土製勾玉がある。また、建物内西側の床面で古墳時代の土師器甕が集中して出土している。

なお、炭化材の放射性炭素年代測定（AMS 法）の分析では、弥生時代後期～古墳時代前期頃の年代が得られており、樹種はマツ属複維管束亜属であった（第４章第１・２節参照）。



第 10 図　Ａ区　SI01 実測図（S=1:50）



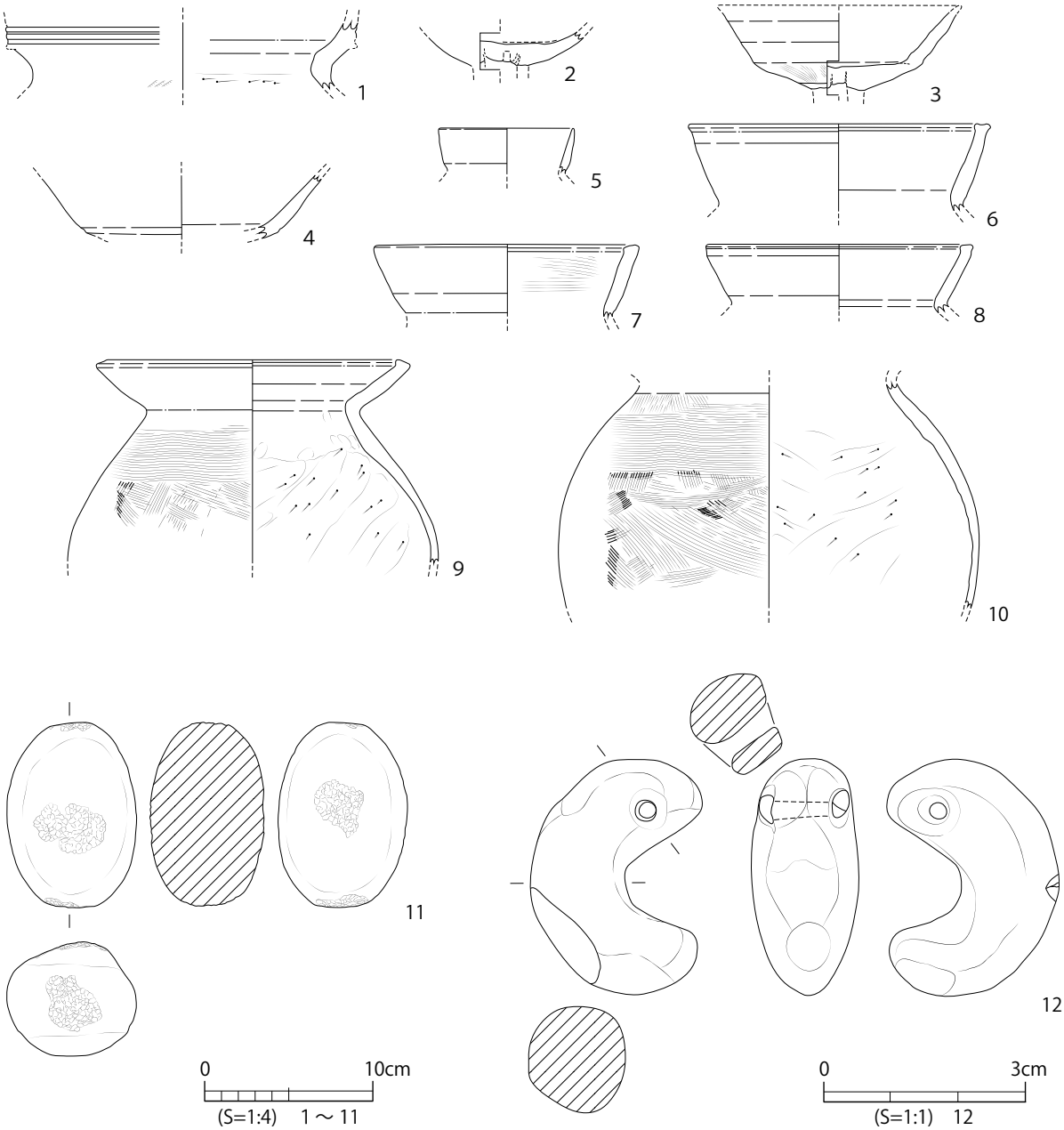
第 11 図　A 区　SI01 遺物出土状況図（S=1:50）

SI01 出土遺物（第 12 図）

第 12 図 1 は口縁部外面に３条以上の擬凹線をめぐらしている。2 ～ 4 は高坏の受け部で、2・3 には脚部の接合部に刺突痕が認められる。5 は小型の丸底壺、6 ～ 10 は甕である。6 ～ 9 は口縁端部がわずかに内傾している。11 の磨石は部分的に剥離痕があるので、敲石の可能性もある。12 の土製勾玉は手づくねで整形されており、一部が黒色化している。

SI02-1~3（第 13~15 図）

調査区西側で検出された竪穴建物で、一部が西側拡張区にかかる。３棟の竪穴建物が切り合っている。SI02-1 は、方形プランを呈する竪穴建物で、北側の壁は、斜面に向かい、流失してしまったためか、検出できなかった。SI02-2 は、円形プランの竪穴建物である。こちらも北側の壁は検出できなかったが、一部で壁際溝を検出することが出来た。SI02-3 は隅丸方形プランの竪穴建物である。この竪穴建物については、SI02-1 の南壁のやや北側で壁際溝が検出された。また、これらの他に７つの柱穴と中央土坑、焼土、作業台と考えられる石が検出されている。SI02-2、SI02-3 の壁際溝は、SI02-1 の南東隅で検出された部分で一部二股に分岐している箇所がある。一部で分



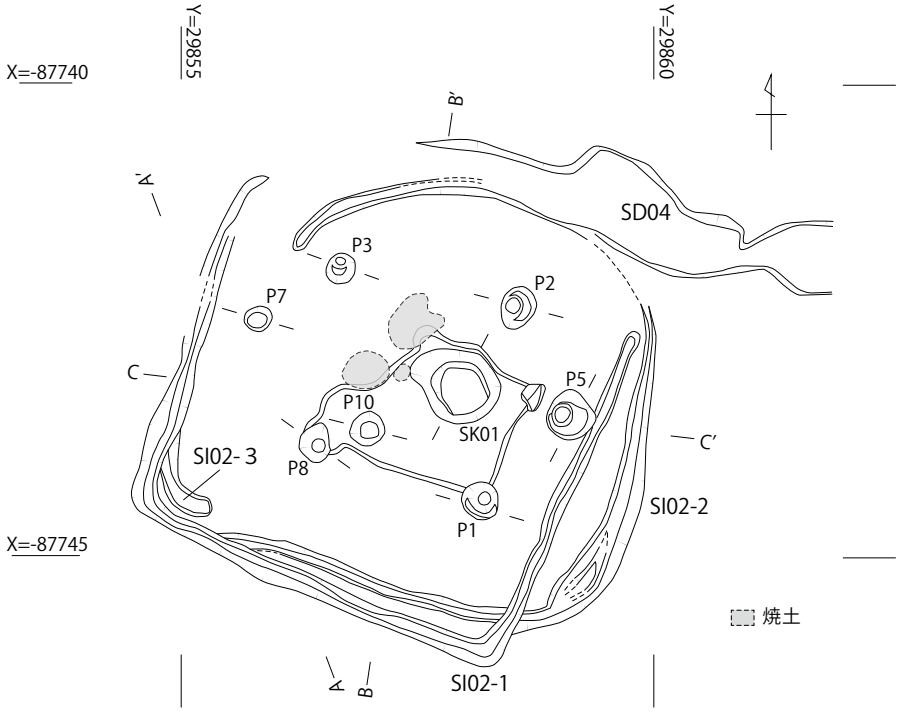
第 12 図　A 区　SI01 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:4）

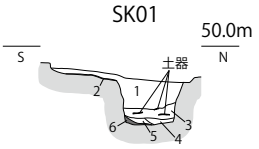
岐はするものの北側に向けては、１つの壁際溝となっており、建て替えに際して、一部を掘り直したものと考えられる。

SI02-1 は、3.8 × 4.1m の方形プランを呈する。SI02-2 は、壁際溝と東側の壁の一部が検出されている。壁際溝から規模を復元すると径約 4.8m の円形プランの竪穴建物であると想定される。

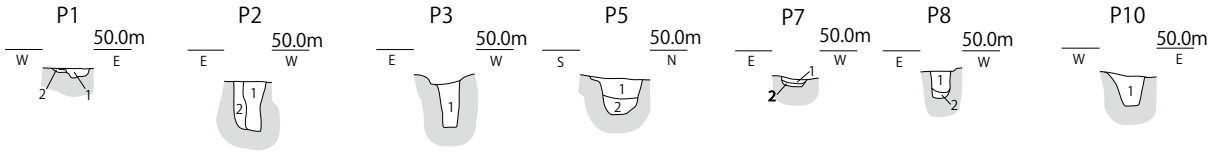
SI02-2 の主柱穴は、中央土坑・焼土を囲む 4 本ないし 5 本の柱穴（P1、P2、P3、P5、P8）であると考えられる。B-B' の 6-1 層で SI02-1（古墳時代中期）で貼り床（床土）と考えられる面が確認されている。SI02-3 も壁際溝の一部が検出されただけである。壁際溝から規模を復元すると一辺約 4m 前後の隅丸方形の竪穴建物であると想定される。

全体で 7 本の柱穴を検出した。P1 は、径 40cm、深さ 12cm である。P2 は径 48cm、深さ 54cm である。P3 は径 30cm、深さ 46cm である。P5 は、径 50cm、深さ 38cm である。P7 は、径 28cm、深さ 8cm である。P8 は、径 40cm、深さ 28cm である。P10 は、径 36cm、深さ



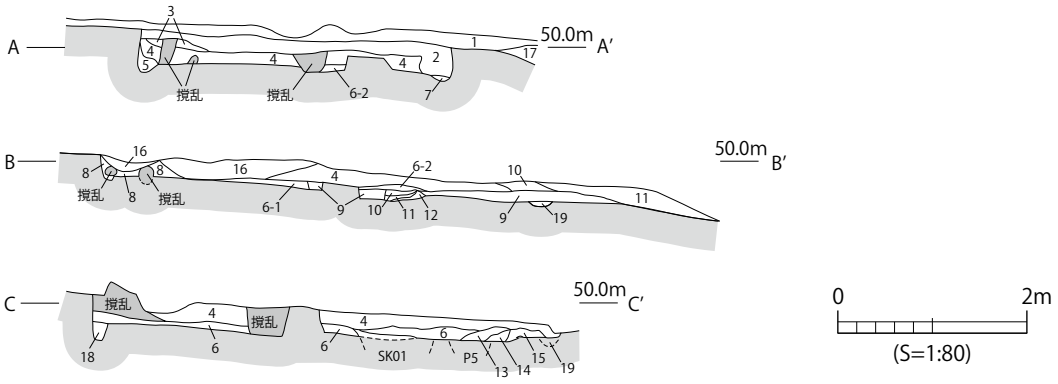


SK01 1. 暗褐色土 10YR3/4　固くしまりやや粘性あり　地山ブロックを多く含む
2. 炭の層　厚さ10～5mm
3. 黒褐色土 2.5Y3/1　しまり悪く粘性弱い　炭化物多く含む
4. 灰褐色土 7.5YR5/2　しまり悪く粘性弱い　炭化物含む
5. 橙色土 5YR7/8　固くしまり粘性強い
6. 褐灰色土 7.5YR4/1　しまり悪く粘性弱い



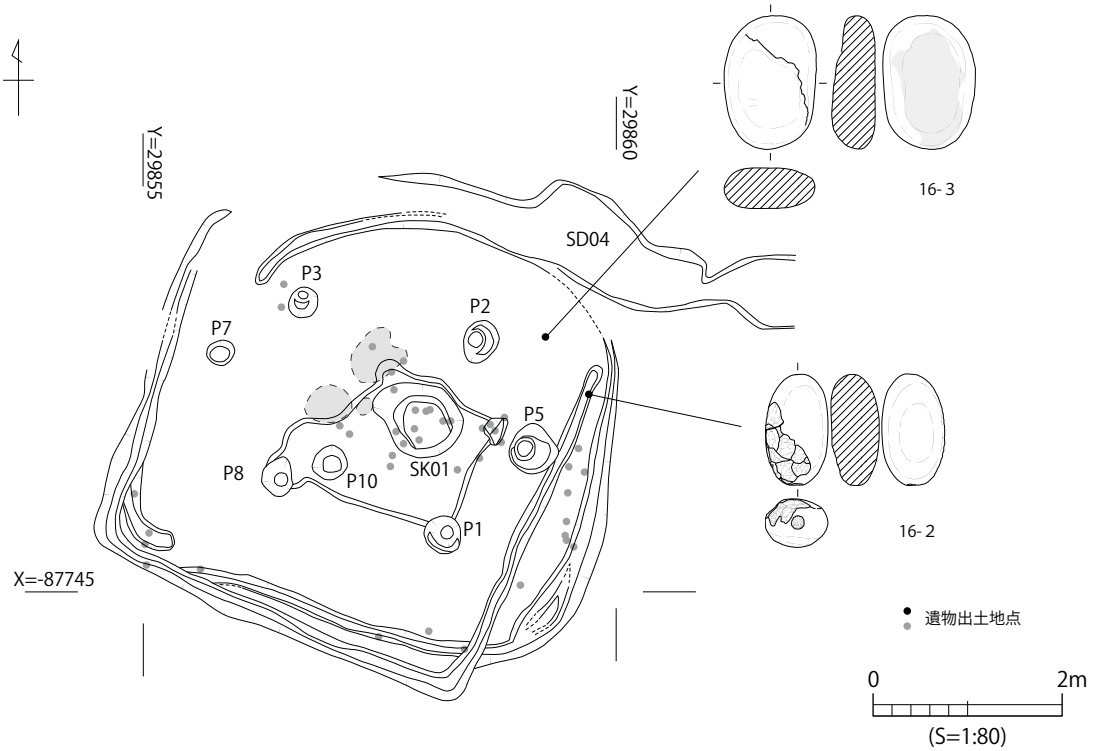
P1　1. 暗褐色土 7.5YR3/4　固くしまり粘性弱い　微砂粒含む
2. 橙色土 7.5YR7/5　固くしまる
（P1は木根の可能性あり）
P2　1. 柱痕：暗褐色土 10YR3/4　固くしまり粘性あり　黄色土ブロック含む
2. 裏込土：明黄褐色土 10YR7/6　固くしまり粘性弱い
P3　1. 暗褐色土 10YR3/3　固くしまり粘性あり　黄色土ブロック含む
P5　1. 褐色土 10YR4/4　固くしまり粘性弱い　炭化物・淡黄色土ブロック含む
2. 明黄褐色土 10YR6/6　しまり悪く粘性弱い　炭化物含む

P7　1. 暗褐色土 7.5YR3/3 と 黄橙色土 7.5YR8/6 の混合土
固くしまりやや粘性あり
2. 暗褐色土 7.5YR3/4　しまりなく粘性弱い
P8　1. 明黄褐色土 10YR5/6 と 灰黄褐色土 10YR4/2 の混合土
しまり悪く粘性あり　炭化物含む
2. 暗褐色土 10YR3/3　しまり悪く粘性弱い
P10　1. 灰褐色土 7.5YR5/2　固くしまり粘性あり　小炭化物含む

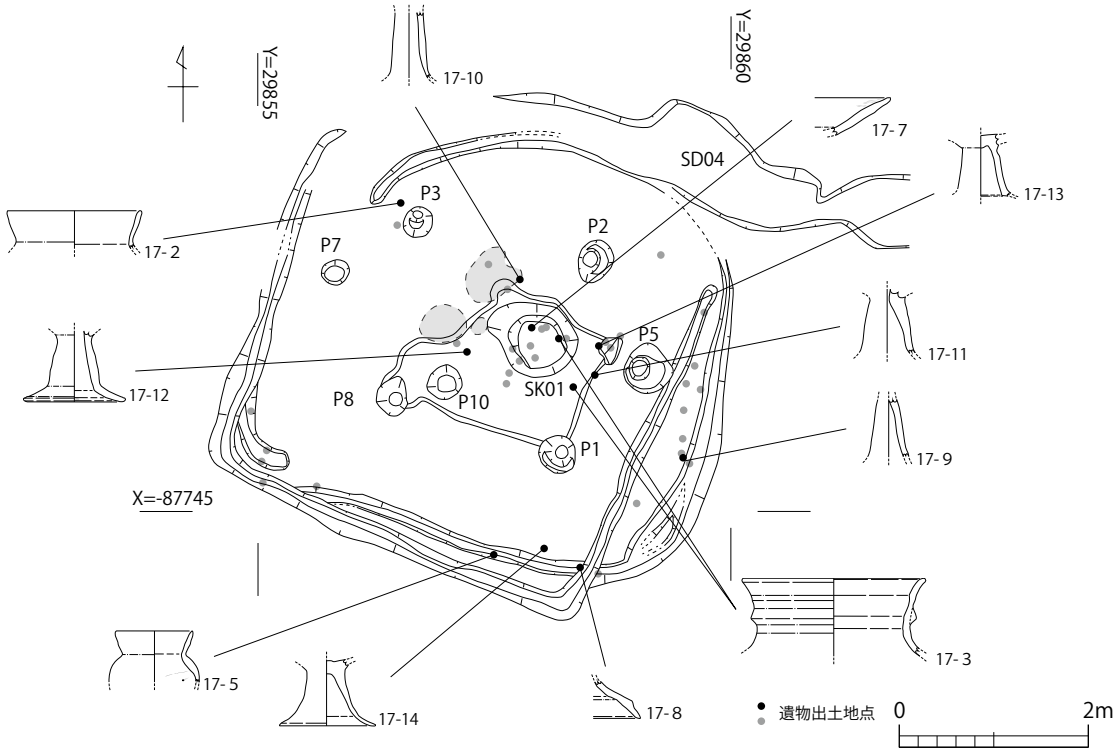


1. 黄橙色粘質土 7.5YR7/8　粘性悪くしまり悪い　二次堆積土？
2. 褐色土粘質土 7.5YR4/4　粘性強く固くしまる　黄色土ブロック含む
3. 浅黄橙粘質土 7.5YR8/4　粘性強く固くしまる　地山ブロック？
4. 黒褐色粘質土 10YR2/2　粘性有り固くしまる　黄色土ブロック少量含む、白色砂粒含む
5. 灰褐色粘質土 7.5YR5/2　地山小石礫含む、一次堆積土
6-1. 黄褐色粘質土 10YR8/8　粘性有り固くしまる　SI02-1の貼り床、若干暗褐色土含む
6-2. 明褐色粘質土 7.5YR5/6　粘性有り固くしまる
7. 明褐色粘質土 7.5YR5/6　粘性弱くややしまり悪い　壁際溝内堆積土
8. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　暗褐色土ブロック少量含む、一次堆積土
9. 黒褐色粘質土 7.5YR3/2 と 明褐色粘質土 7.5YR5/8の混合層　弥生土器出土層
10. 灰色粘質土 5Y4/1　上部に黄褐色の鉄分凝固層(SI02-1に伴う施設か)
11. 黄橙粘質土 10YR8/6　地山ブロックか(SI02-1に伴う施設か)
12. 褐灰色粘質土 10YR4/1　炭化物含む(SI02-1に伴う施設か)
13. 暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性弱く固くしまる　黄色土ブロック・白色砂粒含む
14. 明褐色粘質土 10YR6/8　粘性弱くしまり悪い
地山に近い、ブロック状に集合している
15. 黒褐色粘質土 10YR3/2　粘性弱く固くしまる　黄色ブロック・炭化物少量含む
16. 褐色粘質土 7.5YR4/6 と 暗褐色粘質土 10YR3/4の混合層　粘性弱く固くしまる
17. 黒色粘質土 7.5YR2/1　固くしまる　北側にもぐりこむ、無遺物層
18. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2　粘性強くしまり悪い　地山ブロック含む、壁際溝
19. 褐色土 10YR4/4　粘性弱く固くしまる

第 13 図　A 区　SI02-1~3 実測図（S=1:80）

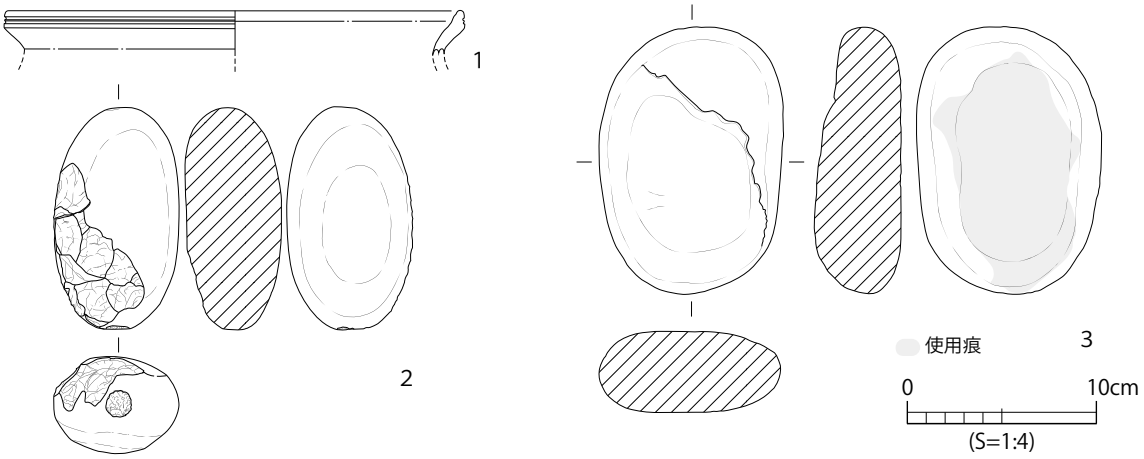


第 14 図　A 区　SI02-2 遺物出土状況図（S=1:80）



第 15 図　A 区　SI02-1 遺物出土状況図（S=1:80）

36cm である。３棟の建物が切り合っており、組み合わせは判然としない。平面での状況から可能性を列挙するならば、P5、P7 が SI02-1 に伴う２本の柱穴を主柱穴にする建物となる可能性がある。ただし、柱穴の深さが大きく違うため、確実性は乏しい。また、P1、P2、P3、P8 が SI02-1、SI02-2、SI02-3 に伴う４本の柱穴を主柱穴にする建物となる可能性がある。また、P1、P2、P3、P5、P8 が SI02-2 に伴う５本の柱穴を主柱穴にする建物となる可能性がある。P2 については、柱



第 16 図　A 区　SI02-2 出土遺物実測図（S=1:4）

痕が確認され、柱痕の東側の断面では、明黄褐色の裏込めと考えられる土層の堆積を確認した。

中央土坑の規模は、東西 1m、南北 78cm、深さ 47cm である。土坑の片側が二段堀の形状で、一段目の底面に 5 ～ 10mm の炭の層が堆積している。全体では、炭の層を除いて、5 つの層がある。そのうち 3、4 の層は炭化物を多く含む。また、遺物については 3 の層から多くが出土した。いずれも古墳時代中期前葉頃の土師器片である。

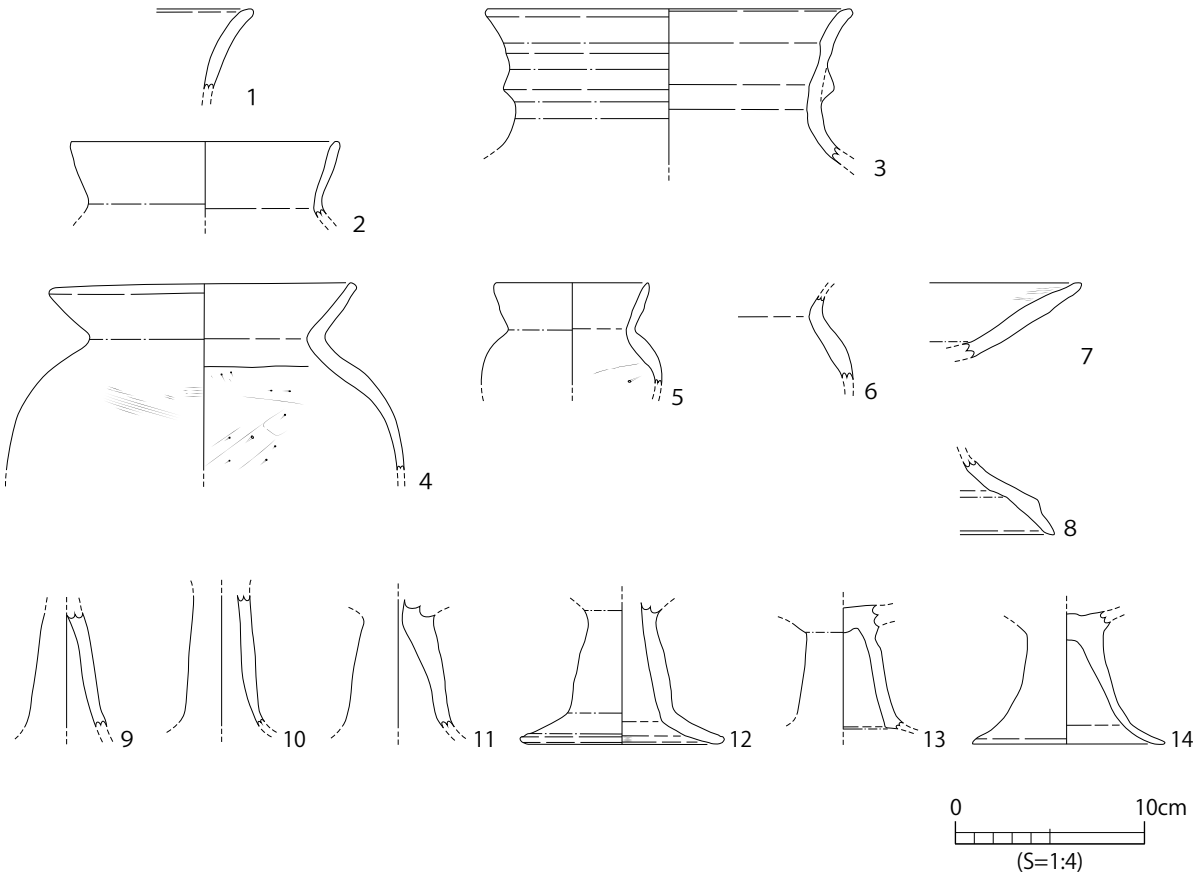
また、縦断面 1 の 10 ～ 12 は床が熱を受けており、10 の上部には褐色の鉄分凝固層が見られる。12 は、炭化物を含む層である。炭化物を多く含む SI02-SK01 のそばで 10 ～ 12 は確認されていることから、SK01 に関連する層であると考えられる。これらの堆積、周辺の焼土や石は、中央土坑に伴うものと考えられる。炭化物を多く含み、周辺に焼土が見られることから火を扱う施設であることは、明白であるが、詳細は不明である。この施設は、出土遺物から SI02-1 に伴う施設と考えられる。

SI02-1 の時期は、古墳時代中期前葉頃、SI02-2 の時期は弥生時代後期頃（Ⅴ－１もしくはⅤ－２）、SI02-3 の時期は判然としないが、２つに分岐する壁際溝の検出状況と隅丸方形というプランから、SI02-2 からの建て替えによるものと想定される。また、SI02 の北側で検出された SD04 は、現状の長さ 6.6m、幅 28 ～ 96cm、深さ約 14cm である。SI02-2（円形プランの竪穴建物）の壁際溝に切られている。時期は、SI02-2 が弥生時代後期頃と考えられることから、それ以前の時期が想定される。

SI02-1~3 出土遺物（第 16・17 図）

第 16 図 1 は口縁部外面に２条の擬凹線がめぐる。2 の磨石は小口端部等に円形の剥離痕がみられることから、敲石の可能性もある。3 の磨石は著しい使用痕が認められる（スクリーントーンの部分）。

第 17 図 1 ～ 4・6 は土師器甕、5 は小型の丸底壺である。3 は口縁部外面に断面三角形を呈するような稜を有する。7 は高坏の受け部、8 ～ 14 は高坏の脚部である。10・11・13・14 は受け部と脚部の接続に際して、粘土が充填されている。いずれも古墳時代中期前葉の土師器である。



第 17 図　A 区　SI02-1 出土遺物実測図（S=1:4）

SI03（第 18・19 図）

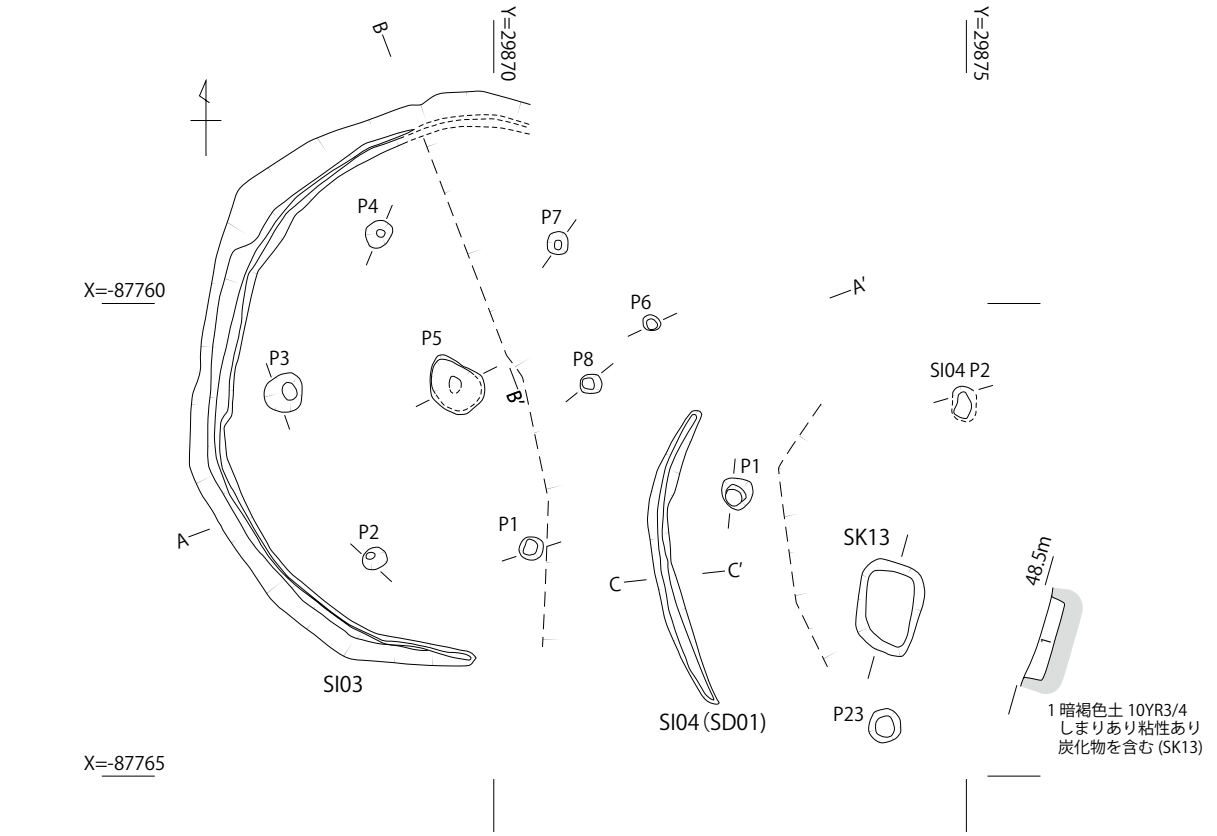
調査区中央で検出された竪穴建物である。包含層中に造られていたため、また、中央に向かって谷地形になっており、東半分を検出することは出来なかったが、円形プランを呈する。推定規模は、径 6m 前後である。中央ピットを含め、７つの柱穴を検出した。中央ピット以外の６本の柱穴は、中央ピットを取り囲むように並ぶ。柱穴の埋土は、にぶい褐色粘質土～暗褐色粘質土が堆積している。壁際溝も竪穴建物の壁を検出することが出来た西半分で検出された。

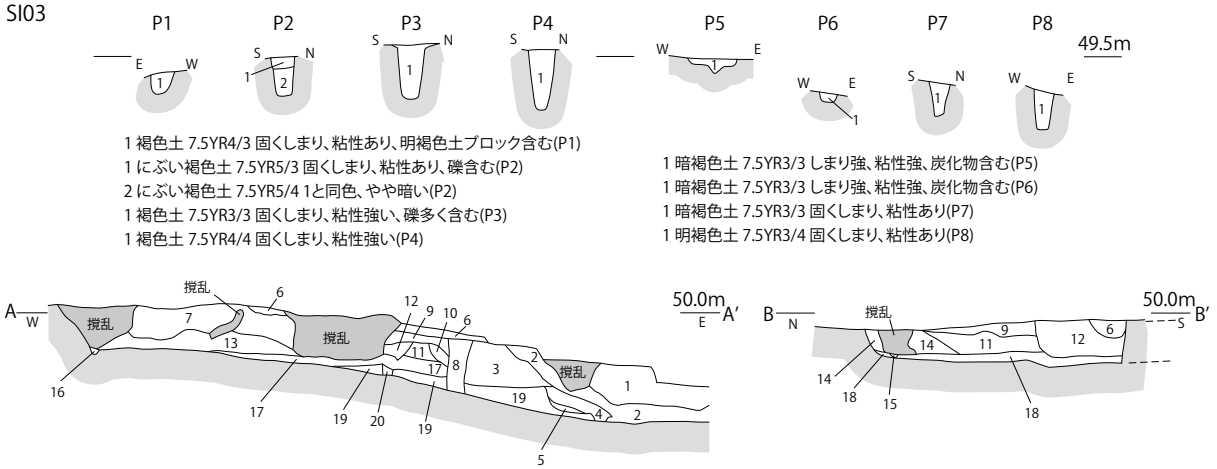
SI03 は、弥生時代前期の土器を含む包含層中（3 層）に造られているため、埋土に弥生時代前期の土器を多量に含むが、その中で建物内からは弥生時代後期の土器が出土しており、SI03 の時期も後期頃（Ⅴ－１）と考えられる。

SI03 の横断面（A-A'）については 17 層、縦断面（B-B'）は 18 層の上面が床面と思われる。A-A' の 16 層は壁際溝埋土。上層は、にぶい黄褐色粘質土が主に堆積し、下層では黒褐色粘質土が主に堆積している。ともに炭化物を含んでいる。黒褐色粘質土を除去した面が床面であると思われる。

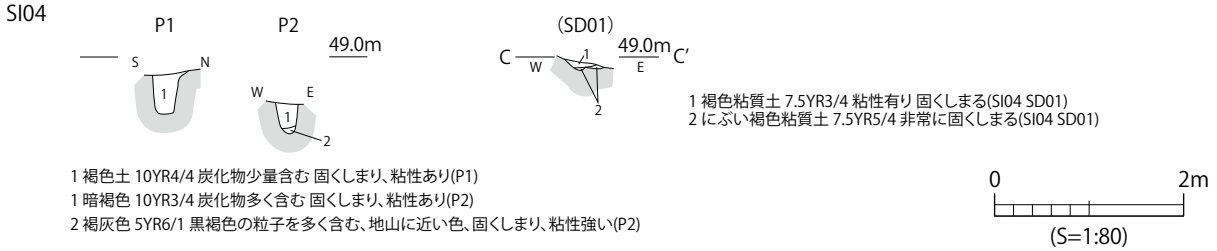
SI03 出土遺物（第 20 図）

第 20 図 1 は弥生時代前期後葉（Ⅰ－３～４）の無頸壺で指頭圧痕が認められる。1・2 はⅠ－３～４の甕（壺）、2 は、肩部に綾杉文と３条の沈線、3 は肩部には３条の沈線が認められる。４～7・11・14 は甕の口縁部、7 には口縁部外面に２条以上の凹線文、同じく 11 と 14 にもそれぞれ４

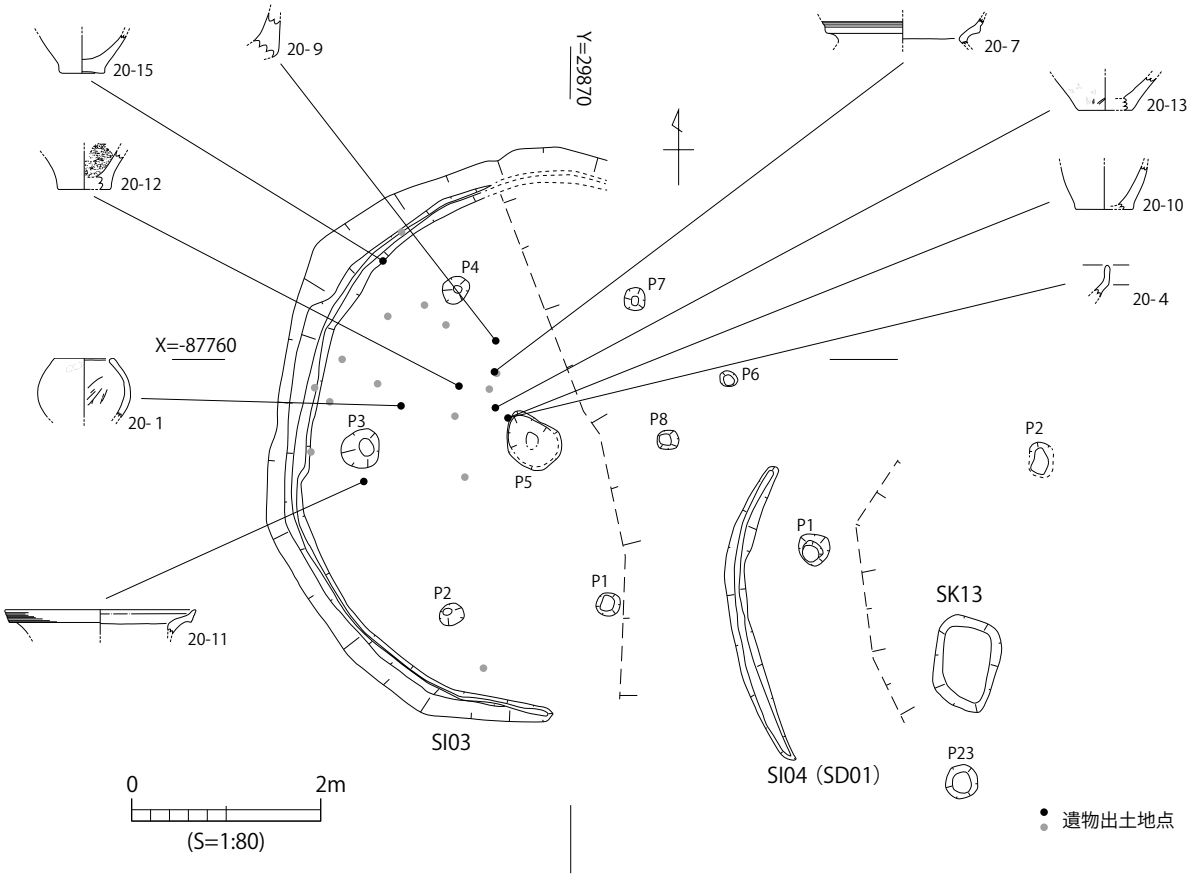




1 暗褐色粘質土 10YR3/1 粘性強くしまり強い
　地山石含む、炭化物、灰白色土 2.5YR8/2 を含む、包含層 (弥生)
2 褐色粘質土 10YR4/4 粘性強くしまり強い　地山石含む、包含層 (弥生)
3 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性強くしまり強い
　灰白色土 2.5YR8/2 を含む、包含層 (弥生)
4 にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3 粘性強くしまり有り　炭化物含む (SI04 関連)
5 黒褐色粘質土 10YR3/2 粘性有りしまり強い　炭化物含む (SI04 関連)
6 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性有りしまり有り
　灰白色土 2.5YR8/2 を含む、包含層 (弥生)
7 にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 粘性有りしまり強い
　黒褐色土 10YR3/2 を含む、炭化物含む
8 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強くしまり強い
　灰白色土 2.5YR8/2 を大量に含む、白色粒、炭化物を含む
9 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性強くしまり強い　灰白色土 2.5YR8/2 を大量に含む
10 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強くしまり強い　炭化物、白色粒が極少量混じる
11 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性有りしまり強い
　灰白色土 2.5YR8/2 を少量含む
12 にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3 粘性有りしまり有り
　白色粒を含む、19 層とよく似る
13 黒褐色粘質土 10YR3/2 粘性強くしまり強い
　炭化物、地山小石含む、SI03 一次堆積土？
14 褐灰色粘質土 7.5YR4/1 粘性有り 固くしまる
15 褐色粘質土 7.5YR4/4 粘性強く 固くしまる (SI03 壁際溝)
16 にぶい褐色粘質土 7.5YR5/4 粘性強く 固くしまる (SI03 壁際溝)
17 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性弱く しまり強い
18 暗褐色粘質土 7.5YR3/3 粘性有り 固くしまる　9 層よりやや暗い
19 褐色粘質土 10YR4/4 粘性有りしまり強い
　炭化物含む、SI03 床面、包含層 (弥生)
20 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性強くしまり強い　SI03Pit?



第 18 図　A 区　SI03・04 実測図（S=1:80）



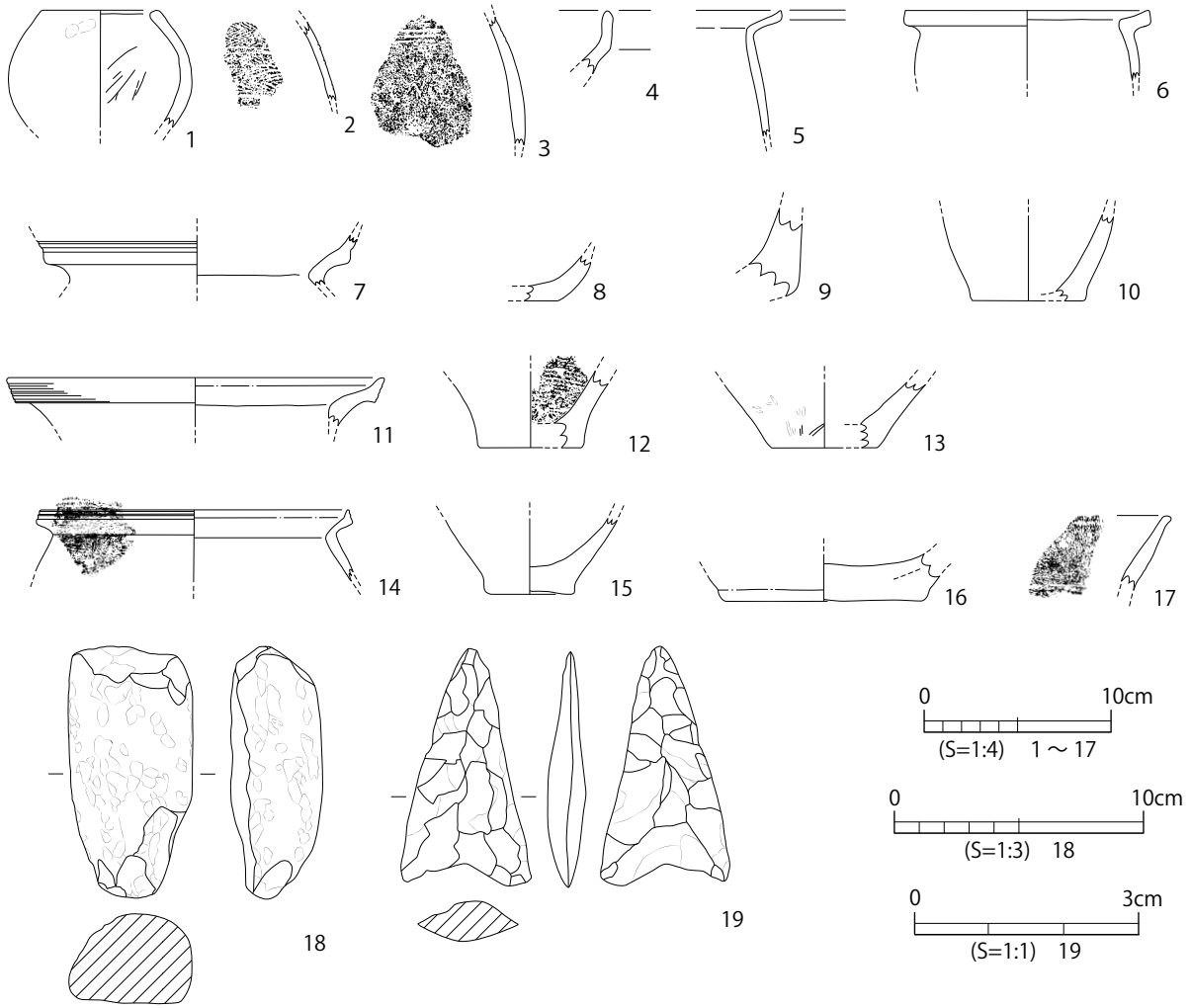
第 19 図　Ａ区　SI03 遺物出土状況図（S=1:80）

条と２条の凹線文が施されている。８～ 10、12・13・15・16 は壺・甕の底部で、12 は内面にハケ目が認められる。17 は古墳時代中期前葉の土師器甕である。5・6・14 はⅣ－１、4・7・11 はⅤ－１と考えられる。18 は磨製石斧、19 は安山岩の石鏃である。SI03 の東側は谷状地形の包含層に相当するため、弥生時代前期の遺物も混入していると考えられる。弥生時代後期前葉頃の遺構と考えられる。

SI04（第 19 図）

調査区中央（SI03 南東）で検出された。壁などは一切検出できなかったが、溝状の落ち込みを土層断面で確認し、平面では溝（SI04-SD01）を検出した。C-C' の１・２層は、炭化物を含む層で、SI04 の溝（SI04-SD01）にかかわる堆積である。

３つの柱穴（SI04P1・P2、P23）が SI04 に伴うものと考えられ、３つの柱穴がＬ字状に並ぶ。本来は４本柱の建物であったのだろうか。また、３つの柱穴の中央には、68 × 94cm、深さ 16cm の平面長方形の土坑（SK13）がある。この土坑が SI04 に伴うものかは、不明である。SI04-SD01 から弥生土器の小片が出土するが､時期決定を行うことは困難である。正確な時期は不明であるが、弥生時代前期後半（Ｉ－３様式）の包含層（３層）に造られていることから、弥生時代前期後半以降で、SI03 に切られていることから、SI03 より古い遺構であると考えられる。



第 20 図　A 区　SI03 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:3・S=1:4）

加工段１（第 21~23 図）

調査区北西で検出された。規模は、東西 10.6m、南北 3.6m、深さは 36 ～ 56cm である。

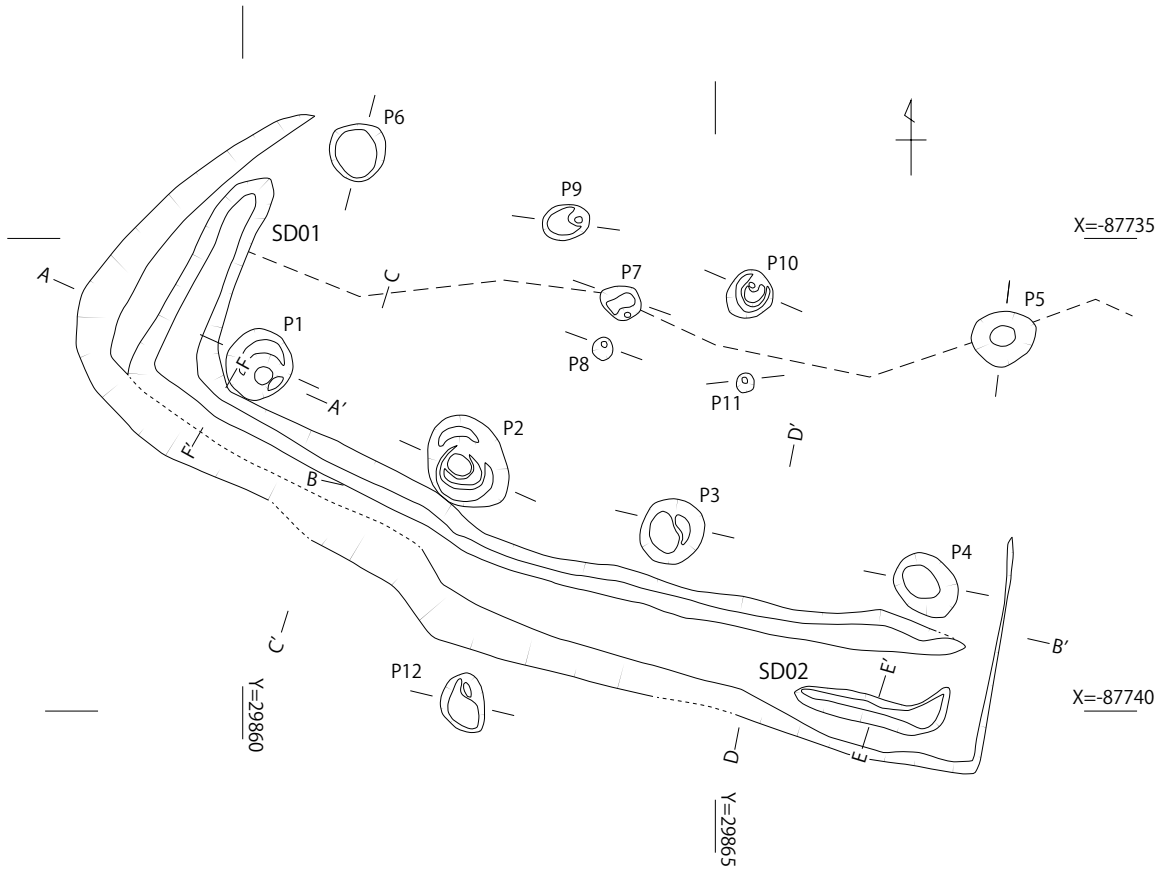
東側には、同様のプランをした加工段５が検出されているが、加工段１によって切られている（第 31 図）。加工段１は、平坦なテラス面を持ち、そこに逆 L 字状の溝（全長 11.1m、深さ 14cm）と多数の柱穴を検出した。P1 ～ 3 については、柱痕を確認している。柱穴群の中でも P1 ～ P6、P9、P10 は、その並びが溝に併せて、やや湾曲し、整然とした柱の配置とはならないが、一間×三間の掘立柱建物であると考えられる。柱穴間は、東西 2.3 ～ 2.8m、南北では 2.7 ～ 2.9m である。

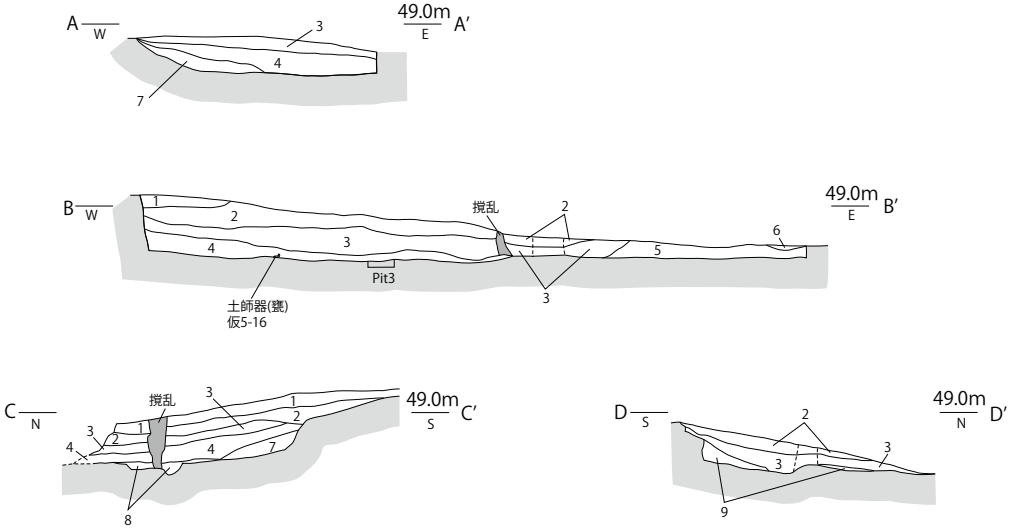
溝の西側からは炭化木材が検出された。また、中央付近の床面では、古墳時代中期前葉の土師器が集中して検出された。

加工段１の埋土は、暗褐色粘質土など比較的暗い色調である。7、9 の層は一次堆積土、8 の層は加工段１に伴う溝の埋土である。それぞれ 4 の層下層からが加工段１の床面と考えられる。また、加工段１の南東隅に浅い溝が検出された（SD02）。SD02 は東西方向に伸び、長さ 1.7m、幅 44cm、深さ 38cm の規模である。

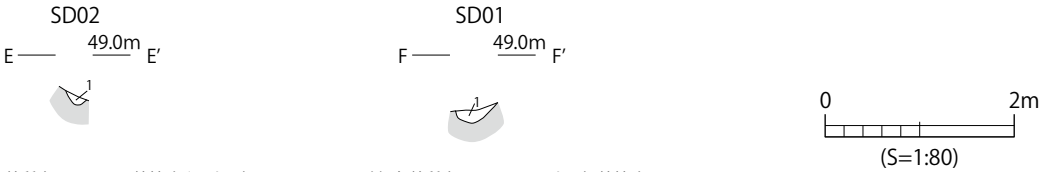
加工段１出土遺物（第 24 図）

第 24 図 1 は甕の口縁部で３条の凹線文が施されている。3 は壺の頸部、2・4 ～ 6 は壺・甕の





1.黒褐色粘質土 10YR3/1　粘性強くしまり強い
2.暗褐色粘質土 10YR4/4　粘性強くしまり強い　明褐色の土が混じる
3.暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性強くしまり有り　明褐色の土が混じる
4.暗褐色粘質土 7.5YR3/3　粘性強くしまり強い
5.にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　粘性強くしまり強い　明褐色ブロックが混じる
6.黒褐色粘質土 7.5YR3/1　粘性強くしまり強い
7.暗褐色粘質土 10YR3/4　粘性強くしまり強い　一次堆積土
8.にぶい褐色粘質土 7.5YR5/4　粘性有りしまり強い　4･7の土が混じる、壁際溝埋土
9.明黄褐色粘質土 10YR7/6　粘性有りしまり弱い　一次堆積土、3の土が混じる



1.褐灰色粘質土 10YR4/1　粘性強くしまり有り
明褐色土(地山土)が多量に混じる

1.暗褐色粘質土 10YR3/3　しまり有 粘性強
加工段1壁帯溝埋土

第 21 図　Ａ区　加工段１実測図（1）（S=1:80）

第 22 図　A 区　加工段 1 実測図（2）（S=1:80）

底部である。これらはＩ－３～４様式のものと考えられる。7 は甕と考えられ、口縁部外面に櫛歯による波状文が施されている。18 の擦石は、小口両端に敲打痕跡が認められる。8 ～ 17 は加工段の中央付近で検出された古墳時代中期前葉の土師器である。8・15 は口縁部端が僅かに内側に押し出された甕である。9 ～ 14 は高坏である。

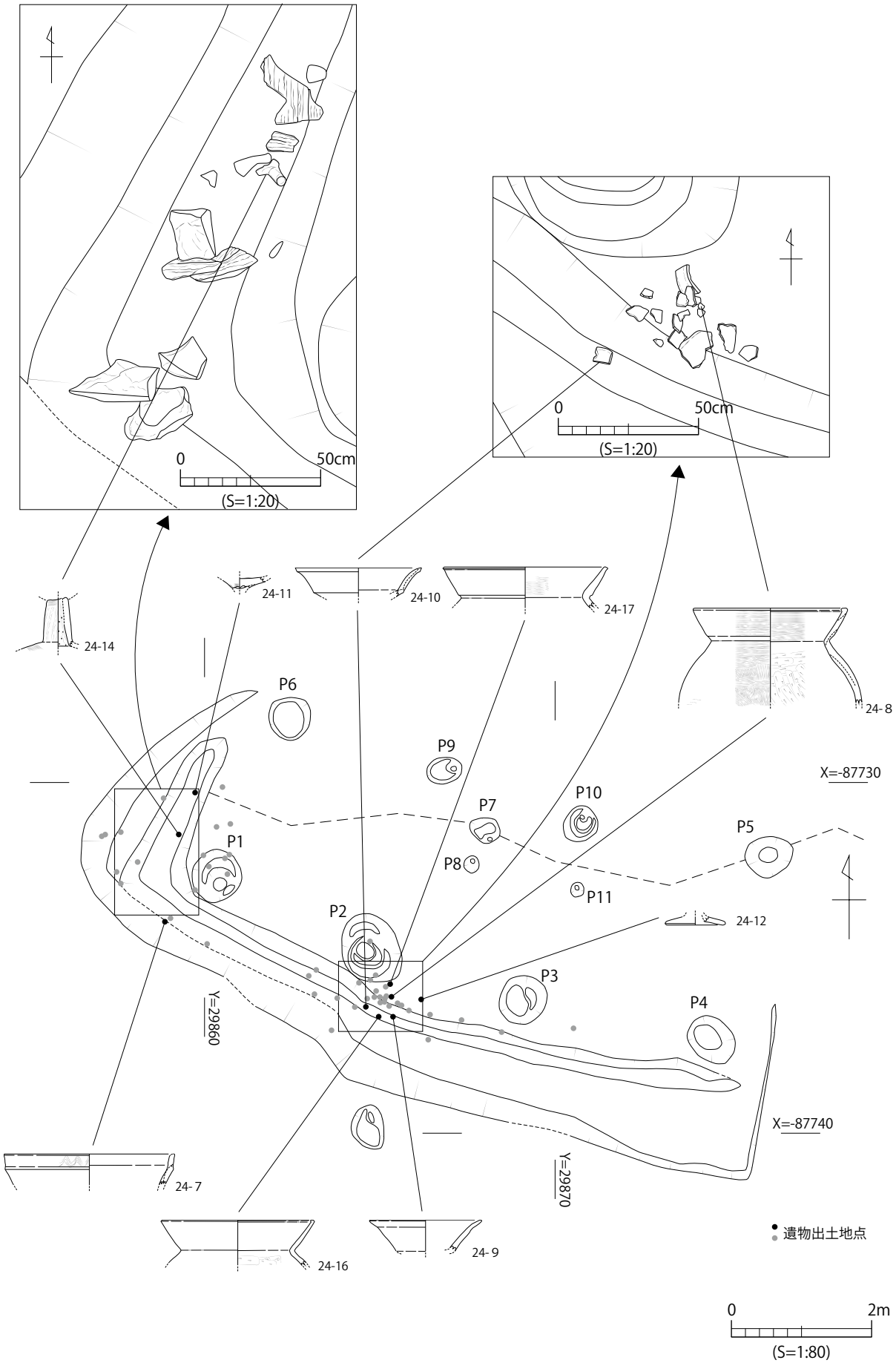
以上の出土遺物のうち、床面から集中して出土した土師器の様相から、加工段 1 は古墳時代中期前葉頃の遺構と考えられる。

加工段２（第 25・26 図）

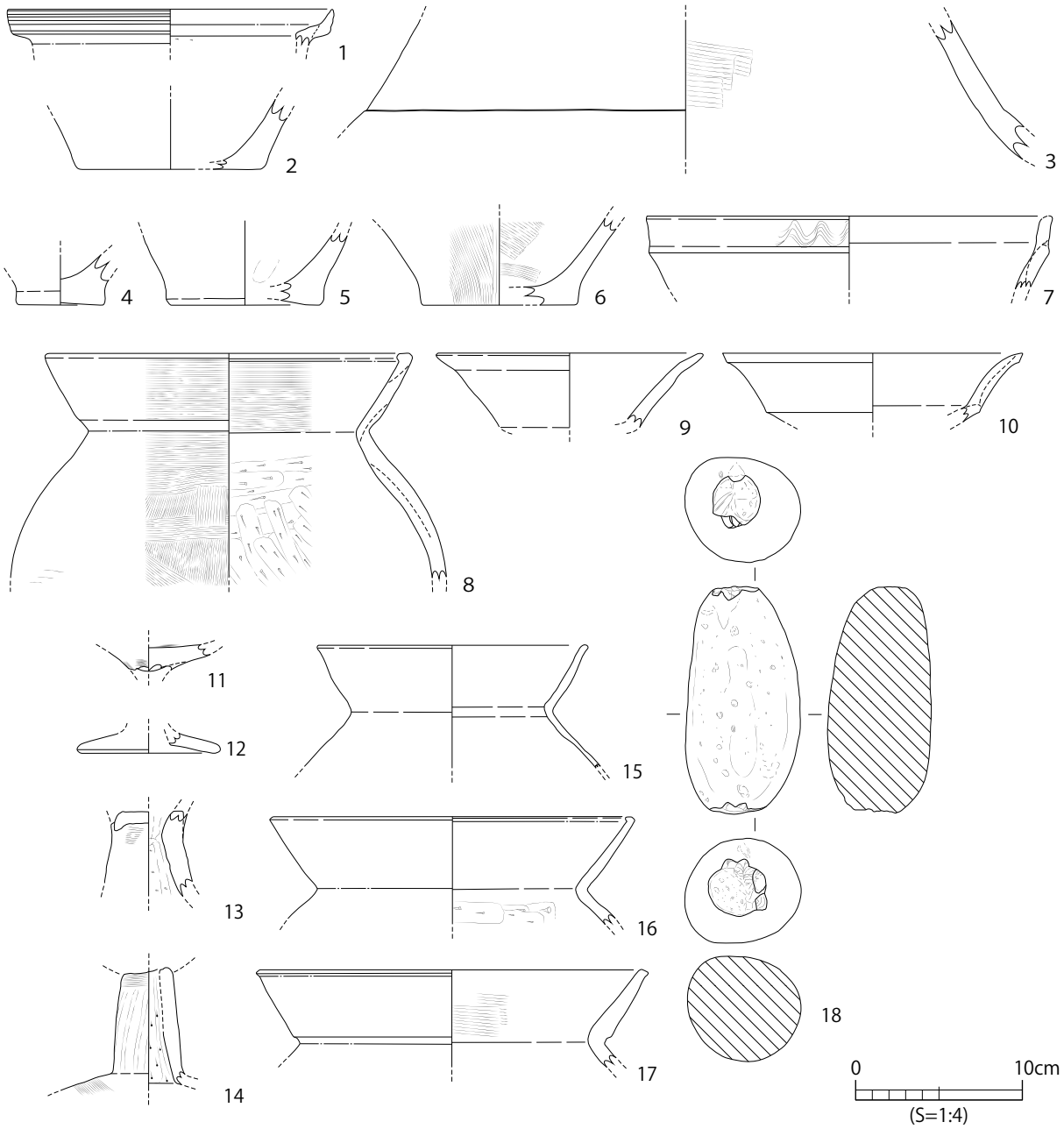
調査区東側で検出された。東側の拡張区を含め、東西 8.3m、南北 2.4m、深さ 40cm の規模を呈する。多数の柱穴と３本の溝を検出した。加工段２の中央部は、土層観察用のトレンチを設定しており、その部分の詳細は不明である。

SD01 は、長さ 2.9m 深さ 6cm、SD02 は、長さ 1.4m 深さ 4cm、SD03 は、現状での長さ 3.2m、深さ 18cm である。

加工段２は、基本的に白色砂粒を多く含む灰褐色粘質土が堆積している（B-B'）。また、A-A' の 6、



第 23 図　Ａ区　加工段１遺物出土状況図（S=1:80）

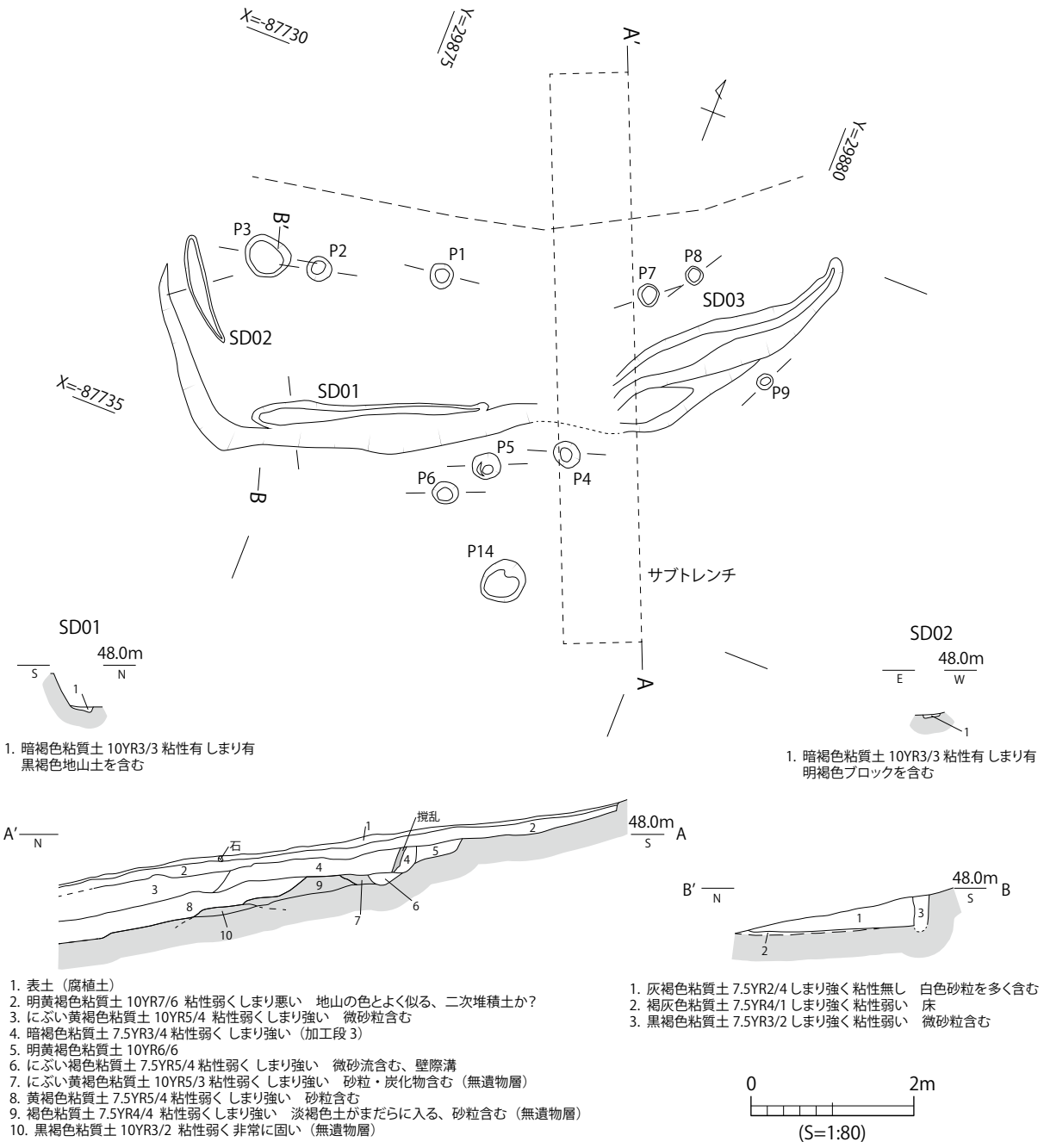


第 24 図　A 区　加工段 1 出土遺物実測図（S=1:4）

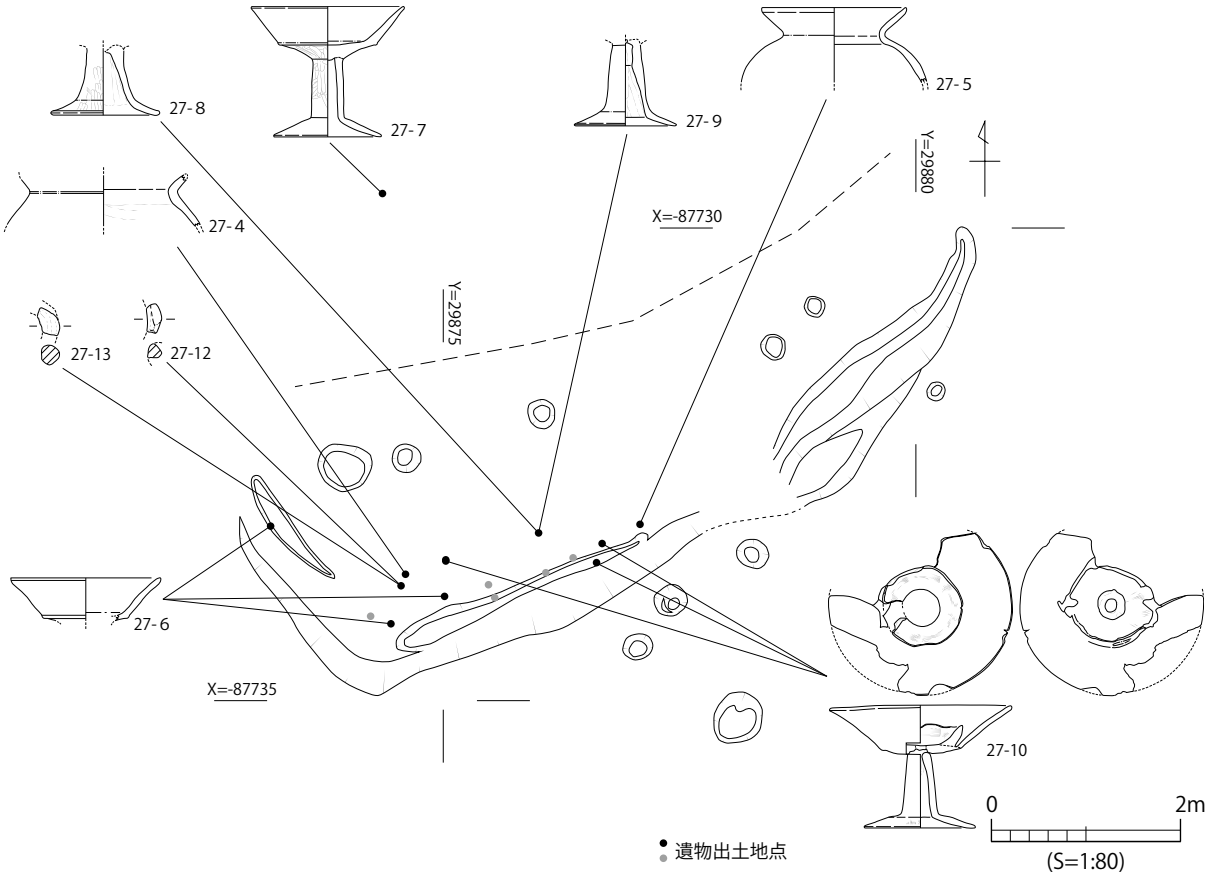
8 が加工段２にかかわる埋土である。中でも 6 は加工段２の壁際溝にかかわる埋土で、にぶい褐色、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。4 の加工段２にかかわる埋土は、暗褐色粘質土である。包含層は、3（古墳・古代）、加工段２埋土の下層（7、9：弥生？）である。加工段２の床面は、7、9 層の上面になると思われる。3 は、にぶい黄褐色粘質土である。7、9 は、黄褐色、褐色粘質土である。

加工段２出土遺物（第 27 図）

第 27 図 1 ～ 5 は土師器甕で、3 の口縁端部は内側に押し出されている。同じく 6 ～ 10 は土師器高坏で、10 は受部の内面に、浅い皿状の受部が造られている。11 は小型の土師器壺である。12・13 は土師器の把手で、同一個体の可能性も考えられる。以上の出土遺物から、加工段２は古墳時代中期前葉頃の遺構と考えられる。



第 25 図　Ａ区　加工段２実測図（S=1:80）



第 26 図　A 区　加工段２遺物出土状況図（S=1:80）

加工段３（第 28・29 図）

調査区北側で検出された。わずかな平坦面をもつ小型の加工段である。３つの加工段が切り合っており、西から順に新しいことが切り合い関係から分かる（加工段 3-1 →加工段 3-2 →加工段 3-3：新→古）。それぞれに溝が伴っている。また、周辺から多数の柱穴が検出され、P5 は柱痕が確認されている。

加工段 3-1 は、東西 2.7m、南北 50cm、深さ約 20cm である。溝は、長さ 2.54m、深さ 6cm である。

加工段 3-2 は、東西約 3m、南北 1.2m、深さ 40cm である。西側の上端は、加工段 3-1 によって切られている。溝は、2.64m、深さ 8cm である。

加工段 3-3 は、東西約 4.3m、南北 70cm、深さ 54cm である。溝は、加工段 3-2 の溝によって切られている。現状での長さ 3.4m、深さ 5cm である。

A-A'5 層と B-B'2 層の下層より、床面と思われる。A-A'7 層は加工段３の壁際溝埋土で、B-B' の断面では、灰褐色、褐灰色などの灰色を主体とした粘質土が堆積する。一方で、A-A' の断面では、下層は、西壁の堆積と似るが、上層は、褐色、暗褐色などの層が堆積している。

加工段３出土遺物（第 30 図）

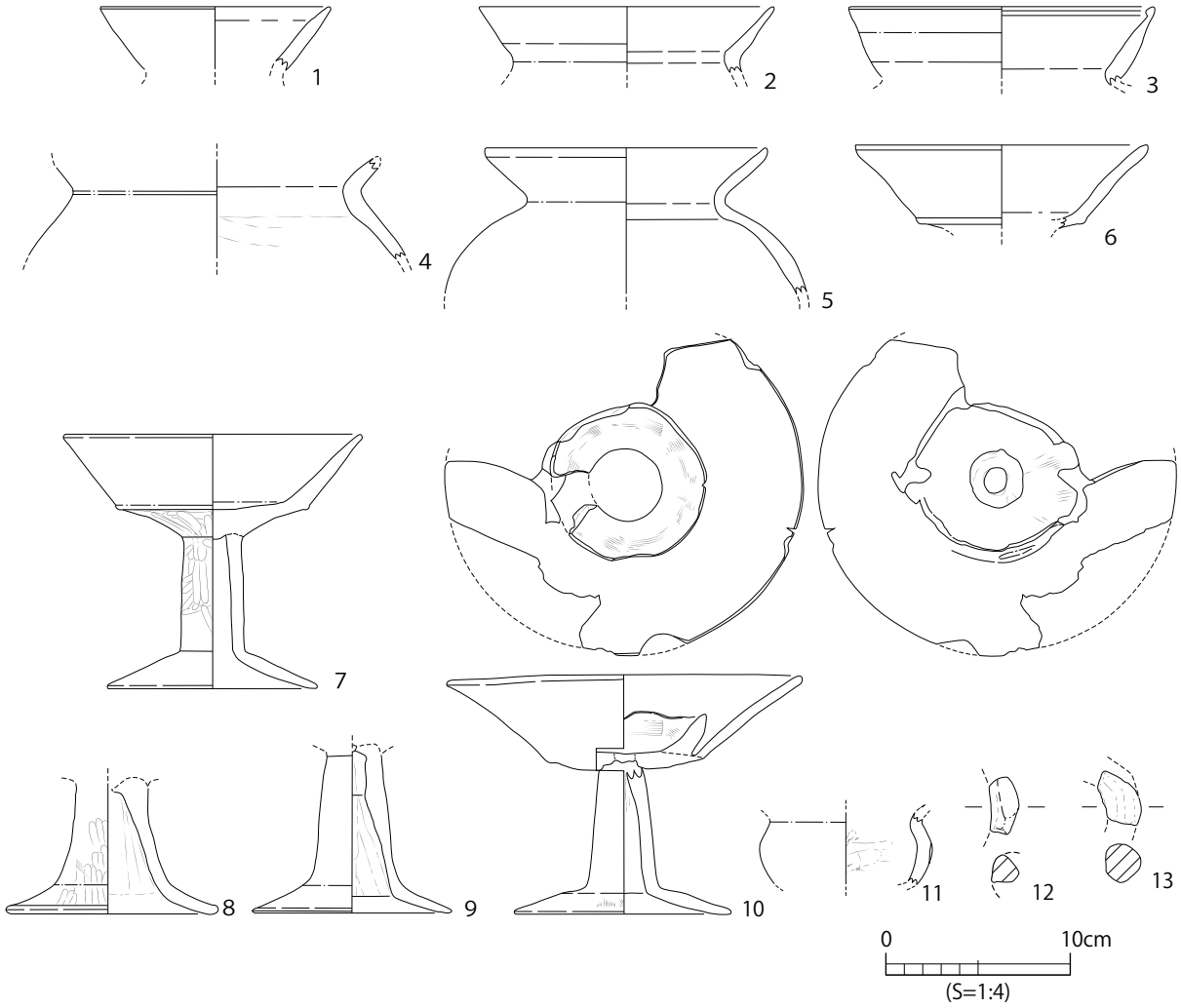
第 30 図 1 ～ 3・7 は甕で、2 は口縁部外面に 2 条の凹線文、同じく 3 には 18 条の直線文、7 には 2 条の凹線文が施されている。4 は口縁直下に 6 条の凹線文と胴部に刺突文が施された無頸壺、5 の壺は肩部に刺突文と沈線が、同じく 6 の甕にも刺突文が施されている。8 ～ 14 は壺あるいは

甕の底部である。15 は磨製石斧である。後の混入と考えられる３（Ｖ－３）を除く以上の出土遺物を見る限り、加工段 3-1・加工段 3-2・加工段 3-3 の明確な時期差はない。各遺構の時期は、弥生時代後期前葉（Ｖ－１）と考えられる。

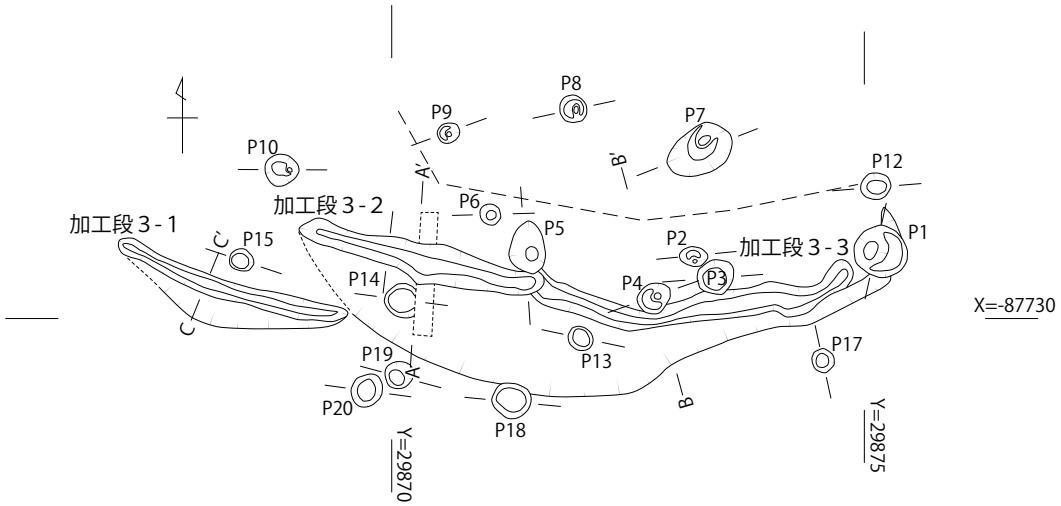
加工段４（第 31 図）

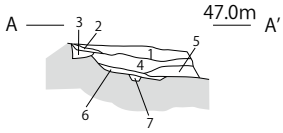
調査区の北側で検出された。わずかな平坦面をもち、溝（SD01）が検出された。現状での規模は、南北 2m、東西 3.8m である。SD01 は、全長 5.6m、深さ８～ 18cm であり、平面形態はＬ字状を呈する。また、SD01 内にて、１つの柱穴が検出されたほか、３つの柱穴がこれに伴うものであると考えられる。

出土遺物がなく、時期は不明である。

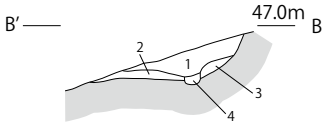


第 27 図　Ａ区　加工段２出土遺物実測図（S=1:4）

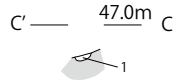




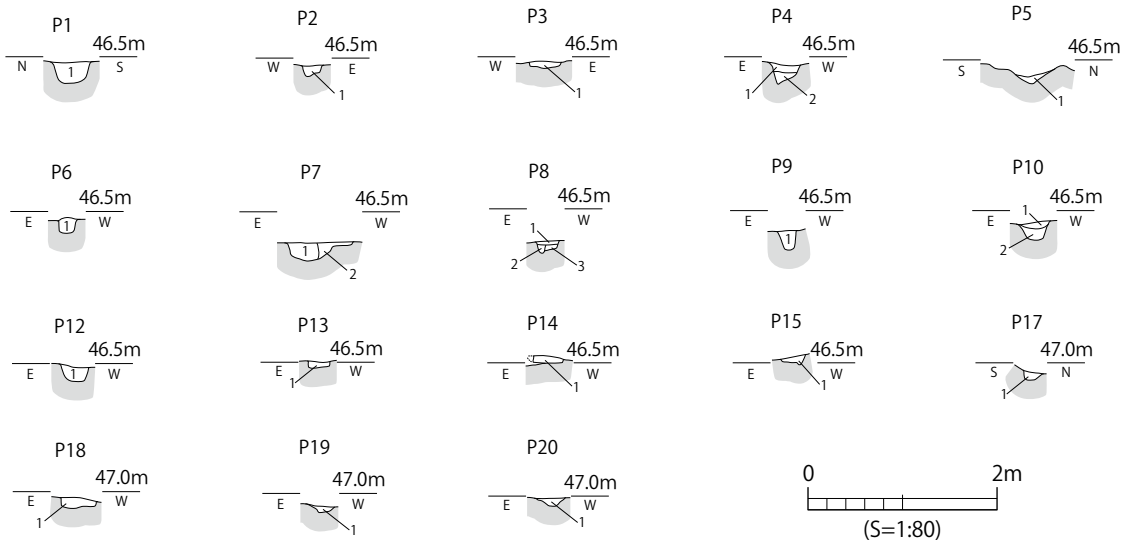
1 褐色粘質土 10YR4/4 粘性なし 固くしまる　微砂粒含む
2 浅黄橙粘質土 10YR8/3 粘性有 しまりなし　地山に近い土
3 褐灰色粘質土 10YR4/1 粘性強く しまり悪い
4 暗褐色粘質土 10YR3/4 微砂粒含む
5 灰白色粘質土 10YR7/1 地山ブロックと灰白色(地山)ブロックの混合土
6 褐灰色粘質土 10YR6/1 粘性あり しまり悪い
7 褐灰色粘質土 10YR5/1 壁際溝、地山に近い土



1 灰褐色粘質土 7.5YR2/4 粘性有 しまり良し　白色砂粒含む
2 灰褐色粘質土 7.5YR2/4+地山ブロック 7.5YR8/4
3 褐灰色粘質土 7.5YR4/2 固くしまる　地山ブロック含む、一次堆積土
4 灰褐色粘質土 7.5YR6/2 粘性弱く 固くしまる

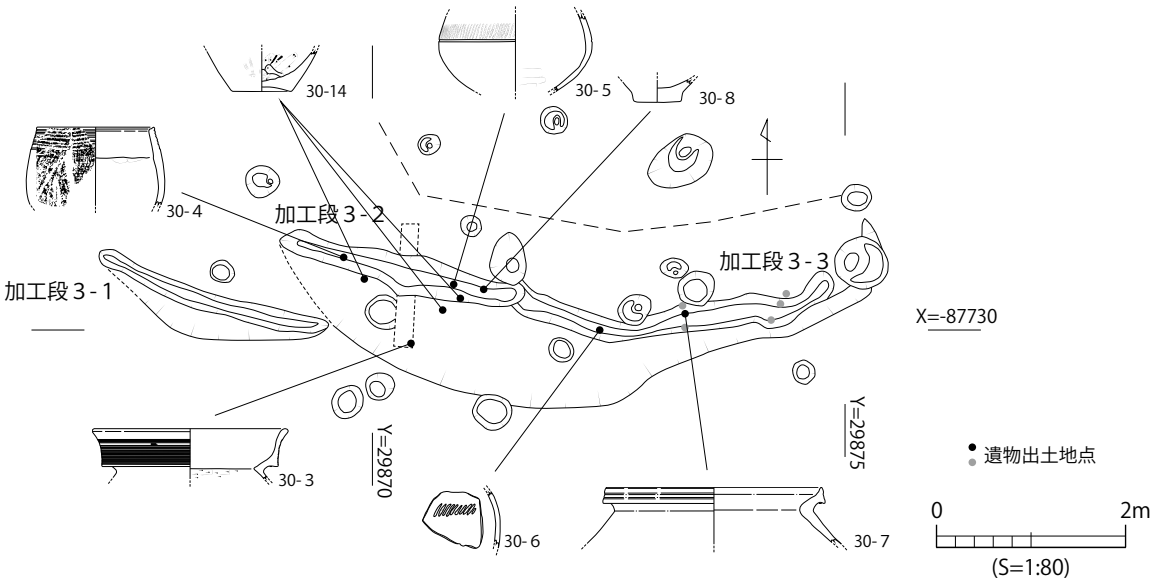


1 暗褐色粘質土 7.5YR3/4 粘性弱く 固くしまる(炭化物層)

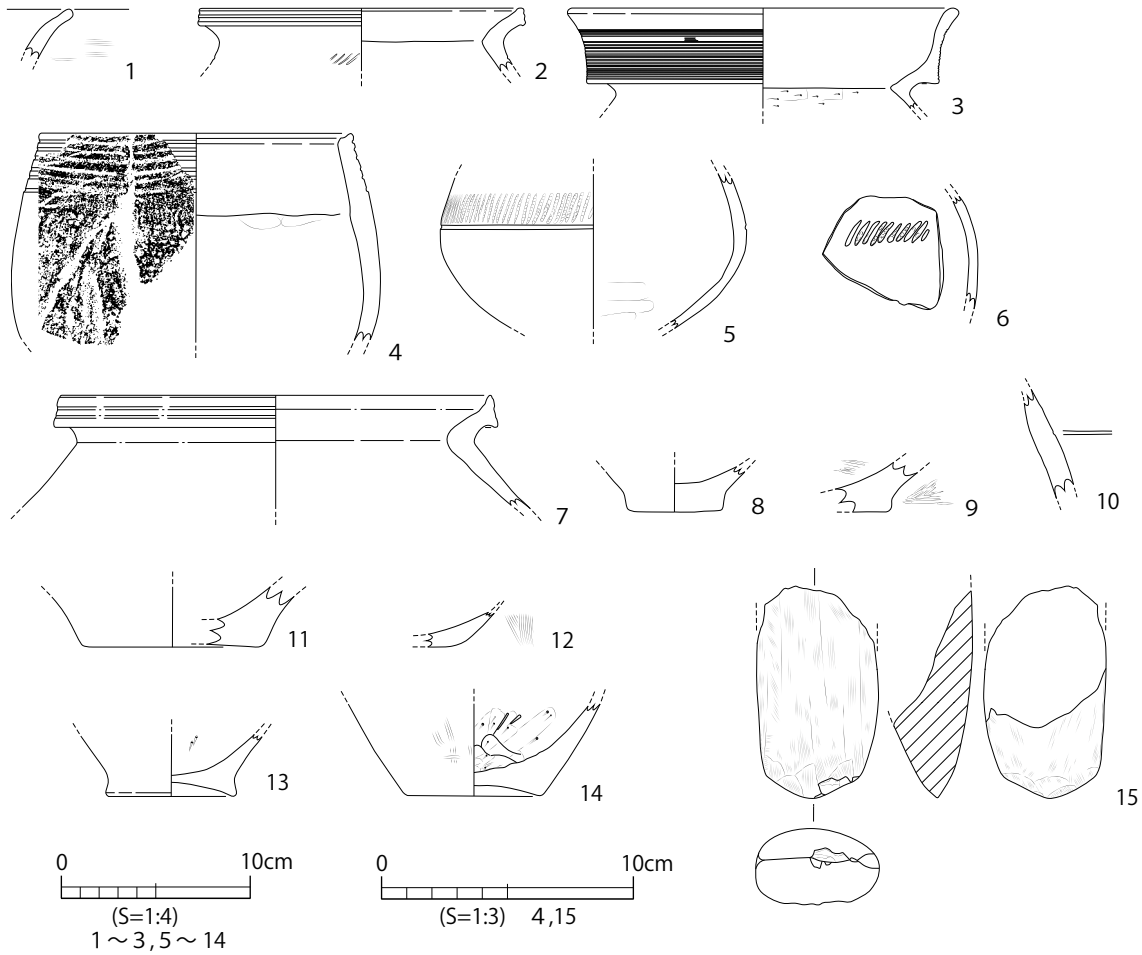


P1　1.　黒褐色土 7.5YR3/2　微砂粒含む　固くしまり粘性なし
P2　1.　暗褐色 7.5YR3/4　炭化物、黄色土ブロック含む　固くしまり粘性弱い
P3　1.　暗褐色土 7.5YR3/4　地山ブロック含む　固くしまり粘性なし
P4　1.　暗褐色土 7.5YR3/4　黄色土ブロック含む　固くしまり粘性弱い
　　2.　にぶい褐色 7.5YR5/4　しまり悪く粘性弱い
P5　1.　褐灰色 7.5YR5/1　固くしまり粘性弱い
P6　1.　にぶい橙色 7.5YR6/4　砂質 (地山に近い質) でもろい
　　暗褐色土ブロック含む しまり弱く粘性あり
P7　1.　黒褐色土 7.5YR3/2　灰褐色土ブロック含む　固くしまり粘性弱い
　　2.　灰褐色土 7.5YR5/2　白色土ブロック含む　固くしまり粘性あり
P8　1.　にぶい褐色土 7.5YR5/3　固くしまり粘性弱い
　　2.　褐灰色土 7.5YR4/1　固くしまり粘性弱い
　　3.　にぶい橙色土 7.5YR7/4　暗褐色土との混合層　しまり悪く粘性弱い
P9　1.　暗褐色土 7.5YR3/3　固くしまり粘性弱い
P10 1.　暗褐色土 7.5YR3/4　固くしまり粘性弱い
　　2.　灰褐色土 7.5YR5/2　白色ブロック多く含む　固くしまり粘性弱い
P12 1.　暗褐色 7.5YR3/3　暗黄色土ブロック含む　固くしまり粘性弱い
P13 1.　灰褐色 7.5YR4/2　地山ブロック多く含む　固くしまり粘性なし
P14 1.　灰褐色 7.5YR4/2　地山ブロック・炭化物含む　固くしまり粘性弱い
P15 1.　明灰褐色 7.5YR7/2　地山ブロック含む　固くしまり粘性なし
P17 1.　黒褐色 7.5YR2/2　固くしまり粘性弱い
P18 1.　暗褐色土 7.5YR3/3　固くしまり粘性弱い
P19 1.　暗褐色 7.5YR3/3　固くしまり粘性弱い
P20 1.　暗褐色 7.5YR3/3　地山ブロック含む　固くしまり粘性弱い

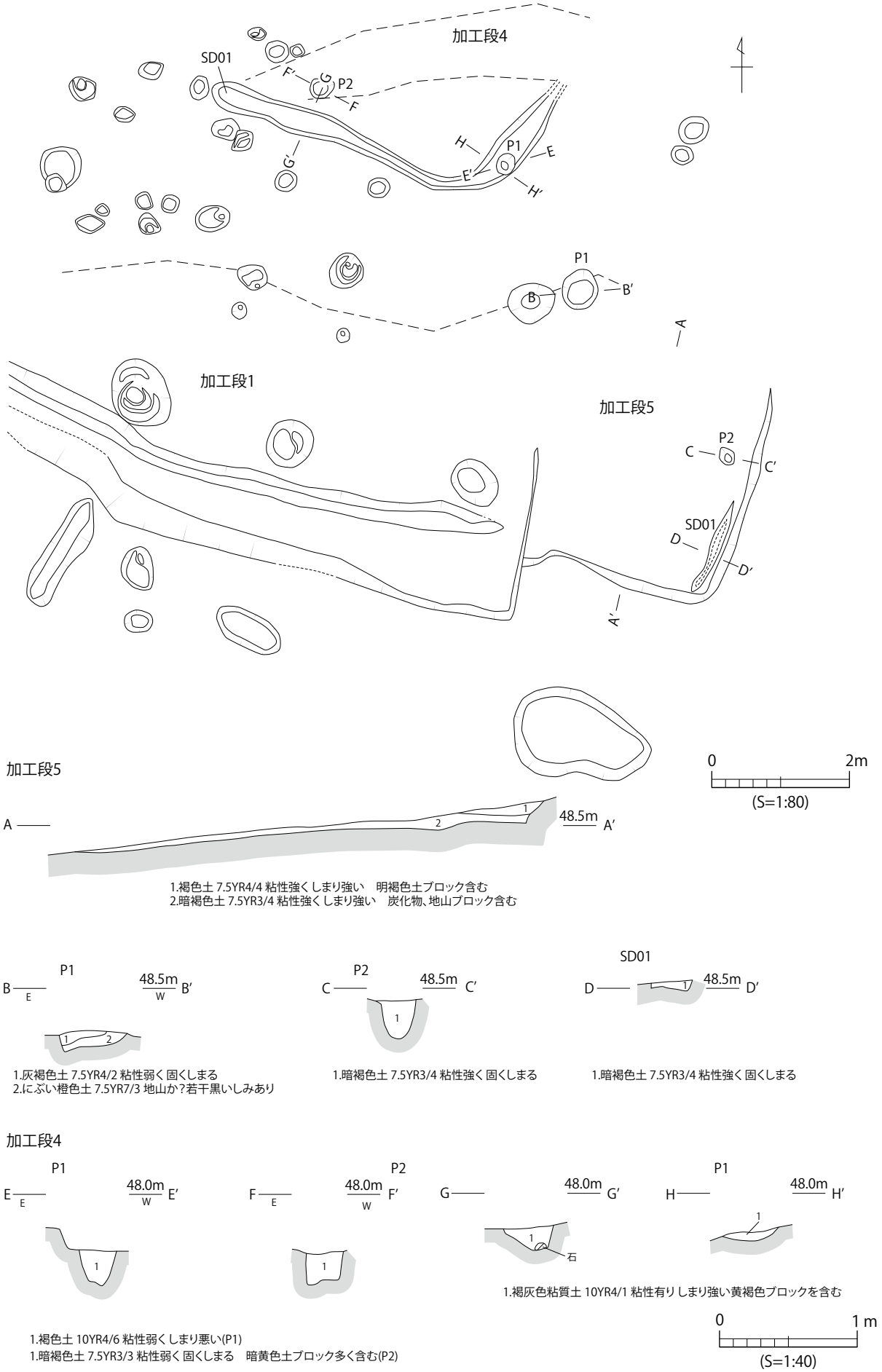
第 28 図　A 区　加工段３実測図（S=1:80）



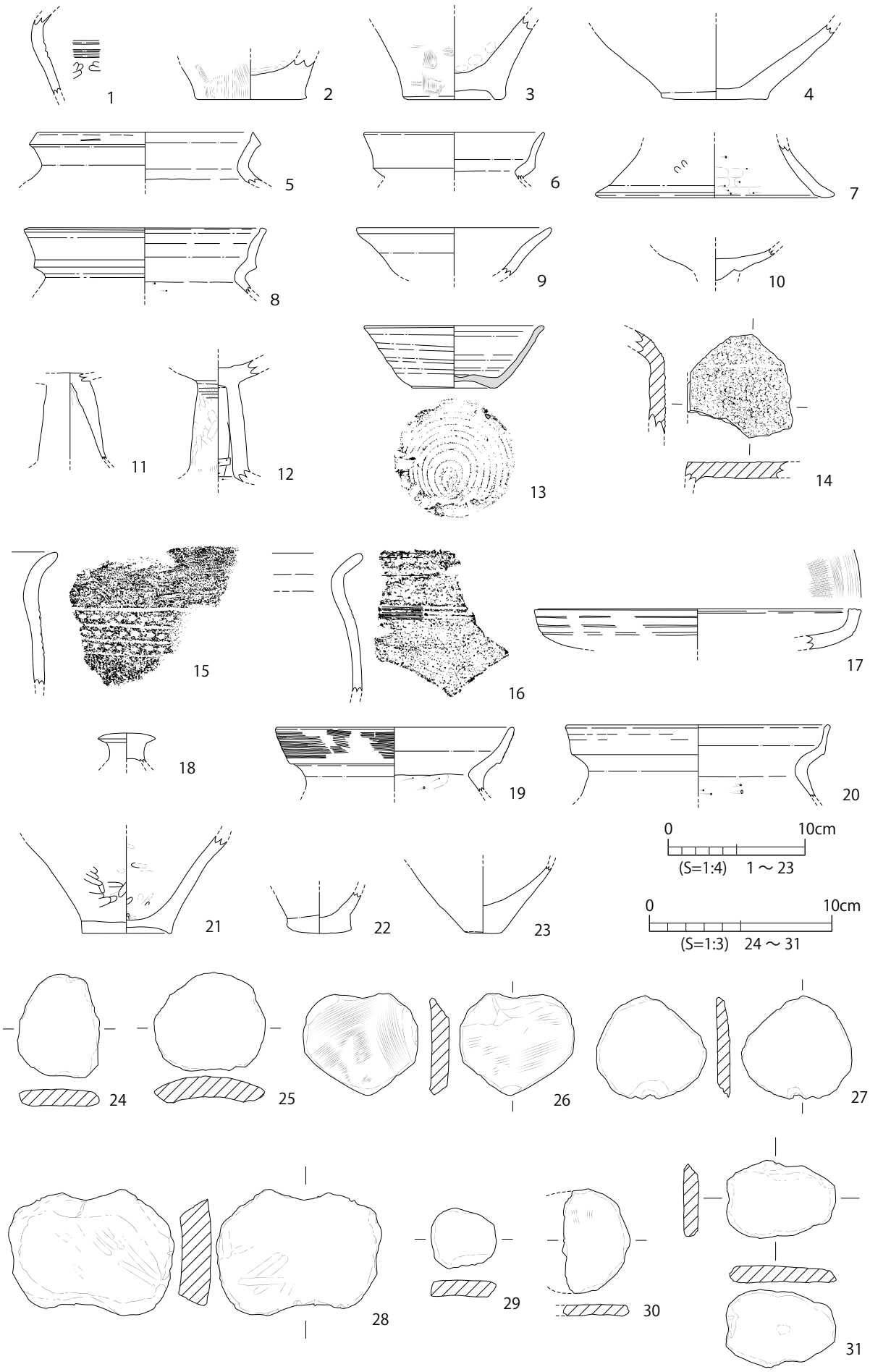
第 29 図　Ａ区　加工段３遺物出土状況図（S=1:80）



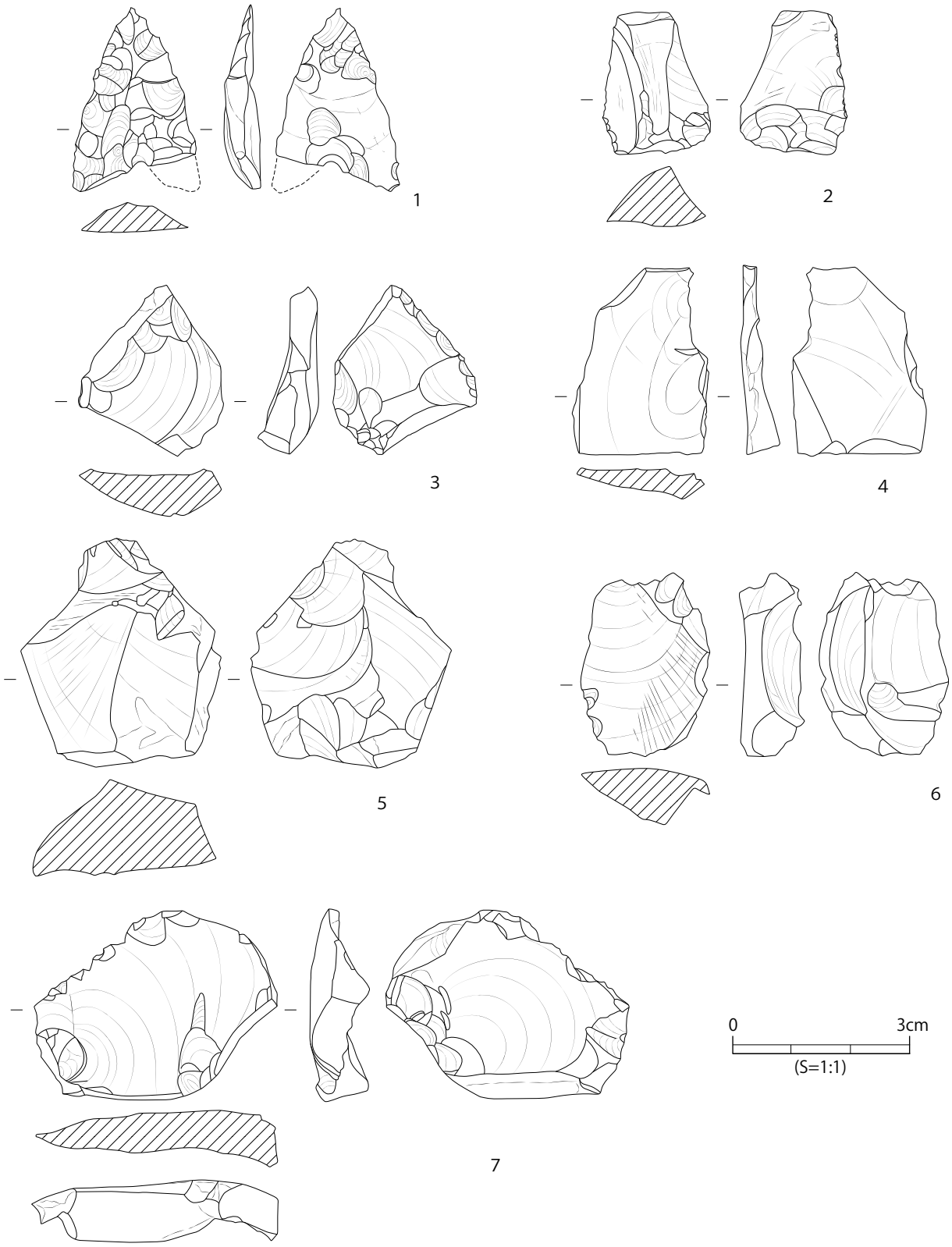
第 30 図　Ａ区　加工段３出土遺物実測図（S=1:3・S=1:4）



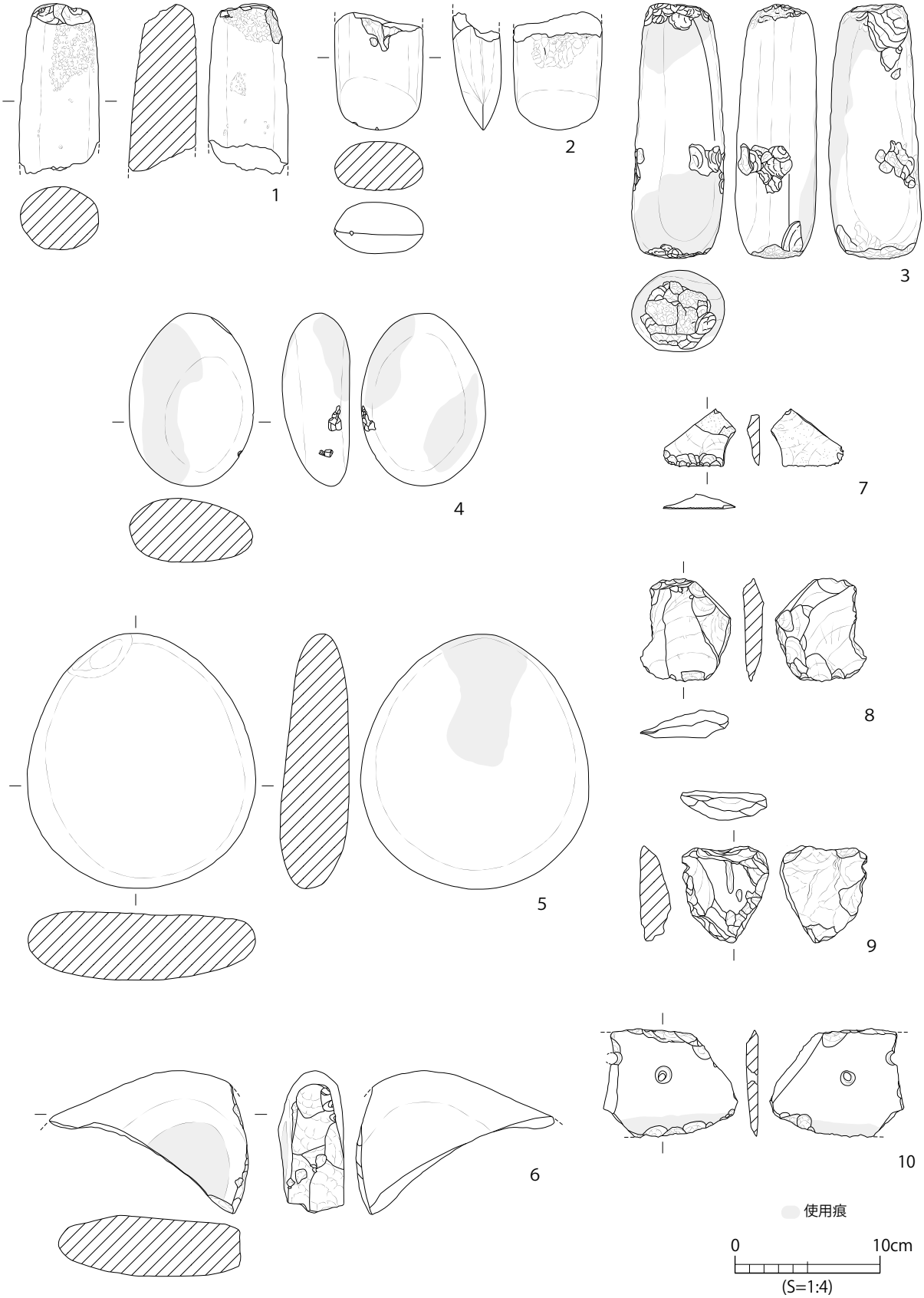
第 31 図　A 区　加工段４・５実測図（S=1:80・S=1:40）



第 32 図　Ａ区　包含層出土遺物実測図（S=1:3・S=1:4）



第 33 図　A 区　包含層出土石器実測図（1）（S=1:1）



第 34 図　Ａ区　包含層出土石器実測図（2）（S=1:4）

加工段５（第 31 図）

調査区北側中央付近で検出された。加工段１に西側を切られている。現状で東西 2.5m、南北 3.3m、深さ 18cm である。１つの柱穴と溝（SD01）が検出された。溝は南北方向にのび、長さ 1.44m、深さ 8cm である。

出土遺物が細片のため、時期決定は難しいが、加工段１に切られていることから、加工段１に先行するものである。また、加工段のプランは、加工段１、加工段２と類似している点から古墳時代中期頃と考えられる。

加工段５の堆積は２層に分けられる（A-A'）。上層は暗褐色粘質土である。下層は褐色粘質土で炭化物を含んでいる。

SD03（第６図）

調査区北側の西壁から東方向に伸びる溝である。現状での長さ、幅 80 ～ 120cm、深さ８～ 28cm の規模である。出土遺物はないので、時期は不明である。

A 区包含層出土遺物（第 32 ～ 34 図）

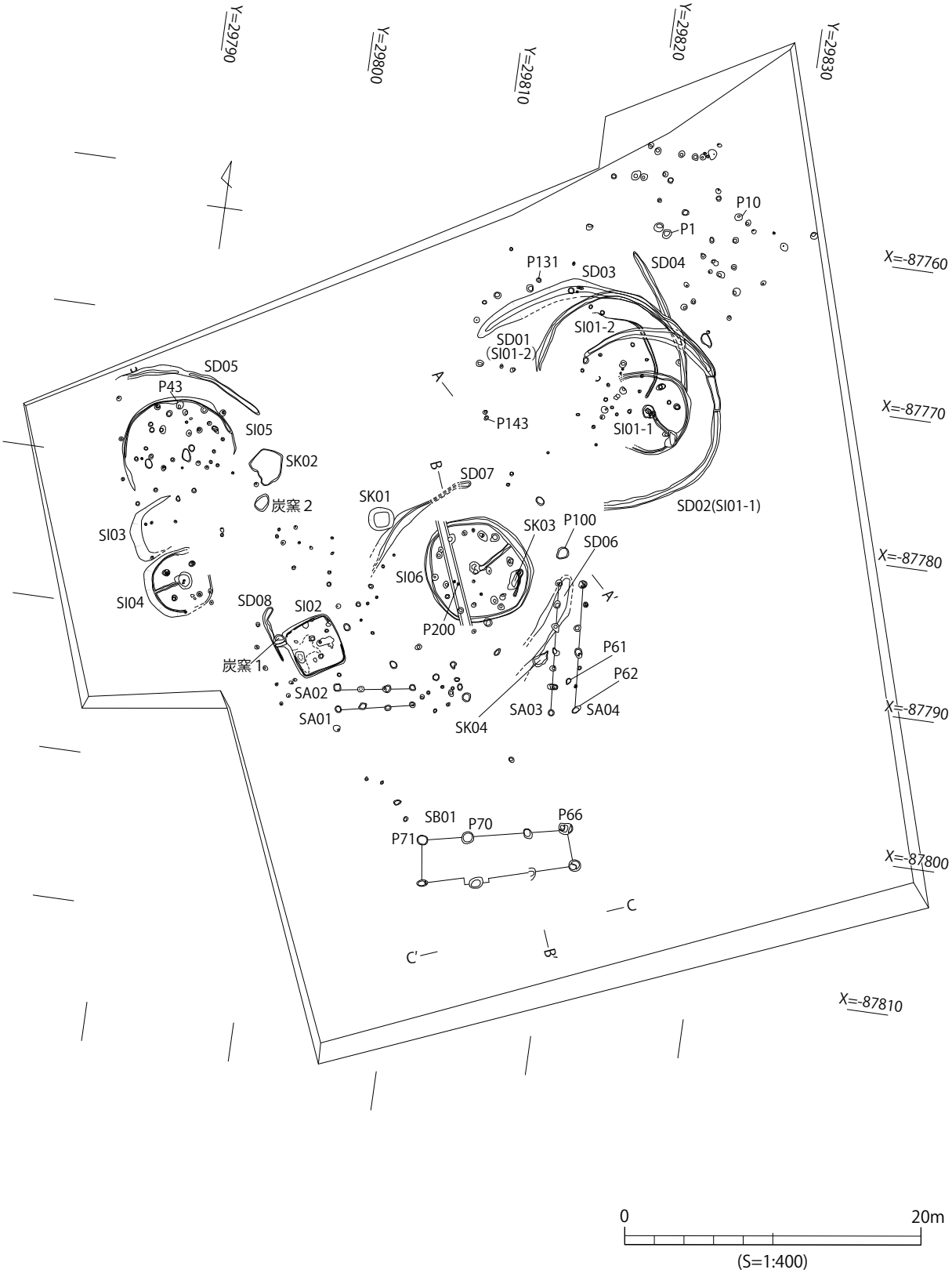
A 区の包含層出土遺物については、器種と数量の把握をしたものを一覧表（第５表）にまとめている。ここでは、各時期の代表的な遺物を掲載する。

第 32 図１は壺で、頸部に３条の沈線文が施されている。２・３は甕もしくは壺の底部で、４は大型の壺の底部と考えられる。５は弥生時代中期末～後期初頭の甕（Ⅳ－２～Ⅴ－１様式）、６の甕は口縁端部がやや外反する。７は器台の脚部、８の土師器甕は口縁端部が僅かに内側に押し出されている。９・10 は土師器高坏の受部、11・12 は土師器高坏の脚部である。13 は須恵器の坏で、底部外面に回転糸切りの痕跡が認められる。14 は瓦塔の一部と考えられる。15・16 は弥生時代前期後葉（Ⅰ－３様式）の甕である。15 の肩部には４条の沈線文が施され、その間に円形の刺突列点の施文がみられる。16 も肩部に３条の沈線が施されている。17 の高坏には、口縁端部に２条の沈線、口縁部外面に３条の凹線文が施されている。18 は蓋のつまみ部である。19・20 は甕である。19 は口縁部外面に擬凹線文が施されている。21 ～ 23 は甕の底部である。24 ～ 31 は弥生土器の破片を転用した円板状土製品で、このうち 26・28・31 は土器片錘と考えられる。

第 33 図１は、姫島産黒曜石の石鏃と考えられる。2･3 はそれぞれ黒曜石と瑪瑙玉髄の楔形石器、4 は二次加工のある安山岩の可能性が高い剥片、5 は黒曜石の石核、6・7 はそれぞれ黒曜石と玉髄の剥片である。

第 34 図１・２は塩基性片岩製と考えられる磨製石斧、３は表面が滑らかな安山岩製の磨石で、小口両端に敲打痕が認められる。４は砂岩製の磨石で側面に敲打痕が認められる。５・６は砂岩製の石皿で５は磨石の可能性もあり、６は石皿を磨石に転用した可能性がある。７は安山岩製と考えられる二次加工のある剥片である。８は磨製石斧を転用して打製石斧に二次加工した可能性がある。９は緑色凝灰岩の素材剥片である。10 は頁岩の可能性がある石庖丁で穿孔の痕跡が二か所で認められる。

第４節　Ｂ区の調査



第 35 図　Ｂ区　遺構配置図（S=1:400）

１．Ｂ区の基本層序

表土除去後のＢ区の基本層序は、４つの包含層と地山からなる。まずＢ区北東部の谷状地形の土層堆積を観察するために設けた第 42 図のサブトレンチ A-A' から説明する。このサブトレンチは谷状地形の北側にあたる。後述するように、SI01-1 の検出につながったもので、SI01-1 の土層堆積を観察するセクションとなっている。包含層 1 は明褐色粘質土（5 層）で古代の須恵器・土師器の包含層を主体とするものである。包含層２は黒褐色粘質土(8 層)あるいは灰黄褐色土(10 層)で、弥生時代後期の土器が主体的に含まれる包含層である。包含層 3 は暗褐色粘質土（12 層）で弥生時代前期の土器が主体を占める包含層である。同じく谷状地形の中心にあたる第 42 図のサブトレンチ B-B' は、包含層 1 が暗褐色粘質土（1 層）で、古代の須恵器・土師器が主体の包含層である。黒褐色粘質土（2 層）、にぶい褐色粘質土（3 層）を併せて包含層 2 とした。包含層 2 は、弥生時代後期の土器が主体の包含層である。また、6 層～ 9 層と 15 層も包含層 2 に相当する。11 層は包含層 3 で、弥生時代前期の遺物が主体である。なお、包含層 1 がサブトレンチ A-A' の包含層 1 とは直接的に対応しないのは、サブトレンチ A-A' でのみ薄く堆積している包含層 1 がサブトレンチ B-B' 地点までは堆積しないことに起因するためである。古代の遺構は地山、もしくは下層の包含層 2 の上面で確認される。包含層 2 は橙色粘質土層で弥生時代後期の土器を主体とする包含層である。SD03 は包含層 2 に形成されている。包含層 3 は暗褐色粘質土の堆積で、弥生時代前期の土器が主体となる包含層である。

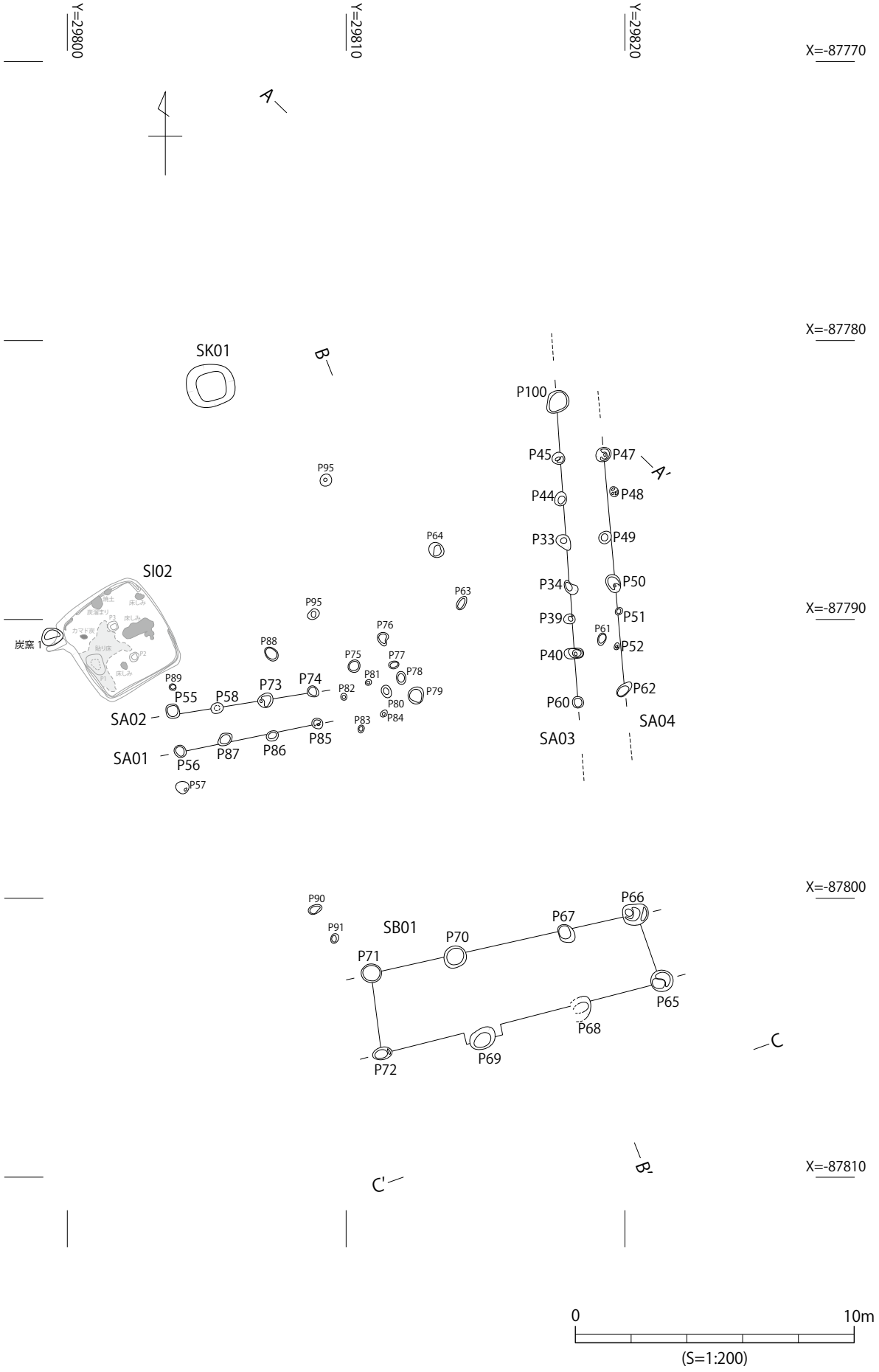
次に、この谷状地形がＢ区中央部にある南北方向の谷状地形（南側に傾斜）に合流する部分にあたる基本層序が、第 35・36 図の A-A' である。1 層が包含層 1、2 層が包含層 2、3 層が包含層 3 に相当する（第 37 図）。そして、Ｂ区中央部にある南北方向の谷状地形の縦断面が第 35・36 図の B-B'、同じく横断面が第 35・36 図の C-C' である。1 層は包含層 1、2 層が包含層 2、3 層が包含層 3 に相当し、5 層と 14 層は、弥生時代前期の土器が殆んどを占める包含層であることから、包含層 4 とした（第 39 図）。

２．Ｂ区の検出遺構とその遺物

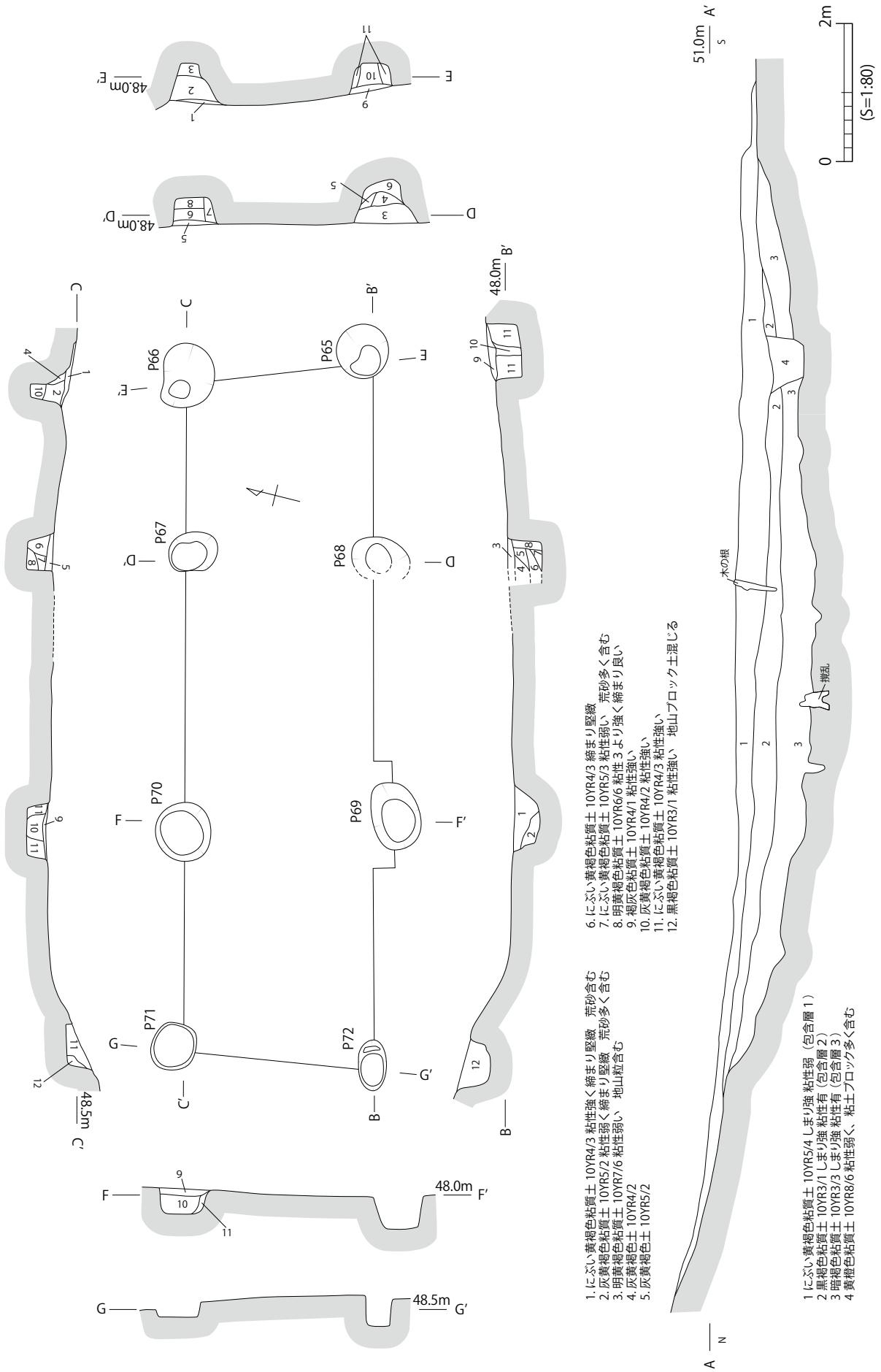
調査の結果、竪穴建物、溝、掘立柱建物、柵列、ピット（柱穴）等の遺構を確認した（第 35･36 図）。遺構の殆んどは、地山上で検出したが、包含層 2（3 層）に形成された遺構も確認された。

SB01（第 37 図）

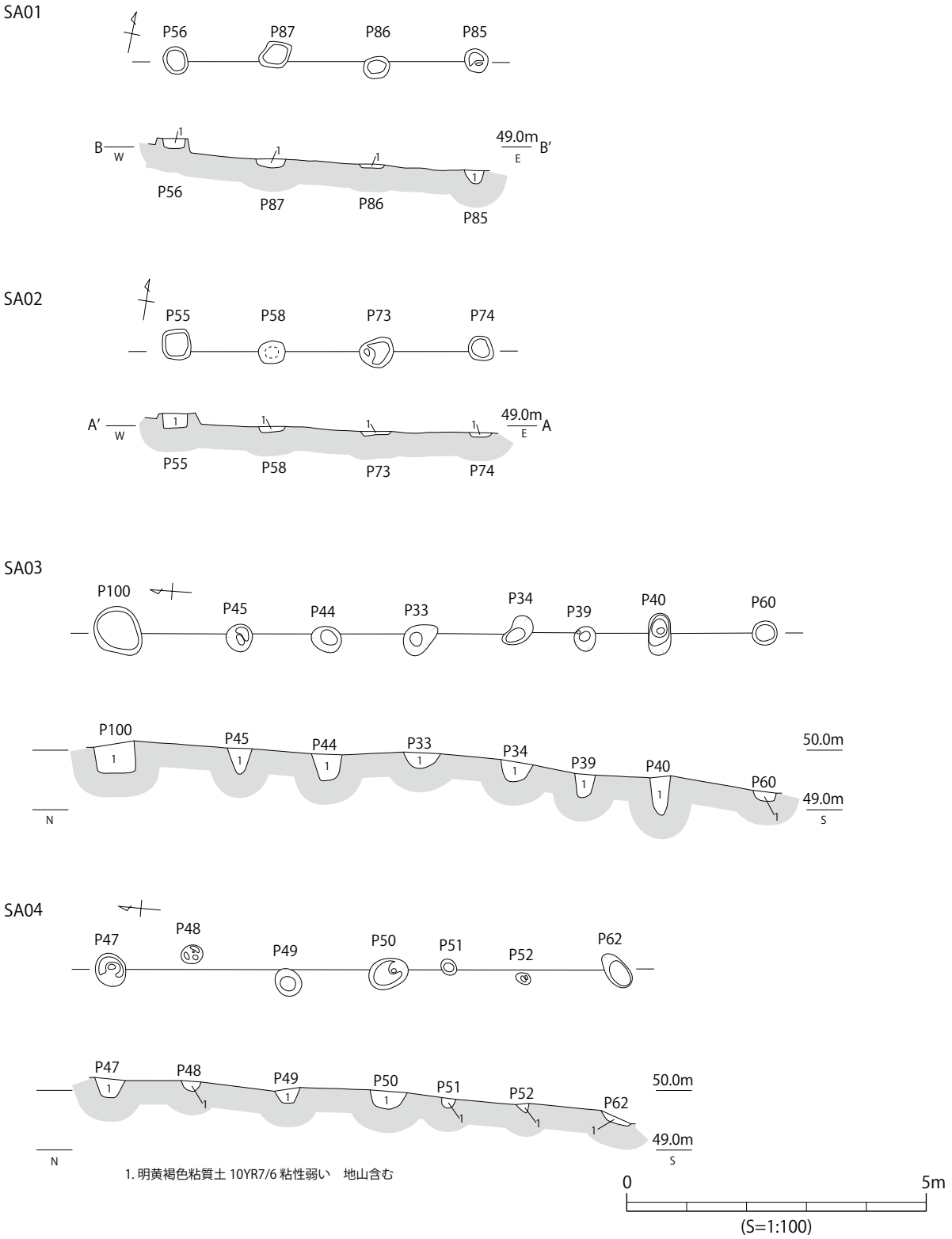
SB01 は、Ｂ区を南北に走る谷状地形の中央部南端で、包含層 1 から 2 の掘削に差し掛かる段階で検出された P65 ～ 72 からなる遺構である。規模は 1 間× 3 間の掘立柱建物である。規模は東西 10m（P65-P72 間）・9.8m（P66-P71）、南北 2.8m ある。特徴的なのは、各柱穴間の距離において、P68-P69 間（3.8m）と P67-P70 間（3.8m）が他の柱穴間距離（P65-P68：2.8m、P69-P72：3.4m、P66-P67：2.6m、P70-P71：3.4m）より 20㎝～ 1m 程度も長い。SB01 の掘立柱建物は、P68-P69 間と P67-P70 間が谷状地形の中央部に位置しており、門のような機能を有した施設であった可能性も考えられる。なお、P66・P70・P71 からは弥生土器が検出されているが、遺構自体が包含層 2 ～ 3 に形成されているので、遺構形成の時期を示すものではない。包含層 1 の直下に形成された遺構であることから、古代の遺構と考えられる。



第 36 図　B 区　古代の遺構配置図（S=1:200）



第 37 図　B 区　SB01 実測図・B 区土層図（1）（S=1:80）



第 38 図　B 区　SA01~04 実測図（S=1:100）

SA01（第 38 図）

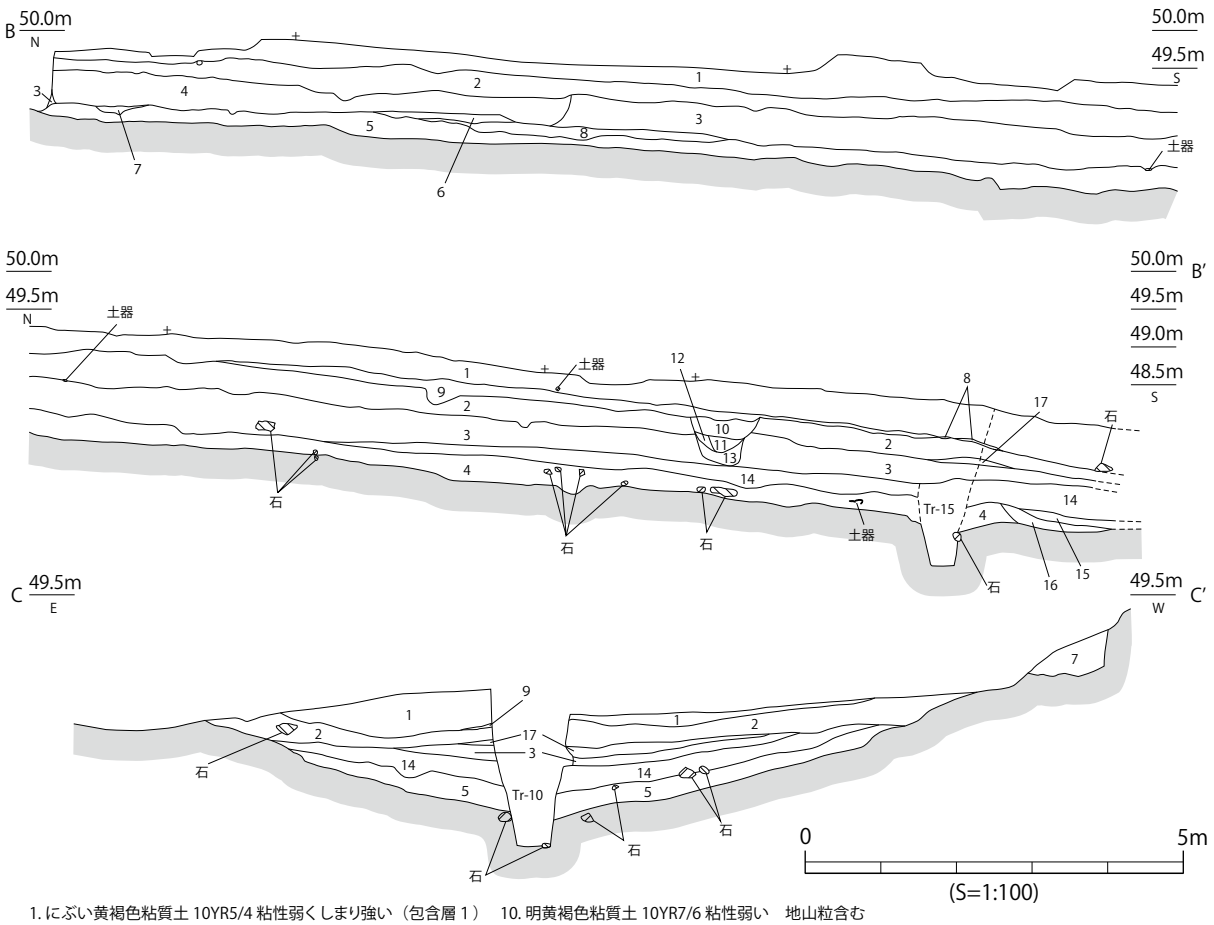
包含層 1 の掘削途中に検出された SA01 は、SA02 と並列した遺構である。両者は 1 間× 3 間の掘立柱建物の可能性も考えられたが､SA01 の P85 と SA02 の P74 の間が 1m 程度であることから、ここでは柵列として報告しておく。P85-P56 までは、約 10m の規模である。

SA02（第 38 図）

P74-P55 までは、約 10m の規模である。なお、P55 と SA01P56 は柱穴底のレベルがほぼ揃っていることから、SA01 と SA02 は併存していた可能性も考えられる。

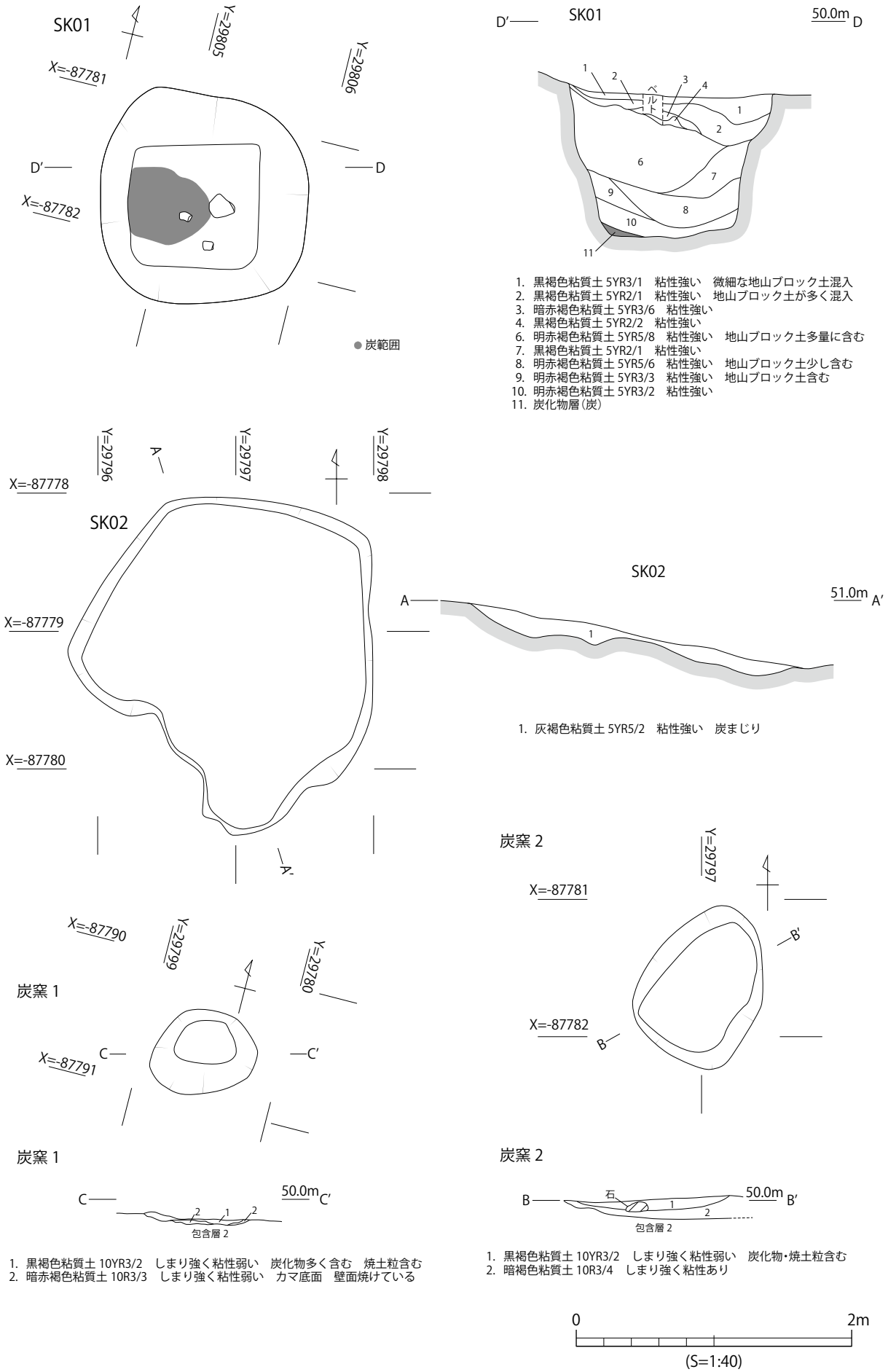
SA03（第 38 図）

包含層 1 の掘削途中に検出された SA03 は、SA04 と並列した遺構である。P60-P100 までは、約 11m の長さがある。SA04 の各柱穴とは対応関係にないことから、両者は掘立柱建物を構成する可能性は低い。柵列と考えられる。



1. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 粘性弱くしまり強い（包含層１）
2. 黒褐色粘質土 10YR3/1 粘性有り しまり強い（包含層２）
3. 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性有り しまり強い（包含層３）
4. 黒褐色粘質土 10YR2/2 粘性有り しまり強い（SI06 埋土）
5. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　細砂多く含む（包含層４）
6. 灰褐色粘質土 7.5YR5/1 粘性弱くしまり堅緻　炭混じり (床土)
7. 褐灰色粘質土 7.5YR4/1 粘性弱い　炭・焼土含む
8. 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強い　10 ㎜程度の炭が多く混じる
9. 黒褐色粘質土 10YR3/1 しまり堅緻
10. 明黄褐色粘質土 10YR7/6 粘性弱い　地山粒含む
11. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2
12. 灰黄褐色粘質土 10YR5/2
13. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3 しまり堅緻
14. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 地山ブロック多く混入、粗砂多く含む（包含層４）
15. 褐色粘質土 10YR4/4 粘性弱い　粗砂多く含む
16. 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性弱い　粗砂多く含む
17. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2 粘性弱い

第 39 図　B 区　土層図（2）（S=1:200）



第 40 図　Ｂ区　SK01・02、炭窯１・２実測図（S=1:40）

SA04（第 38 図）

SA03 と同じく、包含層 1 の掘削途中に検出された。P47-P62 までは、約 8.5m の長さがある。柵列と考えられる。

SK01（第 40 図）

包含層 1 の直下が地山になる地点で検出された遺構である。1.5m × 1.5m の隅丸方形の土坑で、深さは約 1m で、底面は一辺約 90㎝の方形を呈している。埋土は黒褐色の粘質土と赤褐色系の粘質土が交互に堆積しており、底面に角礫や炭が検出された。炭は樹皮が残っており、その直下を放射性炭素年代（AMS 法）で分析した結果、7 世紀～ 8 世紀の年代が報告されている（第 4 章第 1 節参照）。

SK02（第 40 図）

包含層 1 の直下が地山になる地点で検出された遺構である。長径 2.4m、短径 2.2m の不整形の土坑で、深さは 2㎝～ 15㎝程度である。埋土に炭が混じるほか、古代の土師器細片が含まれていた。性格は不明である。

炭窯 1 （第 40 図）

包含層 2 の上面で検出された 60㎝× 80㎝の不整円形を呈した遺構である。埋土に炭化物や焼土粒を含み、底面と壁面が焼けていることから、小炭窯の痕跡と考えられる。埋土 1 から得られた炭を放射性炭素年代（AMS 法）で分析した結果、7 世紀～ 8 世紀の年代が得られた（第 4 章第 1 節参照）。

炭窯 2 （第 40 図）

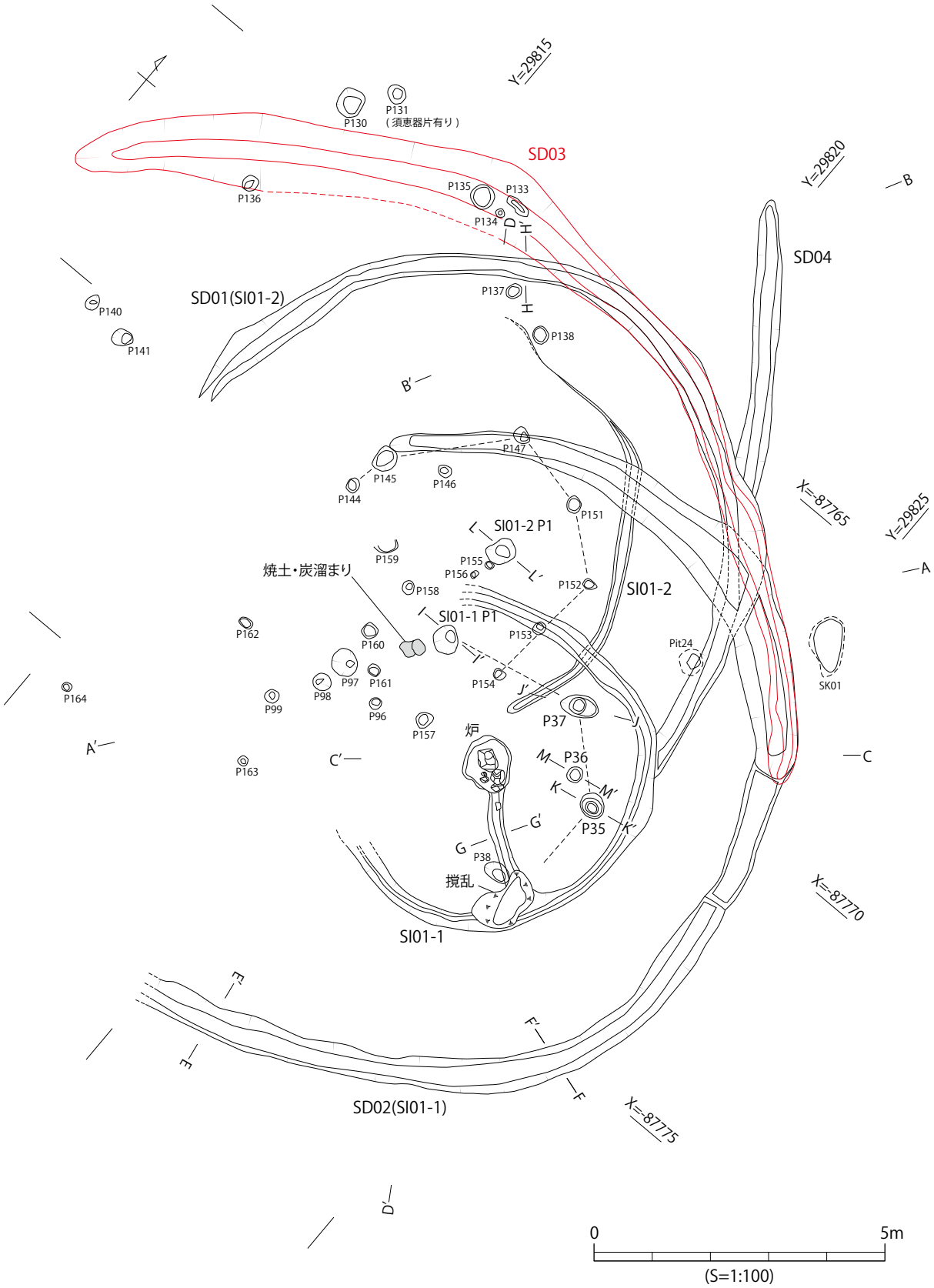
炭窯 1 と同じく包含層 2 の上面で検出された 90㎝× 1.1m の楕円形を呈した遺構である。埋土に炭化物や焼土粒を含む。小炭窯の痕跡と考えられるが、底面の埋土は遺構の北側で包含層 2 と同化するように不明瞭となる。

SI01-1（第 41 ～ 44 図）

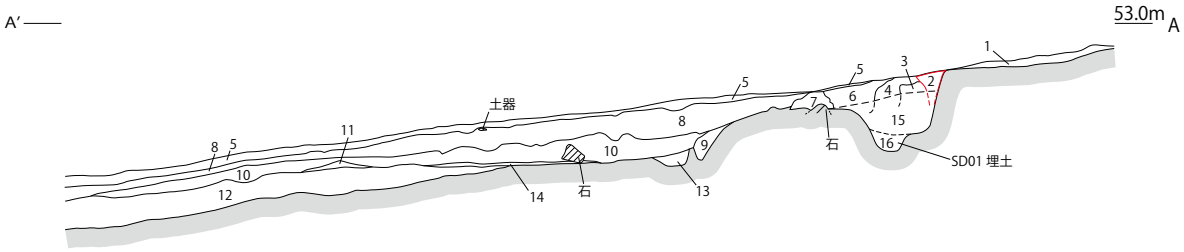
復元直径約 5.7m の竪穴建物である。建物の西側は地形が傾斜しているため、本来の床面が残っておらず、壁際溝も途切れていた。建物に伴うと考えられる柱穴が建物の西側で検出されたため、平面プランは円形であったものと考えられる。竪穴建物の東側は地山から形成されているが、東側は包含層 3 に形成されている。

中央に直径 95㎝× 80㎝の不整円形の炉があり、炉の内部からは複数の礫（6 個）を検出した。ただし、礫には被熱痕は観察されなかった。また、炉の上面からは南東方向に向かって、壁際溝まで浅い溝が伸びていた。排水機能があったとものと思われる。なお、中央炉から検出された炭化物を放射性炭素年代測定（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期末～後期前葉頃の年代（B.C.20 ± 20）が報告されている（第 4 章第 1 節参照）。

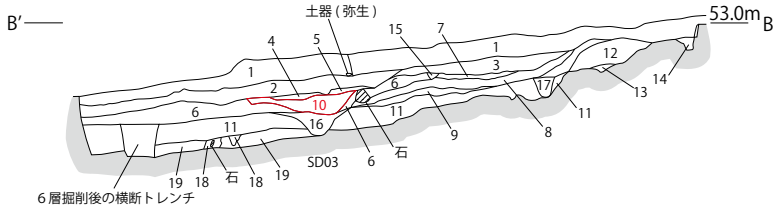
また、主柱穴と思われる柱穴が、３つ検出された（SI01-1P1・P35・P37）。



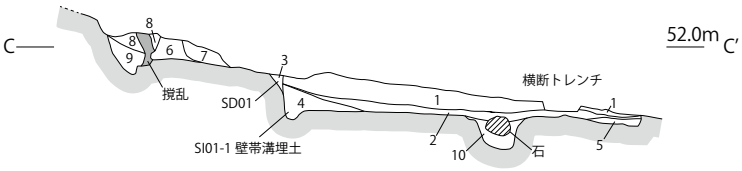
第 41 図　B 区　SI01-1・2、SD01~04 実測図（S=1:100）



1. 褐灰色粘質土 7.5YR4/1　粘性弱く しまり強い　地山の土、地山石が混じる
2. 黒褐色粘質土 10YR3/2　粘性強く しまり強い　SD03埋土
3. 黒褐色粘質土 10YR3/2　粘性強く しまり強い　SD02埋土　7.5YR6/8(橙色)の土が多量に混じる
4. 褐灰色粘質土 7.5YR4/1　粘性有り しまり強い　SD01埋土　7.5YR6/8(橙色)の土が混じる
5. 明褐色粘質土 7.5YR5/6　粘性弱く しまり強い　(包含層1)
6. 暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性弱く しまり強い　SD02埋土　7.5YR6/8(橙色)の土が少量混じる
7. 明黄褐色粘質土 10YR6/6　粘性弱く しまり強い
8. 黒褐色粘質土 10YR3/1　粘性有り しまり強い　(包含層2)
9. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性弱く しまり強い
10. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2　粘性有り しまり強い　(SI01-1埋土)
11. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/3　粘性弱く しまり強い
12. 暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性有り しまり強い　(包含層3)
13. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強く しまり強い　SI01-1壁際溝の埋土　　暗褐色粘質土(10YR3/3 粘性有り しまり強い)が多く混じる
14. 明黄褐色粘質土 10YR6/8　粘性弱く しまり強い　硬化ブロック土が層状に見られる　暗褐色粘質土(10YR3/3 粘性有り しまり強い)を含む
15. SD02埋土（3、4層の混合）
16. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性弱い　SD01埋土



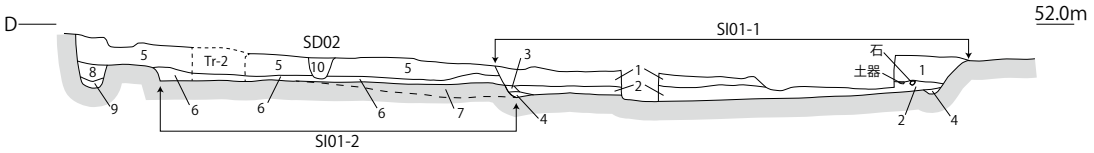
1. 暗褐色粘質土 7.5YR5/4　粘性有り しまり強い　(包含層１)
2. 黒褐色粘質土 10YR3/1　粘性有り しまり強い　(包含層２)
3. にぶい褐色粘質土 7.5YR5/4　粘性弱く しまり強い　(包含層２)
4. にぶい黄橙色粘質土 10YR5/4　粘性弱く しまり強い　(SD03埋土)
5. にぶい黄橙色粘質土 10YR5/4　粘性有り しまり強い　(SD03埋土)
6. 橙色粘質土 7.5YR7/6　粘性弱く しまり強い　地山石(大)を含む　(包含層2)　弥生後期
7. 橙色粘質土 7.5YR6/8　粘性有り しまり強い　地山石を含む　(包含層２)
8. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2　粘性弱く しまり強い　(包含層２)
9. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　粘性弱く しまり強い　(包含層２)　10YR3/2(黒褐色)を含む
10. 黒褐色粘質土 7.5YR3/2　粘性有り しまり強い　(SD03埋土)　橙色粘質土、白色、黄色の鉱物(大)を含む
11. 暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性有り しまり強い　(包含層3)
12. 褐灰色粘質土 10YR4/1　粘性有り しまり有り　にぶい黄橙色10YR7/2を含む
13. 褐灰色粘質土 10YR4/1　粘性有り しまり強い　炭粒を含む
14. 暗褐色粘質土 7.5YR3/3　粘性弱く しまり強い　地山を掘りこむ
15. 褐灰色粘質土 7.5YR6/1　粘性弱く しまり強い　(包含層２)
16. 黄橙色粘質土 10YR7/8　粘性有り しまり強い　SD02埋土、白色、黄色の鉱物を含む
17. 黒褐色粘質土 7.5YR3/2　粘性有り しまり強い　(SD04埋土)
18. 黒褐色粘質土 7.5YR3/2　粘性有り しまり強い
19. 地山（風化）

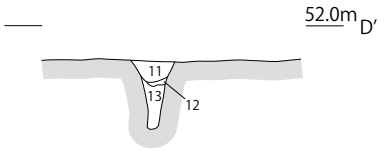


1. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2　粘性有りしまり強い　SI01-1埋土、包含層2に準ずるもの
2. 明黄褐色粘質土 10YR6/8　粘性弱くしまり強い　SI01-1貼り床、白色粒が混じる
3. 黒褐色粘質土 7.5YR3/2　粘性有りしまり強い　SD01埋土
4. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強くしまり強い　SI01-1壁際溝埋土、暗褐色粘質土(10YR3/3粘性有りしまり強い)が多く混じる
5. 暗褐色粘質土 10YR3/3　粘性有りしまり強い　包含層3
6. 粘質土　粘性強くしまり有り　明褐色土(7.5YR5/6)・白色粒が多量に混じる
7. 明褐色粘質土 7.5YR5/6　粘性有りしまり強い　白色粒が少量に混じる、黒褐色土(7.5YR3/1)が混じる
8. 黒褐色粘質土 10YR3/2　粘性有りしまり弱い　SD03埋土、黄色ブロック(大)・炭が混じる
9. 黒褐色粘質土 10YR3/2　粘性強くしまり弱い　SD02埋土、SD03に切られる、炭粒が多量に混じる
10. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性強い　炭混じり、明褐色粘土(10YR6/6)ブロック混じる

0　5m
(S=1:100)

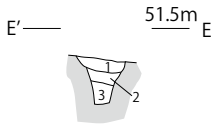
第 42 図　B 区　SI01-1・2 土層図（S=1:100）





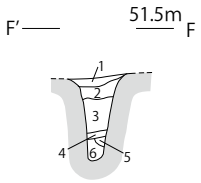
1. 灰黄褐色粘質土 10YR4/2
2. 明黄褐色粘質土 10YR6/8　粘性弱くしまり強いの硬化ブロックが層状に見られる
   暗褐色粘質土(10YR3/3 粘性有りしまり強い)を含む
3. 褐色粘質土 10YR4/4
4. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強くしまり強い
   暗褐色粘質土(10YR3/3 粘性有りしまり強い)が多く混じる
5. 明褐色粘質土 10YR3/3　粘性有りしまり強い　(包含層3)
6. 暗褐色粘質土 10YR3/3　しまり強い　(SI01-2埋土)
7. 地山風化土
8. にぶい赤褐色粘質土 5YR4/3　焼土塊や地山ブロック土を多く含む（SD01埋土）
9. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性弱い（SD01埋土）
10. 黄橙色粘質土 10YR7/8　粘性有りしまり強い　埋土(SD02埋土)、白色、黄色の鉱物を含む
11. にぶい褐色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻
12. 橙色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻　5mm程度白色砂利含む、炭混じり
13. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強い

SD02(SI01-1)



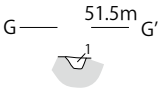
1. にぶい褐色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻
2. 橙色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻
   5mm程度の白色砂粒含む、炭混じり
3. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強い

SD02(SI01-1)



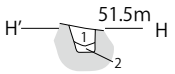
1. にぶい褐色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻
2. 橙色粘質土 7.5YR6/4　しまり堅緻
   5mm程度の白色砂粒含む、炭混じり
3. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強い
4. 灰褐色粘質土 7.5YR4/2　粘性弱い　細砂含む
5. にぶい黄橙色粘質土 10YR7/4　しまり良い
6. 灰褐色粘質土 5YR4/2　粘性弱い
   焼土（赤褐色 5YR4/6）・炭混じり

SI01-1壁際溝



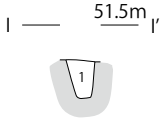
1. 明褐色粘質土 7.5YR5/8　粘性強くしまり強い
   SI01壁際溝

SD01(SI01-2)



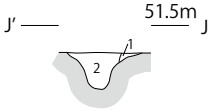
1. にぶい赤褐色粘質土 5YR4/3
   焼土塊や地山ブロック土を多く含む
2. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性弱い

SI01-1 P1



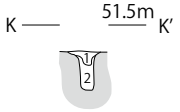
1. 暗褐色粘質土 7.5YR3/3　粘性強い　炭混じり

P37



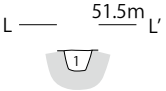
1. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性強い
   明黄色粘土(10YR6/6)ブロック混じる
2. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　粘性強い

P35



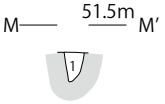
1. にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4　粘性強い
   明黄色粘土(10YR6/6)ブロック混じる
2. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　粘性強い

SI01-2 P1

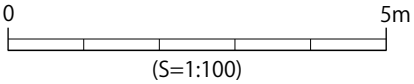


1. 黒褐色粘質土 7.5YR2/2　粘性強い　炭多く含む

P36

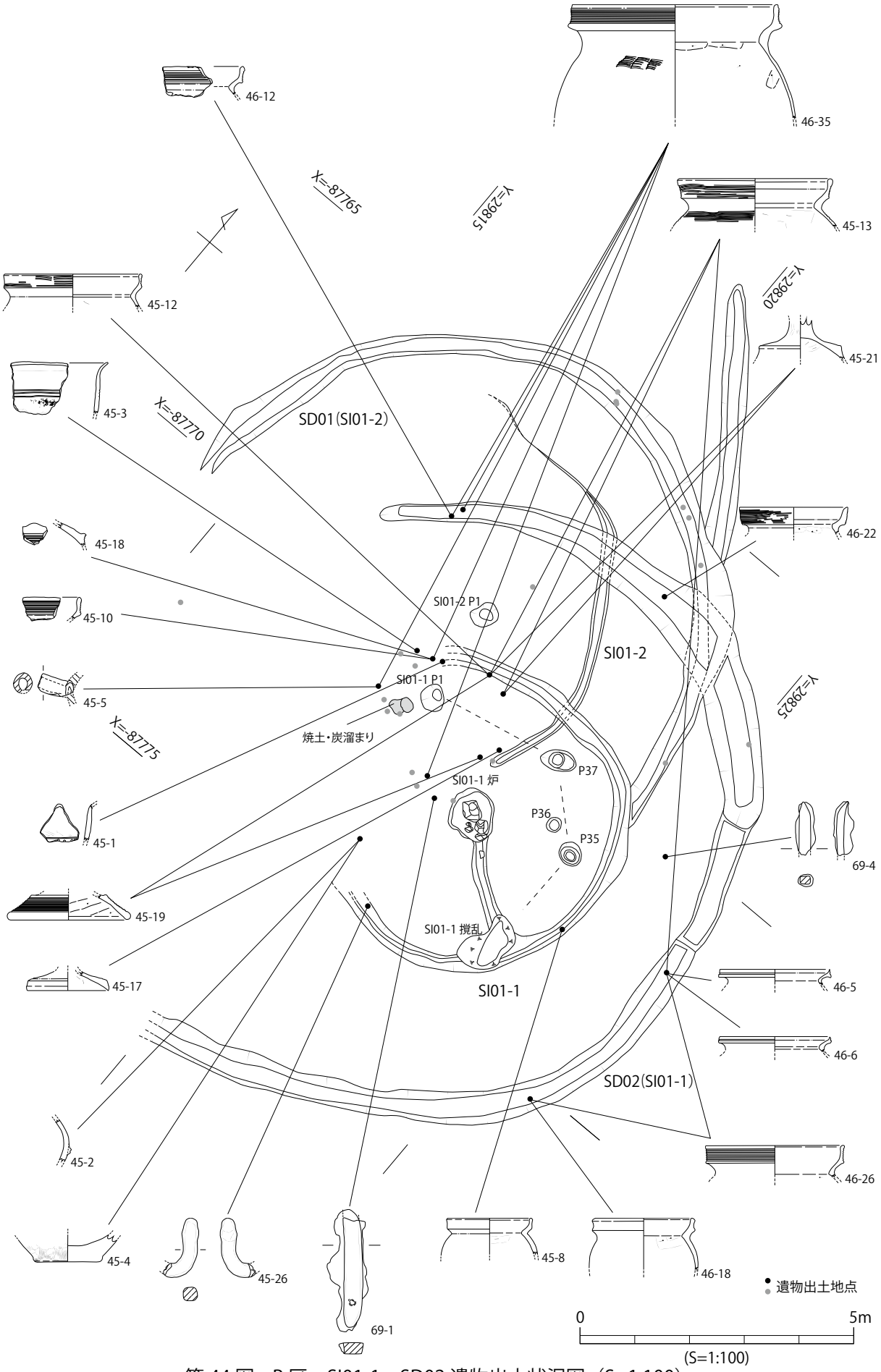


1. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　粘性弱くしまり弱い



(S=1:100)

第 43 図　B 区　SI01-1・2、SD01~04 土層図（S=1:100）



第 44 図　B 区　SI01-1、SD02 遺物出土状況図（S=1:100）

セクション A-A' では、SI01-1 に伴う周堤溝（SD02）埋土が観察できたが、先行して掘削された SD04、SI01-2 に伴う周堤溝（SD03）が切りあうポイントであったため、15 層の堆積は不明瞭で遺構ごとに対応する土層の細分化をすることはできなかった。ただし、下層である 16 層は SD01 の土層堆積である。7 層は周堤盛土の一部である可能性が考えられる。

セクション B-B' の 10 層は SD03 埋土、16 層は SD02 埋土、17 層が SD04 埋土である。

セクション C-C' は、8 層が SD03 の埋土、9 層が SD02 の埋土である。6 層・7 層は SI01-1 に伴う周堤盛土の一部である可能性が考えられ、7 層からヤリガンナが 1 点出土している（第 69 図 4）。4 層は SI01-1 の壁際溝埋土と流れ込みの土である。2 層は 4 層に一部乗っている層であるが、SI01-1 の床面直上にある貼り床（床土）である。ここから刀子が 1 点出土している。

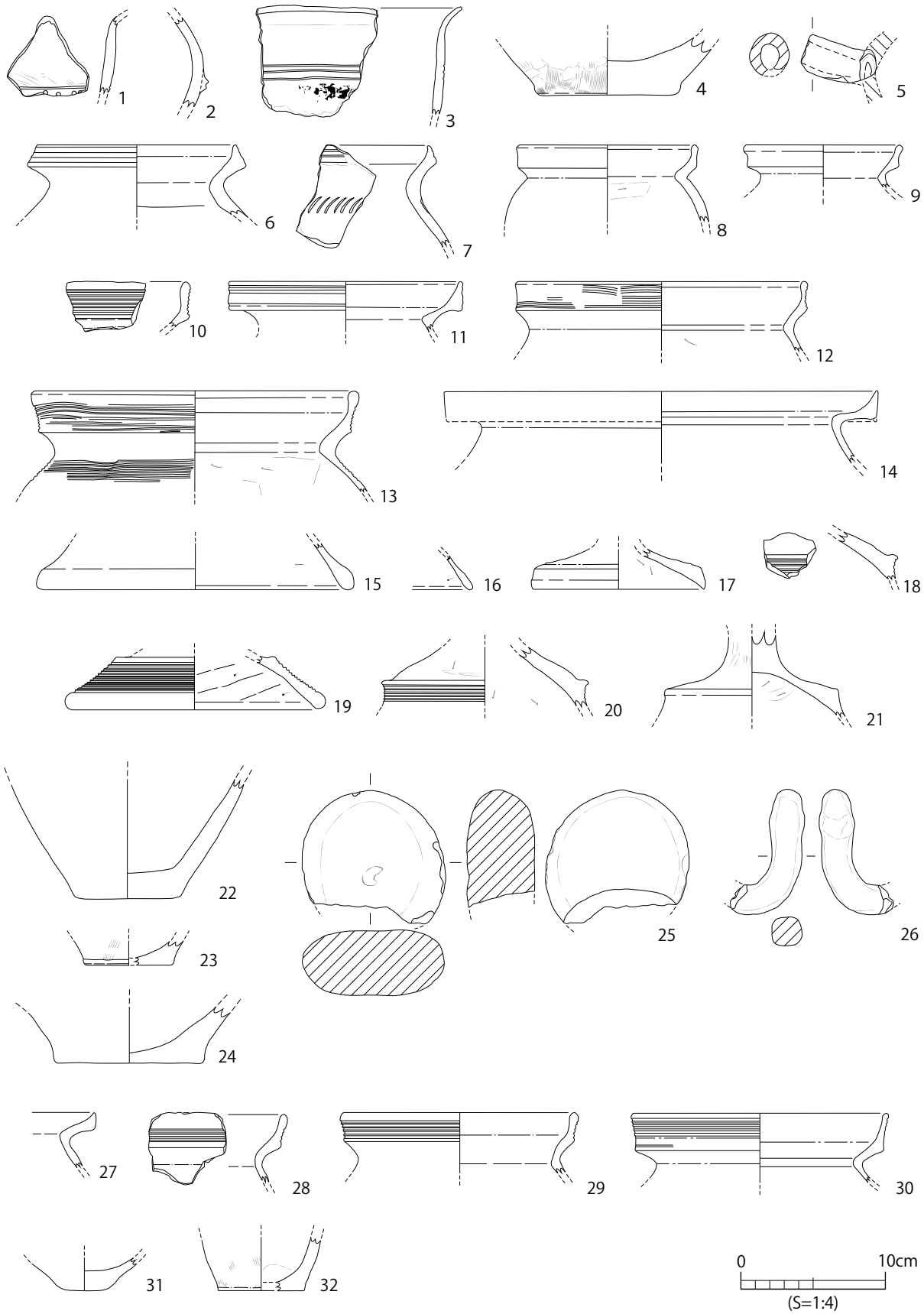
SI01-1 出土遺物（第 45 図・69 図 1・2・4・6）

第 45 図 1・3 は弥生時代前期後葉（Ｉ－３様式）の甕、2 は壺、4 は壺の底部である。1 は沈線と円形の刺突列点文が施されている。3 は頸部に３条の沈線文が施され、外面に炭化物が付着している。2 は胴部に断面 M 字形の突帯が巡っている（Ｉ－３様式）。5 は弥生時代後期（Ｖ－３）の注口土器である。6・7 は弥生時代後期前葉（Ｖ－１～２）の甕で、6 は口縁部外面に２条の凹線文、同じく 7 は２条の擬凹線文、肩部には刺突列点文がみられる。8 ～ 14 は弥生時代後期前葉（Ｖ－２）の甕で、10・11・12・13 は口縁部外面にそれぞれ７条、３条、５条、７条の擬凹線文が施されている。15 ～ 21 は器台の脚部である。18 ～ 20 には脚部裾にそれぞれ、４条、13 条、３条以上の擬凹線文が施されている。22 ～ 24 は弥生土器の底部である。25 は磨石で、側面に敲打痕がみられることから、敲石に転用された可能性がある。26 は弥生後期（Ｖ様式）の注口土器等に付く把手と考えられる。27 ～ 31 は SD01 の壁際溝から出土したものである。27 は摩滅が著しく調整は不明であるが、口縁部の形態から弥生時代後期前葉（Ｖ－１～２）と考えられる。28・29・30 は口縁部外面にそれぞれ４条、５条の擬凹線文が施されている。31 は壺、32 は甕の底部と考えられる。27 ～ 29・32 は SI01-1 の壁際溝から出土したものである。第 69 図 1 は刀子、4 はヤリガンナである。4 は、かなり欠損しているが、切っ先が残存している。

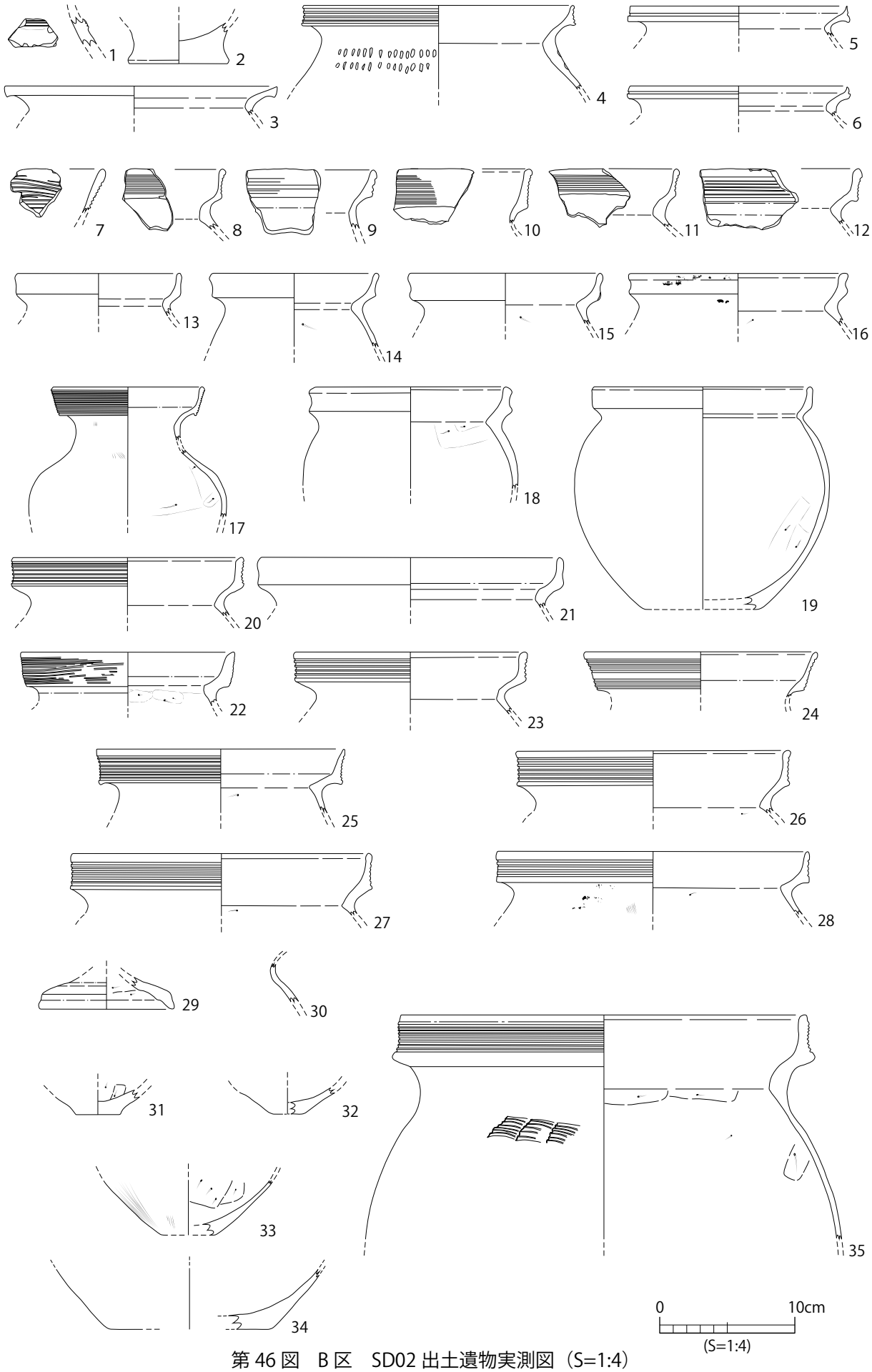
SI01-1 の西側床面は弥生前期の土器が主体の包含層 3 に形成されているため、SI01-1 の埋土には弥生前期の土器も含まれているが、壁際溝や炉、床面、そして後述する SI01-1 に伴う周堤溝（SD02）から弥生後期（Ｖ－２様式）の土器が多数出土していることから、SI01-1 の時期は弥生後期前葉と考えられる。

SD02（第 41 ～ 44 図）

SD02 は SI01-1 に伴う周堤溝である。全体の検出プランは、直径約 12m の半円外周を描く溝である。A-A' の土層にあるとおり、SD01 を切って掘られたもので、SD02 埋没後は SD03 の掘削が行われている。竪穴建物の東側を廻るもので、竪穴建物東側の背面で最も標高が高い地点では、長さ 2.3m、幅 40 ～ 60㎝、深さ約 20㎝を呈している。しかし、その両側については、溝は深く掘られている。とくに、南側端部では垂直に溝が掘削されており、その深さは約 1.2m に達する。SD02 の下層埋土には、焼土塊（164 頁参照）や炭化物が混じっている層が確認されている（F-F'）。ここで採取した炭化物を放射性炭素年代測定（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期後葉頃の



第 45 図　B 区　SI01-1 出土遺物実測図（S=1:4）



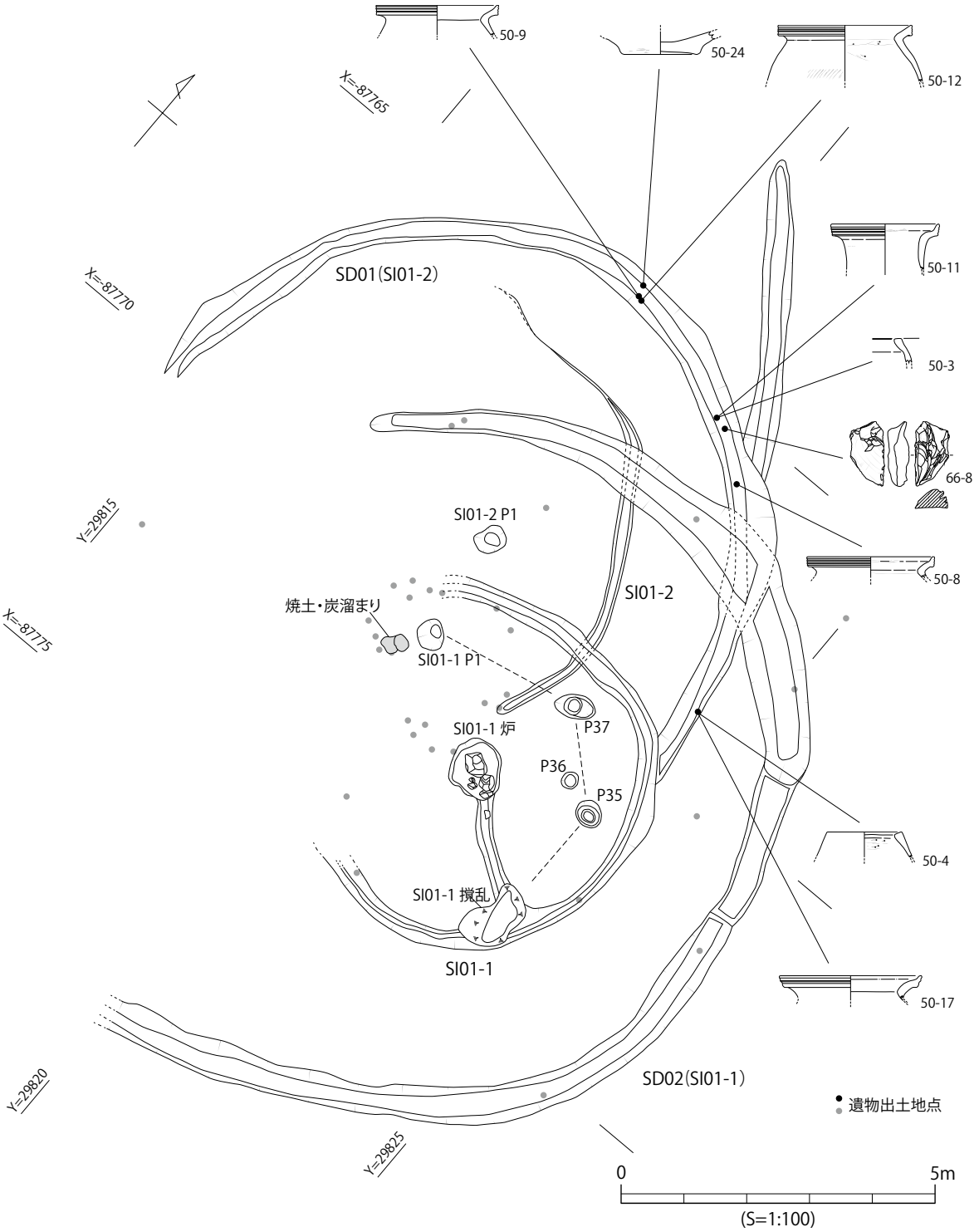
第 46 図　Ｂ区　SD02 出土遺物実測図（S=1:4）

年代が報告されている（第４章第１節参照）。

非常に遺存状況の良い溝で、竪穴建物の東側背面の浅くなっている周堤溝の部分を分水嶺として、南北両側に排水を促す構造となっている。

SD02 出土遺物（第 46 図）

第 46 図１は壺の頸部で３条の沈線が入った突帯が施される。２は甕の底部で高台状に厚みがある。１・２とも弥生前期後葉（Ⅰ－３様式）と考えられる。３はⅢ様式の甕、４～６はⅤ－１の甕



第 47 図　B 区　SI01-2、SD01 遺物出土状況図（S=1:100）

である。7 は器台の口縁部で、口縁部外面には直線的ではない８条の擬凹線が施されている。8 ～ 16・18 ～ 28 はＶ－２様式の甕で、13 ～ 16・18・21 には口縁部外面に擬凹線が施されていない。35 は大形の甕で、肩部に貝殻腹縁による断続的な描線があり、Ｖ－３様式への過渡的な様相が想定される。17 はＶ－２様式の壺で、口縁部外面に擬凹線が施されている。29 は小形の器台もしくは脚付壺の脚部と考えられる。30 は小形の甕の頸部、31 ～ 34 は甕もしくは壺の底部である。34 は大形の壺の底部で弥生前期（Ｉ様式）の可能性も考えられる。SD02 の出土土器は、Ｖ－２様式を主体とするもので、それ以降の土器は含まれていないことから、SD02 の埋没時期の下限はＶ－２様式と考えられる。

SI01-2（第 41~43・47 図）

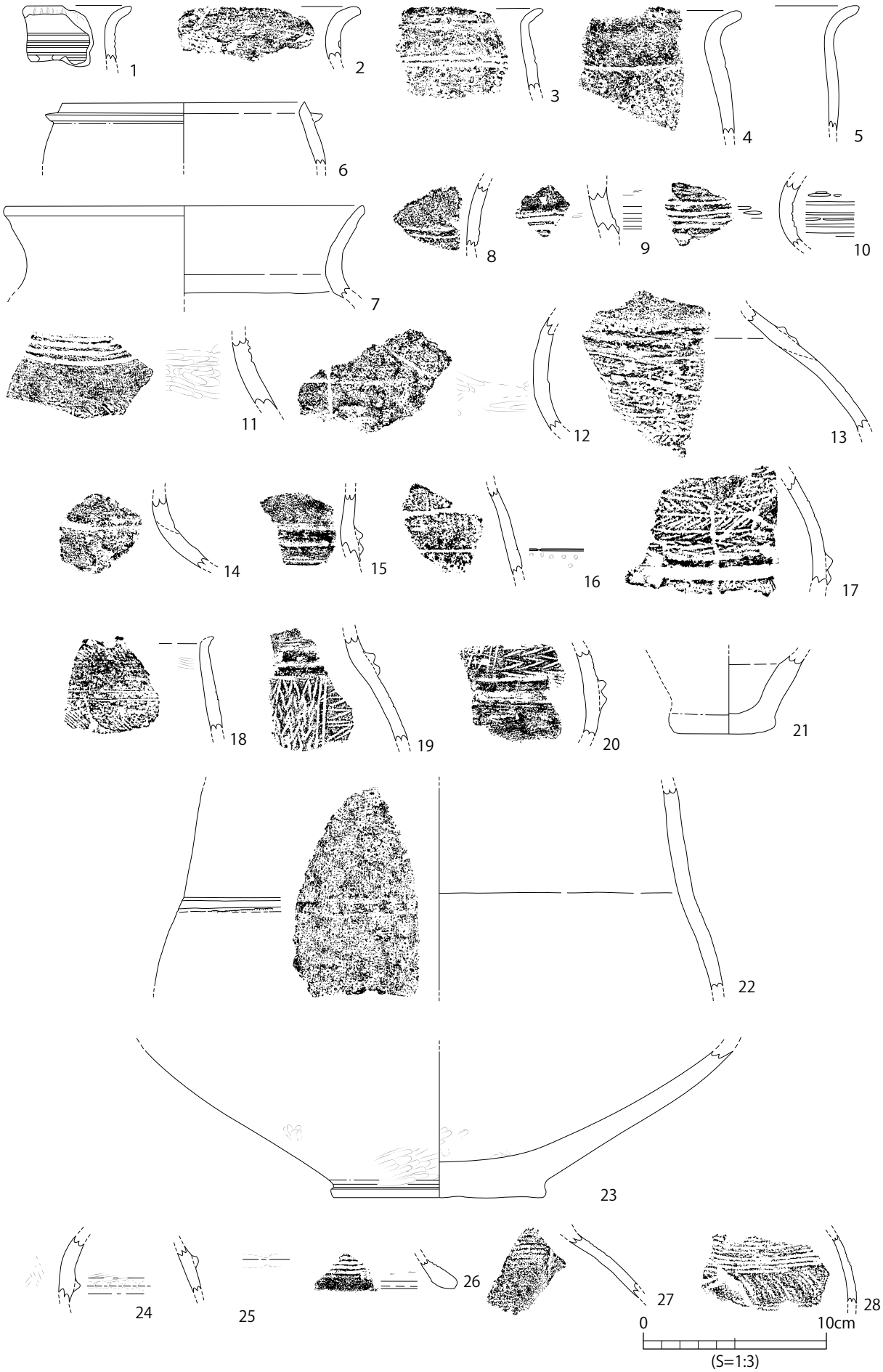
SI01-1 に先行する竪穴建物である。建物の南側で SI01-1 に切られている。SI01-2 の壁際溝の一部は、SI01-1 床面の北側で検出されている。平面プランは円形になるものと考えられるが、SI01-1 と同様に建物の西側は地形が傾斜しているため、本来の床面が残っておらず、建物全体の平面プランは半円形状にしか検出できなかった。ただし、西側斜面で、建物に伴うと考えられる柱穴が検出されたため、本来の平面プランは円形であったものと考えられる。直径約 6m 前後に復元される。SI01-2 に伴うものと考えられる柱穴は、８つある（SI01-2P1、P144、P145、P147、P151、P152、P153、P154）。このうち、SI01-2P1（40㎝× 50㎝）は他の柱穴群のほぼ中央にあり、埋土に炭が多く含まれていることから、中央炉の可能性が高い。この P1 から検出された炭化物を放射性炭素年代測定（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期後葉頃の年代（B.C.110 ± 20）が得られた（第４章第１節参照）。

C-C' の土層断面図の６層はしまりが強く床面の貼り床（床土）と考えられる。5 層は埋土であるが、包含層３に相当するものである。

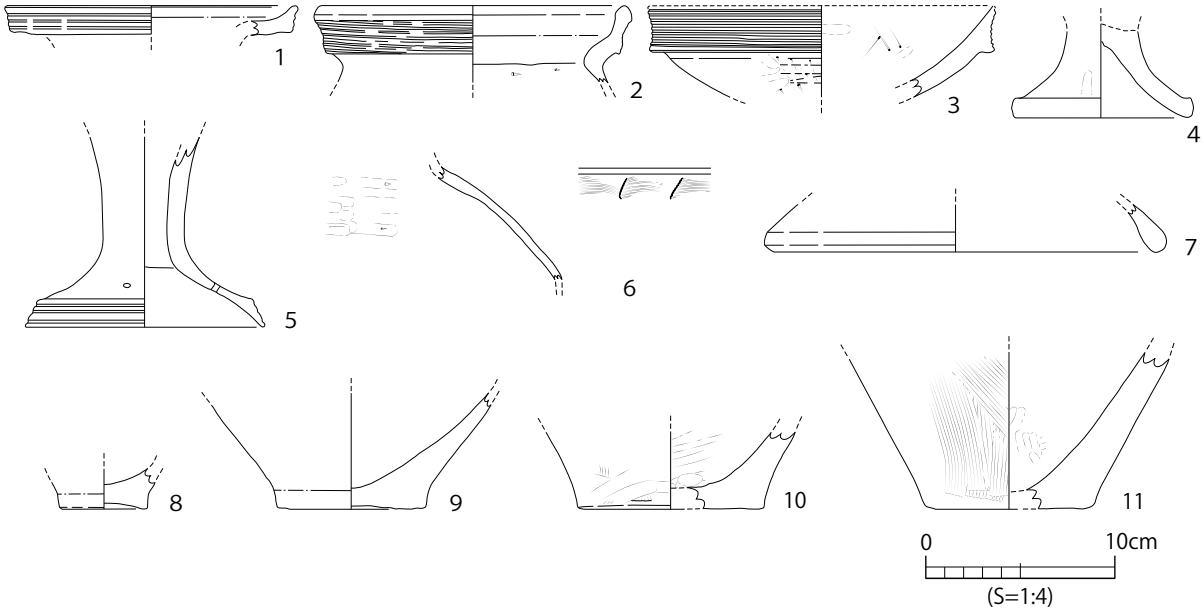
SI01-2 出土遺物（第 48・49 図）

SI01-2 の埋土には包含層３に由来する弥生前期（Ｉ－３様式主体）の土器や、SD02 の切り合いに伴う弥生後期（Ｖ－２様式）が出土している。第 48 図１～５は甕である。1 は口縁端部外面に刻み目、頸部に４条の直線文が施されている。2 は頸部に刺突痕跡のようなものが観察できる。3 は頸部に２条の沈線が施され、4 の頸部には１条の沈線とその直下に連続する刻み目が施されている。6・18 は無頸壺で、6 の口縁端部の直下に１条の貼付突帯、18 には頸部に２条の沈線が施されている。7 ～ 17・19 ～ 20、22 ～ 25 は壺である。13・15・17・19・24・25 のように貼付突帯文を付加するものが目立つ。19・20 には貝殻腹縁による羽状文が施され、19 には縦方向の区画に羽状文が施されていることから、やや古い様相を残している。22 は大形の壺で、頸部に２条の沈線が施されている。21 は甕もしくは壺の底部で、23 は大形の壺の底部である。26 は器台の脚部で、外面に擬凹線文が施されている。27・28 は甕で、27 にはハケ状の押し引き文、28 には沈線のほか、貝殻腹縁による刺突列点文が施されている。1 ～ 25 は弥生前期後半（Ｉ－３～（４））、26 ～ 28 は弥生後期前半（Ｖ－２様式）と考えられる。

第 49 図１はＶ－１様式の壺または甕で、口縁部外面に３条の擬凹線文が施されている。2 の甕は口縁部外面に７条の擬凹線文、3 の高坏は口縁部外面に８条以上の擬凹線文が施されている。2・



第 48 図　B 区　SI01-2 出土遺物実測図（1）（S=1:3）



第 49 図　Ｂ区　SI01-2 出土遺物実測図（2）（S=1:4）

３ともＶ－２様式の様相を示すが、３の高坏は体部が椀状に内湾するＶ－１様式の高坏の系譜を引く特徴を有する。４は台付壺等の脚部と考えられ、端部外面には擬凹線等の調整はみられないが、形態的にはⅢ～Ⅳ様式と考えられる。５はＶ－２様式の高坏脚部で、口縁部外面に３条の擬凹線文と、脚部裾に３箇所の穿孔が認められる。６は甕の肩部で、貝殻腹縁による断続的な横方向の描線文が施されている。Ｖ－２様式と考えられる。７はＶ－２様式の器台端部と考えられる。８・９は甕もしくは壺の底部で、10・11 は甕の底部である。Ｉ－３～Ｖ様式と考えられる。

SD01（第 41~43 図・47 図）

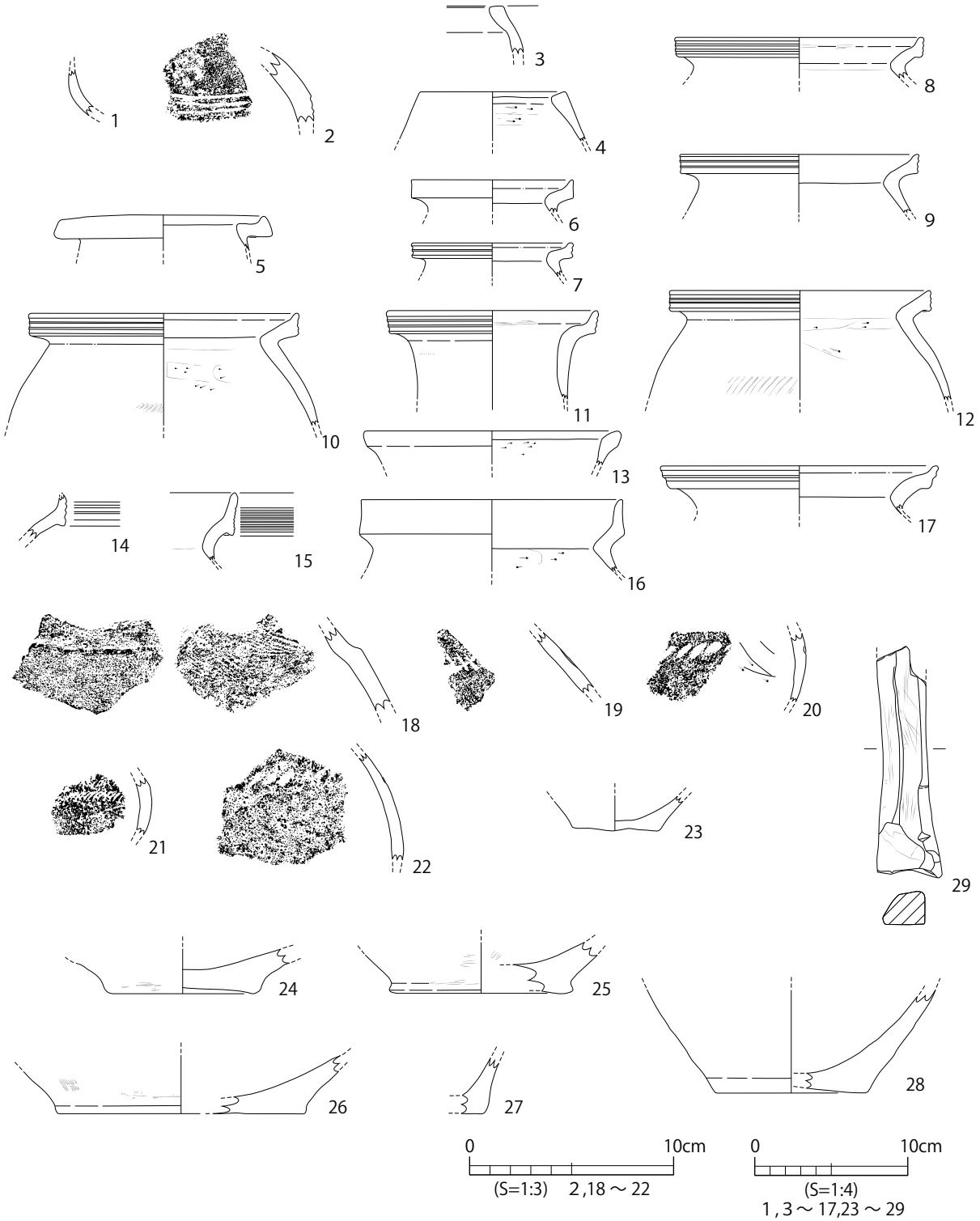
SI01-2 に伴う周堤溝である。全体の検出プランは、直径約 9m 前後の半円外周を描く溝である。SD04 を切って掘削されており、埋没後に SD02 に切られている（第 42 図 A-A' 参照）。

SD01 出土遺物（第 50 図）

第 50 図１・２は、Ｉ－３～４様式の壺と考えられ、２は肩部に明瞭なミガキと３条の直線文が施されている。３・４は無頸壺の口縁で、４は口縁部外面に赤色顔料塗布の痕跡が認められる。Ｖ－１様式と考えられる。５～ 10・12・14 ～ 17 は甕の口縁部である。５・６・16 を除く口縁部外面には、２条～３条の擬凹線文が施されている。11・13 は壺である。11 は、口縁部外面に３条の擬凹線が施されている。13 は脚部の可能性もあるが、頸部にかけての器壁が薄いことから、壺とした。３～ 17 のうち、Ｖ－２様式と考えられる 15・16 以外は、Ｖ－１様式と考えられる。18 ～ 22 は壺の頸部・胴部と考えられる。18 は頸部と胴部の境目に突帯状のアクセントが施されている。19 には斜行する刻み目、20・22 には刺突列点文、21 には爪状工具による細かな刺突列点文がみられる。18 はＩ－３～４様式、19・20・22 はⅢ～Ｖ様式、21 はＶ様式と考えられる。23 ～ 28 は甕・壺の底部である。23・27 は甕、24 ～ 26、28 はやや大型の壺と考えられる。29 の砥石は、使用痕が目瞭に残っている。

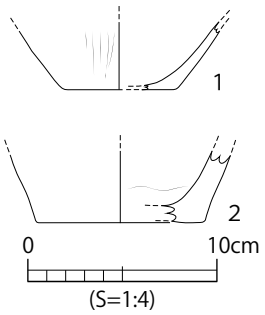
SD03（第 41・42 図）

SD03 の平面プランの過半は SD01 に重複しているが、層位的にみて両者は別個の遺構である。東側から西側に傾斜する総長 19m の弧状に内湾する溝である。溝の深さは東側で 20㎝程度あるが、西側に行くほど溝の深さは浅くなり、西端は 10㎝程度になる。また、西側ほど平面プランが崩れて、溝の幅が広くなる。第 42 図 A-A' の２層、B-B' の 10 層が SD03 の埋土である。包含層２に相当する第 42 図 B-B' の６層に形成されている。遺物は弥生土器の底部しか出土しなかったため、詳細な時期は不明であるが、包含層２に形成されていることと、SD01・02 に後出する切り合い関係か



第 50 図　B 区　SD01 出土遺物実測図（S=1:3・1:4）

ら、弥生時代後期Ｖ－２様式を前後する時期の遺構と考えられる。なお、SD03 は検出当初から竪穴建物の周堤溝である可能性を考慮して調査を進めたが、SD03 に関連する竪穴建物等の遺構は検出されなかった。



第 51 図　Ｂ区　SD03 出土遺物
実測図（S=1:4）

SD03 出土遺物（第 51 図）

第 51 図 1・2 は甕の底部で、Ｖ様式と考えられる。

SD04（第 41・42 図）

SD04 は、総長約 5m、幅 50㎝、深さ約 25㎝の溝である。南側に向かって傾斜する。SD04 の南側は地山に形成されているが、北端部付近は包含層 3 に形成されている（B-B' の 17 層）。遺物は出土していないが､SD01 に切られていることから､SD01 に先行し、かつ SI01-2 以前に形成された弥生時代後期前葉以前の遺構であることが考えられる。

SI02（第 52 ～ 54 図）

炭窯 1 の下層（包含層２）から検出された一辺 3.5 ～ 3.7m の方形プランの竪穴建物である。建物の北よりの西壁に長さ 80㎝程度の煙道が付属した造り付け竈を有している。建物に伴う柱穴は中央部に２つあり（P2、P3）、主柱穴と考えられる。P1 は貼り床（B-B' の 6 層）に掘り込まれている。P5 は P1 に先立ち、貼り床から掘り込まれたものである。壁際溝は壁体に沿って、断続的に検出されている。床面には焼土、炭溜り、床しみ等が部分的に認められた。

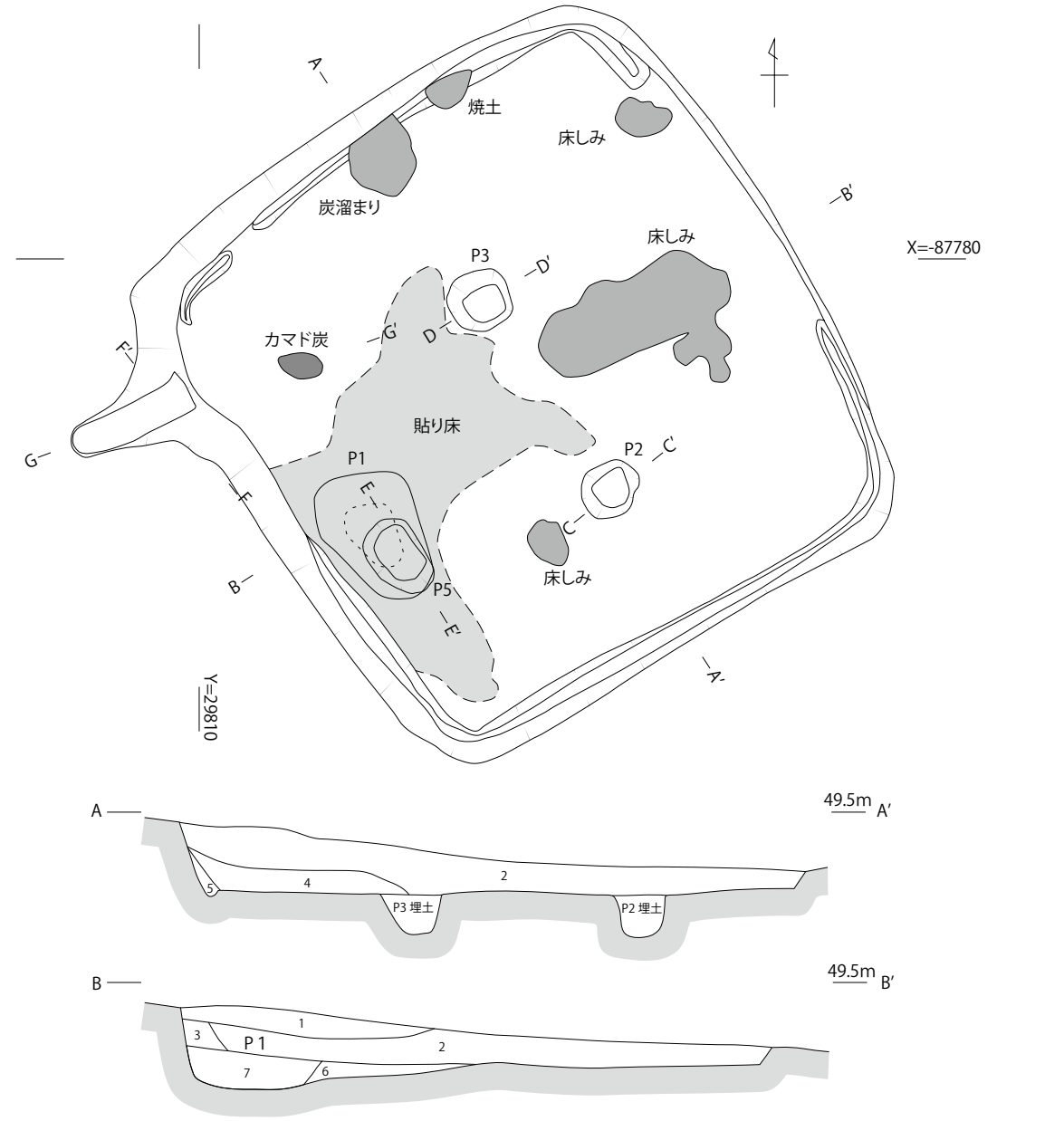
造り付け竈は拳大の礫と粘土で形成されており、煙道が設けられている。竈は幅 40㎝、奥行きは最大で 70㎝ある。煙道の長さは約 80㎝、煙道を形成するための掘肩は、竪穴建物との接続部分で幅約 100㎝ある。第 53 図の F-F' の２層は、この掘肩に煙道を形成するために充填した土と考えられる。また、焚口の内面は赤褐色の焼土がみられる（F-F' の３層）。煙道の天井部はすでに崩落しているが、煙道の下層に部分的にその崩落層が確認できる（G-G' の３層）。また、煙道の煙出し部から、ほぼ完形の須恵器の皿（第 61 図 1）１点が、正置した状態で出土している。SI02 廃絶時に際し、意図的に埋置されたものと考えられる。なお、この須恵器皿の口縁部の欠片が、建物内の南東隅床面から検出されている（第 54 図）。建物の時期は、煙道から出土した須恵器皿から、7 世紀末葉と考えられる。なお、造り付け竈から出土した炭化物に対して放射性炭素年代測定を行ったところ、7 ～ 8 世紀の分析結果が出されている（第 4 章第 1 節参照）。

SI02 出土遺物（第 61 図 1）

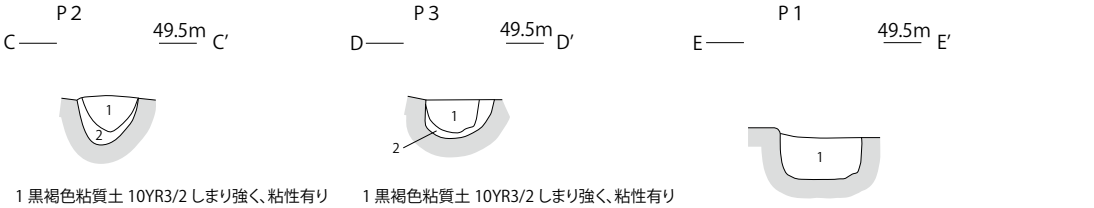
第 61 図 1 の須恵器皿外面は、回転糸切りの後に、中心部はナデ調整、外縁はヘラ削りが行われている。7 世紀末葉と考えられる。

SI03（第 55 図・第 56 図）

SI03 は竪穴建物等の可能性が考えられる遺構である。ただし、平面プランが円形にならず、南北約 3m ×東西約 4m の土坑状の遺構である。また､SI03 に伴う壁際溝や柱穴は検出されなかった。



1.黒褐色粘質土 10YR3/1粘性弱くしまり強い　黄色土ブロック含む
2.黒褐色粘質土 10YR2/3 しまり強い 粘性有り　黄色土ブロック多く含む
3.にぶい黄橙色粘質土 10YR7/4 しまり強い 粘性強く　一次堆積土、黄橙色ブロックの集合、部分的に黒褐色粘質土ブロック含む、地山の小石を少量含む
4.黄褐色粘質土(10YR5/6)ブロックと暗褐色粘質土(10YR3/4)ブロックの混合土 粘性弱くしまり強い
5.黄褐色粘質土(10YR5/6)ブロックと褐色粘質土(10YR4/6)ブロック(地山)の混合層 粘性強くしまり有り　一次堆積土層
6.貼り床層 10YR6/8(明黄褐色粘質土ブロック多)とにぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)の混合層 粘性強くしまり強い
7.6層とほぼ同じ土色、平面プランに対応して落ち込みが観察された、6層を掘りこんだピット(P1埋土)



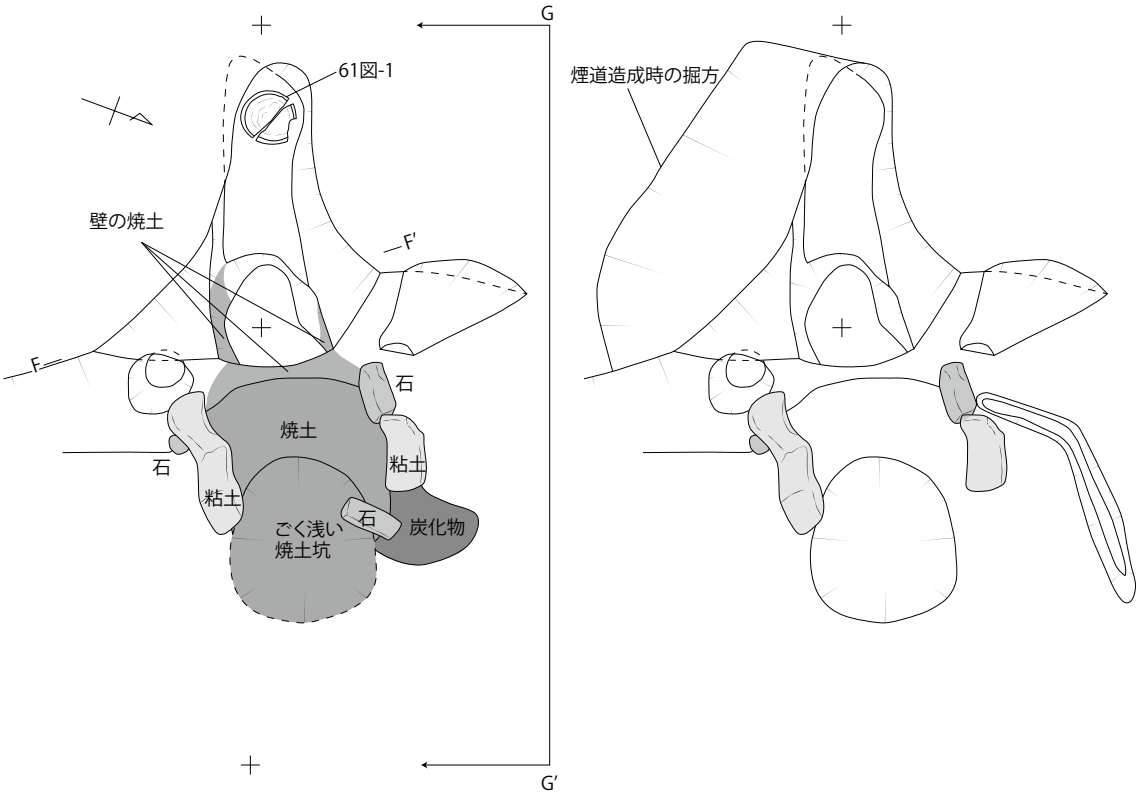
1 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強く、粘性有り
2 暗褐色粘質土 10YR3/3 しまり有り、粘性強い

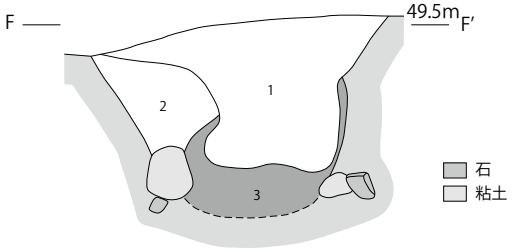
1 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強く、粘性有り
2 暗褐色粘質土 10YR3/3 しまり有り、粘性強い

1 暗褐色粘質土 10YR3/4 しまり有 粘性強
黄色ブロック、白色粒、明黄褐色(10YR6/8)の土が混じる

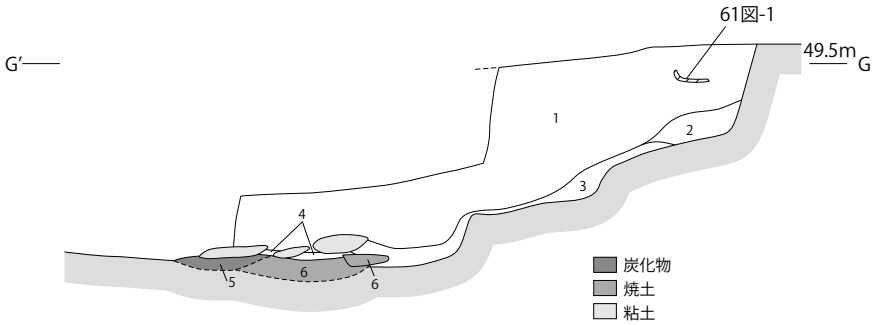
0　2m
(S=1:40)

第 52 図　B 区　SI02 実測図（1）（S=1:40）





1. 黒褐色粘質土 10YR2/3　粘性有り　黄色土ブロック・地山ブロック・焼土粒含む
2. にぶい黄褐色粘質土 10YR4/5　粘性有り　煙道掘方
3. 明赤褐色土 5YR3/6(焼土)　煙道側面及び底面



1. 黒褐色粘質土 10YR2/3　粘性有りしまり強い　黄色ブロック・地山ブロック・焼土粒含む
2. 黒褐色粘質土 10YR3/4　非常にしまりのない土　焼土粒・炭化物含む
3. 明赤褐色土 2.5YR3/6(焼土)　天井の崩落土
4. 暗褐色粘質土　粘性有りしまり強い　黄色土ブロック含む
5. 炭化物層（0.5-1cm厚のうすい層、地山直上）
6. 焼土層　焼土坑、浅く凹む、焚口

0　1m
(S=1:20)

第 53 図　B 区　SI02 実測図（2）（S=1:20）

地山に形成された遺構で、埋土から古代の遺物、弥生後期前葉の土器片がわずかに出土している。なお、SI03 の南側は SI04 の形成時に切られた土層堆積が確認できる（第 55 図 C-C' の 6 層）。出土遺物と SI03 の切り合い関係から、弥生時代後期前葉（Ⅴ－２様式）を前後する時期の遺構と考えられる。

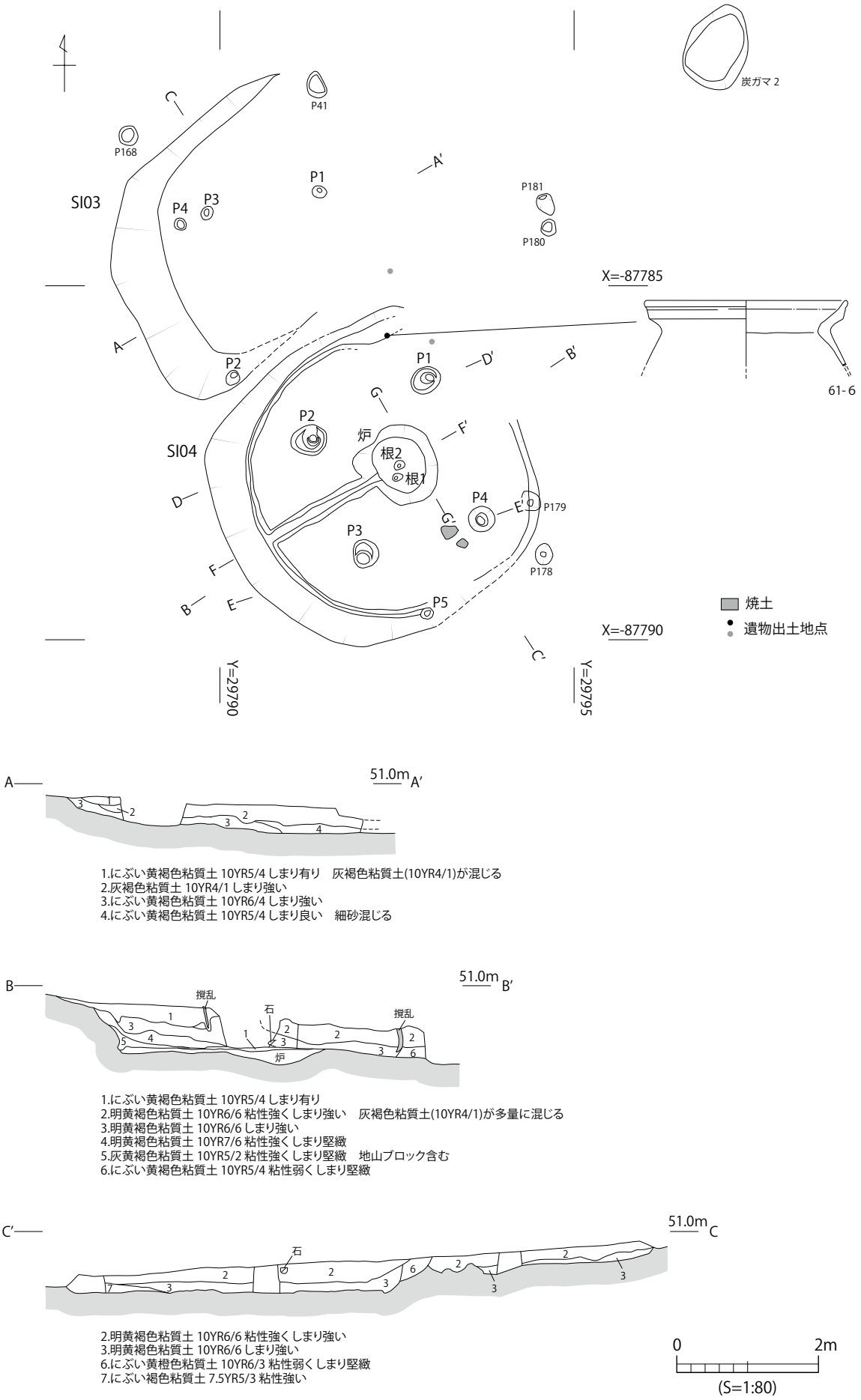
SI03 出土遺物（第 61 図 2・3）

第 61 図 2 の甕は、口縁部外面が摩滅しているが、僅かに３条の擬凹線が施されている。Ⅴ－２様式と考えられる。3 は古代の甕で、口縁部はあまり外反せず、長胴のものであろう。

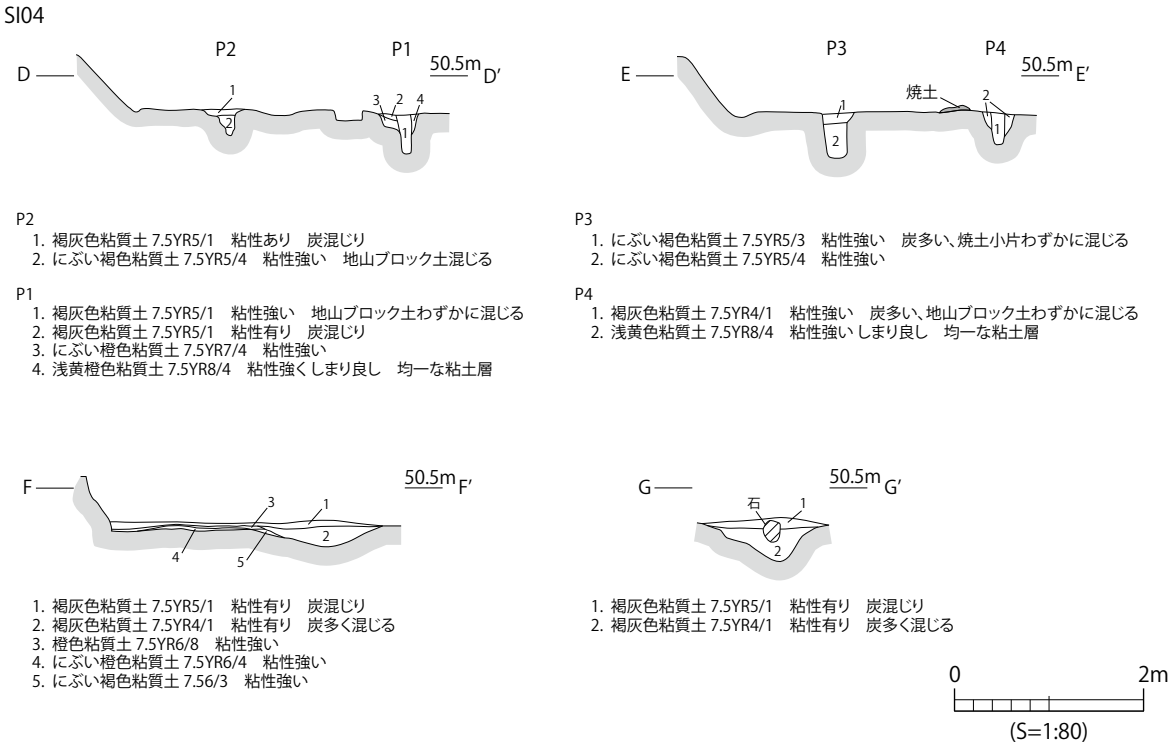
SI04（第 55・56 図）

直径約 5m の竪穴建物である。平面プランは円形であるものの、建物の東端は地形が傾斜しており、壁際溝が部分的に検出されるにとどまった。竪穴部分は西側で深さ約 60㎝あり、壁際溝は良好に遺存する箇所で、幅約 8 ～ 10㎝、深さ約 10㎝である。建物床面の中央部に約 1.4m ×約 1.0m の炉が設けられており、炉からは壁際溝に向かって、長さ約 1.6m、幅約 20㎝、深さ約 10㎝の排水溝が伸びていた。炉から検出された炭化物を放射性炭素年代測定（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期末～後期前葉の年代（B.C.80 ± 20）が測定された（第 4 章第 1 節参照）。また、４つの主柱穴（P1、P2、P3、P4）、床面に焼土が検出された。SI04 には SI03 と共に、周堤溝は確認されなかった。出土遺物は弥生土器の欠片がわずかに出土した（第 61 図 4 ～ 9）。弥生時代後期前葉（Ⅴ－１様式）の遺構と考えられる。

第 54 図　B 区　SI02 遺物出土状況図（S=1:40）



第 55 図　Ｂ区　SI03・04 実測図（1）（S=1:80）



第 56 図　B 区　SI03・04 実測図（2）（S=1:80）

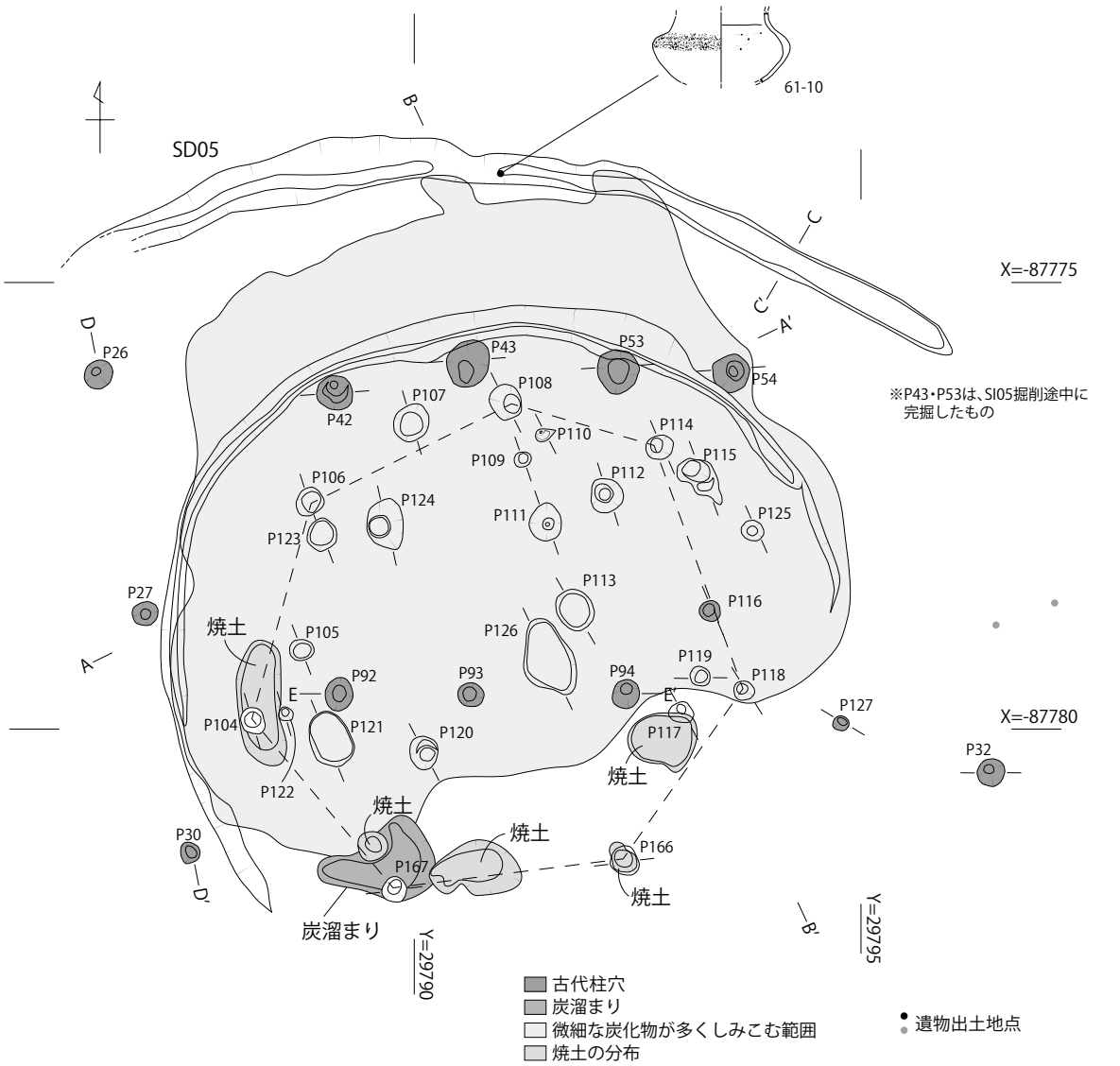
SI04 出土遺物（第 61 図 4 ～ 9）

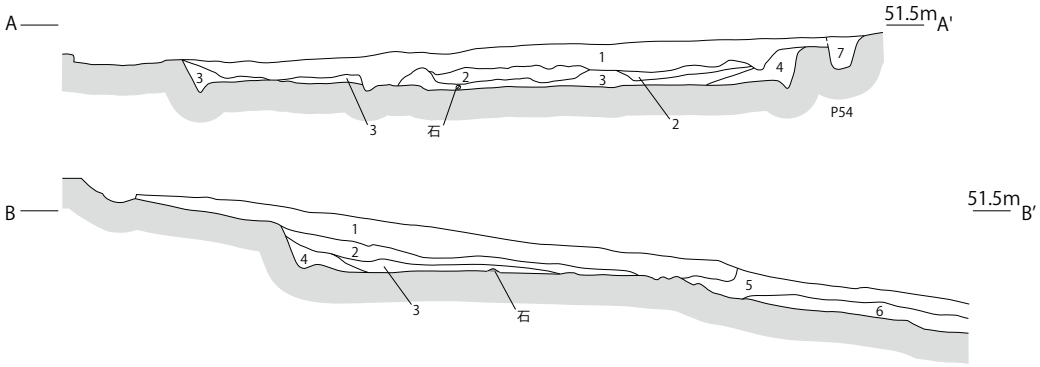
第61図４～６は甕である。６には１条の擬凹線文が施されている。いずれも弥生時代後期前葉（Ⅴ－１様式）と考えられる。７・９は壺の底部、８は甕の底部と考えられる。７・９はⅠ－４様式の可能性も考えられるが、８を含めてⅠ～Ⅴ様式と考えられる。

SI05（第 57 ～ 60 図）

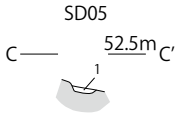
直径 7.6m の竪穴建物である。柱穴の検出状況から平面プランは円形になるものと考えられるが、南半分は地形が南側に傾斜しているため、すでに床面が流出しており、壁際溝も検出できなかった。調査では、包含層 1 の直下から微細な炭化物を多く含んだ淡黒褐色土、炭溜り、焼土が SI05 の平面プランとほぼ重なるように検出された（第 57 図）。これらは、SI05 の火災に伴う屋根葺き材の炭化物や焼土と考えられる。炭溜りの炭化物も放射性炭素年代測定（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期後葉～後期前葉の年代（B.C.80 ± 20）が報告されている（第 4 章第 1 節参照）。

建物上層の竪穴部分は北側で深さ約 45㎝あり、壁際溝は良好に遺存する箇所で幅約 20㎝、深さ約 10㎝ある。SI05 北側の埋土中からは、炭化材や焼土が検出された（第 59・60 図）。これらは床面の北側に集中しており、南側では検出されなかった。これは、建物南側の地形が南に向けて傾斜しているので、炭化材・焼土ともすでに床面もろとも流出している可能性が考えられる。あるいは、建物の奥側（入り口側の反対）で不完全燃焼が発生していた結果である可能性も考えられる。炭化材は建物に伴う建築部材と考えられる。また、これらの炭化材の多くが、焼土の中、あるいは焼土の下から出土している状況に鑑みれば、焼土は屋根を覆う土が被熱を受けた残滓と考えられる。炭化材の多くが繊維方向を建物中央に向けて放射状に出土していることから（第 59・60 図）、垂木の部材も含まれていると考えられる。炭化材は樹種と年代を測定するため、８点を分析試料とし

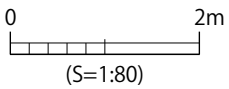




1.黒褐色粘質土 10YR3/1 粘性弱くしまり普通　土器片混じり
2.にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 粘性やや強くしまり良し　炭混じり
3.暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性強い
　多量の炭が混じる、明赤褐色焼土(2.5YR5/8)ブロックが混じる
4.暗灰黄色粘質土 2.5YR4/2 粘性強い　わずかに炭混じる
5.にぶい黄橙色粘質土 10YR6/4 粘性強くしまり堅緻
6.褐色粘質土 10YR4/4 粘性強くしまり堅緻
7.黒褐色粘質土 10YR3/1 粘性強い(P54)



1.にぶい褐色粘質土 7.5YR5/3 粘性強くしまり良し　細砂多く含む



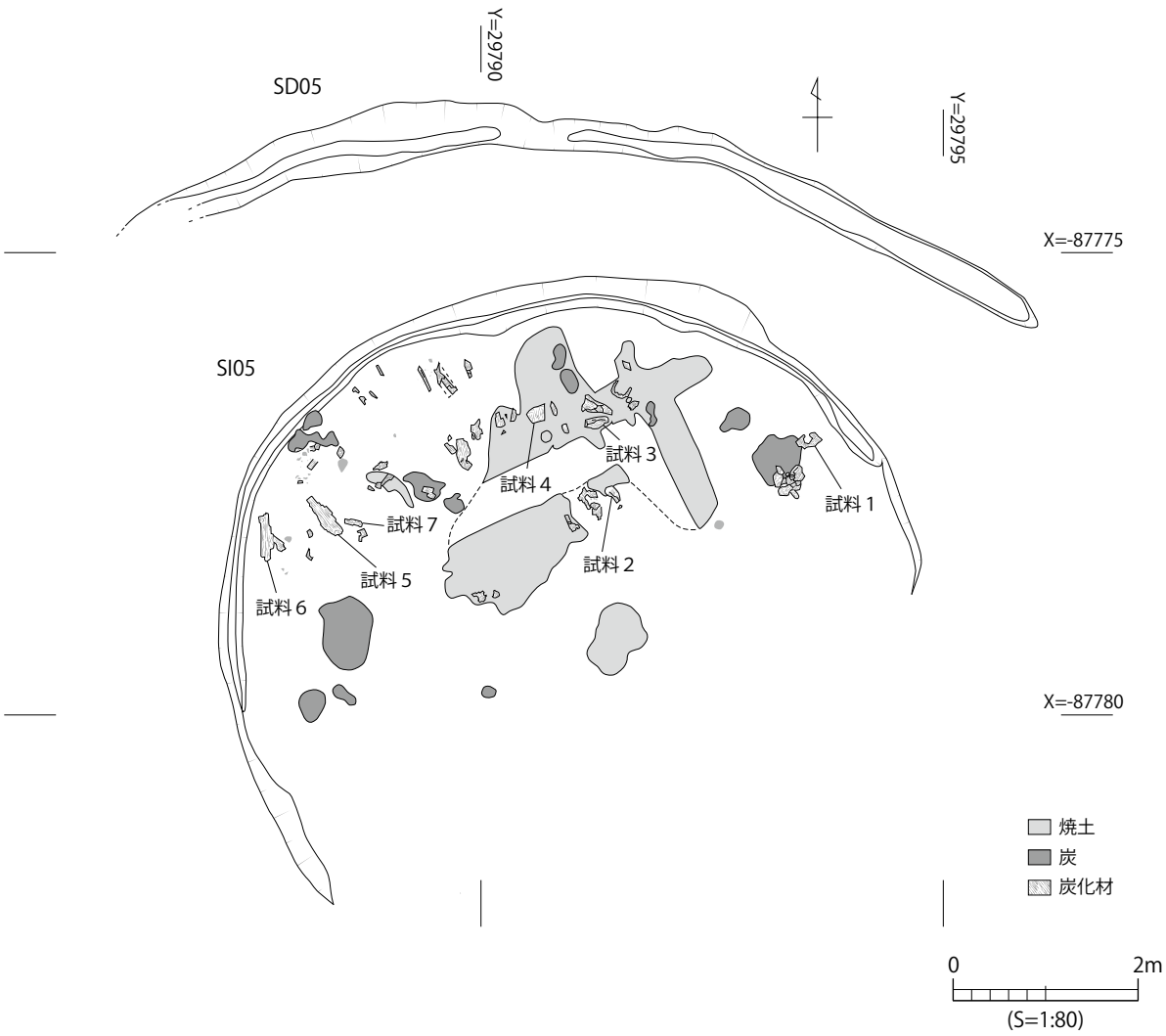
第 57 図　Ｂ区　SI05 実測図（1）（S=1:80）

た（第４章第２節参照）。試料２は丸みを帯びた炭化材であったが、試料１・３～８は幅約 8㎝前後の板状の炭化材で、いずれも繊維方向が建物中央部を向いていた。樹種鑑定の結果では、試料２のみタブノキで、試料１・３～８がツブラジイであった。以上のことから、試料１は建物の柱材や桁材、試料１・３～８は板状の部材を用いた垂木であった可能性が考えられる。なお、炭化材の年代測定では、弥生時代中期末～後期前葉の年代（B.C.50 ± 20）が得られている（第４章第１節参照）。

建物に伴う可能性がある柱穴は７つ検出されたが（P104、P106、P108、P115、P118、P166、P167）、P115 のみ焼土塊を多く含み、埋土の質や色調も他の６つの柱穴とは異なるものであった。これらの柱穴は概ね底面も揃っているが、建物北側の P108 のみ深い柱穴であった。

また、P111、P112、P113、P114、P115、P119、P126 は焼土や炭を多く含むもので、P113

第 58 図　B 区　SI05 実測図（2）（S=1:80）



第 59 図　Ｂ区　SI05 焼土・炭・炭化材検出状況図（S=1:80）

と P126 は建物の中心にあることから、炉であった可能性が高いものと思われる。P111 と P112 はごく浅いものであることから、地床炉の痕跡であったものと考えられる。後述するように、SI05 と SI05 に伴う周堤溝の SD05 から、Ｖ－１～２様式の甕・壺が出土していることから、SI05 の時期は弥生時代後期前葉と考えられる。

なお、第 57 図のスクリーントーンで示した柱穴は SI03 検出前、もしくは掘削途中に検出された古代に属する柱穴である。P26 ‐ P27 ‐ P30、P92 ‐ P93 ‐ P94、P42 ‐ P43 ‐ P53 ‐ P54 は、建物プランを明らかにできるものではないが、直線的で等間隔に並んでいることから、掘立柱建物の一部や柵列であった可能性が考えられる。

SI05 出土遺物（第 61 図 11・12）

第 61 図 11 は甕、12 は壺の底部と考えられる。Ｖ様式のものと考えられる。

SD05（第 57 図）

SD05 は SI05 に伴う周堤溝である。検出長約 10m、溝の幅は広いところで約 60㎝、深さ 10㎝程度である。SI05 の北側に溝の中心が最も浅くなっている。この箇所からは、口縁部と底部が打

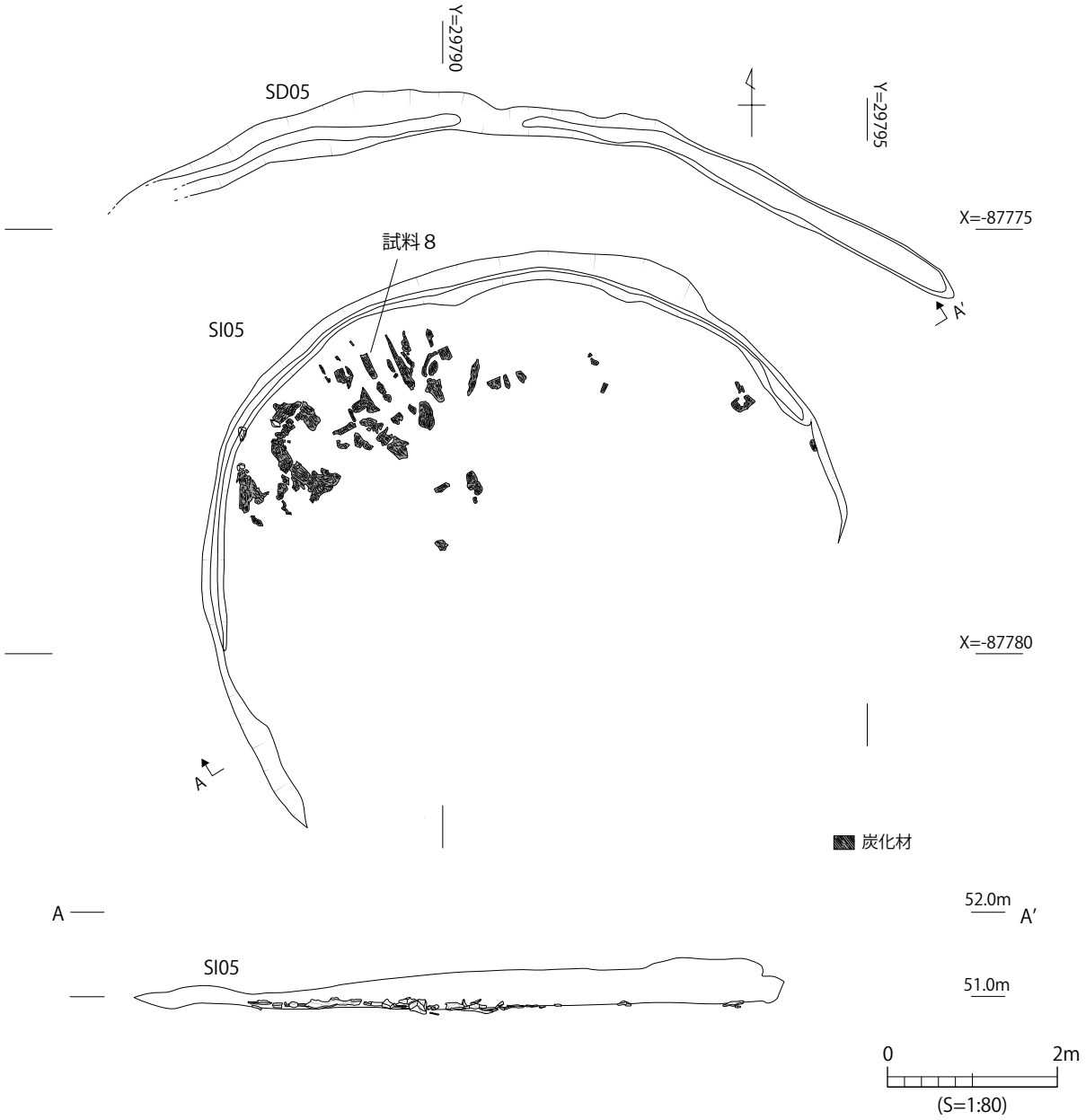
ち欠かれ、煤が付着する弥生時代後期の壺が１点のみ、意図的に据えられた状態で出土している。周堤溝の排水は、この地点を低い分水嶺として東西方向になされたものと考えられる。

SD05 出土遺物（第 61 図 10）

第 61 図 10 の壺は、口縁部と底部が打ち欠かれ、肩部が張り出した壺で、肩部に爪状工具による羽状文が施されている。肩部から胴部にかけて、煤が付着している。SI05 の焼失時に付着した可能性が考えられる。Ｖ－１～２様式の壺と考えられる。

SI06（図 62 ～ 64 図）

直径約７　～ 7.2m の竪穴建物である。SI06 の北側の一部は地山に形成されていたが、ほとんどが包含層４を掘り込んで造られている。このため、SI06 の埋土には弥生時代前期後葉（Ｉ－３様式主体）の土器が含まれていた。南側周堤溝は建物の西側と東側から検出されている。この周堤溝



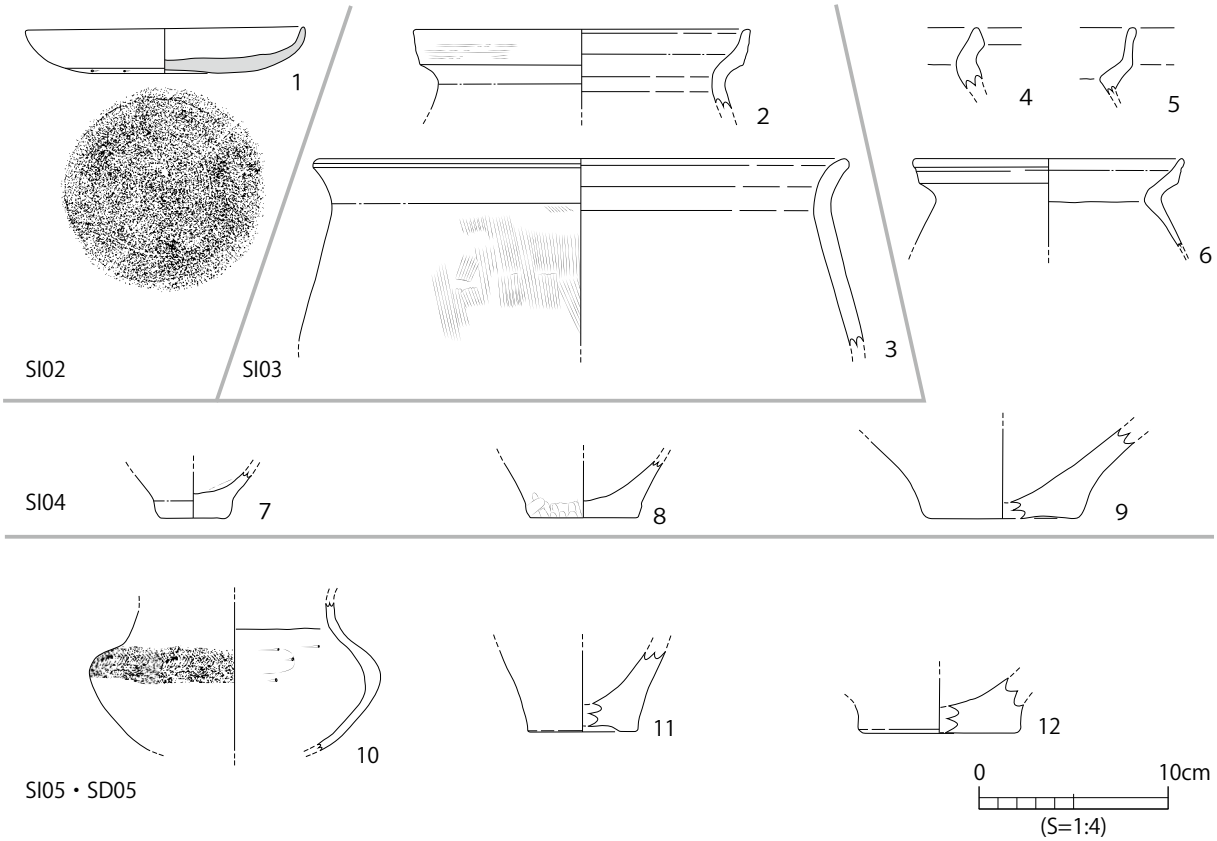
第 60 図　B 区　SI05 床面の炭化材検出状況図（S=1:80）

は、建物の北側で検出されなかったことから、SI01-1 と SI05 と同じく、建物の北側を分水嶺として、東西に周堤溝を造成したものと考えられる。

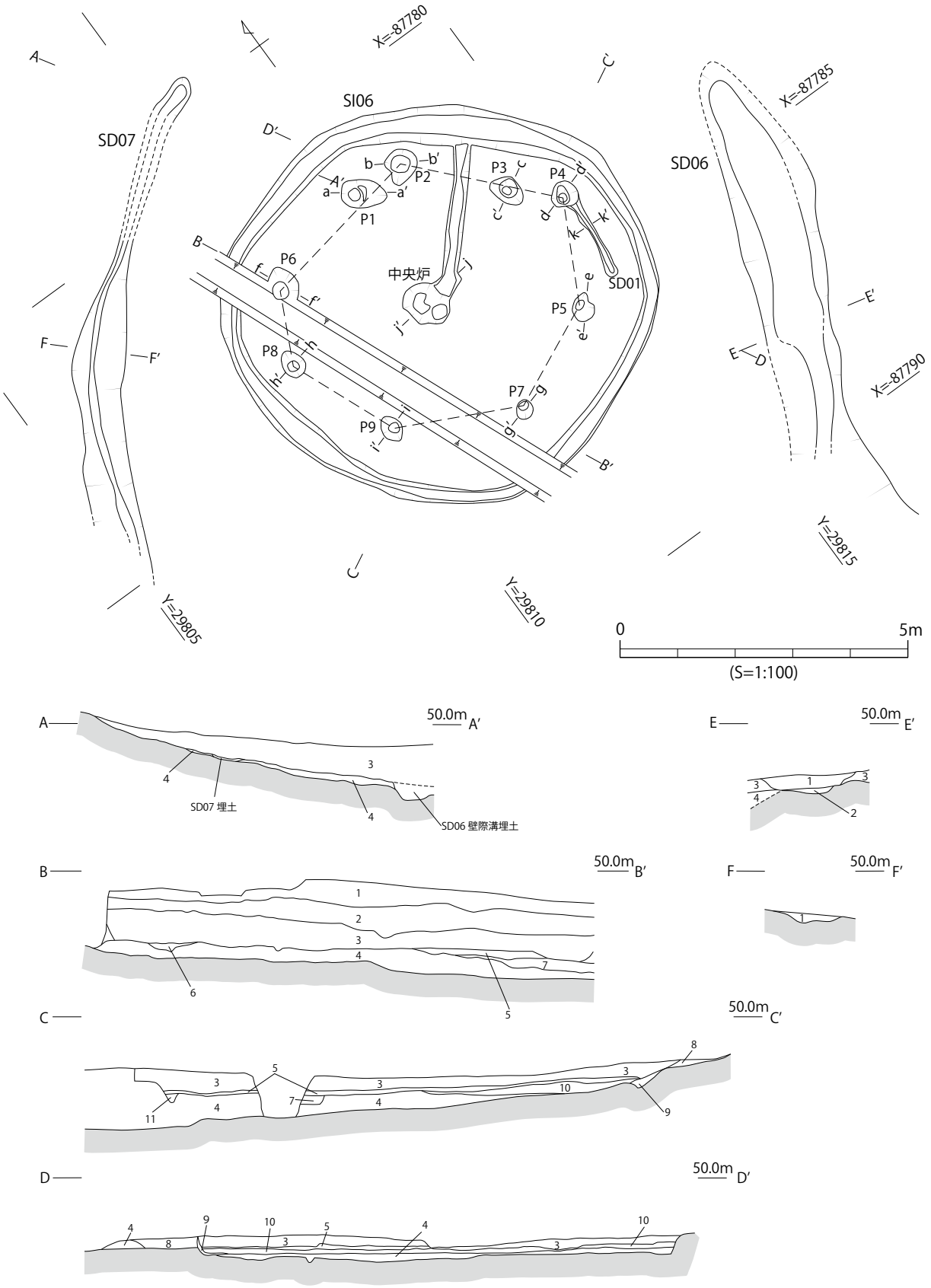
建物内部には、壁際溝が良好に検出された。幅は広いところで 70㎝、狭いところで 30㎝ある。深さは 16㎝程度である。

建物床面の中央部に直径約 80㎝の炉が設けられており、炉からは壁際溝に向かって、長さ約 2.6m、幅約 30㎝、深さ約 10㎝の排水溝が伸びている。炉から検出された炭化物を放射性炭素年代（AMS 法）で分析した結果、弥生時代中期後葉の年代（B.C.130 ± 20）が報告されている（第４章第１節参照）。建物に伴う柱穴は、P2 ～ P9 の８つが考えられる。これらの柱穴は、概ね底面の標高がそろっていること、土層観察から柱根と思われる層が観察できることから想定されるものである。P2 の埋土には炭や焼土を含む等、中央炉に類似する堆積を呈していることから、炉の可能性も考えられる。また、P4 に切られた SD01 が検出されている。SD01 は長さ約 1.4m、幅 10 ～ 20㎝、深さ 12㎝程度である。なお、建物の埋土や周辺からは、焼土塊が多数検出されており（163 頁・第６表）、焼失建物の可能性も考えられる。

第 62 図 B-B' の６層は P6 の埋土の一部である。同じく B-B'・C-C' の５層、C-C'・D-D' の９・10 層は SI06 の貼り床（床土）、７層は炭が多く含まれる土層で、別遺構の可能性が考えられた。精査の結果、７層に明確な平面プランはなく、谷部の底に堆積した層であったことが判明した。後述する出土遺物から、SI06 は弥生時代中期後葉～末（Ⅳ－１～２様式）の遺構と考えられる。



第 61 図　Ｂ区　SI02~05・SD05 出土遺物実測図（S=1:4）

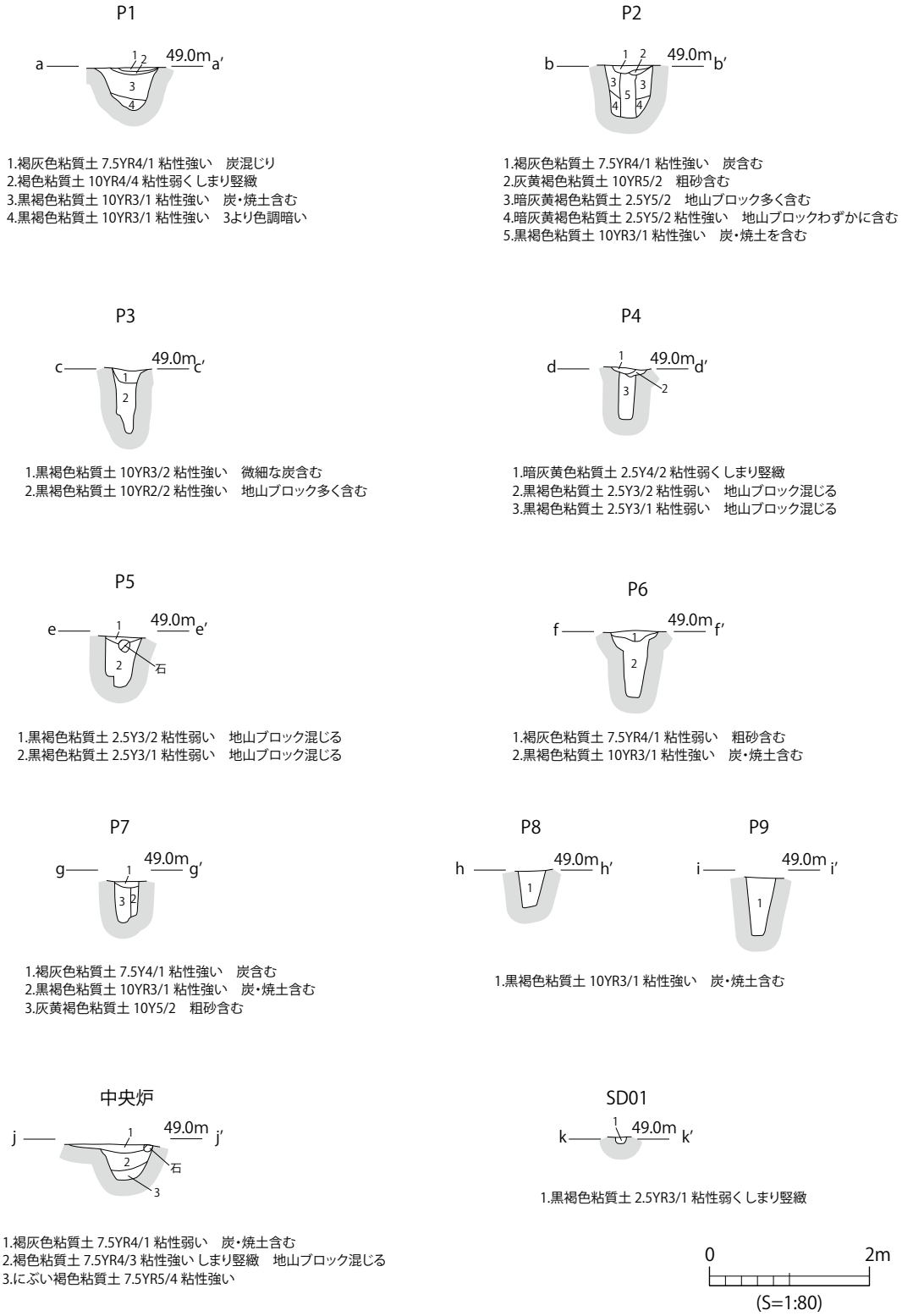


1.にぶい黄褐色粘質土 10YR5/4 粘性弱くしまり強い（包含層１）
2.黒褐色粘質土 10YR3/1 粘性有り しまり強い（包含層２）
3.黒褐色粘質土 10YR2/2 粘性有り しまり強い（SI06埋土）
4.にぶい黄褐色粘質土 10YR4/3　細砂多く含む（包含層４）
5.灰褐色粘質土 7.5YR5/1 粘性弱くしまり竪緻　炭混じり(床土)
6.褐灰色粘質土 7.5YR4/1 粘性弱い　炭・焼土含む（Ｐ６埋土）
7.暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強い　10mm程度の炭が多く混じる
8.暗灰褐色粘質土 2.5YR4/2 粘性弱くしまり竪緻
9.黒褐色粘質土 2.5YR3/1 粘性弱く　しまり竪緻　地山ブロック混じる
10.にぶい黄褐色粘質土 2.5YR6/4 粘性弱くしまり竪緻　地山ブロック混じる
11.暗褐色粘質土 7.5YR8/3 粘性強い　炭混じり、焼土ブロック土含む

第 62 図　B 区　SI06 実測図（1）（平面図 S=1:100・断面図 S=1:80）

SI06 出土遺物（第 65 図）

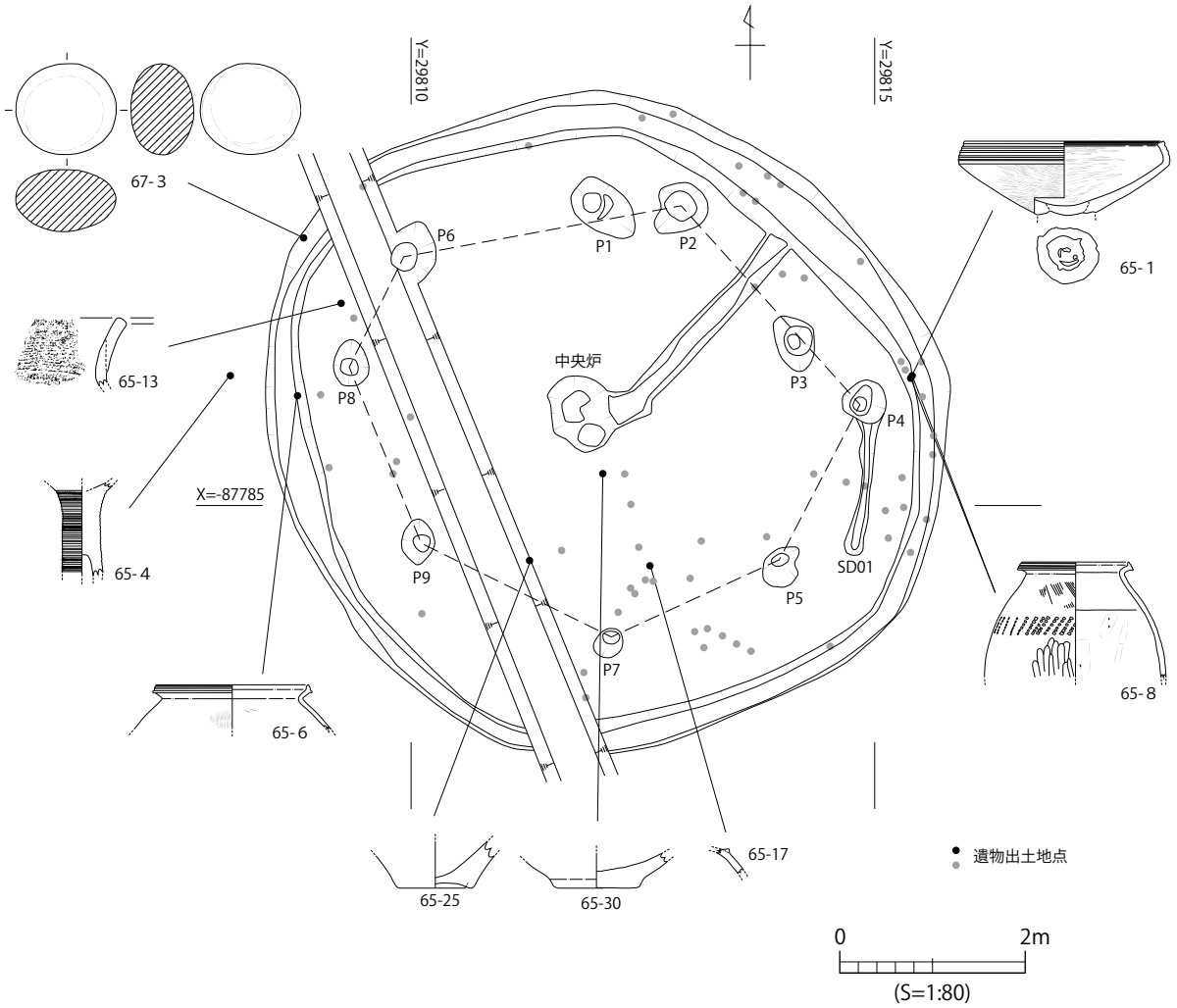
第 65 図１～４は、高坏である。１は高坏の坏部で、口縁端部に２条の擬凹線、口縁部外面には５条の擬凹線が施され、脚部との接合面に、坏部の底を粘土円盤で充填した痕跡が認められる。１は SI06 の壁際溝の床面直上から坏部内面を上に向けて出土している。２は塩町式土器の影響が考えられ、口縁端部に３条の擬凹線、口縁部外面に４条の擬凹線、口縁端部と下段に刻目文が施されている。３は脚部の裾、４は脚部筒部で、ともに２と同様の施文が施されている。なお、３・４は



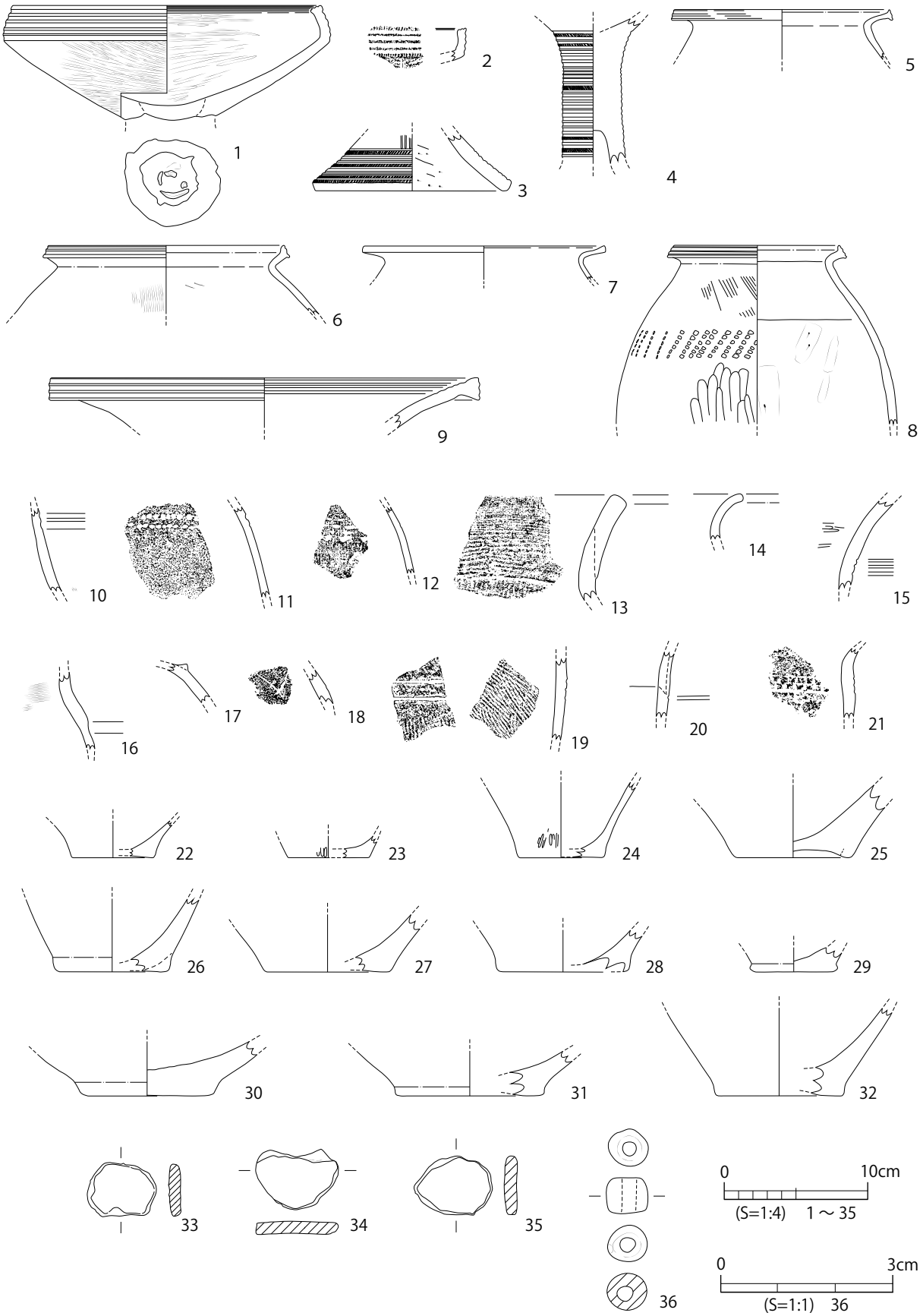
第 63 図　Ｂ区　SI06 実測図（2）（S=1:80）

土器の焼成（色調）も酷似しており、同一個体の可能性が考えられる。５～８は甕の口縁部で、6・7は口縁部外面にそれぞれ２条・３条の擬凹線、7は「く」の字状に屈曲した形態をしている。9は口縁部外面に３条の擬凹線、内面に５条の擬凹線が施されている。１～６、８～９はⅣ－２様式の特徴を色濃く有しているが、7はⅢ様式の古い様相を残す資料と考えられる。

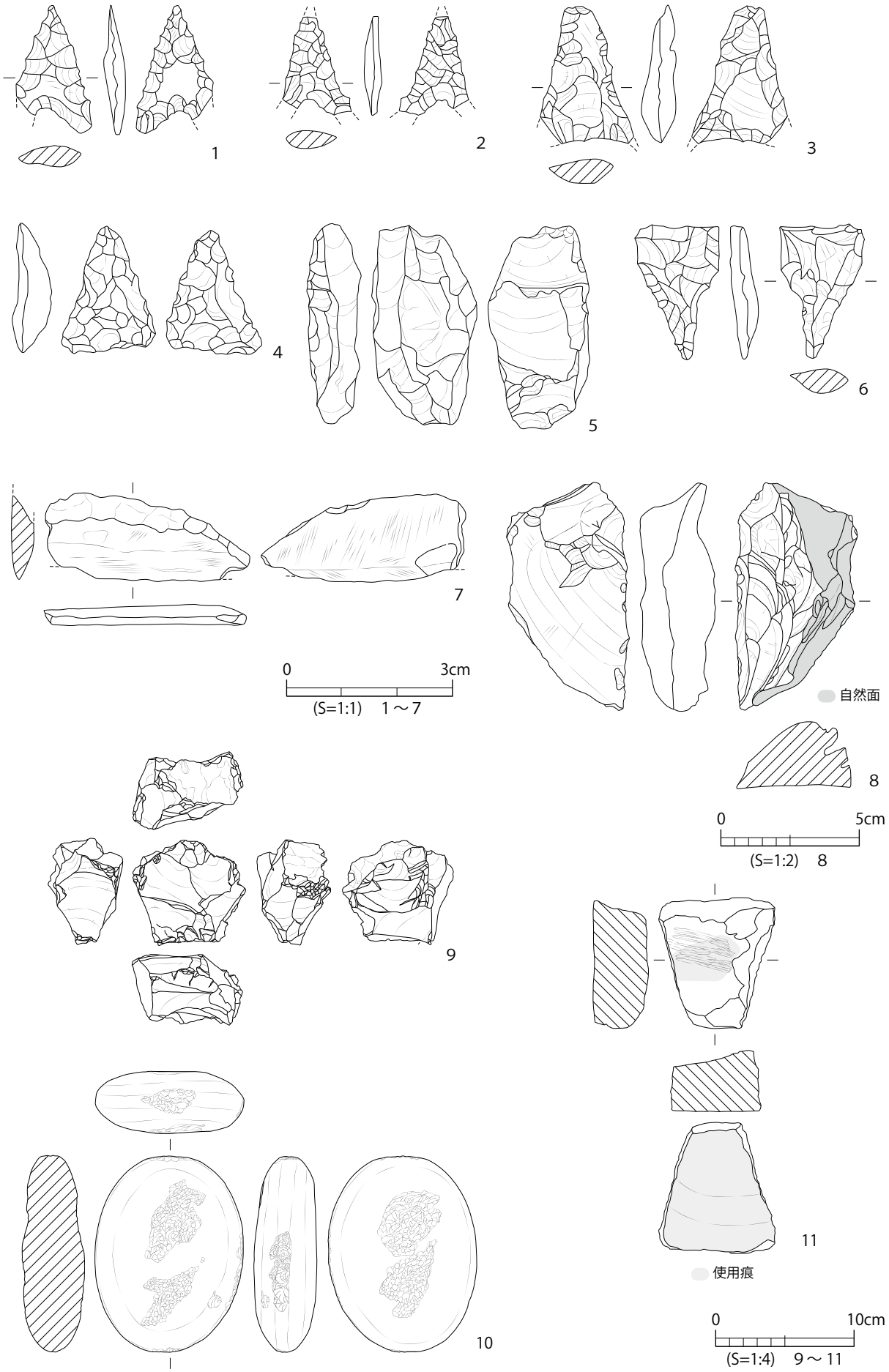
10～12はⅣ－１～２様式の壺である。13～21はⅠ－３様式が主体の壺・甕である。10は頸部に２条の擬凹線文が施され、11・12は肩部に、それぞれ２列、３列の刺突列点文が施される。13・14は壺の口縁部で、13は口縁部外面にハケ調整が施される。15～18は壺の頸部から肩部の破片で、15は頸部に３条のヘラ描直線文が施されている。16は肩部に１条のヘラ描直線文が施されている。17は肩部に断面三角形の突帯文が施されていることから、新しい要素が加わっている。18は小片であるが、肩部にヘラ描きがみられる。19～21は甕の胴部である。19は２条のヘラ描直線文、20は１条のヘラ描直線文が施されている。21は頸部直下に３条のヘラ描直線文が施され、その間を２列の刺突列点文が廻っている。22～29は甕の底部、30～32は壺の底部と考えられる。22～32はⅠ－３～Ⅳ－２様式の時期が考えられる。33～35は、弥生土器の破片を転用した円板状土製品である。土器片錘の可能性も考えられる。36のガラス小玉は、SI06西側（P8とP9のほぼ中間地点）の埋土から出土した資料である。短径6.5㎜×長径7.5㎜、厚さ7.0㎜、孔



第64図　B区　SI06遺物出土状況図（S=1:80）



第 65 図　Ｂ区　SI06 出土遺物実測図（S=1:1・S=1:4）



第 66 図　B 区　遺構出土石器実測図（1）（S=1:1・S=1:2・S=1:4）

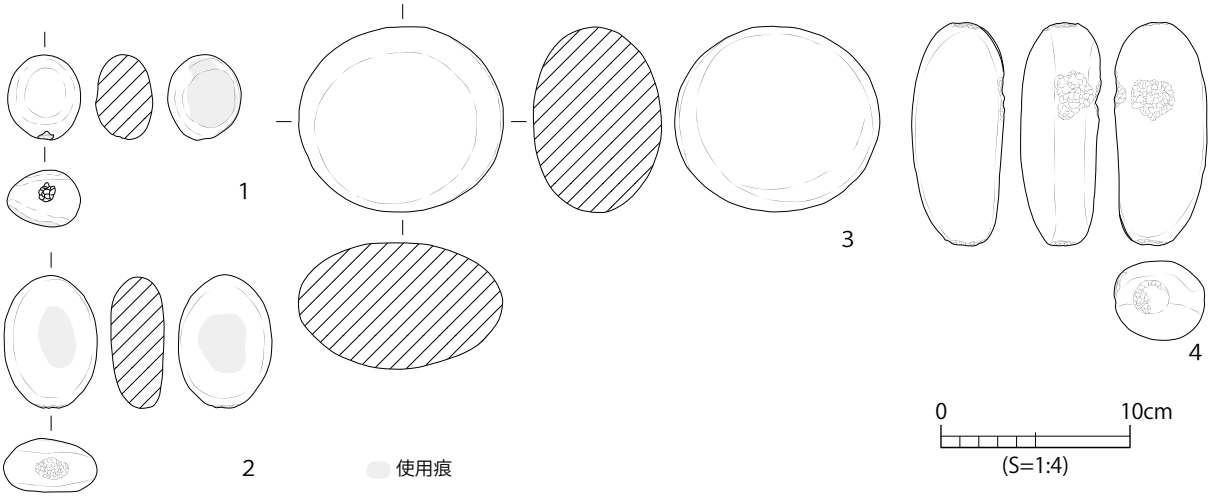
径 2.1㎜の比較的保存状態の良い資料である。ガラス小玉の端面は研磨されておらず、「引き伸ばし法」で製作されたカリガラスで、着色剤に酸化銅と酸化マンガンが使用されている（第４章第３節参照）。

SI06 の埋土と床直からは、Ｉ－３様式とⅣ様式の土器のみ検出されている。SI06 は一部が地山に形成されているものの、大部分は弥生時代前期後半（Ｉ－３様式主体）の土器群が占める包含層 4 に形成されている。このことから、包含層 4（Ｉ－３様式）の土器が SI06 の埋土に混入していると考えられる。しかし、床直から遺存状況の良好なⅣ様式の土器が複数出土していることを評価すれば、層位的、考古学的な状況証拠からみて、SI06 は弥生時代中期後葉～末（Ⅳ－１～２様式）に形成された遺構と考えられる。したがって、SI06 の埋土から検出されたガラス小玉もⅣ様式以前に帰属する可能性が考えられる。しかしながら、SI06 は弥生時代後期前半（Ｖ１～２様式）の包含層 3 に覆われていることから、ガラス小玉が後期前半以降の混入品である可能性は、完全に排除できない。

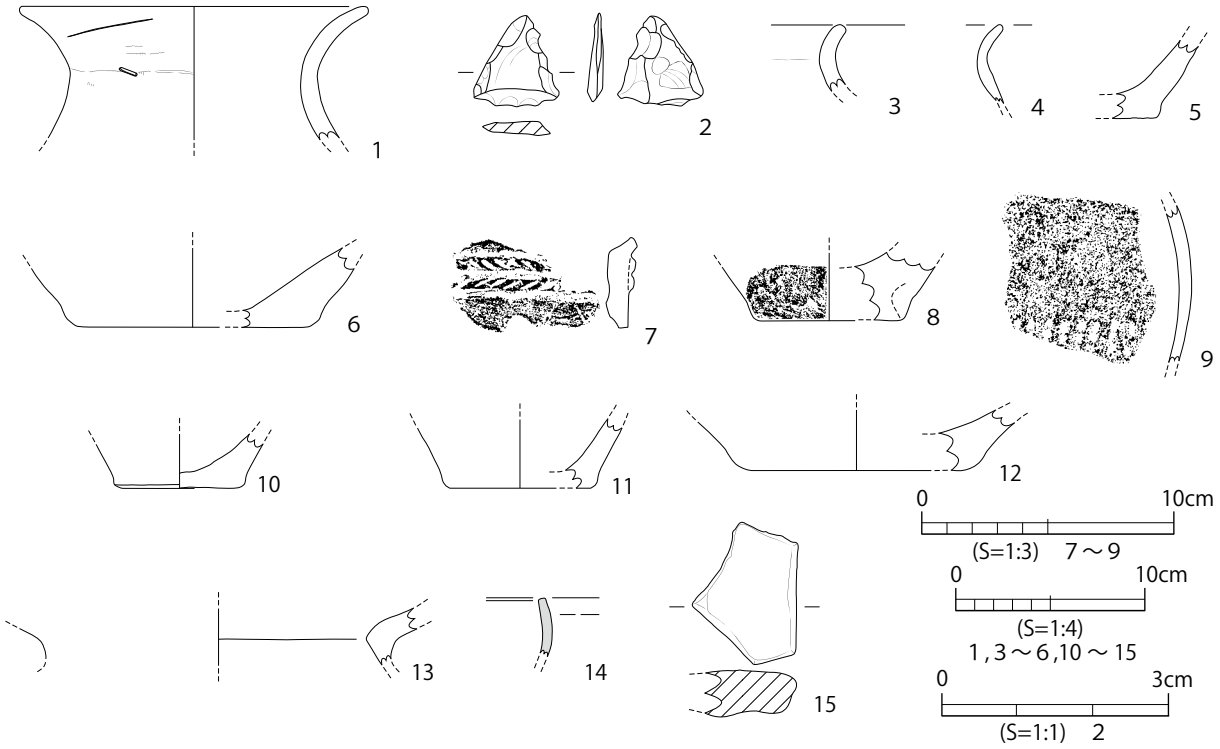
Ｂ区遺構出土石器（第 66・67 図）

第 66 図 1 ～ 3・6 は SI01-2、4・5・7 は SI06、8 は SD01、9 は SI04、10・11 は SD02 の埋土から出土した石器である。1 ～ 3 は黒曜石の石鏃で、4 は玉髄製の石鏃未成品である。5 は玉髄の剥片である。6 は玉髄製の石錐である。7 は頁岩製の石包丁の一部である。9 は玉髄の石核である。10 は流紋岩製の磨石で敲打痕もみられることから、敲石に転用あるいは併用された可能性が考えられる。11 は砂岩製の石皿で、溝状の研ぎ痕跡がみられる。

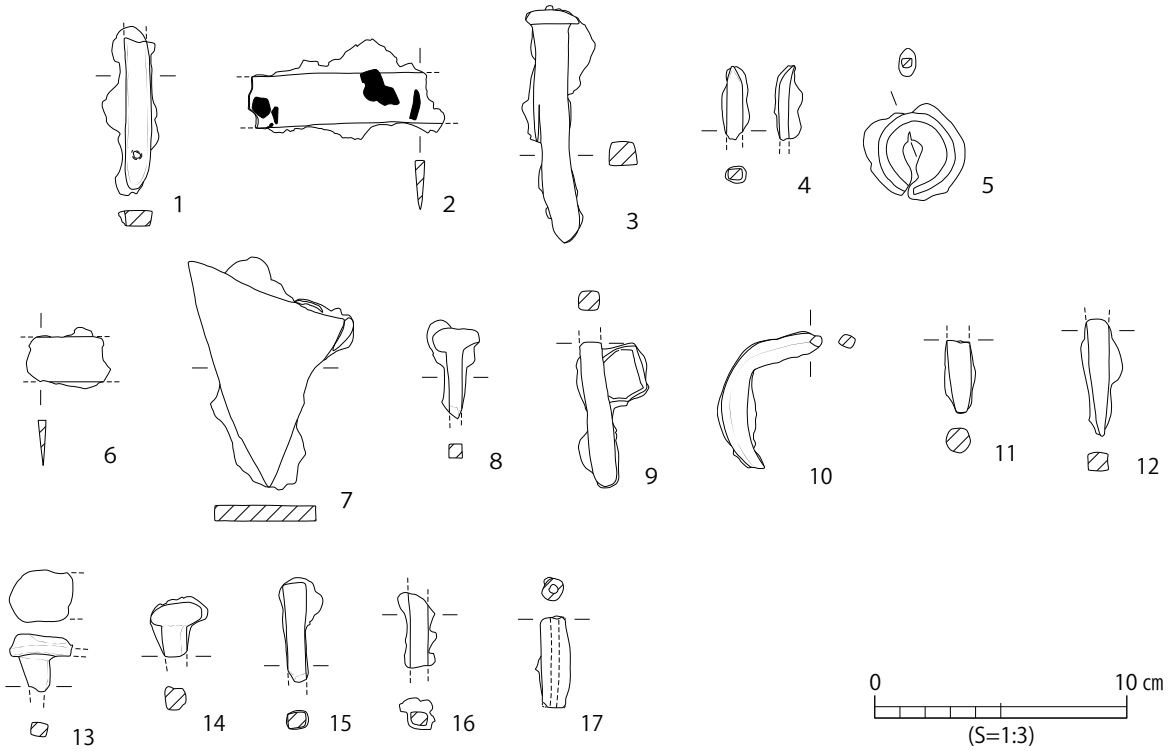
第 67 図 1 ～ 4 は SI06 から出土した石器である。1 は安山岩製の磨石で、端部に敲打痕がみられることから、敲石に転用あるいは併用された可能性が考えられる。2 は砂岩製の磨石である。端部に敲打痕がみられることから、敲石に転用あるいは併用された可能性が考えられる。3 はデイサイト、あるいは流紋岩製と考えられる磨石である。全体がよく磨られている。4 は安山岩製の敲石で使用痕が各所にみられる。敲打痕が磨られている箇所もあることから、磨石としても併用された可能性が考えられる。



第 67 図　Ｂ区　遺構出土石器実測図（2）（S=1:4）



第 68 図　A 区 B 区　ピット出土遺物実測図（S=1:1・S=1:3・S=1:4）



第 69 図　B 区　出土鉄器実測図（S=1:3）

Ａ区・Ｂ区ピット出土遺物（第 68 図）

１はＡ区の P72、２はＡ区 P95、３・８はＢ区 P1、４はＢ区 P61、５はＢ区 P71、６・７はＢ区 P70、９はＢ区 P200、10 はＢ区 P100・P62、11 はＢ区 P143、12 はＢ区 P66、13 はＢ区 P43、14 はＢ区 P131、15 はＢ区 P10 の埋土から出土した資料である。

１・３・４は弥生前期後葉（Ｉ－３～４様式）の壺の口縁部で、同じく 13 は甕の頸部である。２は安山岩製と考えられる石鏃である。５・６・８・10 ～ 12 は、甕・壺の底部である。６・12 は大形の壺で、Ｉ－３～４様式の可能性が考えられる。７はＩ－３～４様式の甕の頸部と考えられる。２条の刻み目を施した突帯文が廻っている。９はⅢ～Ⅳ様式の甕の胴部と考えられ、３列の刺突文が廻っている。14 は古代の須恵器・坏である。15 は移動式竈の一部と考えられる。

Ｂ区出土鉄器実測図（第 69 図）

Ｂ区からは、SI01-1 の埋土と包含層１から鉄製品が出土している。第 69 図１・２・６は刀子状の鉄製品で、SI01-1 の床直から出土した。１には目釘孔が認められる。２には炭化物が付着している。３・８～ 16 は鉄釘で、８、14、13 は頭部を方形に造っている。４は SI01-1 の周堤盛土と考えられる堆積層から出土したヤリガンナである。５は環状の鉄製品であるが、用途は不明である。７は三角形をした鉄板で、17 は筒形の鉄製品であるが、両者とも用途は不明である。

Ｂ区 SI06 周辺の最終面（地山）検出遺構（第 70 図）

SI06 周辺は、Ｂ区を南北に走る谷状地形にあるため、SI06 調査後に包含層４中と、最終面（地山）の遺構検出に努めた。その結果、地山面に P（柱穴）の他、SK（土坑）や SD（溝状の遺構）を検出した。P は木根の痕跡と考えられるものもあり、掘立柱建物等の有意な遺構を構成するものではなかった。

SK03（第 70・71 図）

SI06 の床面直下から検出された楕円形の平面プランをした土坑である。長径約 1.5m、短径約 80㎝、深さ約 65㎝をはかる。SK03 の南側は浅い段がある。主軸をほぼ南北方にしており、土坑墓の可能性もあるが、遺構の性格付けに決め手を欠く。包含層４の遺物のほとんどが弥生時代前期後葉に属することから、それ以前の遺構と考えられる。

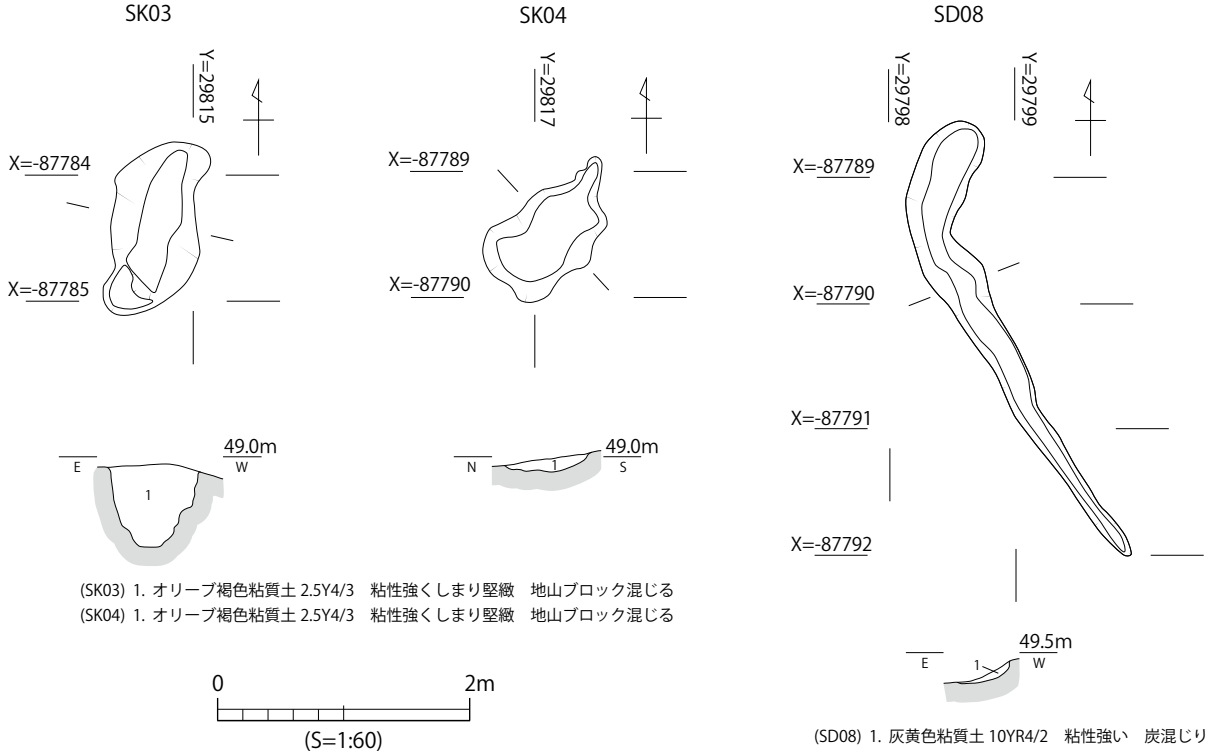
SK04（第 70・71 図）

SI06 の南東側の周堤溝直下で検出された不整形の浅い土坑である。SK03 の埋土と同じことから、ほぼ同時期の遺構と考えられる。遺構の性格は不明である。

SD08（第 70・71 図）

SI02 の西側の地山面で検出された溝状の遺構。埋土には炭が若干混じっている。遺構の性格は不明である。

第 70 図　B 区　SI06 周辺の最終面（地山）検出遺構実測図（S=1:200）



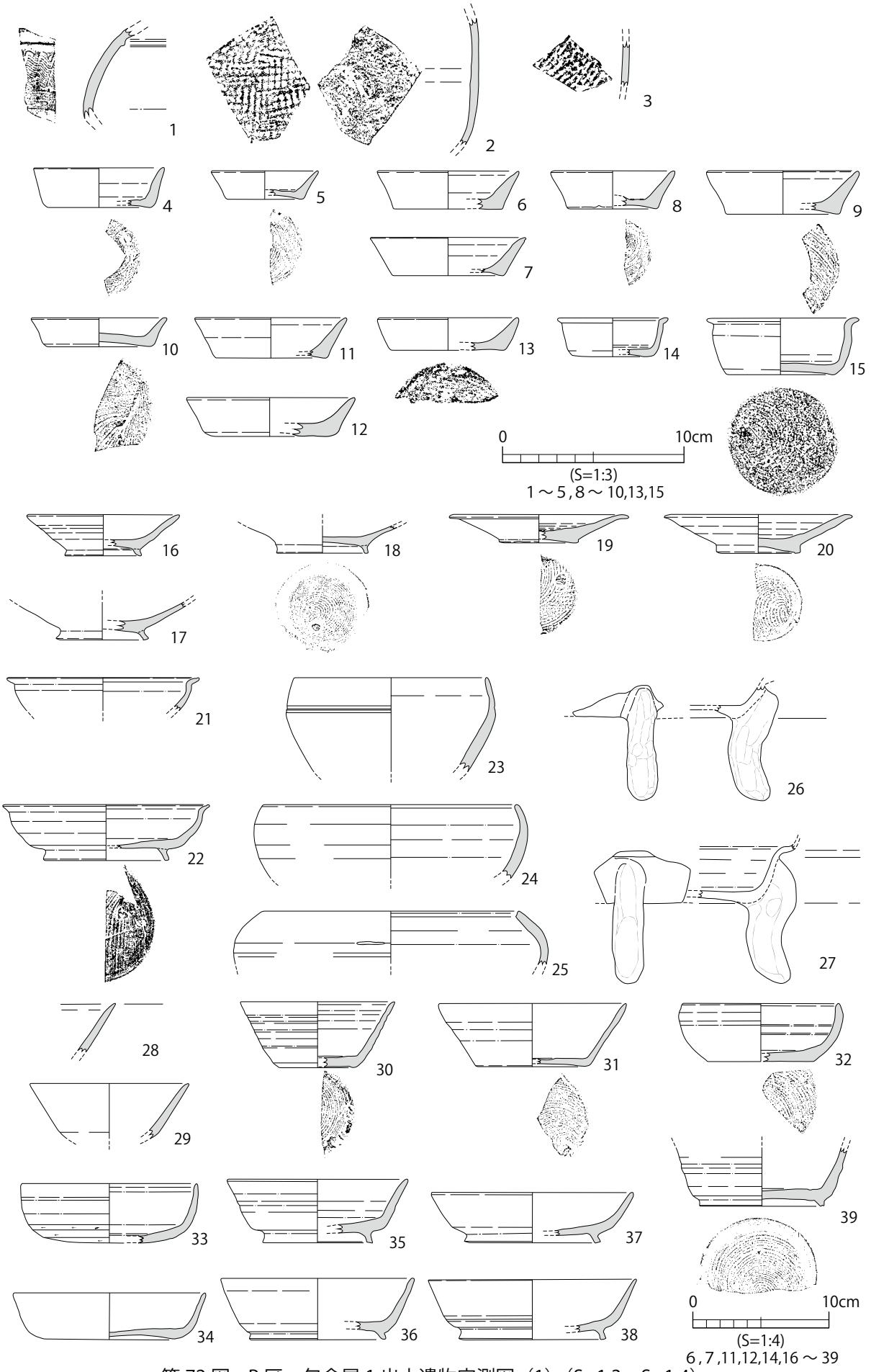
第 71 図　B 区　SK03・04、SD08 実測図（S=1:60）

B 区包含層 1 出土遺物（第 72 ～ 75 図）

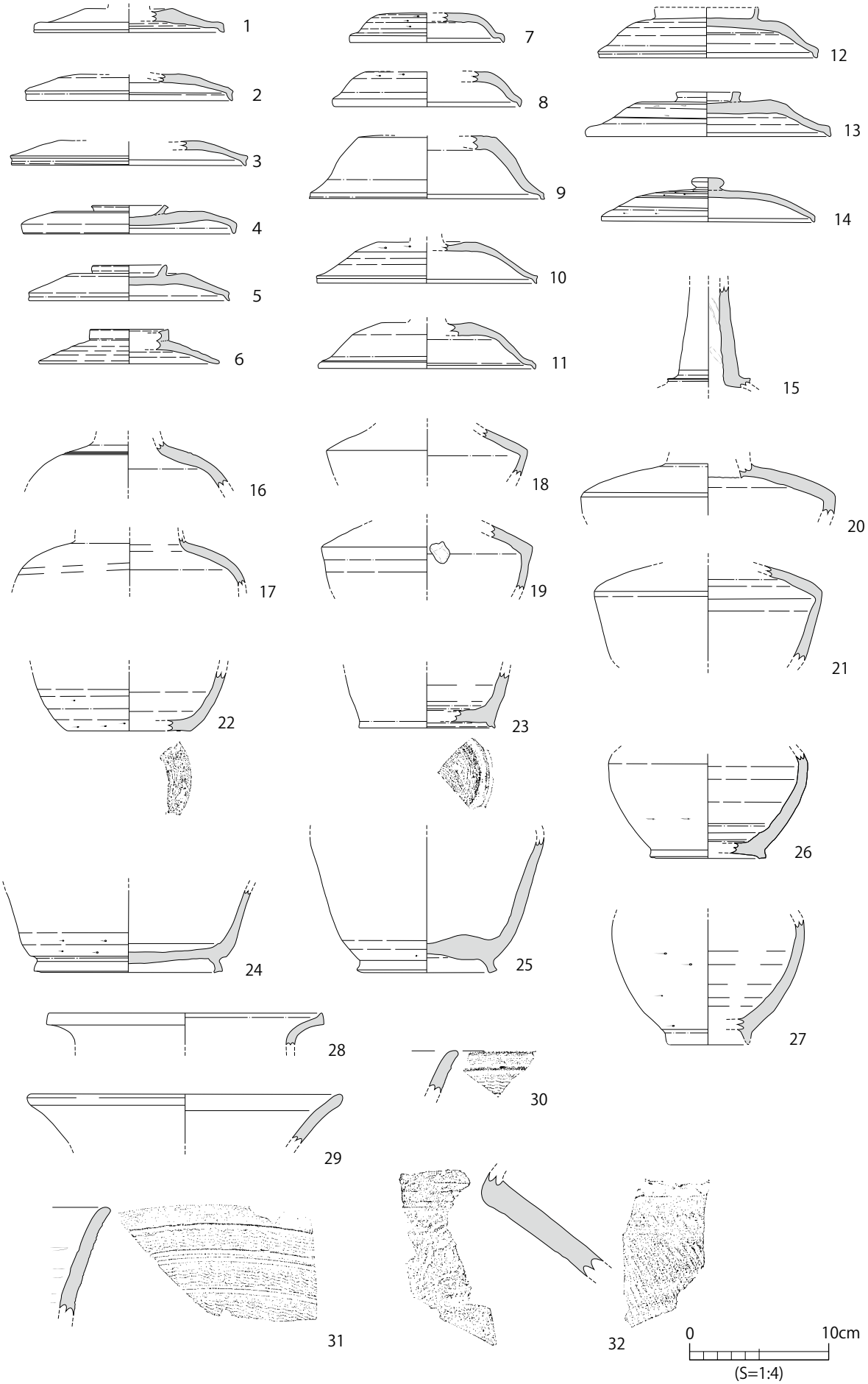
第 72 図 1 ～ 39 は須恵器である。1 ～ 3 は古墳時代後期の須恵器で、1 は甕の頸部と考えられ、2・3 は外面に格子目タタキを有する甕片である。4 ～ 15 は灯明皿形土器で、4 ～ 13 は直線的な口縁部である。14・15 は、口縁端部がほぼ水平方向に外反する。16 ～ 18 は高台付の皿形土器である。19・20 は口縁端部が僅かに外反する。20 の内面には朱墨の痕跡が残る仏教関連の資料と考えらる。21・22 は高台付の坏としたが、14・15 の灯明皿形土器と同じく、口縁端部が外反する特殊な形態をしていることから、仏具の一種であった可能性が考えられる。23 ～ 25 は鉄鉢形の須恵器である。25 は口縁端部に沈線状のアクセントが施されている。26・27 は同一個体と考えられる脚付の盤であろう。28 ～ 34 は坏である。28 ～ 31・34 は直線的な口縁部で、32・33 の口縁部は内湾する。35 ～ 38 は高台付の坏である。39 は台付壺等の底部である。第 72 図の 32 ～ 38 は 7 世紀末～ 8 世紀前半、その他は 8 世紀後半代～末、19・20・30・31 は 9 世紀後半と考えられる。

第 73 図 1 ～ 14 は、須恵器の蓋である。1 ～ 9・11 ～ 13 は輪状つまみ、10・14 は宝珠つまみを有するものである。15 は水瓶と考えられ、頸部には段がある。16 ～ 27 は壺である。16・17 は肩部に丸みを有するもので、18 ～ 21 の肩部は屈曲している。22 は高台のない壺の底部で、23 ～ 27 は高台付壺の底部である。23 ～ 25 の胴部は直線的であることから、18 ～ 21 のような肩部が屈曲する壺と同じタイプの壺になる可能性が考えられる。26・27 は胴部が内湾するタイプのものである。28 ～ 32 は、壺・甕の口縁部である。第 73 図の宝珠つまみを残す 14 などの須恵器蓋と 16・17・26・27 の壺は 8 世紀前半代、その他は概ね 8 世紀後半代と考えられる。

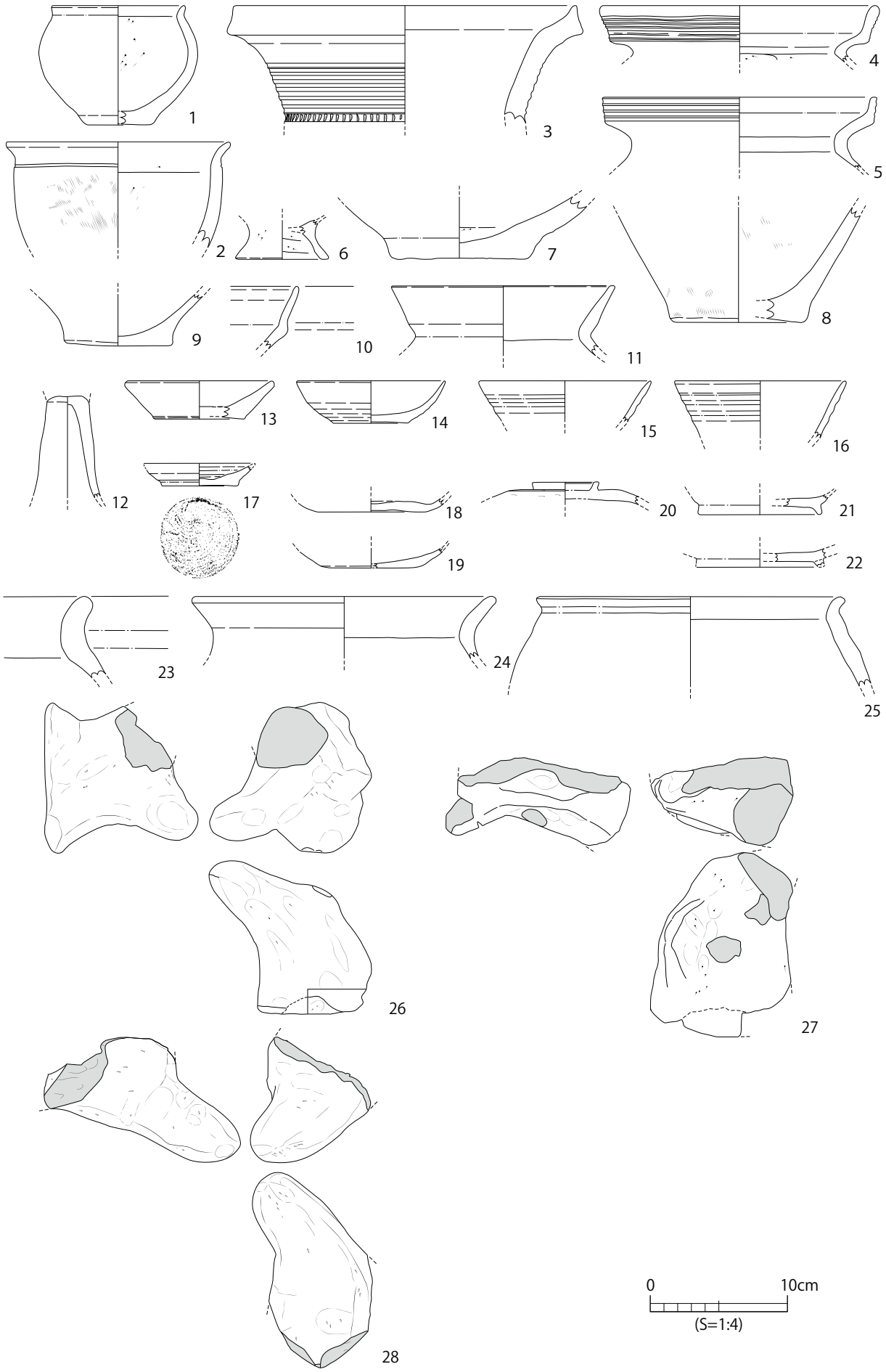
第 74 図 1 は口縁端部が直立気味の小壺、2 は頸部にヘラ描直線文を廻らせた甕で、いずれも弥生前期後葉（Ⅰ－3 ～ 4 様式）の資料である。3 は弥生中期後葉～末葉（Ⅳ－2）の壺で、頸部に刻み目のある突帯が廻り、口縁部外面に 7 条の擬凹線が施されている。4・5・10 は弥生後期前半



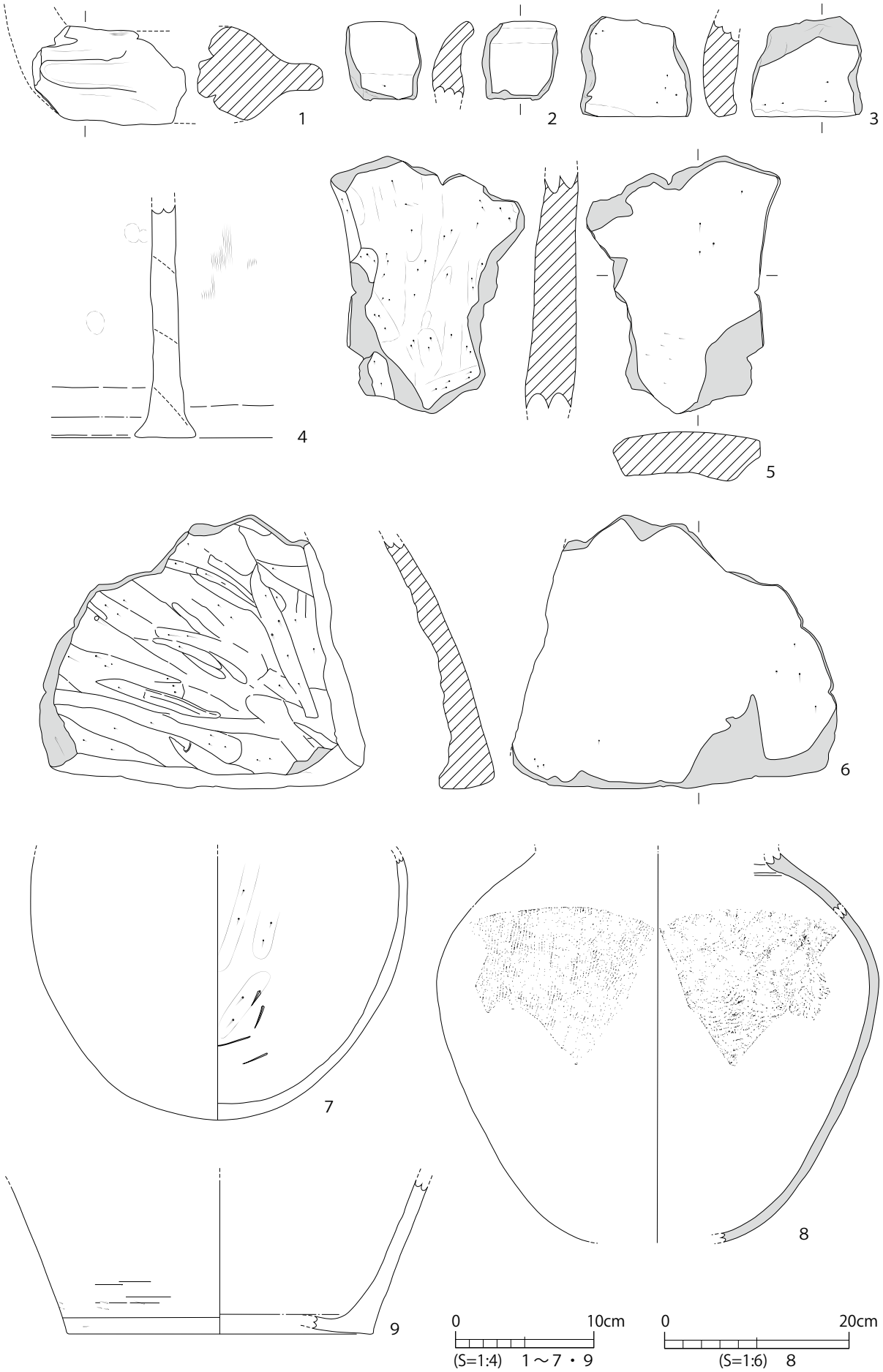
第 72 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）



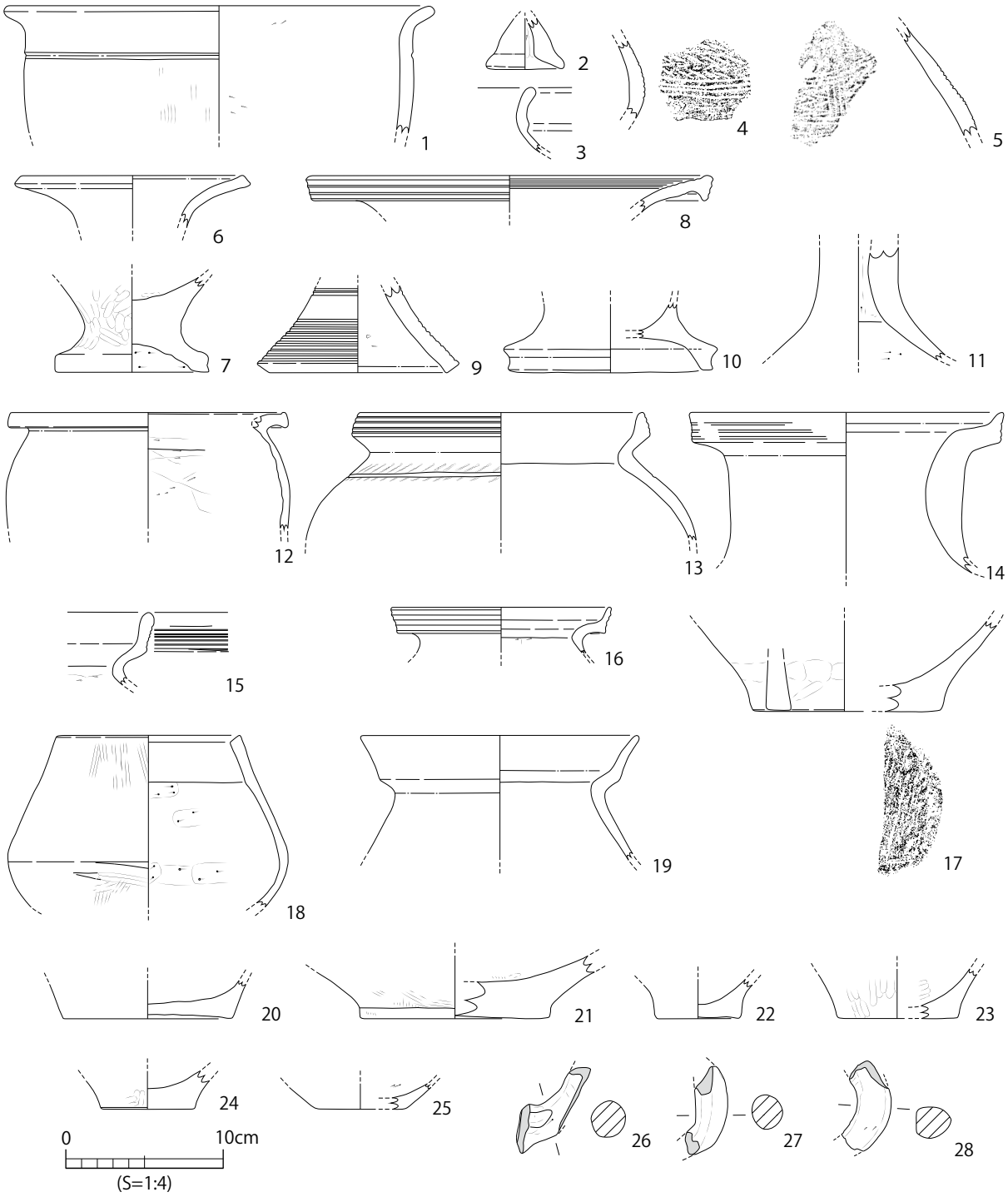
第 73 図　Ｂ区　包含層１出土遺物実測図（2）（S=1:4）



第 74 図　B 区　包含層 1 出土遺物実測図（3）（S=1:4）



第 75 図　Ｂ区　包含層１出土遺物実測図（4）（S=1:4・S=1:6）



第 76 図　B 区　包含層 2 出土遺物実測図（S=1:4）

（Ⅴ－２様式）の甕の口縁部である。4 は口縁端部が丸みを帯び、外面に６～７条の擬凹線文が施されている。5 の口縁部外面には 4 条の擬凹線文が施されている。6 ～ 9 は甕、もしくは壺の底部である。7・8 は大形の壺で、Ⅰ－３～４様式と考えられる。9 はⅤ様式の壺と考えられる。11・12 は古墳時代中期前葉の甕（口縁部）と高坏（脚部）である。13 ～ 16 は 9 世紀後半の土師器坏で、13 は器壁が厚く、15・16 と同じく、外面に赤彩の痕跡がみられる。17 は 9 世紀後半の皿で、内面に煤が付着している。18・19 は 8 世紀前半の土師器皿と考えられる。20 は輪状つまみを有する土師器の蓋、21・22 は 8 世紀前半の高台付皿と考えられる。22 には内外面に赤彩がみられる。23 ～ 25 は古代の甕で、25 は口縁端部が僅かに外反する。26 ～ 28 は土製支脚の一部である。二

方向に突起のあるタイプと考えられる。

第 75 図１～６は、移動式竈の一部である。１は竈の焚口上部、２は煙出し、３～６は竈の胴部と考えられる。７は土師器甕の胴部である。内面にはケズリが明瞭に残されている。検出された際は内部の土にベンガラが多量に付着していた。８は灰釉陶器の壺である。頸部から肩部には外面に濃緑色の自然釉がかかる。９は備前焼の甕の底部である。

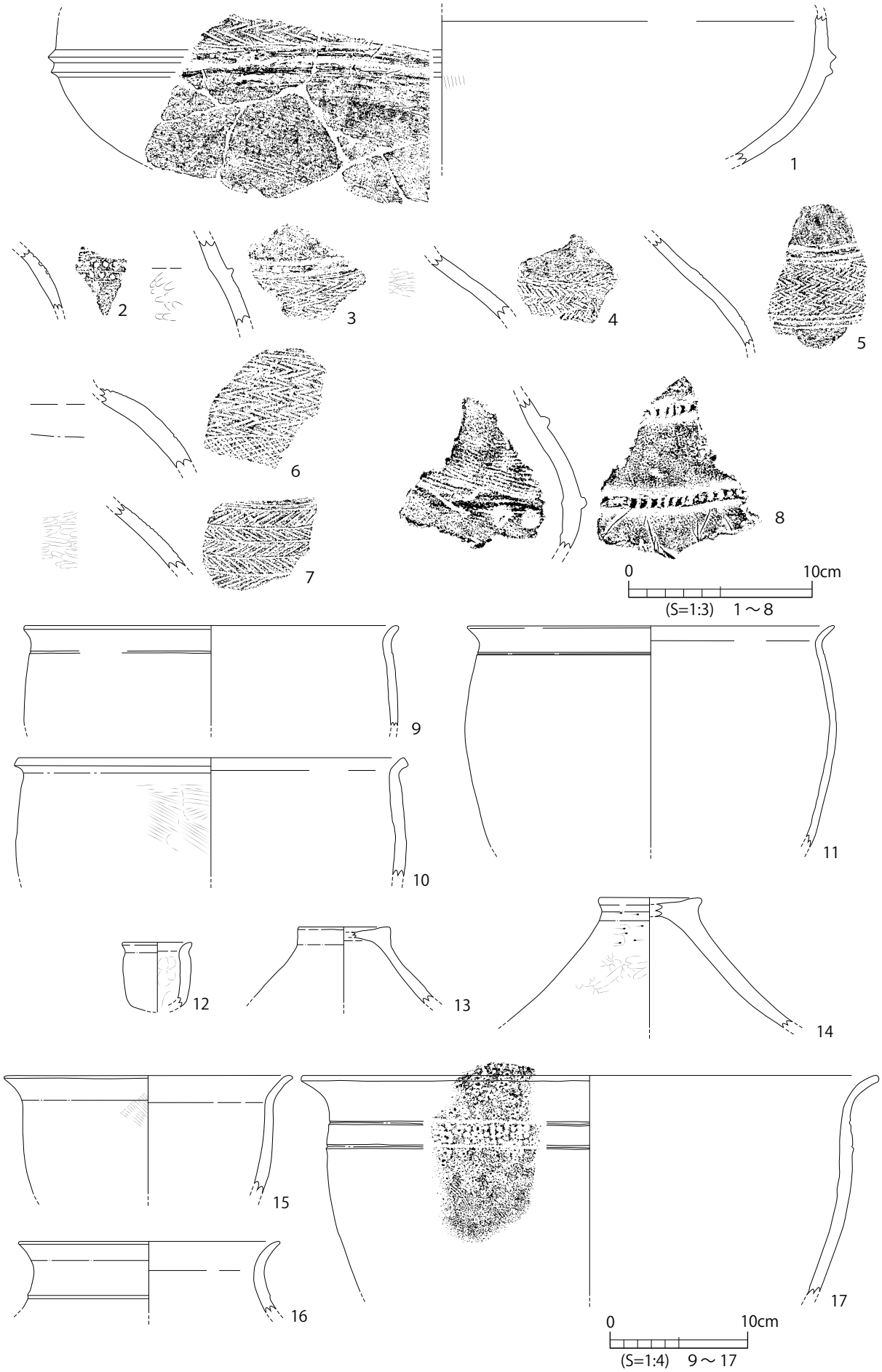
Ｂ区包含層２出土遺物（第 76 図）

１～５は弥生前期後葉（Ⅰ－３～４様式）の資料である。１は頸部に櫛描文が廻る甕で、２は蓋と考えられる。３は壺で、頸部に突帯文が廻る。４・５は壺の胴部で、それぞれに貝殻腹縁による羽状文（綾杉文）や直線文が施されている。6･8 は壺の口縁部で､6 は弥生中期前半（Ⅲ－２様式）の壺と考えられる。御堂谷遺跡ではⅢ様式と明確に認識できる資料は、この２点を除くとほとんど出土していない。８は口縁部の内外面に擬凹線文が施されているやや大型の壺である。Ⅳ－２様式の資料である。７・10 は台付甕、もしくは台付壺の底部である。高台端部が直立気味に立ち上がり、端部中央がくぼむようなアクセントがあることから、弥生後期前葉（Ⅴ－１様式）の資料と考えられる。９は外面に擬凹線が施されているⅣ－１～２様式の高坏である。11 は脚部の器壁が厚くⅤ－２様式と考えられる高坏である。12 は口縁部が屈曲するⅤ－１様式の鉢である。13 は口縁部外面に４条の擬凹線文、頸部に１条の沈線、その上下に貝殻腹縁による刺突文が施されたⅤ－１様式の甕である。14 はⅤ－１様式の壺で、口縁部外面に３条の擬凹線文が廻っている。15・16 は口縁端部が丸みを帯び、外面に擬凹線文を施したⅤ－２様式の甕である。18 は口縁端部が直線的に内傾している。小片であるため、把手は確認できないが、弥生後期中頃（Ⅴ－３様式）の短頸壺と考えられる。19 は口縁部が外反するⅤ－４様式の甕である。17・20～25 は、甕もしくは壺の胴部である。17・20・21 は大形の壺で、Ⅰ－４様式の可能性が考えられる。22～25 はⅣ～Ⅴ様式の可能性が考えられる。26～28 は把手の一部である。

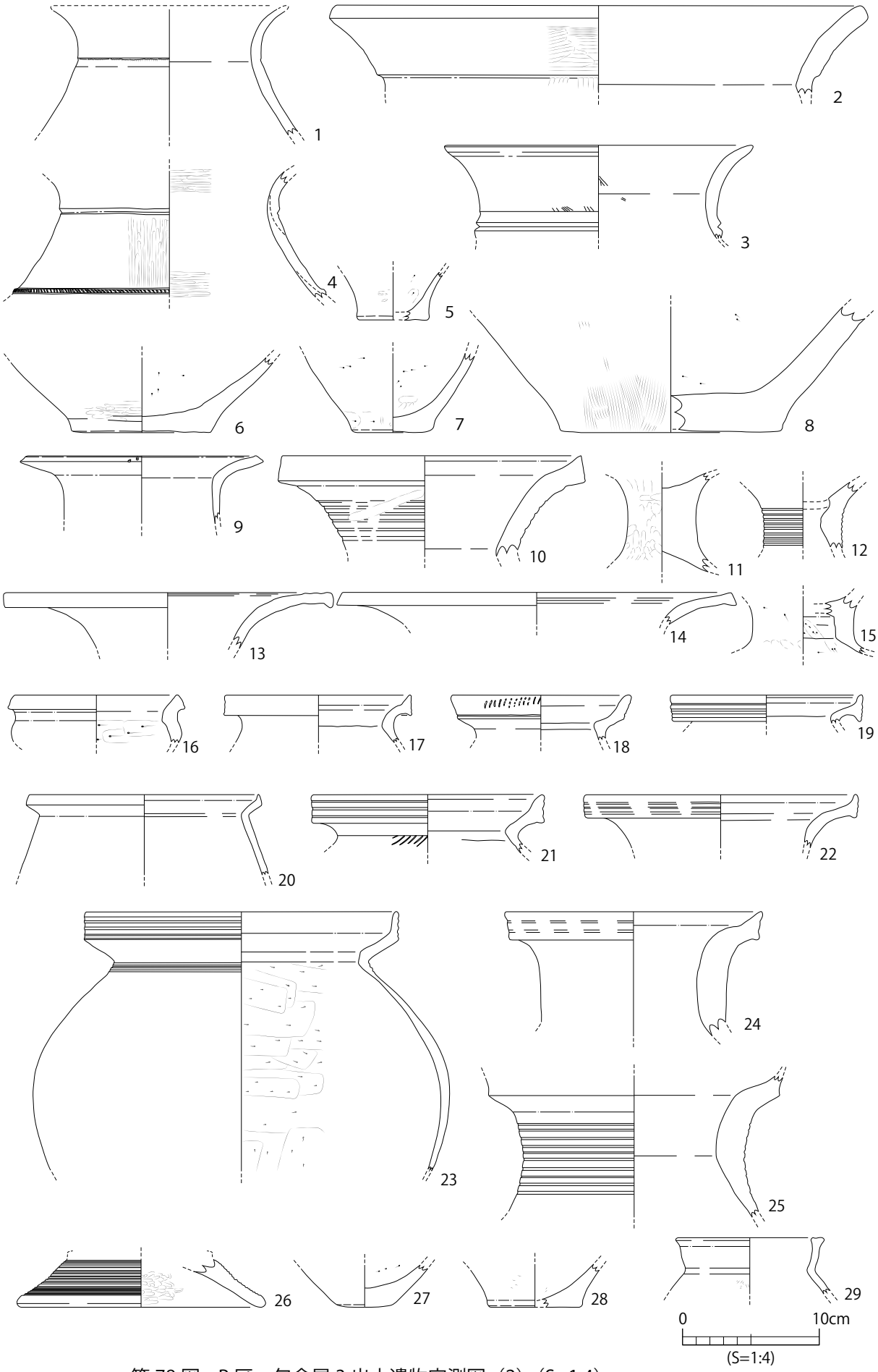
Ｂ区包含層３出土遺物（第 77・78 図）

第 77 図１～17 は弥生前期後葉(Ⅰ－３～４様式)の資料である。１～８は壺の肩部･胴部である。１の胴部には、２条の突帯文と綾杉文が施されている。２は円形の刺突文、３は１条の突帯文と綾杉文、４～７には綾杉文やヘラ描直線文、斜格子文等が施されている。８は肩部と胴部にそれぞれ刻み目が施された１条の突帯文が廻っている。９～11・15・17 は甕で、９・11・17 には頸部直下にヘラ描直線文が施されており、17 には２条のヘラ描直線文を埋めるように円形の刺突文が３列を基本に施されている。12 はミニチュアの甕である。内部に指頭圧痕が目立つ。13・14 は蓋である。16 は壺で、頸部に段状のアクセントが施されている。

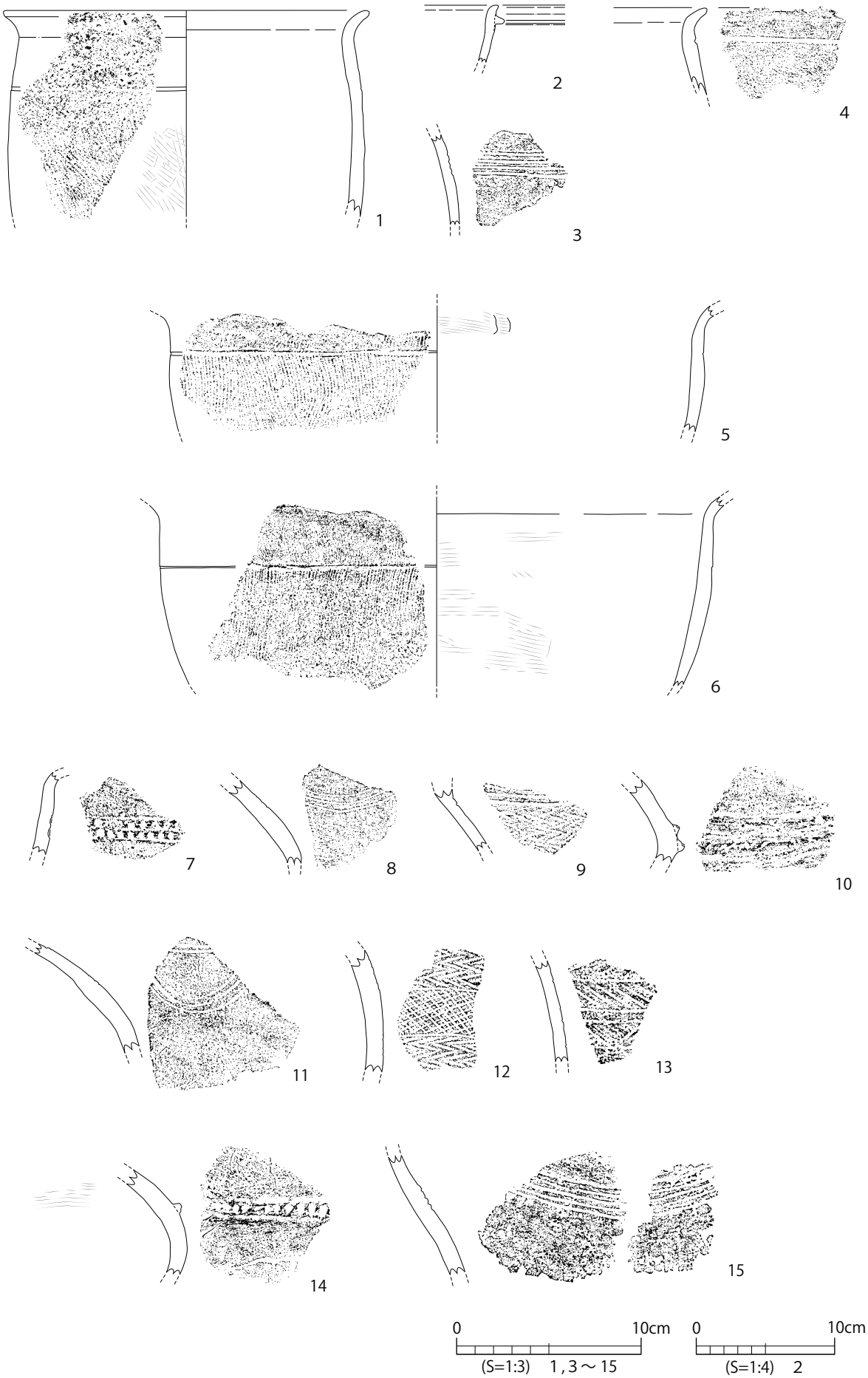
第 78 図１～８は弥生前期後葉（Ⅰ－３～４様式）の資料である。１～４の壺は、頸部直下に段状のアクセントが施されていることから、第 77 図 16 と同じくやや古い様相を示す。５～８は、弥生前期後葉（Ⅰ－３～４様式）の甕・壺の底部である。５は小ぶりの甕で、６・８は大形の壺と考えられる。９・13・14 の壺は、口縁部は大きく外反している。加飾は少なく、Ⅲ様式～Ⅳ－１様式の過渡的な資料と考えられる。10 は、頸部外面に６条の擬凹線文が施されたⅣ－１様式の壺である。11・12 は高坏の脚部で、弥生中期後半（Ⅳ－１～２様式）の資料と考えられる。15 は



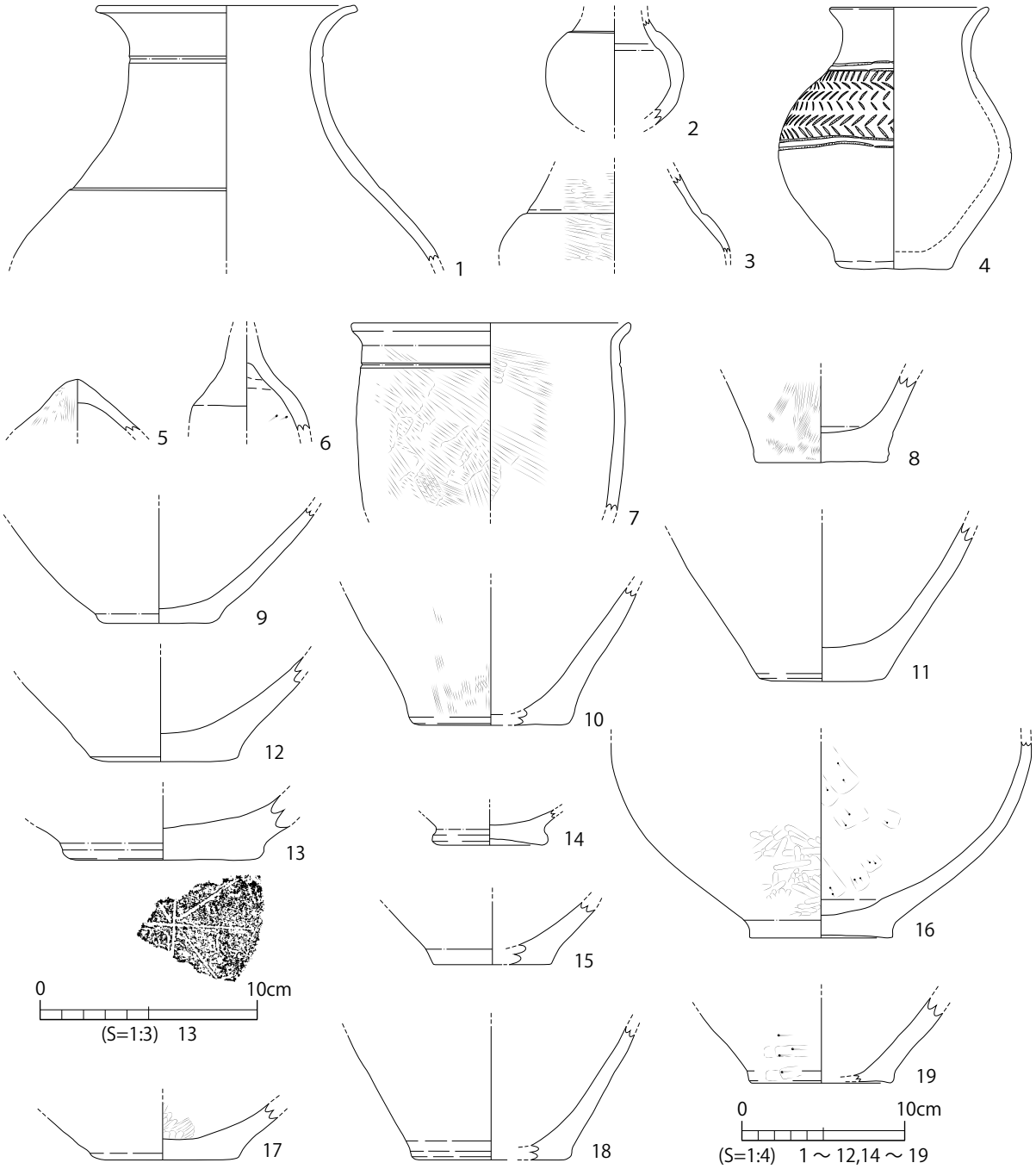
第 77 図　B 区　包含層 3 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）



第 78 図　Ｂ区　包含層 3 出土遺物実測図（2）（S=1:4）

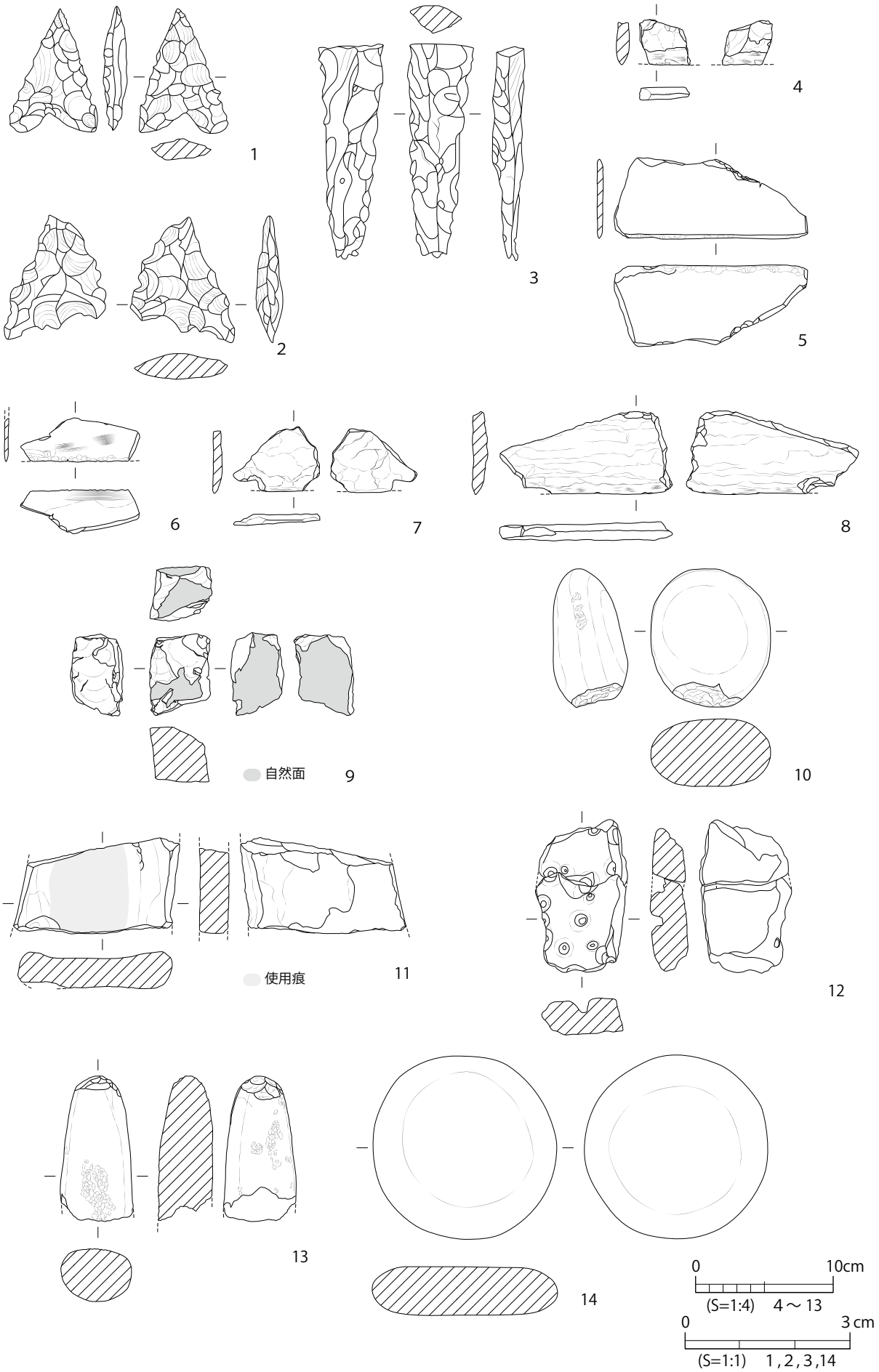


第 79 図　B 区　包含層 4 出土遺物実測図（1）（S=1:3・S=1:4）



第 80 図　Ｂ区　包含層４出土遺物実測図（2）（S=1:3・S=1:4）

台付壺（甕）の脚部で、Ⅲ様式の可能性が考えらえる。16 ～ 25 は弥生後期前葉（Ｖ－１様式）の資料である。16 は胴部が浅い鉢と考えられる。17 ～ 21・23 は甕、22・24・25 は壺である。18 は口縁部外面に１条の擬凹線文と貝殻腹縁による刺突文が施されている。25 は頸部に 10 条の擬凹線文が施されている。26 は高坏の脚部裾で、Ｖ－２～３様式の資料と考えられる。27・28 は壺の底部で、27 はＶ様式、28 はⅣ～Ｖ様式の資料と考えられる。29 は古墳時代中期前葉の土師器甕である。口縁端部の中心が僅かにくぼんでいるが、ほぼ水平に成形されている。

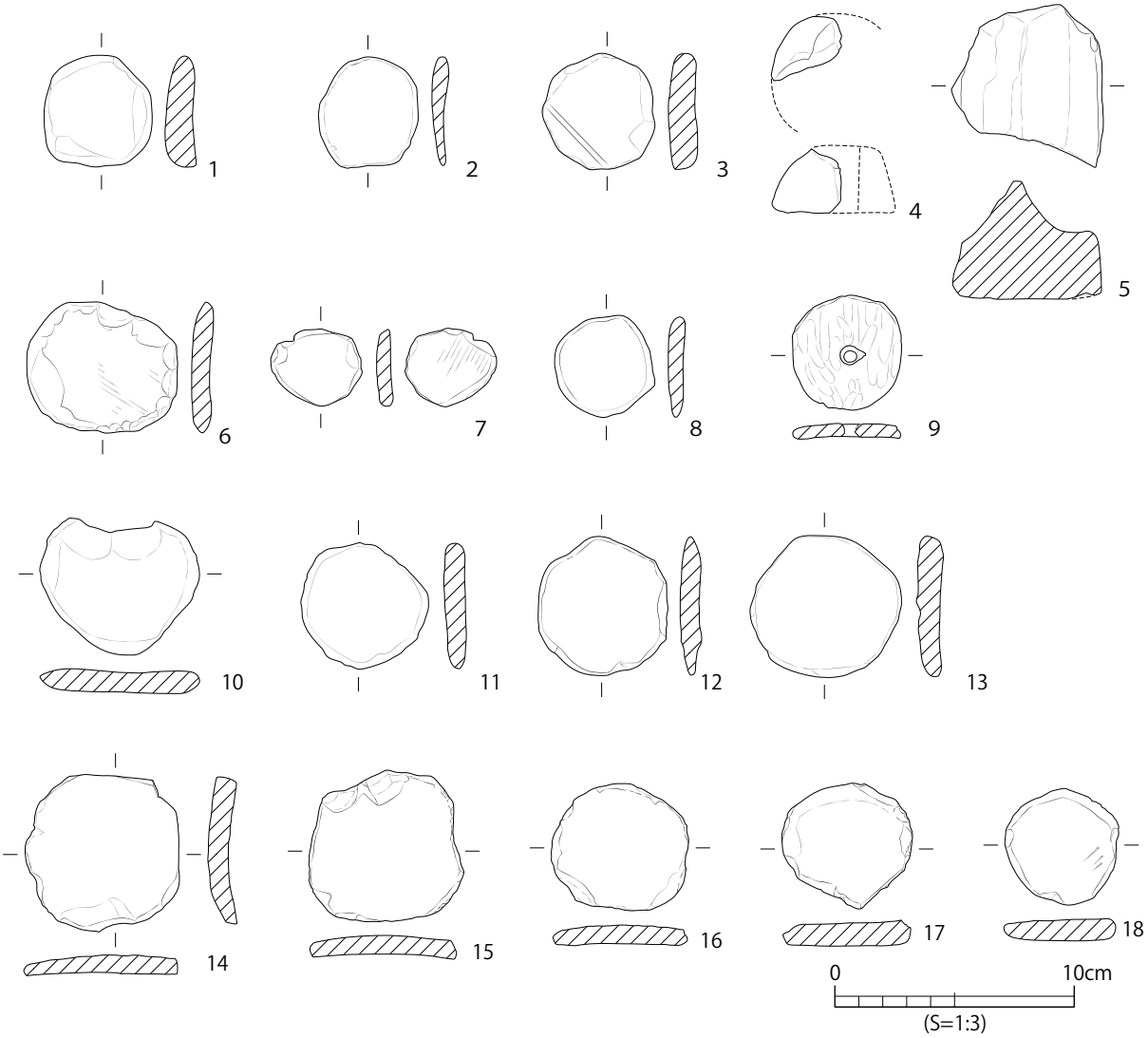


第 81 図　B 区　包含層出土石器実測図（S=1:1・S=1:4）

Ｂ区包含層４出土遺物（第 79・80 図）

第 79 図１～ 15 は、弥生時代前期後葉（Ｉ－３様式）主体の資料である。１～７は甕で、頸部下に１条のヘラ描直線文が施されている１・4、段状のヘラ描直線文が施されている５・6、４条施されている 3、頸部直下に１条の突帯文が施されている２がある。5･6 は前期でも古い様相（Ｉ－２様式）が認められる。7 は、３条のヘラ描直線文の間に円形の刺突文が施されており、新しい様相が見受けられる。8 ～ 15 は壺の肩部から胴部で、ヘラ描による直線文、弧状紋や斜格子文、貝殻腹縁による綾杉文（羽状文）、刻み目のある突帯文が施されている。

第 80 図１～ 19 は弥生前期後葉（Ｉ－３様式）の資料である。１～４は壺で、１～３は肩部が段状になっていることから、前期後葉でも古い様相（Ｉ－２様式）がみられる。4 は、ほぼ完形の壺である。頸部から胴部にかけて貝殻腹縁による綾杉文（羽状文）と、３条の連続刺突文が施されている。5・6 は、つまみ部が明瞭に造り出されていないが、つまみ部が尖った形態をしている蓋と考えられる。7 は頸部に１条のヘラ描直線文が施されている。8 ～ 19 は甕・壺の底部である。13 は壺と考えられる底部で、底部外面にヘラ描きによる沈線が施されている。16 は胴部が大きく膨らむ壺である。



第 82 図　Ｂ区　包含層出土土製品実測図（S=1:3）

Ｂ区包含層出土石器（第 81 図）

第 81 図 4･7 は包含層 2、1･2･5･6･8 ～ 14 は包含層 3、3 は包含層 4 から出土した石器である。1・2 は黒曜石製の石鏃で、2 は一部が欠失している。3 は安山岩製の石錐で、先端が欠失している。4 は頁岩製の石包丁か石鎌である。5・6 は頁岩製の石包丁である。7・8 は珪化木製の石包丁である。8 の刃部には横方向の使用痕、あるいは研磨痕が明瞭に観察できる。9 は、ほぼ直方体をした石核である。10 は安山岩製の磨石で、側面に敲打痕がみられる。端部に故意に打ち欠いたとも見受けられる破面がみられる。11 は砂岩製の石皿の欠損品である。側面以外に研磨痕がみられる。12 は砂岩である。直径数ミリの不整形な円形孔が不規則にみられる。自然石の可能性も考えられる。13 は塩基性片岩の磨製石斧である。敲打による基部の成形が明瞭に観察でき、一部に敲打痕がみられる。14 は軽石と思われる直径 3.3㎝の円板状石器で、用途は不明である。

Ｂ区包含層出土土製品（第 82 図）

第 82 図 8 は包含層 1 からの出土、1 ～ 5 は包含層 2 からの出土、6・7・9 ～ 13 は包含層 3 からの出土、14 ～ 18 は包含層 4 からの出土である。4 は土製紡錘車の一部と考えられる。5 は滑らかに内湾する断面部が観察されるが、用途不明の土製品である。6 ～ 18 は土器を再利用した円板状土製品である。9 は紡錘車と考えられるが、他ははっきりとした用途が不明である。ただし、10・14・15 は抉りをいれるような打ち欠きの痕跡があり、土器片錘の可能性も考えられる。円板状土製品は、紡錘車、あるいは土器片錘の未成品も含まれている可能性が考えられる。

第４章　自然科学分析

第１節　御堂谷遺跡における放射性炭素年代　（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１．測定対象試料

御堂谷遺跡は、島根県大田市長久町・鳥井町に所在する。測定対象試料は、竪穴建物跡から出土した炭化材 11 点である（表 1）。試料の推定年代は、試料 No.1 が古墳時代中期、試料 No.2 が 7 世紀末から 8 世紀前葉、試料 No.3 が 8 世紀から 9 世紀、試料 No.6 ～ 11 が弥生時代後期前葉とされ、試料 No.4、5 については弥生時代後期の可能性が指摘されている。

なお、試料 No.1 を含む 9 点の炭化材を対象に樹種同定も実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

２．測定の意義

竪穴建物跡の時期比定および土器編年観との整合性を明らかにする。

３．化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

(2) 酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４．測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５．算出方法

(1) δ ^{13}C は、試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、

1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

(3)pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。

(4)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ ^{13}C 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

６．測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。　試料の ^{14}C 年代は、2080 ± 20yrBP（試料 No.11）から 1260 ± 20yrBP（試料 No.3）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い試料 No.11 が 150 ～ 49cal BC、最も新しい試料 No.3 が 691 ～ 769cal AD の間に各々 2 つの範囲で示される。古い方から順に検討すると、No.4、6 ～ 11 は、弥生時代中期から後期頃にまとまっており、推定年代を含むか、やや古い年代値となった。No.1 は弥生時代後期から古墳時代前期頃に相当し、推定よりも古い年代値となっている。No.2、3、5 は 7 ～ 8 世紀頃の値を示し、No.2、3 が推定年代を含む値、No.5 が推定よりかなり新しい値となった（佐原 2005、小林 2009）。

なお、今回測定された試料はすべて炭化材で、No.5 には樹皮が確認されたため、その直下から測定試料を採取した。樹皮を確認できなかった他の試料の年代については、次に記す古木効果を考慮する必要がある。樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。このため、本来の最外年輪を確認できなかった No.1 ～ 4、6 ～ 11 の木が死んだ年代は、測定結果より新しい可能性がある。

また、試料 No.1、4、6、7、9、10 が含まれる 1 ～ 3 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘

がある（尾嵜 2009、坂本 2010 など）。その日本産樹木のデータを用いてこれらの試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率は 50％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

【参考文献】

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散 , 西本豊弘編 , 新弥生時代のはじまり　第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代 , 雄山閣 , 55-82

尾嵜大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代 , 設楽博己 , 藤尾慎一郎 , 松木武彦編弥生時代の考古学 1　弥生文化の輪郭 , 同成社 , 225-235

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木－弥生から古墳へ－ , 第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集 ,（株）加速器分析研究所 , 85-90

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分 , ウェルナー・シュタインハウス監修 , 奈良文化財研究所編集 , 日本の考古学　上　ドイツ展記念概説 , 学生社 , 14-19

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）

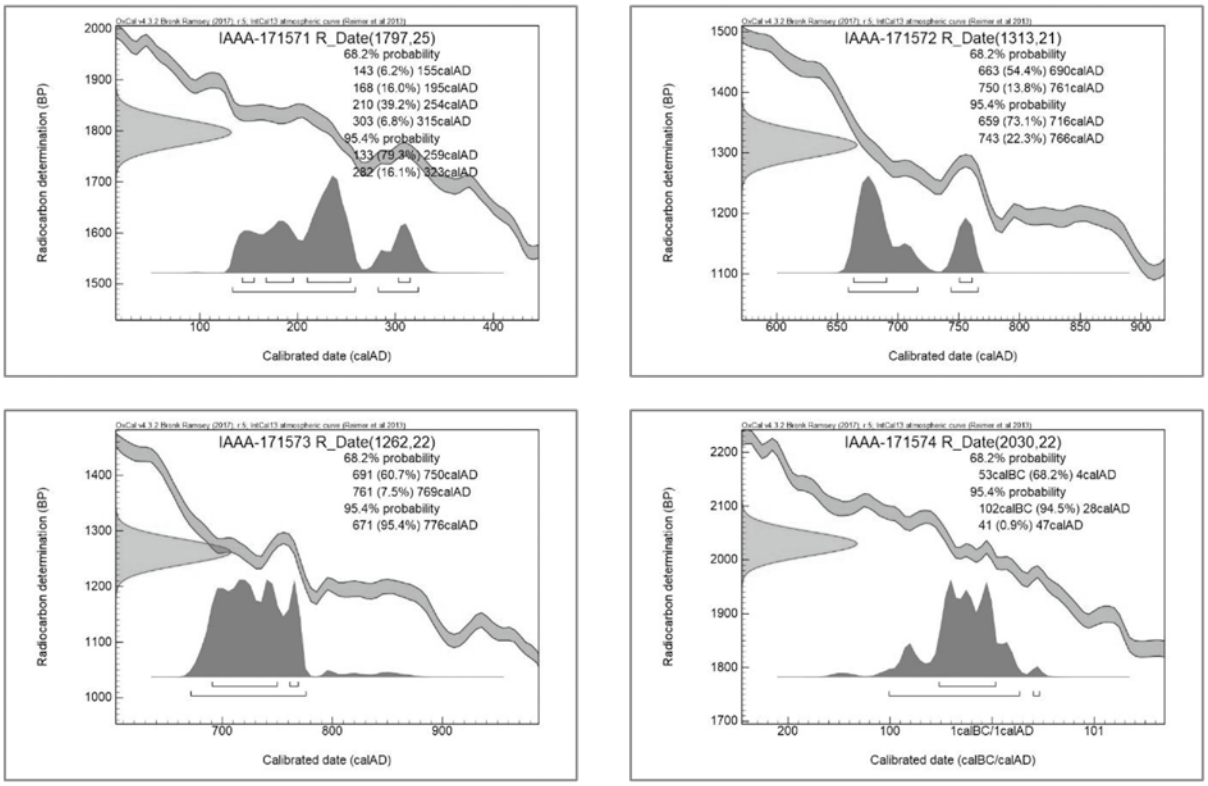
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-171571	No.1 (樹種同定 No.9)	A 区 SI01	炭化材	AAA	-28.33 ± 0.22	1,800 ± 30	79.95 ± 0.25
IAAA-171572	No.2	B 区 SI02（竈炭化物）	炭化材	AaA	-27.74 ± 0.25	1,310 ± 20	84.92 ± 0.23
IAAA-171573	No.3	B 区炭窯 1	炭化材	AAA	-29.36 ± 0.23	1,260 ± 20	85.45 ± 0.24
IAAA-171574	No.4	B 区 SI05 炭溜まり	炭化材	AAA	-26.85 ± 0.22	2,030 ± 20	77.67 ± 0.22
IAAA-171575	No.5	B 区 SK01	炭化材	AAA	-28.23 ± 0.19	1,280 ± 20	85.28 ± 0.23
IAAA-171576	No.6	B 区 SD02	炭化材	AAA	-27.52 ± 0.21	2,000 ± 20	77.94 ± 0.22
IAAA-171577	No.7	B 区 SI01-1 中央炉	炭化材	AAA	-26.70 ± 0.21	1,970 ± 20	78.25 ± 0.21
IAAA-171578	No.8	B 区 SI01-2P1	炭化材	AAA	-27.93 ± 0.24	2,060 ± 20	77.40 ± 0.22
IAAA-171579	No.9	B 区 SI04　炉	炭化材	AAA	-27.87 ± 0.22	2,030 ± 20	77.66 ± 0.22
IAAA-171580	No.10	B 区 SI05	炭化材	AAA	-24.20 ± 0.18	2,000 ± 20	77.97 ± 0.22
IAAA-171581	No.11	B 区 SI06　炉	炭化材	AAA	-27.08 ± 0.21	2,080 ± 20	77.23 ± 0.21

[IAA 登録番号：#8796]

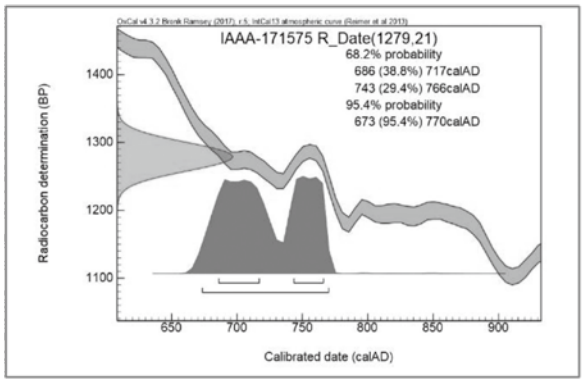
表２　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

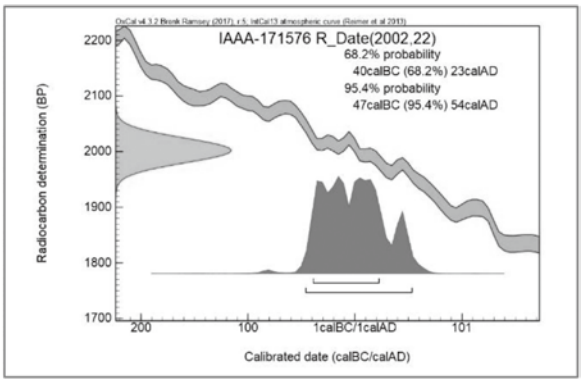
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	１σ暦年代範囲	２σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-171571	1,850 ± 20	79.40 ± 0.25	1,797 ± 25	143calAD - 155calAD (6.2%) 168calAD - 195calAD (16.0%) 210calAD - 254calAD (39.2%) 303calAD - 315calAD (6.8%)	133calAD - 259calAD (79.3%) 282calAD - 323calAD (16.1%)
IAAA-171572	1,360 ± 20	84.44 ± 0.22	1,313 ± 21	663calAD - 690calAD (54.4%) 750calAD - 761calAD (13.8%)	659calAD - 716calAD (73.1%) 743calAD - 766calAD (22.3%)
IAAA-171573	1,330 ± 20	84.69 ± 0.24	1,262 ± 22	691calAD - 750calAD (60.7%) 761calAD - 769calAD (7.5%)	671calAD - 776calAD (95.4%)
IAAA-171574	2,060 ± 20	77.37 ± 0.21	2,030 ± 22	53calBC - 4calAD (68.2%)	102calBC - 28calAD (94.5%) 41calAD - 47calAD (0.9%)
IAAA-171575	1,330 ± 20	84.71 ± 0.23	1,279 ± 21	686calAD - 717calAD (38.8%) 743calAD - 766calAD (29.4%)	673calAD - 770calAD (95.4%)
IAAA-171576	2,040 ± 20	77.54 ± 0.22	2,002 ± 22	40calBC - 23calAD (68.2%)	47calBC - 54calAD (95.4%)
IAAA-171577	2,000 ± 20	77.98 ± 0.21	1,970 ± 22	5calAD - 61calAD (68.2%)	38calBC - 75calAD (95.4%)
IAAA-171578	2,110 ± 20	76.93 ± 0.21	2,058 ± 22	108calBC - 40calBC (68.2%)	163calBC - 129calBC (12.4%) 120calBC - 1calAD (83.0%)
IAAA-171579	2,080 ± 20	77.20 ± 0.21	2,031 ± 22	54calBC - 4calAD (68.2%)	103calBC - 27calAD (94.7%) 42calAD - 47calAD (0.7%)
IAAA-171580	1,990 ± 20	78.09 ± 0.22	1,999 ± 22	39calBC - 25calAD (68.2%)	46calBC - 56calAD (95.4%)
IAAA-171581	2,110 ± 20	76.90 ± 0.21	2,075 ± 22	150calBC - 140calBC (7.1%) 112calBC - 49calBC (61.1%)	171calBC - 41calBC (95.4%)

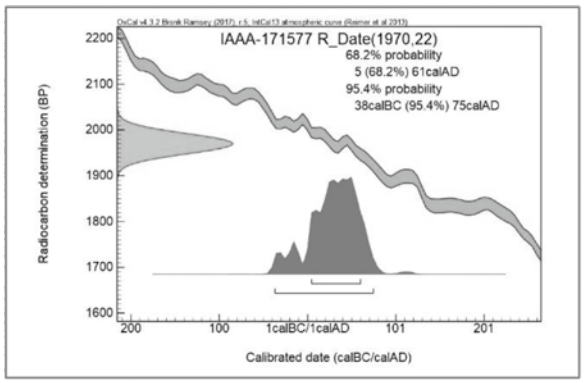
［参考値］

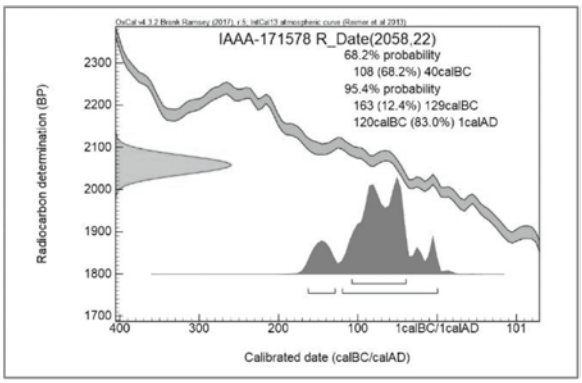


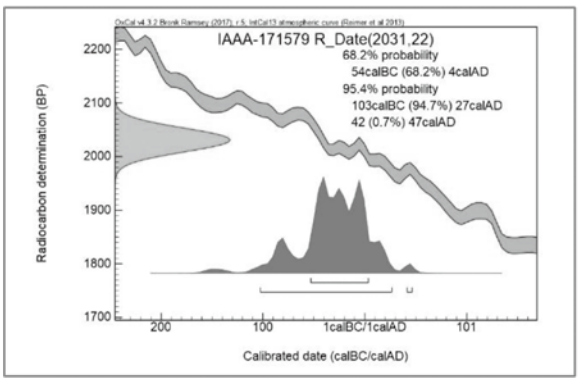
第１図　暦年較正年代グラフ（参考）(1)

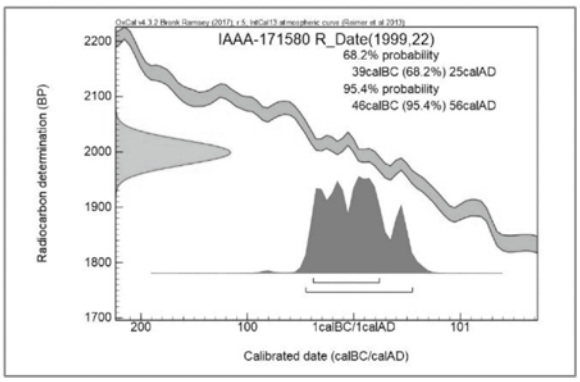


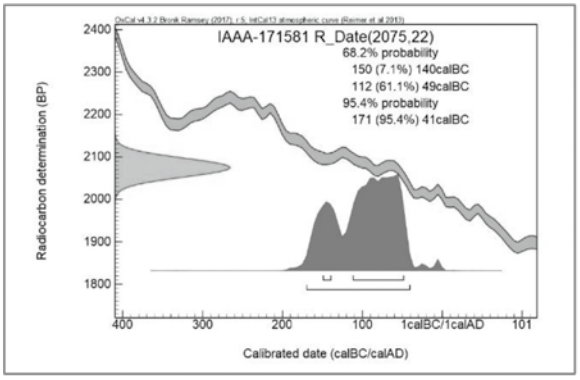












第 2 図　暦年較正年代グラフ（参考）（2）

第２節　御堂谷遺跡における樹種同定

（株）加速器分析研究所

１．試料

御堂谷遺跡は、島根県大田市長久町・鳥井町に所在する。竪穴建物跡（SI05、A 区 SI01）から炭化材が出土したことから、当時の木材利用状況を調査する目的で、炭化材９点の樹種同定を行った（表 1）

なお、樹種同定試料 No.9（年代測定試料 No.1）を含む 11 点を対象に、放射性炭素年代測定が実施されている。樹種同定試料 No.9（年代測定試料 No.1）は弥生時代後期から古墳時代前期頃の年代値を示した。また、樹種同定試料 No.1 ～ 8 が出土した SI05 出土炭化材（年代測定試料 No.10、樹種同定試料とは別の炭化材）は、弥生時代中期から後期頃に相当する年代値となった（別稿年代測定報告参照）。

２．分析方法

試料を割り折りして新鮮な横断面（木口）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の断面を作製し、落射顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって 50 ～ 1000 倍で観察した。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

３．結果

同定結果を表 1 に示す。炭化材は、試料９点のうち試料 No.1、３～８の７点がツブラジイ、試料 No.2 がタブノキ、試料 No.9 がマツ属複維管束亜属に同定された。以下に同定の根拠を記す。

・マツ属複維管束亜属　Pinus subgen. Diploxylon　マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射断面では、放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

・ツブラジイ　Castanopsis cuspidata Schottky　ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管が、やや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。

・タブノキ　Machilus thunbergii Sieb.et Zucc.　クスノキ科

やや小型から中型の道管が、単独および２～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。これらの柔細胞の中には、大きく膨れ上がった油細胞が多く存在する。道管の穿孔は単穿孔がほとんどであるが、階段の数が 10 本以下の階段穿孔も存在する。放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞の中には、しばしば大きく膨れ上がった油細胞がみられる。

表１　御堂谷遺跡における樹種同定結果

試料番号	遺構	樹種	備考
1	B 区 SI05	ツブラジイ	
2	B 区 SI05	タブノキ	
3	B 区 SI05	ツブラジイ	
4	B 区 SI05	ツブラジイ	
5	B 区 SI05	ツブラジイ	
6	B 区 SI05	ツブラジイ	
7	B 区 SI05	ツブラジイ	
8	B 区 SI05	ツブラジイ	
9	A 区 SI01	マツ属複維管束亜属	年代測定実施（試料№ 1）

４．考察

マツ属複維管束亜属には、クロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。重硬で水湿によく耐え腐りにくい材で、建築部材の中でも水質の影響がある柱、礎板などに用いられるが、井戸枠材にもなる。また、マツ類の木材はいずれも樹脂を多く含み、薪炭材として古くから重宝される。

ツブラジイは、関東以南の本州、四国、九州に分布し、内陸に多い。常緑の高木で、高さ 20m、径 1.5m に達する。やや重硬であるが耐朽性・保存性は低い材である。島根県では、ツブラジイなどのシイ属の建築部材としての利用例は少なく、杭などの利用が多い。

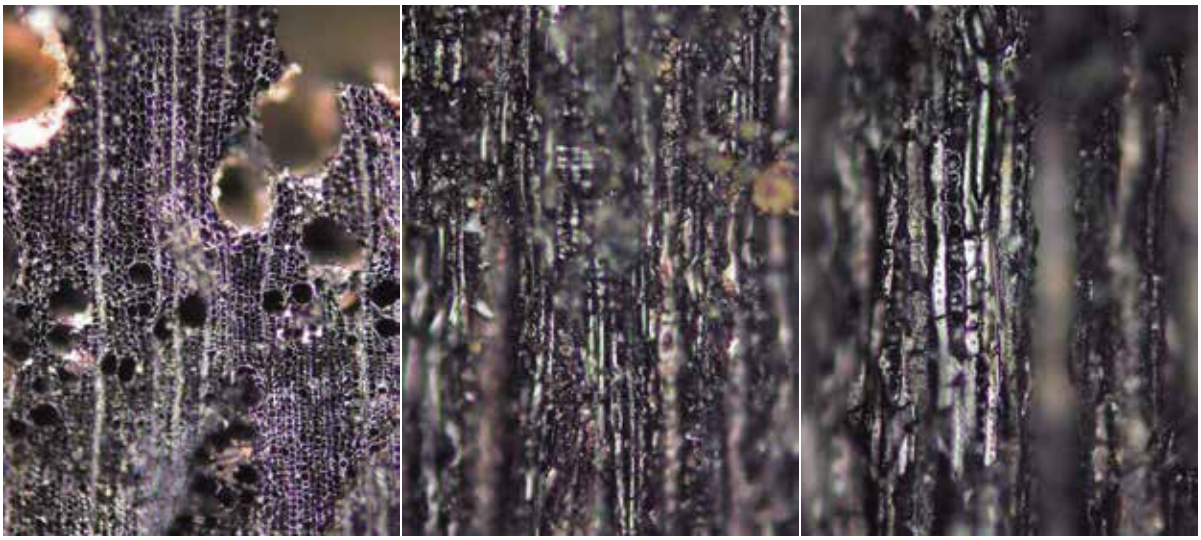
タブノキは、本州（暖地）、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、高さ 15m、径 1 m に達する。材は耐朽性、保存性ともに中庸で、斧柄、杓子、刳物の椀などの利用例がある。

今回同定されたいずれの樹木も、温帯から温帯下部の暖温帯に分布する樹種である。ツブラジイ、アカマツ（マツ属複維管束亜属）は内陸に多く二次林要素にもなり、タブノキは日本海側では海岸沿いに多い。これらは当時遺跡周辺に普通に生育していたものと推定される。

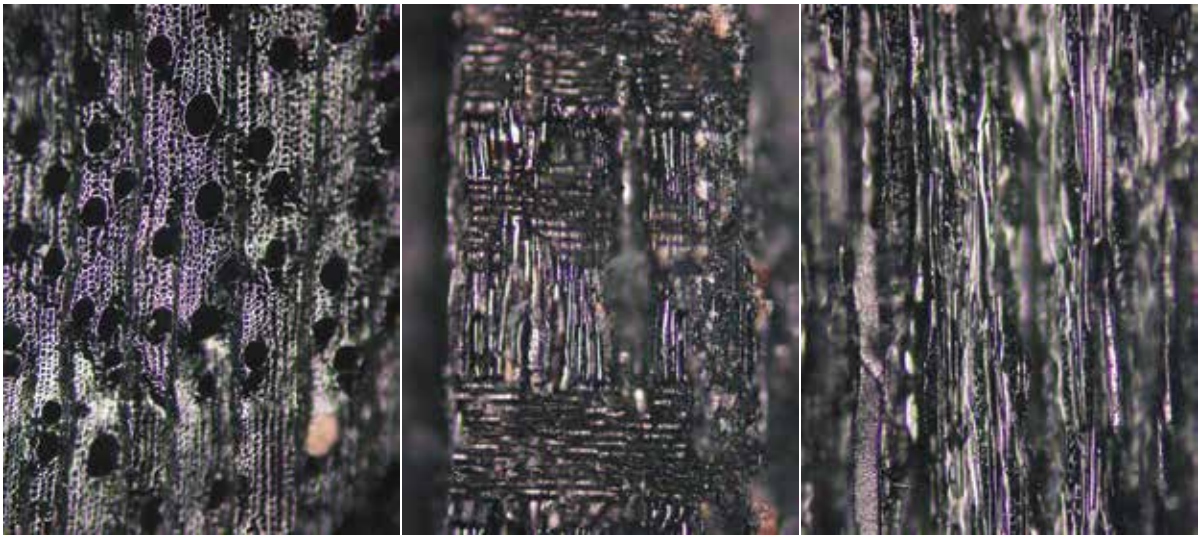
【参考文献】

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学，雄山閣，p.449.
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296.
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第 1 号，植生史研究会，p.242.

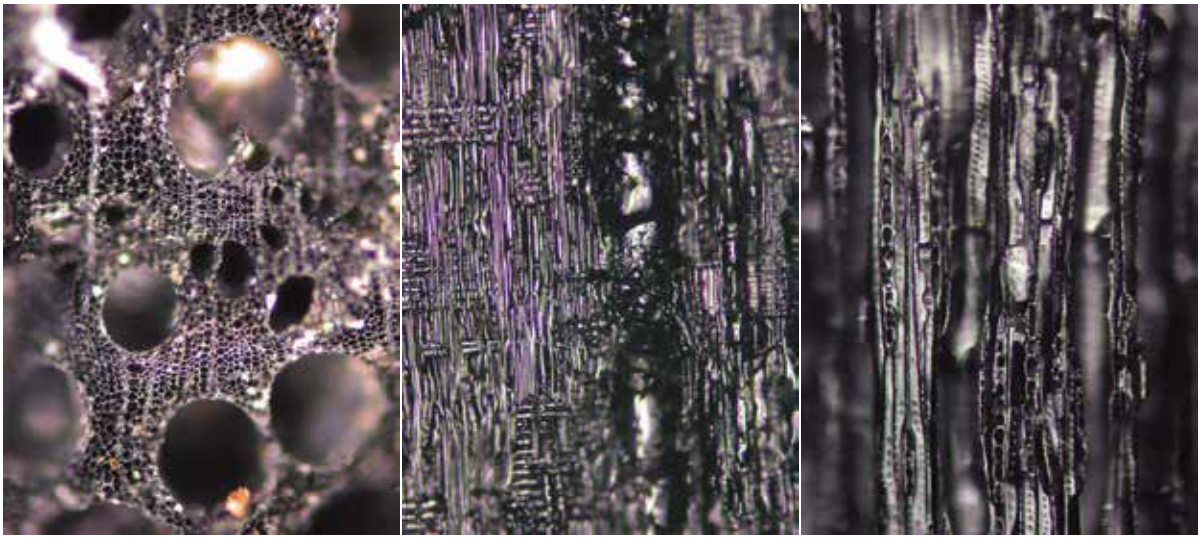
図版1　御堂谷遺跡の木材



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.１（SI05）

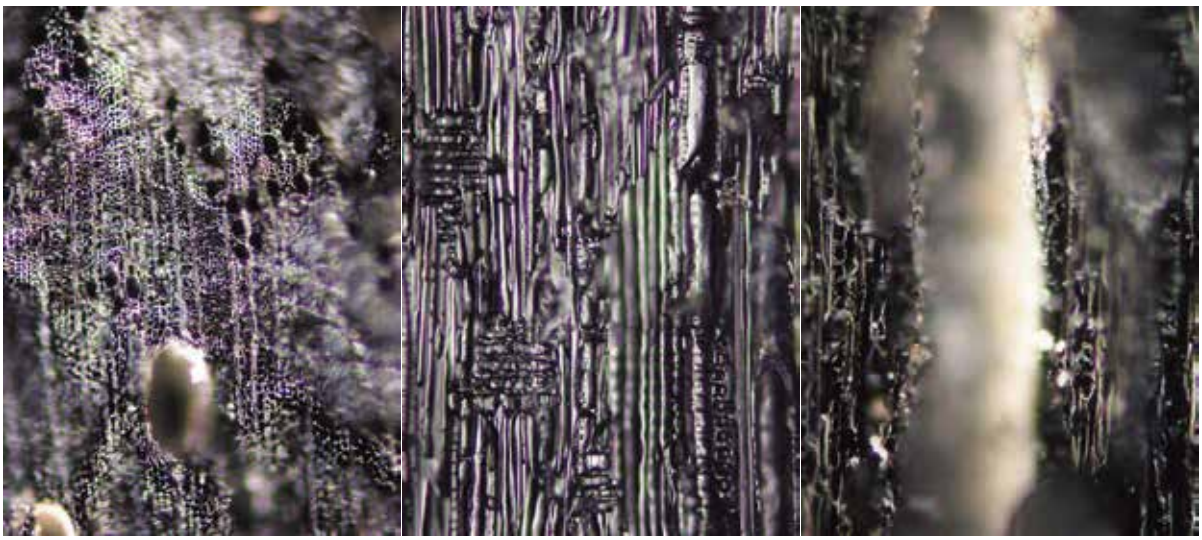


横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
タブノキ　試料No.２（SI05）

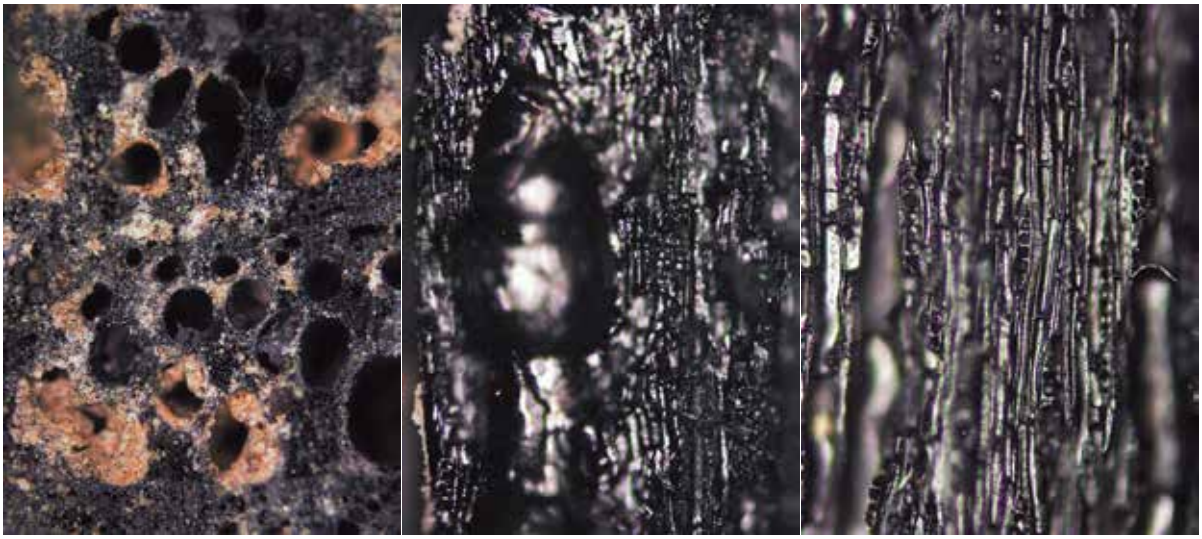


横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.３（SI05）

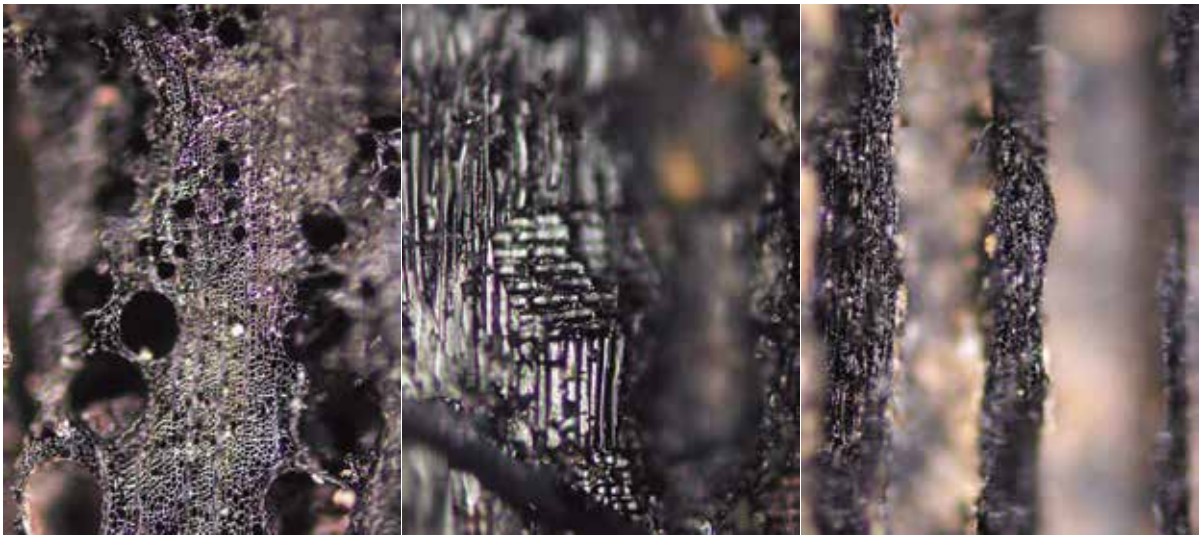
図版2　御堂谷遺跡の木材



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.4（SI05）

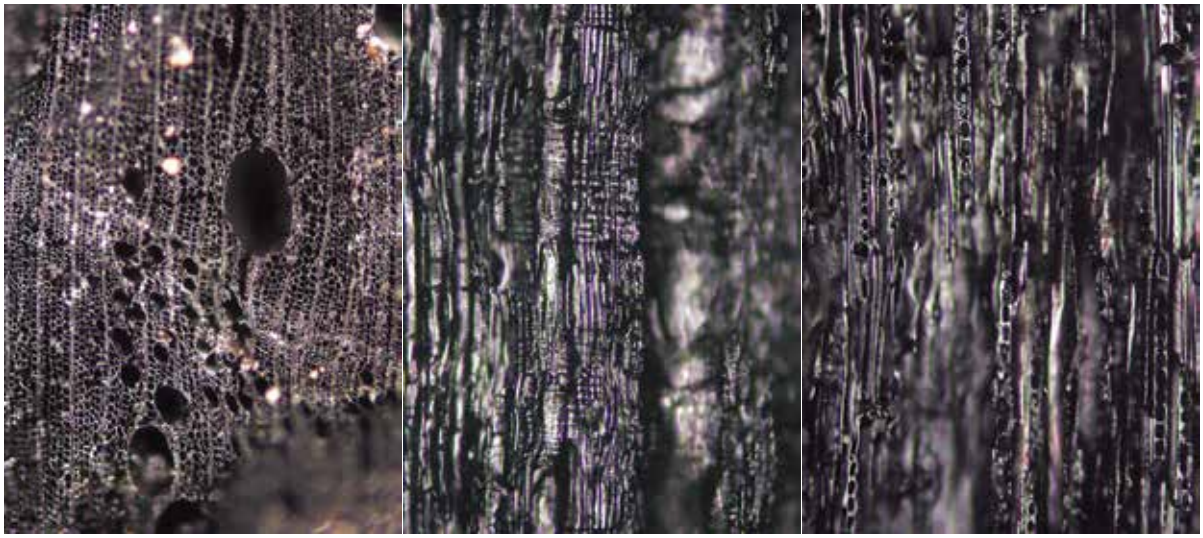


横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.5（SI05）

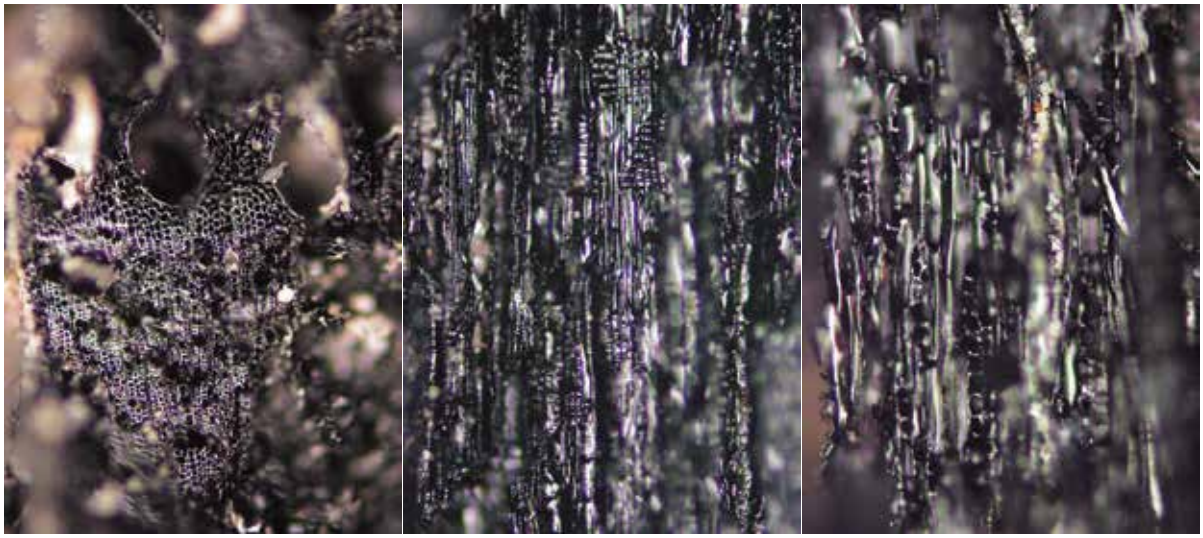


横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.6（SI05）

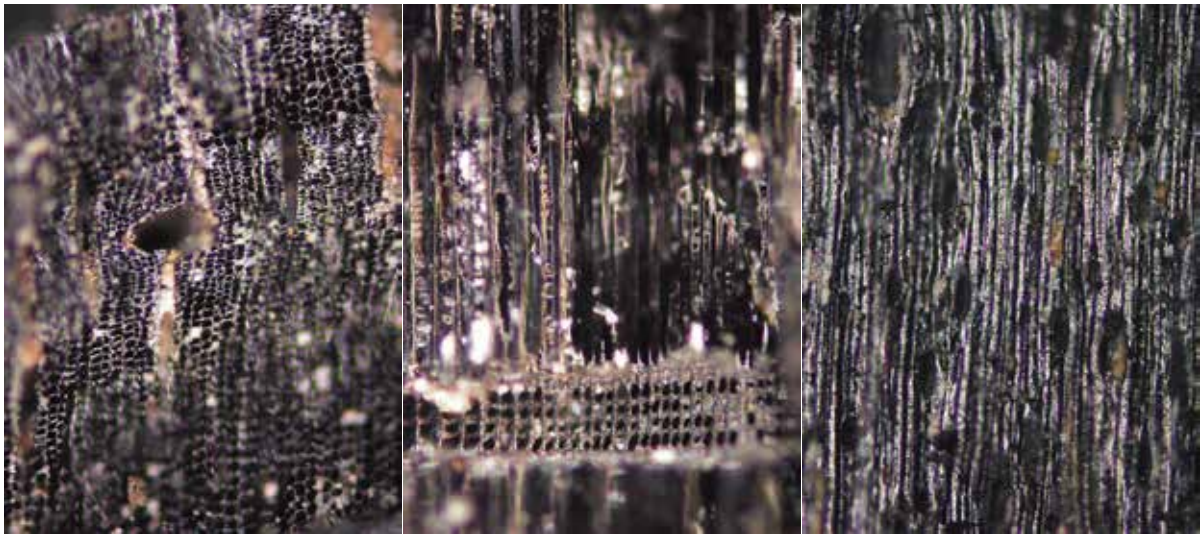
図版3　御堂谷遺跡の木材



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.7（SI05）



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
ツブラジイ　試料No.8（SI05）



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm
マツ属複維管束亜属　試料No.9（ A区SI01）

第３節　御堂谷遺跡周辺地域の古植生変遷

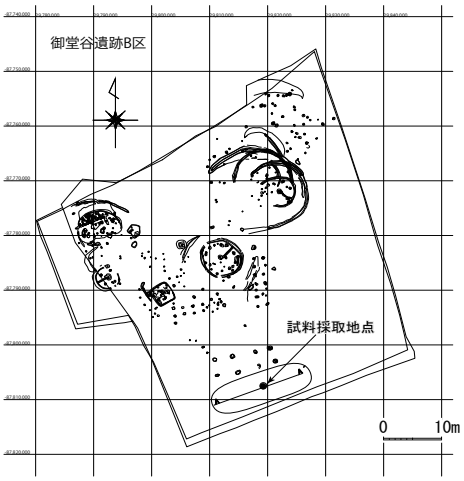
渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

１．はじめに

御堂谷遺跡は島根県中央部の大田市鳥井町と長久町境界付近に位置し、中新統久利層から成る丘陵の上に立地する。本報は、御堂谷遺跡周辺地域の古植生などの古環境（変遷）を明らかにする目的で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した花粉分析及び植物珪酸体分析業務の概報である。

２．分析試料について

試料採取地点（調査区平面図）を第１図、試料採取層準（断面図）を第２図に示した。これらの図面は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに、作成したものである。



第１図　試料採取地点（調査区平面図）

３．分析方法

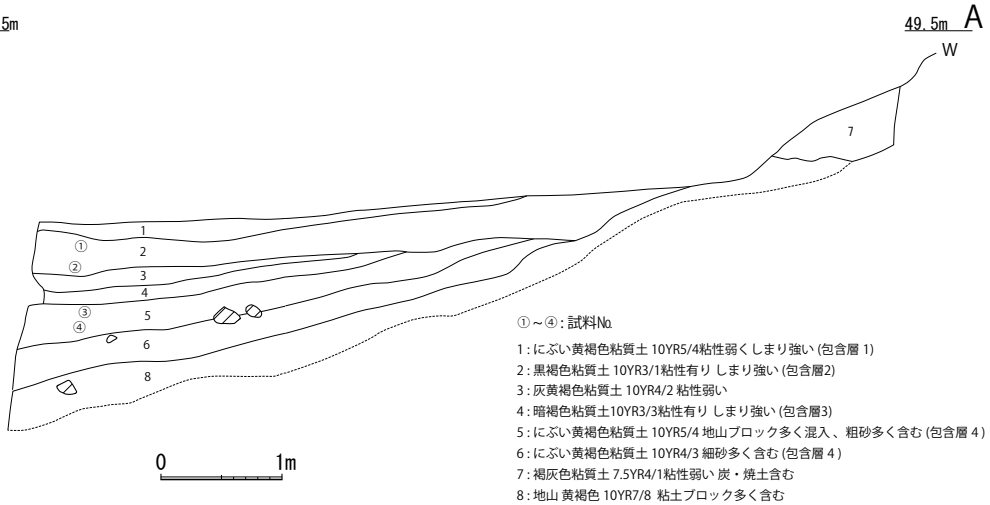
(1) 微化石概査方法

花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉（胞子）、植物片、微粒炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を５段階で示した。

(2) 花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が 200 粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。

また中村（1974）に従ってイネ科花粉を、イネを含む可能性が高い大型のイネ科（40 ﾐｸﾛﾝ



第２図　試料採取地点　　（調査区断面図）

以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40 ﾐｸﾛﾝ未満）に細分した。

(3) 植物珪酸体分析方法

藤原（1976）のグラスビーズ法に従って実施した。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて実施した。同定に際して、母植物との対応が明らかな、イネ亜科の機動細胞を中心とした分類群（第 1 表）を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が 300 を超えるまで計数を行った。

第１表　微化石概査結果

同定レベル	コード	分類群	対応する栽培植物
1	1	イネ	イネ
3	3	イネ籾殻（穎の表皮細胞）	イネ
栽培植物との対応が明らかな分類群	21	ムギ類（穎の表皮細胞）	コムギ・オオムギ
	41	オヒシバ属（シコクビエ型）	シコクビエ
	61	キビ族型	ヒエ・アワ・キビ
	62	キビ属型	キビ
	64	ヒエ属型	ヒエ
	66	エノコログサ属型	アワ
	84	ウシクサ族Ｂ	サトウキビ
	91	モロコシ属型	モロコシ
	93	ジュズダマ属型	ハトムギ
4	11	サヤヌカグサ属	サヤヌカグサ・アシカキ
母植物との対応が明らかな分類群	13	マコモ属	マコモ
	31	ヨシ属	ヨシ
	33	ダンチク属	ダンチク
	35	ヌマガヤ属型	ヌマガヤ
	51	シバ属型	シバ属
	71	トダシバ属	トダシバ属
	81	ススキ属型	ススキ属
	83	ウシクサ族Ａ	チガヤ属など
	201	メダケ節型	メダケ節
	203	ネザサ節型	ネザサ節
	205	チマキザサ節型	チマキザサ節・チシマザサ節
	207	ミヤコザサ節型	ミヤコザサ節
	209	マダケ属型	マダケ属
	350	カヤツリグサ科(スゲ属など)	スゲ属
	390	シダ類	シダ類
	501	ブナ科(シイ属)	シイ類
	503	ブナ科(アカガシ亜属)	カシ類
	510	クスノキ科	バリバリノキなど(クスノキ以外)
	520	マンサク科(イスノキ属)	イスノキ属
	530	アワブキ科	アワブキ科
	540	モクレン属型	モクレン属
	570	マツ科型	マツ科
	580	マツ属型	マツ属

４．分析結果

(1)微化石概査結果

微化石概査結果を第 1 表に示す。全ての試料で、花粉、植物片の含有量は少なく、炭片、植物珪酸体、火山ガラスの含有量が多かった。珪藻の含有量はやや少ないものの、全ての試料に含まれていた。

第２表　微化石概査結果

試料№	花　粉	微粒炭	植物片	珪　藻	植物珪酸体	火山ｶﾞﾗｽ
1	△	◎	△×	△×	◎	◎
2	△×	◎	△×	△×	◎	◎
3	△	◎	△	×	◎	◎
4	△	◎	△×	×	◎	◎

凡例 ◎ ：十分な数量が検出できる　○ ：少ないが検出できる　△ ：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　× ：検出できない

(2)花粉分析結果

分析結果を花粉ダイアグラム（第３図）、花粉（含有量）ダイアグラム（第４図）と花粉組成表（第３表）に示す。花粉ダイアグラムでは、分類群ごとの百分率（百分率の算出には、木本花粉総数を基数にしている。）を、スペクトルで表している（木本（針葉樹）は黒、木本（広葉樹）は暗灰、草本･藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。）。[総合ダイアグラム] では「木本（針葉樹）」、「木本（広葉樹）」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフを示した。[含有量ダイアグラム] では「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子（全ての合計）」ごとに含有量（湿潤試料 1g 中の粒数）の変化を示している。

花粉（含有量）ダイアグラムでは、分類群ごとに含有量（湿潤試料 1g 中の粒数）を算出し、スペクトルで表している（木本（針葉樹）は黒、木本（広葉樹）は暗灰、草本・藤本は明灰、胞子は白のスペクトルで表した。）。

得られた花粉化石群集の特徴を、以下に示す。花粉化石群集の変遷を明らかにするため、下位から上位に向かって記した。

第３表　花粉組成表

試料番号		1		2		3		4	
5 *Abies*	モミ属	1	5%						
10 *Tsuga*	ツガ属	1	5%						
21 *Pinus(Diploxylon)*	マツ属：複維管束亜属	3	14%			8	19%	5	15%
30 *Sciadopitys*	コウヤマキ属	6	29%			1	2%		
32 *Cryptomeria*	スギ属					5	12%	10	30%
71 *Carpinus-Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	1	5%			1	2%		
73 *Corylus*	ハシバミ属					4	9%	1	3%
75 *Alnus*	ハンノキ属					1	2%		
83 *Querucus*	コナラ亜属	2	10%			3	7%		
84 *Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属	2	10%	3	75%	4	9%	8	24%
85 *Castanea*	クリ属	3	14%			6	14%	2	6%
88 *Castanopsis-Pasania*	シイノキ属－マテバシイ属							1	3%
92 *Ulmus-Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	2	10%						
97 Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科					1	2%		
132 *Zanthoxylum*	サンショウ属					8	19%	3	9%
150 *Rhus*	ウルシ属							2	6%
202 Araliaceae	ウコギ科					1	2%	1	3%
283 *Weigela*	タニウツギ属			1	25%				
301 *Typha*	ガマ属	1	5%						
311 Gramineae(<40)	イネ科（４０ミクロン未満）	26	124%	5	125%	13	30%	5	15%
312 Gramineae(>40)	イネ科（４０ミクロン以上）	5	24%	3	75%	2	5%	3	9%
461 Cruciferae	アブラナ科	2	10%			3	7%		
557 *Rotala*	キカシグサ属			1	25%				
710 Carduoidae	キク亜科	4	19%	4	100%	1	2%	2	6%
712 *Artemisia*	ヨモギ属	16	76%	6	150%	2	5%	3	9%
720 Cichorioideae	タンポポ亜科	4	19%			1	2%		
801 *Urostachys cryptomerinum*type	スギラン型	2	10%	2	50%			3	9%
802 *Urostachys sieboldii*type	ヒモラン型	1	5%						
803 *Urostachys serratum*type	トウゲシバ型	1	5%						
842 Subgenus*Sceptridium*	フユノハナワラビ亜属	1	5%			1	2%		
850 *Ophioglossum*	ハナヤスリ属							1	3%
875 *Davallia*	シノブ属	26	124%	9	225%	9	21%	12	36%
881 Pteridaceae	イノモトソウ科	1	5%	3	75%				
886 Aspid.-Asple.	オシダ科－チャセンシダ科	35	167%	17	425%	12	28%	15	45%
891 Polypodiaceae	ウラボシ科							1	3%
898 MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	56	267%	21	525%	12	28%	12	36%
899 TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	91	433%	6	150%	12	28%	12	36%
木本花粉総数		21	7%	4	5%	43	39%	33	32%
草本・藤本花粉総数		58	20%	19	23%	22	20%	13	13%
胞子総数		214	73%	58	72%	46	41%	56	55%
総数		293		81		111		102	
含有量（粒数/g）		149.2		33.6		39.8		66.5	

左よりカウント粒数、百分率

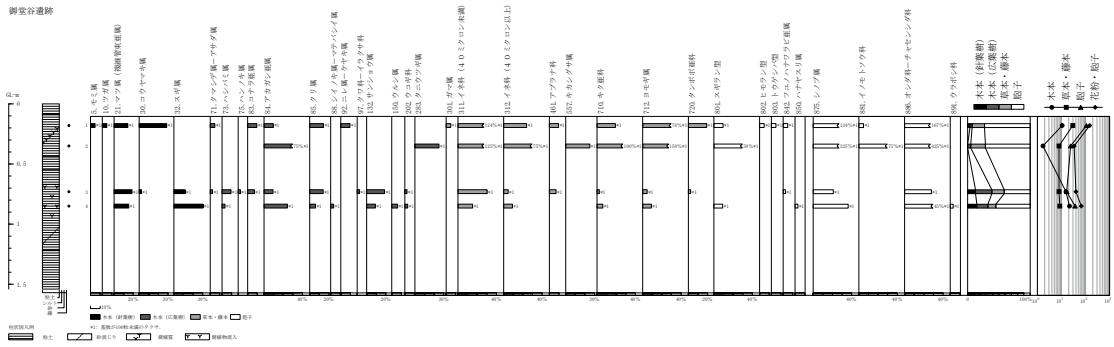
試料№.４では木本花粉が32％、草本花粉が20％、胞子が46％、試料№.３では、木本花粉が39％、草本花粉が13％、胞子が50％の割合で検出された。これら２試料において、木本花粉ではマツ属（複維管束亜属）、スギ属、アカガシ亜属、クリ属、サンショウ属が10％を超える高率で検出された。草本花粉ではイネ科（40ミクロン未満）が10％を超えるが、他は低率であった。胞子ではシノブ属、オシダ科-チャセンシダ科が30％を超える高率を示した。

試料№.２では木本花粉が５％、草本花粉が23％、胞子が72％の割合で検出された。また、木本花粉検出量は僅かに４粒であった。

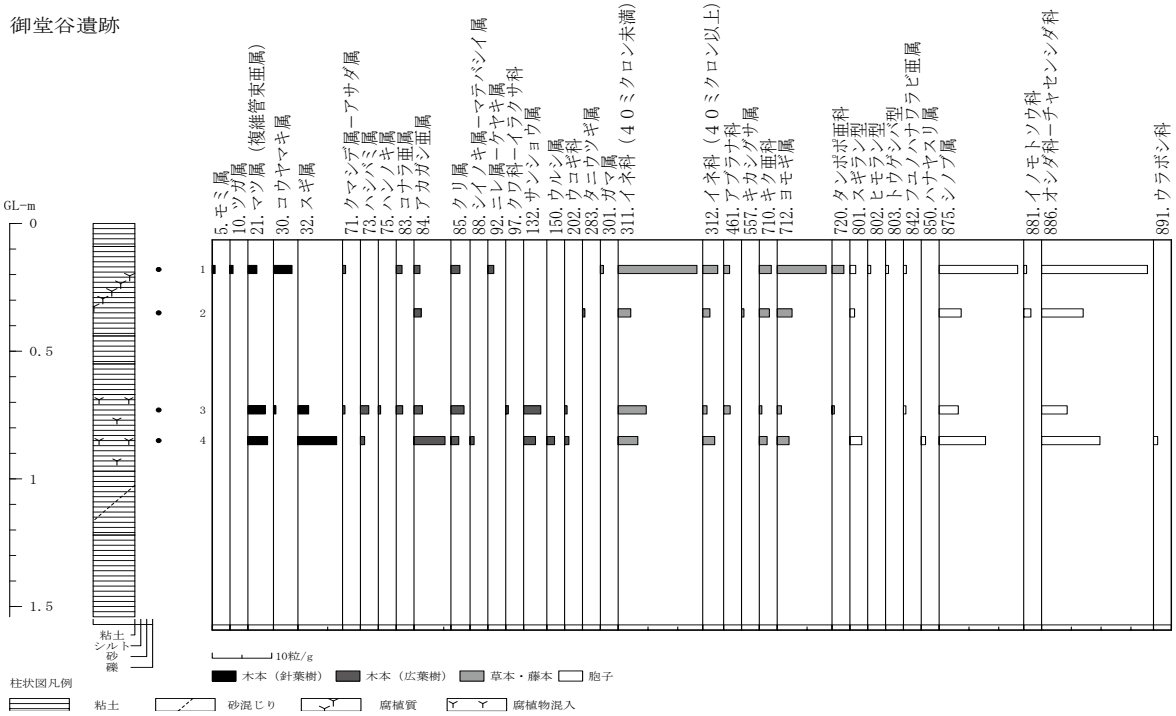
試料№.１では木本花粉が７％、草本花粉が20％、胞子が73％の割合で検出された。木本花粉検出量は21粒と少なかったが、コウヤマキ属が29％（６粒）、マツ属複維管束亜属、クリ属が各14％（３粒）、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属が各10％（２粒）の出現率（検出量）を示した。

(3)植物珪酸体分析結果

分析結果を植物珪酸体ダイアグラム（第５図）と植物珪酸体組成表（第４表）に示す。植物珪酸体ダイアグラムでは、検出量を1gあたりの含有数に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。



第３図　花粉ダイアグラム



第４図　花粉（含有量）ダイアグラム

得られた植物珪酸体化石群集には、全ての試料で大きな差はなく、僅かであるがイネが検出された。検出密度では、試料№4、3 でメダケ率が低く、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が多産した。また、樹木起源のシイノキ属、クスノキ科が検出された。

５．花粉化石が含まれなかった原因について

花粉化石の含有量の少ない原因について、通常は以下のようなことが考えられている。

(1) 堆積物の特性（粒度・比重）と花粉化石の平均的な粒径、比重が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。

(2) 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石が含まれない。

(3)「土壌生成作用」の及ぶ期間が短く、花粉の付加量が少なかった。

(4) 土壌生成作用に伴う堆積物で、堆積速度が極めて遅く、堆積した花粉化石が紫外線により消滅した。

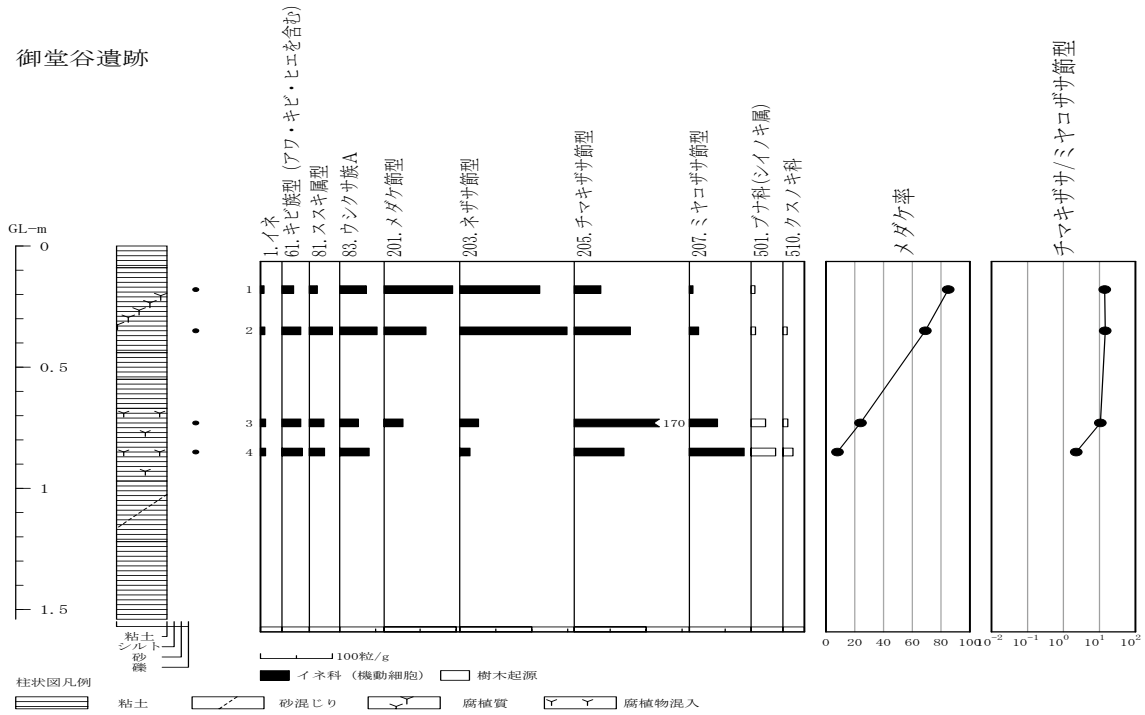
(5) 花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化などにより花粉化石が消滅した。

(6) 有機物に極めて富む堆積物で花粉以外の有機物も多く、処理の過程で花粉化石が濃縮できなかった（希釈効果）。

微化石概査結果（第２表）では、分析対象とした全試料で炭片、植物珪酸体、火山ガラスの含有量が多く、花粉（胞子）、植物片、珪藻の含有量が少なかった。また、分析した試料も粘土～シルトサイズが主であり、試料採取時には酸化鉄や酸化マンガンの沈着により、褐色～黒褐色の色調を呈した。一方、グライ化の影響と考えられる暗青灰色は呈していなかった。これらのことから、上記４～６が、花粉（胞子）含有量が少なかった主因であると考えられる。

６．局地花粉帯の設定

通常花粉分析結果を基に局地花粉帯を設定するが、今回は花粉・胞子化石含有量が少なく、統計処



第５図　花粉（含有量）植物珪酸体ダイアグラム

理に十分な量の木本花粉が検出できなかったことから、局地花粉帯を設定しなかった。

ただし花粉分析結果で述べたように、下位の２試料（包含層４）と上位の２試料（包含層２）には花粉化石群集に明らかな違いが認められる。同様のことは植物珪酸体化石群集でも認められる。これらの違いが植生の変化に由来するものか、化石の分解・消滅に起因したものかは、現状では不明である。

７．古植生及の復元

一般に、花粉・胞子化石含有量が少なく、胞子化石の割合が高い試料では、コウヤマキ属や、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科など特定の種類が高率になる傾向にある。このことから、花粉、胞子が選択的に残存（化学変化に強い外壁を持つ花粉の分類群のみが残る）し、得られた花粉化石群集が堆積当時の植生を十分に反映していないと考えられた。しかし、ここでは花粉化石群集が堆積当時の植生を十分に反映していると考えて、古植生を復元する。以下にそれぞれの特徴を、時間的な変遷が追えるように、下位から上位に向けて示す。

(1) 包含層４（試料№４、３）

胞子化石が全体の半数近くを占めるものの、検出された木本花粉は 14 種類と比較的多かった。また、先に示したコウヤマキ属は検出されるものの、ごく僅かであった。胞子を除くと、木本花粉検出量が草本・藤本花粉の検出量のおよそ２倍を示した。一般に草本・藤本花粉は木本花粉に比べ生産量が少なく、散布面積も狭いことから分布面積が過小評価される傾向にある。調査地は丘陵上の浅い谷内に位置するが、今回のような検出量の比は、調査地近辺の丘陵には草地が広がっていたと考えた方が良い値である。このことは、発掘調査範囲内に竪穴住居跡が点在する様子からも、想像できる景観である。この草地には、花粉や植物珪酸体が検出されたススキ類、チガヤ類（ウシクサ族 A）、エノコログサ類（キビ族型）などのイネ科草本やヨモギ類などのキク科草本が生育していたと考えられる。また、植物珪酸体が多量に検出されたチマキザサ類やミヤコザサ類などがササ原を成していた可能性もある。一方、草地の周囲（林縁）ではアカマツやクリ、

ウルシ類、ウコギ類などの陽樹が分布したと考えられる。また、森林は花粉が検出されるカシ類や植物珪酸体が検出されるシイ類やクスノキ類を要素とする照葉樹林であったと考えられる。花粉分析で比較的高率を示すスギは、丘陵下の平野部に小規模なスギ林を成していたものと考えられる。この外、植物珪酸体分析で僅かにイネが検出される。尾根上であり水田は考えにくく、焼き畑での陸稲栽培には住居が近すぎるようである。したがって、竪穴住居の屋根材に由来する可能性が示唆される。

第４表　植物珪酸体組成表

試料№	1	2	3	4
1 イネ	1 5 0.16	1 6 0.19	1 7 0.19	1 7 0.2
61 キビ族型(アワ・キビ・ヒエを含む)	3 16 -	4 26 -	4 26 -	4 28 -
81 ススキ属型	2 11 0.13	5 32 0.4	3 20 0.24	3 21 0.26
83 ウシクサ族Ａ	7 37 -	8 52 -	4 26 -	6 41 -
201 メダケ節型	18 95 1.1	9 58 0.67	4 26 0.3	- - -
203 ネザサ節型	21 111 0.53	23 149 0.71	4 26 0.13	2 14 0.07
205 チマキザサ節型	7 37 0.28	12 78 0.58	26 170 1.27	10 69 0.52
207 ミヤコザサ節型	1 5 0.02	2 13 0.04	6 39 0.12	11 76 0.23
501 ブナ科(シイノキ属)	1 5 -	1 6 -	3 20 -	5 34 -
510 クスノキ科	- - -	1 6 -	1 7 -	2 14 -
プラント・オパール総数 カウントガラスビーズ数 カウント総数	61 517 578	66 435 501	56 463 519	44 430 474
試料重量(×0.0001g) ガラスビーズ重量(×0.0001g)	8140 243	7830 241	7190 238	7660 248
メダケ率(%) チマキザサ節型/ ミヤコザサ節型	85 14	69 14.5	24 10.6	8 2.3

上段　検出粒数
中段　検出密度（単位；×100粒/g）
下段　推定生産量（単位；kg/㎡・cm）

(2) 包含層２（試料№.２、１）

胞子化石が全体の７割を占め、木本花粉は１割に満たない。また、試料№.１ではコウヤマキ属29％の出現率を示している。このような花粉・胞子化石群集は、先に述べたように、何らかの原因で多くの花粉粒が劣化・消滅する中で、選択的に残存したものを見ている可能性が高い。一方で、花粉分析で試料№.１から僅かに検出されたガマ属や、試料№.２から検出されたキカシグサ属、（低木の）タニウツギ属などは、調査地内の開けた谷底などに分布していた可能性が極めて高い。また、丘陵上には植物珪酸体が多量に検出されたメダケ類やネザサ類などがササ原（あるいは藪？）を成していた可能性もある。一方、背後の森林は花粉が検出されるカシ類や植物珪酸体が検出されるシイ類やクスノキ類を要素とする照葉樹林であったと考えられる。花粉分析で検出されるコウヤマキやモミ、ツガなどの温帯針葉樹はここに混淆し、アカマツ、ナラ類などは主に林縁に分布していた可能性が高い。

８．まとめ

御堂谷遺跡で実施した花粉、植物珪酸体分析の結果、以下の事柄が明らかになった。

(1) 花粉・胞子化石含有量が少なく、木本花粉が検出量が少なかった。このため、統計処理に十分な量の木本花粉が検出できなかった。

(2) 花粉・胞子化石含有量が少なかった原因について考察した。この結果、堆積後の化学変化、あるいは堆積直後の紫外線によって、劣化、消滅したものと推定できた。

(3) 植物珪酸体化石、僅かに検出された花粉化石から、包含層ごとに堆積時の古植生について考察した。

【参考文献】

中村　純（1974）イネ科花粉について , 特にイネを中心として . 第四紀研究 , 13,187-197.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29

渡辺正巳（2010）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177. ニュー・サイエンス社.

第４節　御堂谷遺跡出土ガラス小玉の自然科学的調査

田村朋美（奈良文化財研究所）

１．はじめに

御堂谷遺跡から出土したガラス小玉について、製作技法を推定し、化学組成から基礎ガラスの種類および着色材の特徴を把握することを目的として自然科学的調査を実施した。以下、その結果について報告する。

２．資料と方法

本調査の対象は、御堂谷遺跡から出土したガラス小玉１点である。色調はやや緑色がかった濃青色半透明を呈する。表面はガラス光沢を有し、保存状態は比較的良好である（第１図）。

調査は、実体顕微鏡観察および蛍光Ｘ線分析による非破壊材質調査を実施した。蛍光Ｘ線分析の測定にあたっては、顕微鏡下で新鮮な破断面など風化の影響が少ない場所を選択し、測定範囲の表層を超音波およびエチルアルコールで洗浄したうえで測定した。測定結果は、ガラス標準試料を用いて、FP（Fundamental Parameters）法によって規格化し、酸化物重量百分率で表示した。励起用Ｘ線源はRh管球、管電圧は、FP法を用いた定量分析では20 kVに設定し、一部の元素について20 keV以上のスペクトルを検出するため、50 kVに設定した。管電流は200 μA、Ｘ線照射径は50 μm、計数時間は300秒とした。測定は真空中で実施した。

第１図　顕微鏡写真（落射光）

３．結果と考察

顕微鏡観察の結果、孔内面が平滑で、気泡が孔と平行方向に並ぶことから、軟化したガラスを引き伸ばしてガラス管を製作し、それを分割して小玉を得る「引き伸ばし法」で製作されたと判断される。端面は研磨されていない。

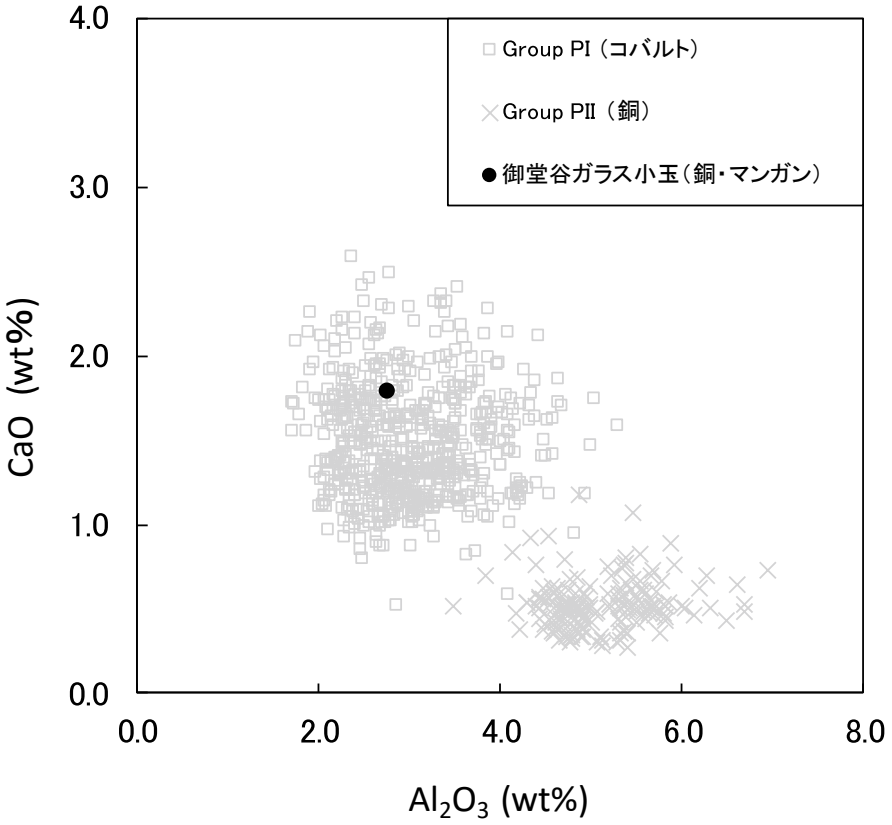
基礎ガラスの材質については、蛍光Ｘ線分析の結果、酸化カリウム（K_2O）を16.2％含有するカリガラスであることがわかった（表１）。着色に関与する成分として、CuOを2.24％含有しており、銅イオンが主たる着色要因である。参加マンガン（MnO）を0.36％含有し、やや暗い色調の要因と推察される。また、微量の酸化鉛（PbO）を含むと同時に、管電圧を50 kVに設定した定性分析で錫（Sn）が検出されている。鉛と錫を含むことから、着色剤として利用された銅原料が青銅の可能性が考えられるが、MnOが多い理由については明らかでない。

筆者らは日本列島で出土するカリガラスを酸化カルシウム（CaO）と酸化アルミニウム（Al_2O_3）の含有量から二種類（Group PI，Group PII）（Oga and Tamura 2013）に大別している。本資料について、既存のグループへの帰属を検討したところ、Al_2O_3含有量が少なくCaO含有量が多いGroup PIタイプのカリガラスに相当することが判明した（第２図）。ただし、既往研究において、

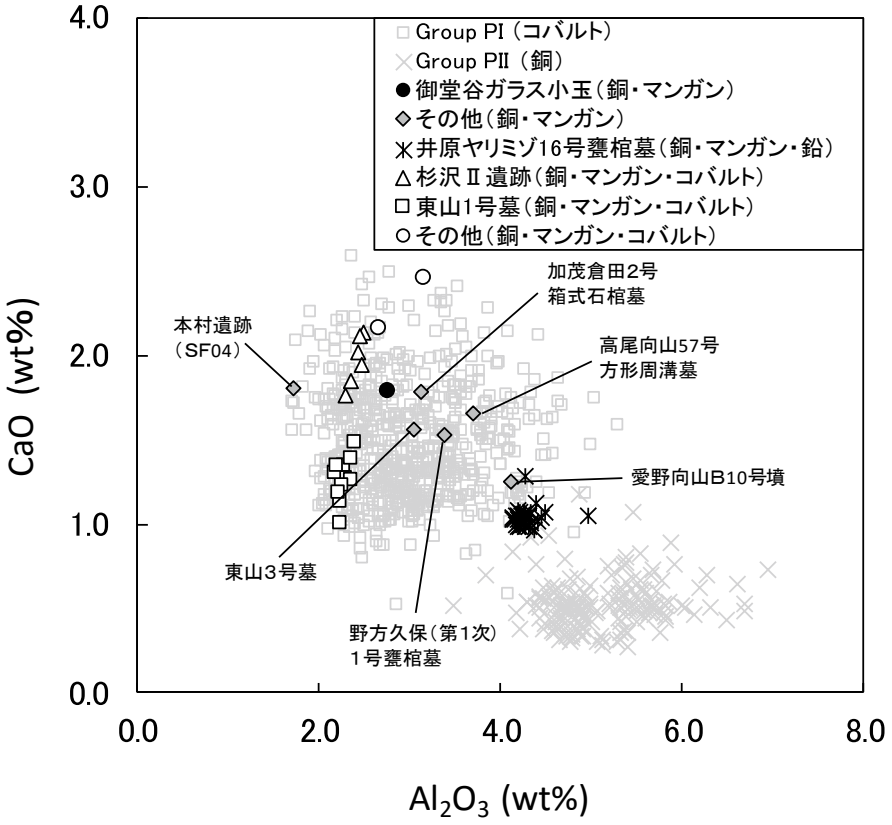
Group PI はコバルト着色の紺色カリガラスに、Group PII は銅着色の淡青色カリガラスに対応することが明らかとなっているが、本資料は典型的な Group PI とは異なる着色剤の特徴を有していた。

銅とマンガンによって複合的に着色されたカリガラス製小玉については、事例は多くはないものの、分析結果を報告したことがある（大賀・田村 2016）。色調も化学組成も変異が大きく、まとまった特徴を示さないが、PbO を多く含むもの（＞１％）、少量含むもの、ほとんど含まないもの（＜0.5％）の３種類に分かれるようである。

このうち、PbO を多く含むものは、材質的に斉一的で、福岡県井原遺跡の２号木簡墓（２点）、16 号甕棺墓（32 点）、および熊本県木船西遺跡（５点）からの出土が確認されており、流入時期は弥生時代後期前半である（大賀・田村 2016、田村 2017）。

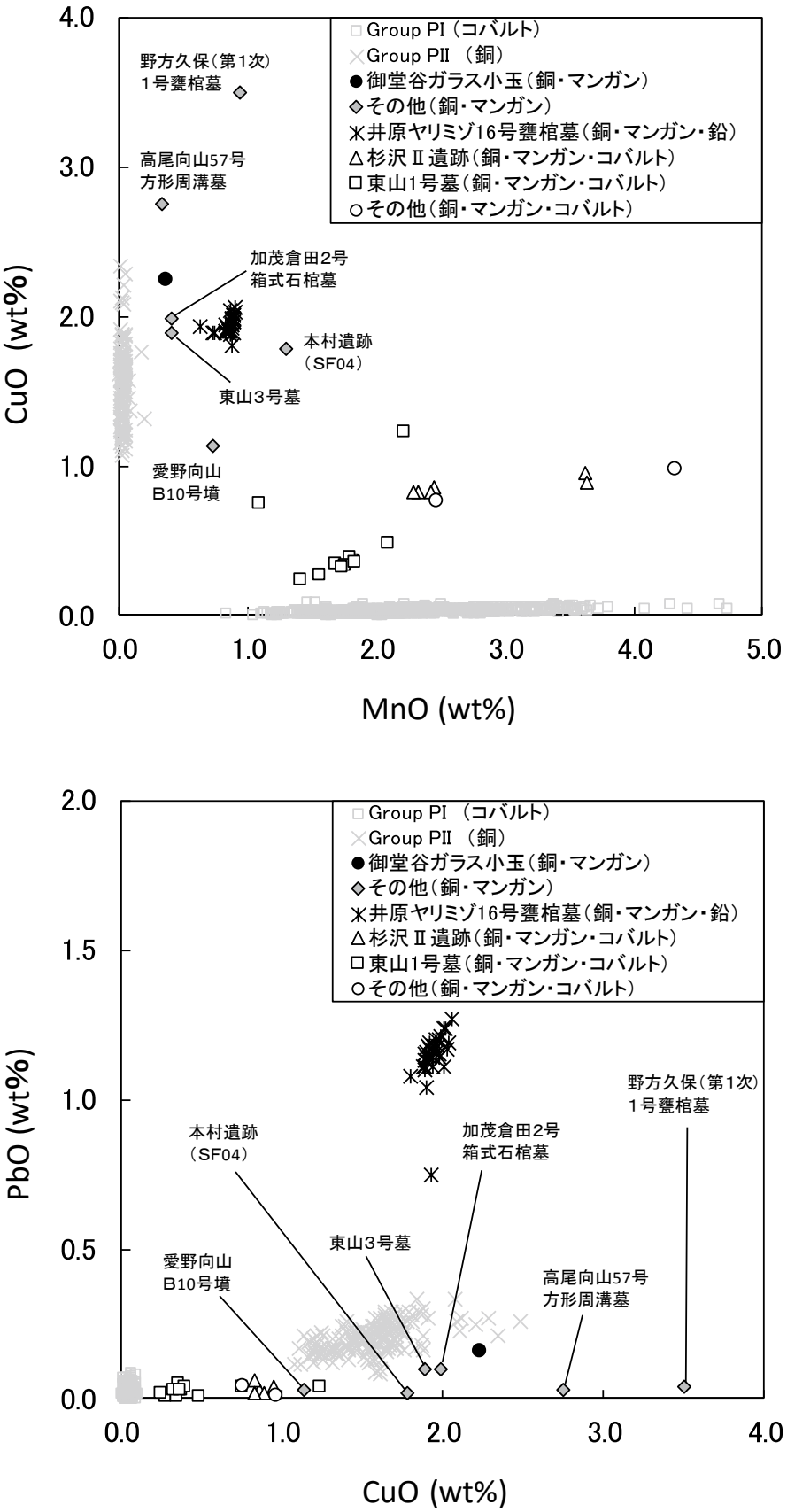


第２図　カリガラスの基礎ガラス材質部分（CaO vs. Al_2O_3）



第３図　基礎ガラス材質の類例比較（CaO vs. Al_2O_3）

一方、PbO を少量含むものとほとんど含まないものは、材質的な変異が大きい。本資料は、鉛・錫を少量含むタイプに属すると判断され、これまでの分析事例の中では、兵庫県東山３号墳および広島県加茂倉田２号箱式石棺墓出土例が基礎ガラス材質および着色成分ともに最も類似する（第３図・第４図）。なお、PbO を少量含むものとほとんど含まないものは大部分が直径５㎜を超える大型品で、弥生時代後期後半以降の遺跡から出土することが多い（大賀・田村 2016）。本資料も直径５㎜を超える大型品であり、共通の特徴を有する。ただし、これまでの類例はすべて端面が研磨されているのに対し、本資料は研磨されていない点は注意される。端面の研磨は使用痕と考えられており、研磨されているものとされていないものでは、研磨されていないもののほうが時期的に古い可能性が指摘されている（大賀 2003）。



第４図　着色成分の類例比較（上：MnO vs. CuO、下：CuO vs. PbO）

なお、銅・マンガン着色と関連する可能性がある資料として、銅・マンガン・コバルトによって着色されるものも存在する。島根県内の事例として、出雲市杉沢Ⅱ遺跡出土品（田村 2016）が相当し、他にも兵庫県豊岡市東山１号墓からも類似のガラス小玉が出土している。その他 (1) については、単発的な出土である。

表１　御堂谷遺跡出土ガラス小玉の蛍光Ｘ線分析結果

御堂谷遺跡	重量濃度（w%）																				その他
	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_3	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Cr_2O_3	MnO	Fe_2O_3	CoO	Ni_2O_3	CuO	ZnO	PbO	Rb_2O	SrO	ZrO_2	
ガラス小玉	0.5	0.6	2.8	73.9	0.1	0.4	16.2	1.8	0.10	0.03	0.36	0.70	0.01	0.01	2.24	0.03	0.16	0.07	0.04	0.13	Sn検出

４．おわりに

本調査では御堂谷遺跡から出土したガラス小玉の製作技法、基礎ガラスの種類および着色剤とその組み合わせについて明らかにすることができた。その結果､引き伸ばし法で製作された小玉で、銅・マンガン着色のカリガラス製であること判明した。現時点ではまだ類例が少なく、日本列島における消長など明らかでない部分が多いが、島根県内では初めての出土例であり、島根県内で流通したガラス製品の様相を解明する手掛かりとなれば幸いである。

【註】

（1）高尾向山 26 号方形周溝墓および国成古墳出土品の２点で、前稿（大賀・田村 2016）では、銅・マンガン着色に含めていたが、再検討する中で CoO を０　3％含有している（銅・マンガン着色では CoO ≦ 0.01％）ことから、銅・マンガン・コバルト着色の一群として理解することに改めた。

【参考文献】

大賀克彦 2003「紀元三世紀のシナリオ」『風巻神山古墳群』72 ～ 90 頁。

大賀克彦･田村朋美 2016「日本列島出土カリガラスの考古科学的研究」『古代学』（奈良女子大学古代学学術研究センター）第８号、11 ～ 23 頁。

田村朋美 2016「杉沢Ⅱ遺跡出土ガラス小玉の自然科学的調査」『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群（出雲斐川中央工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）』（『出雲市の文化財報告』31）出雲市教育委員会、246 ～ 251 頁。

田村朋美 2017「木船西遺跡出土ガラス小玉の分析」『木船西遺跡』（『玉名市文化財調査報告書』第 34 集）玉名市教育委員会、160 ～ 165 頁。

Oga and Tamura 2013 Ancient Japan and the Indian Ocean International Sphere: Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of imported glass beads in the Yayoi-Kofun Periods (3rd Century BCE- 7th Century CE), Journal of Indian Ocean Archaeology No.9, pp.34-60.

第５章　総括

第１節　縄文時代・弥生時代の遺構・遺物

１．縄文時代の遺構

御堂谷遺跡Ａ区では３基の落とし穴を検出している。これらの落とし穴は、その形状から縄文時代後・晩期の所産と考えられる。それぞれの落とし穴の断面形態は、落とし穴１が袋形、落とし穴２・３が外傾形で、それぞれの底面にはピットが伴っている。３基の落とし穴は、Ａ区の中央部でわずか 16m 程度の南北方向にのびる尾根稜線上に、ほぼ等間隔かつ直線的に並んでいるように思われる。しかし、断面形態が異なる落とし穴１は、落とし穴２・３を結ぶ軸線上より若干北にずれており、落とし穴２－３間の距離に比べてやや長いことから、落とし穴２・３と同時期の落とし穴ではない可能性が高いものと考えられる。いずれにせよ、御堂谷遺跡の落とし穴設定箇所は、狭い尾根を越える稜線に効果的に配置された罠といえる。

鳥井丘陵周辺の縄文時代遺跡については、久手町の中尾Ｈ遺跡で縄文時代後期を中心とする土器が出土しているほか、門遺跡、波根町の高原遺跡が確認されている（島根県 2013）。御堂谷遺跡では縄文土器等をはじめ、関連遺構は出土していないが、鳥井丘陵が当期の狩猟対象地に含まれていたのであろう。

２．弥生時代の遺構

御堂谷遺跡で検出された弥生時代の主要な遺構は、竪穴建物と加工段である。Ａ区では弥生時代後期前半（Ｖ－１・２様式）を中心とする竪穴建物３棟（SI02 －２・３と SI03）と、SI03 に切られている SI04 が検出された。SI04 は遺構に伴う明確な遺物が検出されていない。また、弥生時代後期前半の加工段も検出されている（加工段３）。Ａ区の谷状地形には弥生時代前期後葉（Ｉ－３様式主体）の土器が大量に出土しているが、明確な遺構は検出されていない。同様に、Ｂ区の谷状地形を中心とした包含層からも弥生時代前期末葉の土器が多数出土しているが、竪穴建物等の明確な遺構は検出されていない。Ｂ区では、弥生時代中期末葉（Ⅳ－１・２様式）の竪穴建物 SI06 が検出されたほか、弥生時代後期前半（Ｖ－１・２様式）の竪穴建物が４棟検出されている。SI01-1 は SI01-2 を切って建てられた建物である。また、SI05 は焼失した建物であった。この３棟は谷状地形の斜面に形成されているため、斜面側の床面は流れているが、建物に伴う柱穴が円形に配列していることから、円形プランの竪穴建物であったと考えられる。また、焼失した SI05 は、遺構内から土器が殆ど出土していないことから、無人化した後の焼失、すなわち建物の廃絶等に伴った意図的な焼却が考えられる。周堤溝の中心部（竪穴建物背面のほぼ正中線上）に据えられたような状態で底部が打ちかかれた壺が出土していることも示唆的である。

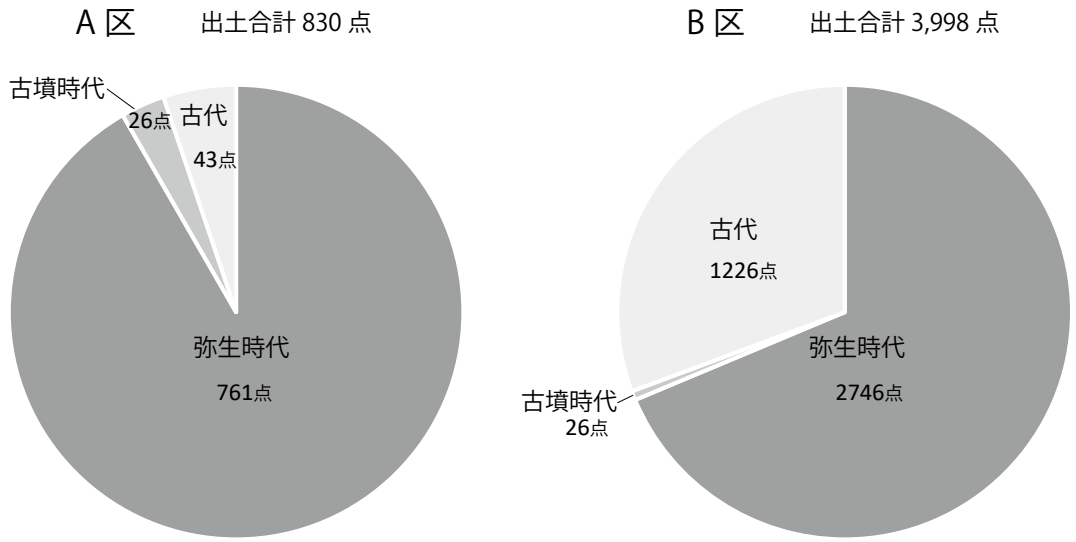
３．竪穴建物の周堤溝

御堂谷遺跡のＢ区で検出された竪穴建物は、谷状地形の山側を背面としたもので、背面側と入口側（斜面）を結ぶ正中線上を、起点（分水嶺）とした深い周堤溝が備えられているのも大きな特徴の一つである（SI01-2 は SI01-1 に切られているため、周堤溝の全容は不明）。すなわち、周

堤溝は背面正中線上では、周堤溝が浅く掘削されるか（SI05・06）、あるいは掘削されていない（SI01-1）。ここを起点（分水嶺）に、建物背面から左右に周堤溝が掘削されているのである。このような周堤溝を具備した竪穴建物は、御堂谷遺跡と同一の鳥井丘陵に所在する鳥井南遺跡（大田市教育委員会 2018b）でも検出されており、地域的な特性であった可能性も考えられる。なお、傾斜地に形成された竪穴建物の周堤溝は、屋根から滴り落ちる雨水や、建物背面の下り傾斜からの雨水等を効率良く排水する必要性が考えられることから、傾斜地に形成された竪穴建物の周堤溝は本来的には上記のような形状をしたものが、一般的であった可能性も考えられる。

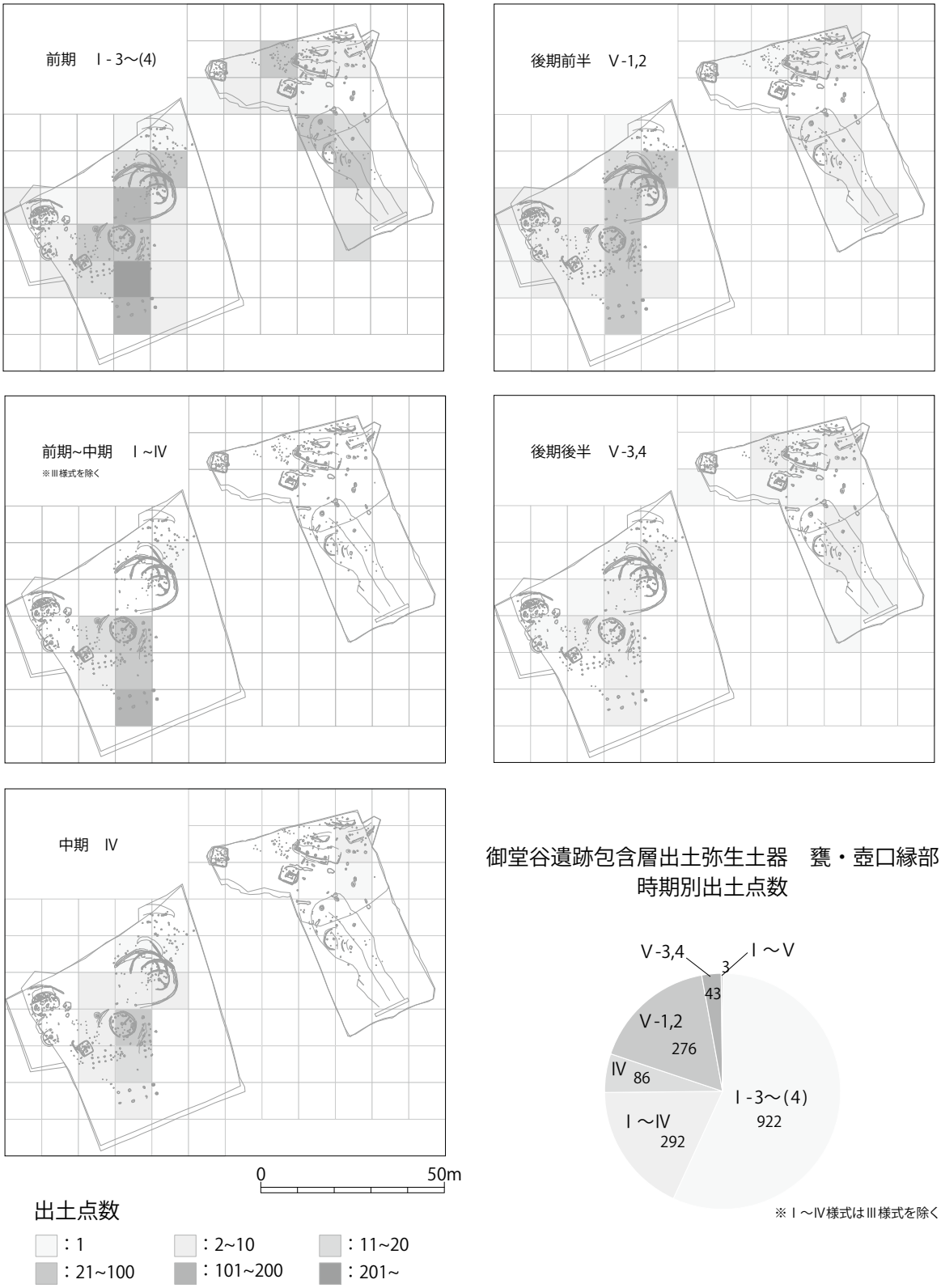
４．包含層の形成過程

御堂谷遺跡ではＡ区・Ｂ区とも、一部の柱穴等を除くと弥生時代前期の明確な遺構は検出されていない。それにもかかわらず、包含層からは弥生時代前期後葉（Ｉ－３様式主体）の土器が多数出土している（第 83 ～ 88 図）。第 84 図は弥生土器の甕・壺の口縁部から時期ごとの出土点数とその出土地点を集計したものである。弥生前期の土器が、Ａ区・Ｂ区の谷状地形から数多く出土していることが分かる。また、中期（Ⅳ様式）～後期（Ⅴ様式）の出土地点は、その時期に形成された遺構に重なる傾向を示している。同様の傾向は、第 85 図の甕・壺底部や、第 86 図のその他の器種の弥生土器、そして第 88 図左上の円板状土製品の出土数と出土地点からも明らかである。このことは第 87 図に示すように、包含層ごとに集計した弥生土器の時期別点数にも反映されている。すなわち、包含層１から４へと土層堆積の深度を増すにつれ、前期の土器が多くなることからも明らかであり、包含層１・２に後期の遺構が形成されていることから、包含層１・２には後期の土器が占める割合が多い。しかし興味深い点は、御堂谷遺跡で出土する弥生土器の約 70％を前期後葉（Ｉ－３様式主体）が占めている事実である。これらの遺物が集中して出土しているのが、Ａ区南側の谷状地形の包含層とＢ区のほぼ中央を南北に走る谷状地形の包含層である。谷状地形の地山面には、複数の柱穴や土坑が検出されているが、土器の出土数に比べると貧弱である。想像の域を出ないが、Ａ区・Ｂ区の調査区外の平坦面に弥生時代前期後葉の遺構が形成されており、そこで



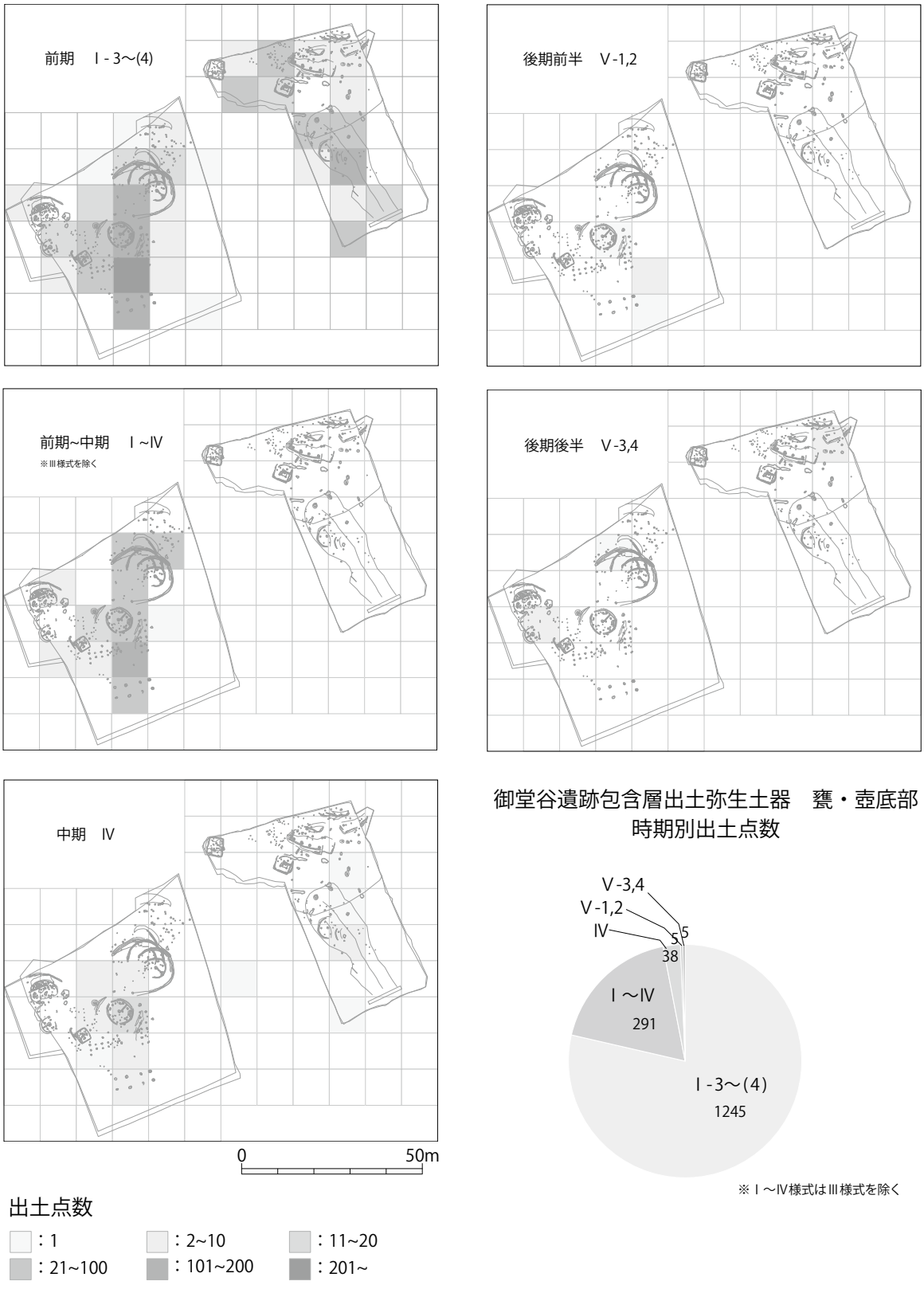
第 83 図　御堂谷遺跡包含層出土遺物時期別割合

生活を営んだ人々は土器を谷状地形に廃棄し、さらに谷状地形が弥生時代中期までに埋没した段階で（包含層 4・3）、中期後葉の竪穴建物 SI06 が形成されたものと想像される。さらに、包含層 1・2 に弥生前期後葉の土器が含まれていることを考えれば、平坦面の遺構は、弥生時代中期・後期～古代にも継続して削平を受けていた可能性が考えられる。そして、包含層 1 に古代の須恵器・土

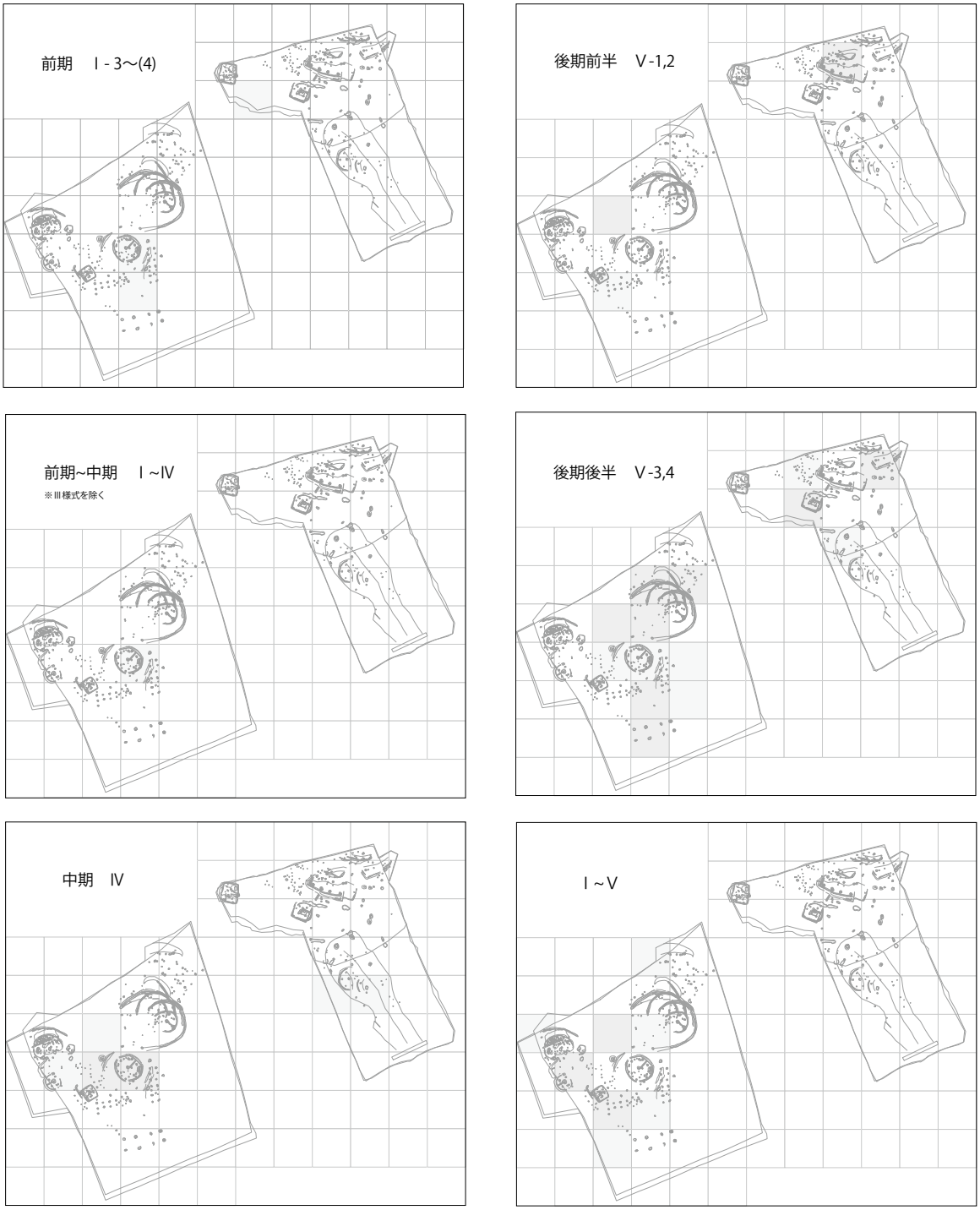


第 84 図　包含層出土弥生土器甕・壺口縁部　時期ごとの出土点数と出土地点

師器が数多く含まれていることを考えれば、中世以降に平坦面は大幅に削平・改変されたものと考えられる。平成 27 年度の試掘調査で、平坦面のトレンチから遺物・遺構の痕跡が検出されなかったことは、現時点ではこのような要因によるものと推察される。



第 85 図　包含層出土弥生土器甕・壺底部　時期ごとの出土点数と出土地点

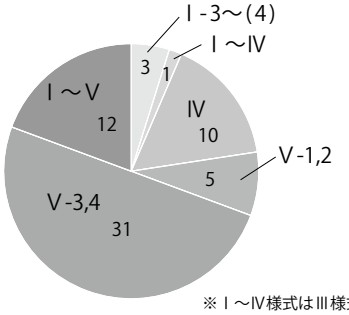


0　50m

出土点数

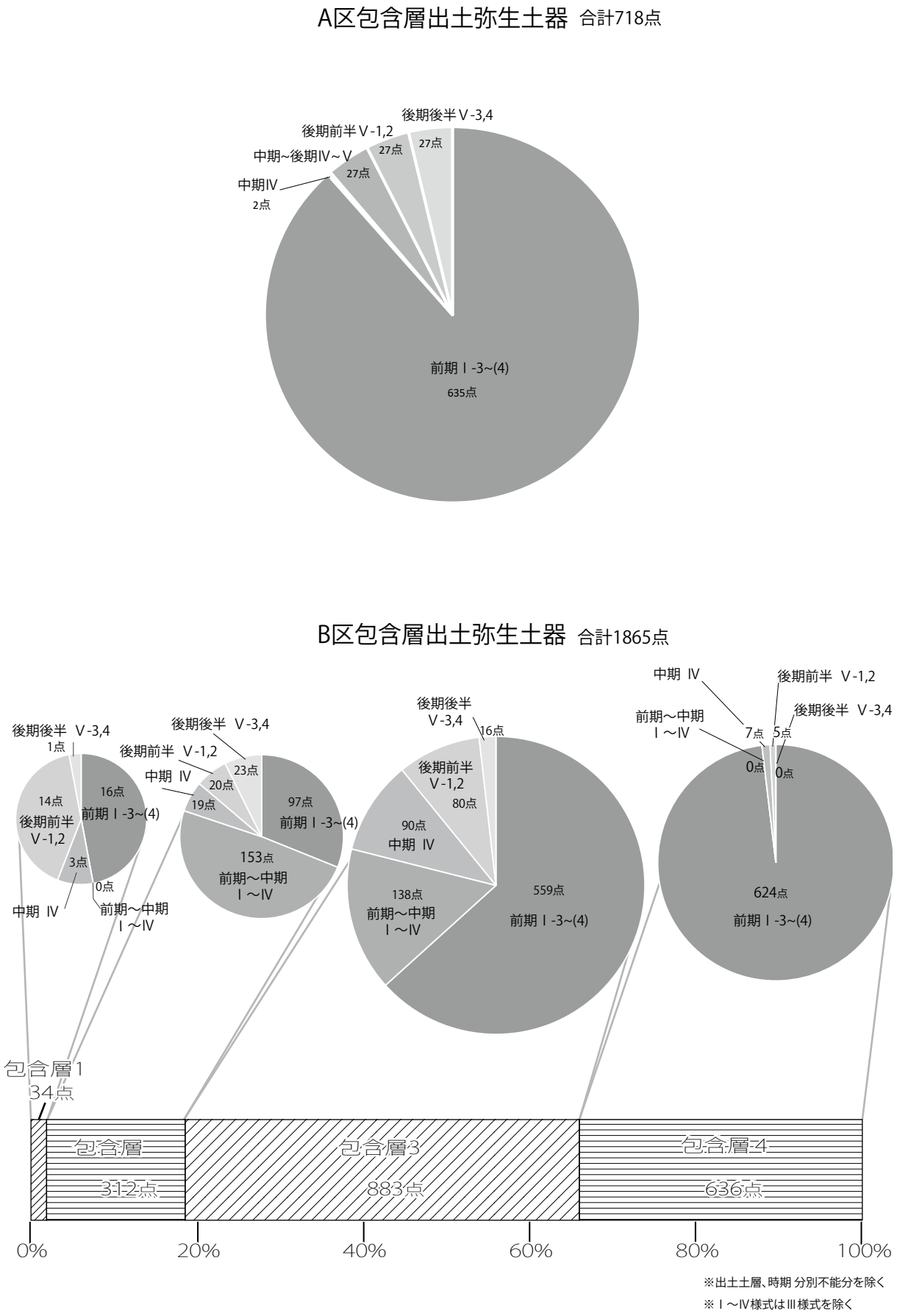
□：1　□：2~10　□：11~20

御堂谷遺跡包含層出土　その他の弥生土器
時期別出土点数



※Ⅰ～Ⅳ様式はⅢ様式を除く

第 86 図　包含層出土その他の弥生土器　時期ごとの出土点数と出土地点



第 87 図　包含層ごとに集計した弥生土器の時期別点数

５．弥生時代前期後葉の高地性遺跡

ところで、御堂谷遺跡が所在する大田市中心地域でも弥生時代前期の遺構・遺物が確認されている。例えば、弥生時代前期の河道が検出された御堂谷遺跡直近の栗林Ｂ遺跡では、弥生前期の土器のほか環状杭列遺構が検出されている。しかし、まとまった量の遺物や竪穴建物等の遺構は未見である。また、御堂谷遺跡のように丘陵部の標高約 46m ～ 56m に立地する（平野部との比高差は約 30 ～ 40m 前後）弥生時代前期後葉の高地性の遺跡で、まとまった量の遺物や遺構が検出された例は、山陰沿岸部でも非常に限られている。鳥取県・島根県の山陰両県では、鳥取県西伯郡南部町に所在する台地先端部の緩斜面に溝状遺構が検出された諸木遺跡（会見町教育委員会 1975）、同様の立地で環濠が検出された同町の宮尾遺跡（会見町教育委員会 1982）、天王原遺跡（会見町教育委員会 1993）、比高差 30m の丘陵に環濠が廻る同町の清水谷遺跡（西伯町教育委員会 1992）、大山町の大塚岩田遺跡（財団法人鳥取県教育文化財団 2001）安来市伯太町の環濠を伴う経塚鼻遺跡（安来市教育委員会 2006）、前期末から中期初頭に環濠の形成が開始された松江市の田和山遺跡（松江市教育委員会 2005）、尾根筋と丘陵先端を分断する環濠状の溝が検出されている雲南市三刀屋町の要害遺跡（島根県教育委員会 2001）などがある。いずれも環濠等の遺構が検出されており、御堂谷遺跡の性格を考える上でも示唆的である。また、弥生時代前期後葉の環濠は、例えば沖積低地にある拠点集落の松江市西川津遺跡（島根県教育委員会 2013）や松江市佐太前遺跡（松江市教育委員会 2010）でも見つかっている。上記の遺跡と共に、丹後（扇谷遺跡や途中ヶ丘遺跡）を含めた日本海沿岸の当該期における環濠発生の史的意義の検討も今後の課題である。一方、弥生時代中期末葉～後期になると石見地域沿岸部で高地性の遺跡が増加することが指摘されている（島根県教育委員会 2014）（第 90 図・第３表）。その意味においても、御堂谷遺跡は当地域の弥生社会を考える上で重要な遺跡の一つといえよう。

６．ガラス小玉

例えば山陰沿岸における遠隔地交流を示す可能性がある資料として、竪穴建物 SI06 から出土したガラス小玉がある。島根県内における弥生時代のガラス製品出土遺跡としては、19 例目で、ガラス小玉の出土遺跡としては 17 例目の遺跡となる（第１表）[(1)]。本遺跡のガラス小玉は、弥生時代後期後半以降の遺跡から出土するものと共通する要素と、共通しない要素が指摘されている（第４章第３節）。ガラス小玉が出土した竪穴建物 SI06 の調査所見と共伴する土器の様相からは、島根県内最古例である杉沢Ⅱ遺跡の竪穴建物 SI501 出土のガラス小玉と同じく、弥生時代中期後葉～末に遡る資料である可能性が考えられる。ただし、銅・マンガン着色のカリガラス製小玉である本資料が、現時点で類例が少なく、島根県では初めての出土例であることが指摘されていることからも（第４章第３節）、本資料の編年的位置づけは、今後の類例増加が待たれるところである。いずれにせよ石見におけるガラス製品の初期的な流入という点からみて、御堂谷遺跡の位置する鳥井丘陵とその周辺は、西方世界との窓口となり得る拠点的な弥生集落が展開していた地域とみなすことができる。

第１表 島根県内の弥生時代ガラス製品一覧

	遺跡名	種別	時期	出土遺構　等	ガラス製品の種類					同一遺構　共伴		文献
					勾玉	管玉	丸玉	小玉	他	玉類	その他	
1	御堂谷	集落跡	弥生中期後葉～後期	竪穴建物 SI06				1			弥生土器	1
2	矢野	集落跡	弥生前期？～古墳前期	包含層			1	1		碧玉管玉２ 緑色凝灰岩管玉２		2
3	西谷墳墓群	墳墓	弥生後期後葉	３号墓第１主体	2	26+		122+	垂 40+ ？ 36+	緑色凝灰岩管玉 27	弥生土器 棺上円礫	3
				３号墓第４主体		20					鉄剣、弥生土器 棺上円礫	
				２号墓中心部		1			釧３			
4	白枝荒神	散布地	弥生後期	土器群６		１？						4
				溝 SD02		１？						
5	下古志	集落跡	弥生後期	溝 SD03 （もとは SI01 か）				1			弥生土器 須恵器、土師器	5
6	杉沢Ⅱ	集落跡	弥生中期後葉	竪穴建物 SI501				6			弥生土器 袋状鉄斧、砥石	6
7	白枝本郷	集落跡	弥生後期～古墳前半	包含層				4				7
8	南講武大日	散布地	弥生後期～古墳前半	竪穴住居 SI05				1				8
9	順庵原１号墓	墳墓	弥生後期前半	第１主体				14				9
				第２主体		2		45				
10	森	集落跡	縄文～古墳	包含層				1				10
11	門生黒谷Ⅲ	集落跡	弥生後期	SI07				1				11
12	姫原西	集落跡	弥生後期末	貝塚				2				12
13	上野Ⅱ	集落跡	弥生後期	竪穴住居 SI10P15				1				13
14	堀部第２	集落跡	弥生後期末～古墳初頭	包含層		1		10				14
				掘立柱建物 SB04				1		緑色凝灰岩管玉１		
				溝 SD01				1				
				溝 SD03		1						
				溝 SD05				1				
				溝 SD10		1						
15	堀部第３	集落跡	弥生後期末～古墳初頭	包含層	1			2				14
16	北原本郷	集落跡	弥生後期前葉	竪穴建物 SI05				2				15
17	山持	集落跡	弥生後期後半以降	７区⑤落ち込み状遺構				1		碧玉？管玉？	弥生土器、砥石 須恵器、土師器	16
18	西川津	集落跡	弥生後期	溝 SD07	1						石鏃、楔形石器 石鎌、石鍬、石斧	17
19	中小路	集落跡	弥生中期末～後期初頭	竪穴住居 SI05				2			弥生土器	18

文献
1. 本書
2. 島根大学山陰地域研究総合センター 1989『出雲市矢野遺跡の発掘調査』（古代出雲文化の展開に関する総合研究～斐伊川を中心として）
出雲考古学研究会 1986『西谷墳墓群』（古代の出雲を考える２）
3. 島根大学考古学研究室　出雲弥生の森博物館 2015『西谷３号墓発掘調査報告書』（島根大学考古学研究室調査報告第 14 冊）出雲弥生の森博物館研究紀要第５集）
4. 出雲市教育委員会 1997『白枝荒神遺跡』（市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
5. 出雲市教育委員会 2001『下古志遺跡』（一般県道多伎江南出雲線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
6. 出雲市教育委員会 2016『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』（出雲斐川中央工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）
7. 出雲市教育委員会 2018『白枝荒神遺跡商業用店舗新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（出雲市の文化財報告 38）
8. 鹿島町教育委員会 1987『南講武地区分布調査報告１』
9. 島根県教育委員会 1971『島根県文化財調査報告書　第７集』　瑞穂町 1976『瑞穂町誌　第３集』
10. 島根県教育委員会 1994『森遺跡・板屋Ⅰ遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡』（志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書２）
11. 島根県教育委員会 1998『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』
12. 島根県教育委員会 1999『姫原西遺跡』（一般国道９号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告１）
13. 島根県教育委員会 2001『上野Ⅱ遺跡』（中国横断自動車道尾道松江線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 10）
14. 島根県教育委員会 2003『島根県遺跡地図Ⅰ（出雲・隠岐編）』
15. 島根県教育委員会 2007『家の後Ⅱ遺跡２ 北原本郷遺跡２』
16. 島根県教育委員会 2012『山持遺跡 Vol.8（6，7 区）』（国道 431 号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 10）
17. 島根県教育委員会 2013『西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡』
18. 益田市教育委員会 2012『中小路遺跡・羽場遺跡』（一般県道白上横田線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）

第２節　古墳時代中期の遺構・遺物

御堂谷遺跡では、A 区からのみ古墳時代中期の遺構が検出されている。隅丸方形の竪穴建物が２棟（SI01、SI02-1）、加工段３つ（加工段１・２・５）である。いずれも、出土した土器の形態から、古墳時代中期前葉の遺構と考えられる。B 区では古墳時代中期の遺構が検出されず、当期の遺物は包含層からも殆んど出土していないが、A 区北側斜面に比較的まとまっている遺構群であることから、２～３世帯の単位集団の存在が示唆される。

このうち SI01 からは、土製勾玉 1 点が出土している。ここで注目されるのが、御堂谷遺跡と同一丘陵に営まれた鳥井南遺跡の存在である。鳥井南遺跡では弥生時代中・後期と古墳時代中期の遺構・遺物が多数検出されており、とくに古墳時代中期には大量の土製模造品が集積された祭祀遺構が見つかっている（大田市教育委員会 2018a・中田 1999）。この祭祀遺構からは、SI01 で出土したものに類似する土製勾玉も出土しており、鳥井南遺跡の祭祀に御堂谷遺跡の単位集団が関与している可能性も十分に考えられる。

第３節　古代の遺構・遺物

１．SB01 について

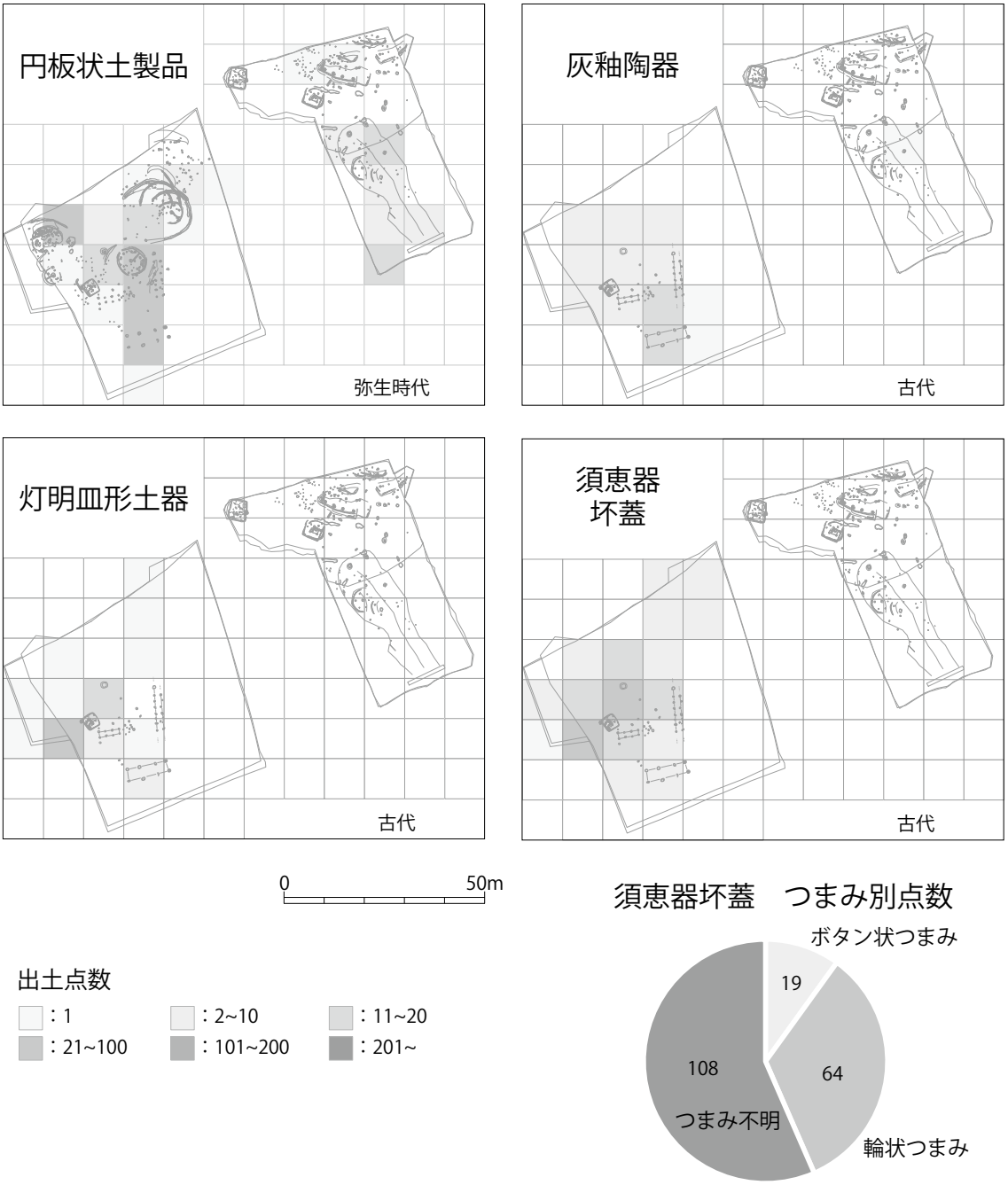
御堂谷遺跡では、B 区からのみ古代の遺構が検出され、灯明皿形土器をはじめとする特殊な遺物が出土している。包含層 1 の掘削段階に検出された古代の遺構は、多数の柱穴群からなる。その柱穴群が遺構をなすものとしては、SB01、SA01、SA02、SA03、SA04 があげられる。SA01 と SA02 は二つ合わせて掘立柱建物となる可能性もあるが、その場合、非常に狭く小規模であることから、ここでは SA03 と SA04 のように併行して並ぶ柵列として報告した。

SB01 は B 区を南北方向に貫く谷部のほぼ中央部に設けられた 1 間× 4 間の掘立柱建物で、柱穴の規模は他の柱穴群より大きいものであった。また、P67 と P70、P68 と P69 の柱穴間の間隔が広く、谷状地形の中央に立地し、SB01 の左右（東西）の地形が高まっている条件から、開閉装置の構造等は不明であるが、「門」の機能を有した遺構になる可能性が想定される。この想定が正しければ、後述する包含層 1 の出土遺物に灯明皿形土器や、朱墨の痕跡のある皿、須恵器蓋坏等の転用硯、鉄鉢形土器等がみられることと相俟って、寺院等の仏教関連施設の存在が示唆される。さらに丘陵の中腹にある御堂谷遺跡の北側丘陵頂部には、分布調査時に要注意箇所とされた平坦面の広がる地形が展開しており、調査 B 区から丘陵頂部に至るまで、10 m規模の平坦面が連続して認められる（第 4 図）。これらの平坦面と SB01 の位置関係や、周辺地形、出土遺物等の状況証拠から、平坦面と要注意箇所には山寺等の寺院関連施設が存在する可能性が示唆される。以上のことから、SB01 が「門」として機能した可能性に言及することも、まったく根拠のないことではない。

２．出土遺物について

ところで灯明皿形土器については、寺院での灯明専用の土器とする見解と（林 2000）、必ずしも灯明専用ではなく、仏教やその他の祭祀に関連した行事に使用されたものとする見解がある（川原 2010）。御堂谷遺跡では、鉄鉢形土器、朱墨の付着した皿などの仏教関係の出土遺物のほか、

転用硯と考えられる須恵器も出土している（第 7 表 166 頁右下参照）。また、灯明皿形土器には、内面に煤が付着するものも存在することから、灯明、そして仏教祭祀に伴う仏具として使用されたものと考えられる。さらに、包含層 1 から出土する灯明皿形土器、灰釉陶器、須恵器坏蓋の分布状況をみると（第 88 図）、B 区の中央西寄りに集中している。B 区西側の調査区外は、広い平坦面をもつ高まりがある。試掘調査では遺物・遺構とも確認されなかったが、この平坦面は B 区と A 区の間にある平坦面と共に、後世に何度か削平を受けた可能性が考えられ、後述する弥生時代前期の遺構も含め、かつては古代の遺構が存在した可能性も考えられる。SB01 や SA01 ～ 04 は、包含層 1 から数多く出土する輪状つまみの須恵器蓋や、灯明皿形土器の形態から、8 世紀後半を中心とする時期と考えられる。その後、御堂谷遺跡は遺物相からみて、9 世紀末頃には終焉を迎える。



第 88 図　包含層 1 出土円板状土製品、灯明皿形土器、灰釉陶器、須恵器坏蓋の分布状況

３．その他の遺構につて

次に SK01 について言及したい。SK01 は出土遺物がなく性格不明の土坑である。土坑の底面で炭化層が検出された。形態的には方形の土坑であったため、近世墓の可能性も考えられたが、包含層 1 より下層で検出されており、層位的には古代以前と考えざるを得ない。炭化層から出土した樹皮が確認された炭化物の放射性炭素年代測定では、樹皮直下の分析から 7 ～ 8 世紀の年代が報告されている（第 4 章第 1 節参照）。SK01 は古墓の可能性も考える必要があるが、性格は不明である。

また、SI02 は炭窯 1 や柱穴群の下層（包含層２）から検出されたもので、出土須恵器の編年観では 7 世紀末葉の奈良時代後半に相当する。炭窯 1 と SI02 から得られた炭化物の放射性炭素年代測定結果は、SK01 と同じく 7 ～ 8 世紀の年代が報告されている。なお、SI02 は煙道と造り付け

第 2 表 5 世紀から 9 世紀前半の島根県海岸部の造り付け竈

遺跡名	所在地	遺構名	竈の規模	部材	煙道	時期	備考	報告書
御堂谷遺跡	大田市鳥井町・長久町	B 区 SI02	幅 40㎝ 奥行き 70㎝	石＋粘土	約 80㎝	7C 末	AD686~717 放射性炭素年代測定	本書
平ノ前遺跡	大田市静間町	SI01	幅 40㎝ 奥行き 50㎝	石＋土	約 90㎝	6C 後葉～末	AD613~647 放射性炭素年代測定	島根県 2019
鳥井南遺跡 狼段原地区	大田市鳥井町	SB10	幅約 50㎝ 奥行き約 110㎝	石３＋粘土	不明	5C 代		大田市 2018a・b
浅柄Ⅲ遺跡	出雲市知井宮町	加工段 7	幅 50㎝ 奥行き 140㎝	石１＋土	80㎝	7C 後半		島根県 2017
城ヶ谷遺跡 １区	大田市久手町	SI01	幅 80㎝ 奥行き 100㎝	石１＋土	50㎝	7C 後半		島根県 2016
		SI02	幅 90㎝ 奥行き約 130㎝	石＋土	60㎝	7C 後半	竈のまぐさ石あり	
		SI04		石	短煙道	7C 後半	竈のまぐさ石あり	
城ヶ谷遺跡 ２区		SI01	幅 54㎝ 奥行き 97㎝	石	23㎝	7C 後半	竈のまぐさ石あり	島根県 2017
市井深田遺跡	大田市久手町	加工段 2-2 （幅約 6.2 m）	幅 79㎝ 奥行き 50㎝	石２＋粘土	64㎝	7C 初 （石見 5・6A 期）		島根県 2014
		加工段 12 （幅約 3.5 m）	焼土径 20㎝	不明	47㎝	7C 初 （石見 5・6A 期）		
		加工段 4-1 （幅　不明）	幅 88㎝ 奥行き 48㎝	石３＋粘土	90㎝	７C 前から 8C 前 （石見6B期から８期）		
		加工段 4-3 （幅約 3.7 m）	幅 72㎝ 奥行き 38㎝	石２＋粘土	52㎝	8C 後 （石見 9A 期）		
		加工段 6 （幅約 4.2 m）	幅 84㎝ 奥行き 48㎝	石４＋粘土	90㎝	6C 後から 9C 前？ （石見3期から9B期？）		
高津遺跡	江津市都治町	竪穴住居 02	直径約 60㎝	粘土	不明	5C 末から 6C 初	炉に近い形態	江津市 2005
堂床遺跡	松江市玉湯町	SB05	約 1 m四方 高さ 40㎝	石７	30㎝	6C 後	暖房用で煮炊きが不可能	島根県 2001
石田遺跡	安来市吉佐町	SI01	幅 50㎝ 奥行き約 40㎝	粘土	短煙道	7C 前から中	日常的に使用	島根県 1994
五反田遺跡	安来市吉佐町	11 号建物	幅 198㎝ 奥行約 125㎝	石３＋粘土	180㎝	8C 前	鍛冶炉の可能性あり	島根県 1998
		4 号建物	幅約 30㎝ 奥行き約 40㎝	粘土	40㎝	7C 中	鍛冶炉の可能性あり	

島根県 2017 第 1 表に平ノ前遺跡・御堂谷遺跡・鳥井南遺跡を追加

竈を有する竪穴建物であるが、一般国道９号（出雲湖陵道路・朝山大田道路・大田静間道路）改築工事に伴う発掘調査によって、出雲市と大田市沿岸部での出土例が近年増加している（第２表）。SI02 の煙道は短煙道タイプのもので、美濃郡、三瓶山麓周辺地域（大田市山間部・邑智郡東部、飯石郡西部）に卓越しており、これらの地域では基本的に土製支脚、移動式竈等の動産的炊飯具を使用しないとされている（岩橋 2003）。いずれにせよ、大田市以西では、造り付け竈を有する竪穴建物の出土例は極めて少数派であることから、石見西部や三瓶山麓周辺地域からの人的交流等が想定される。また、御堂谷遺跡では、包含層から出雲以東の炊飯形態を示す土製支脚と移動式竈が検出されている。以上のことからも、大田市域は古代における出雲・石見の境界的様相を示す文化圏を形成していることを傍証していよう。

４．造り付け竈を有する竪穴建物について

ついで、造り付け竈を有する竪穴建物（7 世紀～ 8 世紀代）を採用する集団の生業について、若干触れておきたい。まず、造り付け竈を有する竪穴建物は、中国５県では山間部に数多く分布することから、寒冷地に適した居住形態の可能性が考えられる。その前提に立った上で、島根県を除く中国４県における造り付け竈を有する竪穴建物（7 世紀代）の調査例を俯瞰すれば、山口市と美祢市・旧美祢郡の秋芳町に出土例が集中していることが、注目される。列記すれば、山口市の毛割遺跡（7 世紀前半）（山口市教育委員会・道川重機株式会社 1983）、旧美祢郡秋芳町の中村遺跡（7 世紀後半）（財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1987）、同町の国秀遺跡（7 世紀代）（財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1988・1992）、美祢市上ノ山遺跡（6 世紀中葉～ 7 世紀初頭）（財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1994）、同市の砂地岡遺跡（6 世紀末～ 7 世紀）（財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1993）等からまとまって出土例が認められる。これらの遺跡は、いずれも山口県内陸部の陰陽交通路の要衝に位置している。このことから、石見における造り付け竈を有する竪穴建物は、長門から石見に伝播した生活様式である可能性も考えられ、もちろんそこには移住を含めた人の動きが想定される。注目すべきは、毛割遺跡を除く遺跡で銅生産関連遺物やその遺構が検出されている点である。日本における銅山開発及び国産鉱石を用いた銅精錬の開始が、7 世紀後半にさかのぼることが国秀遺跡や中村遺跡から説かれ、銅精錬の開始時期については６世紀末～ 7 世紀初頭までさかのぼる可能性が指摘されている（岩崎 2001）。山陰沿岸部における造り付け竈を有する竪穴建物をみれば（第２表参照）、いずれも各遺跡において極めて孤立的な遺構であり、鍛冶等の生産関係を示すものも含まれている点が注意される。今後、銅精錬や製鉄、あるいは鍛冶などの金属生産・加工に関与した集団が、一般的には造り付け竈を有する竪穴建物を居住空間とした習俗の保持者であった可能性も検討の視野に入れ、金属生産・加工に長けたごく少数の集団が、6 世紀後半～ 8 世紀にかけて山間部から山陰沿岸に移住（逃亡や招来による移住を含む）してきた可能性についても、検討する必要があるのではないだろうか [(2)]。このことは、出雲市中野清水遺跡において奈良時代後半～平安時代の銅及び青銅製品の鋳造が行われている可能性が指摘されていることから（島根県教育委員会 2005）、古代における銅資源開発や製品製作の技術交流の可能性を考える上での一つの視点となろう [(3)]。

第４節　まとめ

１．はじめに

御堂谷遺跡は、弥生時代前期後葉から奈良・平安時代にかけての遺構・遺物が断続的に検出されている。ここでは遺跡の画期を周辺の遺跡を含めて検討し、第５章のまとめとしたい（第 83 図・第 89 図）。

２．弥生時代の画期

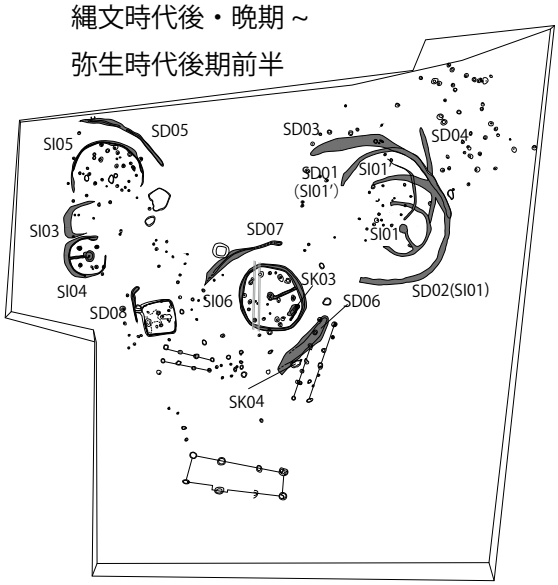
縄文時代後・晩期の遺構が確認できる御堂谷遺跡は、弥生前期後葉に第１の画期が認められる。この時代の明確な遺構は確認されていないが、包含層からは多数の土器が出土し、標高約 53m に立地する高地性の遺跡である点においても、特異なものといえる。なお、御堂谷遺跡東方の丘陵裾に位置する尾ノ上遺跡では、谷状地形（幅約 6.5m、深さ１～ 2m、東西延長 30m）が検出されている。この谷状地形からは、弥生前期後葉の土器が出土しており、一部人為的に形成された可能性が考えられるものの、調査区外の丘陵上方（御堂谷遺跡側）にどのように続くのか等、明確な状況は定かではない（島根県教育委員会 2018b）。また、鳥井南遺跡でも弥生時代中期末葉に埋没が始まる全長 45m 以上、幅４～ 8m、深さは最深で 6m の大溝が丘陵上で検出されている（大田市教育委員会 2018b）。このことから、これらの大溝や環濠の可能性がある遺構を踏まえた上で、高地性集落等の検討も視野に御堂谷遺跡を含む鳥井丘陵の弥生遺跡を評価する必要がある。さらに、前述した山陰沿岸部における高地性の遺跡から環濠等が検出されている共時的な情況に鑑みれば、当期は山陰弥生社会における一つの画期であった可能性が考えられ、今後はその歴史的背景についても検討する必要があろう。

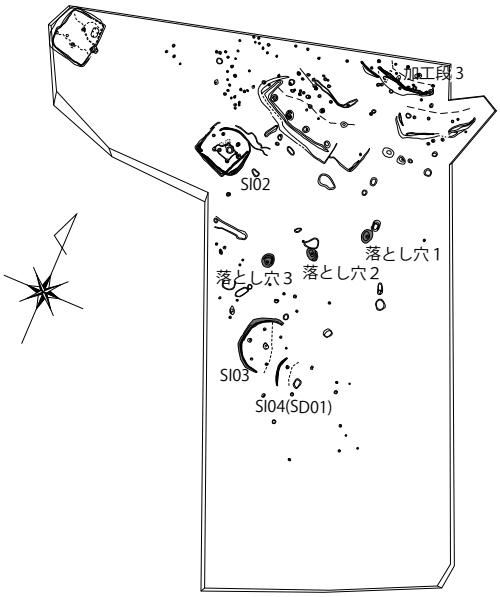
御堂谷遺跡ではその後、弥生時代中期（Ⅲ様式）の空白期を挟んで、弥生時代中期末（Ⅳ様式）～後期前半（Ｖ－１・２様式）にかけて、１～２世帯程度の単位集団の集落が営まれるもう一つの画期が訪れる。この画期は先述した石見における弥生集落の変遷と同調している（第 90 図・第３表）（島根県教育委員会 2014）。また、静間川河口の平ノ前遺跡でも中期前葉（Ⅲ様式）の溝（SD10）が検出され、その埋没後に重複するように水利施設を兼ね備えた中期後葉～後期前葉の SD05 が掘削され、弥生時代後期前半代まで機能していることが明らかとなっており、中期～後期前葉における平野部の水田開発が推測されている（島根県教育委員会 2019a）。

３．鳥井丘陵とその周辺

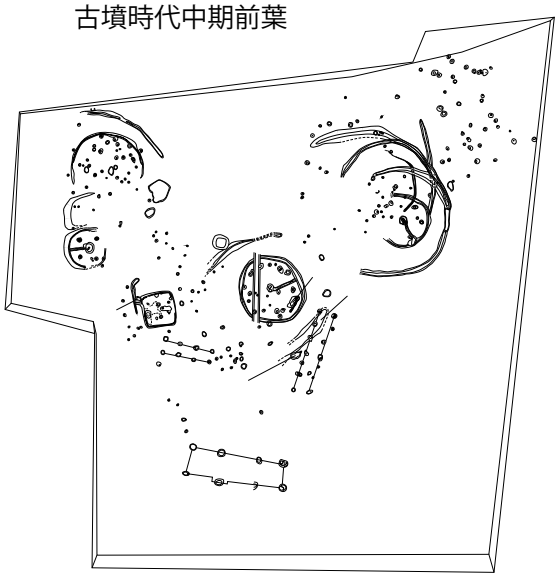
御堂谷遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構・遺物がほとんど検出されておらず、第二の空白期を迎える。その後、古墳時代中期前葉に御堂谷遺跡 A 区の北側斜面で、竪穴建物や加工段が形成される第３の画期と、再び古墳時代中期後半～後期の空白期を迎える。鳥井丘陵とその周辺全体から俯瞰すれば、御堂谷遺跡は弥生時代後期前半と古墳時代中期前葉に多数の竪穴建物や加工段、古墳時代中期の祭祀遺跡を形成する鳥井南遺跡の動態と同調している遺跡といえる。しかし一方では、鳥井丘陵西方の静間川河口部で古墳時代後期・終末期に盛行する平ノ前遺跡の時代には、御堂谷遺跡で遺構・遺物がほとんどみられない。ただし、鳥井南遺跡では古墳時代中期末～後期にも集落が盛行している（大田市教育委員会 2018a・2018b・中田 1999）。鳥井丘陵全体と

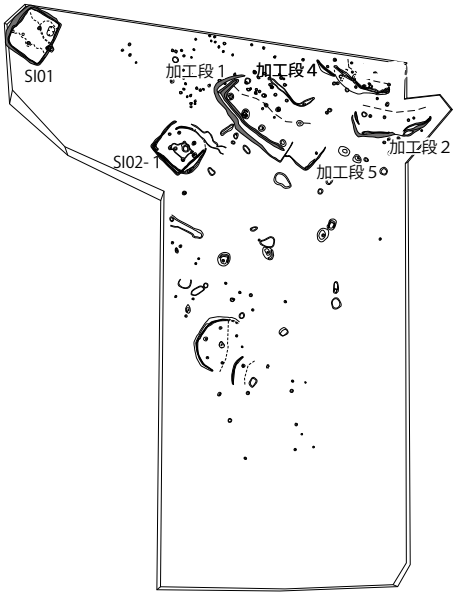
縄文時代後・晩期～
弥生時代後期前半





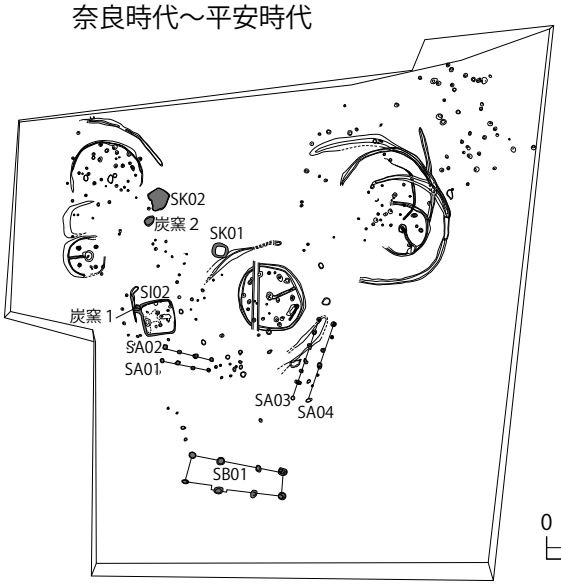
古墳時代中期前葉

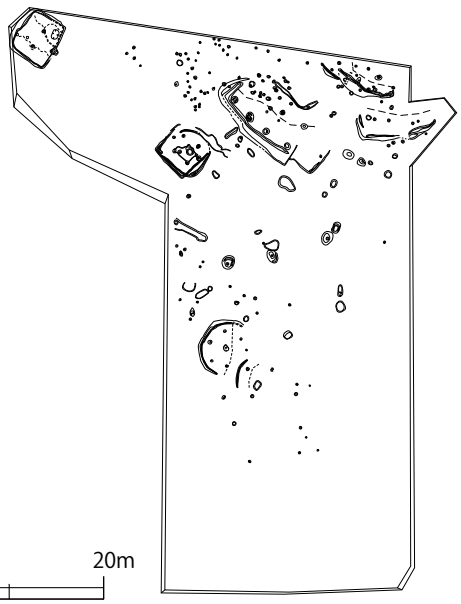




※加工段４は時期不明

奈良時代～平安時代





0　20m
(S=1:800)

第 89 図　御堂谷遺跡　遺構の変遷模式図（S=1:800）

その周辺で、当期の人々の生活拠点が集約化も含めて変遷している可能性が考えられる。

そして、御堂谷遺跡の最後の画期が、７世紀末～９世紀代を中心とする奈良・平安時代の遺構形成期である。とくに灯明皿形土器等の仏教関連遺物が多数出土すること、周辺地形の状況証拠から門の可能性もある掘立柱建物などの遺構からは、村落内寺院（須田 2006）、あるいは山林寺院（上原 2002・久保 2006）の存在が示唆される。石見における仏教信仰の在り方などを探る上で、重要な知見となろう[(4)]。

以上のように、御堂谷遺跡は断続的な変遷を辿る遺跡である。御堂谷遺跡の調査所見は山陰の弥生・古墳時代、石見における古代史像の解明に寄与する情報を提供するもので、今後の調査・研究の進展が期待される。

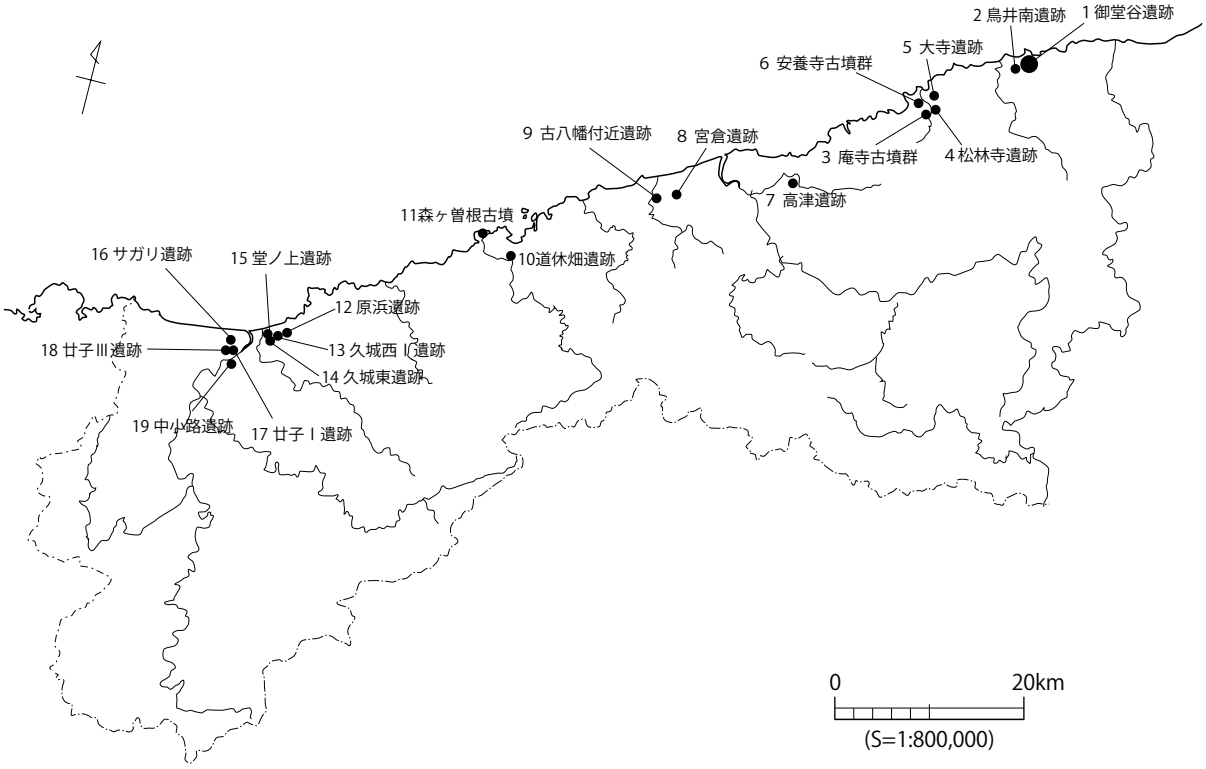
【註】

（1）島根県内の出土例については、景山このみ 2016「第３節　杉沢Ⅱ遺跡出土ガラス小玉の流入経路」『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』（出雲市の文化財報告 31）出雲市教育委員会を参考にしたほか、最新の資料集成について出雲市文化財課の景山このみ氏にご教示を得た。

（2）古代の採銅地は、長門・周防・石見・美作・備前・備中・備後・豊前・山背・摂津・武蔵などが知られ、山陽・山陰地方が圧倒的に主要な地位を占めている（八木 1993）。

（3）出雲においては、６世紀後葉～末葉の出雲西部の首長墳である上塩冶築山古墳から出土した銅鈴や高広Ⅳ区３号横穴墓出土の耳輪の鉛同位体分析から、両者には島根半島西部の平田市後野原産出の原料が使用され、銅資源の開発が６世紀末～７世紀初頭に遡る可能性が指摘されている（馬淵 1987）。また、中村１号墳出土馬具の鉛同位体比分析から、７世紀に以前に遡る国産原料の開発が指摘されている（齋藤 2012）。しかし、これらの考古資料と類似した鉛同位体比を示す鉱床が、朝鮮半島南部の慶尚盆地周辺においていくつか確認されている研究（Jeong ほか 2012）を受け、現状では朝鮮半島東南部産の銅素材が持ち込まれている可能性が高いと判断されている（大賀 2018）。

（4）大田市域には、出土瓦から８～９世紀代に存在したと考えられる天王平廃寺（近藤 1970）、出土木簡から村落寺院の可能性も検討されている高原Ⅰ遺跡（内田 2013）が存在する。



第 90 図　石見地域沿岸部の弥生時代後期集落分布図（S=1:800,000）

第３表 石見地域沿岸部の弥生時代後期集落遺跡一覧

№	遺構名	所在地	Ⅳ	Ⅴ－１	Ⅴ－２	Ⅴ－３	Ⅴ－４	古墳前期	立地場所	標高	比高差	主な遺構	備考	文献
1	御堂谷遺跡	大田市仁摩町	竪穴１	竪穴８	加工段１～２				丘陵上	53m	30～40 m			本書
2	鳥井南遺跡	大田市鳥井町	竪穴	竪穴	竪穴				丘陵上	100m	80 m	竪穴 加工段 30 基以上	鉄器	大田市 2018b
3	庵寺古墳群	大田市仁摩町	竪穴２ 加工段 20				加工段１		丘陵上～斜面	60～80 m	50～70 m	竪穴２ 加工段 31		島根県 2014
4	松林寺遺跡	大田市仁摩町				加工段・掘立など			丘陵斜面	34～43 m	20 m 前後	加工段３ 掘立１		島根県 2019b
5	大寺遺跡	大田市仁摩町					水田		丘陵斜面 水田			杭・矢板列	木製品	東森 2003
6	安養寺古墳群	大田市仁摩町		竪穴１					丘陵上	36 m	30～40 m	竪穴１		東森 2003
7	高津遺跡	江津市		竪穴１	竪穴６		竪穴２	竪穴２	丘陵裾	21～26 m		竪穴 11 水場遺構	鉄器	東森 2003
8	宮倉遺跡	江津市		竪穴２					丘陵裾	22 m	5m	竪穴２		東森 2003
9	古八幡付近遺跡	江津市	竪穴４ 掘立１ 環濠	段					丘陵 水田	19～40 m	8～29 m	環濠 竪穴４、掘立１ 加工段２	水田、木製品	東森 2003 島根県 2000
10	道休畑遺跡	浜田市					竪穴１		丘陵上	100m	70m	竪穴１	昭和 50 年度調査	東森 2004
				掘立１	竪穴１	竪穴７ 掘立４ 加工段２	竪穴５ 掘立５ 加工段５		丘陵上	90 m	60 m	竪穴 13 掘立 10 加工段７	貯蔵穴７ 平成 19・20 年度調査	島根県 2010a
11	森ヶ曽根古墳	浜田市		柱穴					丘陵上	40 m	35 m	柱穴 土坑	土坑は住居址の可能性あり	東森 2003
12	原浜遺跡	益田市		竪穴１					丘陵上先端	77 m	34 m	竪穴１		島根県 2010b
13	久城西Ⅰ遺跡	益田市					竪穴２		丘陵斜面	40 m		竪穴２		島根県 2010b
14	久城東遺跡	益田市	竪穴１						丘陵斜面	30 m		竪穴１		益田市 2010
15	堂ノ上遺跡	益田市		竪穴１ 加工段５	竪穴２ 掘立１	竪穴２			段丘上	30 m		竪穴５ 掘立１ 加工段５	平成 19・20 年度調査	島根県 2010c
			竪穴２		竪穴４	竪穴２	竪穴３		段丘上	30 m		竪穴 13 掘立６	平成 21 年度調査	島根県 2011
16	サガリ遺跡	益田市		竪穴２					丘陵上			竪穴２		東森 2003
17	廿子Ⅰ遺跡	益田市							丘陵上先端	20～35 m	15～20 m	竪穴１		島根県 2006
18	廿子Ⅲ遺跡	益田市		竪穴１					丘陵上先端	15～25 m		竪穴１		島根県 2006
19	中小路遺跡	益田市	竪穴３ 溝状遺構		竪穴１	竪穴１	竪穴１		段丘上	12 m		竪穴９ 土器棺墓８ 溝状遺構	溝状以降は環濠の可能性あり平成 15～17 年度調査	益田市 2008
			竪穴１		竪穴４		竪穴１		段丘上	12 m		竪穴６	平成 17～20 年度調査	益田市 2012

島根県 2014　を一部加筆、修正

【参考文献】

会見町教育委員会 1975『諸木遺跡発掘調査概報』・1993『天王原遺跡発掘調査報告書』
会見町教育委員会 1982『宮尾遺跡 天万遺跡 発掘調査報告書』
岩崎仁志 2001「山口県における古代銅生産関連遺跡の調査」『古代の銅生産 －『古代の銅生産シンポジウム in 長登』資料集 －』美東町・美東町教育委員会
上原真人 2002「古代の平地寺院と山林寺院」『佛教芸術』265 号　毎日新聞社
内田律雄 2013「第８章まとめ」『門遺跡　高原遺跡Ⅰ区　中尾Ｈ遺跡』島根県教育委員会
大賀克彦 2018「日本列島産鉱石の鉛同位体比分析とその考古学的含意」『古代学』第 10 号
大田市教育委員会 2018a『鳥井南遺跡発掘調査報告書Ⅰ － 一貫田地区・志田ケ池地区・蝮山地区・千代迫地区・狼段原地区 －』
大田市教育委員会 2018b『鳥井南遺跡発掘調査報告書Ⅱ － 狼段原地区 －』
川原和人 2010「出雲地方における律令時代の須恵器の特色とその背景」『出雲国の形成と国府成立の研究』島根県古代文化センター
久保智康 2012「古代出雲の山寺と社」『特別展覧会　大出雲展』京都国立博物館
近藤　正 1970「天王平廃寺」『島根県埋蔵文化財調査報告書』Ⅱ　島根県教育委員会
齋藤　努 2012「中村１号墳出土資料の鉛同位体比分析結果」『中村１号墳』（『出雲市の文化財報告』15）
西伯町教育委員会 1992『清水谷遺跡』西伯町埋蔵文化財調査報告書第３集
財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1987『中村遺跡』
財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1988・1992『国秀遺跡』
財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1993『砂岡遺跡』
財団法人山口県教育財団・山口県教育委員会 1994『山ノ上遺跡』
鳥取県教育文化財団 2001『大塚岩田遺跡・大塚塚根遺跡』
島根県教育委員会 2000『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』
島根県教育委員会 2005『中野清水遺跡』
島根県教育委員会 2006『廿子Ⅰ遺跡・廿子Ⅱ遺跡』
島根県教育委員会 2010a『道休畑遺跡』
島根県教育委員会 2010b『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡』
島根県教育委員会 2010c『堂ノ上遺跡 － 一般国道久城インター線久城後期地域活力基盤創造交付金（改良）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 － 』
島根県教育委員会 2011『堂ノ上遺跡』・島根県教育委員会 2013『西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡』
島根県教育委員会 2014『庵寺古墳群Ⅱ　大迫ツリ遺跡　小釜野遺跡』
島根県教育委員会 2018a『浅柄Ⅲ遺跡』
島根県教育委員会 2018b『島根県教育庁埋蔵文化財調査センター年報 26　平成 29 年度』
島根県教育委員会 2019a『平ノ前遺跡』・島根県教育委員会 2019b『垂水遺跡 松林寺遺跡 庵寺石塔群』
須田　勉 2006「古代村落寺院とその信仰」『古代の信仰と社会』国士舘大学考古学会
中田健一 1999「鳥井南遺跡出土の短甲形土製品について」『田中義昭先生退官記念文集 地域に根ざして』田中義昭先生退官記念事業会
林　健亮 2000「灯明皿形土器から見た仏教関連遺跡」『出雲古代史研究会』10
東森　晋 2003「石見」『山陰の集落遺跡 － 弥生時代後期から古墳時代前期の集落像 － 』（第 31 回山陰考古学研究集会）山陰考古学研究集会事務局
東森　晋 2004「道休畑遺跡の竪穴住居跡」『八雲立つ風土記の丘』№ 178　島根県立八雲立つ風土記の丘
平尾良光 2013「古墳時代青銅製品の鉛同位体比」『考古学雑誌』第 97 巻第３号
益田市教育委員会 2008『家下遺跡・中小路遺跡』
益田市教育委員会 2010『冲手遺跡・久城東遺跡』
益田市教育委員会 2012『中小路遺跡・羽場遺跡』
松江市教育委員会 2010『佐太前遺跡発掘調査報告書』
馬淵久夫 1987「鉛同位体比による原料産地推定」『出雲岡田山古墳』島根県教育委員会
八木　充 1993「第６節　長登木簡からみた古代銅生産」『長登銅山跡Ⅱ』美東町教育委員会
山口市教育委員会・道川重機株式会社 1983『毛割遺跡』
Jeong,Y.,Cheong,C.,Shin,D.,K.,Jo,H.,Gautam,M.,Lee,I.2012 Regional variations in the leado isotopic composition of galena from southern Korea with implications for the discrimination of lead

第６章　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴

第１節　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の概要

１．遺跡の立地と概要

諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴は大田市久手町に所在し、鳥井丘陵の東に対面する低丘陵崖面、標高約23mに位置する。本横穴群は、大田市久手町に所在する諸友大師山横穴群（Ⅰ～Ⅲ群）の新支群で、その南西約 200m に所在する。調査面積は約 140㎡であった。

２．調査の方法

調査にあたっては、開口した横穴の周辺表土を重機掘削後、開口した横穴内部の精査を行った。遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「ＳＩＴＥ」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面実測図についてはオートレベルを用いて測量を行い、高低差のある壁面については平面図と同様に調査システムを用いた記録作成を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは６×７判フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

現地調査期間は平成 29 年 12 月 18 日から 12 月 22 日、調査面積は 140㎡、調査体制は調査員２名、嘱託職員１名、調査補助員２名である。

第２節　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴の調査

工事中に発見された横穴である。古くから大規模な改変を受けていたようで、玄室の一部しか残存していなかった。玄室内には、現代のガラス片等が散見される新しい客土がわずかに流れ込んでいるだけで、清掃のみで完掘された。玄室・天井の形状も原形をとどめておらず、奥壁も現状では方形のプランを呈しているが、天井部にかけては二次的改変を受けている可能性が極めて高い。

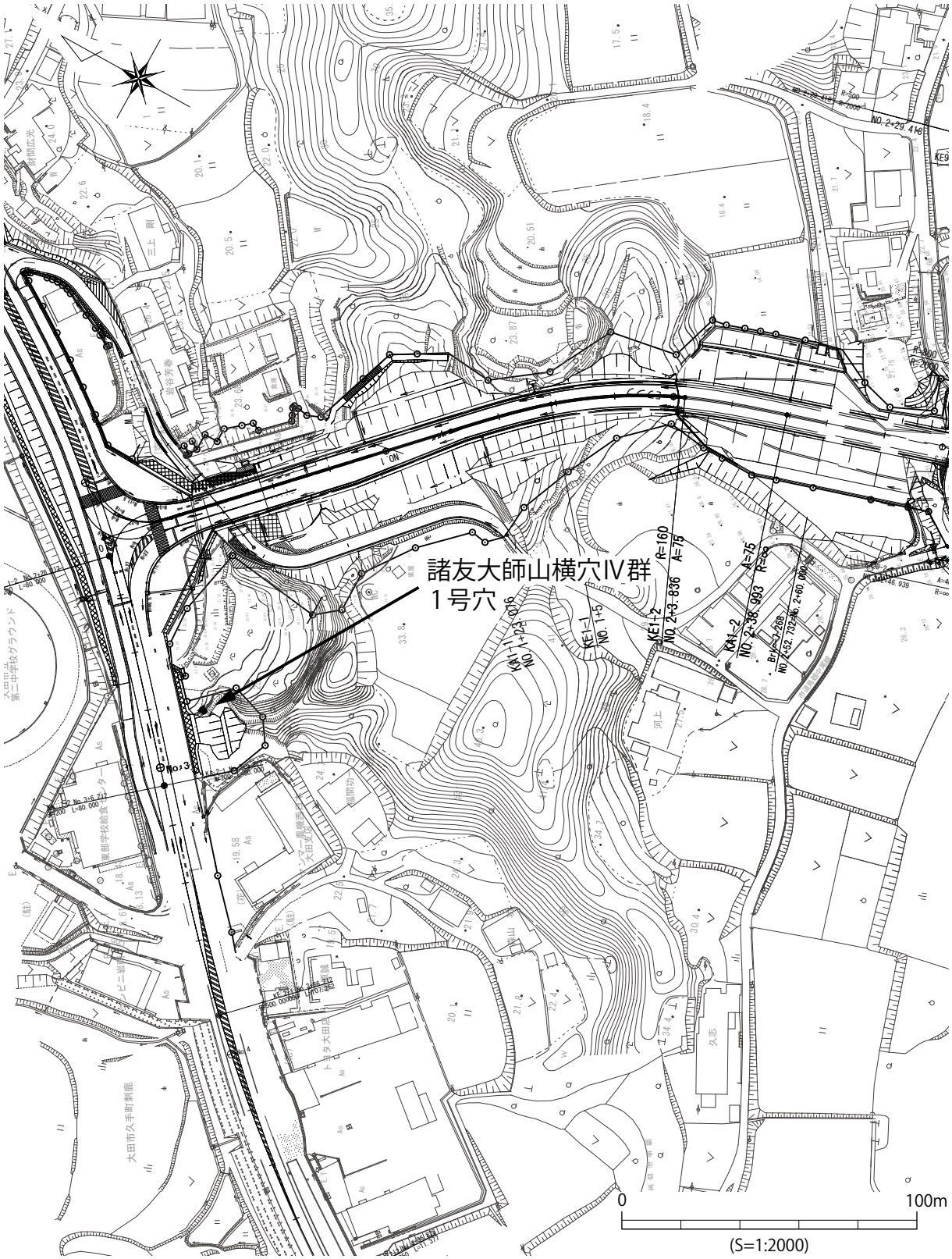
奥壁部での幅は 1.5m、高さ 1.46m で、天井構造はドーム天井を呈するものと思われる。出土遺物はなかった。

第３節　まとめ

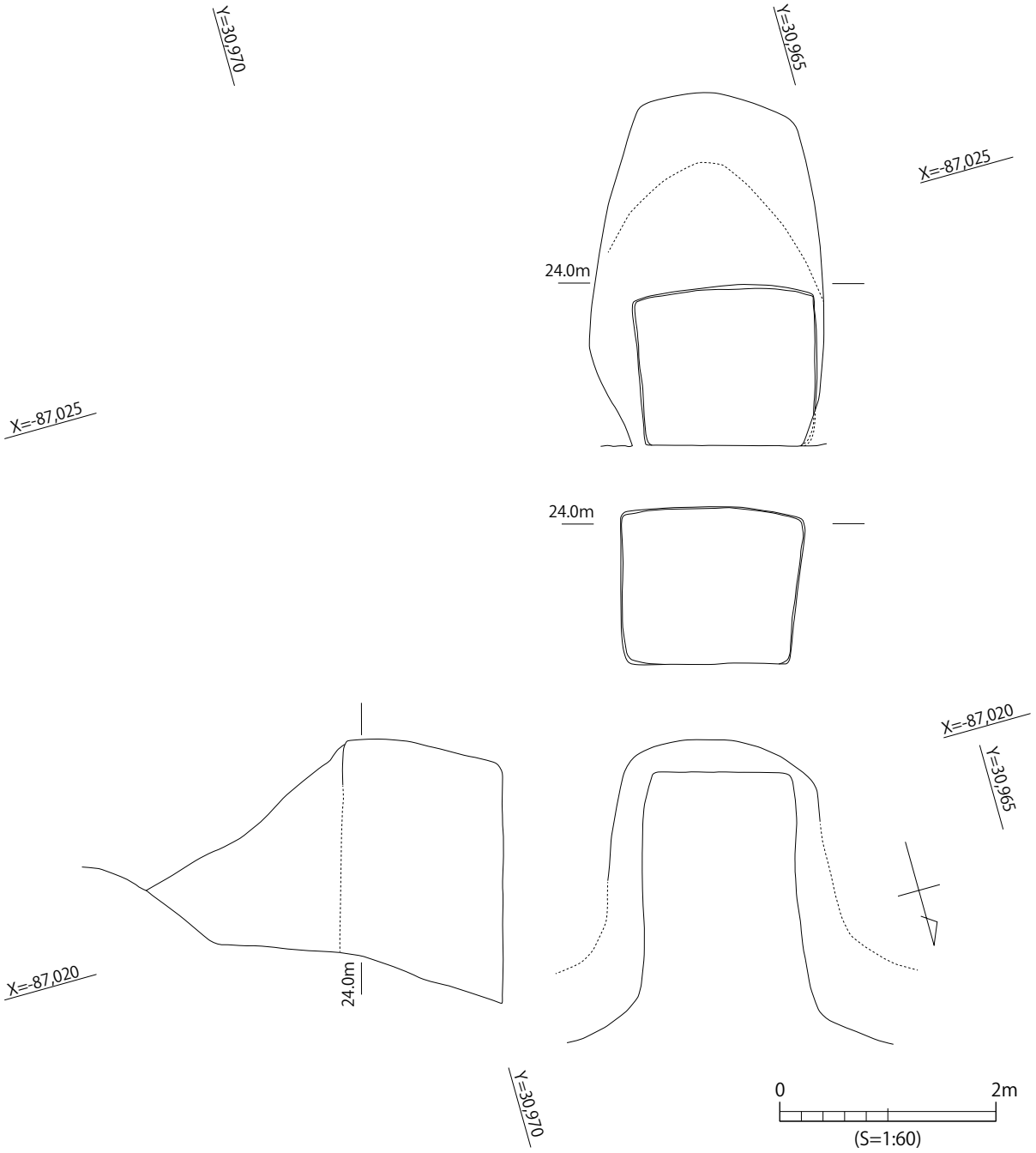
これまで諸友大師山横穴群は、Ⅰ群５穴、Ⅱ群２穴、Ⅲ群８穴が調査されている[(1)]。今回の調査で様々な支群を形成し、築造が行われた横穴群であることが分かった。なお、Ⅳ群１号穴が所在する丘陵は、すでに大きな削平等を受けていることから、かつては複数の横穴が存在した可能性も考えられる。

【註】

（1）島根県教育委員会 1969『島根県埋蔵文化財調査報告書第Ⅱ集』、大田市教育委員会 1983『諸友大師山横穴群』



第 91 図　諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴周辺地形図（S=1:2,000）



第 92 図　諸友大師山横穴Ⅳ群 1 号穴実測図（S=1:60）

第 4 表　御堂谷遺跡　出土遺物観察表

A 区出土土器

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
12	1	32	SI01			弥生土器	甕				微細砂粒を多く含む。石英、長石を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：擬凹線・列点文 or 羽状文 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
12	2	32	SI01			土師器	高坏				微細砂粒を多く含む。石英を含む	外：橙 2.5Y 7/8 内：橙 2.5Y 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
12	3	33	SI01			土師器	高坏				少量の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ヨコナデ？・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3 未満	
12	4	32	SI01			土師器	高坏				微細砂粒を含む	外：黄橙 7.5YR 8/8 断面：灰白 5Y 8/1 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
12	5	32	SI01			土師器	小型丸底壺	(8.0)			3㎜以下の砂粒と、微細砂粒を含む	外：明赤褐色 5YR 5/8 内：明赤褐色 5YR 5/8	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	良好	1/3 未満	
12	6	32	SI01			土師器	甕	(17.9)			微細砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	良好	1/3 未満	
12	7	32	SI01			土師器	甕	(15.8)			微細砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ヨコナデ 内：ハケ目のち ヨコナデ	良好	1/3 未満	
12	8	32	SI01			土師器	甕	(15.8)			微細砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：黄橙 10YR 7/8	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	良好	1/3 未満	
12	9	33	SI01			土師器	甕				微細砂粒を少量含む。石英を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヨコナデ・ハケ目 内:ヨコナデ･ナデ･ヘラケズリ	良好	1/2	
12	10	32	SI01			土師器	甕				微細砂粒を多く含む。石英を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ハケ目 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	
16	1	32	SI02-2			弥生土器	甕	24.0			1㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：口縁部に 2 条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -1 かV -2
17	1	34	SI02-1			土師器	甕				1㎜以下の砂粒を少量含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳中？
17	2	34	SI02-1			土師器	甕	(14.0)			1㎜以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 6/8 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳中？
17	3	33	SI02-1			土師器	甕	(19.2)			1㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	良好	1/3 未満	古墳中
17	4	33	SI02-1			土師器	甕	(15.6)			5㎜以下の砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/6 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ・ハケ目 内：ナデ・ケズリ	良好	1/2	古墳中期初
17	5	34	SI02-1			土師器	小型丸底壺	8.0			1㎜以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ？ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	古墳中？
17	6	34	SI02-1			土師器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
17	7	34	SI02-1			土師器	高坏				1㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 5YR 5/6 内：明赤褐 7.5YR 5/4	外：ナデ？ 内：ハケ目・ナデ	良好	1/3 未満	
17	8	34	SI02-1			土師器	高坏				5㎜以下の砂粒を含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
17	9	34	SI02-1			土師器	高坏				2㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
17	10	34	SI02-1			土師器	高坏				3㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：黄橙 10YR 7/8	外：ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	古墳中？外面に煤付着？
17	11	34	SI02-1			土師器	高坏				2㎜以下の砂粒を含む	外：赤褐 5YR 4/6 内：褐灰 7.5YR 4/1	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	古墳中 接続は粘土充填？
17	12	33	SI02-1			土師器	高坏			10.0	1㎜以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 5YR 6/8	外：ナデ 内：ナデ・ケズリのちハケ目	良好	1/3 未満	古墳中
17	13	33	SI02-1			土師器	高坏				1㎜以下の砂粒を含む	外：明黄褐 10YR 6/6 内：明黄褐 10YR 6/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳中 接続は粘土充填
17	14	33	SI02-1			土師器	高坏			10.2	2㎜以下の砂粒を少量含む	外：明黄褐 10YR 3/1 内：黒褐 10YR 6/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳中 接続は粘土充填？
20	1	34	SI03			弥生土器	無頸壺	(5.3)			2㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/3 内：褐灰 10YR 4/1	外：ヘラミガキ？・指頭圧痕 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
20	2	34	SI03			弥生土器	甕・壺				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：褐灰 10YR 4/1	外：綾杉文・直線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
20	3	34	SI03			弥生土器	甕・壺				3㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：直線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
20	4	34	SI03			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1

御堂谷遺跡 A 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
20	5	34	SI03			弥生土器	甕				4mm以下の砂粒を少量含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
20	6	34	SI03			弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を少量含む	外：明赤褐 5YR 5/6 内：橙 7.5YR 6/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
20	7	34	SI03			弥生土器	甕				2mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 6/8 内：橙 7.5YR 6/8	外：直線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
20	8	34	SI03			弥生土器	甕・壺				1mm以下の砂粒を含む	外：赤橙 10YR 6/6 内：淡赤橙 2.5YR 7/3	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
20	9	34	SI03			弥生土器	甕・壺				5mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：ナデ	良好	1/3 未満	
20	10	34	SI03			弥生土器	甕・壺			(6.0)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 7.5YR 6/6	外：ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	
20	11	34	SI03			弥生土器	甕	(10.0)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：直線文 内：ナデ・調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 内外面に赤色顔料
20	12	34	SI03			弥生土器	甕・壺			(5.4)	3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ハケ目	良好	1/3 未満	外面の一部に黒変
20	13	34	SI03			弥生土器	甕・壺			(5.6)	1mm以下の砂粒を若干含む	外：灰黄褐 10YR 5/2 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
20	14	34	SI03			弥生土器	甕	(16.4)			1mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：凹線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
20	15	34	SI03			弥生土器	甕・壺			4.4	3mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
20	16	34	SI03			弥生土器	甕・壺			(10.4)	3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 2.5YR 5/6 内：褐灰 10YR 4/1	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
20	17	34	SI03			土師器	甕				1mm以下の砂粒を少量含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳中期
24	1	35	加工段 1			弥生土器	甕	19.4			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：3 条の凹線文・ナデ 内：ナデ・ケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 ～ 2
24	2	35	加工段 1			弥生土器	甕・壺			(10.8)	3mm以下の砂粒を含む	外：橙 2.5YR 6/6 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
24	3	35	加工段 1			弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ナデ？ 内：ハケ目・ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -2 ～ 3
24	4	35	加工段 1			弥生土器	甕・壺			(5.4)	3mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
24	5	35	加工段 1			弥生土器	甕・壺			9.5	3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：灰黄褐 10YR 6/2	外：ナデ 内：ナデ・指頭圧痕	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
24	6	35	加工段 1			弥生土器	甕・壺			(9.2)	3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ハケ目 内：ハケ目・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
24	7	35	加工段 1			弥生土器	甕？	24.4			3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ・櫛状工具による波状文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅴ -3
24	8	36	加工段 1			土師器	甕	22.0		26.6	2mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ハケ目・ナデ 内：ハケ目・ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3	松山Ⅱ
24	9	35	加工段 1			土師器	高坏	16.0			2mm以下の砂粒を少量含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：にぶい黄褐 10YR 5/3	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	松山Ⅱ？
24	10	35	加工段 1			土師器	高坏	18.0			3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	松山Ⅱ古相？
24	11	35	加工段 1			土師器	高坏				4mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ・ハケ目 内：ナデ・ハケ目	良好	1/3 未満	
24	12	35	加工段 1			土師器	高坏			8.6	1mm以下の砂粒を少量含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：にぶい黄褐 10YR 5/3	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/2	松山Ⅱ？
24	13	35	加工段 1			土師器	高坏				3mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・ハケ目 内：ヘラケズリ・絞り痕	良好	1/3 未満	古墳中期？
24	14	36	加工段 1			土師器	高坏				1mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 2.5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ナデ・ヘラミガキ・ハケ目 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	松山Ⅱ？ 外面に煤
24	15	35	加工段 1・P1			土師器	甕	16.2			5mm以下の砂粒を含む	外：灰白 2.5Y 8/2 内：灰白 2.5Y 8/2	外：調整不明 内：ナデ？・ヘラケズリ？	不良	1/3 未満	古墳中期
24	16	35	加工段 1			土師器	甕	21.9			1mm以下の砂粒を少量含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	古墳中期
24	17	36	加工段 1			土師器	甕	23.5			2mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄 2.5Y 7/4	外：ナデ 内：ハケ目・ナデ	良好	1/2	松山Ⅱ 口縁端部に煤
27	1	35	加工段 2			土師器	甕	(12.5)			1mm以下の石英、白色砂粒を少量含む	外：明赤褐 2.5YR 5/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
27	2	35	加工段2			土師器	甕				0.5㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/8 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3未満	
27	3	35	加工段2			土師器	甕	(16.6)			2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	
27	4	35	加工段2			土師器	甕				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/6 内：橙 5YR 6/6	外：調整不明 内：ヘラケズリ？	良好	1/3未満	
27	5	35	加工段2			土師器	甕	(15.3)			5㎜以下の白色砂粒を含む	外：橙 5YR 6/6 内：橙 5YR 6/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	外面の一部に黒色物が付着
27	6	35	加工段2			土師器	高坏	(16.0)			3㎜以下の白色砂粒を非常に多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	
27	7	36	加工段2			土師器	高坏	16.0	13.8	11.4	1㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：回転ナデ・ヘラミガキ 内：回転ナデ・ナデ	良好	1/2	外面の一部に赤色顔料
27	8	36	加工段2			土師器	高坏			11.5	5㎜以下の白色砂礫を含む	外：にぶい橙 5YR 6/4 内：にぶい橙 5YR 6/4	外：ヘラミガキのちハケ状工具によるナデ？・ヘラミガキのち強いヨコナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	
27	9	36	加工段2			土師器	高坏			(10.8)	2㎜以下の白色砂粒を若干、微細砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/8 内：黒 5Y 2/	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	
27	10	36	加工段2			土師器	高坏	(19.0)	(13.0)	(11.7)	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 橙 7.5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 6/4 橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・ハケ目 内：ナデ・ハケ目・しぼり痕	良好	1/2	外面の一部に赤色顔料
27	11	35	加工段2			土師器	小型壺				4㎜以下の白色砂粒を含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：橙 2.5YR 6/8	外：ヨコナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3未満	
27	12	35	加工段2			土師器	把手？				密 1㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ？	良好	1/3未満	
27	13	35	加工段2			土師器	把手？		厚さ2.1		1㎜以下の石英、白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ？	良好	1/3未満	
30	1	37	加工段3			弥生土器	甕				1㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ナデ・ハケメ 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	2	37	加工段3			弥生土器	甕	(17.0)			2㎜以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 6/6 内：橙 5YR 6/6	外：２条の凹線文・ナデ・刻み目 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	3	37	加工段3			弥生土器	甕	(20.0)			2㎜以下の砂粒を含む	外：灰褐 7.5YR 6/2 内：灰褐 7.5YR 6/2	外：直線文・ナデ 内：ナデ・ケズリ	良好	1/3未満	
30	4	37	加工段3			弥生土器	無頸壺	(12.3)			2㎜以下の砂粒を含む	外：橙 2.5YR 6/6 内：橙 5YR 7/6	外：凹線文・ナデ・刺突文 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	5	37	加工段3			弥生土器	壺				3㎜以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 6/8 内：黄橙 10YR 8/6	外：刺突文・沈線文 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	6	37	加工段3			弥生土器	甕？				3㎜以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/8 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：刺突文 内：調整不明	良好	1/3未満	
30	7	37	加工段3			弥生土器	甕	(22.8)			2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	外：オリーブ黒 7.5Y 3/1 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：２条の凹線文？ 内：調整不明	良好	1/3未満	
30	8	37	加工段3			弥生土器	壺・甕			(5.0)	3㎜以下の砂粒を多く含む	外：淡赤橙 2.5YR 7/4 内：灰白 10YR 7/1 褐灰 10YR 4/1	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	9	37	加工段3			弥生土器	壺				2㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	
30	10	37	加工段3			弥生土器	甕				2㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/4 内：明褐 7.5YR 5/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	
30	11	37	加工段3			弥生土器	壺・甕			(9.6)	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	12	37	加工段3			弥生土器	甕				2㎜以下の砂粒を少量含む	外：にぶい黄褐 10YR 5/3 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ハケ目・ナデ 内：調整不明	良好	1/3未満	
30	13	37	加工段3			弥生土器	壺・甕			(6.6)	2㎜以下の砂粒を若干含む	外：橙 2.5YR 6/6 内：橙 2.5YR 6/8	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	
30	14	37	加工段3			弥生土器	壺・甕			7.0	2㎜以下の砂粒を非常に多く含む	外：褐灰色 7.5YR 6/1 内：明褐灰色 7.5YR 7/1	外：ハケ目？・ナデ？ 内：ヘラケズリのち強いナデ	やや不良	1/3未満	
32	1	38		Z6	包含層	弥生土器	壺				3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：３条の沈線文・ヨコナデ・ヘラミガキのちナデ 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
32	2	38		Z7	包含層	弥生土器	甕？			8.2	5㎜以下の白色礫、石英、白色砂礫、炭を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/3	外：ハケ目・ナデ 内：強いナデ・指頭圧痕	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)

御堂谷遺跡 A 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
			遺構	グリッド												
32	3	38		Z6	包含層	弥生土器	甕？			7.5	5㎜以下の石英、白色砂礫を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：黒褐 10YR 3/1	外：ハケ目のちナデ？ 内：指頭圧痕・ナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4) 蓋の可能性もあり 内外面の一部に黒変
32	4	38		Z6	包含層	弥生土器	壺			7.8	10㎜前後の礫数個と4㎜以下の石英、白色砂礫を非常に多く含む	外：黄橙 7.5YR 8/8 黒 N 2/ 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4) 外面の一部に黒変
32	5	38		Y6	包含層	弥生土器	甕	(15.8)			6㎜以下の白色砂礫を非常に多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8 オリーブ黒 5YR 6/8 5Y 3/	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅴ-3
32	6	38		Z7	包含層	弥生土器	甕	(13.2)			2㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅴ-3
32	7	38		Z7	包含層	弥生土器	器台			(17.4)	2㎜以下の石英、白色砂粒を少量、0.5㎜以下の砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキのちヨコナデ 内：ヘラケズリ・ヨコナデ	良好	1/3未満	Ⅴ-3・4
32	8	38		Y8	包含層	土師器	甕	(17.7)			3㎜以下の石英、白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 明褐 7.5YR 6/6 内：浅黄橙 10YR 8/4 明褐 7.5YR 6/6 灰 10Y 6/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ・ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	外面に黒色物付着
32	9	38		Z8	包含層	土師器	高坏	(14.2)			4㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：赤褐 2.5YR 5/8 内：赤褐 2.5YR 5/8	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3未満	
32	10	38	Tr2	B6・C6	包含層	土師器	高坏				3㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/8 浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	
32	11	38		Y8	包含層	土師器	高坏				3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：調整不明 内：絞り痕	良好	1/3未満	
32	12	38		Y9	包含層	土師器	高坏				2㎜以下の石英、白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヨコナデ・ハケ目のちヘラミガキのちナデ・ハケ目のちナデ 内：ヘラケズリ？	良好	1/3未満	
32	13	38		Z9	包含層	須恵器	坏	13.1	4.6	6.1	3㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 回転糸切り 内：回転ナデ	良好	ほぼ完形	
32	14	38			包含層	須恵器	瓦塔				1㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 2.5Y 7/1 内：青灰 5B 5/	外：刺突文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	
32	15	39		D9	包含層	弥生土器	甕				3㎜以下の石英、白色砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ？・4条の沈線文の間に3段の刺突文 内：ナデ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
32	16	39			包含層	弥生土器	甕				3㎜以下の白色砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ？・3条の沈線文 内：ナデ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
32	17	39		B9	包含層	弥生土器	高坏	(23.8)			0.5㎜以下の砂粒を含む	外：黒 N 21 内：浅黄橙 7.5YR 8/3	外：口縁部2条の沈線文・ヨコナデ・3条の沈線文 内：ハケ目のち一部ヨコナデ	良好	1/3未満	Ⅳ
32	18	39		B8	包含層	弥生土器	蓋	(2.2)			1㎜以下の白色砂粒を含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3未満	Ⅲ～Ⅳ
32	19	39		A8	包含層	弥生土器	甕	(17.4)			3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/3 暗灰 ～8/6 内：浅黄橙 N 3/ 7.5YR 8/3	外：ヨコナデ・凹線文 内：ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2 外面の一部に黒変
32	20	39			包含層	弥生土器	甕	(19.3)			5㎜以下の白色砂礫を含む	外：橙 5YR 7/6 内：黒 N 1.5/	外：擬凹線文？ 内：ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2
32	21	39		D9	包含層	弥生土器	甕			(6.5)	3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 灰 N 4/ 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキのちナデ・ヨコナデ 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3	Ⅰ-3~(4) 外面の一部に黒変
32	22	39		D9	包含層	弥生土器	甕			4.7	4㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/8 内：黄橙 10YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅳ～Ⅴ 内面の一部に黒変
32	23	39			包含層	弥生土器	甕			2.8	5㎜以下の白色砂礫を少量含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅳ～Ⅴ 外面の一部に黒変
68	1	54	P72			弥生土器	壺	(18.0)			3㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/8 内：橙 7.5YR 6/8	外：ハケ目のちナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)

B 区出土土器

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
45	1	41	SI01-1			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：灰褐 7.5YR 6/2 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ハケ目？・沈線・竹管文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
45	2	41	SI01-1			弥生土器	壺				3㎜以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：浅黄 2.5Y 7/4	外：突帯文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
45	3	41	SI01-1			弥生土器	甕				５㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：明赤褐 2.5YR 5/8	外：胴部に３条の沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面に煤？
45	4	41	SI01-1			弥生土器	壺				4㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：橙 5YR 6/8	外：ハケ目・一部ハケ目のちナデ？ 内：ナデ	不良	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
45	5	41	SI01-1			弥生土器	注口土器				3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -3 ？
45	6	41	SI01-1			弥生土器	甕	(13.7)			2㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
45	7	41	SI01-1			弥生土器	甕				4㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 7.5YR 7/6	外：２条の擬凹線文？・刺突文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 ～ 2
45	8	42	SI01-1			弥生土器	小甕	(12.0)			５㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：暗灰黄～黒褐 2.5Y 5/2 ～ 2.5Y 3/1 内：黄灰～黒褐 2.5Y 4/1 ～ 2.5Y 3/1	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	9	42	SI01-1			弥生土器	壺	(10.6)			4㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	10	42	SI01-1			弥生土器	甕？				3㎜以下の砂粒を含む	外：褐灰 10YR 4/1 浅黄橙 10YR 8/4 内：褐灰 10YR 4/1 浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ・擬凹線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	11	42	SI01-1			弥生土器	甕	(16.0)			3㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：赤褐 2.5YR 4/8 内：橙 2.5YR 6/8	外：３条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	12	42	SI01-1			弥生土器	甕	(20.0)			3㎜以下の砂粒、鉱物を含む	外：暗灰黄 2.5YR 5/2 内：浅黄 2.5YR 7/3	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	13	46	SI01-1			弥生土器	甕	(22.0)			4㎜以下の砂粒、赤色鉱物を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：(口縁部) 擬凹線文・ナデ (肩部) 貝殻による擬凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	14	42	SI01-1			弥生土器	甕	(30.0)			5㎜以下の砂粒、鉱物を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/3 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：擬凹線文？・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	不良	1/3 未満	Ⅴ -2
45	15	42	SI01-1			弥生土器	器台			(21.0)	5㎜以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ？ 内：ナデ・ケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	16	43	SI01-1			弥生土器	器台				5㎜以下の砂粒を含む	外：灰黄褐 10YR 4/2 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2 ～ 3
45	17	43	SI01-1			弥生土器	器台？				3㎜以下の砂粒を含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：赤褐 10R 4/4	外：ナデ？ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	18	43	SI01-1			弥生土器	器台				２㎜以下の砂粒、赤色粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・擬凹線文 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	19	42	SI01-1			弥生土器	器台				3㎜以下の砂粒、赤色粒を含む	外：橙 5YR 7/6 内：褐灰 10YR 4/1	外：13 条の擬凹線文・ナデ 内：ヘラケズリ・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	20	43	SI01-1			弥生土器	器台				3㎜以下の砂粒、赤色粒を含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ケズリのちヘラミガキ・擬凹線文 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -2
45	21	42	SI01-1			弥生土器	器台				3㎜以下の砂粒、赤色粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：ナデ・ヘラミガキ 内：ヘラケズリ	不良	1/3 未満	Ⅴ -2
45	22	42	SI01-1			弥生土器	甕			7.2	1㎜以下の砂粒、8㎜以下の鉱物を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ～Ⅴ
45	23	43	SI01-1			弥生土器	甕か壺			(6.2)	2㎜以下の砂粒、鉱物を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ハケ目のちナデ・ヘラケズリのちナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅴ
45	24	43	SI01-1			弥生土器	甕			(10.0)	1㎜以下の砂粒、5㎜以下の鉱物を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ～Ⅴ
45	26	43	SI01-1			弥生土器	把手				５㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
			遺構	グリッド												
45	27	43	SI01-1			弥生土器	甕？				5㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/3 内：淡黄 2.5YR 8/4	外：ナデ・擬凹線 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
45	28	43	SI01-1			弥生土器	甕？				5㎜以下の砂粒を含む	外：淡黄 2.5Y 8/4 内：淡黄 2.5Y 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1 ？
45	29	43	SI01-1			弥生土器	甕	(16.0)			3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄 2.5Y 7/4 内：淡黄 2.5Y 8/3	外：ナデ・擬凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
45	30	43	SI01-1			弥生土器	甕	(17.7)			4㎜以下の砂粒を含む	外：褐灰 10YR 4/1 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：ナデ・擬凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -2
45	31	43	SI01-1			弥生土器	壺			3.0	5㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	弥生後期
45	32	43	SI01-1			弥生土器	甕			(6.0)	3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：ハケ目 内：ナデ・指頭圧痕	良好	1/3 未満	弥生後期
46	1	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	壺				5㎜以下の砂粒を含む	外：褐灰 10YR 4/1 内：灰黄褐 10YR 4/2	外：けずり出し突帯？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
46	2	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕			7.1	3㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
46	3	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(2.1)			3㎜以下の砂粒をごく少量含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 7.5YR 6/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅲ
46	4	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(20.0)			5㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄褐 10YR 5/4 内：暗褐 10YR 3/4	外：擬凹線文・連続刺突文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
46	5	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(16.0)			2㎜以下の砂粒を含む	外：明黄褐 10YR 6/6 内：橙 5YR 6/8	外：口縁部に 1 条の沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
46	6	44	SI01- SD02			弥生土器	甕	(16.0)			3㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/4 内：灰黄褐 10YR 5/2	外：口縁部に 1 条の沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
46	7	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	器台				3㎜以下の砂粒を少量含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：擬凹線文？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	V -2
46	8	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄 2.5Y 7/3 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -2
46	9	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 6/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	10	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ・擬凹線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -2
46	11	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄 2.5Y 7/4 内：淡黄 2.5Y 8/4	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -2
46	12	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：灰黄褐 10YR 4/2 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	13	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：褐灰 10YR 4/1 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	14	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	小甕	(12.0)			3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	15	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	小甕	(14.0)			3㎜以下の砂粒をごく少量含む	外：淡黄 2.5Y 8/3 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	16	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	17	46	SI01-1 -SD02			弥生土器	小甕	(11.0)			3㎜以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：凹線文・ハケ目のちナデ 内：ナデ・ハケ目のちナデ・ヘラケズリ	良好	2/3	V -2
46	18	46	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	14.0			5㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	2/3	V -2

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
46	19	44	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(16.0)	16.5	(8.0)	3mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐 10YR 4/2 内：褐灰 10YR 4/1	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3	V -2
46	20	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(17.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/2 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	21	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(22.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：暗灰黄 2.5Y 5/2	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	22	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(15.8)			3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：12 条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2 外面の一部に黒変
46	23	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(17.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/2	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	24	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(17.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：明黄褐 2.5Y 7/6	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -2
46	25	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(18.0)			5mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：明黄褐 10YR 7/6	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	26	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(20.0)			3mm以下の砂粒を含む。3mm大の黒色粒を含む	外：淡黄 2.5YR 8/4 内：黄橙 10YR 8/6	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	27	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(22.0)			1mm以下の砂粒を含む	外：淡黄 2.5YR 8/3 内：黄橙 10YR 8/6	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
46	28	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(23.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：擬凹線文・ナデ・ハケ目 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2 胴部に煤痕
46	29	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	器台・脚付壺 脚部			(10.0)	1mm以下の砂粒を含む	外：灰黄褐 10YR 4/2 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1
46	30	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	小型甕				1mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/2 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V
46	31	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕			3.2	3mm以下の砂粒を少量含む	外：赤褐 5YR 4/8 内：にぶい褐 7.5YR 5/4	外：ナデ？ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V
46	32	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕？			(2.6)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：灰黄褐 10YR 5/2	外：ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	弥生後期
46	33	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕？			(4.0)	2mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 10YR 7/1 内：灰白～黒褐～ 10YR 3/1	外：ハケ目 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	弥生後期
46	34	45	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕？			(12.0)	3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	弥生前期？
46	35	46	SI01-1 -SD02			弥生土器	甕	(30.0)			3mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：擬凹線文・ナデ・貝殻条文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3	V -2
48	1	46	SI01-2			弥生土器	甕				2mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/3 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：刻み目・直線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	2	46	SI01-2			弥生土器	甕				2mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：灰褐 7.5YR 6/2 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	3	46	SI01-2			弥生土器	甕				5mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 褐灰 10YR 6/1 内：浅黄橙 7.5YR 8/3	外：2 条の沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	4	46	SI01-2			弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を多く含む	外：黒褐 10YR 3/2 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ナデ・沈線文・刻み目 内：ナデ	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	5	46	SI01-2			弥生土器	甕				4mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい赤褐 5YR 5/3 内：明赤褐 5YR 5/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	6	46	SI01-2			弥生土器	無頸壺	(13.3)			2mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：貼り付け突帯文 内：調整不明	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	7	46	SI01-2			弥生土器	壺	(19.6)			3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：淡橙 5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	I -3~(4)
48	8	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ヘラミガキ・突帯文？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	I -3~(4)

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
48	9	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄褐 10YR 5/3 内：橙 5YR 6/6	外：ヘラミガキ・凹線文 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	10	46	SI01-2	C3		弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：にぶい橙 7.5YR 7/4	外：ヘラミガキ・直線文 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	11	46	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の石英、白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 灰 N 5/ 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：沈線文・ヘラミガキ・貝殻による直線文・羽状文 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4) 外面の一部に黒変
48	12	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ？ 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	13	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 ～ 2.5YR 暗灰 7/8 内：橙 N 3/ 7.5YR 7/6	外：貼り付け突帯文・貝殻による直線文・羽状文 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	14	46	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：沈線文 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	15	46	SI01-2			弥生土器	壺				4mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：2条の貼り付け突帯文・貝殻による直線文 内：ヘラミガキ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	16	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を少量含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8	外：直線文・竹管文・ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	17	46	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：沈線文・羽状文・貼り付け突帯文 内：ヘラミガキ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	18	46	SI01-2			弥生土器	無頸壺				4mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：灰黄褐 10YR 5/2 内：灰黄褐 10YR 5/2	外：ナデ・沈線文・ハケ目 内：ハケ目のちナデ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	19	46	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：橙 5YR 7/8	外：貼り付け突帯文・貝殻による羽状文・区画直線文 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	20	46	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：黒 N 2/ 内：明赤褐 5YR 6/8	外：貼り付け突帯文・貝殻による羽状文・区画直線文・ヘラミガキ 内：ヘラミガキ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	21	47	SI01-2			弥生土器	甕・壺			5.5	白色砂粒を含む、5mm以下の砂粒を含む	外：赤 10R 5/8 淡橙 5YR 8/4 内：赤橙 10R 6/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	22	47	SI01-2			弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を非常に多く含む	外：灰 N 5/ 黄橙 7.5YR 8/8 内：灰 N 5/ 黄橙 7.5YR 8/8	外：ハケ目・沈線文 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	23	47	SI01-2			弥生土器	壺？			11.8	3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ヘラミガキのちナデ 内：ヘラミガキのちナデ？	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
48	24	47	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の白色砂粒を多く含む	外：暗灰 N 3/ 内：暗灰 N 3/	外：ハケ目のちナデ？・貼り付け突帯文 内：ハケ目のちナデ？	良好	1/3未満	Ⅲ-1 ～ 2
48	25	47	SI01-2			弥生土器	壺				2mm以下の白色砂粒を含む。4mm以下の炭水化物を含む	外：暗緑灰 5G 4/ 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：貼り付け突帯文 内：調整不明	やや不良	1/3未満	Ⅲ-1 ～ 2
48	26	47	SI01-2 P2			弥生土器	器台？				1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2・3?
48	27	47	SI01-2 P2			弥生土器	甕				3mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：橙 5YR 7/6 浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ハケ状工具による押し引き文 内：調整不明	良好	1/3未満	Ⅴ-2・3?
48	28	47	SI01-2 P2			弥生土器	甕				3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：沈線文・貝殻による刺突文 内：ヘラミガキ？	良好	1/3未満	Ⅴ-2・3 外面の一部に黒色物付着
49	1	48	SI01-2			弥生土器	甕・壺	(15.4)			1mm以下の雲母、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：3条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅴ-1
49	2	48	SI01-2 P2			弥生土器	甕	(16.0)			3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 4/8 内：一部灰 N 5/	外：7条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2 内面の一部が黒変

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
49	3	48	SI01-2 P2			弥生土器	高坏	(18.3)			3mm以下の雲母少量、赤、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：擬凹線文・ヘラケズリのち強いナデ 内：ヘラケズリのち強いナデ？	良好	1/3 未満	V -2 外面の一部に黒色物付着
49	4	48	SI01-2 -P1			弥生土器	台付壺等脚部			(9.3)	白色を含む 5mm以下の砂礫を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ヘラミガキ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅲ～Ⅳ 口縁端部の一部に黒変
49	5	48	SI01-2			弥生土器	高坏			(12.6)	白色を含む 5mm以下の砂礫を非常に多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：暗灰 N 3/	円孔３か所 外：３条の擬凹線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -2
49	6	48	SI01-2 -P1			弥生土器	甕				4mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：にぶい橙 5YR 7/4	外：貝殻描文・ナデ 内：ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -2
49	7	48	SI01-2			弥生土器	器台？			(21.2)	2mm以下の雲母、石英白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	V -2
49	8	48	SI01-2			弥生土器	甕・壺			4.6	4mm以下の雲母、石英白色砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 8/8 内：暗灰 N 3/	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) ？ 内面に黒変
49	9	48	SI01-2			弥生土器	甕・壺			(7.8)	4mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 2.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) ？
49	10	48	SI01-2 -P1			弥生土器	甕？			(9.8)	3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：赤橙 10YR 6/6 灰黄褐 10YR 6/2 内：にぶい橙 5YR 7/4	外：ハケ目のちヘラミガキ？・強いナデ・ヘラミガキ 内：強いナデ・指頭圧痕	良好	1/3 未満	
49	11	48	SI01-2			弥生土器	甕？			(8.9)	雲母少量、石英、白色を含む 5mm以下の砂礫を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 暗灰 N 3/ 内：にぶい橙 5YR 6/4	外：ハケ目・ナデ 内：ヘラミガキのちナデ？	良好	1/3 未満	V -1 ～ 2 外面の一部に黒変
50	1	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ヘラミガキ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ
50	2	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：灰黄褐 10YR 5/2	外：ヘラミガキ・直線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ
50	3	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	無頸壺				1mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
50	4	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	無頸壺	(9.5)			2mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1 外面に赤色顔料
50	5	51	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(13.2)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 7.5YR 6/4	外：調整不明 内：口縁部ナデ	良好	1/3 未満	V -1
50	6	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(10.5)			1mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
50	7	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(10.4)			2mm以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：２条の凹線文・ナデ 内：ナデ？・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -1 外面に煤痕
50	8	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(15.8)			1mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：３条の凹線文・ナデ 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	V -1
50	9	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(15.5)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：３条の凹線文・ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
50	10	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(17.4)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：３条の凹線文・ナデ？・刺突文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1 外面に煤痕
50	11	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺	(13.6)			1mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/8 内：にぶい橙 5YR 7/4	外：３条の凹線文・ハケ目 内：ヘラミガキ・ナデ	良好	1/3 未満	V -1 内外面に赤色顔料
50	12	49	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(16.8)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：３条の凹線文・ナデ・刺突文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1 外面に赤色顔料
50	13	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺	(16.4)			1mm以下の砂粒を含む	外：明褐 7.5YR 5/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1
50	14	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：３条の凹線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -1

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
			遺構	グリッド												
50	15	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕				1mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
50	16	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(17.0)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：ナデ？・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
50	17	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	甕	(18.0)			1mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/8 内：明黄褐 10YR 7/6	外：直線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1 内外面に赤色顔料
50	18	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：黒褐 2.5Y 3/1 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ？・ヘラミガキ 内：ナデ・ハケ目	良好	1/3 未満	I
50	19	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				1mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：褐灰 7.5YR 5/1 にぶい橙 7.5YR 7/3	外：ナデ・刻み目 内：ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V
50	20	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を含む	外：灰褐 7.5YR 4/2 内：灰褐 7.5YR 4/2	外：刺突文 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V
50	21	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：褐 7.5YR 4/3 内：橙 7.5YR 6/6	外：爪形文？・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V
50	22	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：刺突文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V
50	23	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺・甕底部			4.2	2mm以下の白色の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：明褐 7.5YR 5/6	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	V -1・2?
50	24	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺底部			(9.2)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ヘラミガキ？・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
50	25	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺底部			(12.0)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ヘラミガキ？	良好	1/3 未満	
50	26	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺底部			(16.0)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：ハケ目・ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	
50	27	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺・甕底部				1mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5.YR 6/8 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V？
50	28	50	SI01-2 -SD01			弥生土器	壺？底部			(10.0)	4mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	
51	1	51	SD03			弥生土器	壺・甕底部			(6.0)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/3 内：にぶい褐 7.5YR 5/4	外：ヘラミガキ？・ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	V？
51	2	51	SD03			弥生土器	壺・甕底部			(9.0)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V
61	1	51	SI02			須恵器	皿？	14.8	2.4	7.5	0.5mm以下の白色砂粒を含む	外：灰赤 2.5YR 6/2 内：にぶい赤褐 2.5YR 4/3	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転糸切りのちナデ・一部櫛状工具によるナデ 内：回転ナデ・ナデ	良好	完形	
61	2	51	SI03			弥生土器	甕	(17.8)			白色を含む 2mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：擬凹線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -2
61	3	51	SI03			土師器	甕	(28.3)			5mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 橙 5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ヨコナデ・ハケ目のちナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	古代 外面の一部に黒変
61	4	51	SI04			弥生土器	甕				2mm以下の砂粒を含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 5YR 6/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
61	5	51	SI04			弥生土器	甕				1mm以下の砂粒を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1 ～ 2
61	6	51	SI04	D1		弥生土器	甕	(14.0)			1mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1
61	7	51	SI04			弥生土器	壺			(3.4)	白色を含む 2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：褐灰 5YR 5/1	外：ナデ 内：ナデ・指頭圧痕	良好	1/3 未満	I ～ V 内面に黒変
61	8	51	SI04			弥生土器	甕			(5.7)	2mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 暗灰 N 3/ 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ヘラミガキのちナデ？・ナデ 内：ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
61	9	51	SI04			弥生土器	壺			(8.0)	4㎜以下の明赤褐色の砂粒を多く含む。2㎜以下の石英、白色砂粒を非常に多く含む	外：橙 5YR7/8 内：灰 5YR 5/1	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ～Ⅴ
61	10	50	SI05-SD05			弥生土器	壺			15.4	5㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 黒 7.5YR 2/1 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：羽状文・ヘラミガキ？・ナデ？ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 ～ 2 外面に煤痕
61	11	51	SI05-P123			弥生土器	甕			(5.8)	3㎜以下の石英、白色砂粒を含む	外：赤 10YR 5/8 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：ナデ・ハケ目？ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
61	12	51	SI05-P123			弥生土器	壺			(8.6)	5㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：橙 5YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
65	1	51	SI06		床面	弥生土器	高坏	(21.4)			1㎜以下の砂粒を少量含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：にぶい橙 7.5YR 7/4	外：５条の凹線文・ヘラミガキ 内：３条の凹線文・ヘラミガキ	良好	1/3	Ⅳ -1
65	2	52	SI06			弥生土器	高坏				1㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：４条の凹線文・刻み目文 内：口縁部に２条の凹線文・ナデ	良好	1/3 未満	塩町式土器か？
65	3	52	SI06			弥生土器	高坏			(12.6)	1㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい褐 7.5YR 6/3 内：にぶい褐 7.5YR 6/3	外：刻み目文・凹線文・ナデ・沈線文 内：ナデ？・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
65	4	52	SI06			弥生土器	高坏				1㎜以下の砂粒を少量含む	外：灰褐 7.5YR 6/2 内：灰褐 7.5YR 6/2	外：刻み目文・凹線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
65	5	52	SI06			弥生土器	甕			(14.9)	2㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい黄褐 10YR 5/4 内：にぶい黄褐 10YR 5/4	外：口縁部に凹線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1・2
65	6	52	SI06			弥生土器	甕	(16.4)			1㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：２条の凹線文・ナデ・ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
65	7	52	SI06			弥生土器	甕	(16.8)			1㎜以下の砂粒を含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
65	8	52	SI06			弥生土器	甕	(12.5)			2㎜以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：３条の擬凹線文・ナデ・ハケ目のちナデ・刺突文・ヘラミガキ 内：ナデ・ヘラケズリのちナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
65	9	52	SI06			弥生土器	壺	(29.6)			2㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：３条の擬凹線文・ナデ？ 内：５条の擬凹線文・ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
65	10	52	SI06			弥生土器	壺				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：凹線文・一部ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
65	11	52	SI06			弥生土器	壺				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：褐灰 10YR 5/1 内：にぶい黄橙 10YR 6/3	外：刺突文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
65	12	52	SI06			弥生土器	甕				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ハケ目・刺突文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
65	13	52	SI06		床面	弥生土器	壺				3㎜以下の白色の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：褐灰 10YR 5/1 にぶい橙 7.5YR 7/4	外：ナデ・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ
65	14	52	SI06			弥生土器	壺				3㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 6/8 内：浅黄橙 7.5YR 6/8	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ
65	15	52	SI06			弥生土器	壺				2㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ヘラミガキ・沈線文 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	Ⅰ
65	16	52	SI06			弥生土器	壺				3㎜以下の砂粒を含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：灰褐 7.5YR 4/2	外：ナデ・沈線文 内：ハケ目・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
65	17	52	SI06			弥生土器	壺				2㎜以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：突帯文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
65	18	52	SI06			弥生土器	壺				3㎜以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ヘラミガキ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
65	19	52	SI06			弥生土器	甕				2㎜以下の砂粒を含む	外：褐灰 10YR 4/1 内：橙 7.5YR 7/6	外：沈線文・刺突文・ナデ・ハケ目 内：ハケ目	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
65	20	52	SI06			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ハケ目？・沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
65	21	52	SI06			弥生土器	甕				3㎜以下の砂粒を多く含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/4 内：橙 5YR 6/6	外：ナデ・沈線文・刻み目文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ 外面の一部に煤痕

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
65	22	53	SI06			弥生土器	甕			(5.6)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/3 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ヘラミガキ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅳ -1 ？
65	23	53	SI06			弥生土器	甕			(5.6)	1mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1 ？
65	24	53	SI06			弥生土器	甕			(5.8)	1mm以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：灰白 10YR 8/2	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1 ？ 外面底部の一部に黒変
65	25	53	SI06			弥生土器	甕			(8.0)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：灰黄褐 10YR 6/2	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
65	26	53	SI06			弥生土器	甕			(7.8)	5mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：灰褐 5YR 5/2	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
65	27	53	SI06			弥生土器	甕			(8.6)	3mm以下の白色の砂粒を多く含む	外：赤褐 2.5YR 4/8 内：赤褐 2.5YR 4/8	外：調整不明 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
65	28	53	SI06			弥生土器	甕			(9.0)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 6/6 内：明黄褐 10YR 6/6	外：ナデ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
65	29	53	SI06			弥生土器	甕			(5.4)	5mm以下の砂粒を含む	外：赤褐 10YR 5/4 内：赤灰 2.5YR 6/1	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
65	30	53	SI06			弥生土器	壺			(9.2)	4mm以下の白色の砂粒を多く含む	外：にぶい橙 5YR 7/4 橙 7.5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 6/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1 ～ 2
65	31	53	SI06			弥生土器	壺				3mm以下の白色の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：ナデ	良好	1/3 未満	
65	32	53	SI06			弥生土器	壺			(8.8)	3mm以下の白色の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
68	3	54	P1			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
68	4	54	P61			弥生土器	壺				2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
68	5	54	P71			弥生土器	壺・甕底部				3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/8 内：橙 7.5YR 6/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
68	6	54	P70			弥生土器	壺・甕底部			(12.4)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：灰黄褐 10YR 2/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
68	7	54	P70			弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：－	外：ナデ・2条の突帯文に刻み目文 内：－	良好	1/3 未満	Ⅰ - Ⅲ～Ⅳ
68	8	54	P1			弥生土器	壺・甕底部			(5.7)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
68	9	55	P200			弥生土器	壺・甕				2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 6/6	外：ナデ・刺突文 内：ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅲ - Ⅳ
68	10	55	P62 P100			弥生土器	壺・甕底部			(6.2)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
68	11	55	P143			弥生土器	壺・甕底部			(7.4)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
68	12	55	P66			弥生土器	壺・甕底部			(11.4)	4mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：灰黄褐 10YR 5/2	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
68	13	55	P43			弥生土器	甕				2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：黄橙 10YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
68	14	55	P131			須恵器	坏・身				密	外：オリーブ灰 2.5GY 6/1 内：灰 2.5GY 6/	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
72	1	56		E2	包含層 1	須恵器	甕				1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：黄灰 2.5Y 5/1 内：黄灰 2.5Y 5/1	外：波状文・回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	2	56		F3	包含層 1	須恵器	甕				密	外：青灰 5B 6/1 内：青灰 5B 6/1	外：格子状敲き 内：同心円状敲き	良好	1/3 未満	
72	3	56		F3	包含層 1	須恵器	甕				1mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：格子状敲きのち回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	4	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(7.2)	2.2	(5.6)	0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 5Y 6/1 内：灰 5Y 6/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	5	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(7.7)	2.1	(5.4)	0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 5Y 6/1 内：灰 5Y 6/1	外：回転ナデ・回転糸切りのちナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	6	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(7.8)	2.1	(6.0)	0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 5Y 6/1 内：灰 5Y 6/1	外：回転ナデ・糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	7	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(8.4)	2.1	(6.1)	0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 N 6/ 内：灰 N 6/	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	8	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(6.7)	2.1	(4.9)	1mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 N 6/ 内：灰 N 6/	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
72	9	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(8.2)	2.4	(6.2)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：黄灰 2.5Y 6/1 内：黄灰 2.5Y 6/1 にぶい橙 2.5YR 6/3	外：回転ナデ・糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	10	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(7.4)	1.6	(5.7)	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：灰 N 5/ 内：灰 N 5/	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	内外面に自然釉
72	11	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(8.3)	2.3	(6.0)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰 10Y 5/1 内：灰 10Y 5/1	外：回転ナデ・回転糸切りのちナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	12	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(8.2)	1.9	(6.0)	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：灰 N 5/ 内：黄灰 2.5Y 4/1	外：回転ナデ・糸切り 内：回転ナデ	不好	1/3 未満	内外面に自然釉
72	13	56		E1	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(7.6)	1.8	(6.2)	0.5㎜以下の砂粒を少量含む	外：灰白 2.5Y 8/2 内：灰白 2.5Y 8/2	外：回転ナデ・糸切りのちナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	14	56		D2	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	(8.1)	2.9	(6.0)	0.5㎜以下の白色砂粒を極少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	外面底部に自然釉
72	15	56 59		E3	包含層 1	須恵器	灯明皿形土器	8.35	3.1	5.9	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 5B 6/1 灰白 5Y 8/2 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	完形	
72	16	56			包含層 1	須恵器	高台付皿形土器	(11.2)	3.05	(5.6)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰 N 6/ 内：灰 N 5/	外:回転ナデ・ナデ・糸切りのちナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	転用硯
72	17	56		C2	包含層 1	須恵器	高台付皿形土器			(3.8)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：青灰 10BG 5/1 内：灰 7.5Y 6/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	転用硯
72	18	56			包含層 1	須恵器	高台付皿形土器			6.1	0.5㎜以下の砂粒を少量含む	外：灰 7.5Y 6/1 内：灰 7.5Y 6/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	19	56		E	包含層 1	須恵器	皿形土器	(13.2)	2.1	(5.8)	1㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰 7.5Y 5/1 内：灰 7.5Y 5/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/2	転用硯 (朱墨)
72	20	56		E2	包含層 1	須恵器	高台付皿形土器	(13.8)	2.85	(6.2)	1㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰 N 6/ 内：灰白 N 7/	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	転用硯
72	21	56		D2	包含層 1	須恵器	高台付坏 (仏具)	(14.0)		(14.2)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：青灰 10BG 6/1 内：青灰 10BG 6/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	22	56		B3	包含層 1	須恵器	高台付坏 (仏具)	(15.0)	3.1	(8.6)	1㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰白 N 7/ 内：明緑灰 5G 7/1	外：回転ナデ・ヘラケズリ・ナデ・糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	転用硯
72	23	56		C3・D3	包含層 1	須恵器	鉄鉢形土器	(14.2)	6.9		2㎜以下の白色砂粒を極少量含む	外：灰白 5Y 7/1 内：灰白 5Y 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	24	56		E2	包含層 1	須恵器	鉄鉢形土器	(18.4)	(5.3)		2㎜以下の白色砂粒を含む	外：青灰 5B 5/1 灰白 7.5Y 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	25	56		D1	包含層 1	須恵器	鉄鉢形土器	(18.8)			2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 5BG 6/1 内：青灰 5BG 5/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
72	26	56		E2	包含層 1	須恵器	脚付盤				2㎜以下の白色砂粒を含む	外：灰白 7.5YR 8/1 内：灰白 7.5YR 8/1	外：ナデ？ 内：回転ナデ・ナデ	不良	1/3 未満	72-27 と同一個体？
72	27	56		E1	包含層 1	須恵器	脚付盤				2㎜以下の白色砂粒を含む	外：灰白 7.5YR 8/1 内：灰白 7.5YR 8/1	外：ナデ？ 内：回転ナデ・ナデ	不良	1/3 未満	72-26 と同一個体？
72	28	56		E1	包含層 1	須恵器	坏				密	外：明青灰～青灰 5B 7/1 ～ 5B 6/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	内外面に煤痕
72	29	56		E2	包含層 1	須恵器	坏	(11.6)			2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰～青灰 5B 7/1 ～ 5B 6/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	内外面に煤痕
72	30	56		F2	包含層 1	須恵器	坏	(11.3)	4.85	(5.6)	3㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 5Y 7/1 内：灰白 5Y 7/1	外:回転ナデ・ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3	
72	31	56		F2	包含層 1	須恵器	坏	(13.7)	4.6	(7.8)	3㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 10BG 6/1 内：青灰 10BG 6/1	外:回転ナデ・ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ・ナデ	良好	1/3 未満	
72	32	56		B3	包含層 1	須恵器	坏	(10.4)	4.3	(7.8)	1㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰～青灰 10BG 7/1 ～ 5BG 5/1 内：青灰 5B 5/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ・回転ナデのちナデ	良好	1/3 未満	
72	33	56		D1	包含層 1	須恵器	坏	(12.8)	4.4	(9.7)	4㎜以下の白色砂粒を含む	外：灰～青灰 5Y 6/ ～ 10BG 6/1 内：灰白 10Y 7/1	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ・回転ヘラケズリのち一部ナデ 内：回転ナデ・ナデ	良好	1/3 未満	
72	34	57		B3	包含層 1	須恵器	坏	(14.2)	3.9	(9.4)	2㎜以下の白色、黒色砂粒を少量含む	外：灰白 5Y 7/2 内：灰白 5Y 7/2	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
72	35	57		E1	包含層 1	須恵器	高台付坏	(13.3)	4.7	(8.1)	3㎜以下の白色、黒色砂粒を少量含む	外：灰白 N 7/ 内：灰白 N 7/	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
			遺構	グリッド												
72	36	57		D3	包含層 1	須恵器	高台付坏	(14.2)	4.5	(10.0)	3mm以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 5B 6/1 内：青灰 5B 6/1	外：回転ナデ・静止糸切り・静止糸切りのち回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
72	37	57		C2	包含層 1	須恵器	高台付坏	(14.8)	3.7	10.0	2mm以下の白色、黒色砂粒を若干含む	外：灰白～青灰 7.5YR 7/1～5B 6/1 内：青灰 5B 6/1	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデのち一部ナデ	良好	1/3未満	転用硯
72	38	57		C2	包含層 1	須恵器	高台付坏	(15.3)	4.4	(10.8)	3mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 5Y 7/1 灰白 5Y 8/1 内：灰白 5Y 7/1	外：回転ナデ・静止糸切りのちナデ 内：回転ナデのち一部ナデ	良好	1/3未満	転用硯
72	39	57		F3	包含層 1	須恵器	台付壺			9.1	1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 5B 6/1 内：青灰 5B 6/1	外：回転ナデのち一部ナデ・回転糸切り 内：回転ナデのち一部ナデ	良好	1/2	
73	1	57		D3	包含層 1	須恵器	蓋	(13.6)			6mm以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ・回転ナデのち一部ナデ	良好	1/3未満	転用硯
73	2	57		C2	包含層 1	須恵器	蓋	(14.8)			2mm以下の黒色、白色砂粒を少量含む	外：灰白 7.5Y 8/2・5Y 7/1 内：灰白 N 7/・7.5Y 8/2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	転用硯
73	3	57		B3	包含層 1	須恵器	蓋	(16.8)			1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 10Y 8/1 青灰 5B 6/ 内：灰白 10Y 8/1	外：回転ナデ 内：回転ナデのち一部ナデ	良好	1/3未満	転用硯
73	4	57		E 3	包含層 1	須恵器	蓋	(15.0)	2.05	つまみ径5.1	1mm以下の砂粒を少量含む	外：明青灰 5PB 7/1 内：明青灰 5PB 7/1	外：回転ナデ・ヘラケズリ・輪状つまみ 内：回転ナデ	良好	1/3	転用硯
73	5	57		E1	包含層 1	須恵器	蓋	(14.4)	2.55	つまみ径5.2	1mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰 5Y 5/1 内：青灰 5B 5/1	外：ナデ・ヘラケズリ・回転ナデ・輪状つまみ 内：回転ナデ・ナデ	良好	2/3	外面全体に自然釉
73	6	57		E2	包含層 1	須恵器	蓋	(12.8)	2.5	つまみ径(5.5)	0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：灰白 明オリーブ灰 N 7/2.5GY 7/1 内：灰白 明オリーブ灰 N 7/2.5GY 7/1	外：回転ナデ・ボタン状つまみ 内：回転ナデ	良好	1/3	
73	7	57		C1	包含層 1	須恵器	蓋	(11.0)			1mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：青灰 5B 6/1 内：青灰 5B 6/1	外：ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	外面に自然釉
73	8	57		B4	包含層 1	須恵器	蓋	(13.3)			0.5mm以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：青灰 5B 6/1	外：回転ヘラケズリ・回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	外面の一部に自然釉
73	9	57		E1	包含層 1	須恵器	蓋	(16.9)			3mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 N 8/ 内：灰白 N 8/	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	10	57		E1	包含層 1	須恵器	蓋	(15.8)			2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 N 7/ 内：灰白 N 7/	外：ナデ・回転ヘラケズリ・回転ナデ 内：回転ナデ・ナデ	良好	1/3未満	
73	11	57		D2	包含層 1	須恵器	蓋	(15.6)			2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ・宝珠・ボタン状つまみ 内：回転ナデ	良好	1/3	
73	12	59		B3	包含層 1	須恵器	蓋	15.6			2mm以下の白色砂粒を含む	外：灰白 2.5Y 8/1 内：明赤褐 5YR 5/8	外：回転ナデ・輪状つまみ 内：回転ナデ	やや不良	1/3未満	
73	13	59		D3	包含層 1	須恵器	蓋	17.6	2.7	つまみ径4.6	3mm以下の白色砂粒を含む	外：灰白 10Y 8/1 内：灰白 10Y 8/1	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	良好	2/3	
73	14	59		F2	包含層 1	須恵器	蓋	15.3	3.2	つまみ径2.3	2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：ナデ・回転ヘラケズリのち回転ナデ・ボタン状つまみ 内：回転ナデ・ナデ	良好	ほぼ完形	
73	15	58		C2	包含層 1	須恵器	水瓶？				1mm以下の白色砂粒を含む	外：明青灰 5B 6/1 内：灰白 N 7/	外：回転ナデのちナデ 内：しぼりのち回転ナデ・回転ナデ	良好	1/3未満	
73	16	58		C4	包含層 1	須恵器	壺				3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：オリーブ黒 7.5Y 3/2 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ・２条の沈線文 内：回転ナデ	良好	1/3未満	外面に自然釉
73	17	58		D1	包含層 1	須恵器	壺				1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 2.5Y 7/1 内：灰白 7.5Y 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	18	58		C4	包含層 1	須恵器	壺			最大径(14.5)	1mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：灰白 10Y 8/1 明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
73	19	58		E1	包含層 1	須恵器	壺			最大径(15.1)	2mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：灰 7.5Y 6/1 灰オリーブ 5Y 6/2 内：暗オリーブ 5Y 4/4 灰白 5Y 8/1	外：回転ヘラケズリのちナデ 内：調整不明	良好	1/3未満	内外面に自然釉
73	20	58		A4	包含層 1	須恵器	壺			最大径(18.2)	4mm以下の砂礫を少量含む	外：灰白 10Y 8/1 明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	21	58		E3	包含層 1	須恵器	壺			最大径(16.3)	1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 10Y 8/1 明青灰 5B 7/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	22	58		D3	包含層 1	須恵器	壺			(8.9)	1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：青灰 5B 6/1 内：灰白 10Y 8/1	外：回転ヘラケズリのち一部ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	23	58		F2	包含層 1	須恵器	壺			(9.8)	1mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：灰 N 6/ 内：灰白 N 8/	外：回転ナデ・静止糸切りのち回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	24	58		F2	包含層 1	須恵器	壺			13.5	2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：明青灰 5B 7/ 内：明青灰 5B 7/	外：回転ナデ・回転ヘラケズリのち回転ナデ 内：回転ナデ・ナデ	良好	1/3未満	転用硯 内面に墨付着
73	25	58		B5	包含層 1	須恵器	壺			(10.0)	3mm以下の白色砂粒を含む	外：青灰 5B 6/1 内：明青灰 5B 7/1	外：回転ナデ・糸切りのち回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	26	58		B3	包含層 1	須恵器	壺			(8.4)	1mm以下の白色砂粒を極少量含む	外：暗青灰 5B 4/1 内：青灰 5B 6/1	外：回転ヘラケズリのちナデ・回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3	
73	27	58		E1	包含層 1	須恵器	壺			最大径(13.8)	1mm以下の白色砂粒を多く含む	外：灰白 N 8/1 内：灰白 N 8/1	外：回転ヘラケズリのちナデ・回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3	
73	28	59		F3	包含層 1	須恵器	壺・甕				2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：暗緑灰 10GY 3/1 灰 N 7/ 暗オリーブ 5Y 4/3 内：灰白 2.5Y 8/2	外：回転ナデ 内：調整不明	良好	1/3未満	内面口縁部に自然釉
73	29	59		D3	包含層 1	須恵器	壺・甕	(22.6)			1mm以下の白色砂粒を含む	外：明青灰 10BG 7/1 内：明青灰 10BG 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	30	59		C3	包含層 1	須恵器	壺・甕				2mm以下の白色砂粒を含む	外：灰白 7.5Y 4/1 内：灰オリーブ 5Y 4/2	外：回転ナデ・波状文 内：調整不明	良好	1/3未満	
73	31	59		C3	包含層 1	須恵器	壺・甕	(50.6)			1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰 7.5Y 4/1 内：灰オリーブ 5Y 4/2	外：回転ナデ・波状文 内：回転ナデ	良好	1/3未満	
73	32	59		B4	包含層 1	須恵器	壺・甕				2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 N 7/ 内：灰白 N 7/	外：敲きのちナデ 内：ヨコナデ・同心円敲き	良好	1/3未満	
74	1	60	Tr18-12		包含層 1	弥生土器	小壺	(9.6)	8.7	(4.6)	2mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3	Ⅰ-3~(4)
74	2	60	Tr2	B3	包含層 1	弥生土器	甕	(16.2)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ナデ・１条の沈線文・ハケ目 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
74	3	60		B4	包含層 1	弥生土器	壺	(14.8)			5mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ナデ・７条の凹線文・刺突文 内：ナデ	やや不良	1/3未満	Ⅳ-2
74	4	60		B5	包含層 1	弥生土器	甕	(19.8)			2mm以下の砂粒を若干含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：６～７条の凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2
74	5	60	Tr3	C3	包含層 1	弥生土器	甕	(19.8)			1mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6 灰黄褐 10YR 6/2	外：４条の凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅴ-2
74	6	60		A4	包含層 1	弥生土器	台付壺			(6.6)	1mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：黒褐 10YR 3/1	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3未満	Ⅲ～Ⅳ
74	7	60			包含層 1	弥生土器	壺			10.0	3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)
74	8	60		B4	包含層 1	弥生土器	甕			(9.3)	2mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明褐 7.5YR 5/8 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ナデ・一部ハケ目 内：ナデ・一部ハケ目	良好	1/3未満	Ⅰ-3~(4)？ 外面の一部に煤痕
74	9	60		D1	包含層 1	弥生土器	甕			7.6～7.8	2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅴ
74	10	60		B4	包含層 1	弥生土器	甕				2mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	Ⅴ-3~(4)
74	11	60		C3	包含層 1	土師器	甕	(16.2)			1mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：ナデ 内：ナデ・ケズリ	良好	1/3未満	布留式
74	12	60		C2	包含層 1	土師器	高坏				0.5mm以下の砂粒を極少量含む	外：明褐 7.5YR 5/6 内：明褐 7.5YR 5/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3未満	

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
			遺構	グリッド												
74	13	61			包含層 1	土師器	坏			(6.5)	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・回転糸切り 内：ナデ	良好	1/3 未満	外面に赤色顔料・内外面の一部に黒色の付着物あり
74	14	61		E2	包含層 1	土師器	坏	(10.7)	3.1	5.4	1㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 橙 2.5YR 7/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ・回転糸切り 内：ナデ	良好	1/3 未満	内面の一部に付着物あり
74	15	61			包含層 1	土師器	坏	(12.5)			0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰白 5Y 7/1 内：灰白 5Y 7/1	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	
74	16	61		D1	包含層 1	土師器	坏	(12.4)			0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰白 2.5Y 8/2 内：灰白 2.5Y 8/2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	外面に赤色顔料？・内外面の一部に黒色の付着物あり
74	17	61		E2	包含層 1	土師器	皿	(7.7)	1.4	5.5	2㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：淡黄 2.5Y 8/4 内：淡黄 2.5Y 8/4	外：回転ナデ・回転糸切り 内：回転ナデ	良好	1/3 未満	内面に煤痕
74	18	61		D2	包含層 1	土師器	皿			(7.8)	2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 7.5YR 8/1 内：灰白 7.5YR 8/1	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3	
74	19	61		B3	包含層 1	土師器	皿			(7.3)	2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 7.5YR 8/1 内：灰白 7.5YR 8/1	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/2	
74	20	61		C3	包含層 1	土師器	蓋			つまみ径 (4.85)	2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：灰白 2.5Y 8/2 内：灰白 2.5Y 8/2	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ 内：回転ナデのちナデ	良好	1/3 未満	つまみ内に赤色顔料
74	21	61		C3	包含層 1	土師器	高台付皿			(9.0)	1㎜以下の砂粒を極少量含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ 内：調整不明	良好	1/3	
74	22	61		C2	包含層 1	土師器	高台付皿				1㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	内外面に赤色顔料
74	23	61		C2	包含層 1	土師器	甕				3㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 6/4 内：橙 7.5YR 6/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	古代
74	24	61		E4	包含層 1	土師器	甕	(22.2)			3㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	古代
74	25	61		C3	包含層 1	土師器	甕	(22.5)			3㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：赤褐 2.5Y 4/8 内：赤褐 2.5Y 4/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	古代
75	7	63		E2	包含層 1	土師器	甕			最大径 (27.2)	10㎜以下の砂礫を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：橙 2.5YR 6/8	外：ナデ？ 内：ヘラケズリ	良好	1/2	外面の一部に煤痕
75	8	63			包含層 1	灰釉陶器	壺			最大径 (48.0)	0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：灰白 10YR 8/2 内：灰白 10YR 8/2	外：蔵き・灰釉（茶緑色） 内：蔵き	良好	1/3	
75	9	62		E3	包含層 1	陶磁器	備前焼甕			(22.2)	2㎜以下の砂粒を極少量含む	外：にぶい赤褐 2.5YR 4/4 内：にぶい赤褐 2.5YR 4/4	外：回転ナデ・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
76	1	64		F3	包含層 2	弥生土器	甕	(26.6)			5㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：ナデ・1 条の沈線文・ハケ目 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
76	2	64		Tr2	包含層 2	弥生土器	蓋？	(4.8)			4㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
76	3	64		C3	包含層 2	弥生土器	壺				3㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/6 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
76	4	64		Tr2 B3	包含層 2	弥生土器	壺				4㎜以下の砂粒を若干含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい橙 7.5YR 7/4	外：貝殻による羽状文・直線文・ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面の一部に煤痕
76	5	64		Tr2 B4	包含層 2	弥生土器	壺				2㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：暗灰黄 2.5Y 5/2	外：ナデ・貝殻による羽状文・刺突による直線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面に赤色顔料
76	6	64		Tr6 D2	包含層 2	弥生土器	壺	(14.0)			2㎜以下の砂粒を小量含む	外：黄橙 10YR 8/8 内：黄橙 10YR 8/8	外：調整不明 内：調整不明	やや不良	1/3 未満	Ⅲ -1
76	7	64		C2	包含層 2	弥生土器	台付壺・甕			9.8	4㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：赤 10R 5/6 灰褐 5YR 4/1 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ヘラミガキ・ナデ 内：指頭圧痕・ナデ・ケズリ	やや不良	1/3 未満	Ⅴ -1
76	8	64		D2	包含層 2	弥生土器	壺				1㎜以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：3 条の凹線文・ナデ 内：6 条の凹線文・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
76	9	64		D2	包含層 2	弥生土器	高坏			(11.2)	4㎜以下の砂粒を多く含む	外：明赤橙 10YR 7/6 内：明赤橙 10YR 7/6	外：ナデ・直線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ -1 ～ 2
76	10	64		C2	包含層 2	弥生土器	台付壺・甕			(12.8)	2㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
76	11	64		F3	包含層 2	弥生土器	高坏				4㎜以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：調整不明 内：ナデ	良好	1/3	Ⅴ -2
76	12	64		Tr2	包含層 2	弥生土器	鉢	(17.2)			1㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい褐 7.5YR 5/4	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 内外面に赤色顔料
76	13	64		D2	包含層 2	弥生土器	甕	(18.0)			3㎜以下の石英、白色砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 灰 5Y 6/1 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：4 条の擬凹線文・貝殻による刺突文・1 条の沈線文 内：ヨコナデ	良好	1/3	Ⅴ -1 外面の一部が黒変

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
76	14	64		E3	包含層 2	弥生土器	壺	(19.8)			4㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/6 内：明黄褐 10YR 7/6	外：凹線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -1
76	15	65		C4	包含層 2	弥生土器	甕				1㎜以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ・凹線文 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2
76	16	65		B3・B4	包含層 2	弥生土器	甕	(13.8)			3㎜以下の砂粒を若干含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：4 条の凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -2 内外面に赤色顔料
76	17	65		B3	包含層 2	弥生土器	壺			(11.8)	4㎜以下の白色砂粒を含む	外：淡橙 5Y 8/4 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：ナデ・指頭圧痕・板目状圧痕 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面の一部が黒変
76	18	65		C2	包含層 2	弥生土器	短頸壺	(11.6)			2㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/3 暗灰 N 3/ 内：灰 N 4/	外：ハケ目 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -3 外面の一部が黒変
76	19	65		D3	包含層 2	弥生土器	甕	(16.4)			3㎜以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -3~(4)?
76	20	65		D2	包含層 2	弥生土器	壺			10.7	3㎜以下の石英、白色砂粒を非常に多く含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：にぶい黄橙 10YR 7/3	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
76	21	65		D4	包含層 2	弥生土器	壺			12.0	3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：暗灰 N 3/ 淡黄 2.5Y 8/4 橙 2.5YR 7/8 内：橙 2.5YR 7/8	外：ハケ目のちナデ 内：ハケ目、ヘラミガキのちナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面が黒変
76	22	65		C3	包含層 2	弥生土器	甕			5.1	3㎜以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅳ～
76	23	65		D2	包含層 2	弥生土器	甕			(7.6)	0.5㎜以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 黒 N 2/ 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキのちナデ・ナデ 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ～
76	24	65		D1	包含層 2	弥生土器	甕			6.0	3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：灰白 10YR 8/2 内：灰 N 4/	外：ヘラミガキのちナデ・ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	V
76	25	65		E3	包含層 2	弥生土器	甕			(5.5)	1㎜以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ナデ 内：ケズリ？	良好	1/3 未満	V
76	26	65		Tr2	包含層 2	弥生土器	把手				1㎜以下の砂粒を若干含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 5YR 6/8	外：ナデ 内：ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V -3・4
76	27	65		C3	包含層 2	弥生土器	把手				4㎜以下の砂粒を若干含む	外：橙 内： 7.5YR 6/6	外：ナデ 内：	良好	1/3 未満	V -3・4
76	28	65		B3	包含層 2	弥生土器	把手				2㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 内： 7.5YR 6/6	外：ナデ 内：	やや不良	1/3 未満	V
77	1	66		D3	包含層 3	弥生土器	壺				4㎜以下の白色砂粒を多く含む	外：黒 N 1.5/ 内：橙 2.5YR 7/8	外：羽状文・突帯文・ヘラミガキのちハケ目 内：ハケ目のちナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	2	66		F3	包含層 3	弥生土器	壺				0.5㎜以下の砂粒を極少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：沈線文・刺突文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	3	66		C3	包含層 3	弥生土器	壺				2㎜以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：灰 N 4/	外：ヘラミガキ・突帯文・2 条の沈線文・貝殻による羽状文 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	4	66		C3	包含層 3	弥生土器	壺				2㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキ・貝殻による羽状文 内：ヘラミガキ・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	5	66		D3	包含層 3	弥生土器	壺				2㎜以下の赤色、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキのちナデ・貝殻による沈線文・貝殻による羽状文 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	6	66		F3	包含層 3	弥生土器	壺				3㎜以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8	外：沈線文・ヘラによる羽状文・斜格子文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	7	66		F3	包含層 3	弥生土器	壺				1㎜以下の白色砂粒を少量含む	外：明褐 7.5YR 5/8 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：沈線文・貝殻による沈線文・貝殻による羽状文 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	8	66		E3	包含層 3	弥生土器	壺				2㎜以下の白色砂粒を含む	外：明黄褐～ 10YR 7/6 灰 N 4/ 内：灰白 10YR 7/1	外：2 条の刻み目突帯文・ナデ？ 内：ハケ目	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
77	9	66		F3	包含層 3	弥生土器	甕	(27.2)			5㎜以下の石英、色砂粒を含む	外：黄橙 7.5YR 8/8 灰黄褐 10YR 4/2 内：橙 2.5YR 7/8 灰白 10YR 7/1	外：1 条の沈線文 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
77	10	66		F3	包含層 3	弥生土器	甕	(28.0)			3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：褐灰 10YR 5/1	外：ナデ・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
77	11	66		F3	包含層 3	弥生土器	甕	(26.6)			5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8 浅黄橙 10YR 8/4	外：1 条の沈線文 内：調整不明	良好	2/3	Ⅰ -3~(4)
77	12	66		C3	包含層 3	弥生土器	小型土器（甕）	(5.0)			2mm以下の金雲母、白色砂粒を少量含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：橙 2.5YR 7/8	外：ナデ 内：ナデ・指頭圧痕	良好	2/3	Ⅰ -3~(4)
77	13	66		E3	包含層 3	弥生土器	蓋			つまみ部 (6.3)	5mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ？ 内：ナデ？	やや不良	1/3	Ⅰ -3~(4)
77	14	67		C3	包含層 3	弥生土器	蓋			つまみ部 (7.5)	5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：灰 N 4/	外：ナデ・ヘラケズリのちナデ・ヘラミガキのちナデ 内：ナデ	良好	2/3	Ⅰ -3~(4) 内外面の一部が黒変
77	15	66		F3	包含層 3	弥生土器	甕	21.0			4mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/3 内：にぶい橙 7.5YR 7/4	外：ハケ目・ナデ 内：ヘラナデ・ナデ	良好	2/3	Ⅰ -3
77	16	66		F3	包含層 3	弥生土器	壺	(19.0)			6mm以下の砂粒を多く含む	外：橙～黄橙 2.5YR 6/8 7.5YR 8/8 内：橙～黄橙 2.5YR 6/8 7.5YR 8/8	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
77	17	67		F3	包含層 3	弥生土器	甕	41.8			5mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：2 条の沈線文・竹簡文・ハケ目 内：ナデ	良好	2/3	Ⅰ -3
78	1	67		F3	包含層 3	弥生土器	壺	(17.4)			3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8	外：ハケ目のちナデ・ヘラミガキ？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3
78	2	67		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(39.4)			4mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
78	3	67		C4	包含層 3	弥生土器	壺	(22.5)			3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8～5YR 7/8 内：橙 5YR 6/8～5YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
78	4	67		F3	包含層 3	弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ・ヘラミガキ・沈線文・ケズリ出し突帯に刻み目文 内：ヘラミガキ・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3・4
78	5	67		E3	包含層 3	弥生土器	甕底部			(5.0)	1mm以下の砂粒を少量含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：ナデ・ヘラミガキ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
78	6	68		Tr8 B4	包含層 3	弥生土器	壺			10.0	5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 橙 7.5YR 6/8 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ヘラミガキ・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
78	7	67		F3	包含層 3	弥生土器	壺・甕底部			6.0	2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・一部ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面の一部に黒変
78	8	68		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(16.2)			4mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：ハケ目・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面の一部に黒変
78	9	68		D2	包含層 3	弥生土器	広口壺？				0.5mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅲ -1 ？
78	10	68		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(22.9)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：沈線文・ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -1
78	11	68		C3	包含層 3	弥生土器	高坏				2mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 8/8 内：黄橙 7.5YR 8/8	外：ヘラミガキのちナデ 内：ナデ・ヘラケズリのちナデ	良好	1/3	Ⅳ？
78	12	68		D3	包含層 3	弥生土器	高坏				3mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：凹線文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ 内面の一部に煤痕
78	13	68		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(24.0)			4mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅲ～Ⅳ
78	14	68		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(28.3)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅳ -2
78	15	68		Tr8 B4	包含層 3	弥生土器	台付壺・甕				2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅲ
78	16	69		D3	包含層 3	弥生土器	鉢	(11.9)			2mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：橙 2.5YR 7/8	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
78	17	69		E3	包含層 3	弥生土器	甕	(13.5)			3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
78	18	69		C3	包含層 3	弥生土器	甕	(13.1)			3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：貝殻による刺突文・沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅴ -1
78	19	69		D3	包含層 3	弥生土器	甕	(13.9)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：4 条の擬凹線文・ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	Ⅴ -1 外面頸部に煤痕

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
78	20	69		E2	包含層 3	弥生土器	甕	(16.7)			2mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
78	21	69		C3	包含層 3	弥生土器	甕	(17.0)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：赤橙 10YR 6/6	外：3 条の擬凹線文・ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -1
78	22	69		E3	包含層 3	弥生土器	壺	(19.7)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	V -1
78	23	69		C4	包含層 3	弥生土器	甕	22.7			0.5mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：凹線文・ナデ？ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3 未満	V -1 ～ 2
78	24	70		D3	包含層 3	弥生土器	壺	(18.8)			3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙～オリーブ黄 7.5YR 8/6 5Y 6/4	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
78	25	69		C3 D3	包含層 3	弥生土器	壺				4mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：沈線文・ナデ 内：調整不明	良好	1/3 未満	V -1
78	26	69		B4	包含層 3	弥生土器	高坏	(18.2)			2mm以下の白色砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：にぶい黄橙 10YR 7/4	外：凹線文・ナデ 内：ヘラミガキ・ナデ	良好	1/3 未満	V -2 ～ 3
78	27	70		E3	包含層 3	弥生土器	壺・甕 底部			4.0	4mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ？	良好	1/3 未満	V？
78	28	70		D3	包含層 3	弥生土器	壺 底部			(6.6)	1mm以下の砂粒を若干含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅳ～Ⅴ？
78	29	70		D3	包含層 3	土師器	甕	(10.8)			0.5mm以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ナデ・ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	古墳前期
79	1	70		E2	包含層 4	弥生土器	甕	(19.8)			5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 黄灰 2.5Y 4/1 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：1 条の沈線文・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
79	2	70		F3	包含層 4	弥生土器	甕				2mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ・突帯文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3 ～ 4
79	3	70		F3	包含層 4	弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ・4 条の沈線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	4	70		F3	包含層 4	弥生土器	甕				3mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 6/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ・沈線文・ハケ目 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	5	71		E3	包含層 4	弥生土器	甕				3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 黒 N 1.5/ 内：黒 N 4/	外：ハケ目のちナデ・ハケ目 内：ハケ目のちナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	6	71		F3	包含層 4	弥生土器	甕				4mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 褐灰 7.5YR 4/1 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ナデ・ハケ目のちナデ・1 条の沈線文 内：ハケ目・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 外面の一部に煤痕
79	7	70		F3	包含層 4	弥生土器	甕				4mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：褐灰 10YR 6/1	外：ナデ・沈線文・刺突文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	8	70		D3	包含層 4	弥生土器	壺				2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ヘラミガキ・連孤文 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	Ⅰ -2 ～ 3
79	9	70		E2	包含層 4	弥生土器	壺				2mm以下の白色砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：沈線文・貝殻による羽状文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	10	70		F3	包含層 4	弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：2 条の刻み目突帯文・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	11	71		E2	包含層 4	弥生土器	壺				3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ヘラミガキ・沈線文・連孤文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -2 ～ 3
79	12	70		F3	包含層 4	弥生土器	壺				4mm以下の黒色、白色砂粒を含む	外：橙 5YR 7/8 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：羽状文・斜格子文・沈線文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	13	70		E3	包含層 4	弥生土器	壺				3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 7.5YR 7/6	外：ヘラによる有軸羽状文・斜格子文・沈線文 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	14	70		E3	包含層 4	弥生土器	壺				2mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 黒 7.5YR 2/1 内：灰 10Y 6/1	外：ナデ・刻み目突帯文・ヘラミガキのちナデ 内：ハケ目・ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
79	15	71		F3	包含層 4	弥生土器	壺				3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：橙 2.5YR 6/8	外：ナデ？・4 条の沈線文・ヘラミガキ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	1	72		F3	包含層 4	弥生土器	壺	(16.0)			4mm以下の白色砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：灰 N 6/	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	2	71		F3	包含層 4	弥生土器	壺				4mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 5YR 6/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	3	71		E3	包含層 4	弥生土器	壺				0.5mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：ナデ・ヘラミガキ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -2
80	4	72		F4	包含層 4	弥生土器	壺	(9.6)	16.1	6.6	3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/8 内：橙 7.5YR 6/8	外：ナデ・直線文・羽状文 内：ナデ	良好	口縁を欠く	Ⅰ -3~(4)

御堂谷遺跡 B 区出土土器観察表

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調	調整・文様	焼成	遺存	備考
80	5	71		D3	包含層 4	弥生土器	蓋				3mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 灰 5Y 5/1 淡赤橙 2.5YR 7/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ハケ目 内：ナデ	良好	1/3	Ⅰ -3~(4) ？
80	6	71		E3	包含層 4	弥生土器	蓋				5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：褐灰 7.5YR 4/1	外：ナデ 内：ナデ・ヘラケズリ	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	7	72		D3	包含層 4	弥生土器	甕	(17.2)			2mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ・1 条の沈線文・ハケ目 内：ナデ・ハケ目	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	8	71		D3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(8.1)	5mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8	外：ハケ目・ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	9	72		F3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部	6.0			5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 7/6 黒 N 1.5/ 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3	Ⅰ -3~(4) 外面が黒変
80	10	71		F3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(9.4)	3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：ハケ目・ナデ？ 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	11	72		E3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(7.6)	5mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3	
80	12	72		E3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部	9.0			4mm以下の砂粒を多く含む	外：赤橙～灰黄褐 10YR 6/8 ～ 10YR 6/3 内：赤橙～灰黄褐 10YR 6/8 ～ 10YR 6/3	外：ナデ？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	13	73		D3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(8.5)	4mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/6 内：にぶい橙 7.5YR 6/4	外：ナデ 底部：ヘラ描き文 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	14	73		D3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			6.4	3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	15	73		D3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(7.2)	3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：黄橙 7.5YR 7/8 黒 N 1.5/	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	外面の一部に赤色顔料付着
80	16	73		F3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(8.8)	3mm以下の白色砂粒を非常に多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 黒 N 2/ 内：灰黄 2.5Y 7/2	外：ヘラミガキのちナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3	
80	17	73		E3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			9.0	3mm以下の砂粒を含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：橙 2.5YR 7/8	外：ナデ 内：ヘラミガキ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4)
80	18	73		F3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(9.8)	4mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/6 内：橙 5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3	Ⅰ -3~(4)
80	19	73		D3	包含層 4	弥生土器	壺・甕底部			(8.9)	5mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：褐灰 10YR 6/1	外：ヘラケズリ 内：ナデ	良好	1/3 未満	Ⅰ -3~(4) 内面が黒変

土製品

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	調整	焼成	遺存	備考
12	12	32 33	A 区 SI01			土製品	勾玉	3.5	1.6	1.4	10.0	1mm以下の白色砂粒を多く含む	浅黄橙 7.5YR 8/4	ナデ	良好	完形	一部黒色に変化
32	24	39	A 区	A9	包含層	土製品	円板状土製品	5.6 × 4.35		厚さ 0.9		3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8	外：ナデ？研磨？ 内：調整不明	良好	1/3 未満	
32	25	39	A 区	C9	包含層	土製品	円板状土製品	5.3 × 6.0		厚さ 1.2		2mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：灰黄褐 10YR 6/2	外：一部研磨？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
32	26	39	A 区	A8	包含層	土製品	円板状土製品（土器片錘）	6.3 × 5.3		厚さ 1.0		2mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：浅黄橙 10YR 8/3 内：浅黄橙 10YR 8/3	外：ハケ目・研磨 内：ハケ目	良好	1/3 未満	
32	27	39	A 区 南側横断 Tr	C10・D10	包含層	土製品	円板状土製品	5.7 × 6.0		厚さ 0.7		3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 5YR 7/8 内：橙 5YR 7/8 褐灰 5YR 6/1	外：ナデ？・研磨？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
32	28	39	A 区	D9	包含層	土製品	円板状土製品（土器片錘）	8.9 × 6.9		厚さ 1.6		3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：淡橙 5YR 8/4 内：灰 5Y 5/1	外：ヘラミガキのちナデ 内：ヘラミガキのちナデ	良好	1/3 未満	
32	29	39	A 区	A9	包含層	土製品	円板状土製品	3.6 × 3.0		厚さ 0.9		3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 7/8 内：橙 5YR 7/6	外：ナデ？・研磨？ 内：ナデ？	良好	1/3 未満	
32	30	39	A 区	C10・D10	包含層	土製品	円板状土製品	5.7 × 3.7		厚さ 0.6		2mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：にぶい褐 7.5YR 5/3 内：にぶい橙 5YR 7/6	外：ナデ？・研磨？ 内：調整不明	良好	1/2	墨？付着
32	31	39	A 区	B9	包含層	土製品	円板状土製品（土器片錘）	5.8 × 4.1		厚さ 0.8		2mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：にぶい橙 7.5YR 7/4 灰 N 4/ 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
65	33	53	B 区 SI06			土製品	円板状土製品	(4.7 × 3.7)		0.9		2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
65	34	53	B 区 SI06			土製品	円板状土製品	(5.75 × 3.7)		0.85		4mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 8/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	

図	番号	写真	出土地点 遺構	出土地点 グリッド	層位	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎土	色調	調整	焼成	遺存	備考
65	35	53	B区 SI06			土製品	円板状土製品	(5.4 × 4.1)		0.9		2mm以下の砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/8 内：黒褐 5YR 2/1	外：調整不明 内：調整不明	良好	1/3 未満	
68	15	55	B区 P10			土製品	移動式竈					5mm以下の砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/6 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	
74	26	61	B区	E1	包含層 1	土製品	土製支脚	器高 11.5				3mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/6 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	
74	27	61	B区	C3	包含層 1	土製品	土製支脚					5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/8 内：黒褐 5YR 3/1	外：ナデ・指頭圧痕 内：ナデ	良好	1/3 未満	
74	28	61	B区	C3	包含層 1	土製品	土製支脚					12mm以下の白色砂礫を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：橙 5YR 6/8	外：ナデ・指頭圧痕 内：ナデ	良好	1/3	
75	1	62	B区	D3	包含層 1	土製品	移動式竈					5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：赤褐 5YR 4/6 内：明褐 7.5YR 5/6	外：ナデ・ハケ目 内：ナデ	良好	1/3 未満	
75	2	62	B区	Tr18-14	包含層 1	土製品	移動式竈					4mm以下の白色砂粒を多く含む	外：赤褐 5YR 4/8 内：赤褐 5YR 4/8	外：ナデ 内：ナデ	良好	1/3 未満	古代
75	3	62	B区	B3	包含層 1	土製品	移動式竈					5mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/8 内：明赤褐 5YR 5/6	外：ナデ 内：ケズリ？のちナデ	良好	1/3 未満	
75	4	62	B区	D3	包含層 1	土製品	移動式竈					5mm以下の砂粒を多く含む	外：明褐 7.5YR 5/6 内：明赤褐 5YR 5/8	外：ナデ・ハケ目 内：ヘラケズリ・ああああああああ	良好	1/3 未満	外面の一部が黒変
75	5	62	B区	B3	包含層 1	土製品	移動式竈					7mm以下の白色砂粒を多く含む	外：赤褐 5YR 4/8 内：赤褐 5YR 4/8	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	古代
75	6	62	B区	E4	包含層 1	土製品	移動式竈					7mm以下の白色砂粒を多く含む	外：明赤褐 5YR 5/8 内：明赤褐 5YR 5/8	外：ナデ 内：ヘラケズリ	良好	1/3 未満	
82	1	75	B区	D1	包含層 2	土製品	円板状土製品	4.7 × 4.5		1.1		3mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 5YR 6/8 内：明黄褐 10YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	2	75	B区	Tr10 C2	包含層 2	土製品	円板状土製品	4.55 × 4.2		0.7		3mm以下の砂粒を多く含む	外：明黄褐 10YR 7/6 内：黄橙 10YR 8/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	3	75	B区	D3	包含層 2	土製品	円板状土製品	4.85 × 4.7		1.15		3mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：橙 7.5YR 7/6	外：沈線文 内：調整不明	良好	完形	
82	4	75	B区	D3	包含層 2	土製品	紡錘車？	(5.2)		2.8		4mm以下の白色砂粒を含む	外：浅黄橙 内： 10YR 8/4	外：ナデ？ 内：	良好	完形	
82	5	75	B区	G3	包含層 2	土製品	不明	6.2 × 6.1		4.95		5mm以下の砂粒を含む	外：浅黄橙 内： 7.5YR 8/4	外：ナデ？ 内：	良好	完形	
82	6	75	B区	E3	包含層 3	土製品	円板状土製品	5.4 × 6.3		0.8		4mm以下の砂粒を含む	外：橙 7.5YR 7/6 内：褐灰 7.5YR 5/1	外：ハケ目 内：調整不明	良好	完形	
82	7	75	B区	D2	包含層 3	土製品	円板状土製品	3.2 × 3.8		0.6		1mm以下の砂粒を少量含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：調整不明 内：ハケ目	良好	完形	
82	8	75	B区	B5	包含層 1	土製品	円板状土製品	4.05 × 4.2		0.5		3mm以下の砂粒を若干含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：黄橙 10YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	9	75	B区	D3	包含層 3	土製品	円板状土製品 紡錘車	4.8 × 4.5		0.55		1mm以下の白色砂粒を少量含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/2 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキ 内：ヘラケズリ	良好	完形	
82	10	75	B区	F3	包含層 3	土製品	円板状土製品 (土器片錘)	6.65 × 5.2		0.9		3mm以下の砂粒を含む	外：黄橙 7.5YR 7/8 内：橙 7.5YR 6/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	11	75	B区	F3	包含層 3	土製品	円板状土製品	5.3 × 5.3		0.9		2mm以下の砂粒を多く含む	外：橙 7.5YR 6/6 内：橙 7.5YR 6/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	12	75	B区	B3	包含層 3	土製品	円板状土製品	5.8 × 5.4		0.8		3mm以下の砂粒を多く含む	外：黄橙 10YR 7/8 内：黄橙 10YR 7/8	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	13	75	B区	D3	包含層 3	土製品	円板状土製品	5.9 × 6.3		10.0		4mm以下の砂粒を多く含む	外：にぶい黄橙 10YR 7/4 内：橙 7.5YR 7/6	外：調整不明 内：調整不明	良好	完形	
82	14	75	B区	F3	包含層 4	土製品	円板状土製品 (土器片錘)	6.4 × 6.5		0.8		3mm以下の砂粒を多く含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/6 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：調整不明 内：ナデ？	良好	完形	
82	15	75	B区	F3	包含層 4	土製品	円板状土製品 (土器片錘)	6.4 × 6.5		0.8		2mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：橙 2.5YR 6/8 にぶい橙 7.5YR 7/4 内：にぶい橙 10YR 7/4	外：ヘラミガキのちナデ 内：ナデ？	良好	完形	
82	16	75	B区	D3	包含層	土製品	円板状土製品	5.6 × 5.2		0.8		3mm以下の石英、白色砂粒を多く含む	外：浅黄橙 10YR 8/4 内：浅黄橙 10YR 8/4	外：ヘラミガキのちナデ？ 内：ナデ？	良好	完形	
82	17	75	B区	F3	包含層	土製品	円板状土製品	5.3 × 5.2		0.9		3mm以下の砂粒を含む	外：暗灰 N 3/ 内：浅黄橙 7.5YR 8/6	外：ヘラミガキのちハケ目？ 内：ナデ？	良好	完形	外面が黒変
82	18	75	B区	D3	包含層	土製品	円板状土製品	4.9 × 4.7		0.9		3mm以下の石英、白色砂粒を含む	外：浅黄橙 7.5YR 8/4 内：浅黄橙 7.5YR 8/4	外：ハケ目のちヘラミガキのちナデ？ 内：ヘラケズリ？	良好	完形	

御堂谷遺跡出土石器観察表

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	計測値				石材	備考
			遺構	グリッド				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
9	1	33	A区 SK14			石器	石鏃	2.2	1.6	0.35	0.89	頁岩	
12	11	32	A区 SI01			石器	敲石・磨石	11.0	7.7	6.8	785.0	安山岩	剥離痕あり
16	2	32	A区 SI02-2			石器	磨石・敲石	11.8	6.6	5.1	534.0	不明	
16	3	32	A区 SI02-2			石器	磨石	14.2	9.7	4.6	901.0	不明	
20	18	40	A区 SI03			石器	石斧	残存 11.0	残存 5.0	3.7	284.0	不明	
20	19	33	A区 SI03			石器	石鏃	3.2	1.8	0.5	2.1	安山岩	
24	18	40	A区 加工段1			石器	擦石・敲石	13.7	6.8		790.0	塩基性片岩	
30	15	37	A区 加工段3			石器	石斧	残存 8.45	残存 4.8		142.0	塩基性片岩	
33	1	40	A区	A8	包含層	石器	石鏃	3.1	2.1	0.5	2.14	姫島産黒曜石	
33	2	40	A区	B8	包含層	石器	楔形石器	2.4	1.8	1.0	4.0	黒曜石	
33	3	40	A区	A8	包含層	石器	楔形石器	2.9	2.4	0.7	3.8	瑪瑙玉髄	
33	4	40	A区		包含層	石器	二次加工のある剥片	3.2	2.2	0.6	3.84	安山岩？	
33	5	40	A区		包含層	石器	石核	3.9	3.4	1.6	18.0	黒曜石	
33	6	40	A区		包含層	石器	剥片	3.1	2.2	1.0	6.16	黒曜石	
33	7	40	A区南側 横断Tr		包含層	石器	剥片	4.1	3.2	0.8	8.96	玉髄	
34	1	40	A区	A8	包含層	石器	磨製石斧	残存 11.6	5.5	4.5	残存 492.0	塩基性片岩	
34	2	40	A区	B9	包含層	石器	磨製石斧	残存 7.9	6.1	3.2	254.0	塩基性片岩	
34	3	40	A区		包含層	石器	敲石・磨石	17.5	6.2	5.6	878.0	安山岩	
34	4	40	A区	B9	包含層	石器	敲石・磨石	11.9	8.6	4.6	687.0	砂岩	
34	5	40	A区	Y8	包含層	石器	石皿？・磨石？	17.6	15.8	4.8	1956	砂岩	
34	6	40	A区	Y9	包含層	石器	磨石	残存 13.3	残存 8.8	4.5	残存 5.6.0	砂岩	石皿を磨石に転用？
34	7	41	A区	A8	包含層	石器	剥片	4.95	3.95	0.45	13.0	安山岩？	二次加工のある剥片
34	8	41	A区	B9	包含層	石器	打製石斧	7.1	5.5	14.5	66.0	安山岩？	磨製石斧の二次加工
34	9	41	A区		包含層	石器	剥片	6.7	5.9	2.3	68.0	緑色凝灰岩	
34	10	41	A区		包含層	石器	石包丁	残存 9.2	7.5	0.8	75.0	頁岩	二次加工したものか？
45	25	42	B区 SI01-1	D4		石器	敲石・擦石	残存 9.2	9.9	5.5	608.0	不明	
50	29	50	B区 SI01-2 SD01			石器	砥石	11.35	3.2		75.0 g	珪化木	
66	1	53	B区 SI01-2	C3		石器	石鏃	残存 2.35	1.2	0.4	0.75	黒曜石	
66	2	53	B区 SI01-2	C3		石器	石鏃	残存 1.8	1.3	3.5	0.43	黒曜石	
66	3	53	B区 SI01-2	C3		石器	石鏃	残存 2.5	1.7	0.6	1.54	黒曜石	
66	4	53	B区 SI06			石器	石鏃	残存 2.2	1.7	0.6	1.37	玉髄	
66	5	53	B区 SI06			石器	剥片	残存 3.6	1.9	0.8	4.79	玉髄	
66	6	53	B区 SI01-2	C3		石器	石錐	残存 2.4	1.5	0.45	0.96	玉髄	
66	7	53	B区 SI06			石器	石包丁	残存 4.7	1.5	0.3	2.46	頁岩	
66	8	54	B区 SD01			石器	剥片	最大長 9.1	4.25	2.3	80.0	黒曜石	
66	9	54	B区 SI04			石器	石核	6.7	7.8	5.7	284.0	玉髄	
66	10	54	B区 SD02		底面	石器	敲石・磨石	14.2	10.7	4.55	994.0	流紋岩	
66	11	54	B区 SD02		底面	石器	石皿	残存 9.4	残存 8.4	4.4	424.0	砂岩	

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	計測値				石材	備考
			遺構	グリッド				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
67	1	54	B区 SI06	D3		石器	敲石・磨石	4.5	3.9	3.0	61.0	安山岩	
67	2	54	B区 SI06- 炉			石器	敲石・磨石	7.0	4.9	2.8	128.0	砂岩	
67	3	54	B区 SI06			石器	磨石	10.8	9.8	6.7	871.0	流紋岩	
67	4	54	B区 SI06			石器	敲石・磨石	11.8	4.8	4.2	384.0	安山岩	
68	2	53	A区 P95			石器	石鏃	残存 1.2	1.1	0.2	0.24	安山岩？	
81	1	75	B区	D3	包含層3	石器	石鏃	2.2	1.6	0.4	0.95	黒曜石	
81	2	75	B区	D2 E2	包含層3	石器	石鏃	2.3	残存 1.9	0.5	1.44	黒曜石	
81	3	75	B区	D2	包含層4	石器	石錐	残存 3.9	1.15	0.5	2.55	安山岩	
81	4	74	B区	F3	包含層2	石器	石包丁・石鎌	3.3	3.3	0.95	14.69	頁岩	
81	5	74	B区	E3	包含層3	石器	石包丁	残存 14.0	5.8	0.4	65.78	頁岩	
81	6	74	B区	E3	包含層3	石器	石包丁？	残存 8.4	3.2	3.0	13.12	頁岩	
81	7	74	B区	B4	包含層2	石器	石包丁	残存 6.4	残存 4.6	0.6	15.91	珪化木	
81	8	74	B区	D3	包含層3	石器	石包丁	残存 12.4	残存 6.0	1.1	76.15	珪化木	
81	9	74	B区	D3	包含層3	石器	石核	5.6	4.3	3.8	132.0	安山岩	
81	10	74	B区	C3	包含層3	石器	敲石・磨石	10.5	8.7	5.4	634.0	安山岩	
81	11	74	B区	E3	包含層3	石器	石皿	残存 6.6	残存 11.5	26.5	261.0	砂岩	
81	12	74	B区	C3	包含層3	石器	多孔石？	残存 10.7	残存 6.6	残存 2.6	180.0	砂岩	
81	13	74	B区	C3	包含層3	石器	磨製石斧	残存 10.6	5.2	4.0	347.0	塩基性片岩	
81	14	74	B区	C3	包含層3	石器	円板状石器	3.35	3.35	0.9	8.17	軽石	

ガラス製品

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	計測値				備考
			遺構	グリッド				長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	
65	36	51	B区 SI06			ガラス製品	ガラス小玉	0.6	0.7	0.25	0.3	

鉄器

図	番号	写真	出土地点		層位	種別	器種	計測値			備考
			遺構	グリッド				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	
69	1	55	B区 SI01-1			鉄器	刀子状鉄器	残存 6.0	10.0	0.6	
69	2	55	B区 SD02			鉄器	刀子状鉄器	残存 6.9	刃幅 1.9	0.4	
69	3	55	B区	D1	包含層1	鉄器	釘	残存 9.4	1.1	0.9	
69	4	55	B区 SI01-1			鉄器	ヤリガンナ	残存 2.8	0.6	0.4	
69	5	55	B区	E1	包含層2	鉄器	鉄環	3.3	3.0	0.4	
69	6	55	B区 SI01-1 壁際溝			鉄器	刀子状鉄器	残存 3.3	1.8	0.3	
69	7	55	B区	C2	包含層1	鉄器	不明	8.9	6.5	0.6	
69	8	55	B区	B3	包含層1	鉄器	釘	残存 3.6	頭幅 1.9	0.5	明治以降
69	9	55	B区	F2	包含層1	鉄器	釘	残存 5.7	0.7	0.7	不明鉄製品が付着する
69	10	55	B区	E1	包含層1	鉄器	釘	5.3	0.7	0.5	
69	11	55	B区	D2	包含層1	鉄器	釘	残存 2.9	0.9	0.9	
69	12	55	B区	D2	包含層1	鉄器	釘	4.6	0.8	0.7	
69	13	55	B区	D1	表土中	鉄器	釘	残存 2.1	1.1 頭幅残存 (2.5)	0.5	
69	14	55	B区	D1	包含層1	鉄器	釘	残存 2.1	0.7 頭幅残存 (2.0)	0.8	
69	15	55	B区	E3	包含層1	鉄器	釘	残存 3.9	0.9	0.7	
69	16	55	B区	B2 B4	包含層2	鉄器	釘	残存 2.3	0.7	0.5	
69	17	55	B区	E2	包含層1	鉄器	不明	3.6	1.2		中央に孔が貫通する？

第 5 表　御堂谷遺跡　出土石器計測表

A 区

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
1	SI01		263	245	89	8,950		
2	SI01		297	265	126	11,400		
3	SI01	埋土	24	19	17	11	自然礫（川原石）	
4	SI02		314	218	151	9,100		
5	SI03		11	8	2	0.17	碧玉チップ	
6	SI03		31	23	10	5.69		
7	SI03		23	20	9	3.53		
8	SI03		26	17	13	4.82		
9	P2SI06	埋土	63	48	49	160		
10	P2SI06	埋土	25	21	19	12		
11	SK11	埋土	37	14	11	5	剥片	黒曜石
12	D9		146	55	19	144	打製石斧未成品	
13	A9	上層	158	61	50	482	石斧未成品	
14	Z6	1	143	62	19	268	磨製石斧	
15	D9		108	61	55	430	磨製石斧	
16	B9		117	46	38	266	磨製石斧未成品	
17	Y9	3	76	55	25	93	石皿	
18	A8	最下層 17	147	97	89	1,650	石皿	
19	C3	2	87	97	56	510	磨石	
20	Z7（TR2 12 層）	3	95	91	48	570	磨石	
21	C9		132	100	79	910	線刻礫 石の目をなぞる	
22	Y8	1	13	9	6	0.48	石鏃未成品(先端部の欠損品？)	
23	調査区南側		26	18	9	2.97	錐？	黒曜石
24	A8		47	31	28	32 7	残核	
25	Y6	1	43	34	11	15	剥片	黒曜石
26	Y7	1	48	16	6	3	剥片	サヌカイト
27	南側	1	37	11	7	1.45	RF	
28	南側斜面 1	1	26	10	4	0.95	RF	
29	Z9	2	80	55	28	212		
30	Y7	3	30	26	19	10	剥片（礫面残る）	
31	Y7	3	52	23	16	6	剥片	
32	A8	最下層 17	34	29	28	33		
33	A8	最下層 17	25	18	11	5	剥片	黒曜石
34	A8	最下層 17	26	16	7	2	剥片	黒曜石
35	A8	最下層 17	35	13	6	2	剥片	
36	A8		30	16	8	3	剥片	黒曜石
37	A8		21	7	8	1	剥片	
38	A8		46	44	15	41		
39	A9		72	53	24	154		
40	A9		67	31	18	54		
41	B8		106	40	37	250		
42	B9		24	16	6	1.73	UF	黒曜石
43	B9		12	10	4.5	0.62	チップ	黒曜石
44	南側斜面 B9		22	13	2	0.75	チップ	黒曜石
45	B9		22	13	3	1	剥片	黒曜石
46	B9		33	20	12	6	剥片	黒曜石
47	B9		16	8	3	0.36	剥片	黒曜石
48	C9		24	15	12.3	1.74	剥片	黒曜石
49	C9		21	14	10	1.96	剥片	メノウ
50	C9		20	14	6	1.33	剥片	メノウ
51	南 D9		20	10	1.5	0.28	剥片	黒曜石
52	南 D9		44	35	21	46		
53	南 D9		84	70	53	332		
54	南 D9		51	48	45	170		
55	南 D9		52	37	26	65		
56	Z8		26	17	6	2	剥片	黒曜石
57	北		13	11	2	0.41	RF	黒曜石
58	北		21	16	5	2	RF	
59	南側横断トレンチ		11	7	3	0.19	剥片	黒曜石
60	南側横断トレンチ		21	14	3.9	1.11	剥片	黒曜石

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
61	南斜面		14	13	3.6	0.43	剥片	黒曜石
62	南側横断 TR		16	13	2	0.39	チップ	黒曜石
63	南斜面		17	11	6	0.83	剥片	碧玉
64	南 B9		93	51	32	220	自然礫	河原石
65	南 A8		50	45	36	98	自然礫	河原石
66	南 A8		40	27	21	33	自然礫	河原石
67	Y7	3	47	37	33	68	自然礫	河原石
68	Y8	3	94	80	24	298	自然礫	河原石
69	Y8	3	63	48	17	64	自然礫	河原石
70	南側横断トレンチ		105	46	61	338	自然礫	河原石
71	南		95	52	43	202	自然礫	河原石
72	南		45	42	12	34	自然礫	河原石
73	南		101	43	23	160	自然礫	河原石
74	南		59	50	18	60	自然礫	河原石

B 区

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
75	SD01		61	38	17	45	片	硅化木
76	SD01		29	18	4	2.67	RF	
77	SD01 ～ SI01-2	2	77	23	12	21	片	硅化木
78	C3	サブトレ埋土	12	12	4	0.65		
79	SD02		82	81	57	69		軽石
80	SD02	底面	69	47	30	20		軽石
81	SD02	底面	81	50	33	54		軽石
82	SD02	底面	117	96	50	218		軽石
83	SD02	底面	97	53	48	79		軽石
84	SI01-1		28	13	4	1.91	剥片	黒曜石
85	SI01-1		16	10	3	0.49	剥片	黒曜石
86	SI01-1		15	12	3	0.81	RF	黒曜石
87	C3 SI01-1		16	12	11	1.88		
88	D4 SI01-1		22	22	6	1.41	RF	玉髄
89	D4 SI01-1		27	15	13	3.63	残核？	玉髄
90	D4 SI01-1		12	11	3	0.33	チップ	黒曜石
91	D4 SI01-1		11	7	2	0 7	チップ	黒曜石
92	D4 SI01-1		9	7	2	0.12	チップ	黒曜石
93	D4 SI01-1		32	26	10	6.33	剥片	黒曜石
94	D4 SI01-1		16	14	4	0.84	剥片	黒曜石
95	D4 SI01-1		17	11	2	0.29	剥片	黒曜石
96	D4 SI01-1	2	123	119	45	575	磨石	
97	SI01-1	床土中	22	12	6	1.11	剥片	玉髄
98	SI01-1	床土中	16	8	3	0.25	剥片	玉髄
99	SI01-1 東西セクション	2	25	22	10	3.79		玉髄（メノウ）
100	SI01-1		24	20	9	4	剥片	メノウ
101	SD02~ SI01-1 間 SI01-1 周提溝？	2	27	21	2	1.15		
102	SD02~ SI01-1 間 SI01-1 周提溝？	2	13	12	2	0.24		
103	B3SD02	2	54	10	15	20	片	硅化木
104	B3 SI01-2		27	24	10	7	剥片	メノウ
105	B3 SI01-2		23	11	8	2	剥片	メノウ
106	B3 SD01 ～ SD02		32	16	11	4.26		
107	SI01-2	2	27	13	8	1.88	剥片	黒曜石
108	SI01-2	2	15	11	2	0.37	剥片	黒曜石
109	SI01-2	2	50	51	42	94.41	石核	玉髄
110	SI01-2	2	33	25	12	6.54	剥片	玉髄
111	SI01-2	2	18	10	8	0.95	チップ	黒曜石
112	SI01-2	2	12	9	6	0.56	チップ	黒曜石
113	SI01-2	2	22	12	3	0.83		
114	SI01-2 西	2	27	16	7	1.92	RF	黒曜石
115	C3 SI01-2	2	14	8	2	0.21	チップ	黒曜石
116	C3 SI01-2	2	13	8	3	0.30	チップ	黒曜石
117	C3 SI01-2	2	9	8	1	1.15	チップ	黒曜石
118	C3 SI01-2	2	10	7	2	0 9	チップ	黒曜石

御堂谷遺跡　出土石器計測表

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
119	C3 SI01-2	2	31	16	8	2.97	UF	
120	SI01-2		80	26	14	36	片	硅化木
121	SI01-2		59	17	11	11	片	硅化木
122	SI01-2		43	47	24	31	片	硅化木
123	SI01-2		66	68	43	118	石核	玉髄？
124	SI01-2		24	9	6	1.78	剥片	石英
125	SI01-2	底面精査	25	18	3	1.25	剥片	サヌカイト
126	SI06 周堤溝		22	18	6	1.31	UF	
127	SI06 周堤溝付近	3	15	13	2	0.33	UF	
128	SI06 Pit1	埋土	16	8	2	0.22	チップ	
129	SI06	埋土	23	18	9	2.23	剥片	玉髄
130	SI06	埋土	14	11	4	0.36	剥片	
131	SI06	埋土	11	10	1	0.18	剥片	
132	SI06	埋土	12	11	4	0.50	剥片	
133	SI06	埋土	13	10	4	0.47	剥片	
134	SI06	埋土	21	10	3	0.45	剥片	
135	SI06	埋土	35	22	15	7.90		
136	SI06	埋土	32	18	11	5.73		
137	SI06	埋土	22	17	5	1.38		
138	D3 SI06	埋土口	8	7	2	0.14	チップ剥片	
139	D3 SI06	埋土口	21	10	5	0.66	チップ剥片	
140	SI06		29	17	11	1.85	剥片	
141	SI06		26	16	4	1.14	剥片	
142	SI06		19	13	5	0.86	剥片	
143	SI06		13	11	7	0.60	剥片	
144	SI06		16	12	2	0.28	剥片	
145	SI06	ベルト	36	32	18	29 8	円礫	
146	SI06	ベルト	24	24	13	7.97	自然礫	安山岩？
147	SK01	埋土	13	12	1	0.22		
148	SD08SI02 西側	埋土	18	16	4	1 1		
149	P1	埋土	49	43	16	37	磨石	
150	P2	埋土	28	17	12	5.26	UF	
151	P196	埋土	35	22	9	4.23		
152	B4	2	90	50	11	74	磨製石斧（欠損品を刃部に転用か）	
153	D3	3	108	49	46	218	磨製石斧	
154	D2	表採	93	54	32	236	磨製石斧	
155	C2	1	122	94	68	935	磨石・叩石	
156	D1	1	94	82	39	438	磨石・叩石	
157	E2	1	93	73	43	378	磨石・叩石	
158	E4（TR18-13）	1	88	59	68	496	磨石か呪術系か（全面ミガキ状痕跡）	
159	C3	2	10	9	2	0.16	石鏃	黒曜石
160	E3	3	17	15	2	0.57	石鏃	サヌカイト
161	C3		21	8	6	1 6	楔形石器？	黒曜石
162	D3	3	38	26	15	11.96	楔形石器	黒曜石
163	D3	4	20	16	5	1.89	楔形石器？	黒曜石
164	E3	3	31	19	9	5.48	楔？	黒曜石
165	E3	3	28	22	10	5.45	楔？	黒曜石
166	E3	3	27	17	10	2.72	楔？	黒曜石
167	F3	3	29	19	13	4.62	楔形石器？	黒曜石
168	E2	1	40	32	9	8.38	錐？	黒曜石
169	D2	3	26	7	2	0.23	ドリル？	黒曜石
170	E3	3	52	51	32	78	石核	メノウ玉髄
171	F3	3	47	29	21	29.18	石核？	玉髄（メノウ）
172	C3	2	26	20	18	9.12	残核？	黒曜石
173	C3	3	56	43	16	29	残核か？	
174	C3	暗茶褐色土	28	24	16	9.53	残核？	黒曜石
175	D1	1	24	15	11	3.56	残核？	黒曜石
176	D3	3	32	21	22	11.21	残核	黒曜石
177	D3	2	33	22	12	6 4	残核	黒曜石
178	D3	3	27	20	15	7.25	残核	黒曜石
179	E3	3	23	16	12	4.45	残核？	黒曜石
180	E3	2（包３上）	34	22	14	9.72	残核	黒曜石
181	廃土中		21	22	8	3.33	残核？	黒曜石
182	C2	表土中	27	13	7	2	剥片またはチップ	

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
183	D4	表土中	18	16	3.6	0.89	剥片	黒曜石
184		表土中	25	16	5.1	1.38	剥片	黒曜石
185	B4	1	31	11	6.2	1.33	チップ	黒曜石
186	C0	1	14	10	3	0.23	チップ	黒曜石
187	C4	1	20	12	9.4	1.41	剥片	黒曜石
188	D1	1	91	82	52	530		
189	D2	1	18	14	14	2.79	剥片	メノウ
190	E1	1	22	14	5	1.30	RF	黒曜石
191	B3	2	15	10	6	0.95	剥片またはチップ	黒曜石
192	B4	2	23	12	5	1	剥片 UF（微細剥離）	黒曜石
193	B4	2	27	18	7	3	剥片 UF（微細剥離）	黒曜石
194	C1	2	19	13	5	0.51	剥片またはチップ	
195	C3	2	16	14	2.5	0.46	UF	黒曜石
196	C3	2	18	13	2.3	0.44	UF	黒曜石
197	C3	2	22	12	4	0.77	RF	黒曜石
198	C3	2	21	15	4	0.76		黒曜石
199	C3	2	11	7	3.2	0.17	チップ	黒曜石
200	C3	2	15	10	5.5	0.64	チップ	黒曜石
201	C3	2	9	14	3.8	0.39	チップ	黒曜石
202	C3	2	37	26	18	18	剥片	碧玉か？
203	C3	2	52	29	18	27	剥片？	メノウ
204	C3	2	27	10	8	1.55	剥片	メノウ
205	C4	2	19	10	1.1	0.24	剥片	黒曜石
206	D3	2	27	13	5	1.56	RF	黒曜石
207	D3	2	12	12	4.5	0.53	剥片	黒曜石
208	D3	2	20	18	11	３９	剥片	メノウ
209	E2	2	15	7	3	0.28	チップ	黒曜石
210	E2	2	21	12	10	1.59	剥片	メノウ
211	E3	2	18	5	2.9	0.78	UF	黒曜石
212	E3	2	64	23	25	24	剥片？	メノウ
213	F3 横断トレンチ	2	28	10	10.5	2.62	剥片	黒曜石
214	調査区西端	２黒褐色土	19	15	6	1.59	RF	黒曜石
215	F3	2-1	26	11	6	1	剥片またはチップ	
216	E3	2（包３上）	28	15	8	2.92	RF	黒曜石
217	E3	2（包３上）	30	10	3.2	0.92	剥片	黒曜石
218	C3	3	27	14	10.5	3.18	剥片	黒曜石
219	C3	3	6	6	0.7	０２	チップ	黒曜石
220	C3	3	15	10	1.2	0.16	チップ	黒曜石
221	C3	3	49	33	11	14	剥片 UF（微細剥離）	
222	D2	3	30	23	9	6.85	UF	黒曜石
223	D2	3	21	10	2.1	0.34	剥片	黒曜石
224	D2	3	23	16	13	3.46	剥片	メノウ
225	D2	3	16	15	7.6	2	剥片	メノウ玉髄
226	D3	3	19	18	6	1.95	UF	黒曜石
227	D3	3	29	12	8	1.86	RF	黒曜石
228	D3	3	21	17	6	1.88	RF	黒曜石
229	D3	3	21	15	4	1.11	RF	黒曜石
230	D3	3	19	11	2.3	0.45	剥片	黒曜石
231	D3	3	15	11	2.5	0.39	剥片	黒曜石
232	D3	3	45	26	15.5	5.77	剥片	黒曜石
233	D3	3	21	12	3.7	0.73	剥片	黒曜石
234	D3	3	29	22	5.8	4.14	剥片	黒曜石
235	D3	3	27	27	17.6	10.17	剥片	黒曜石
236	D3	3	21	18	5.8	1.76	剥片	黒曜石
237	D3	3	17	13	2	0.41	剥片	黒曜石
238	D3	3	16	11	2.3	0.37	剥片	黒曜石
239	D3	3	29	20	12.4	４２	剥片	黒曜石
240	D3	3	25	11	8.9	0.90	剥片	黒曜石
241	D3	3	19	12	5.9	1.31	剥片	黒曜石
242	D3	3	9	28	6	0.55	剥片	黒曜石
243	D3	3	18	7	3.6	0.35	剥片	黒曜石
244	D3	3	13	9	3.1	0.25	剥片	黒曜石
245	D3	3	9	7	6	0.64	チップ	黒曜石
246	D3	3	14	3	3.7	0.10	チップ	黒曜石

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
247	D3	3	22	14	4	0.72	剥片	メノウ
248	D3	3	33	25	15	9.76	剥片	メノウ
249	D3	3	25	22	15	5.39	剥片	メノウ
250	D3	3	24	13	13	3.77	剥片	メノウ
251	D3	3	19	173	6	1.47	剥片	メノウ
252	D3	3	101	75	56	290		安山岩原石
253	D3	3	19	9	3	0.52	剥片 UF（微細剥離）	
254	D3	3	40	29	7	8	剥片 RF	
255	E3	3	39	32	11	9.94	RF	黒曜石
256	E3	3	20	16	5	0.87	RF	黒曜石
257	E3	3	19	15	4.3	0.88	UF	黒曜石
258	E3	3	23	20	10.5	2.52	剥片	黒曜石
259	E3	3	26	19	18.1	4.99	剥片	黒曜石
260	E3	3	18	12	8.6	0.95	チップ	黒曜石
261	E3	3	14	11	4.5	0.62	チップ	黒曜石
262	E3	3	17	15	2	0.54	剥片	サヌカイト
263	E3	3	32	25	8	9.55	剥片	メノウ
264	E3	3	16	13	7	1.86	剥片	メノウ
265	E3	3	15	14	5	0.66	剥片	メノウ
266	F3	3	35	32	11	7.28	UF	黒曜石
267	F3	3	28	20	16	7	剥片またはチップ	
268	D3	4	41	22	12.2	5.98	剥片	黒曜石
269	D3	4	42	22	8.8	4.90	剥片	黒曜石
270	D3	4	30	28	14	10		黒曜石
271	F3	4	17	12	5.7	0.66	剥片	黒曜石
272	F3	4	35	20	16	5.98	剥片	メノウ
273	F3	4	20	12	8	1.62	剥片	メノウ
274	F3	4	34	19	6	2	剥片またはチップ	黒曜石
275	C3	暗茶褐色土	32	25	9	5.83	RF	黒曜石
276	C3・D3		24	18	7	1.73	UF	黒曜石
277	C3・D3		22	17	3	1.13	RF	黒曜石
278	C3・D3		12	10	3.7	0.38	チップ	黒曜石
279	D2		23	13	3	0.72	RF	黒曜石
280	E4（TR18-13）		37	23	4	4	剥片（加工あり）	
281	C2		17	12	7	1.18	RF	黒曜石
282	廃土中		31	15	7	3.15	RF	黒曜石
283	B3	1	33	24	7	8	円礫	
284	D1	1	93	70	57	474	円礫	
285	E4	1	66	59	33	85	円礫	
286	B3	2	95	73	66	555	円礫	
287	D1	2	114	82	42	575	円礫	
288	D1	2	41	50	32	68	円礫	
289	D1	2	59	46	17	69	円礫	
290	E3	2	42	35	18	44	円礫	
291	F3	2	68	60	26	136	円礫	
292	C3	3	46	36	30	66	円礫	
293	C3	3	51	39	23	70	円礫	
294	C3	3	77	76	43	326	円礫	
295	C3	3	118	47	32	160	円礫	
296	C3	3	60	58	32	140	円礫	
297	C3	3	48	42	32	91	円礫	
298	C3	3	79	55	35	244	円礫	
299	C3	3	54	43	16	51	円礫	
300	C3	3	48	43	37	106	円礫	
301	D2	3	39	36	25	50	円礫	
302	D3	3	96	56	42	342	円礫	
303	D3	3	92	64	24	222	円礫	
304	D3	3	56	40	32	106	円礫	
305	D3	3	40	35	32	54	円礫	
306	D3	3	34	25	20	23	円礫	
307	D3	3	44	33	30	59	円礫	
308	E3	3	42	33	27	60	円礫	
309	E3	3	38	22	14	14	円礫	
310	E3	3	84	42	25	136	円礫	

番号	出土地点	土層	縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	器種など	石材
311	F3	3	42	46	31	62	円礫	
312	F3	4	76	73	38	272	円礫	
313	C2		104	51	27	192	円礫	
314	D3 トレンチ 10		198	137	50	2,090	円礫	
315	E3	3	55	47	27	78	不明石器	

第６表　御堂谷遺跡　出土焼土塊計測表

A 区 SI01 焼土塊

縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	備考
50	47	35	40	
40	38	32	25	
47	28	26	23	
35	30	27	18	
36	30	28	19	
28	28	26	11	
34	28	17	12	
27	22	19	8	
66	49	47	97	
53	49	29	46	
43	40	26	31	
47	46	32	46	
47	40	34	40	
49	28	29	24	
46	31	21	21	
39	31	32	22	
34	25	17	10	
計	17 点		493 g	

A 区焼土塊

縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	備考
46	32	28	32	3 層
46	48	43	75	包含層
48	43	30	47	包含層
34	26	18	12	包含層
26	18	17	6	包含層
156	97	63	550	トレンチ 3 炉壁？
73	52	36	88	トレンチ 3 炉壁？
54	34	33	38	トレンチ 3 炉壁？
31	24	21	12	トレンチ 1
50	34	22	28	包含層
44	40	27	30	上層
計	11 点		918 g	

B 区 SI06 焼土塊

縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	備考
27	26	18	9	南北畔
36	31	21	15	南北畔
52	34	25	28	
48	31	26	32	埋土
35	25	21	11	埋土
55	47	29	46	
43	41	17	21	埋土中
40	32	23	18	埋土中
31	26	20	12	埋土中
27	23	16	6	埋土中
27	22	16	5	埋土中
25	20	16	5	埋土中
24	15	15	4	埋土中
16	15	11	2	埋土中
24	19	13	4	埋土中
16	14	12	1	埋土中
22	19	19	5	
31	25	25	8	
30	22	20	13	
43	23	21	14	
32	25	24	14	
28	24	14	8	
37	22	20	12	
26	15	8	4	
30	19	16	9	
27	24	8	5	
28	26	12	7	
26	22	9	6	
27	22	20	8	
20	21	11	3	
25	22	9	4	
29	23	14	8	
35	14	9	5	
32	17	16	6	
24	17	13	4	
27	20	15	6	
26	23	14	6	
30	20	18	8	
22	20	18	7	
28	22	16	6	
25	22	9	5	
26	18	9	3	
24	20	8	3	
25	20	16	5	
24	21	12	4	
24	18	18	6	
23	19	13	6	
24	17	13	4	
22	20	11	4	
21	20	18	6	
21	20	12	4	

B 区 SI06 焼土塊

縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	備考
29	23	8	4	
24	18	7	3	
20	15	16	7	
25	20	8	4	
22	19	13	7	
22	18	12	4	
21	18	8	3	
24	20	6	3	
22	19	12	4	
23	16	15	3	
26	21	13	8	
20	18	15	3	
21	11	10	2	
21	17	6	2	
18	17	16	4	
19	16	5	1	
23	16	11	3	
20	14	11	2	
24	16	13	4	
21	11	4	1	
19	18	9	3	
21	17	15	4	
18	13	14	4	
21	18	12	4	
18	12	6	1	
19	17	14	4	
15	13	11	2	
19	15	14	3	
20	16	8	2	
19	15	15	3	
26	13	11	4	
14	13	12	1	
20	19	6	3	
21	15	15	3	
18	15	11	2	
17	16	12	2	
20	13	11	2	
20	16	13	3	
20	16	12	3	
19	11	10	1	
17	15	8	2	
18	15	11	3	
20	14	11	2	
20	15	13	4	
17	14	8	2	
16	15	11	2	
17	15	11	2	
21	15	7	2	
18	17	11	3	
22	13	13	3	
25	17	15	5	

B 区 SI06 焼土塊

縦（mm）	横（mm）	高（mm）	重量（g）	備考
18	16	11	4	
17	16	11	3	
20	15	13	2	
22	16	12	3	
20	14	11	2	
17	13	11	3	
16	13	14	3	
21	15	14	3	
16	12	13	2	
15	13	8	1	
18	12	9	2	
20	16	11	3	
16	14	9	2	
17	12	13	2	
19	11	8	2	
14	11	7	1	
16	15	11	2	
18	13	8	2	
17	15	9	2	
17	14	11	3	
18	16	11	2	
23	15	11	3	
17	90	9	1	
17	13	13	2	
19	11	11	2	
18	13	11	2	
19	15	7	2	
21	8	8	1	
17	14	15	3	
18	13	11	2	
17	13	10	2	
26	14	5	1	
19	15	4	1	
21	13	7	2	
22	10	9	2	
21	10	6	1	
17	16	7	2	
19	15	5	2	
17	13	11	2	
20	15	8	2	
20	14	7	2	
21	11	10	2	
17	13	8	2	
20	10	10	2	
18	17	12	3	
17	16	11	3	
20	13	10	3	
17	12	11	2	
18	14	8	2	
15	12	9	1	
15	16	8	2	

B 区 SI06 焼土塊

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
16	15	8	2	
16	13	10	2	
13	12	10	1	
18	13	10	2	
18	13	11	2	
16	12	11	2	
14	10	11	2	
16	11	9	1	
15	13	10	2	
15	12	8	1	
14	13	9	2	
17	11	11	1	
12	11	10	1	
13	10	11	1	
15	10	8	1	
17	12	11	1	
20	13	10	2	
16	12	10	2	
17	12	11	2	
18	11	8	1	
18	14	12	2	
21	21	10	4	
18	15	10	2	
13	14	11	2	
18	12	8	2	
16	12	9	2	
16	12	12	2	
19	15	4	1	
18	10	10	1	
16	11	10	1	
21	13	6	1	
17	11	9	2	
15	13	10	1	
16	12	9	1	
13	13	8	1	
16	13	8	1	
16	12	10	2	
15	14	11	1	
16	13	8	1	
18	16	13	2	
16	15	13	2	
17	14	11	2	
16	12	9	1	
14	13	11	2	
14	13	9	1	
15	12	11	1	
	199 点		781 g	
1 g 未満	180 点		103 g	
計	379 点		884 g	

B 区焼土塊 C1 包含層 1
（しみこみ範囲内）

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
70	32	36	45	
63	53	37	67	
60	45	32	54	
97	68	44	164	
51	36	39	42	
50	41	33	47	
53	39	37	48	
55	44	28	41	
50	35	26	27	
41	44	33	30	
40	39	27	23	
59	47	32	43	
40	45	31	27	
41	40	23	22	
42	37	30	33	
41	40	24	24	
50	36	23	21	
48	42	24	31	
43	28	26	22	
18	16	12	2	
32	35	23	15	
42	34	17	15	
34	26	21	13	
38	32	27	19	
43	26	25	15	
34	32	15	12	
35	22	22	10	
31	19	17	8	
44	35	26	23	
40	25	18	13	
41	28	23	17	
27	22	20	8	
37	27	17	14	
34	24	22	13	
48	25	27	18	
26	21	11	4	
40	25	21	11	
31	20	25	6	
20	13	90	2	
31	20	11	4	
31	18	15	3	
23	11	11	2	
26	18	17	6	
16	13	12	2	
17	16	9	20	
14	11	8	1	
11	90	7	0	
15	11	7	1	
16	15	8	2	

B 区焼土塊 C1 包含層 1
（しみこみ範囲内）

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
11	11	8	0	
17	14	10	2	
13	12	10	1	
17	16	17	3	
20	16	11	2	
26	15	15	4	
28	18	10	4	
21	20	19	6	
21	18	17	4	
26	21	14	6	
29	25	16	7	
24	24	20	7	
25	25	22	10	
計	62 点		1,116 g	

B 区 SD02 焼土塊

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
42	30	27	22	埋土
45	41	22	26	
46	37	31	33	
54	41	36	42	
41	43	25	37	
65	62	18	43	
45	43	9	11	
81	59	23	51	
57	46	17	21	
54	45	34	42	底面
59	52	37	70	
79	54	48	114	
58	48	17	33	
46	32	21	11	
26	16	11	2	
39	27	18	7	
32	21	17	4	
22	12	10	1	
8	10	80	-	
9	8	4	-	底面
77	69	74	238	
45	41	31	35	
59	42	37	54	
53	47	24	29	
111	59	30	114	
計	25 点		1,040 g	

B 区焼土塊包含層 2

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
50	43	25	47	
66	70	48	144	
42	36	25	24	
42	26	23	20	
42	33	20	17	
計	5 点		252 g	

B 区焼土塊包含層 3

縦 (mm)	横 (mm)	高 (mm)	重量 (g)	備考
96	90	58	314	
51	45	33	56	
76	64	46	116	
54	30	23	33	
47	35	19	26	
40	29	25	18	
34	30	21	14	
30	23	14	7	
34	20	25	22	
63	42	33	58	
32	26	25	17	
38	28	29	12	
32	22	14	7	
23	22	16	6	
53	40	24	36	
40	36	14	21	
37	32	23	19	
55	45	33	52	
56	40	36	59	
39	21	19	13	
45	36	20	25	
38	26	18	15	
32	31	24	18	
60	53	28	67	
50	46	22	29	
計	25 点		1,060 g	

第７表　御堂谷遺跡　包含層出土遺物点数

A 区包含層　出土土器（弥生土器）

甕　口縁部							壺　口縁部		甕または壺口縁部		甕底部		壺底部	甕または壺　底部		
Ⅰ-3~(4)	Ⅳ, Ⅴ-1,2	Ⅴ, Ⅴ-1	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-3	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅳ~Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ-3~(4)	Ⅴ-3	Ⅳ~Ⅴ
104	9	13	17	8	9	4	84	2	4	4	227	4	53	162	1	1

高坏			器台			蓋		注口	脚部	円板状土製品	合計
Ⅳ	Ⅴ-1	Ⅴ	Ⅴ-1.2	Ⅴ-3.4	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅲ~Ⅳ	Ⅴ	Ⅴ		
1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	43	761

A 区包含層　出土土器（古墳時代）

甕	壺	中期高坏	高坏	合計
16	2	1	7	26

A 区包含層　出土土器（古代）

甕	竈	支脚	その他	須恵器				灰釉陶器	合計
				甕片	長頸壺	坏	高台付坏		
4	3	1	1	24	1	6	2	1	43

B 区包含層１　出土土器（弥生時代）

甕　口縁部				壺　口縁部				高坏	器台	円板状土製品	合計
Ⅰ-3~(4)	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-1.2	Ⅰ-3~(4)	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅴ-1	Ⅰ~Ⅴ	Ⅴ-3,4		
6	6	3	3	10	1	2	2	9	1	213	256

B 区包含層１　出土土器（古墳時代）

布留甕	布留甕（ごく細片）	中期高坏	合計
3	1	5	9

B 区包含層１　出土土器（古代）

甕	坏か皿底部回転なし	坏か皿底部回転糸切	坏細片	高台付坏	竈	支脚	須恵器										灰釉陶器	燈明皿	合計
							坏（底部）静止糸切、ヘラ	坏（底部）回転糸切	坏（口縁）高台なし	蓋ボタン状つまみ	蓋輪状つまみ	蓋つまみ不明	高台付坏	皿	甕片	壺			
83	38	15	25	8	89	23	60	47	67	19	48	108	43	11	115	64	33	47	943

B 区包含層１・２　出土土器（弥生土器）

甕　縁部					壺口縁部	甕底部	壺底部	甕または壺底部	合計
Ⅳ	Ⅴ	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-3	Ⅴ-1	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ-3~(4)	
1	1	16	11	2	1	24	6	48	110

B 区包含層２　出土土器（弥生時代）

甕　口縁部						壺　口縁部				甕　底部					壺　底部		甕または壺底部
Ⅰ-3~(4)	Ⅲ	Ⅳ-1	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-4	Ⅰ-4	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ-1	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ~Ⅲ	Ⅲ.・Ⅳ	Ⅳ～Ⅴ	Ⅴ-3.4	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ~Ⅲ	Ⅰ~Ⅲ
38	1	1	11	4	1	51	1	2	2	3	33	3	7	3	5	6	114

高坏					器台			脚部		把手			台付鉢	合計
Ⅳ	Ⅳ~Ⅴ	Ⅴ-1	Ⅴ-3.4	Ⅴ	Ⅴ-2	Ⅴ-3.4	Ⅴ	Ⅴ	Ⅰ~Ⅴ	Ⅴ-1	Ⅴ-3.4	Ⅴ	Ⅴ	
1	3	1	1	4	1	4	4	1	2	1	3	1	1	314

B区包含層２　出土土器（古墳時代）

高坏	合計
10	10

B区包含層２　出土土器（古代）

甕	坏か皿	坏か皿底部回転なし	竈	支脚	須恵器									灰釉陶器	燈明皿	合計
					坏（底部）静止糸切、ヘラ	坏（底部）回転糸切	坏（口縁）高台なし	蓋ボタン状つまみ	蓋輪状つまみ	蓋つまみ不明	高台付坏	甕片	壺			
31	13	1	25	2	12	6	8	2	14	27	2	36	20	39	11	249

B区包含層３　出土土器（弥生時代）

甕口縁部												壺口縁部						蓋
Ⅰ-3~(4)	Ⅱ	Ⅲ-2か Ⅳ-1	Ⅳ-1	Ⅳ-2	中期	中後期 Ⅲ－Ⅳ	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ-3	Ⅴ	Ⅰ～Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅳ-1	Ⅳ-2	Ⅳ	ⅣかⅤ	Ⅴ	Ⅰ～Ⅴ
57	1	2	7	32	1	2	53	27	1	6	3	75	2	2	4	2	1	1

甕か壺口縁部		甕底部		壺底部			甕または壺底部			高坏				器台		合計
Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ～Ⅲ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ～Ⅲ	Ⅲ・Ⅳ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ～Ⅲ	Ⅲ・Ⅳ	Ⅲ-2	Ⅳ-2	Ⅳ～Ⅴ	Ⅴ	Ⅴ-3	Ⅴ	
10	4	106	14	30	19	1	290	105	19	1	1	4	2	1	1	887

B区包含層３　出土土器（古墳時代）

布留甕	高坏	合計
2	3	5

B区包含層３　出土土器（古代）

甕	壺	坏か皿底部回転なし	竈	須恵器甕片	灰釉陶器	燈明皿	合計
20	1	1	2	1	5	1	31

B区包含層４　出土土器（弥生時代）

甕口縁部			壺口縁部		甕か壺口縁部	甕底部	壺底部	甕または壺底部				蓋	合計
Ⅰ-3~(4)	Ⅰ～Ⅱ	Ⅳ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ～Ⅱ	Ⅰ～Ⅱ	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ-3~(4)	Ⅰ-3~(4)	Ⅲ・Ⅳ	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅰ-3~(4)	
7	135	6	9	152	2	171	40	106	1	4	1	2	636

B区包含層４　出土土器（古代）

須恵器甕片	合計
3	3

B区　出土土器（弥生時代）

甕口縁部				壺口縁部		甕底部			合計
Ⅰ-3~(4)	Ⅴ-1	Ⅴ-2	Ⅴ	Ⅰ-3~(4)	Ⅴ-1	Ⅳ	Ⅴ	Ⅰ～Ⅴ	
182	81	10	8	251	5	4	1	1	543

B区　出土土器（古墳時代）

中期甕	合計
2	2

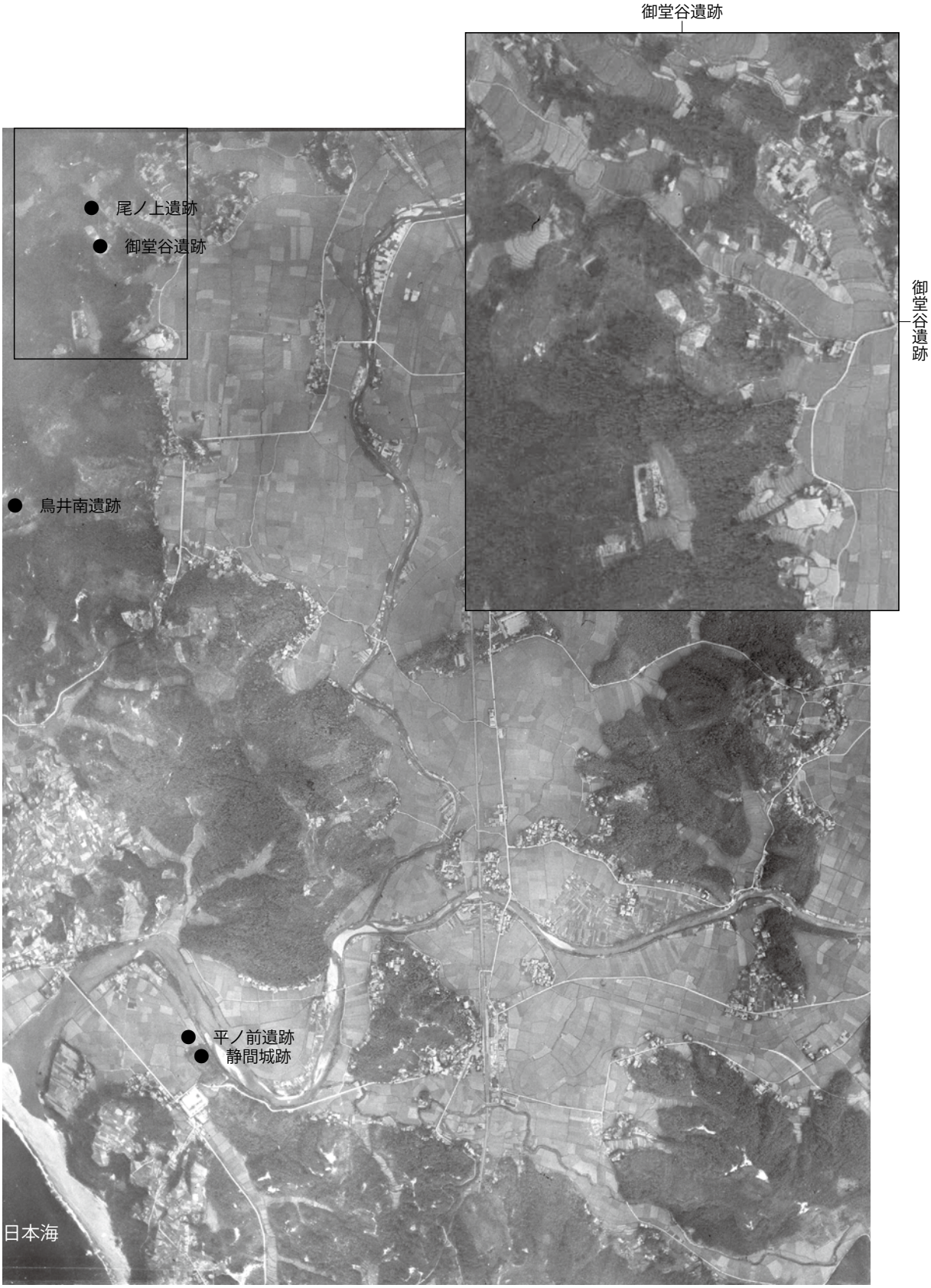
B区包含層　出土須恵器　転用硯出現率

須恵器器種	転用硯（内面摩滅）	非転用	出現率
皿	3	3	50%
壺片	6	58	9.37%
坏（糸切底部）	5	31	13.80%
坏（静止糸切･ヘラ）	9	50	15.25%
灯明皿形土器	5	59	7.81%
高台付坏	2	44	4.34%
坏蓋（輪状つまみ）	9	50	15.25%
坏蓋（ボタン状つまみ）	4	6	40.00%
坏蓋（つまみ欠失）	19	77	19.79%

※摩滅の有無判別可能遺物をカウント、小数点第三位以下切り捨て

写真図版

白紙



1．御堂谷遺跡周辺空撮写真（1947 年 10 月 3 日ＧＨＱ撮影）

※写真の出典　国土地理院ウェブサイト
https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1181441&isDetail=true
https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do?specificationId=1181442&isDetail=true

図版 2

1．御堂谷遺跡航空写真（東から）

2．御堂谷遺跡航空写真（西から）

1．A 区調査前風景（北から）

2．A 区調査風景（北から）

図版４　Ａ区

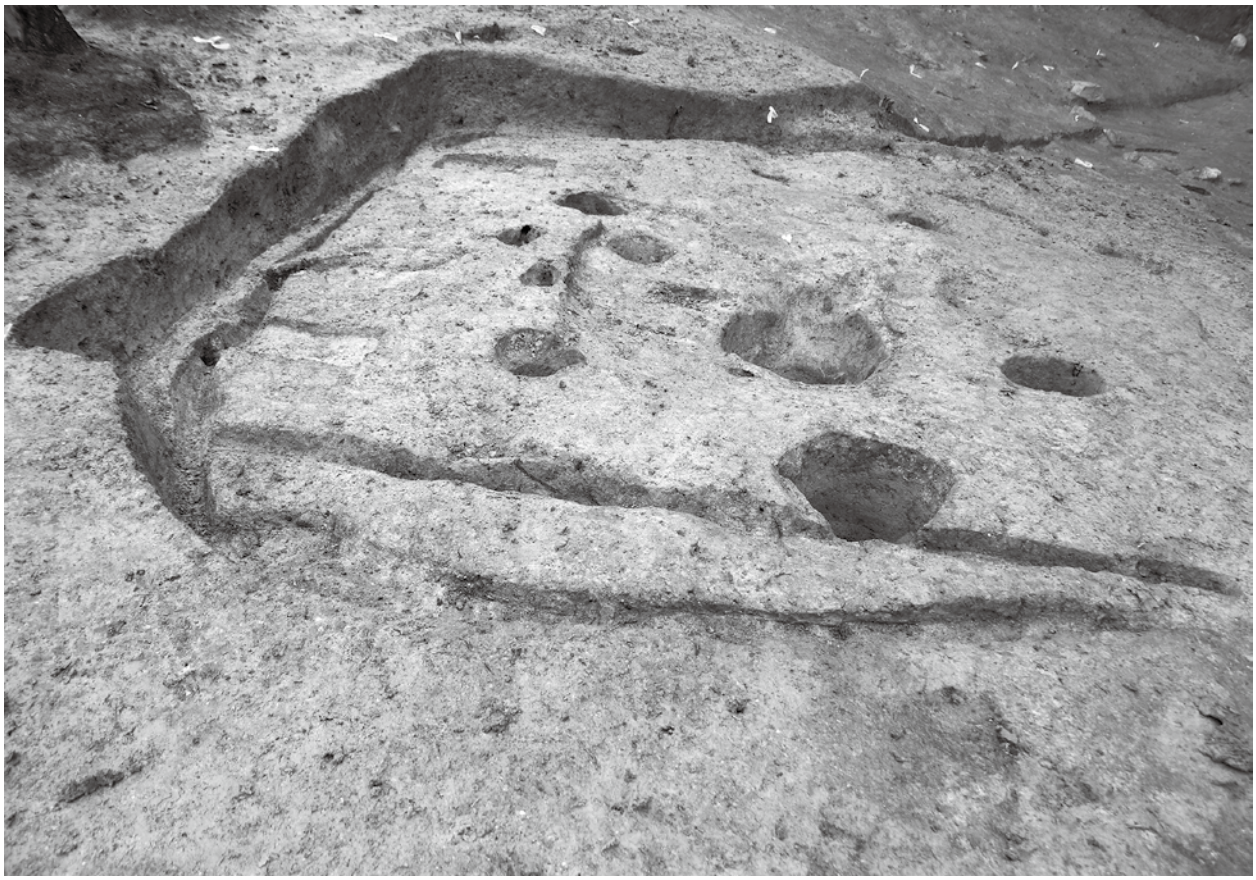
１．SI01 土層断面（西から）

２．SI01 完掘状況（西から）

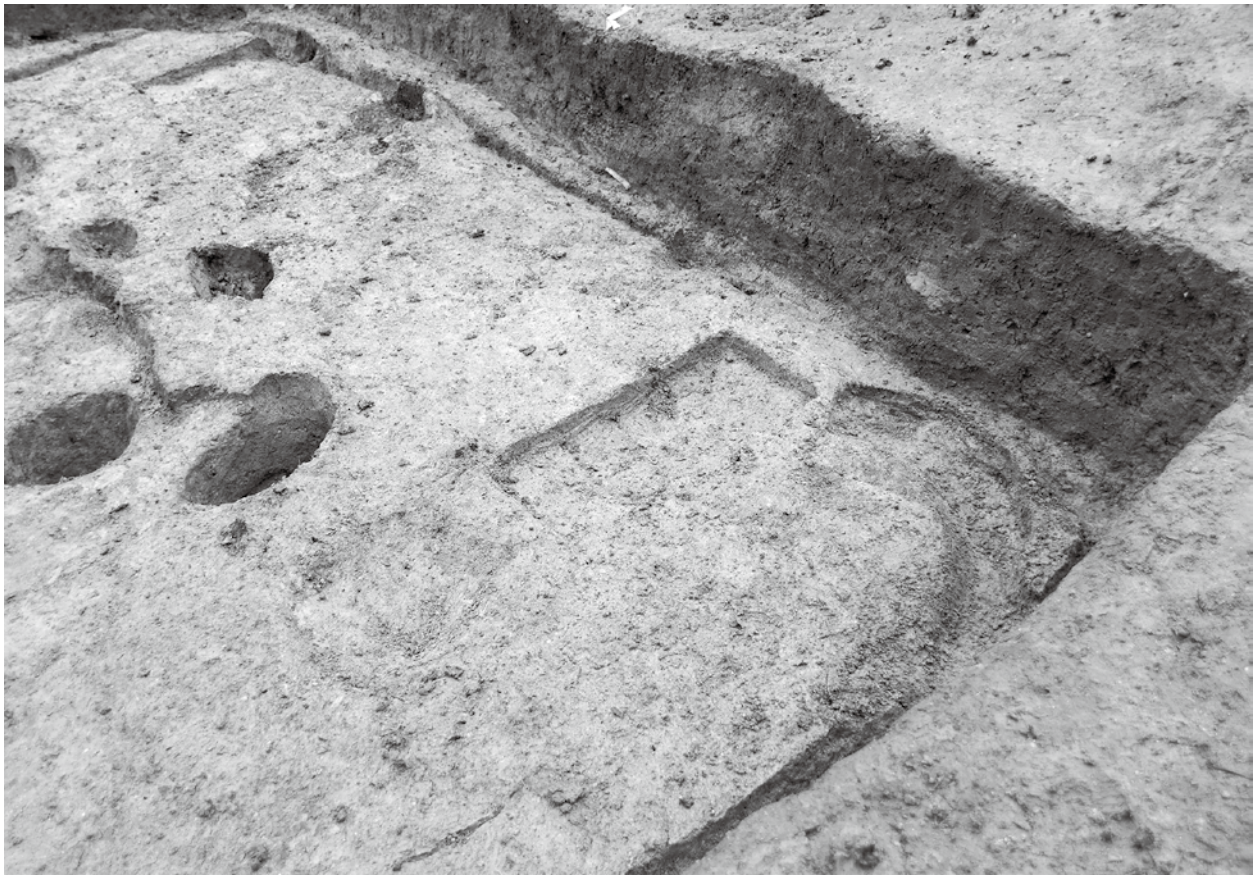
1．SI02 検出状況（東から）

2．SI02 検出状況（西から）

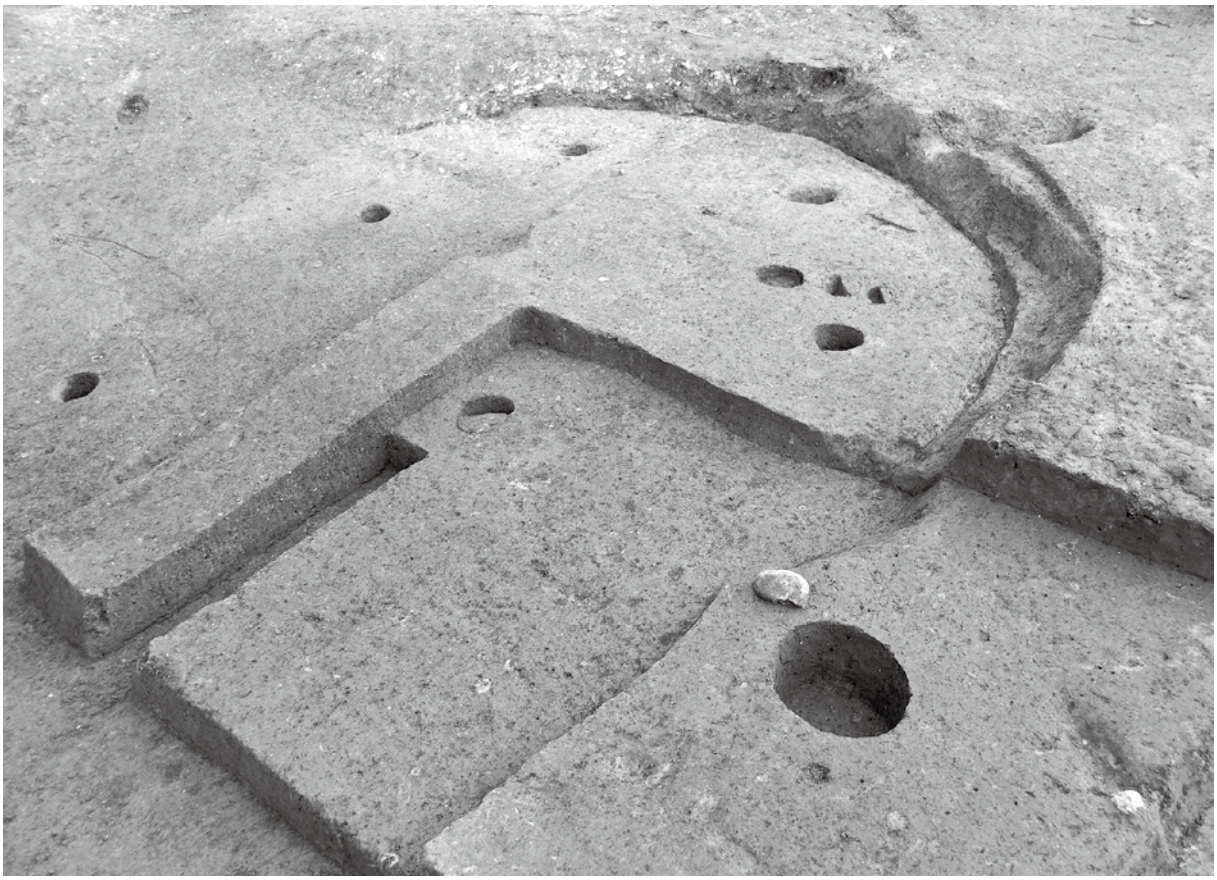
図版 6　A 区



1．SI02 完掘状況（東から）



2．SI02 完掘状況（西から）



1．SI03 完掘状況（東から）

2．SI04 完掘状況（南から）

図版８　Ａ区

１．加工段１土層断面（北から）

２．加工段１土層断面（東から）

1．加工段１土層断面（西から）

2．加工段１土層断面（西から）

図版 10　A 区

1．加工段１完掘状況（東から）

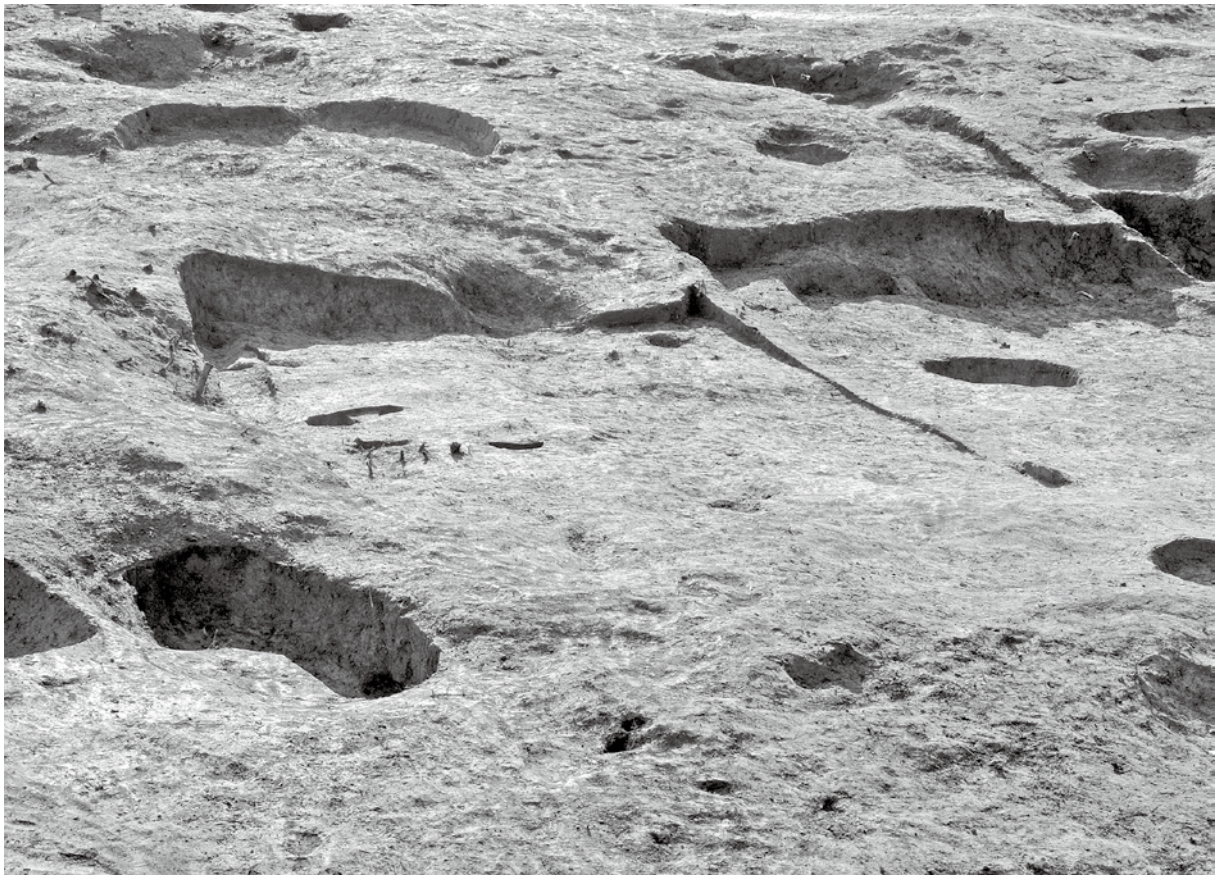
2．加工段１完掘状況（北西から）

1．加工段２完掘状況（北から）

2．加工段３完掘状況（北から）

図版 12　A 区

1．加工段４（SD01）完掘状況（東から）



2．加工段５完掘状況（北から）

1．A 区中央東西土層断面（南から）

2．SD02 完掘状況（東から）

図版 14　A 区

1．SD03 完掘状況（東から）

2．SD04 完掘状況（西から）

1．B 区調査前風景（北から）

2．B 区完掘状況（北から）

図版 16　B 区

1．SB01 完掘状況（北から）

2．SB01 完掘状況（東から）

3．SB01 完掘状況（西から）

1．SK01 調査状況（南から）

2．SK01 完掘状況（北から）

図版 18　B 区

1．SI01-1、SI01-2 検出状況（南から）

2．SI01-1、SI01-2 検出状況（北から）

3．SI01-1B-B′ 土層断面（南から）

1．SI01-1A-A′ 土層断面（東南から）

2．SI01-1（右）と SI01-2（左）の切り合い（南から）

図版 20　B 区

1．SD02（SI01-1 の周堤溝）F-F' 土層断面（北東から）

2．SD02（SI01-1 の周堤溝）東側完掘状況（南から）

3．SD02（SI01-1 の周堤溝）南側完掘状況（北から）

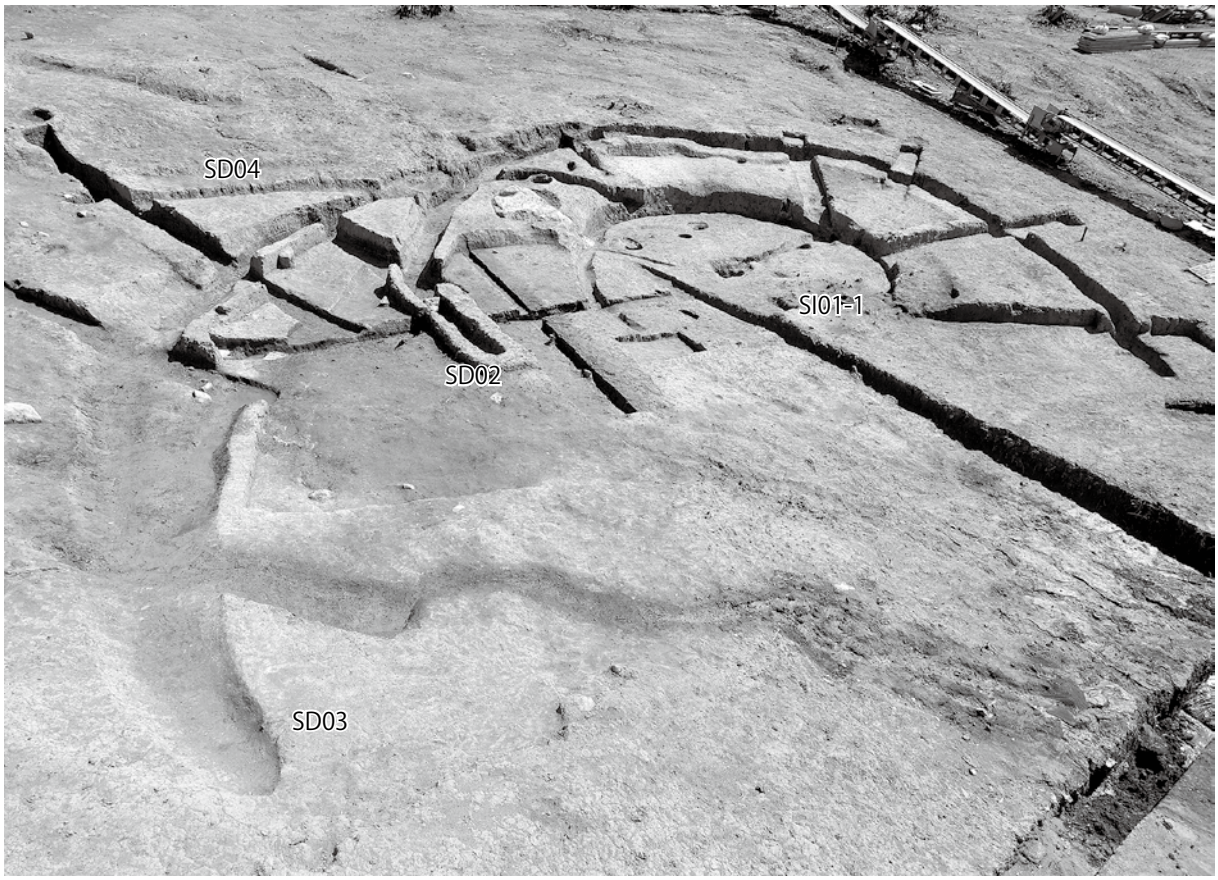
4．SD02（SI01-1 の周堤溝）南側完掘状況（西から）

1．SI01-1 中央炉礫出土状況（北西から）

2．SD02（SI01-1 の周堤溝）東側完掘状況（北から）

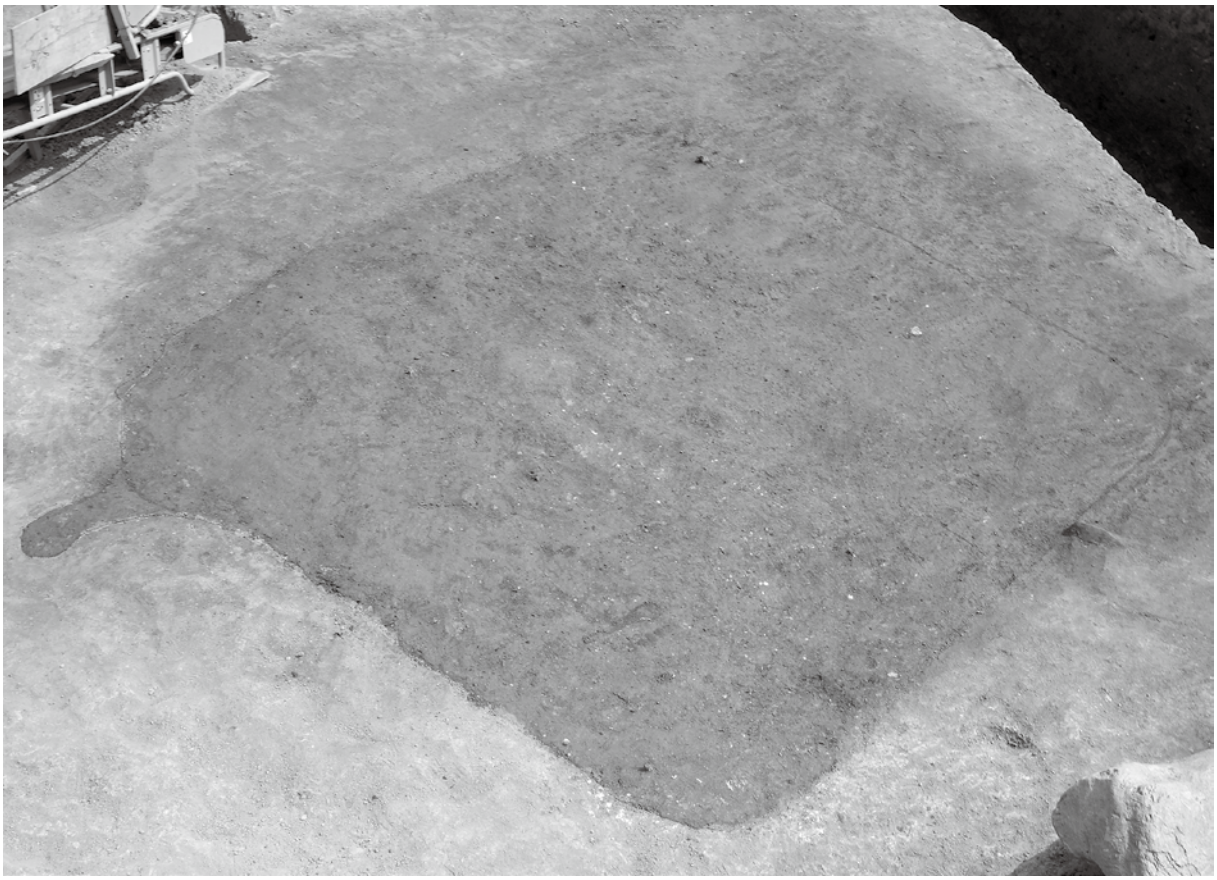
3．SI01-1、SD02 完掘状況（西から）

図版 22　B 区

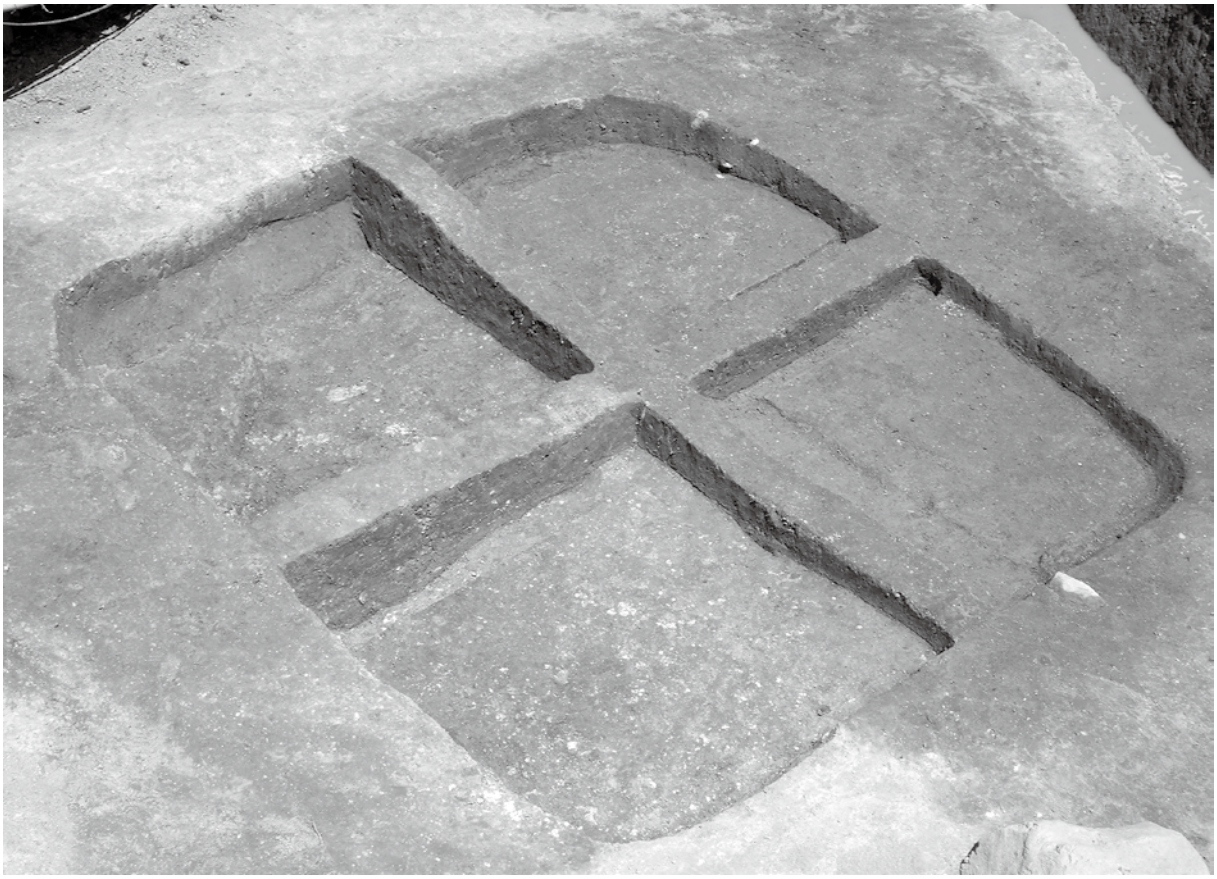


1．SI01-1-SD02、SD03・04 完掘状況（西から）

2．SI01-1-SD02、SI01-2-SD01 完掘状況（西から）



1． SI02 検出状況（南から）



2． SI02 土層断面（南から）

図版 24　B 区

1．SI02 竈検出状況（北東から）

2．SI02 竈完掘状況（北東から）

3．SI02 竈煙道調査状況（北から）

1． SI02 竈煙道完掘状況（北東から）

2． SI02 完掘状況（南から）

図版 26　B 区

1．　SI03・04 調査状況（東から）

2．　SI03・04 完掘状況（東から）

1．SI04 完掘状況（南から）

2． SI05 調査状況（東から）

図版 28　B 区

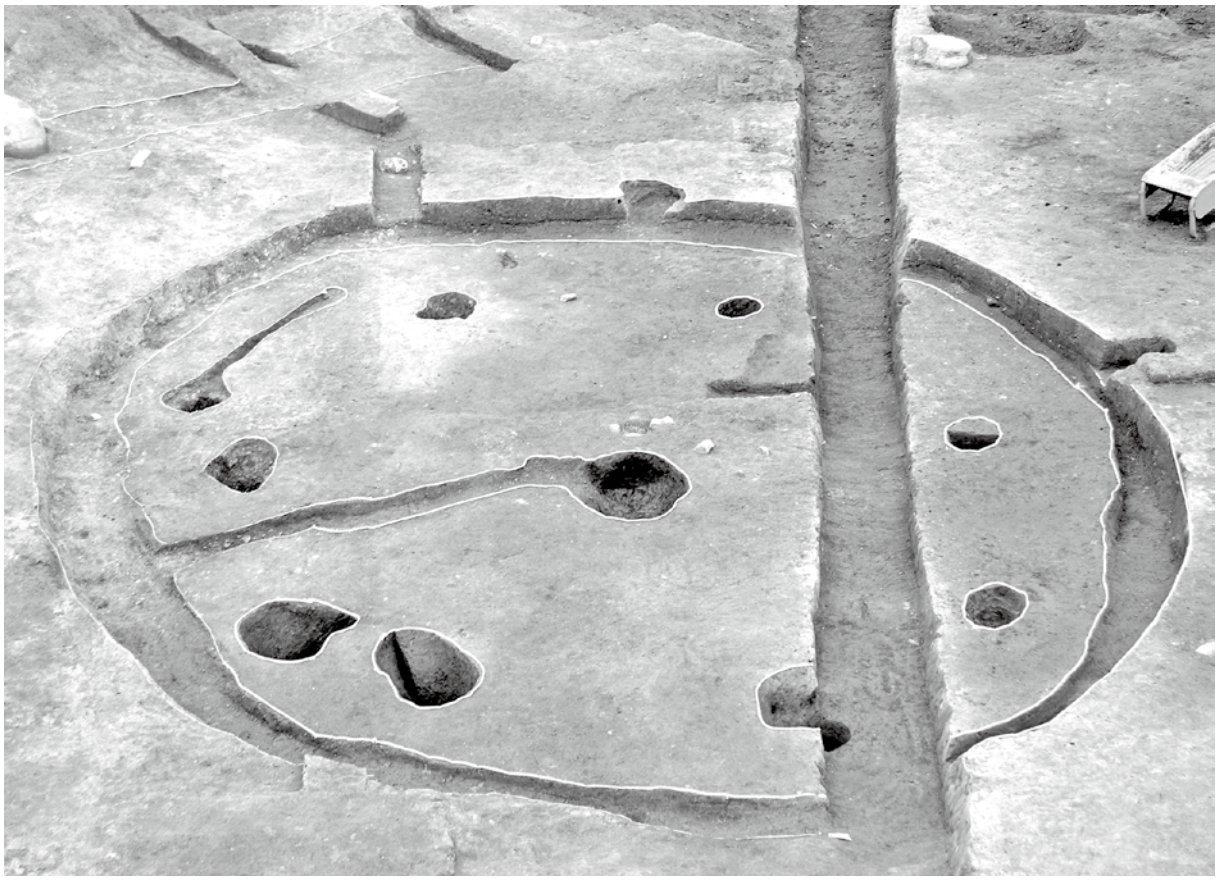
1．　SI05 炭化材出土状況（東から）

2．　SI05 完掘状況（東から）

1． B 区 H-H' 土層断面と SI06 検出状況（西から）

2． SI06 土層断面（南から）

図版 30　B 区



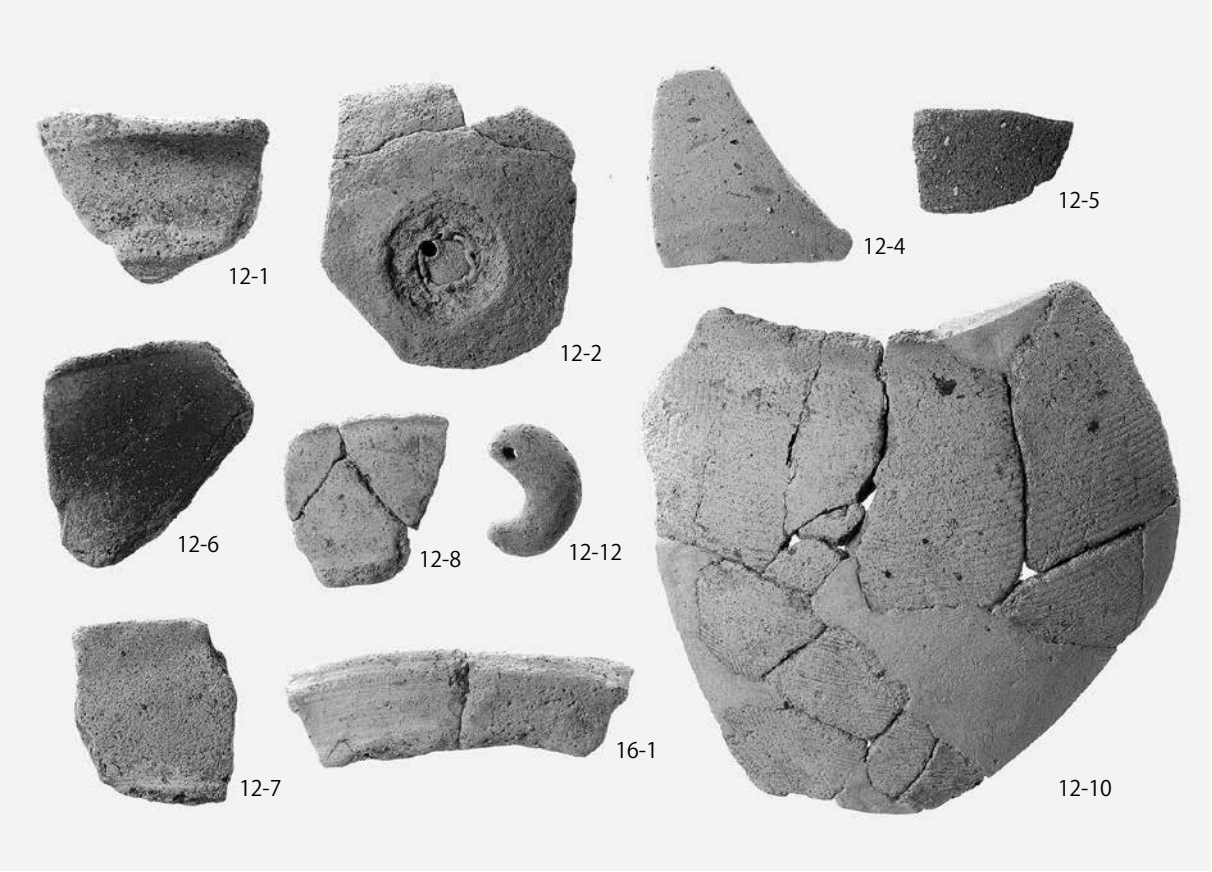
1．　SI06 完掘状況（北から）

2．SI06 調査風景（北から）

3．　SI06 完掘状況（北から）

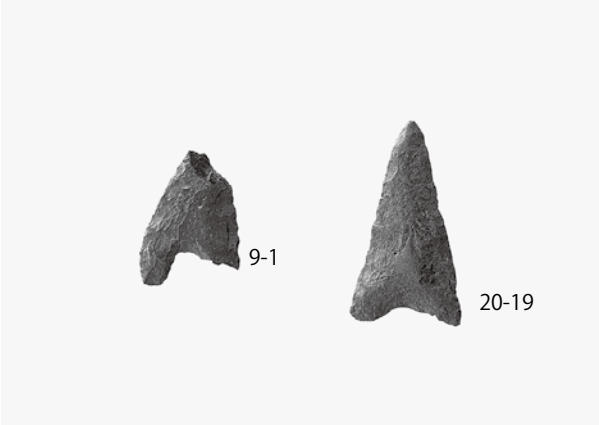
1． B 区調査区南 C-C' 土層断面（北から）

2． SI06 周辺最下層完掘状況（北から）



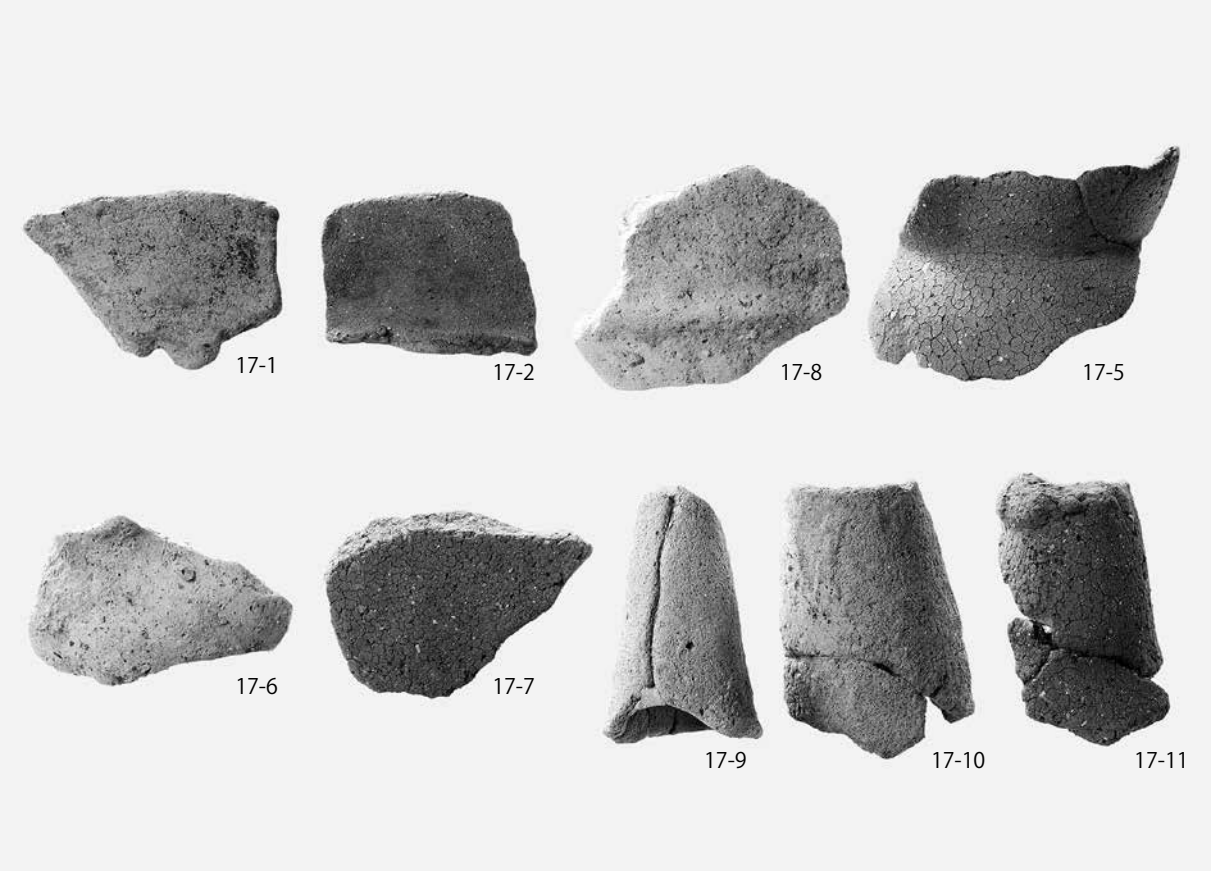
1． A 区 SI01・SI02-2 出土遺物

2． A 区 SI01・SI02-2 出土石器

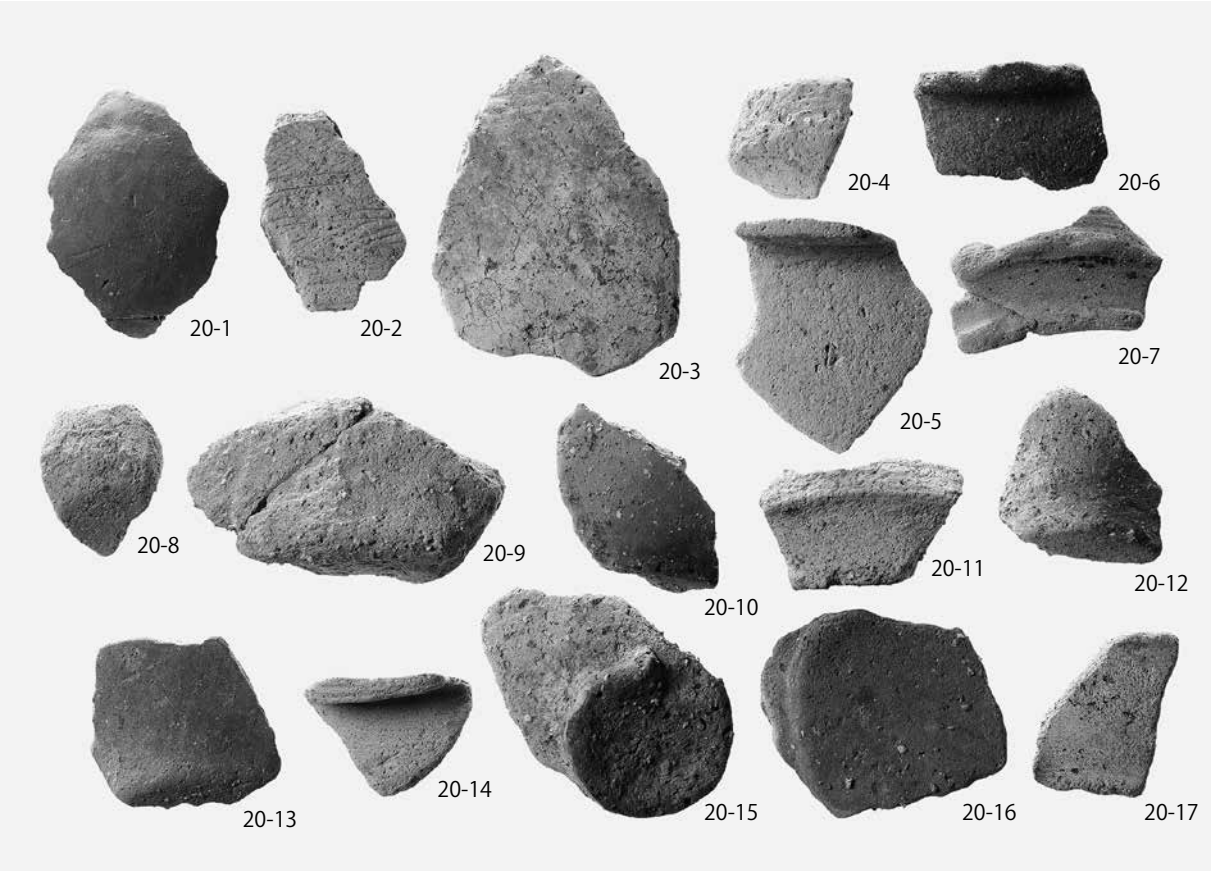


1． A 区 SK14、SI01・03 出土遺物

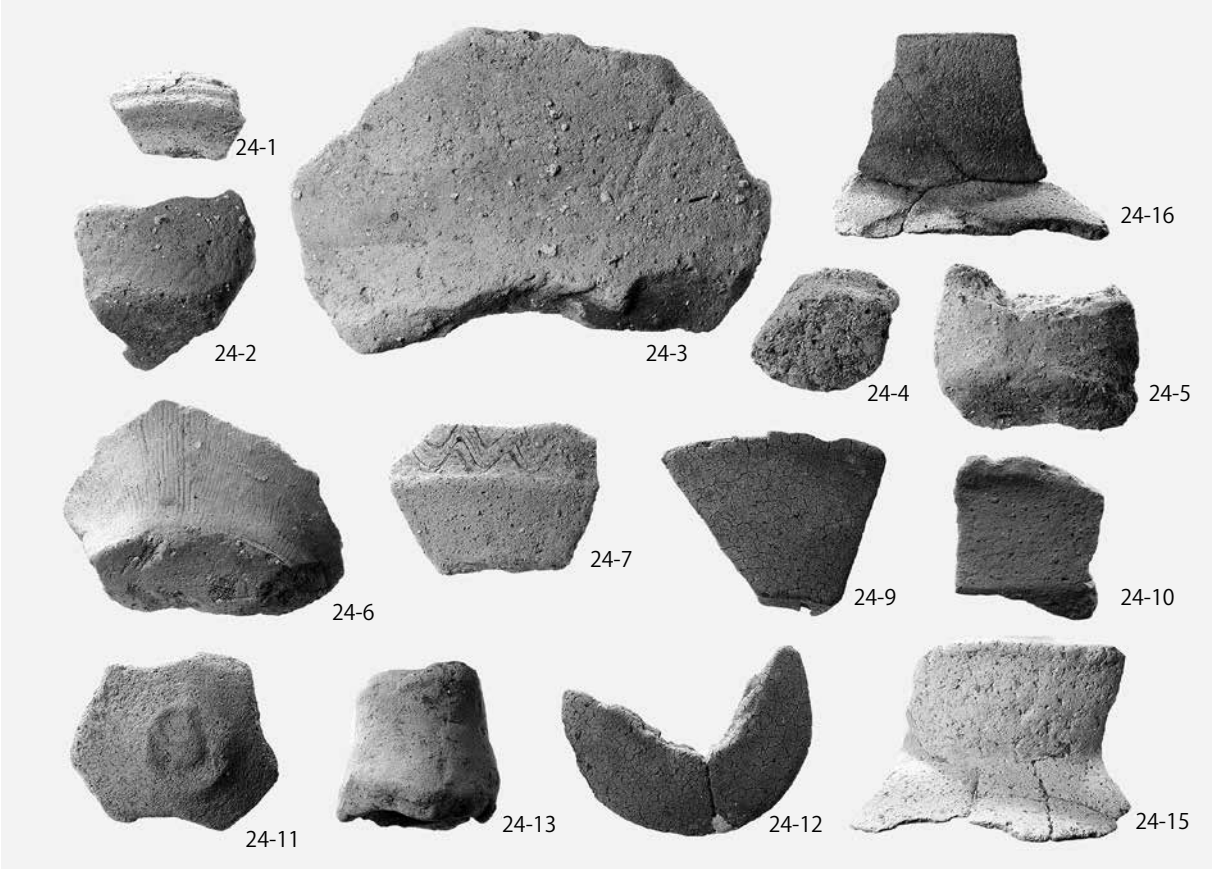
2． A 区 SI02-1 出土遺物



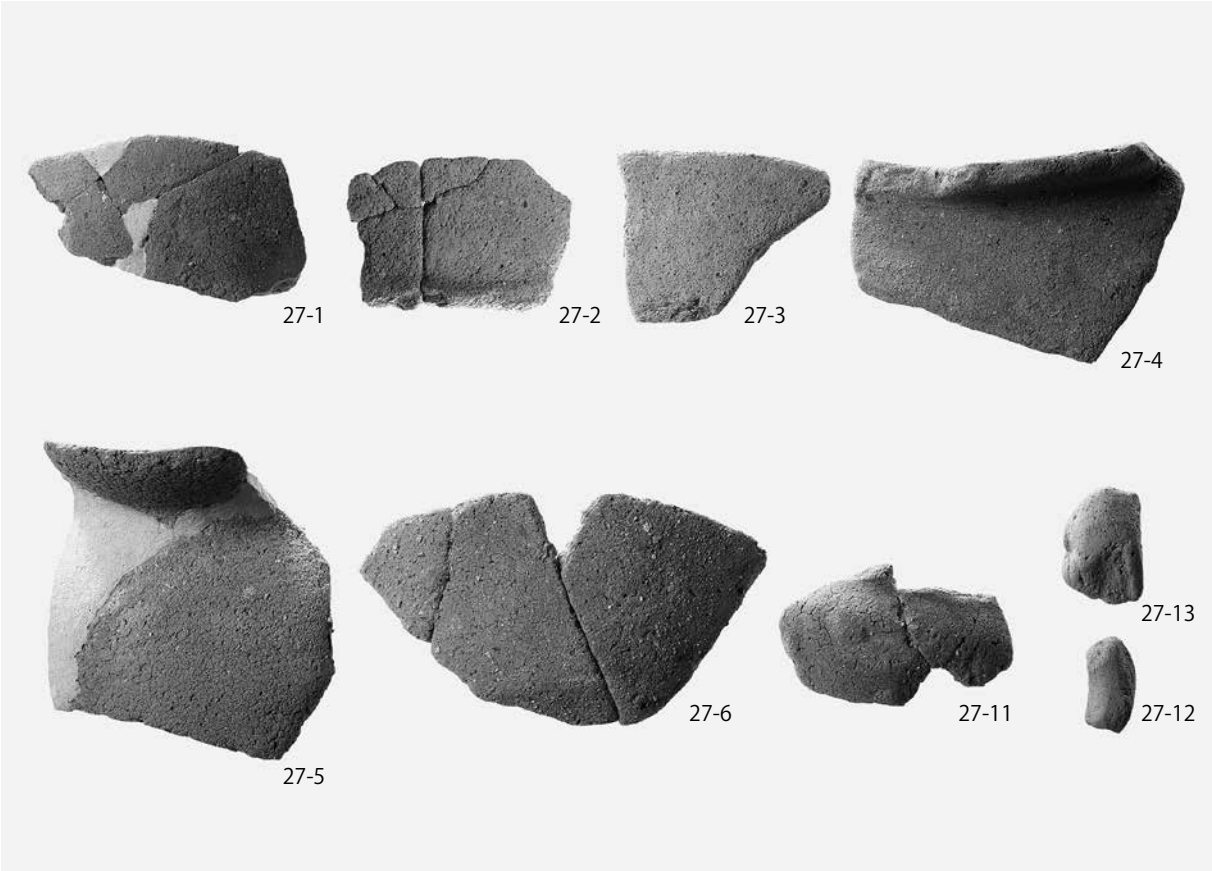
1． A 区 SI02-1 出土遺物



2． A 区 SI03 出土遺物



1． A 区加工段 1 出土遺物



2． A 区加工段 2 出土遺物

24-8

24-14

24-17

27-7

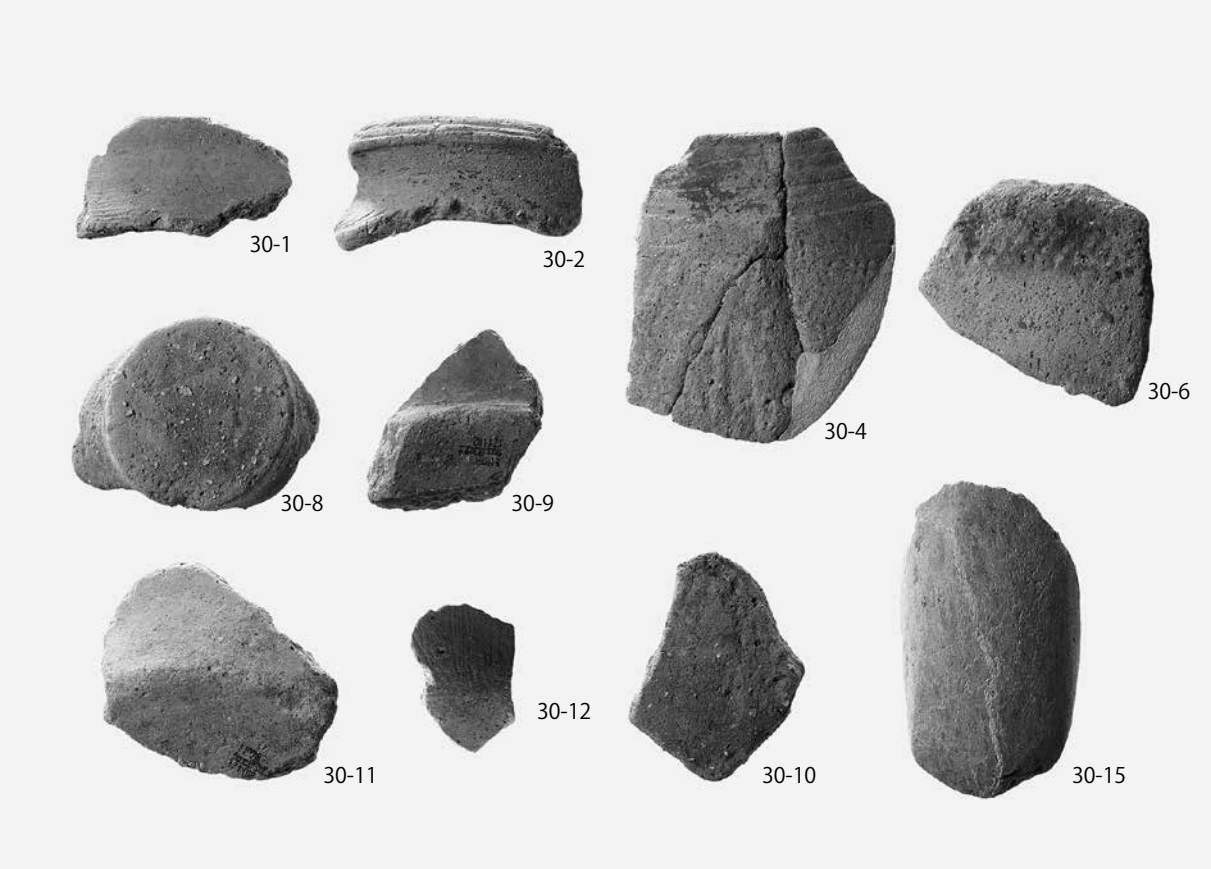
1． A 区加工段 1 ・ 2 出土遺物

27-10

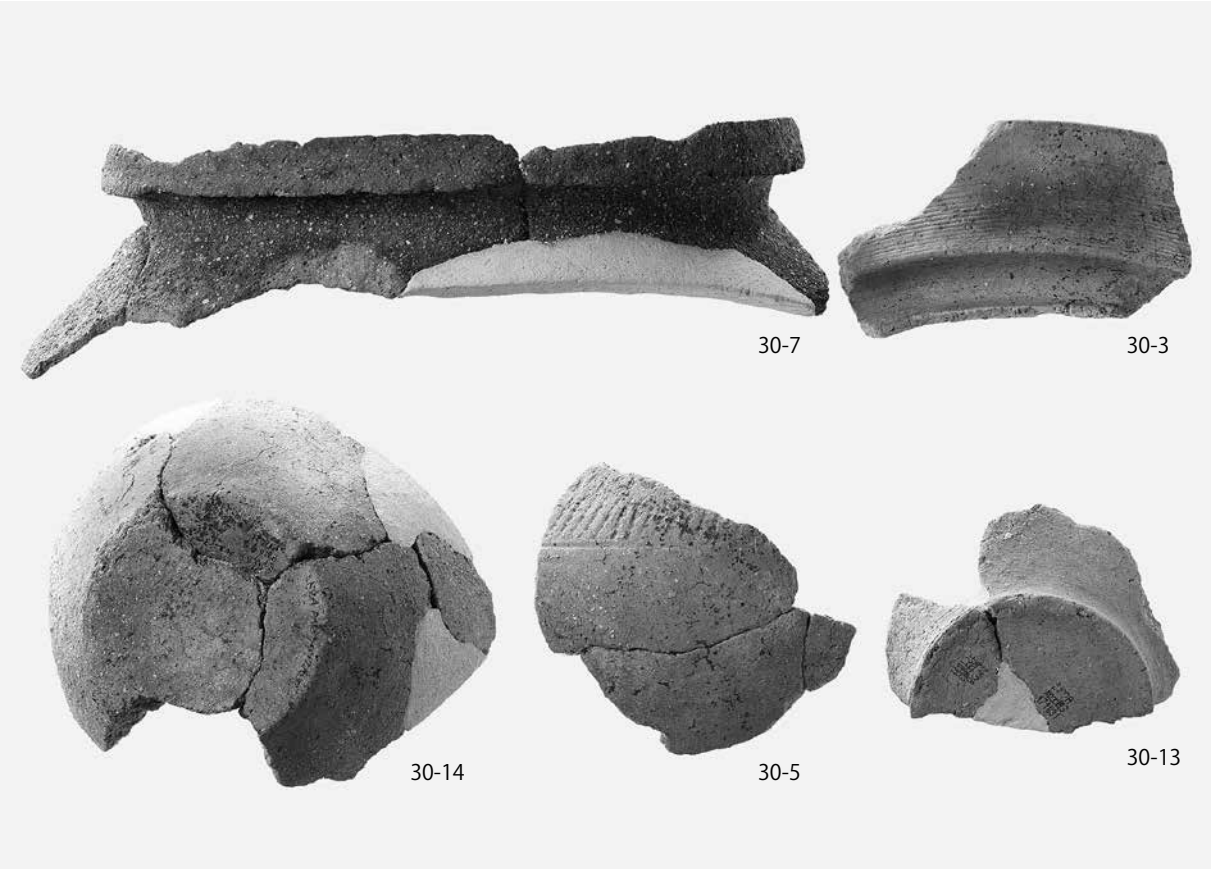
27-8

27-9

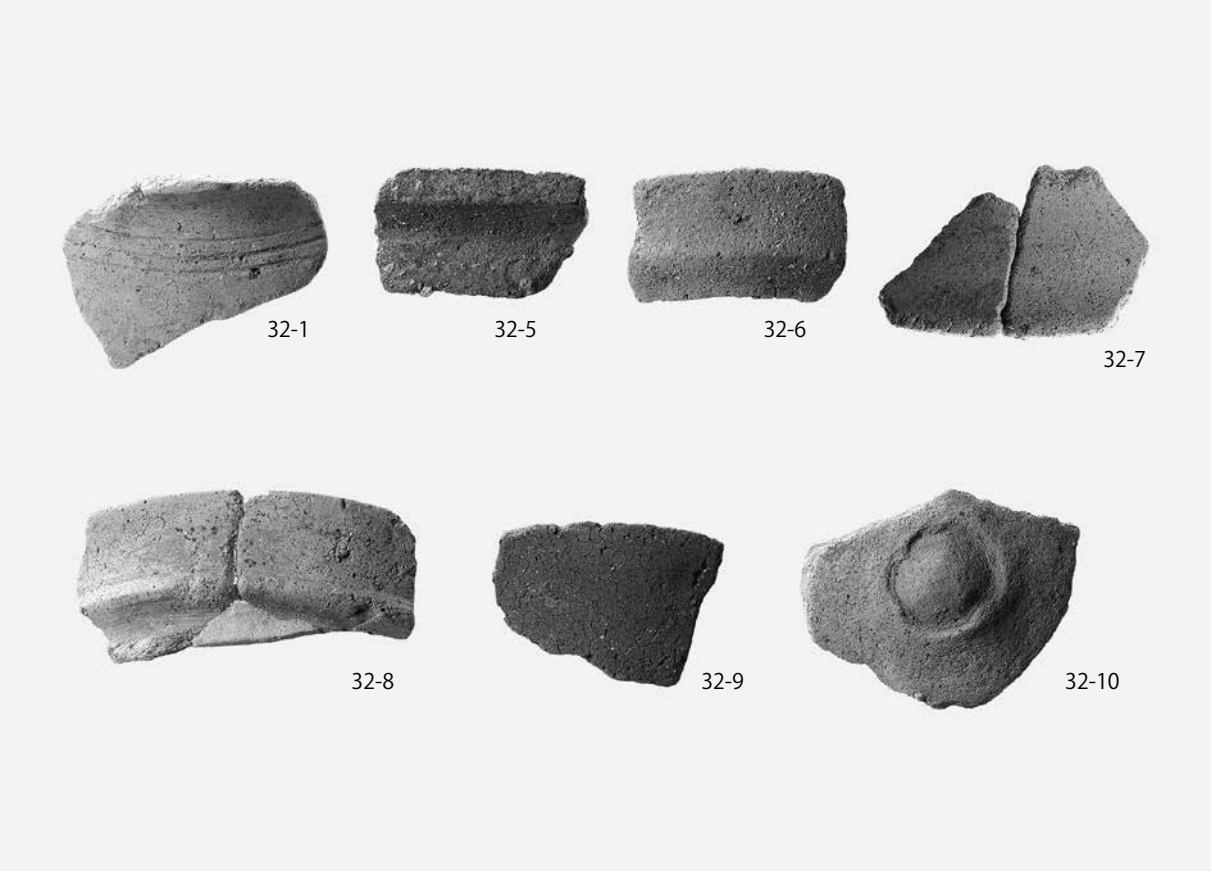
2． A 区加工段 2 出土遺物



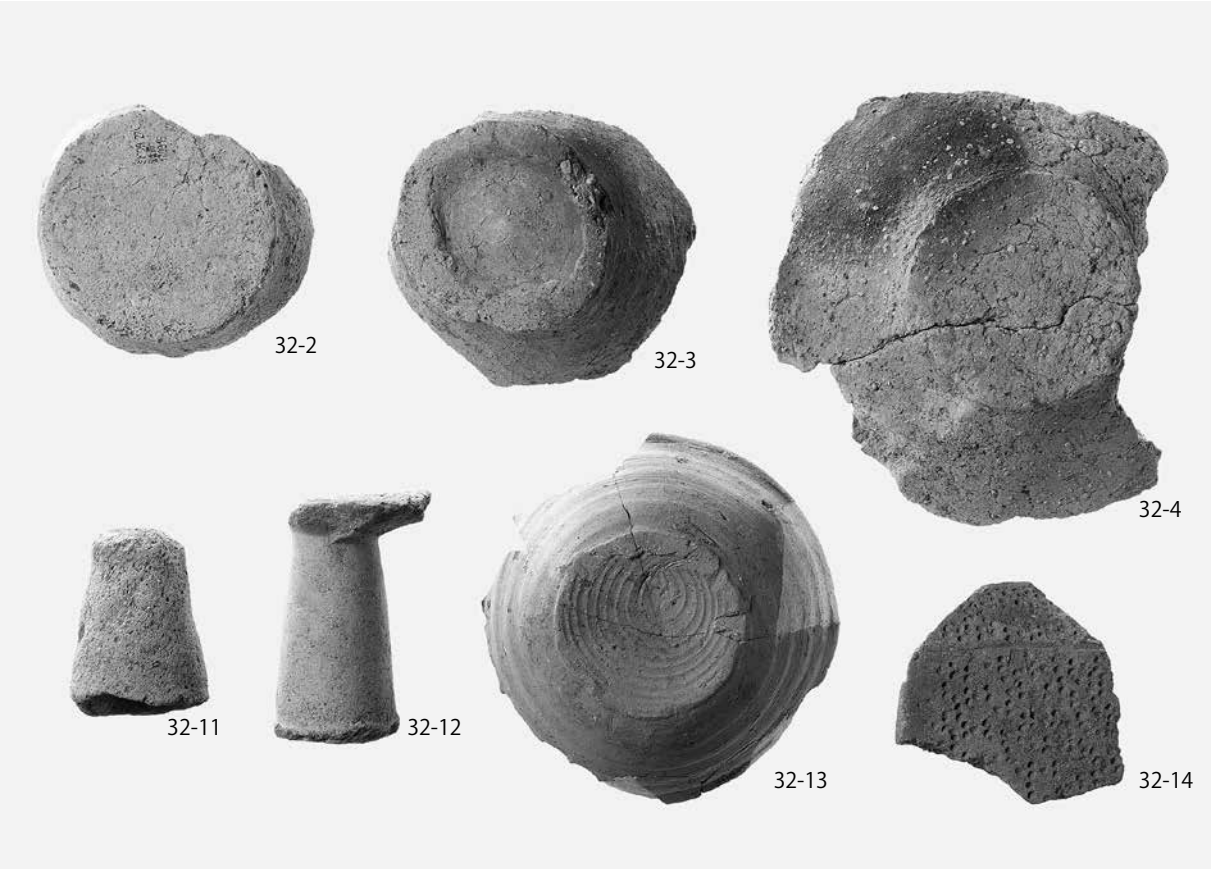
1． A 区加工段 3 出土遺物



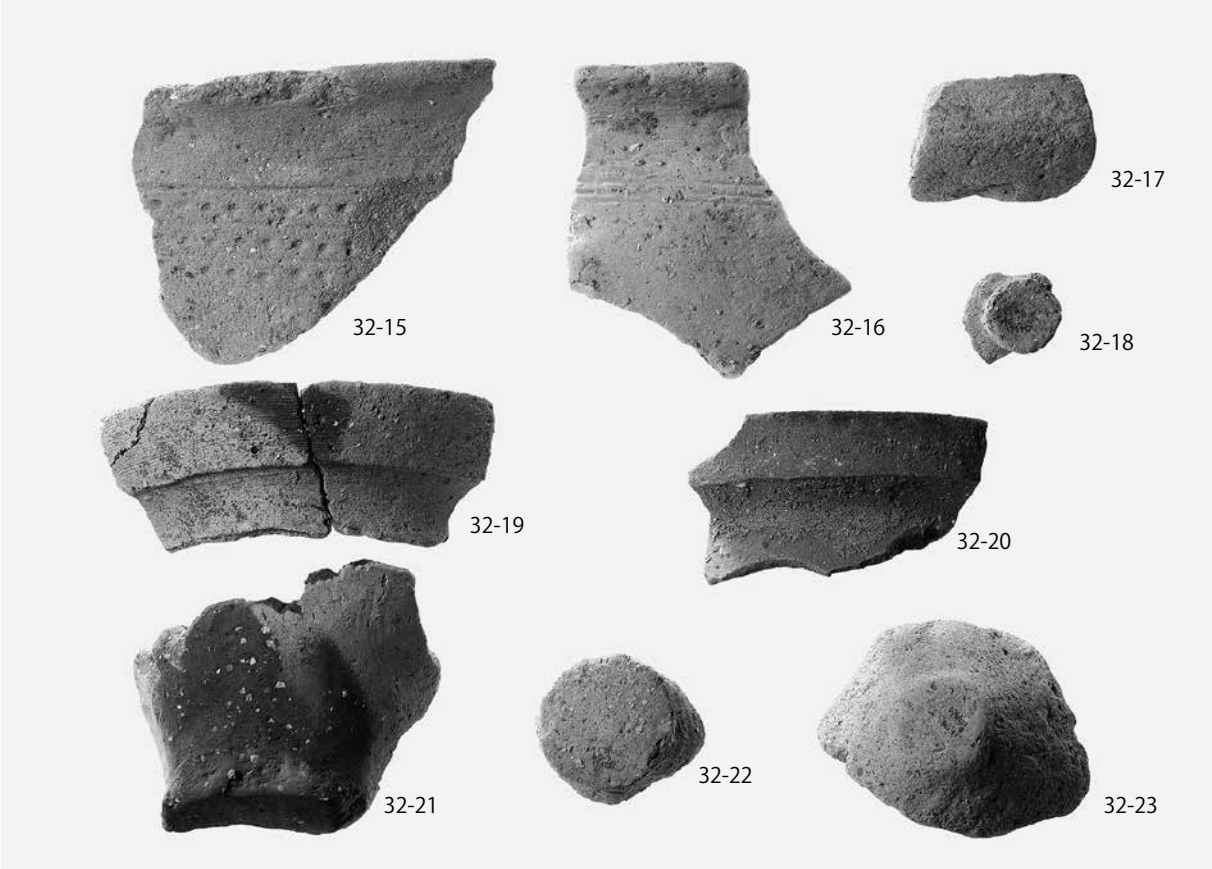
2． A 区加工段 3 出土遺物



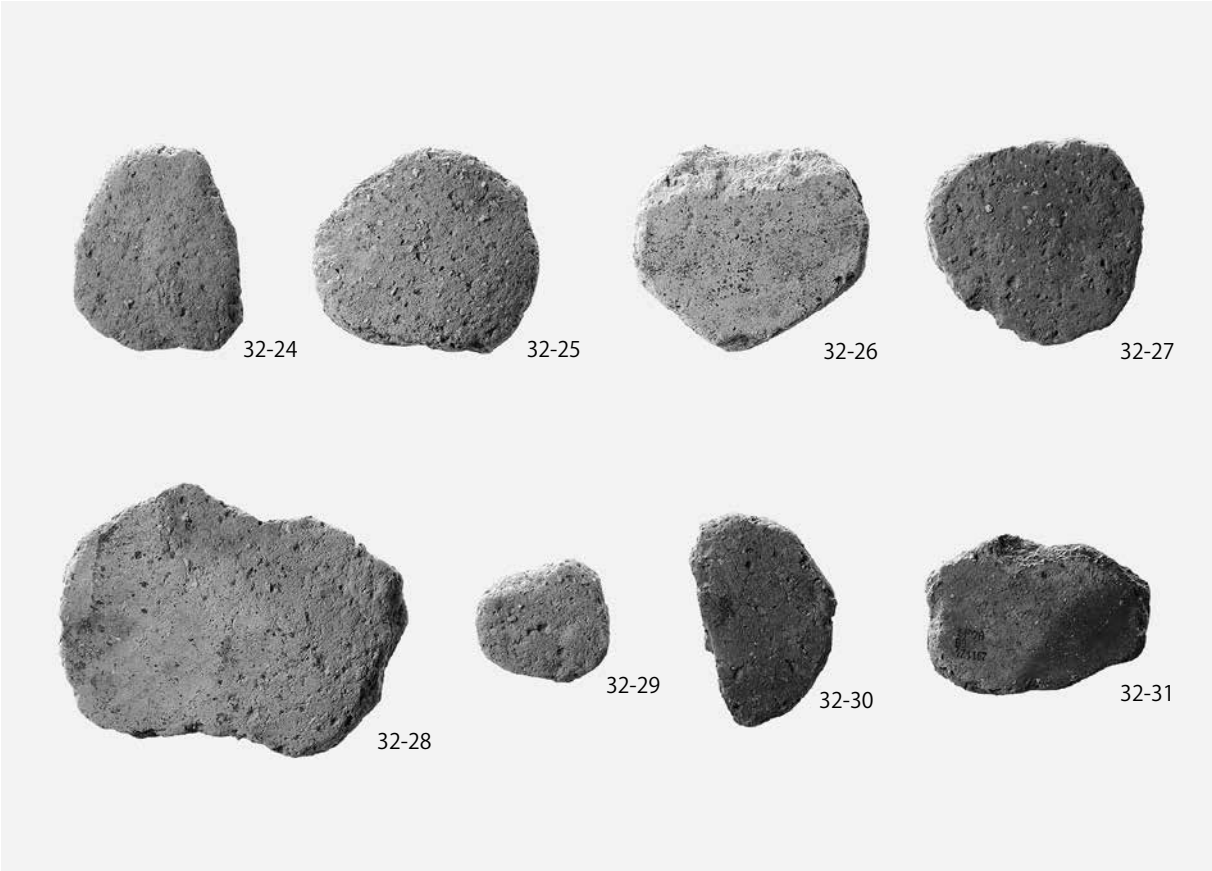
1． A 区包含層出土遺物



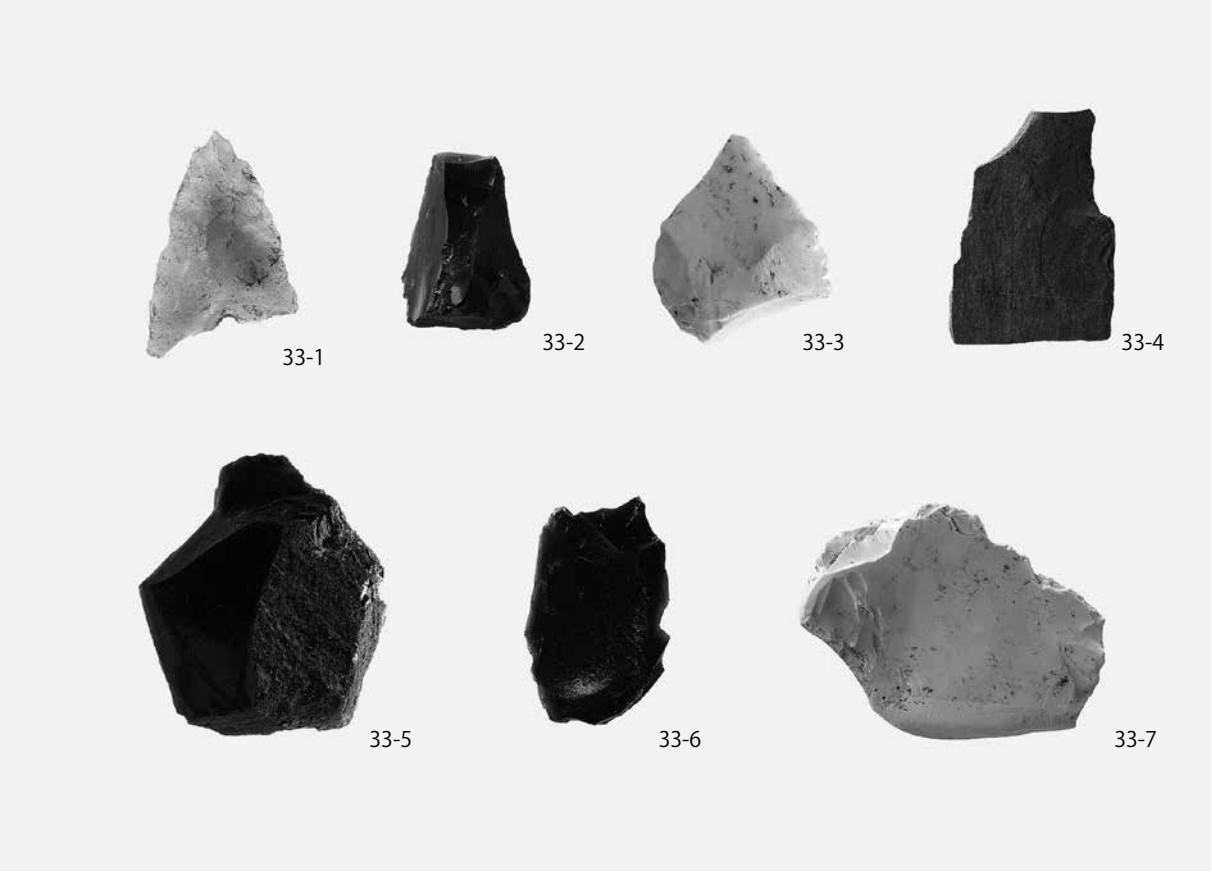
2． A 区包含層出土遺物



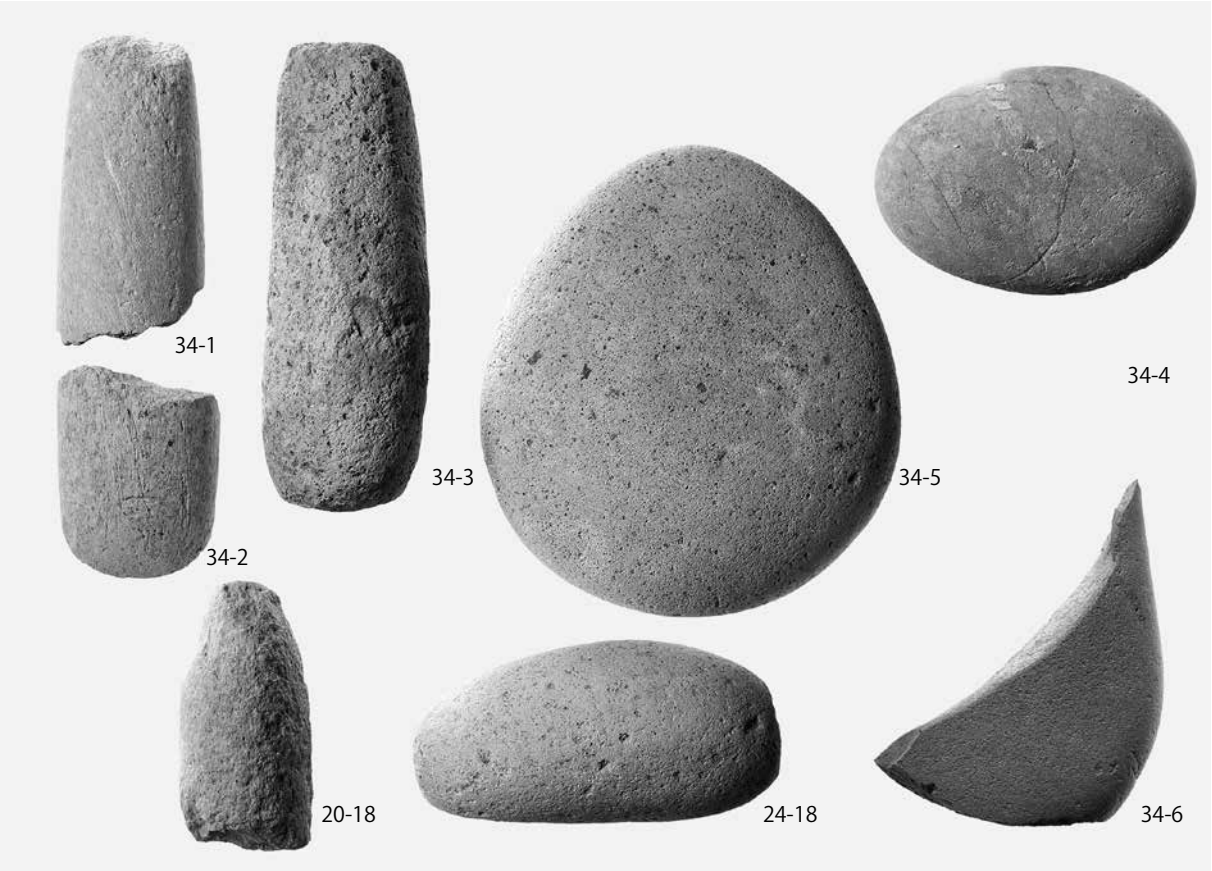
1． A 区包含層出土遺物



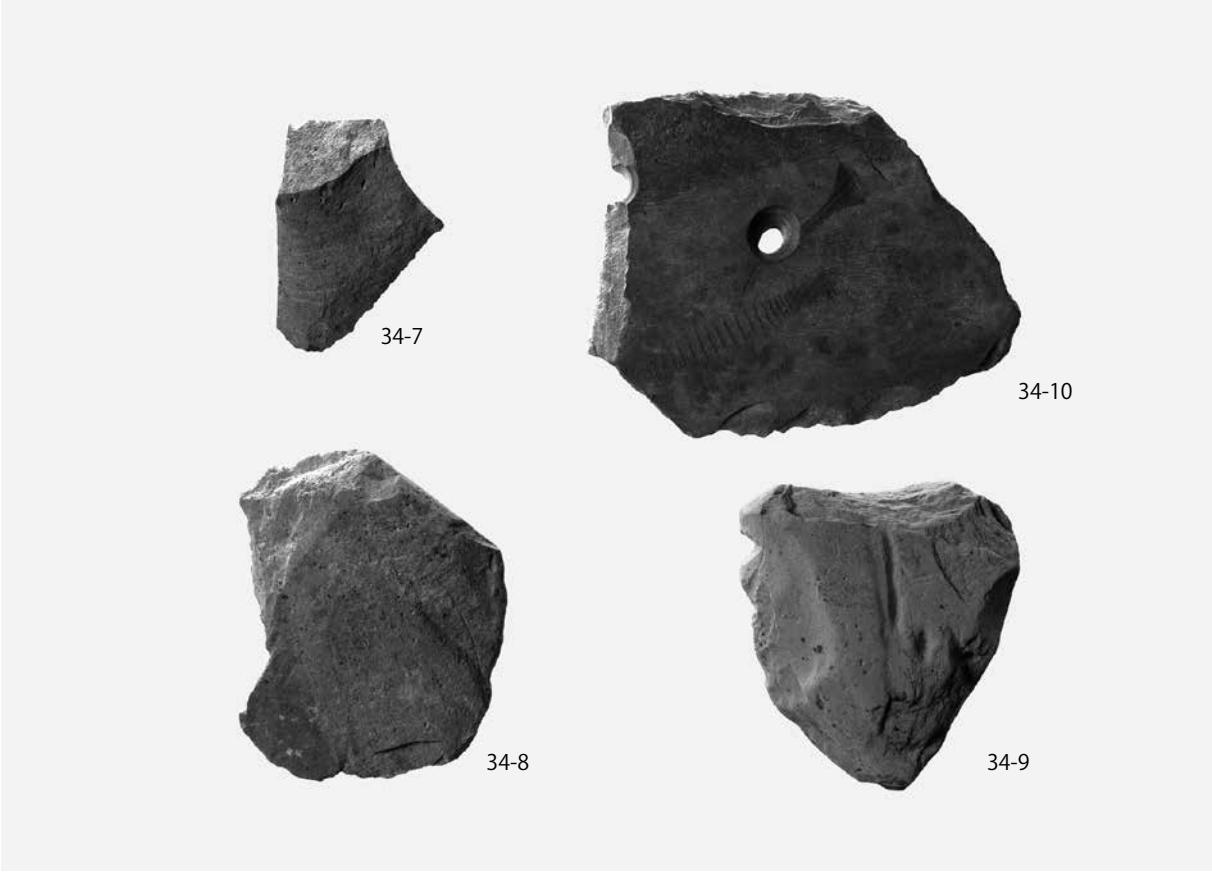
2． A 区包含層出土遺物



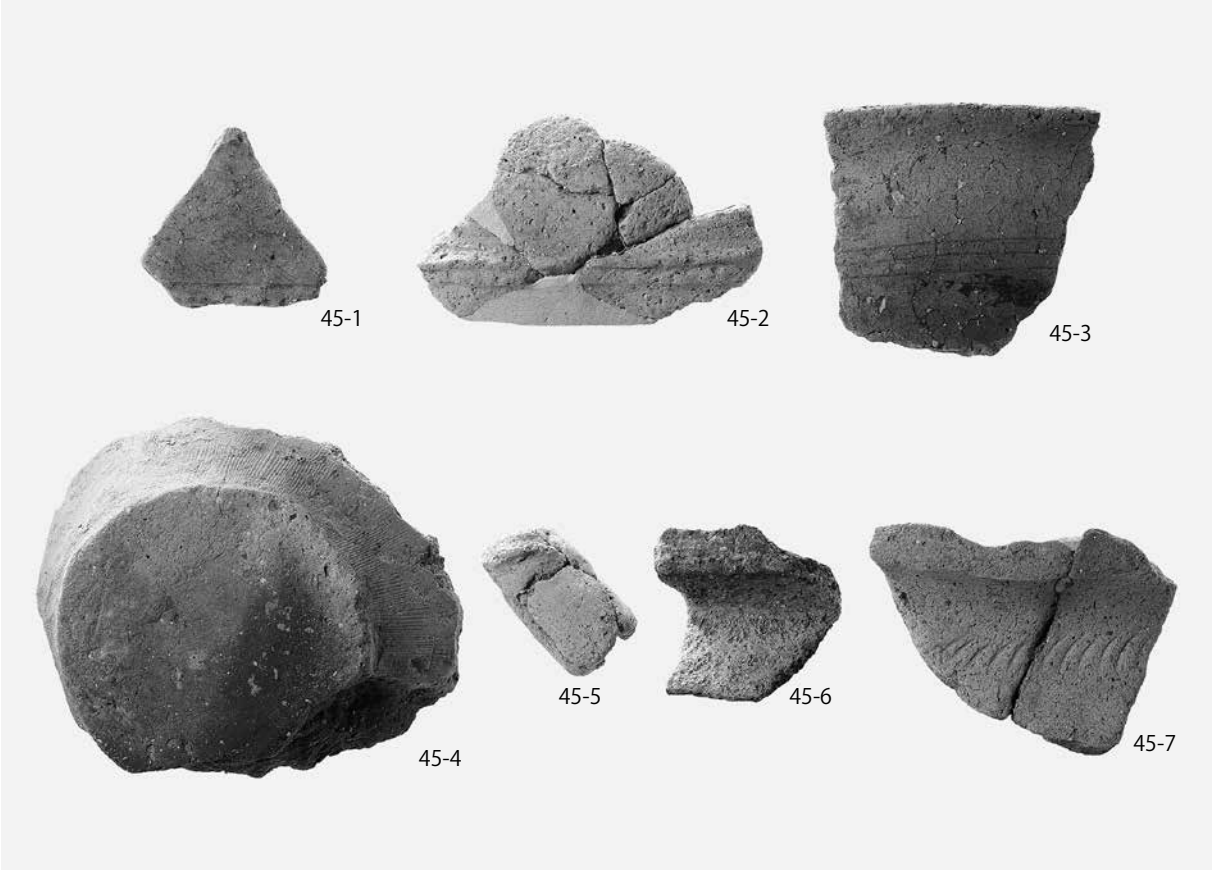
1． A 区包含層出土石器



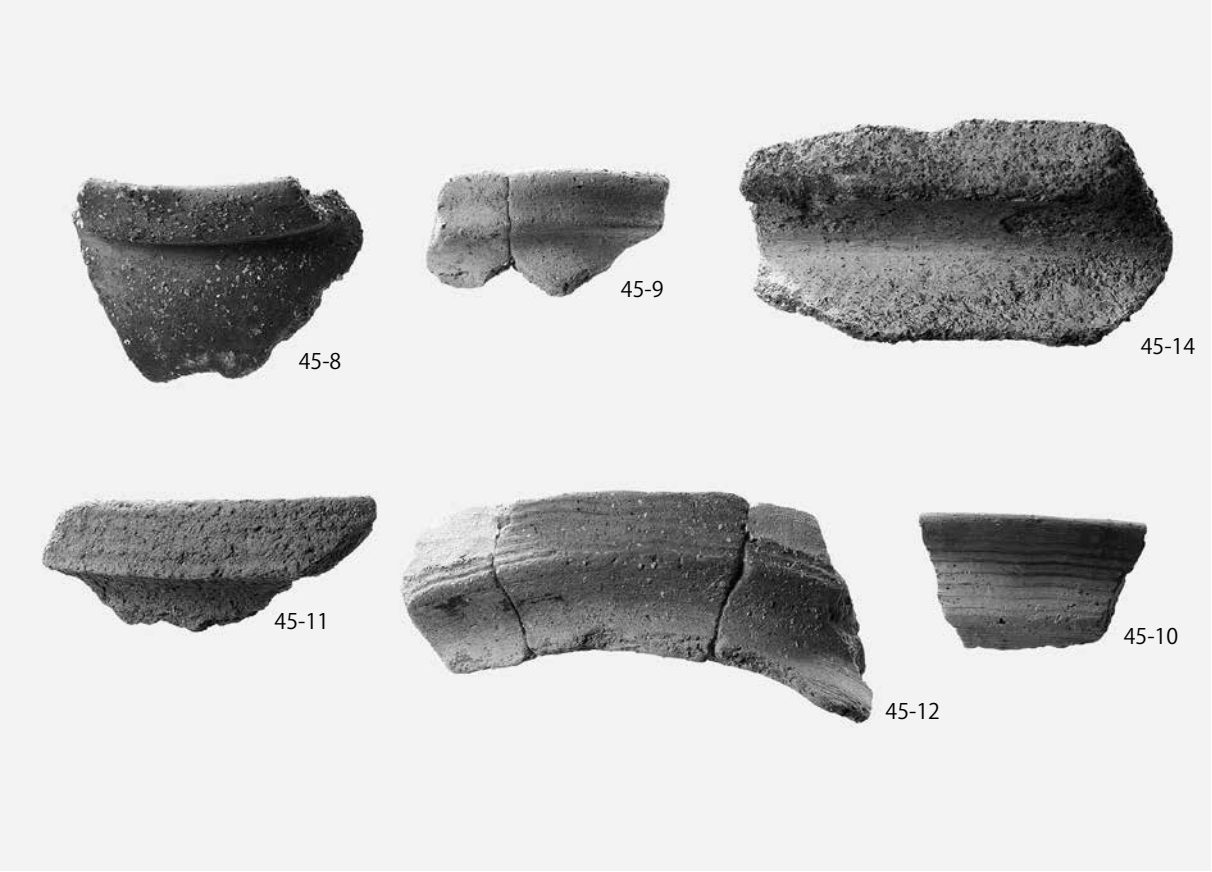
2． A 区包含層、加工段 1、SI03 出土石器



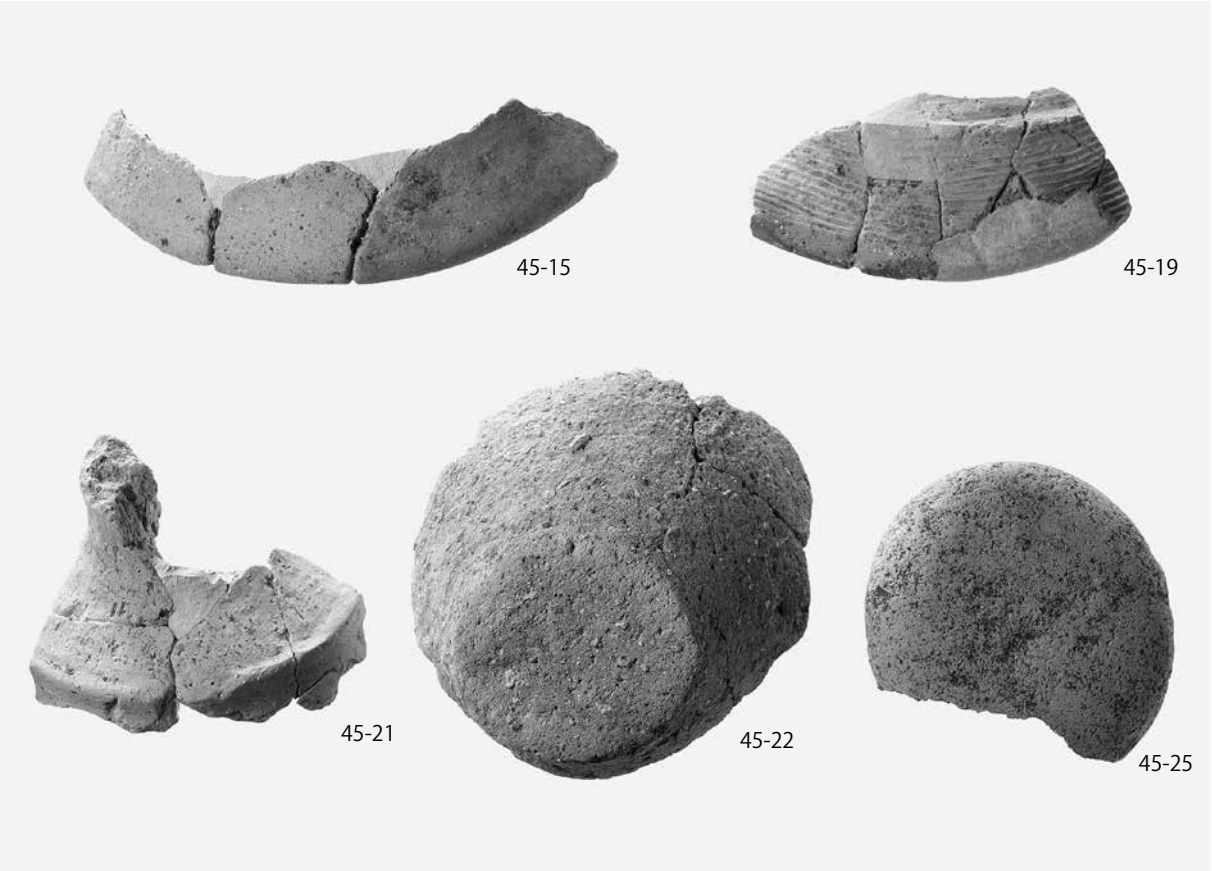
1． A 区包含層出土石器



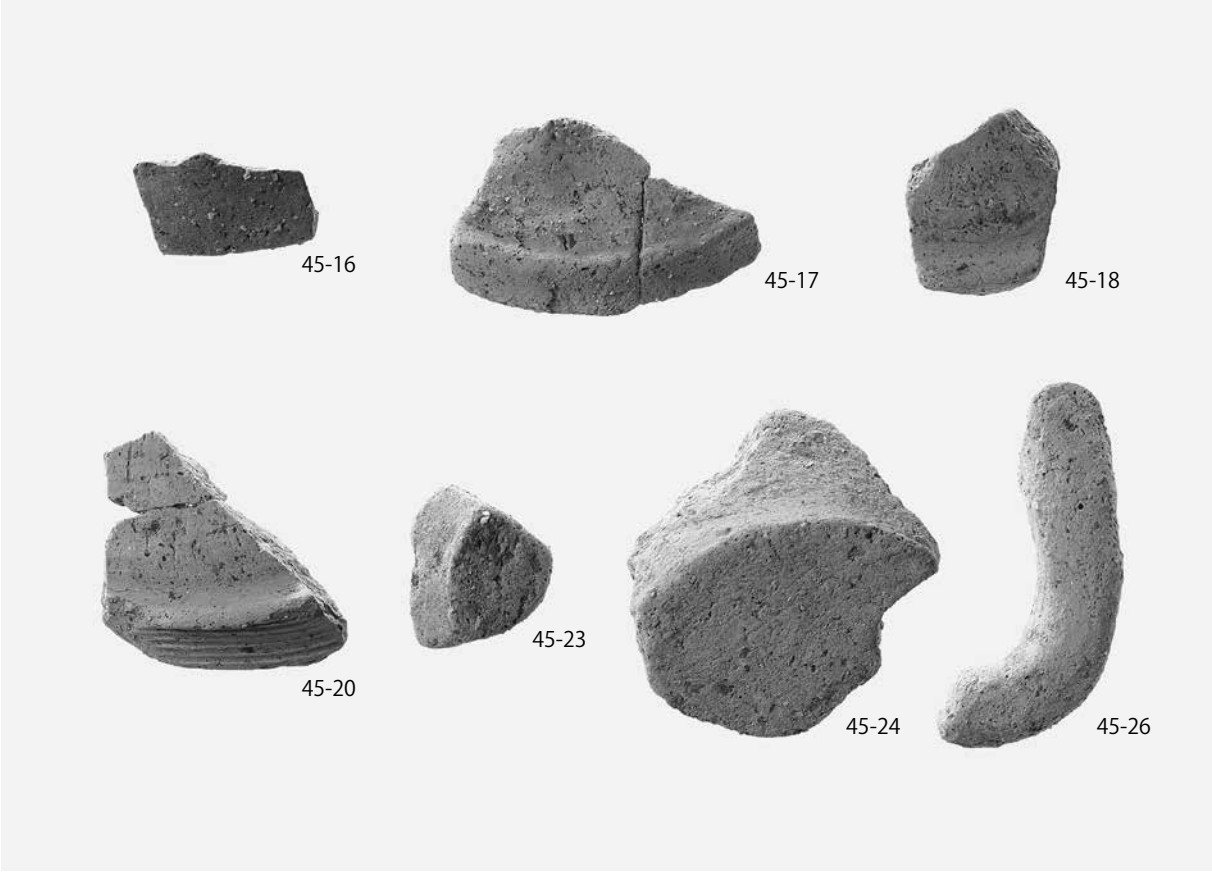
2． B 区 SI01-1 出土遺物



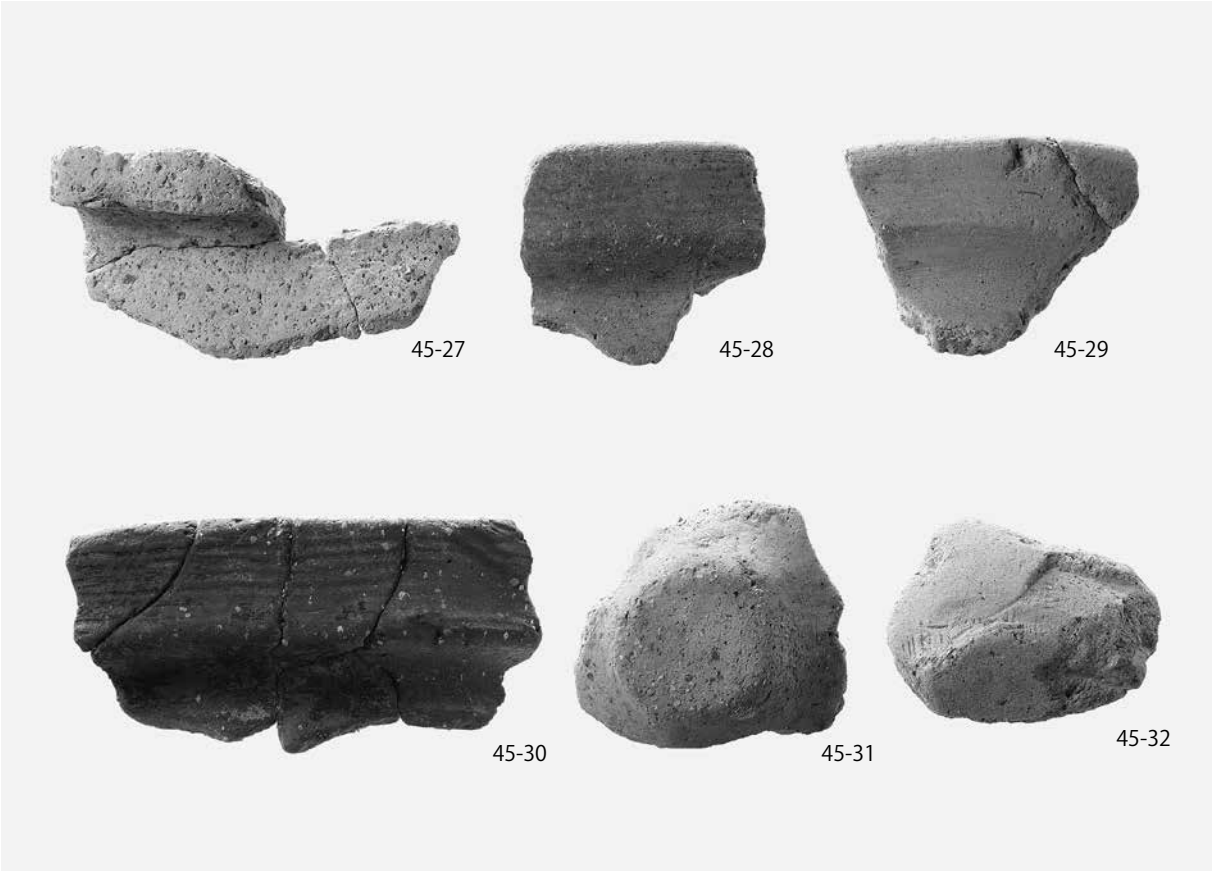
1． B 区 SI01-1 出土遺物



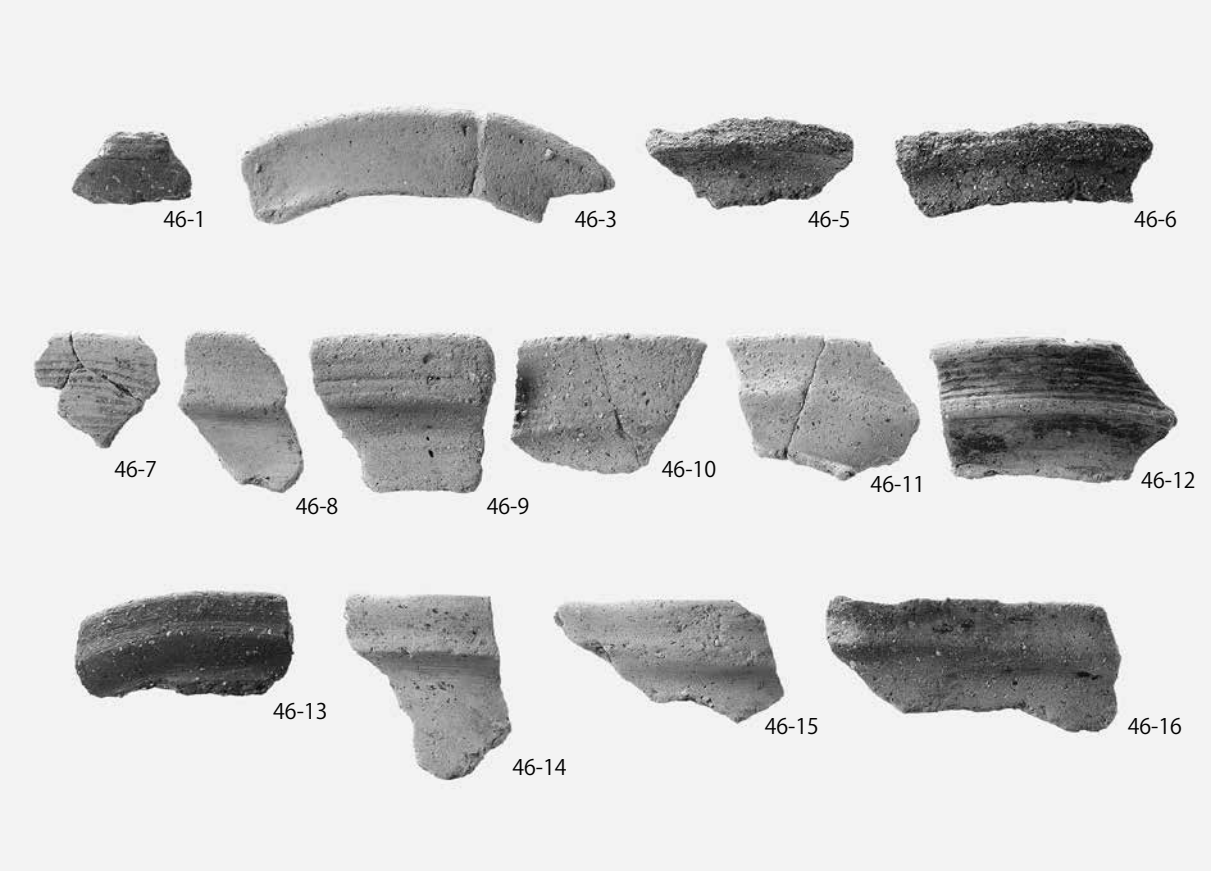
2． B 区 SI01-1 出土遺物



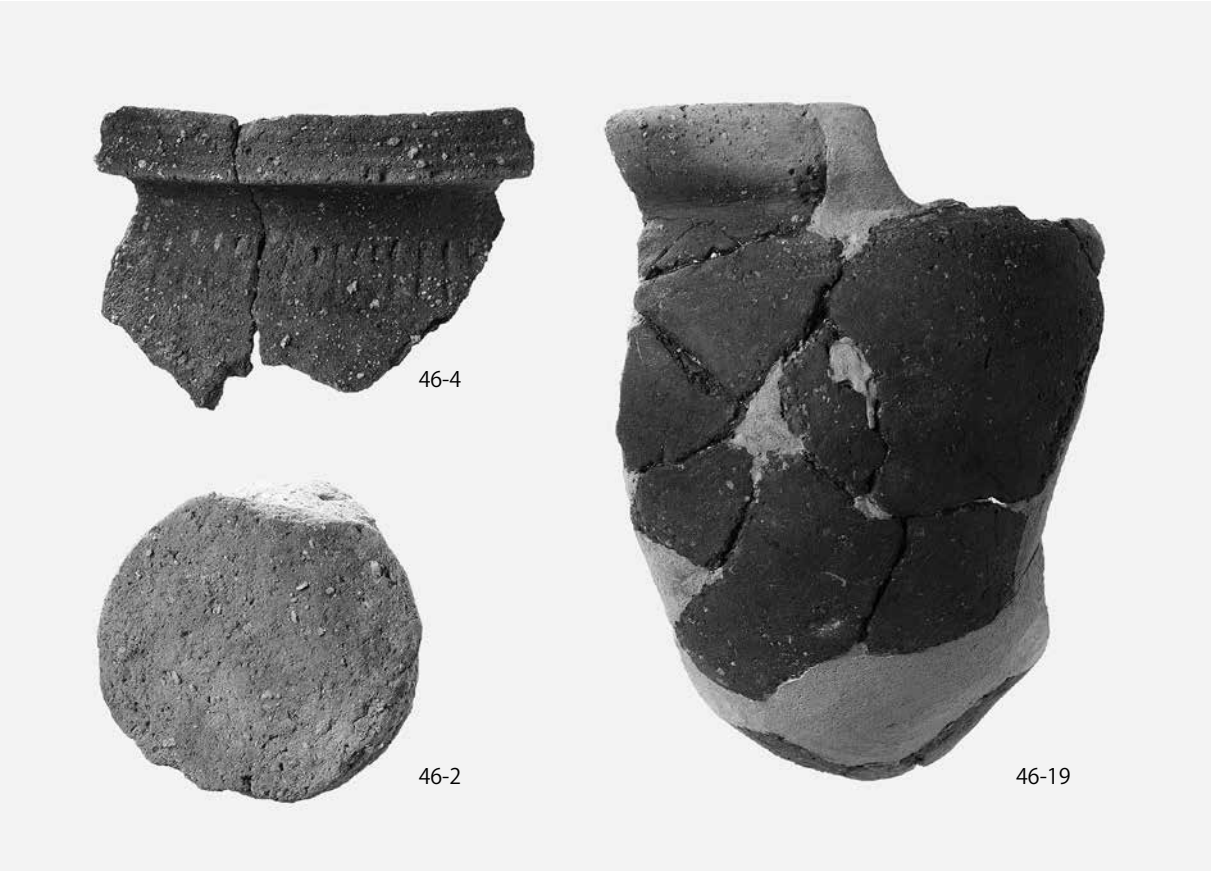
1． B 区 SI01-1 出土遺物



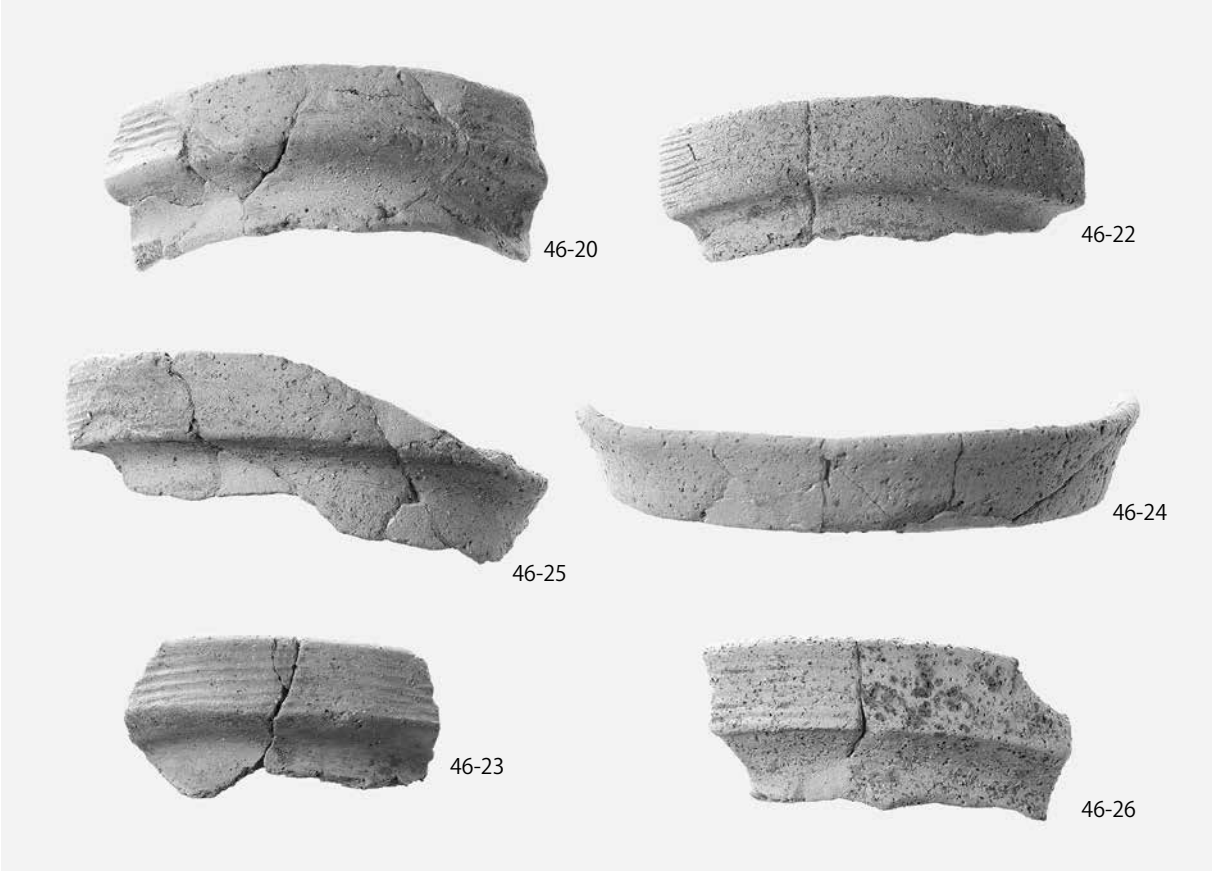
2． B 区 SI01-1 出土遺物



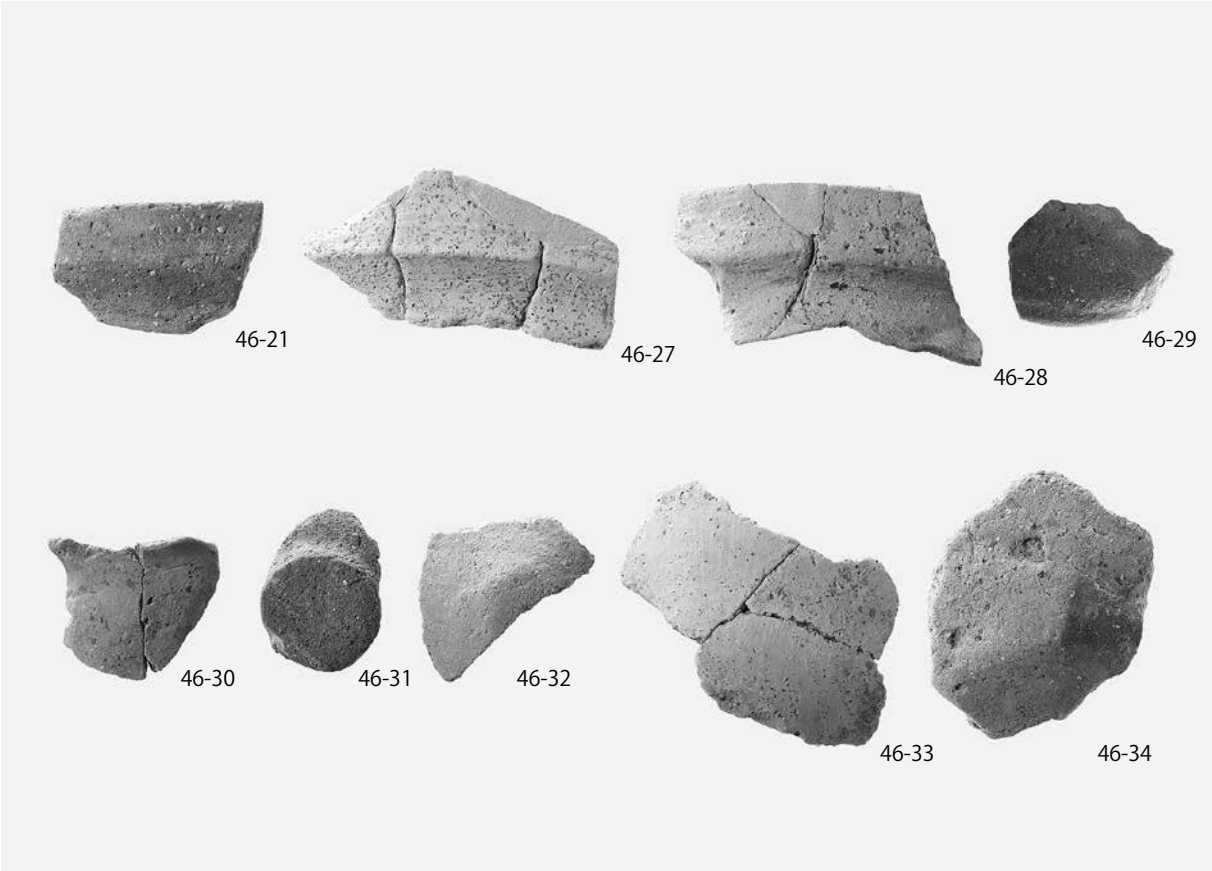
1． B 区 SD02 出土遺物



2． B 区 SD02 出土遺物

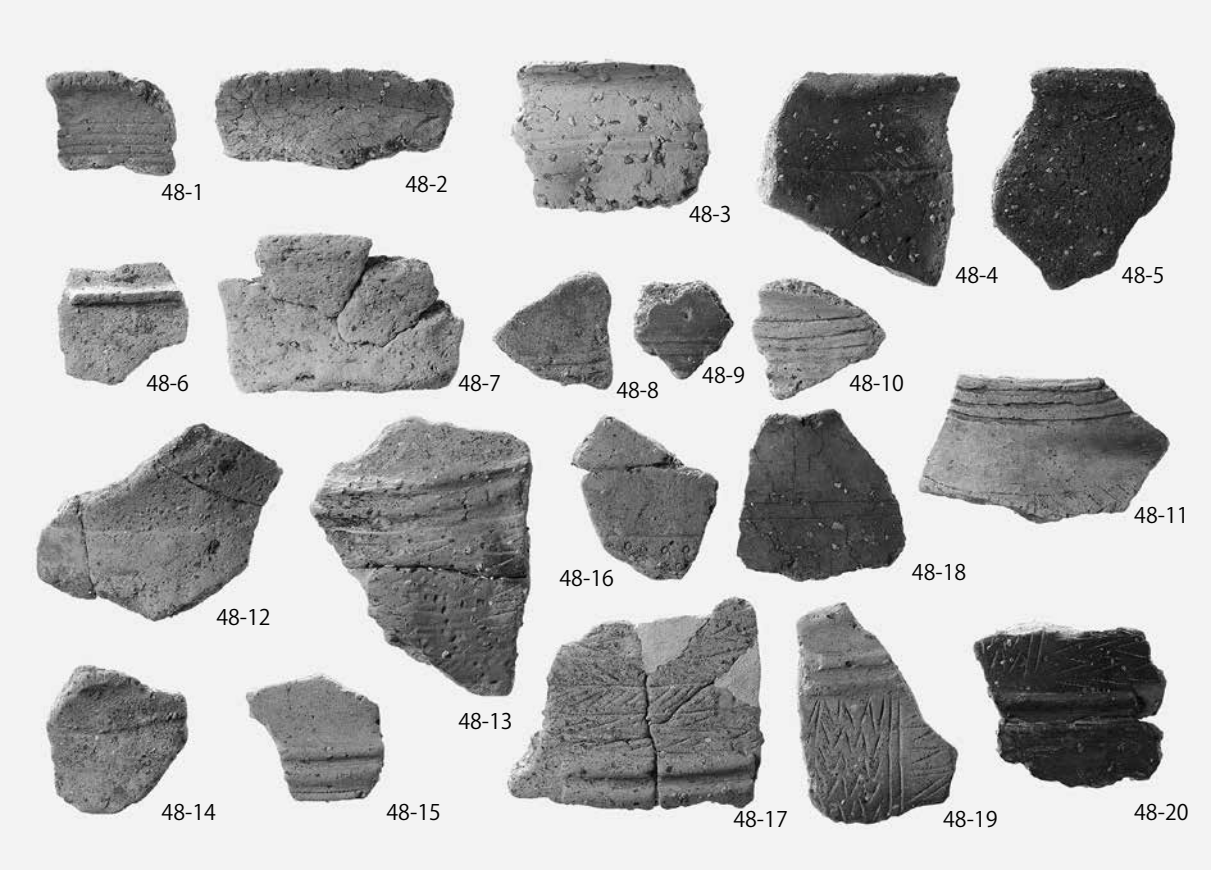


1． B 区 SD02 出土遺物

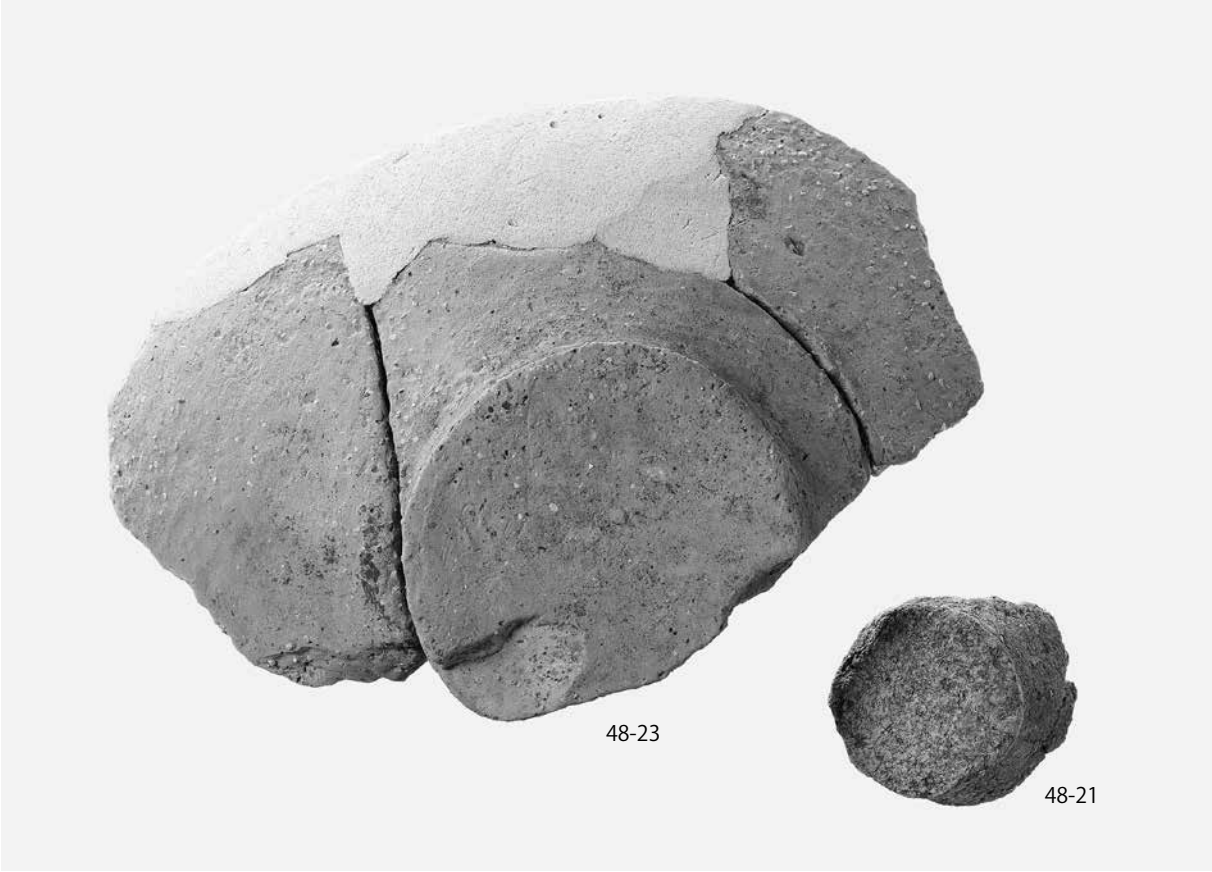


2． B 区 SD02 出土遺物

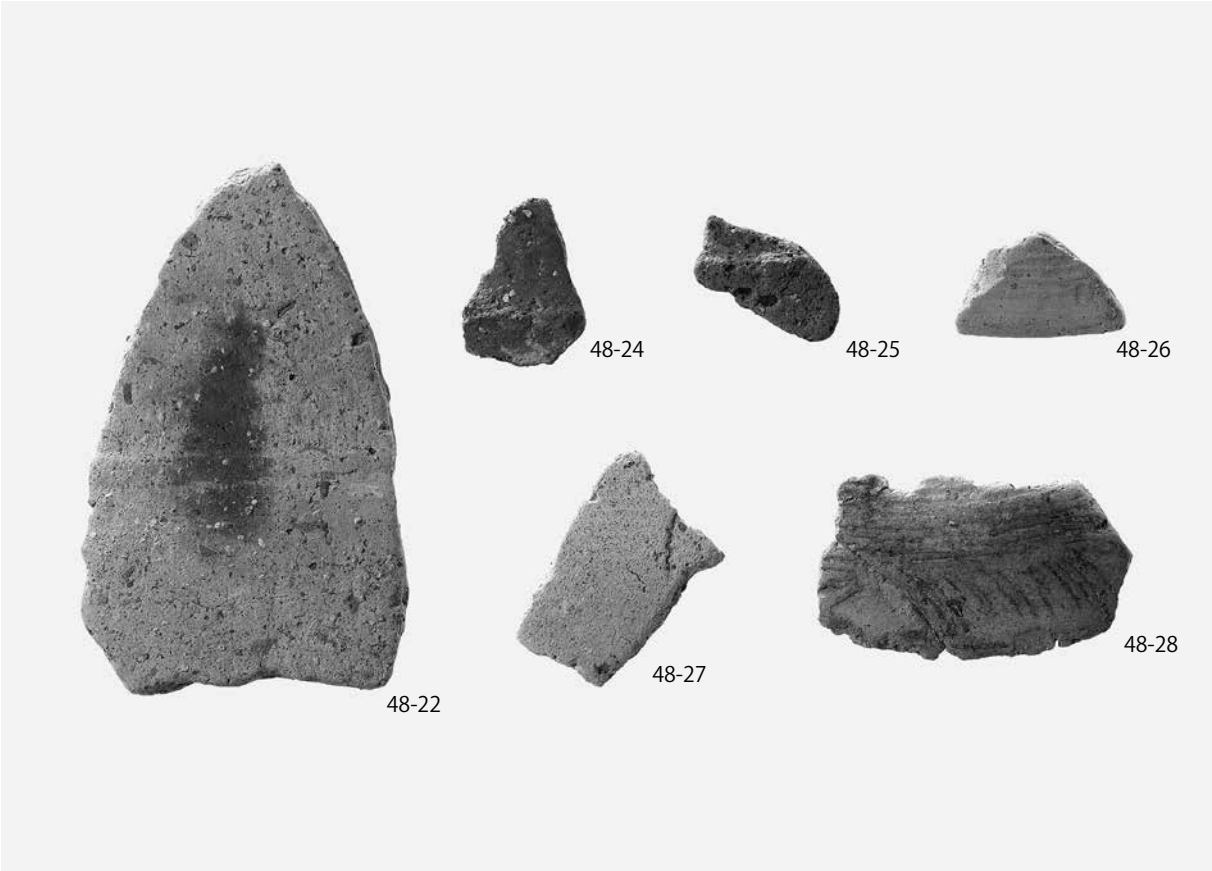
1．B 区 SI01-1、SD02 出土遺物



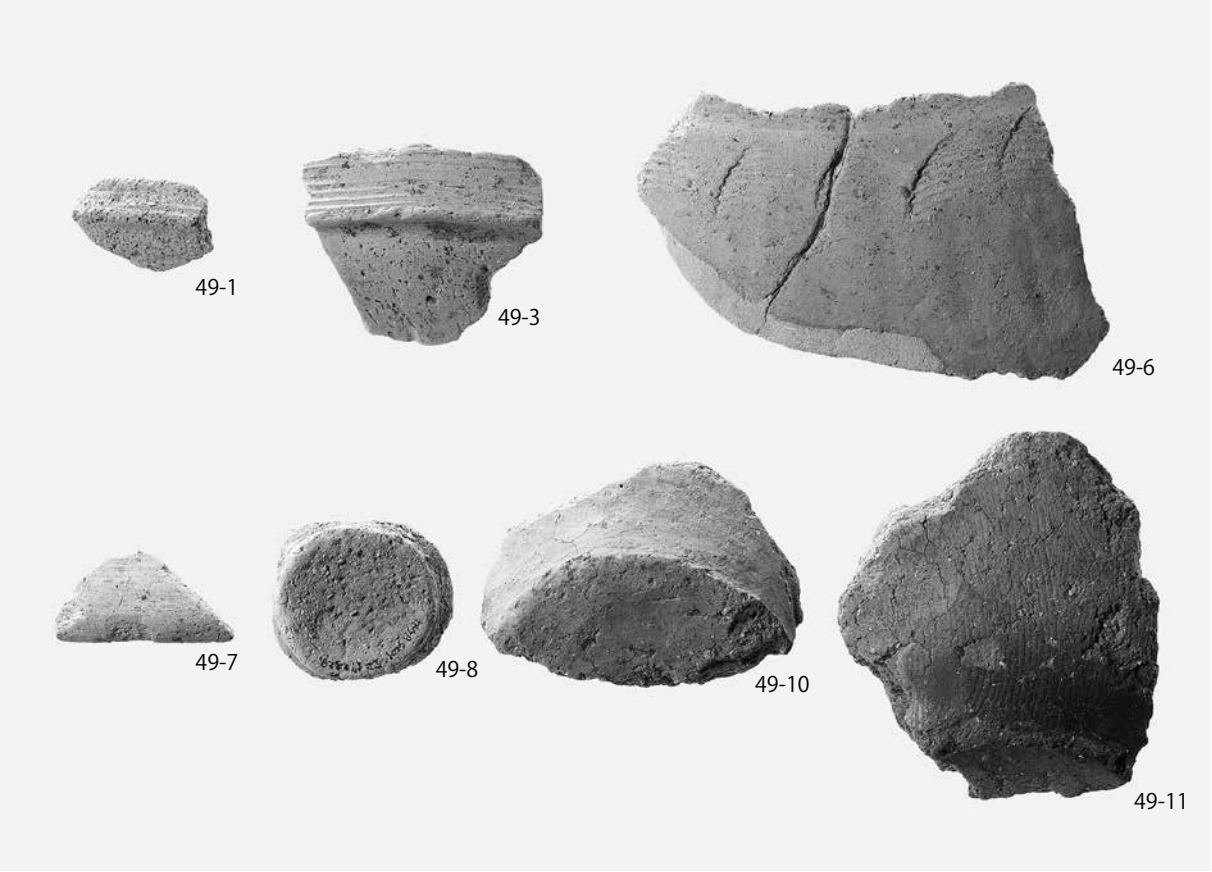
2． B 区 SI01-2 出土遺物



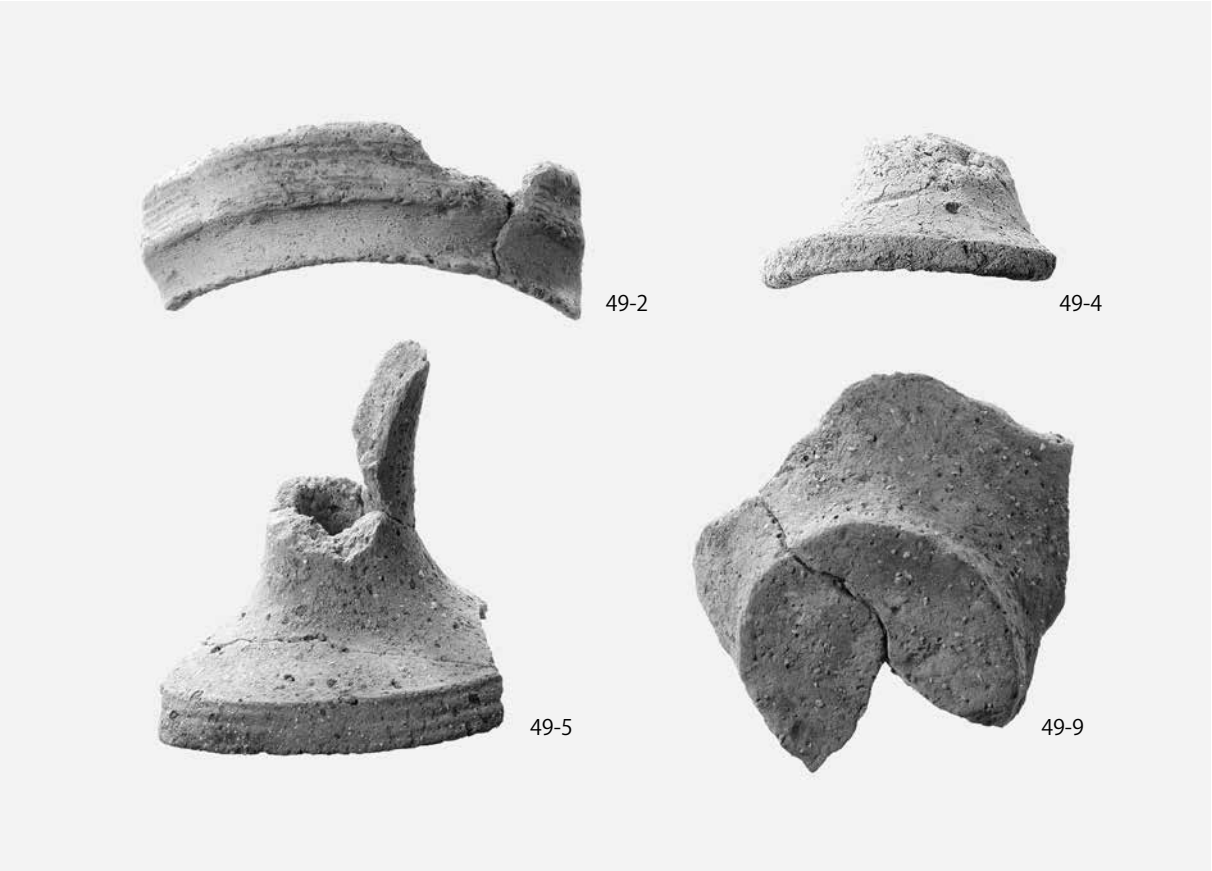
1． B 区 SI01-2 出土遺物



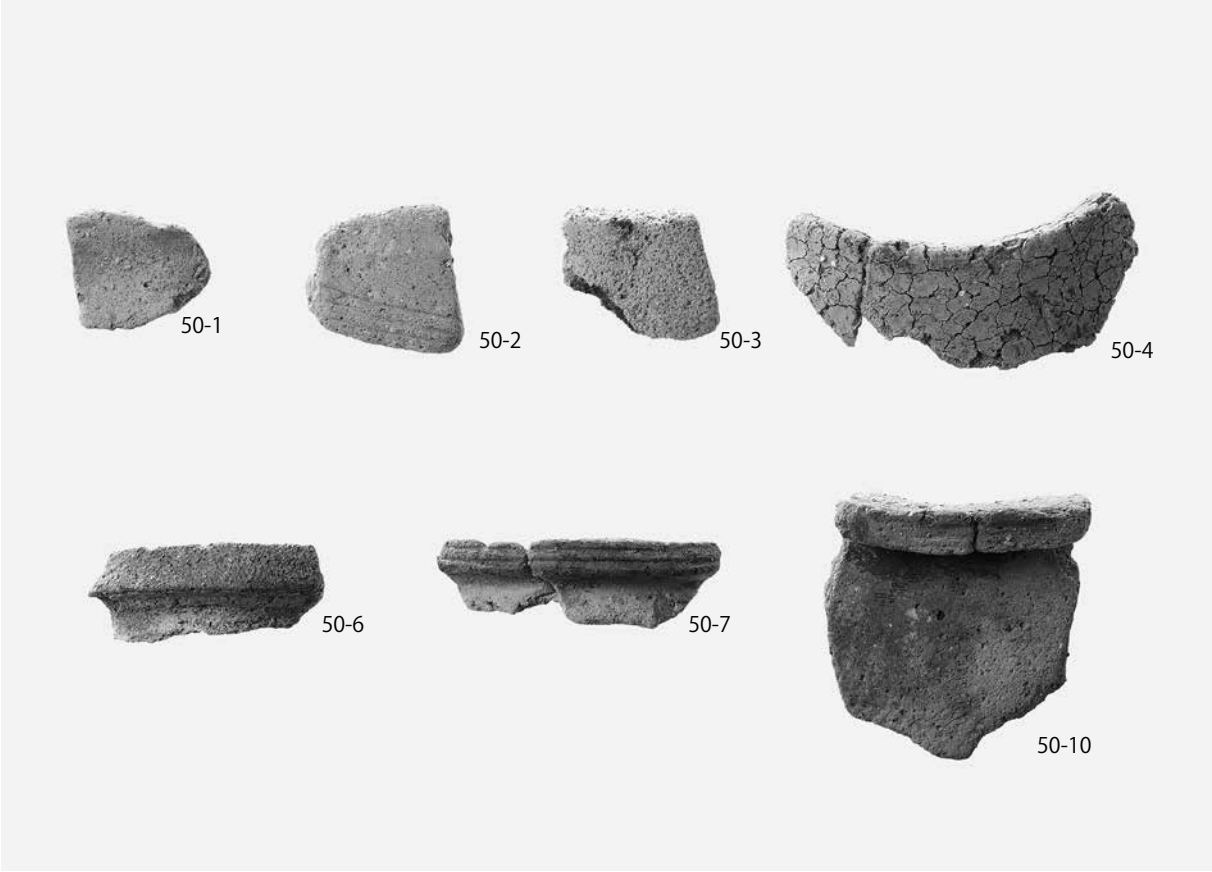
2． B 区 SI01-2 出土遺物



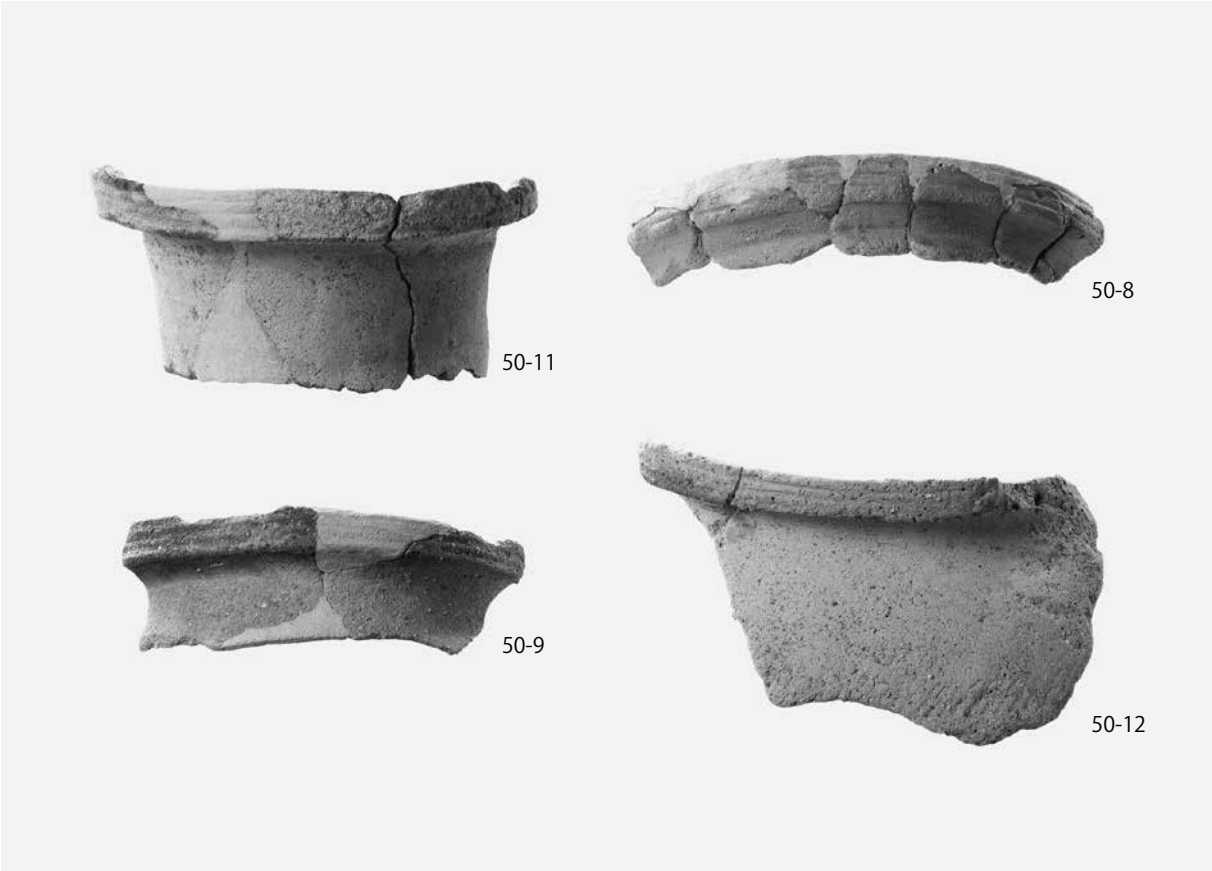
1． B 区 SI01-2 出土遺物



2． B 区 SI01-2 出土遺物

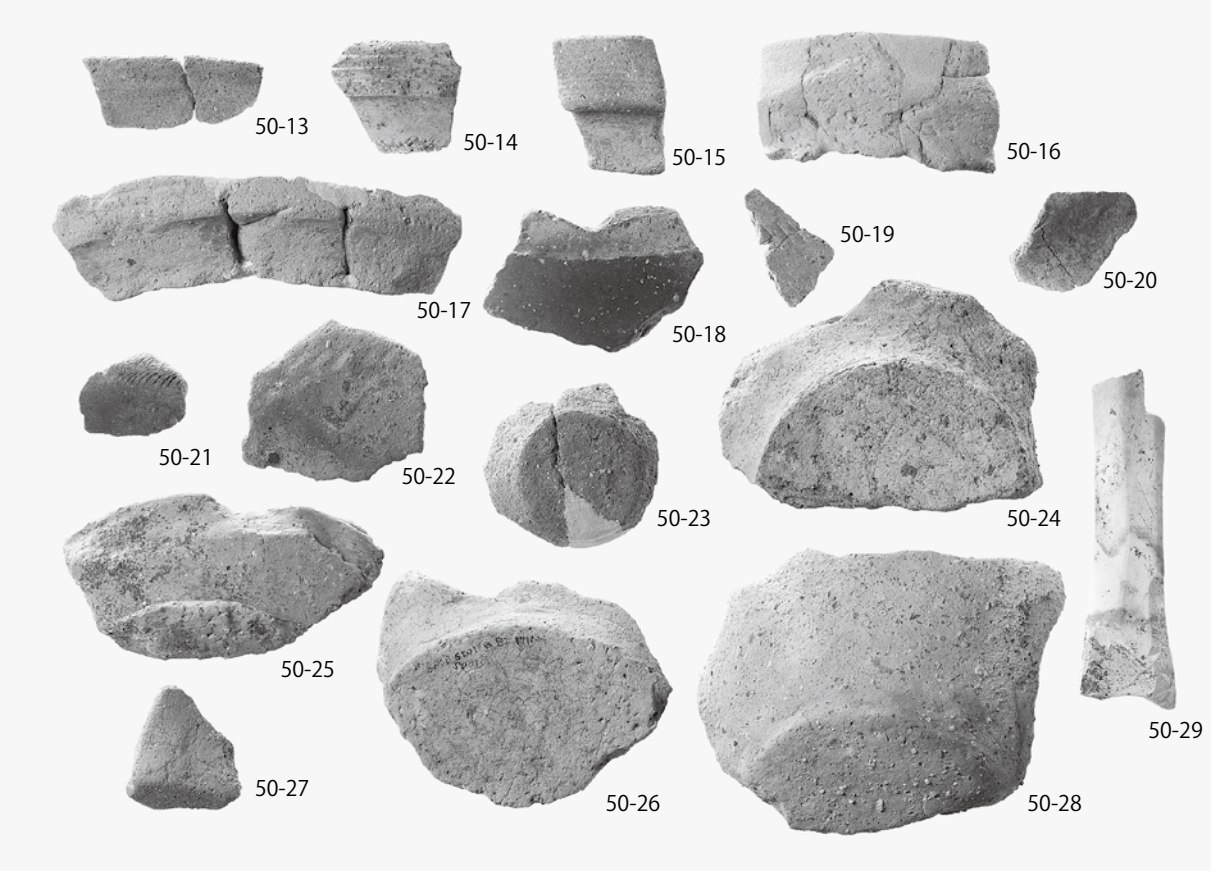


1． B 区 SD01 出土遺物



2． B 区 SD01 出土遺物

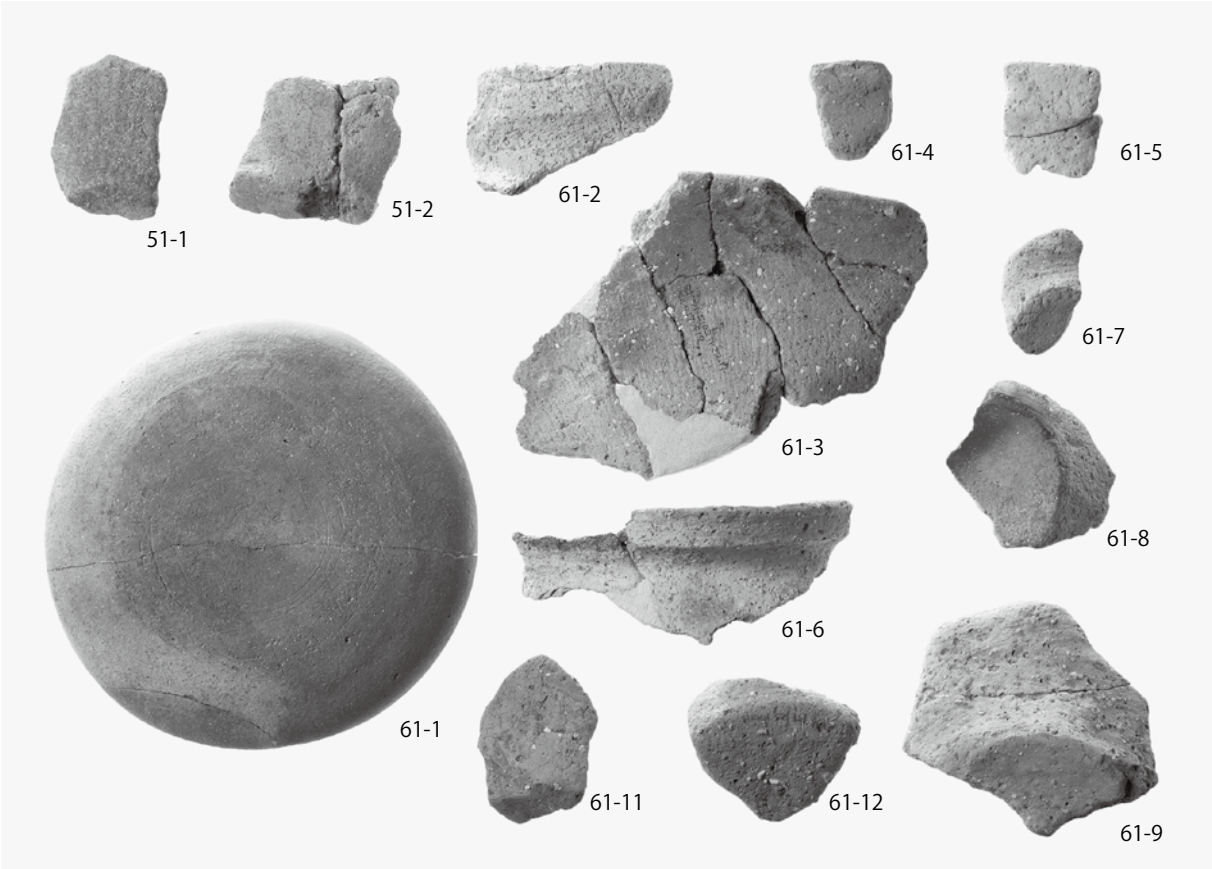
図版 50



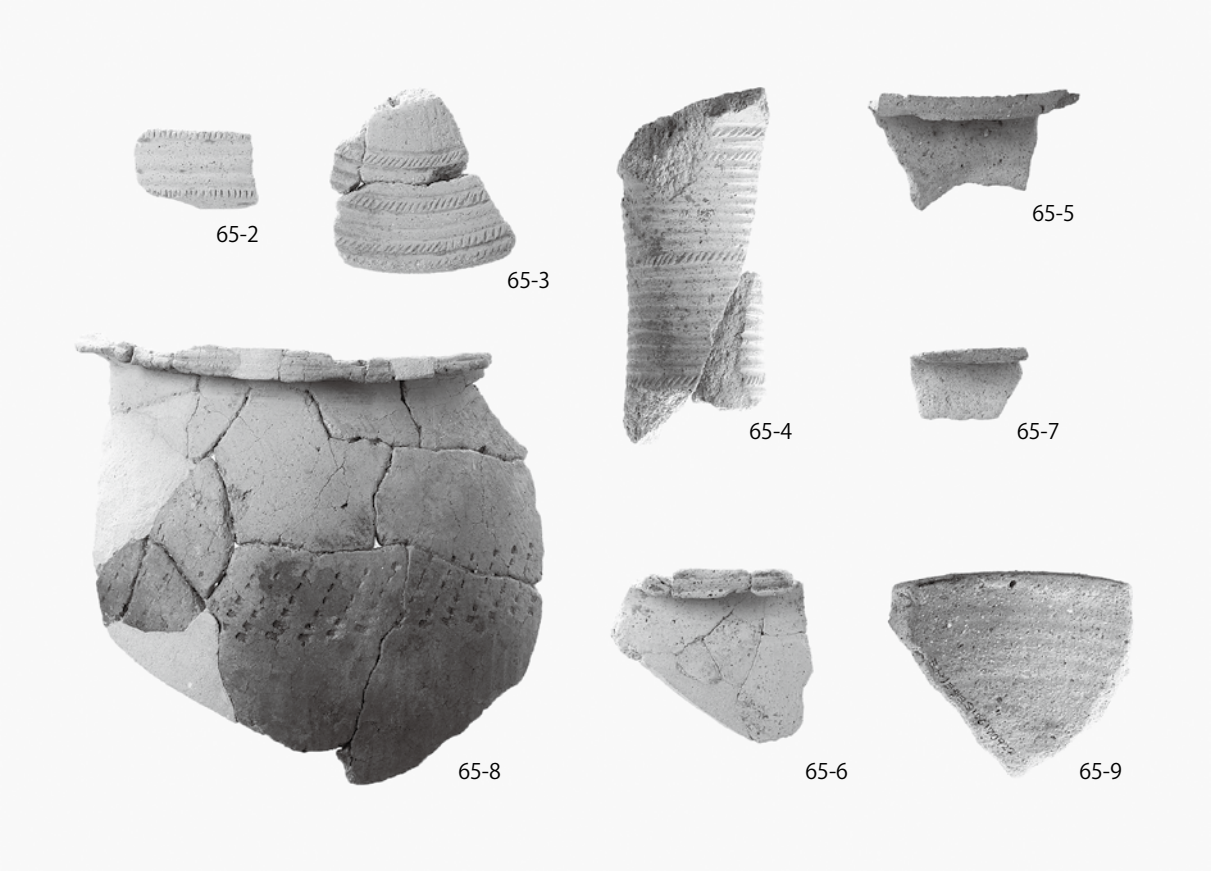
1．B 区 SD01 出土遺物

2． B 区 SD05 出土遺物

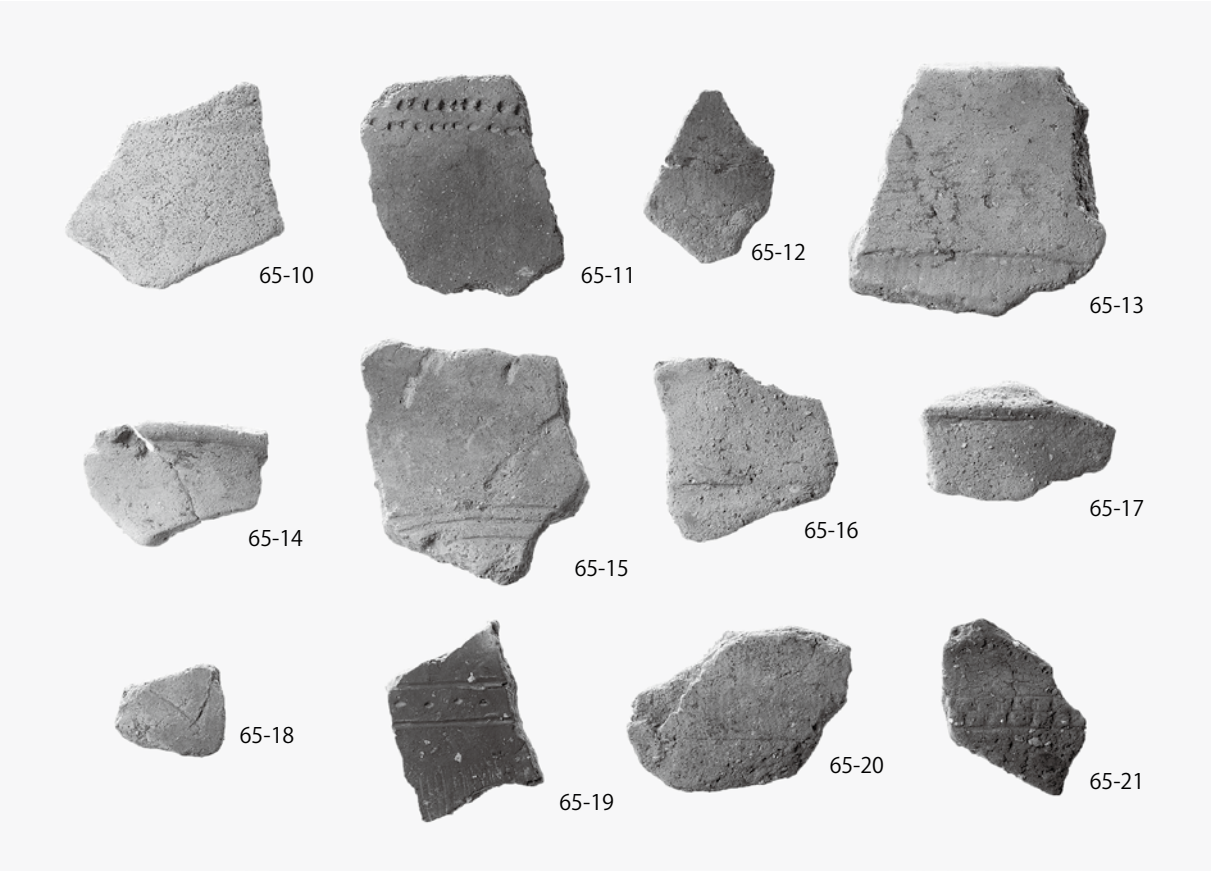
1． B 区 SD01、SI02･06 出土遺物



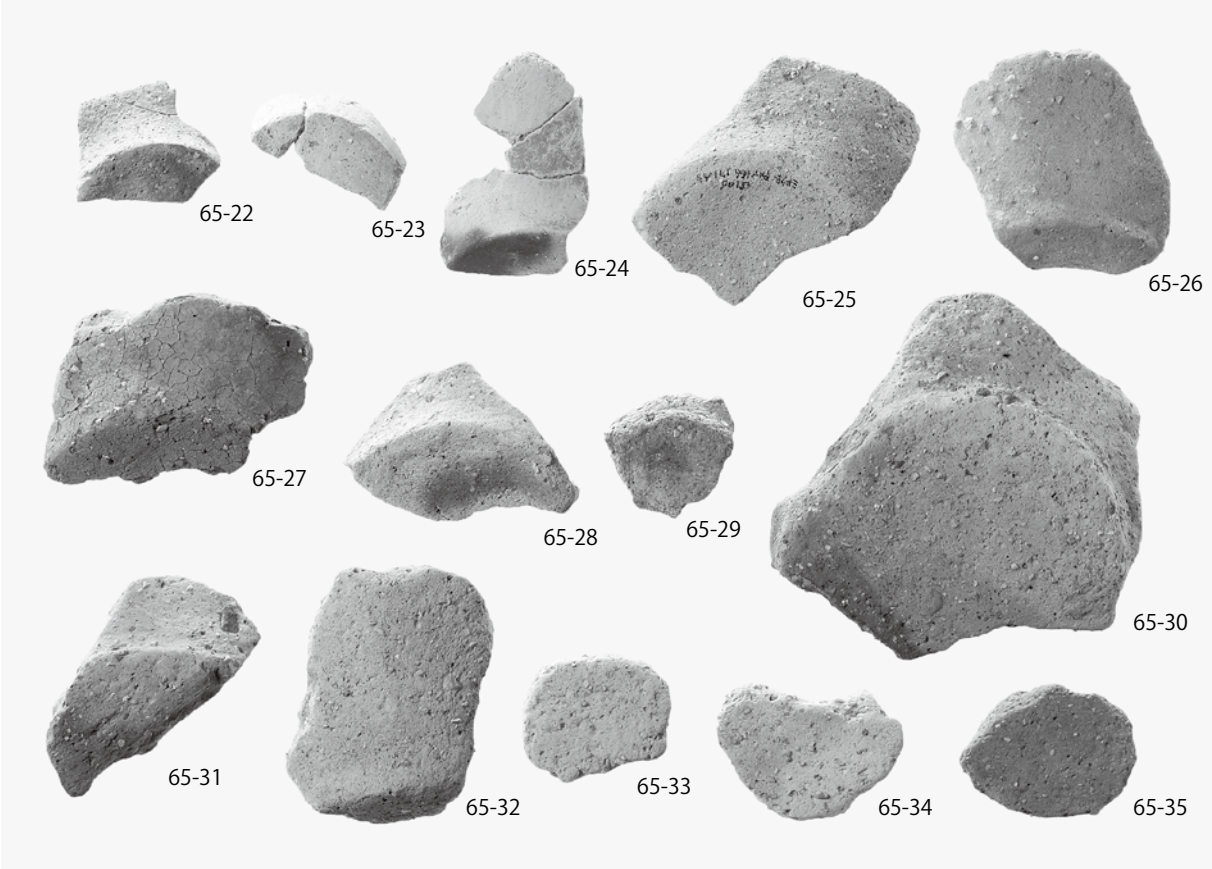
2． B 区 SD01・03、SI02~05 出土遺物



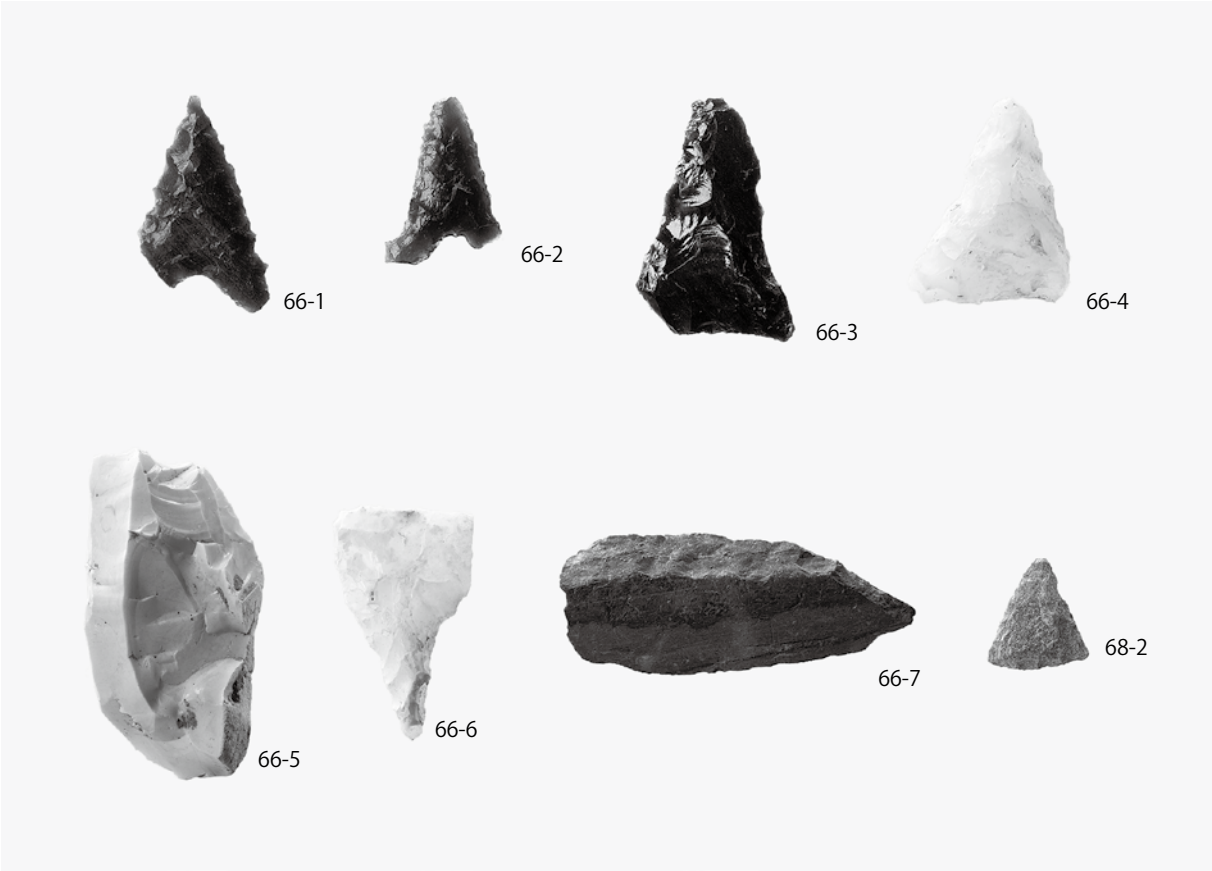
1．B 区 SI06 出土遺物



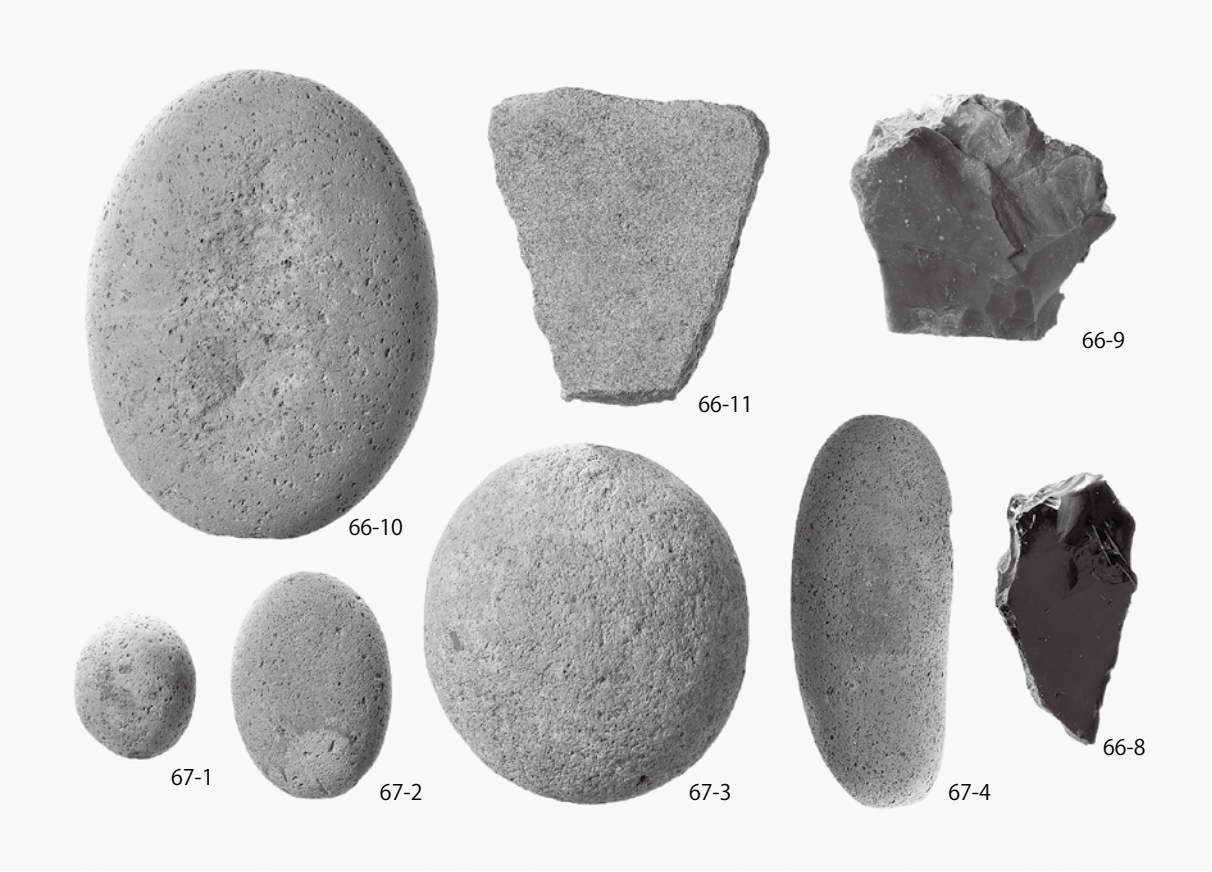
2． B 区 SI06 出土遺物



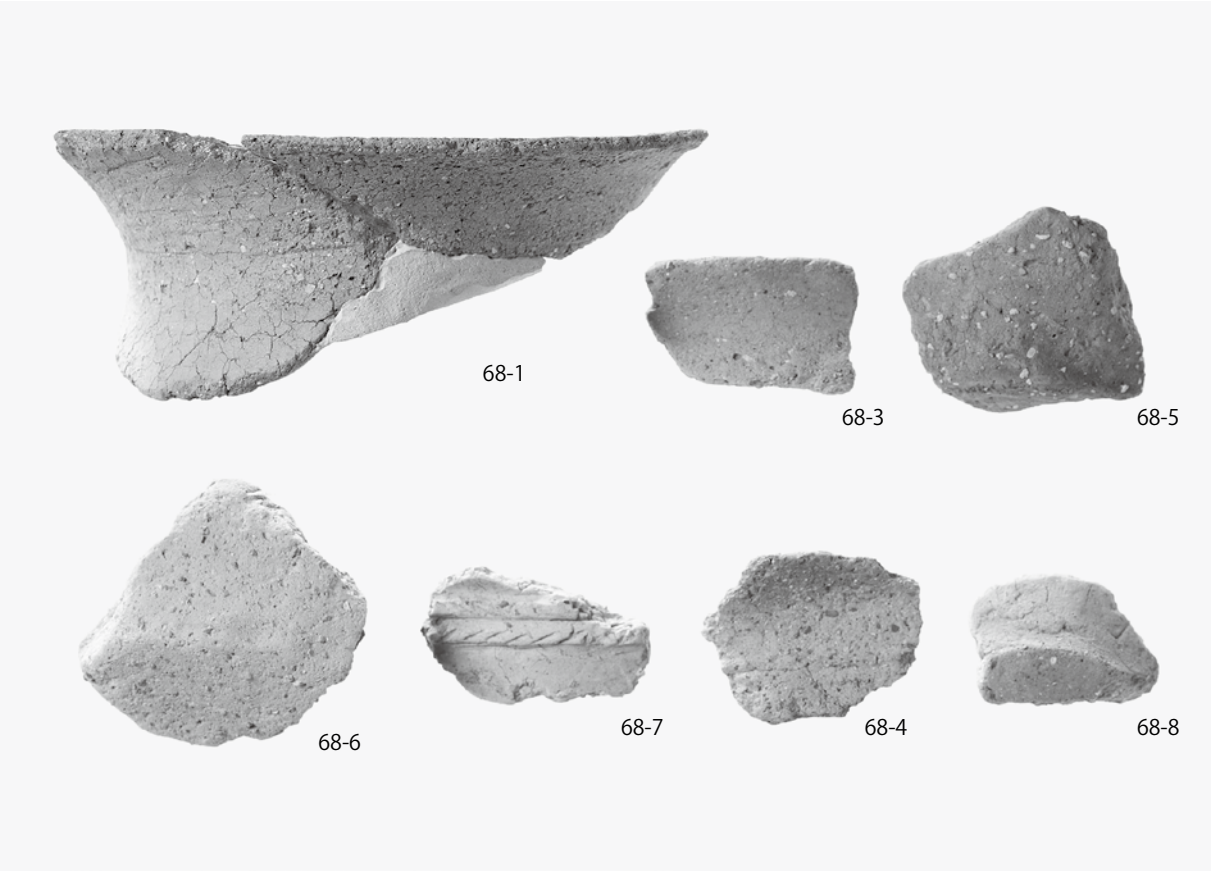
1． B 区 SI06 出土遺物



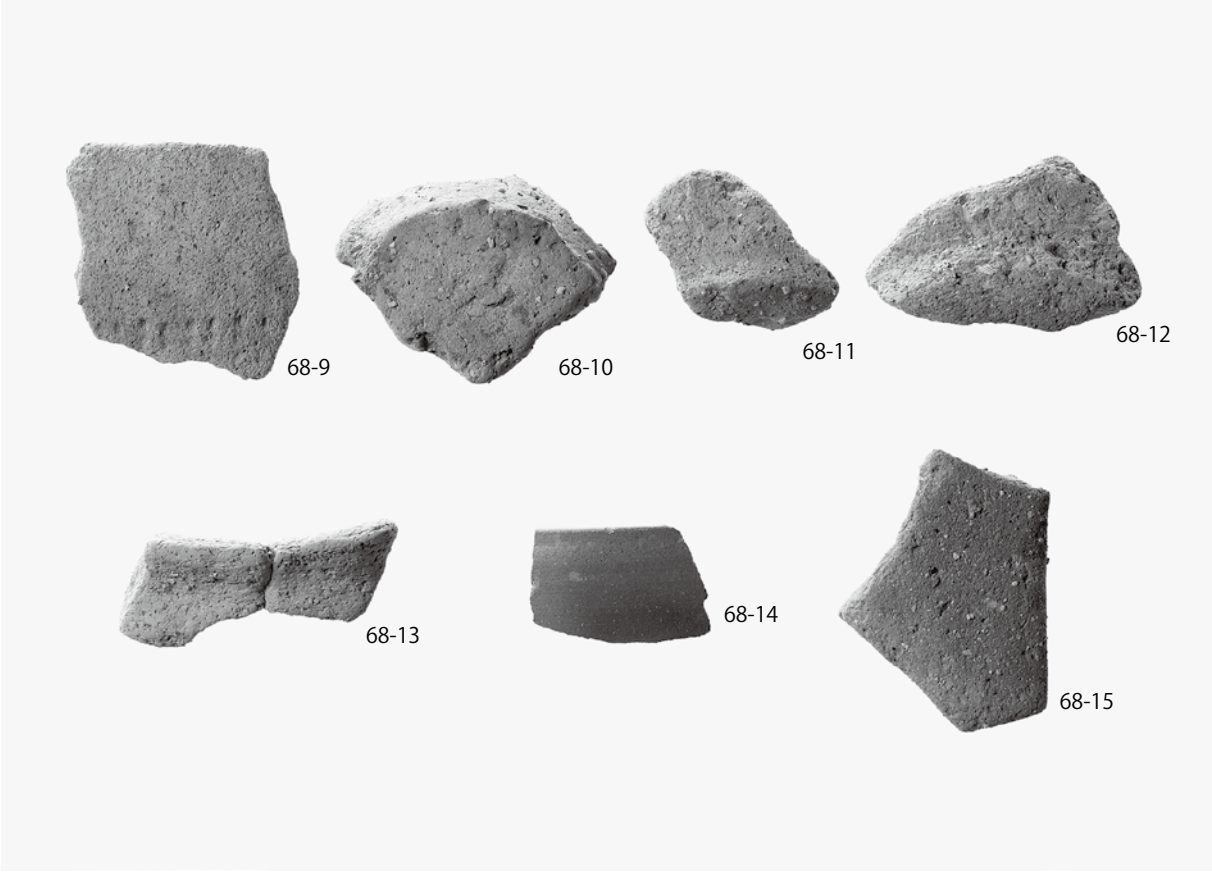
2． A・B 区遺構出土石器



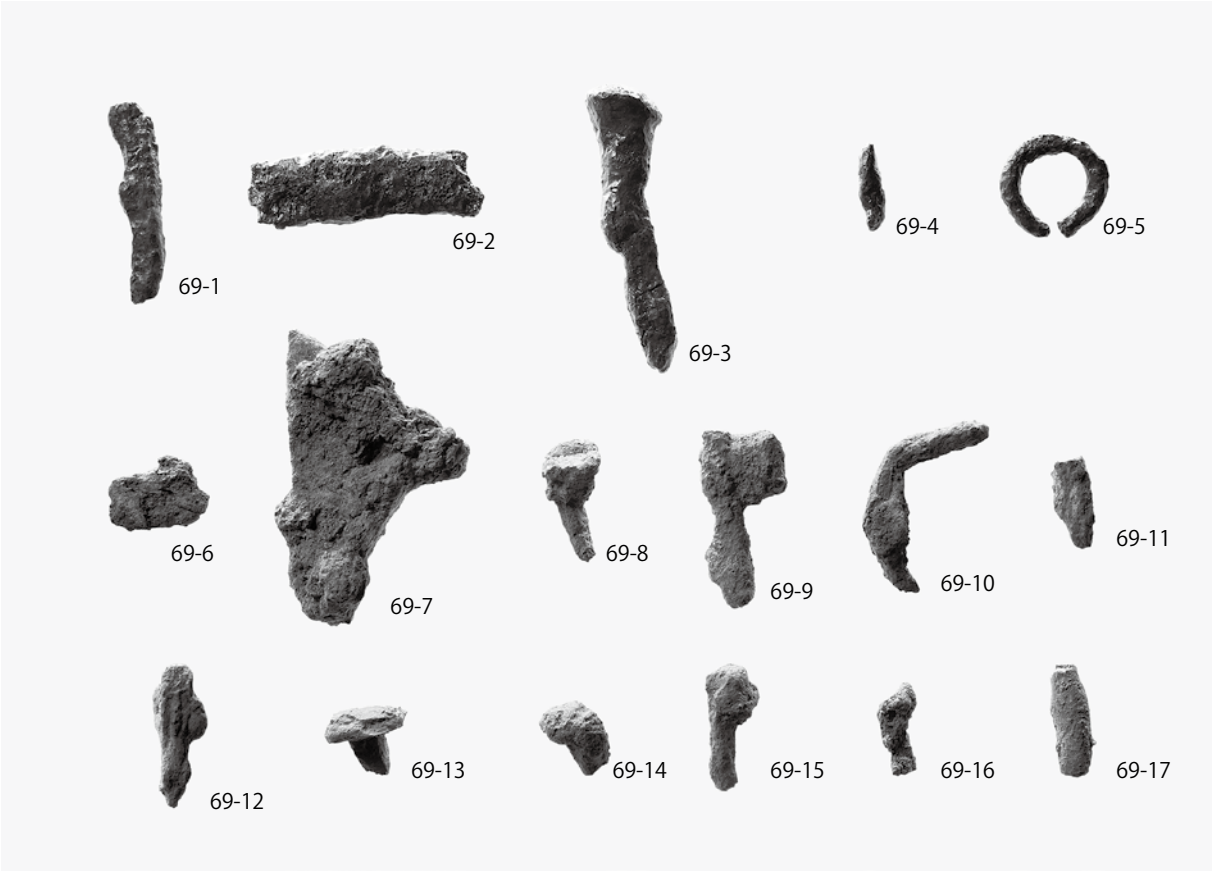
1．B 区遺構出土石器



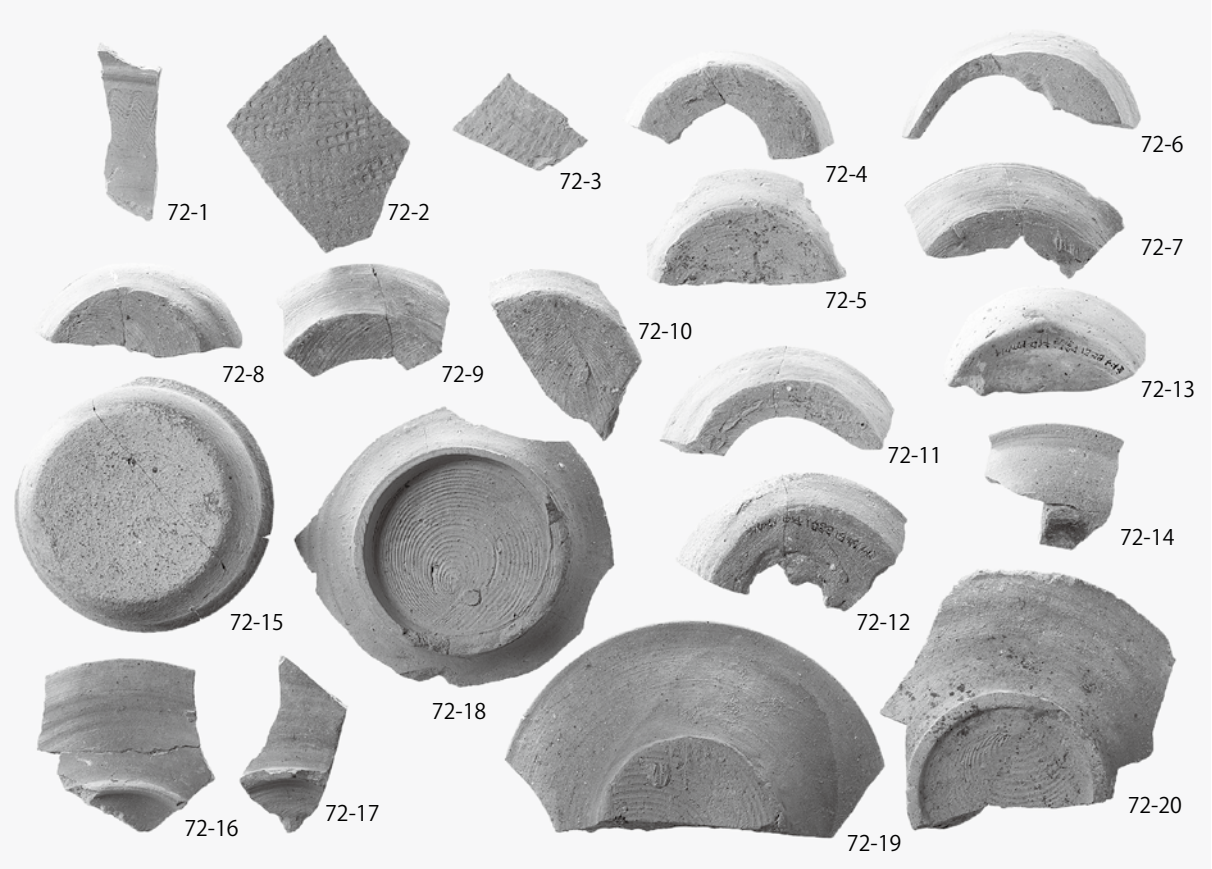
2． A・B 区ピット出土遺物



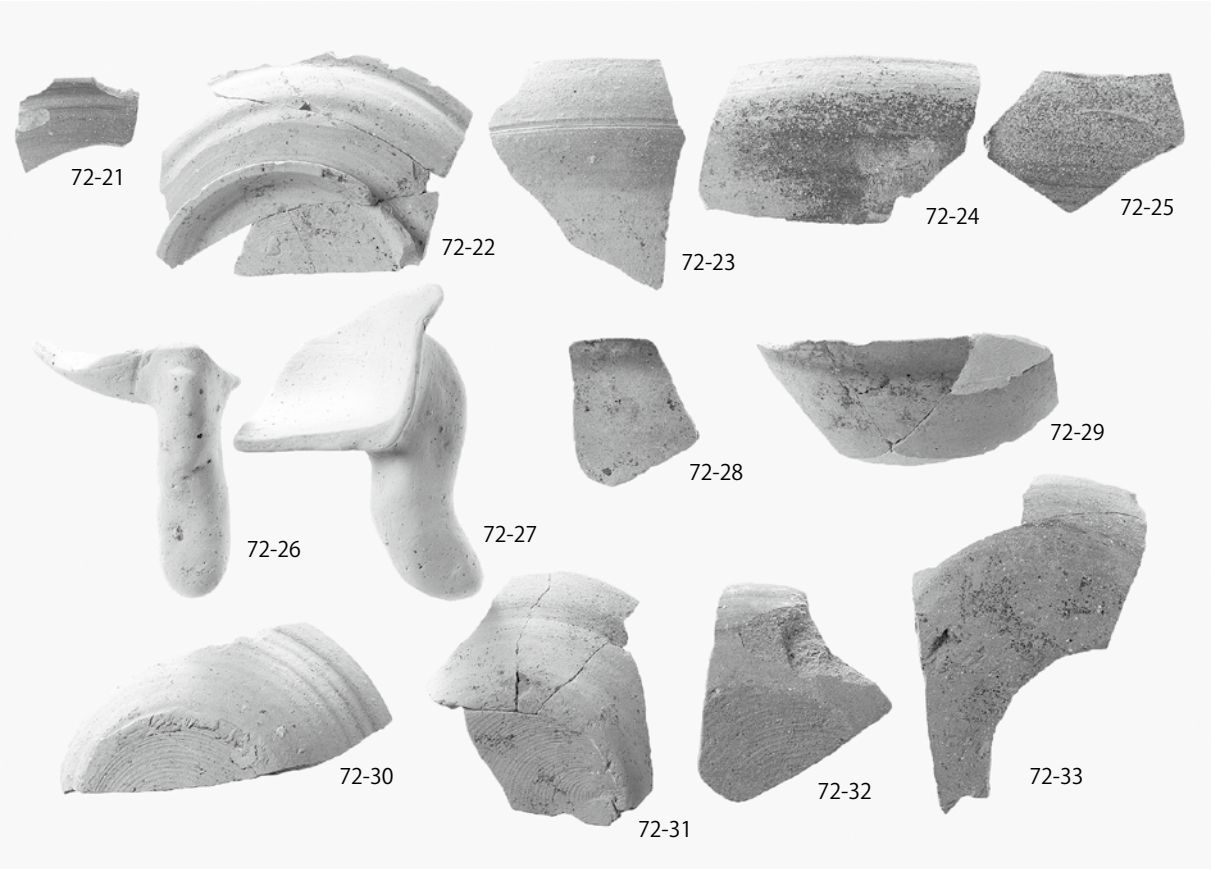
1． B 区ピット出土遺物



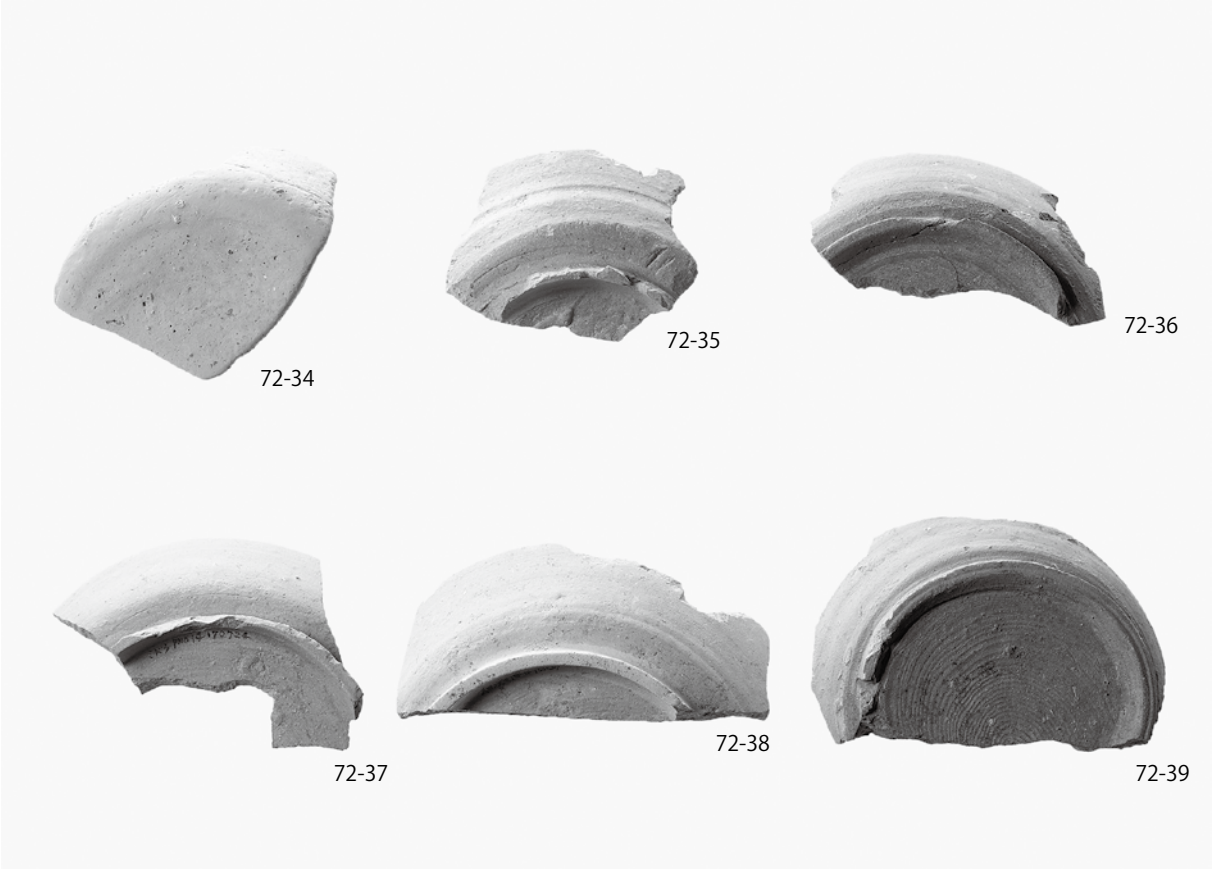
2． B 区出土鉄器



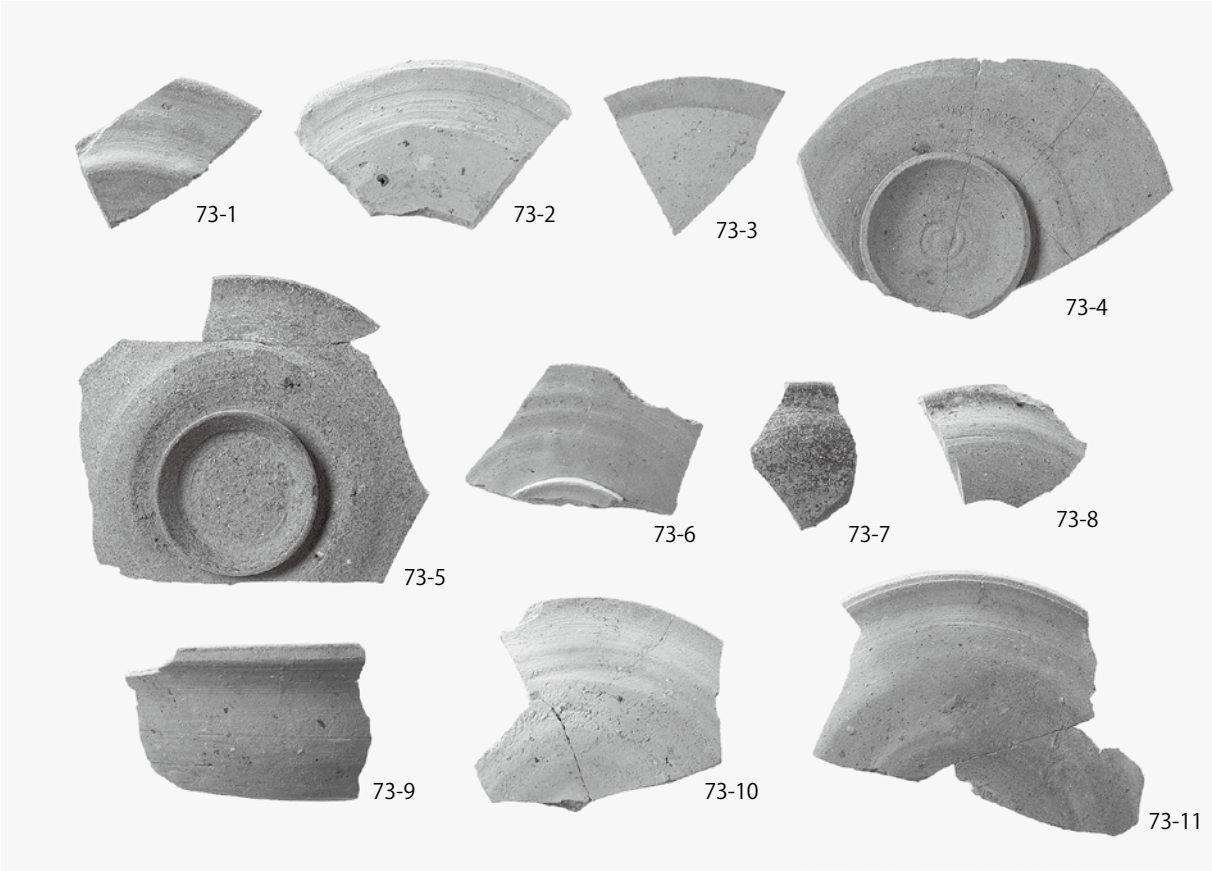
1．B 区包含層 1 出土須恵器



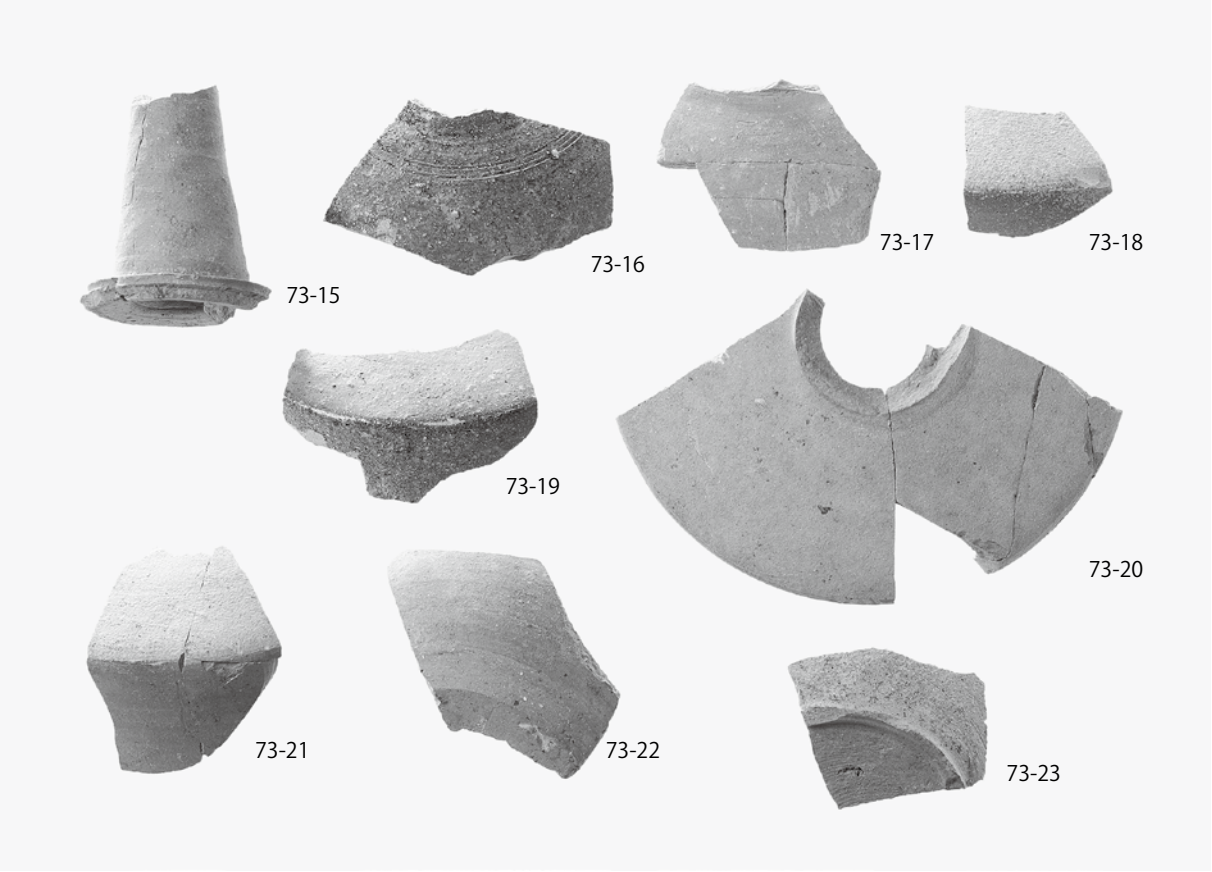
2． B 区包含層 1 出土須恵器



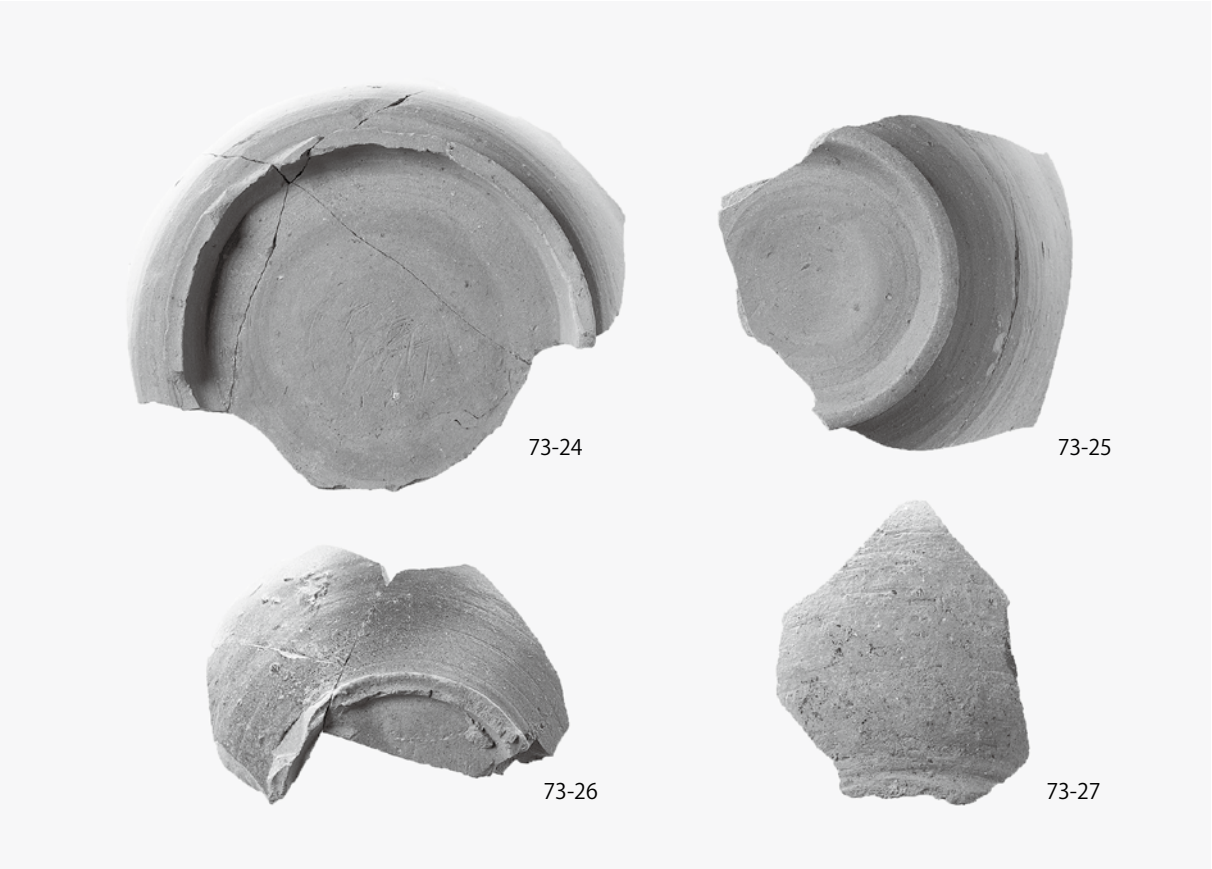
1． B 区包含層 1 出土須恵器



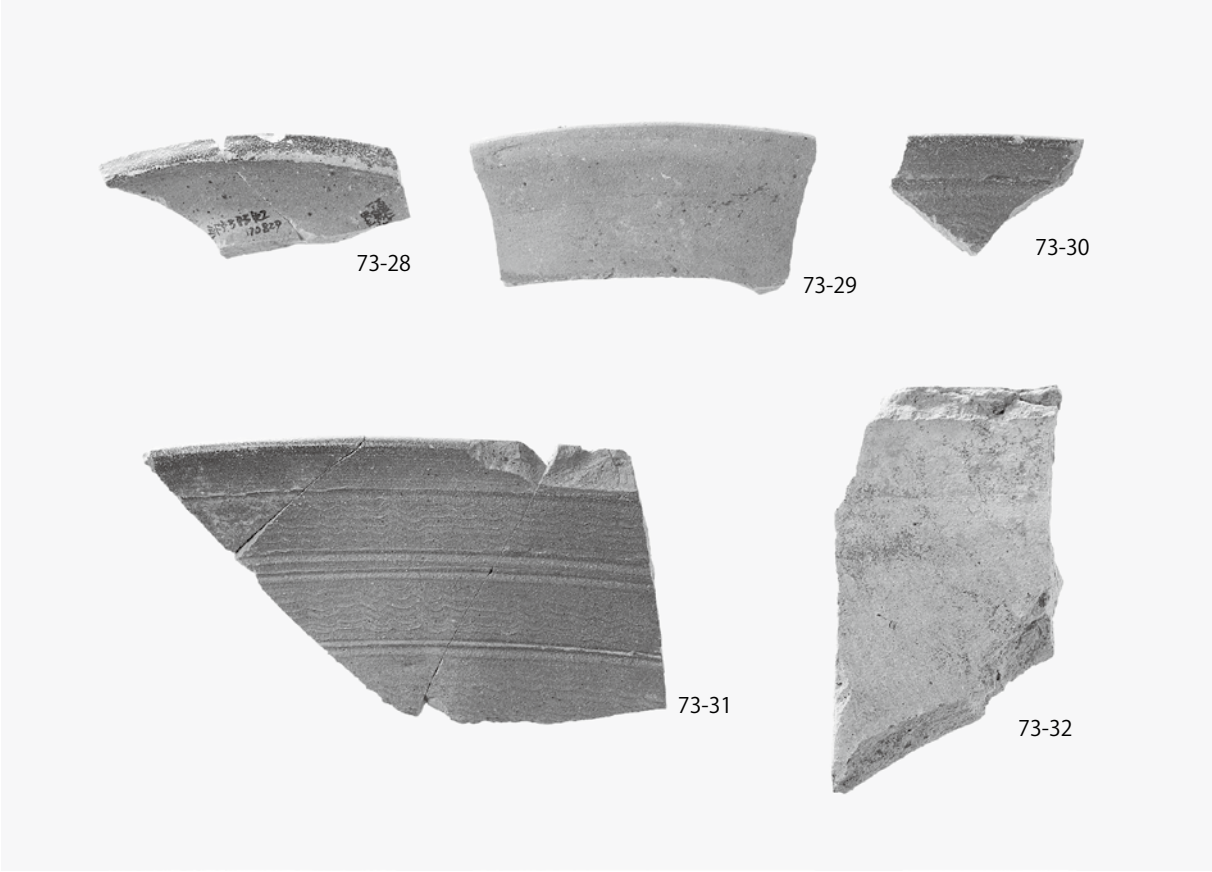
2． B 区包含層 1 出土須恵器



1．B 区包含層 1 出土須恵器

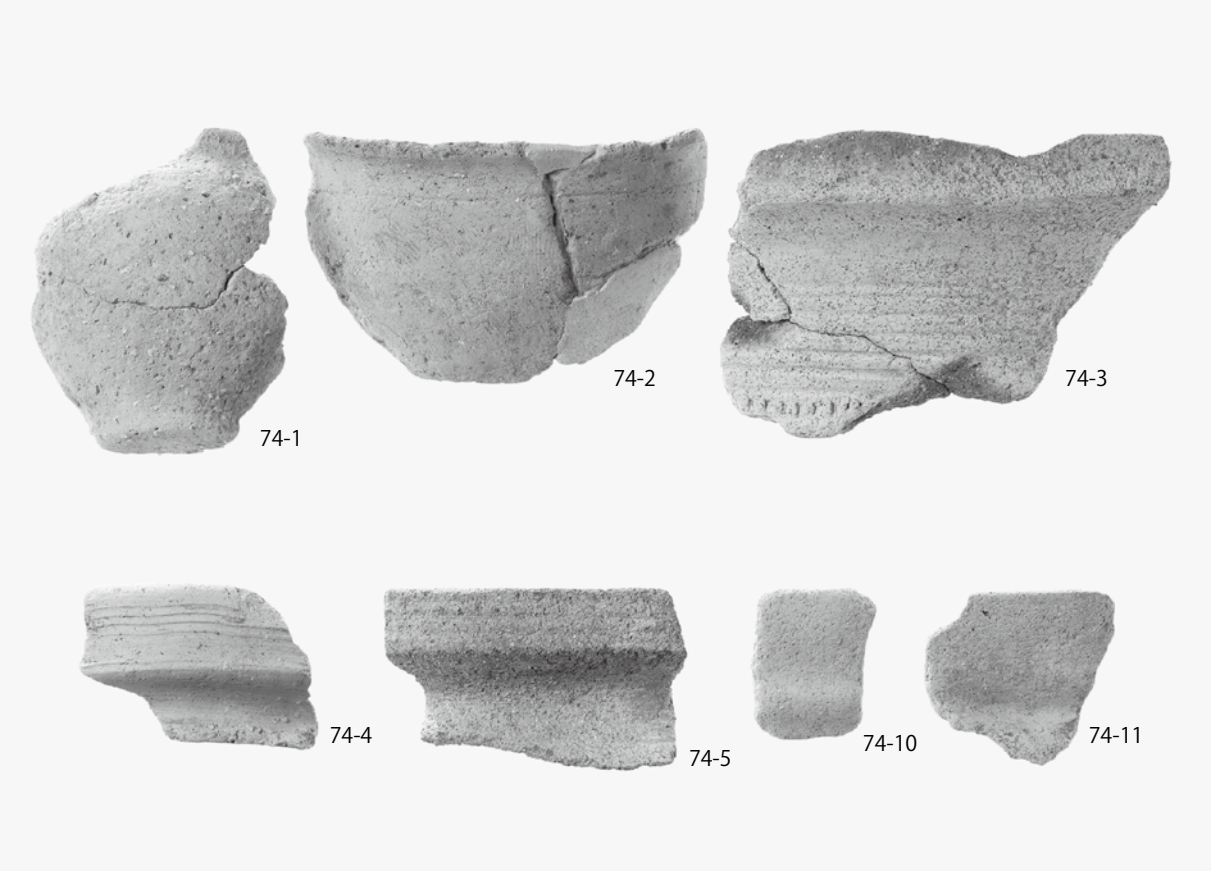


2． B 区包含層 1 出土須恵器

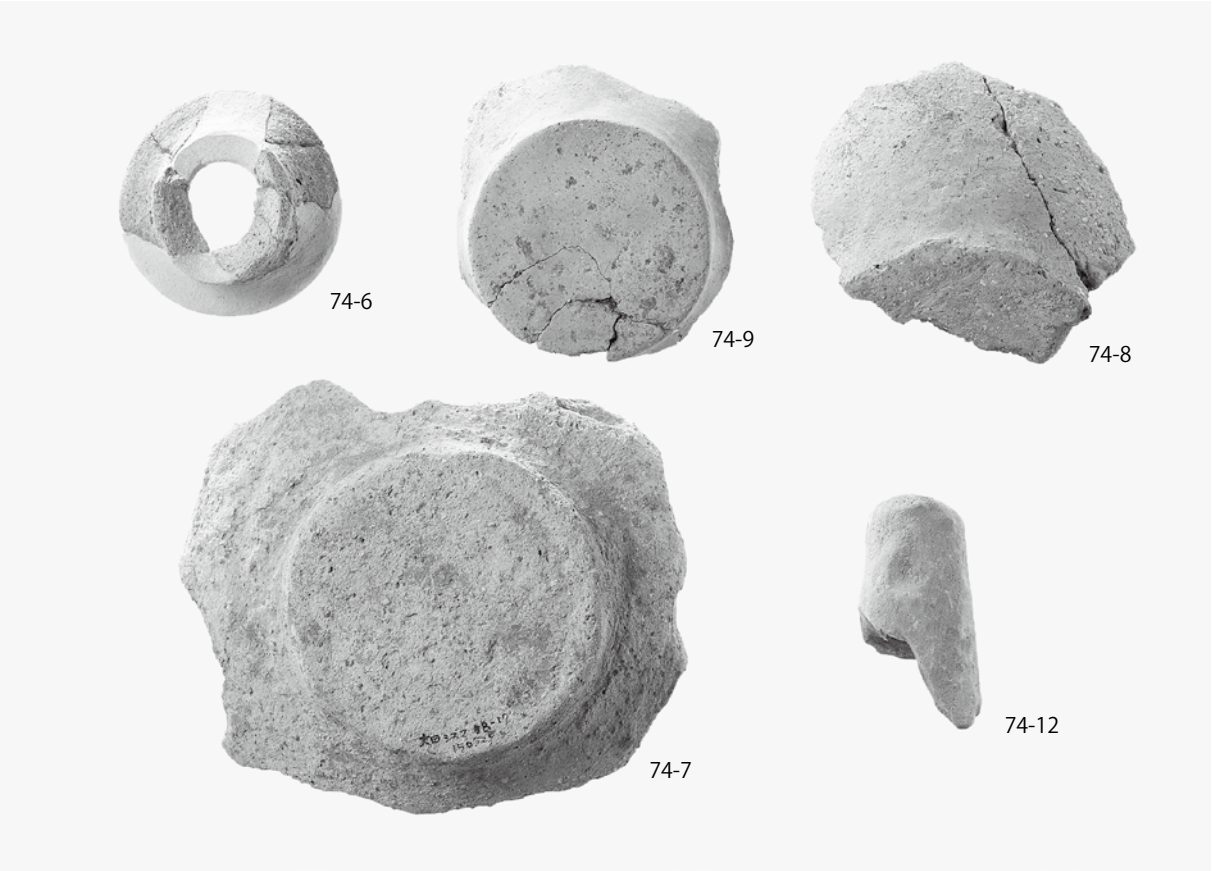


1． B 区包含層 1 出土須恵器

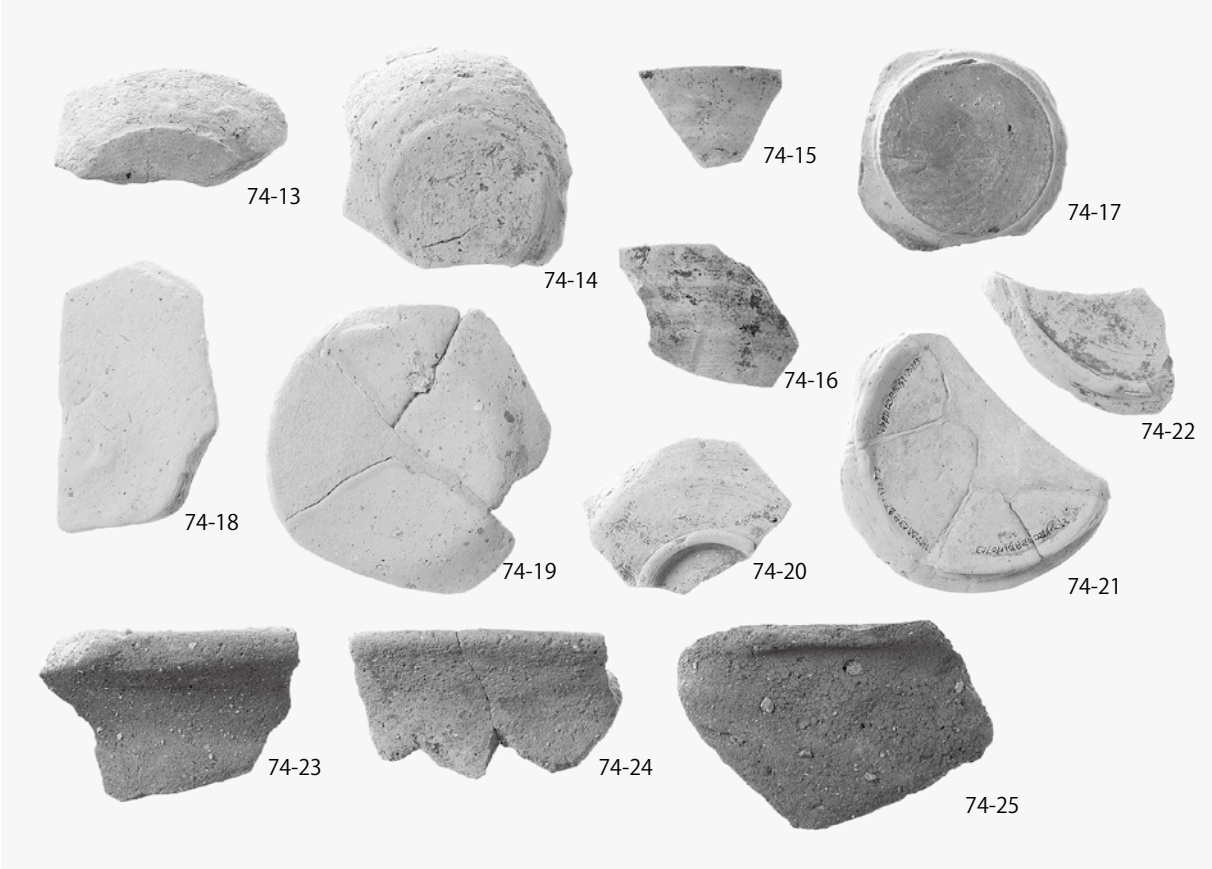
2． B 区包含層 1 出土須恵器



1．B 区包含層 1 出土遺物

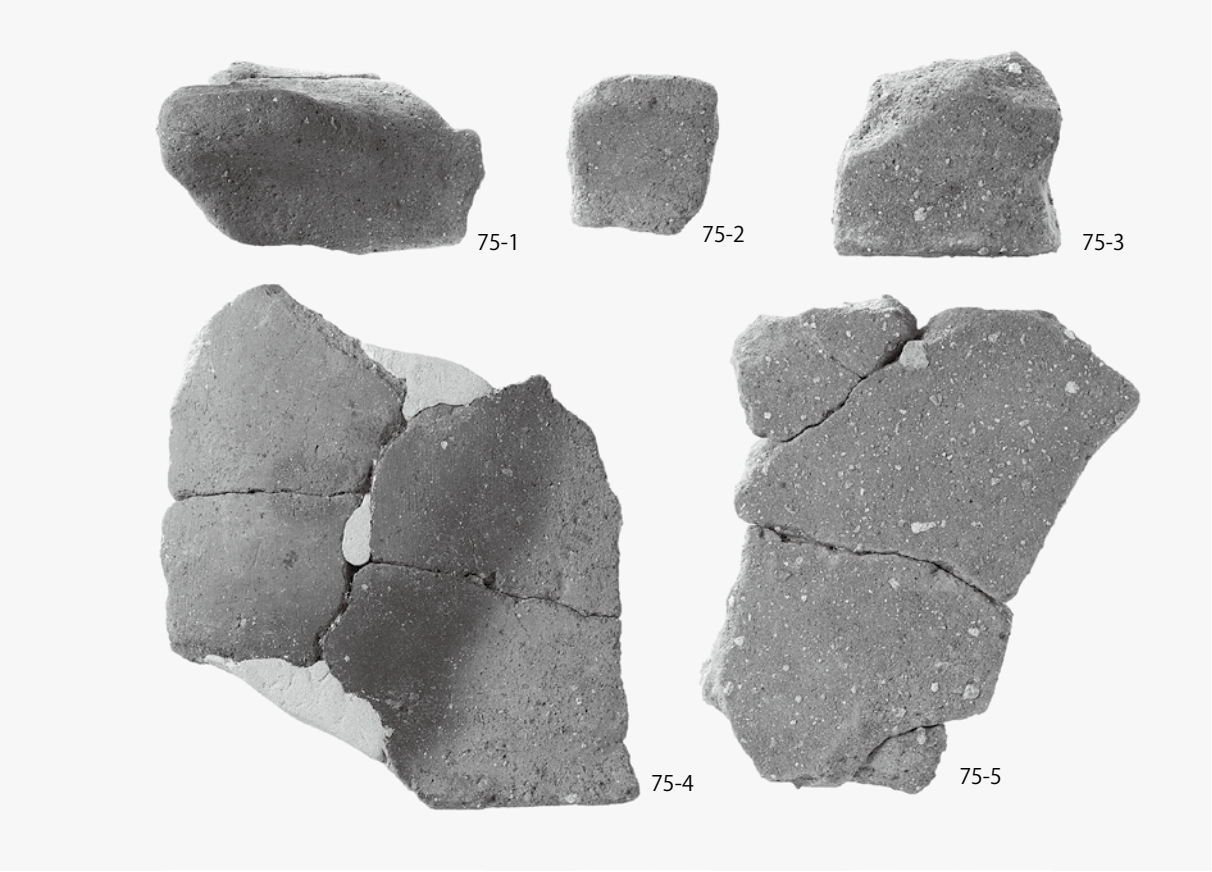


2． B 区包含層 1 出土遺物

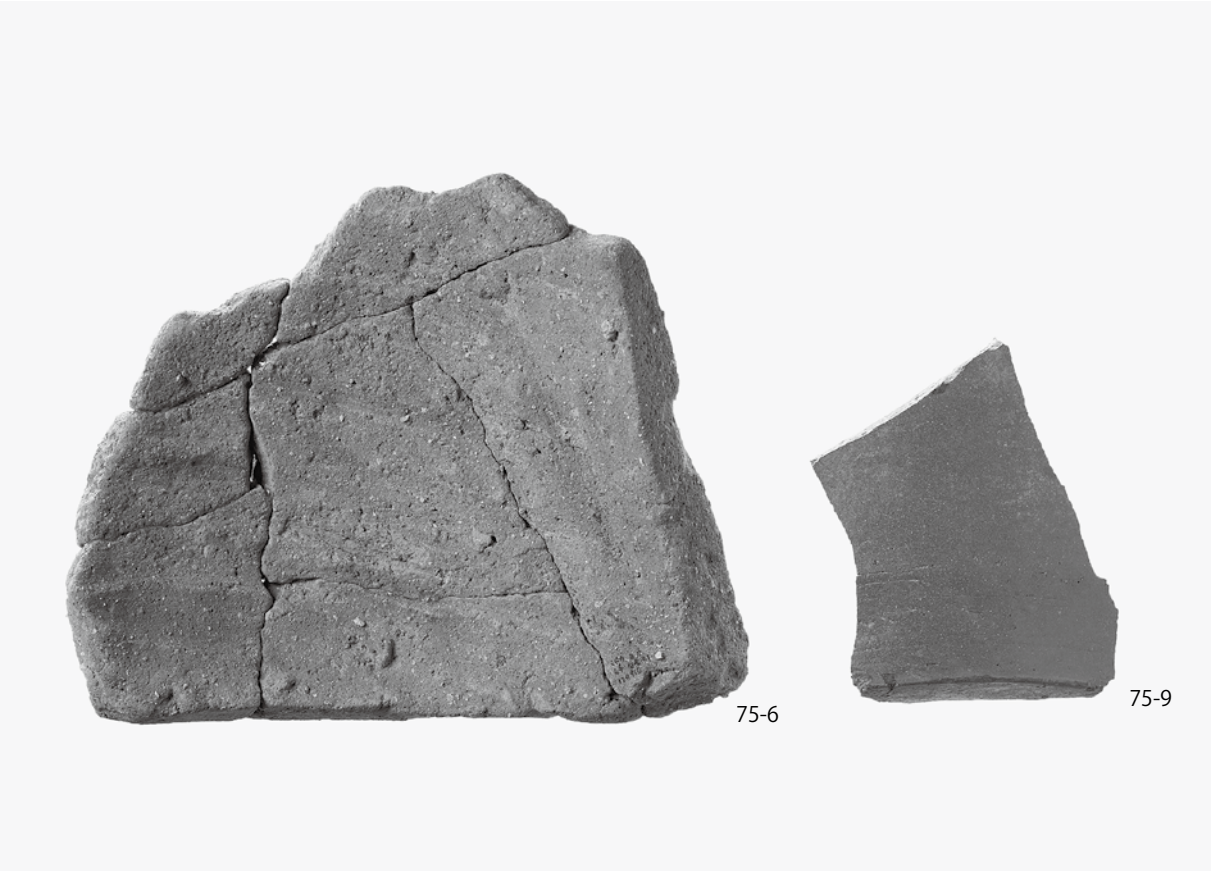


1． B 区包含層 1 出土遺物

2． B 区包含層 1 出土遺物



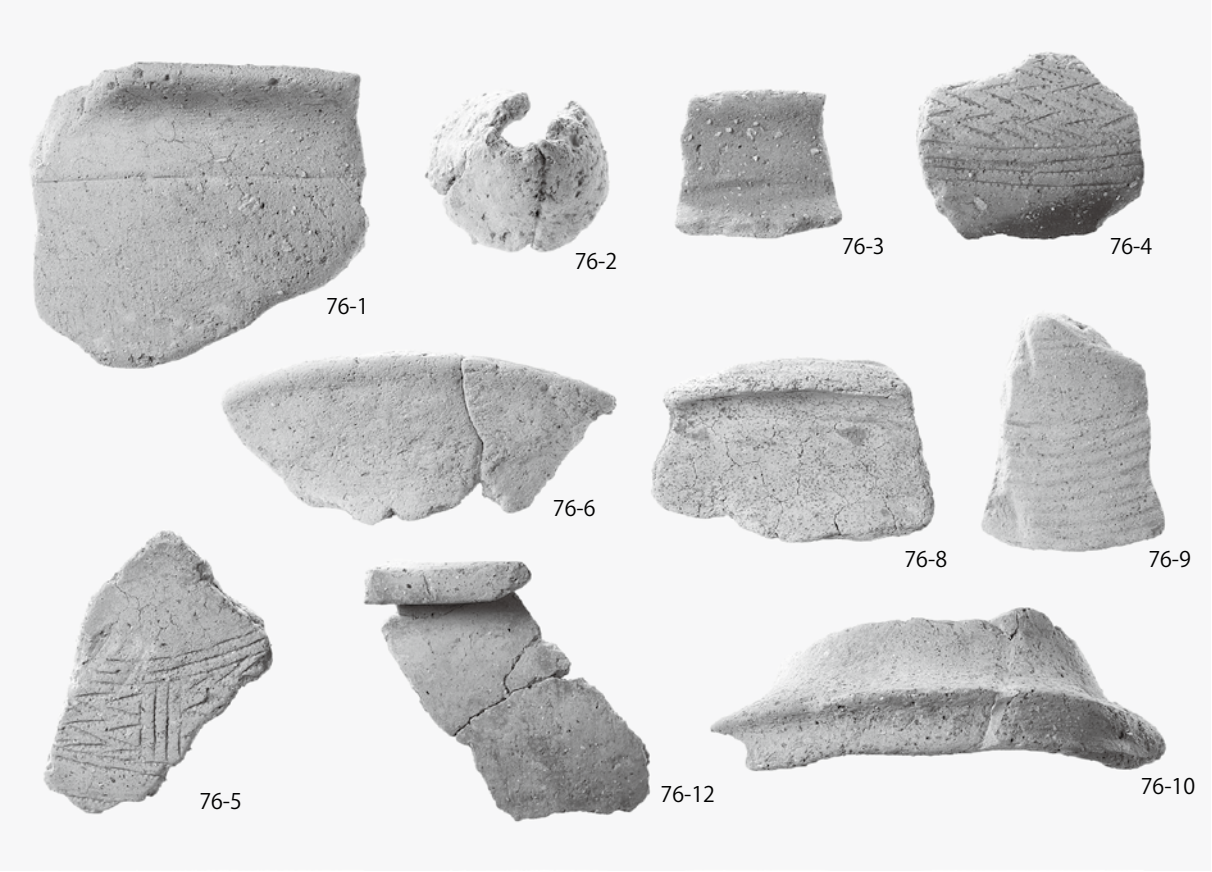
1．B 区包含層 1 出土遺物



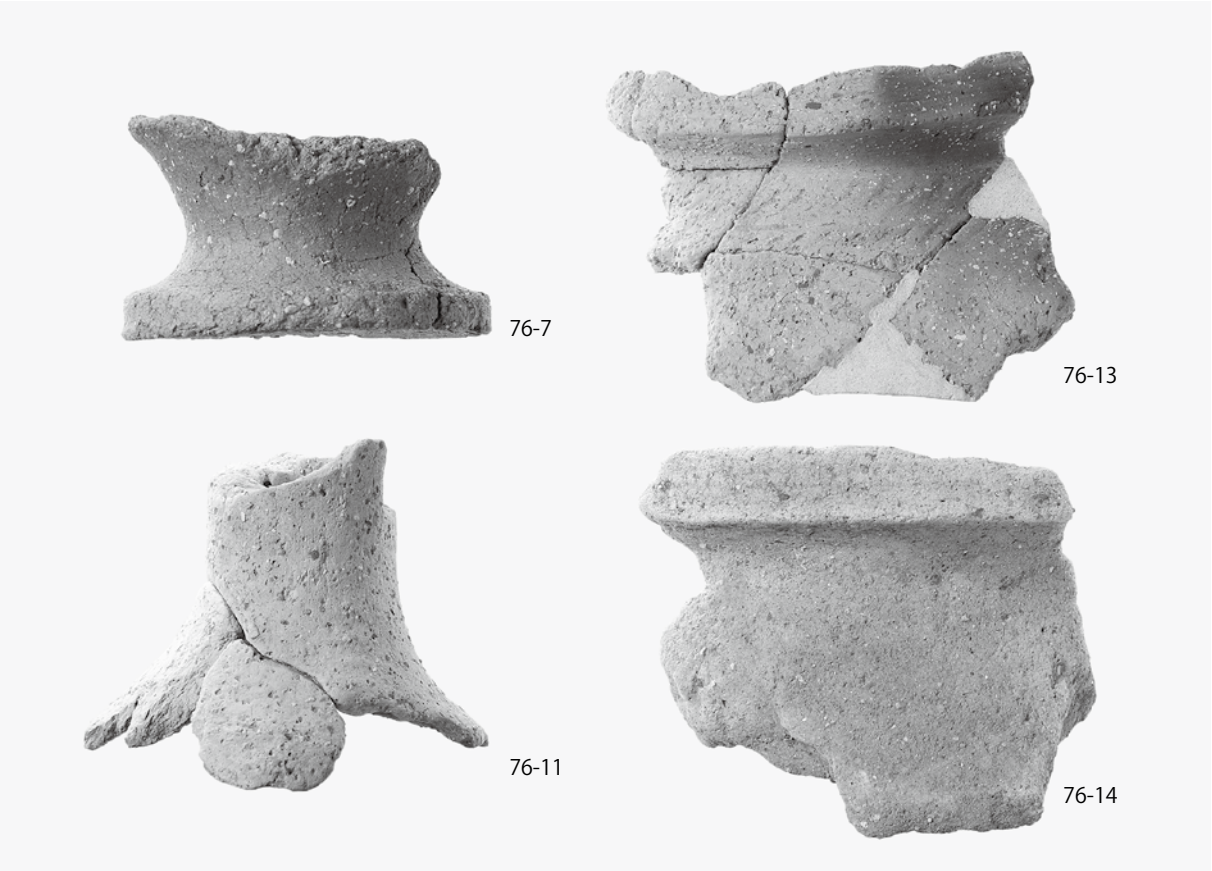
2． B 区包含層 1 出土遺物

1． B 区包含層 1 出土遺物

2． B 区包含層 1 出土遺物

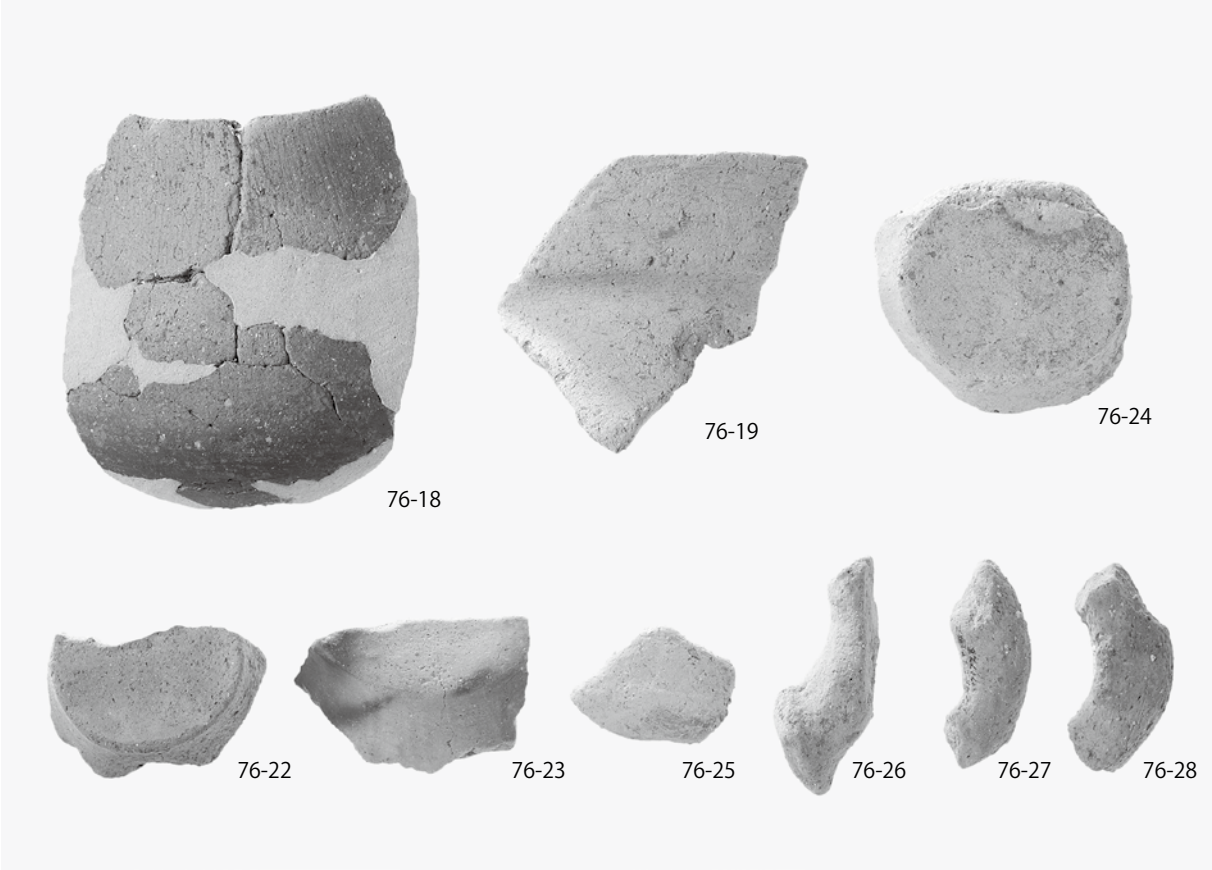


1． B 区包含層 2 出土遺物

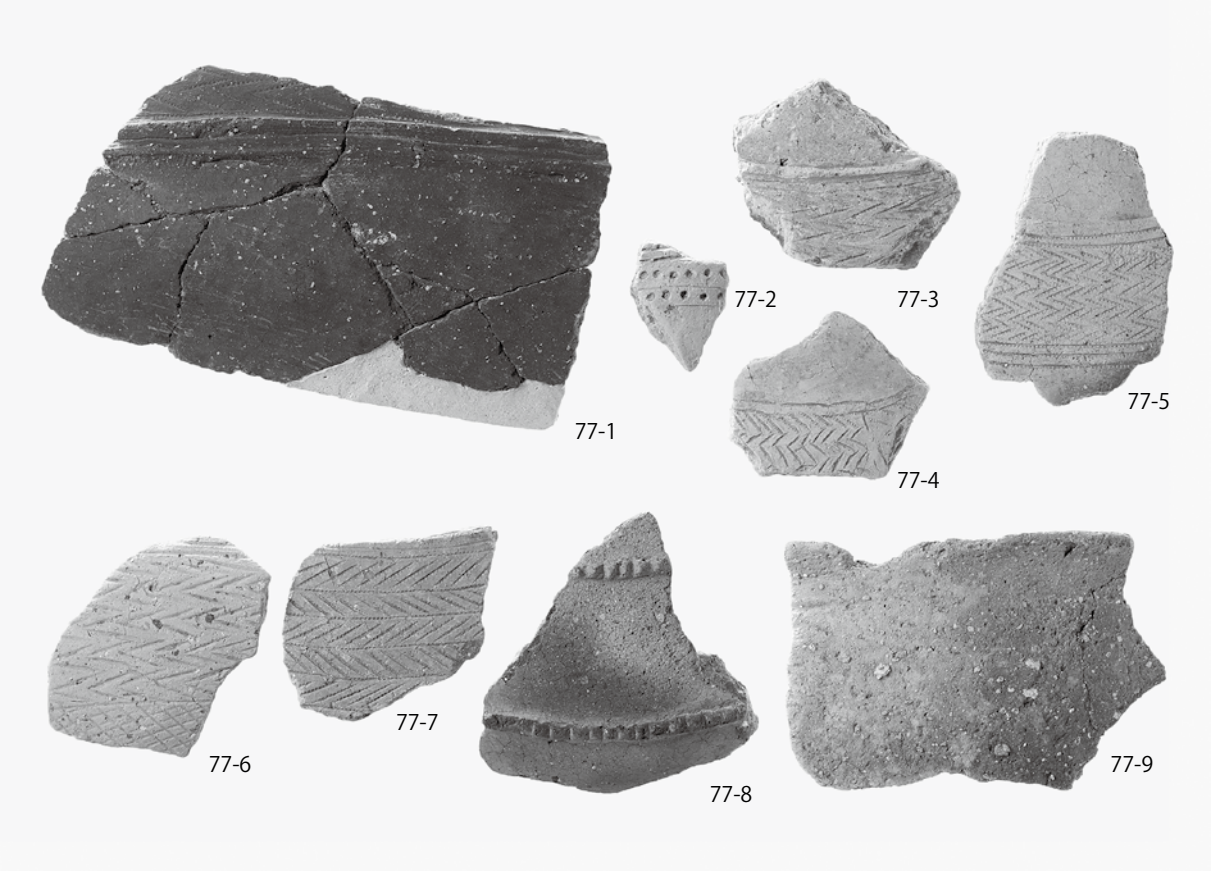


2． B 区包含層 2 出土遺物

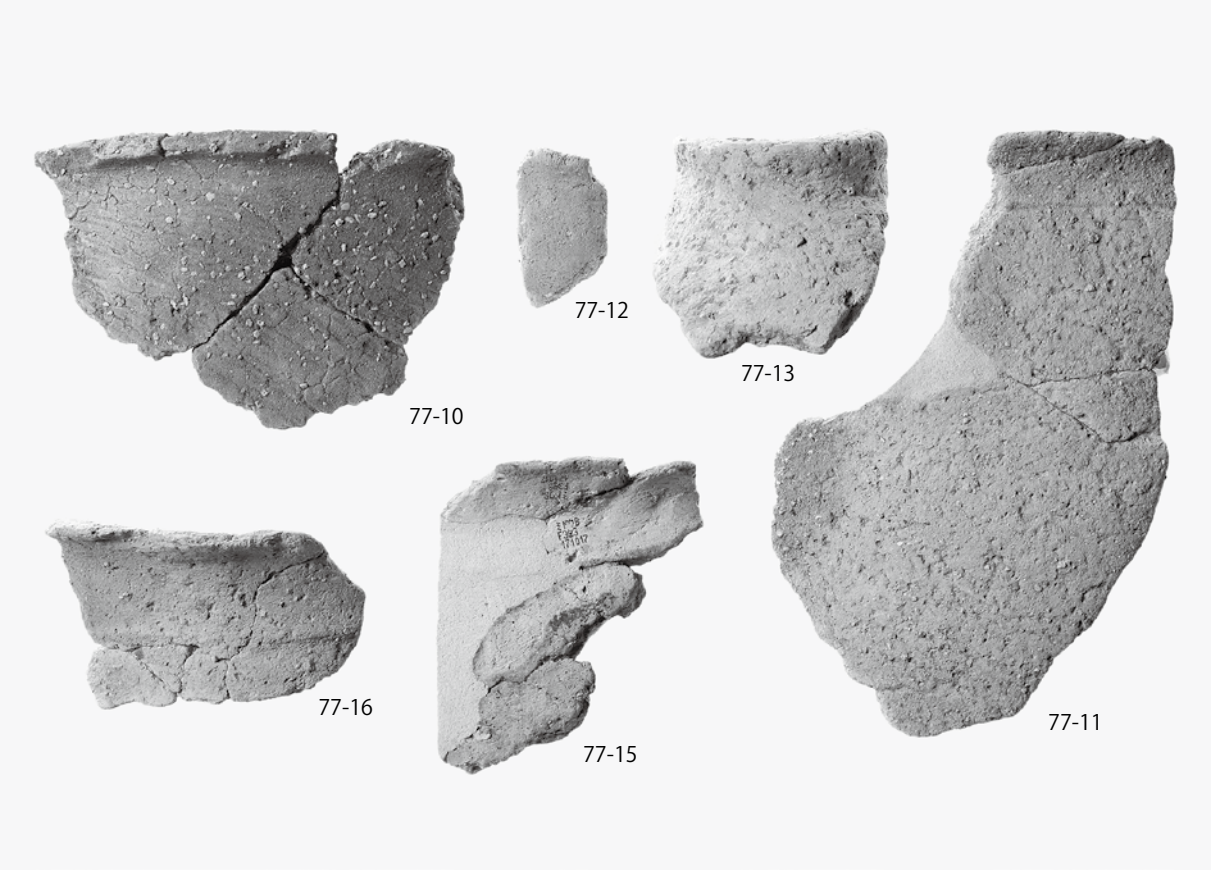
1． B 区包含層 2 出土遺物



2． B 区包含層 2 出土遺物

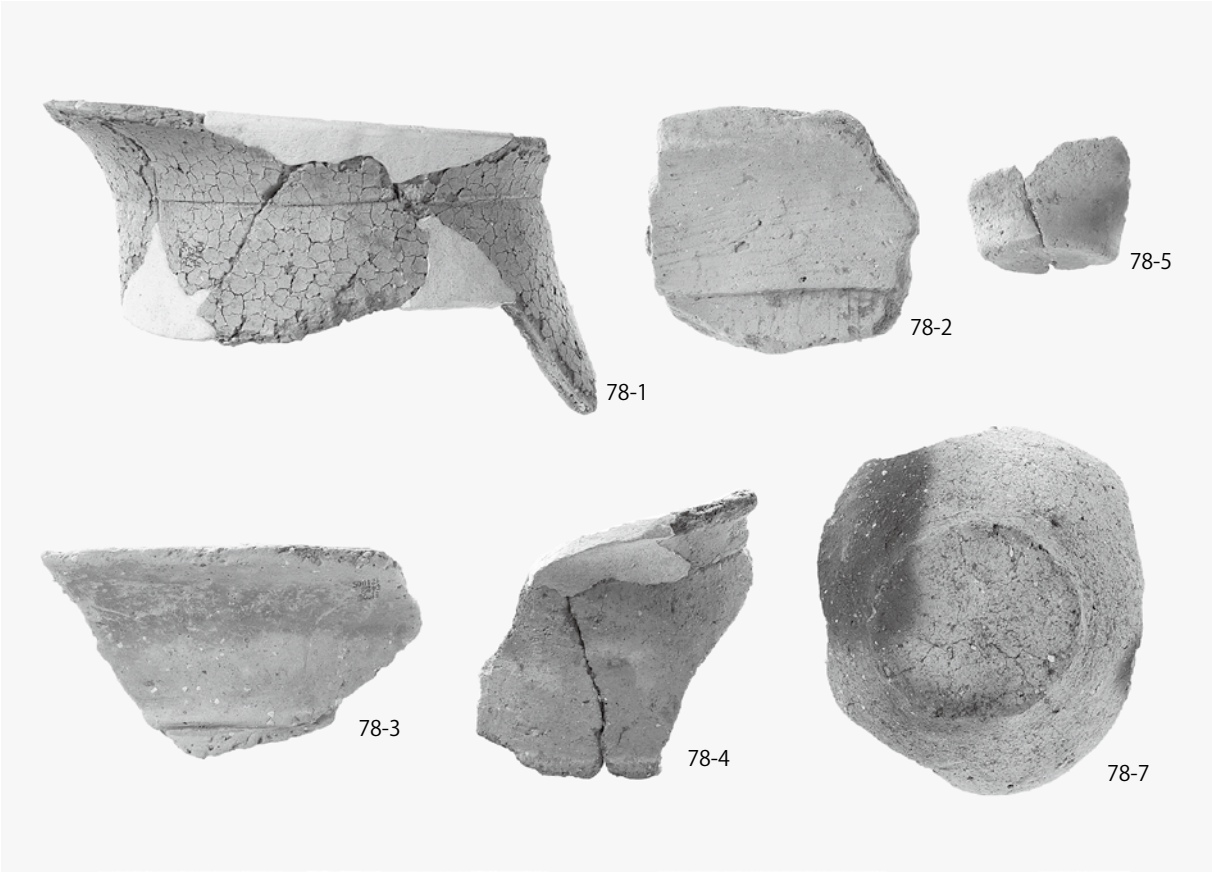


1．B 区包含層 3 出土遺物



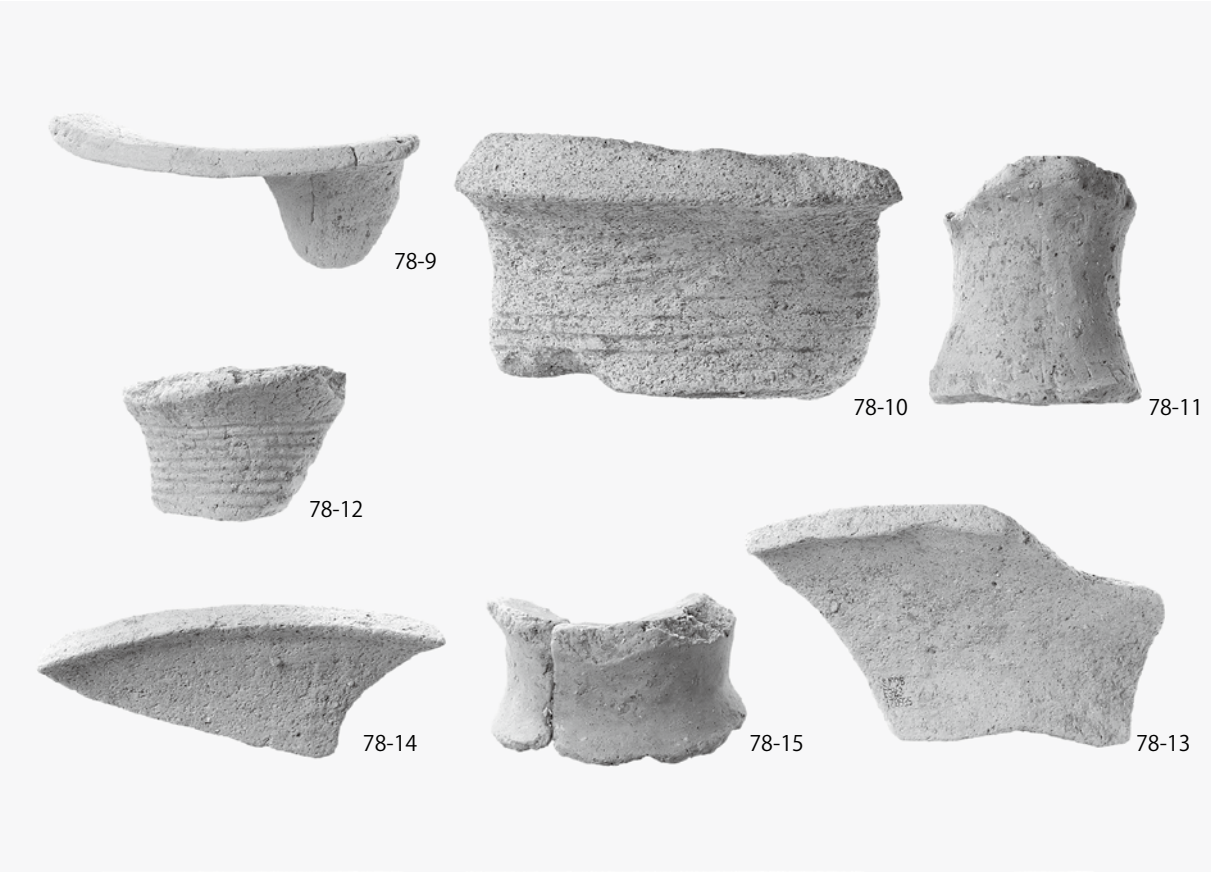
2． B 区包含層 3 出土遺物

1． B 区包含層 3 出土遺物

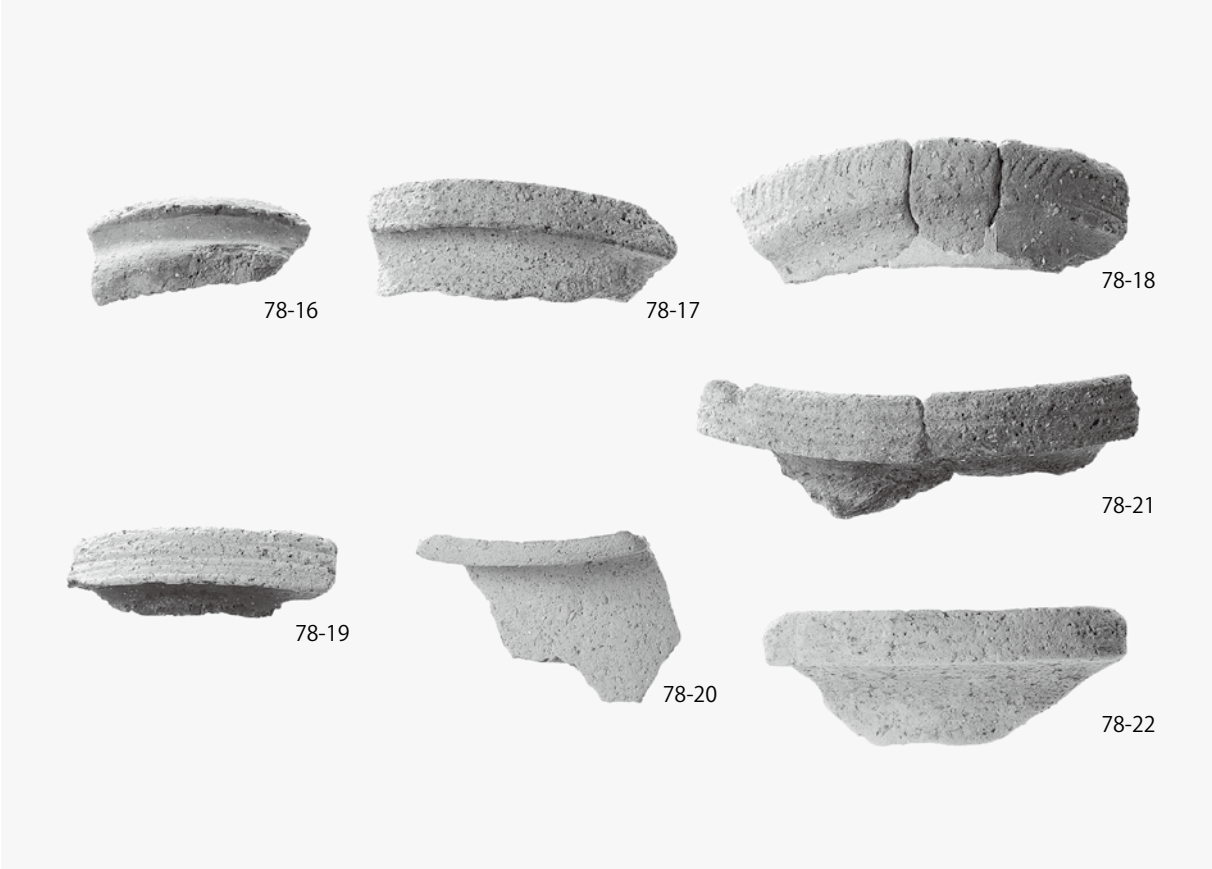


2． B 区包含層 3 出土遺物

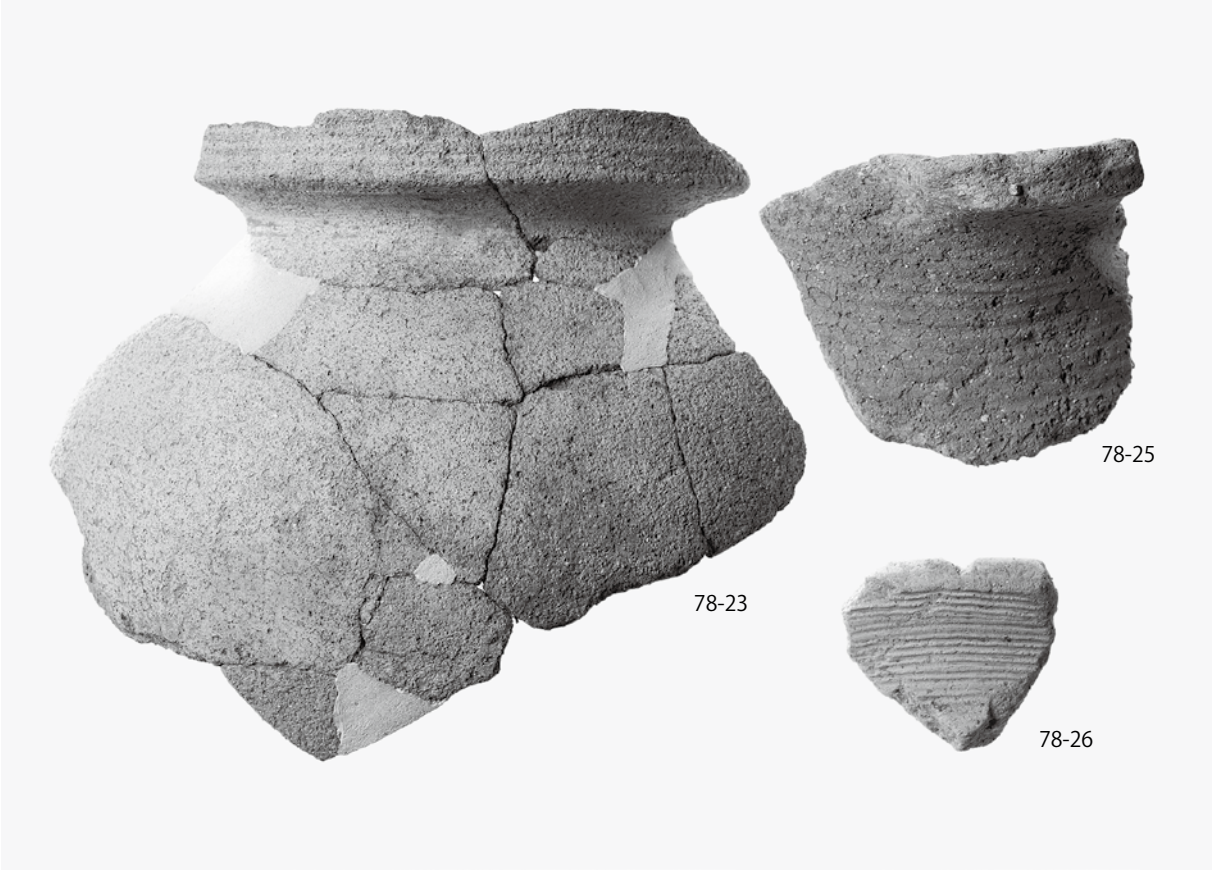
1．B 区包含層 3 出土遺物



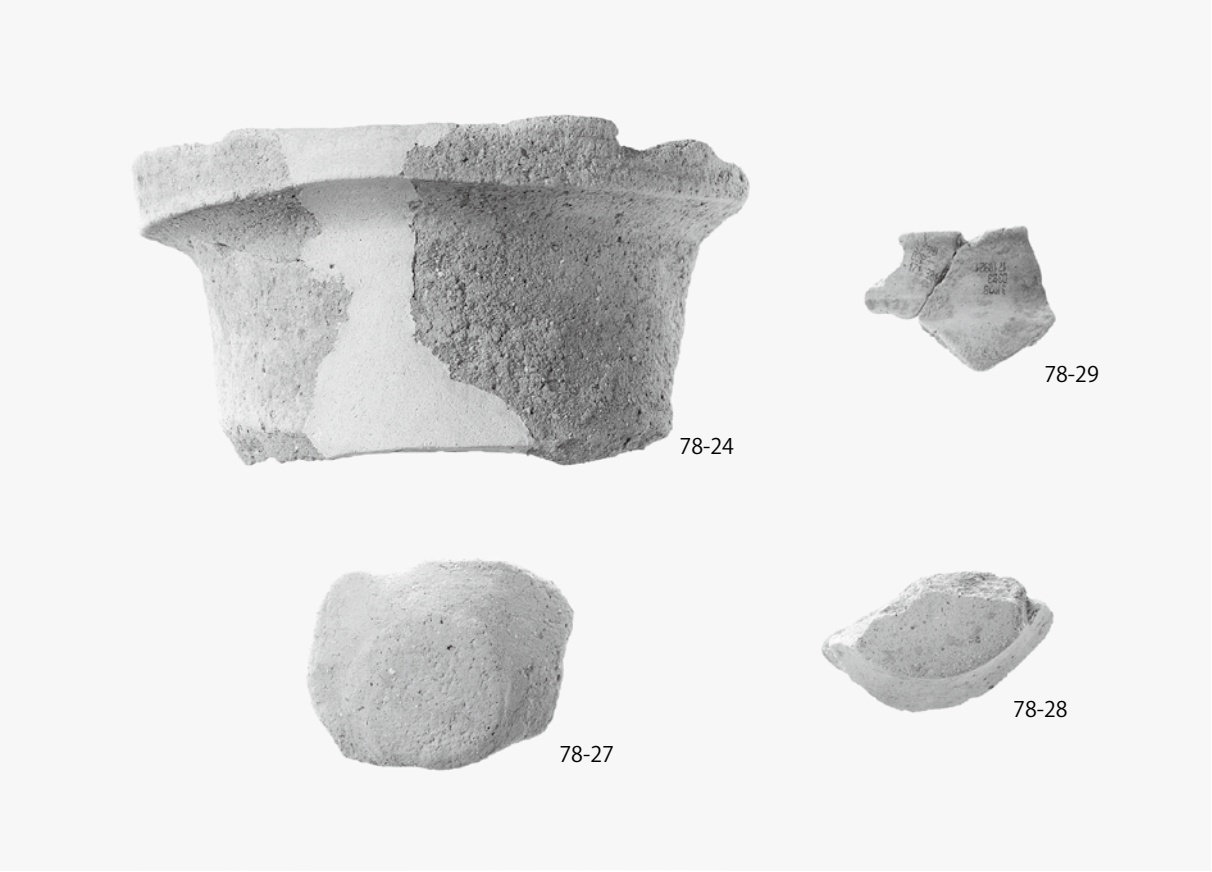
2． B 区包含層 3 出土遺物



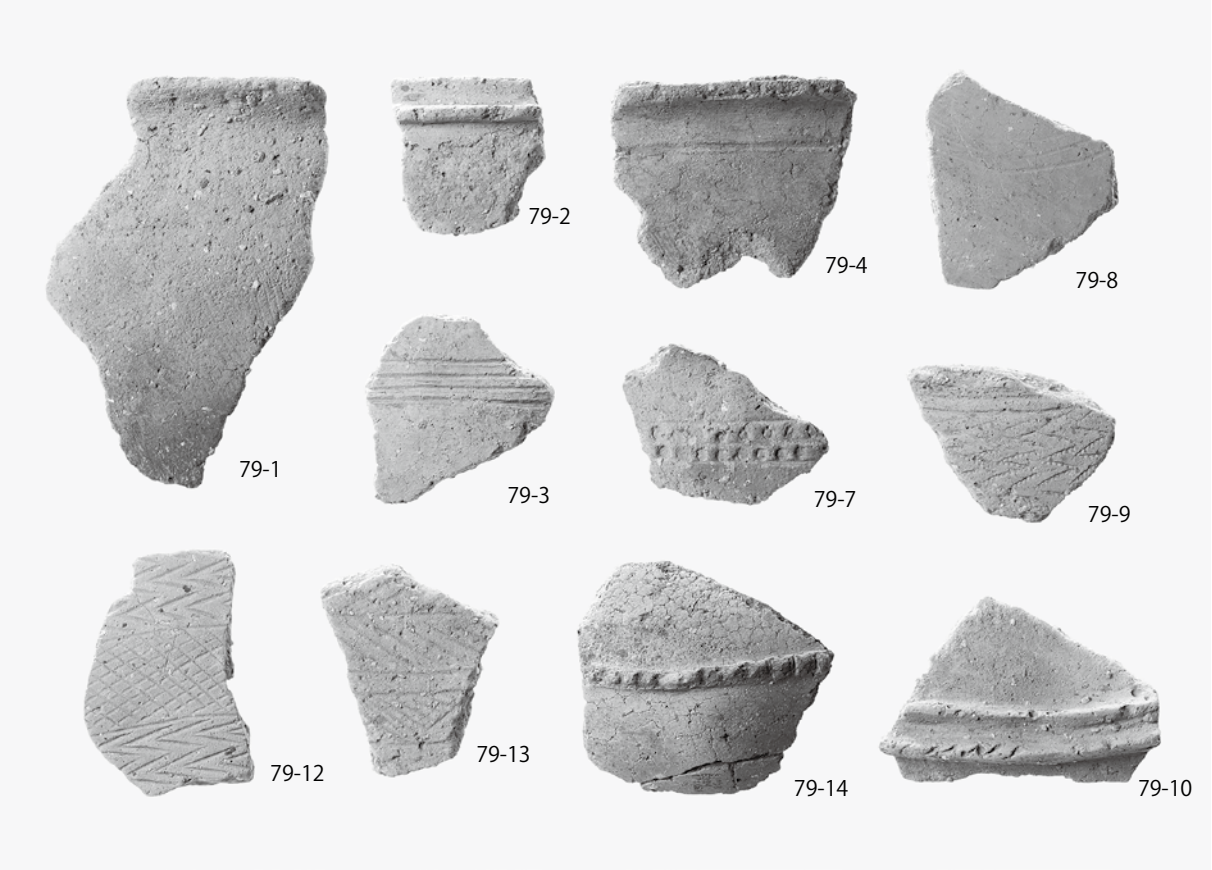
1． B 区包含層 3 出土遺物



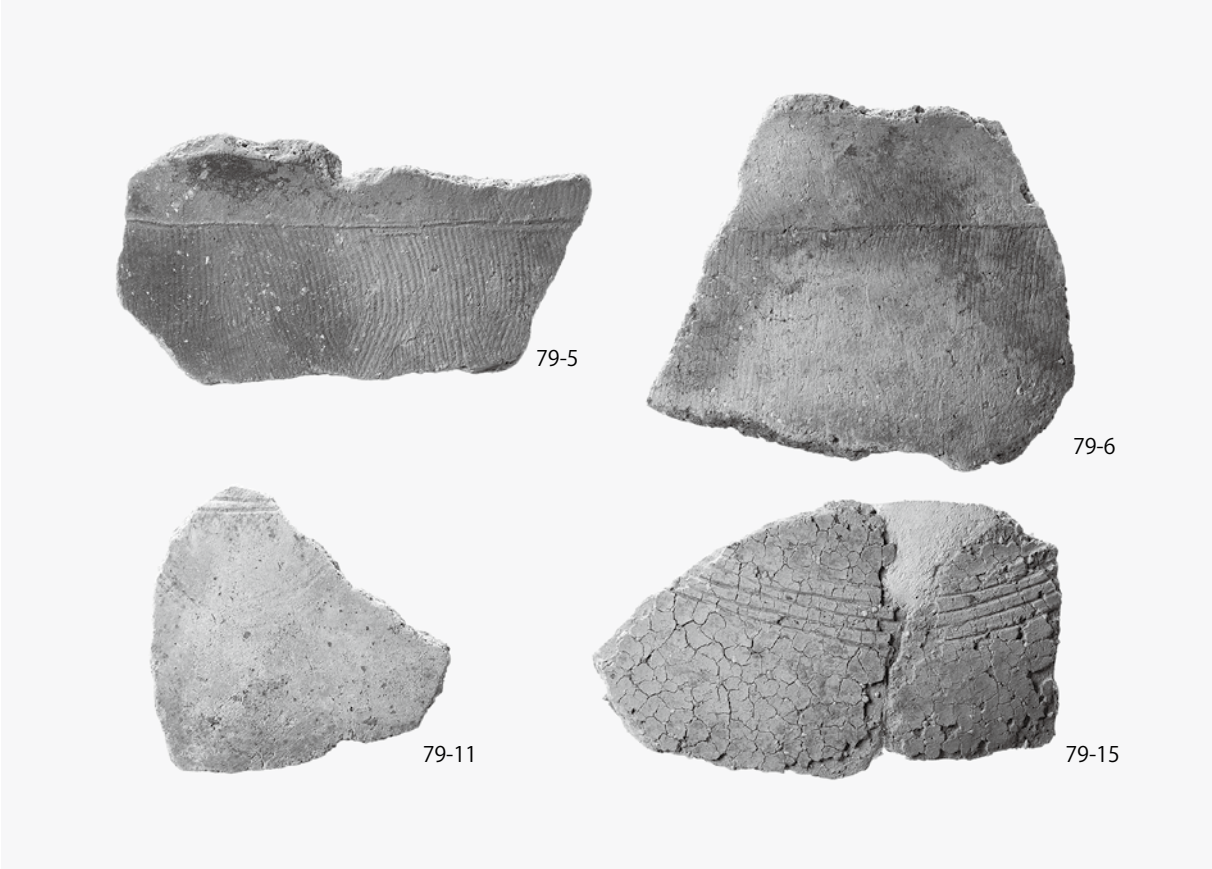
2． B 区包含層 3 出土遺物



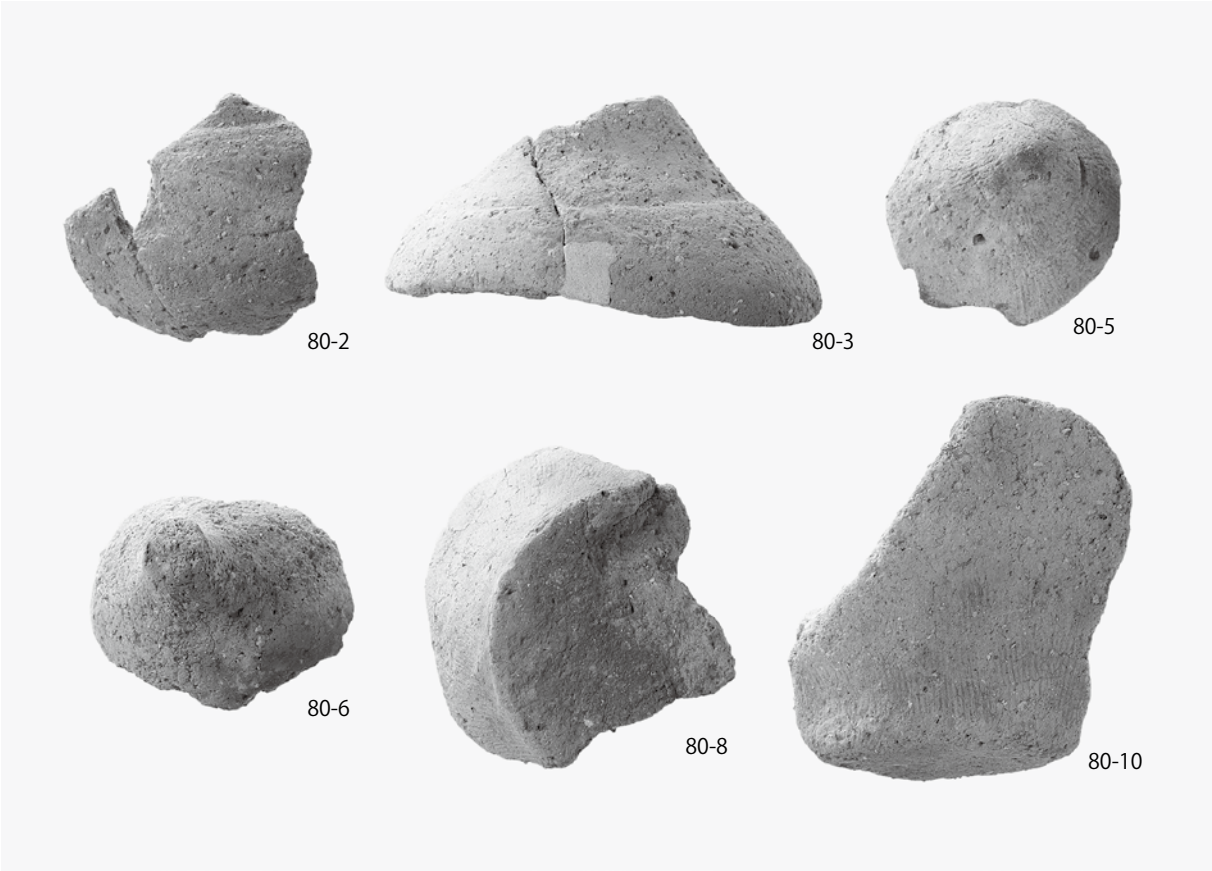
1．B 区包含層 3 出土遺物



2． B 区包含層 4 出土遺物

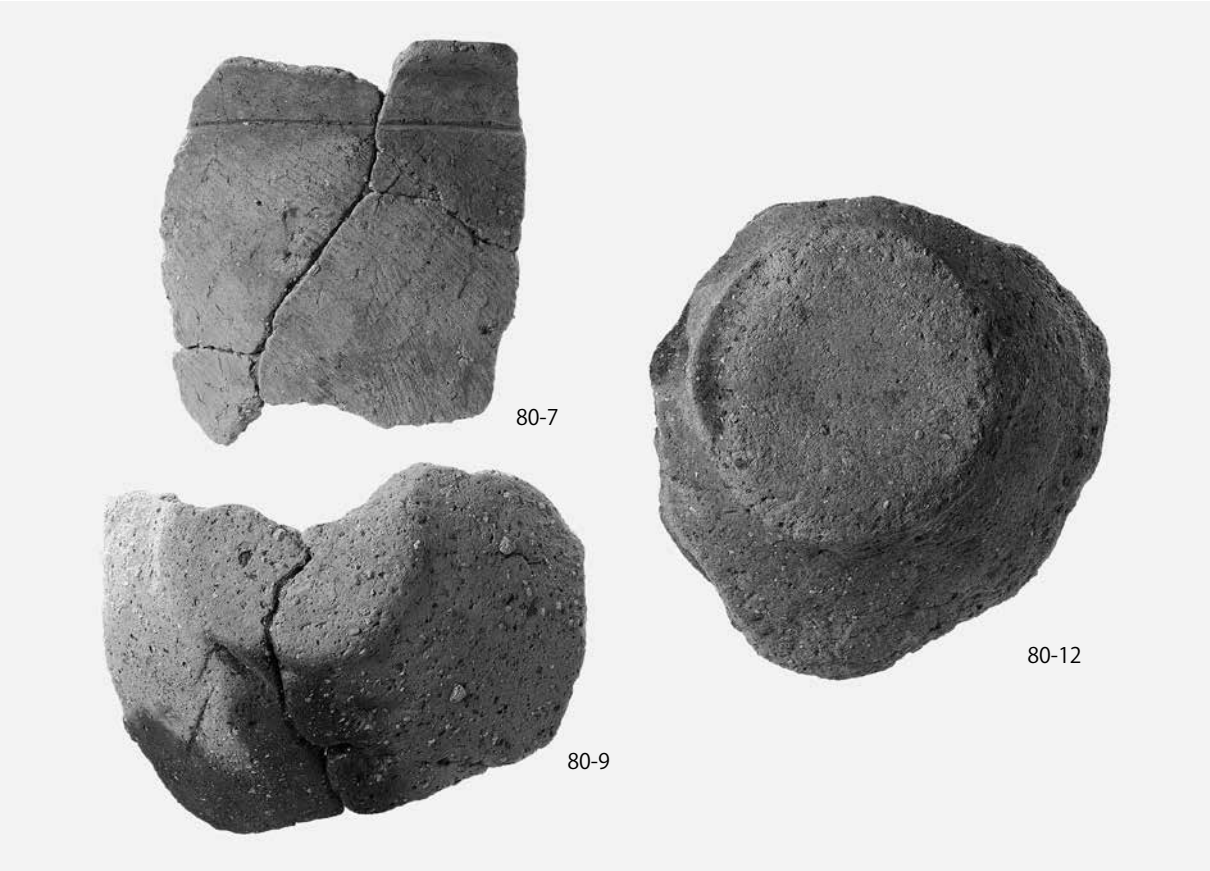


1． B 区包含層 4 出土遺物

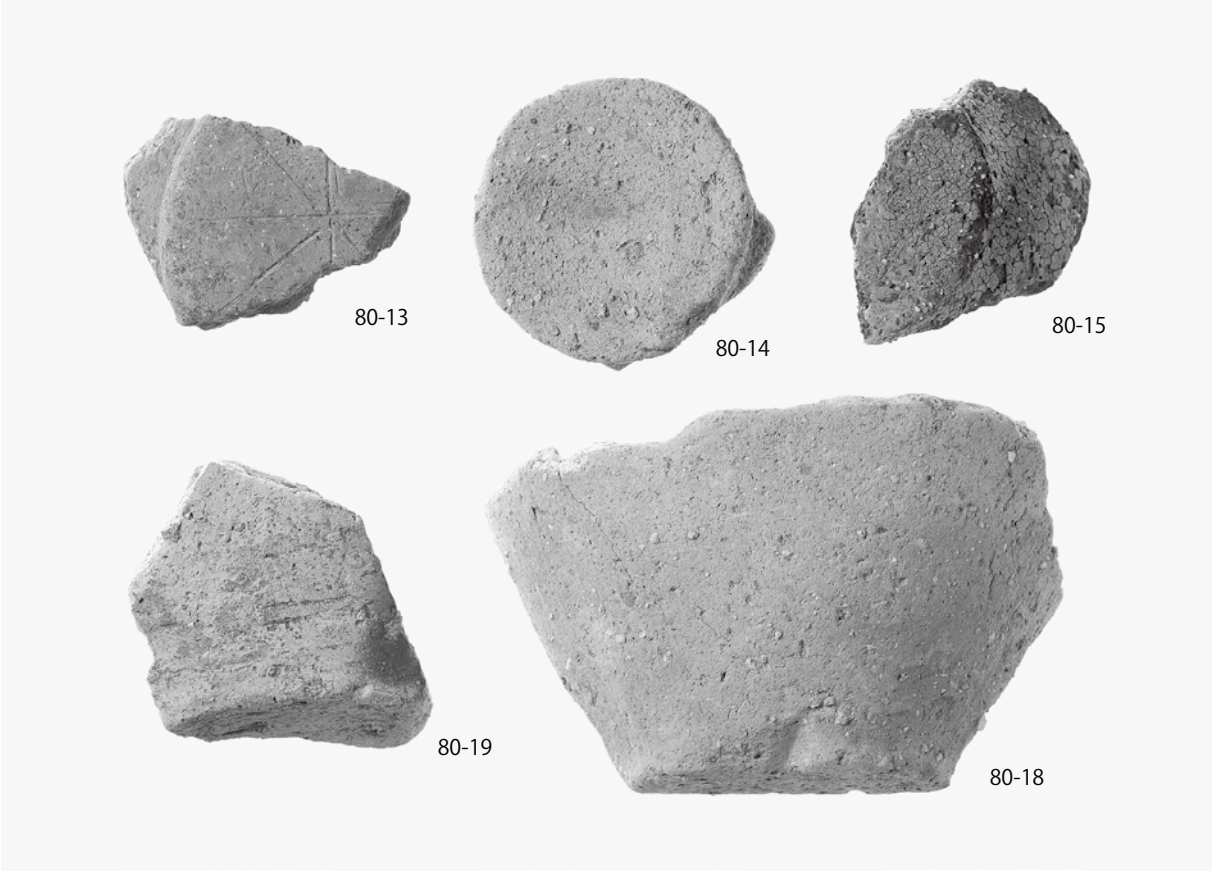


2． B 区包含層 4 出土遺物

1．B 区包含層 4 出土遺物

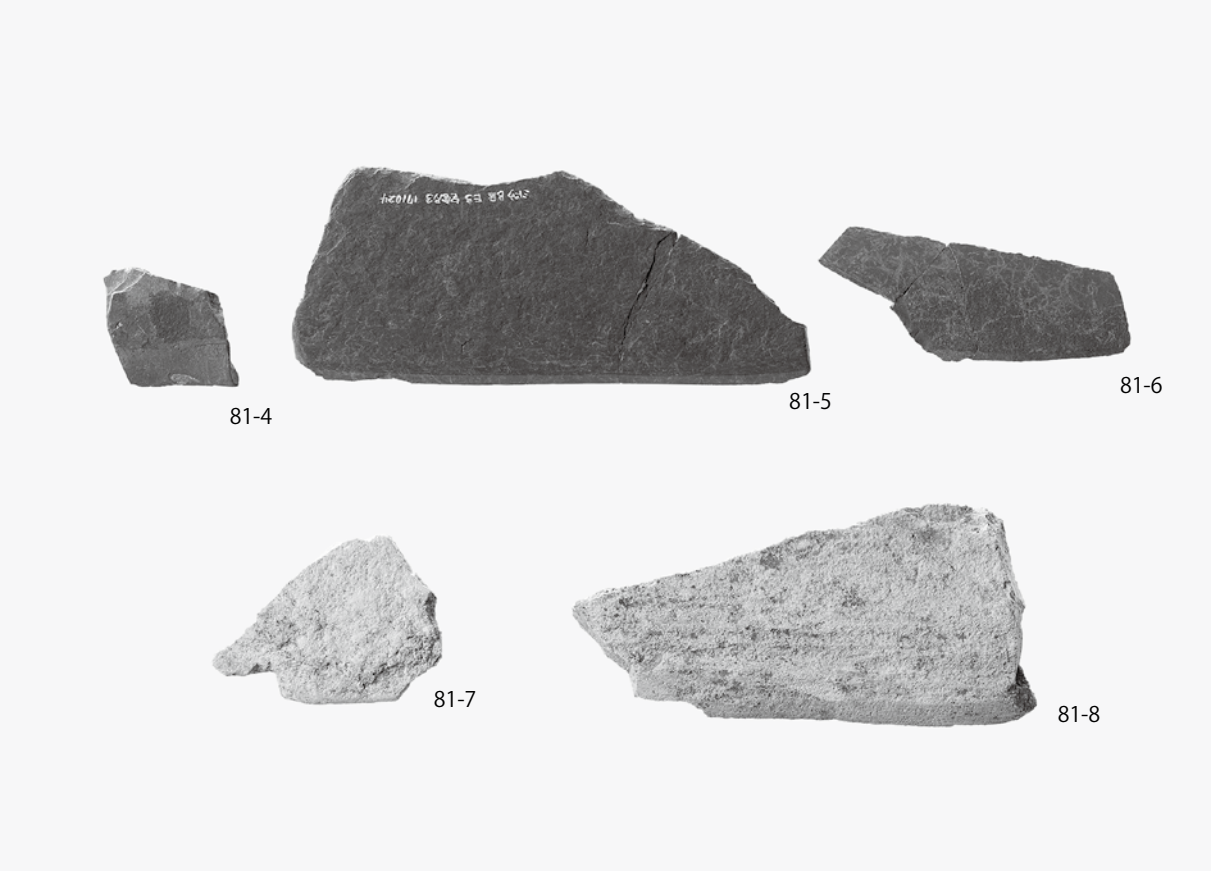


2． B 区包含層 4 出土遺物

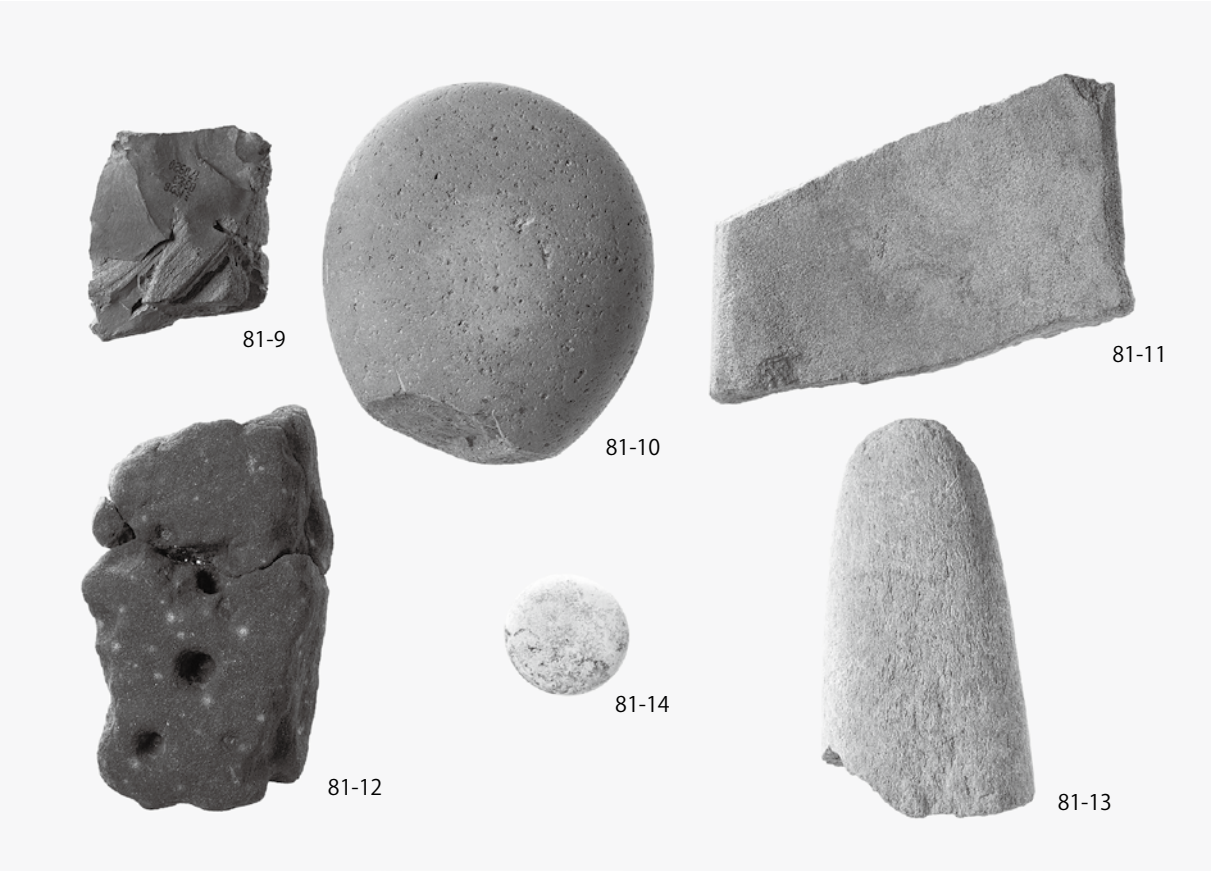


1． B 区包含層 4 出土遺物

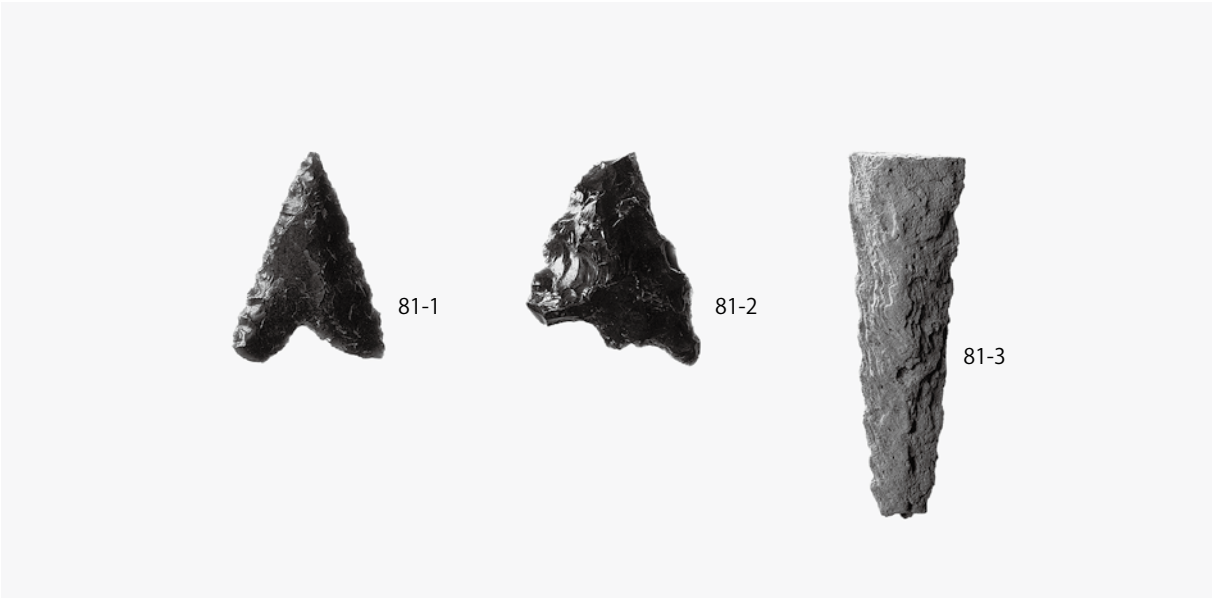
2． B 区包含層 4 出土遺物



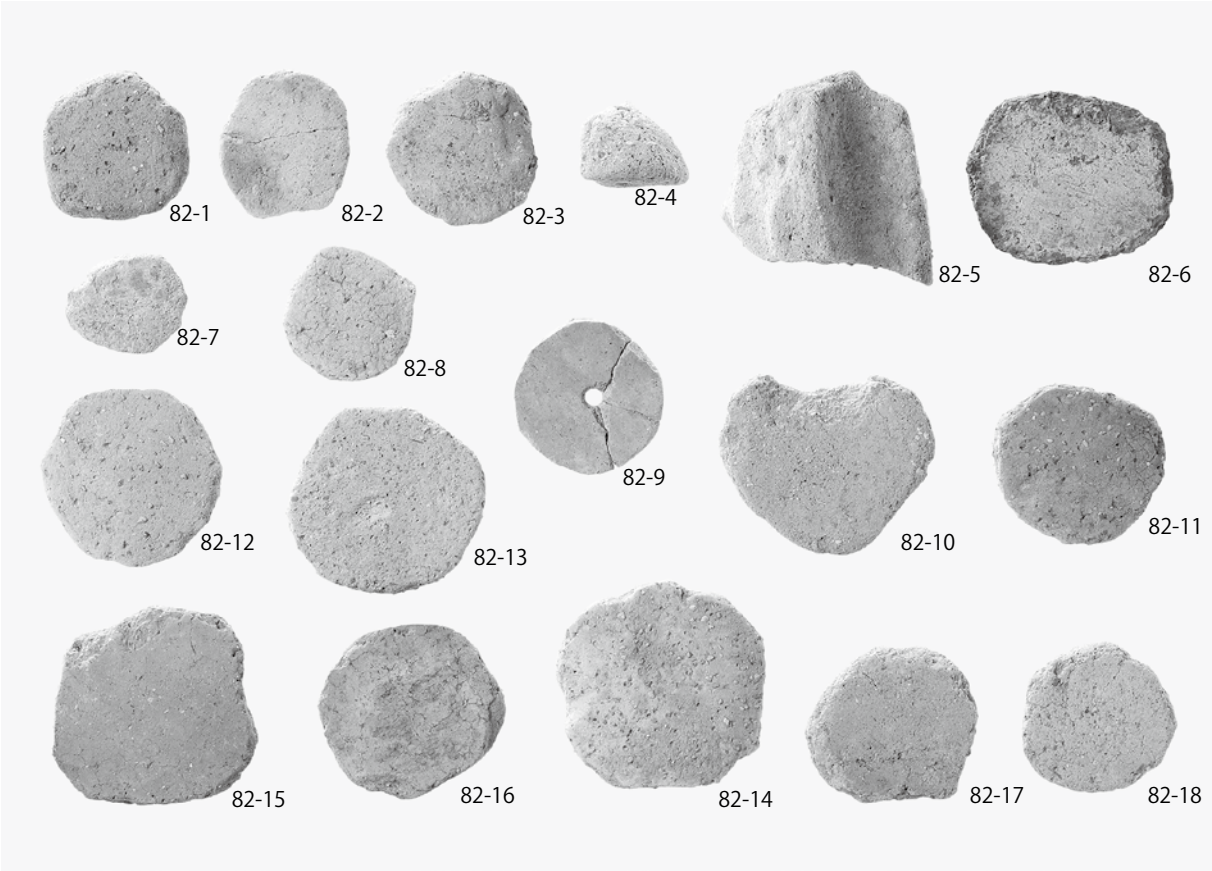
1．B 区包含層出土石器



2． B 区包含層出土石器



1． B 区包含層 3・4 出土石器



2． B 区包含層出土土製品

1．諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴　遠景（北東から）

2． 諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴　完掘状況（北から）

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	ミドウダニイセキ　モロトモダイシヤマヨコアナ４グン１ゴウケツ
書　　名	御堂谷遺跡　諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴
副　書　名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	３
編 著 者 名	仁木　聡・吉松優希・阿部智子・渡辺正巳・田村朋美
編 集 機 関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
所　在　地	〒690-0131　島根県松江市打出町 33 番地　TEL：0852-36-8608　FAX：0852-36-8025 E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp　http：//www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発 行 年 月 日	2019(平成 31) 年３月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北　緯	東　経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
みどうだにいせき 御堂谷遺跡	しまねけんおおだしながひさちょう 島根県大田市長久町・ とりいちょう 鳥井町	32205	A386	35°12′30″	132°29′39″	20170620 ～ 20171214	4100	道路建設
もろともだいしやま 諸友大師山 よこあな４ぐん 横穴４群 １ごうけつ １号穴	しまねけんおおだしくてちょう 島根県大田市久手町	32205	A165-5	35°21′55″	132°30′25″	20171218 ～ 20171222	140	道路建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御堂谷遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 奈良	落とし穴３ 竪穴建物 14 加工段５ 掘立柱建物１ 柵列４	弥生土器　ガラス小玉 土製勾玉　須恵器 土師器	弥生時代前期後半の高地性集落
諸友大師山 横穴Ⅳ群１号穴	横穴	古墳時代	横穴	―	―

要　約	御堂谷遺跡は、弥生時代前期後半から奈良・平安時代にかけての遺構・遺物が断続的に検出されている。弥生前期後半の明確な遺構は確認されていないが、標高約 53m の谷状地形に堆積した包含層から、多数の弥生土器が出土している。その後、弥生時代中期末～後期前半にかけて、２～３世帯程度の単位集団の集落が営まれ、古墳時代中期前葉には竪穴建物や加工段が形成される。また、８世紀後半を中心とする奈良・平安時代には、灯明皿形土器等の仏教関連遺物が多数出土し、門の可能性もある掘立柱建物などの遺構が検出されている。これらは、石見における古代史像の解明に寄与する貴重な資料群である。

印刷仕様

紙　質	表　紙	レザック四六判　170kg
	本　文	上質紙Ａ判　57.5kg
		上質コート紙Ａ判　70.5kg
	写真図版	上質コート紙Ａ判　70.5kg
Ｄ Ｔ Ｐ	Windows　10	
	Adobe　InDesignCC 2018　PhotoShop CC 2018	
	Illustrator CC2018	
画像原稿	階調画像線数　175 線 (AM スクリーン)	

御堂谷遺跡

諸友大師山横穴Ⅳ群１号穴

一般国道９号（大田静間道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書３

発　行　2019（平成 31）年３月
発行者　国土交通省松江国道事務所
　　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
　　〒 690-0131　島根県松江市打出町 33 番地
　　電話　0852-36-8608
印　刷　有限会社　松陽印刷所

（白）

（白）

（見返し）

（見返し）

（白）

（裏表紙）